

膳棚遺跡 廻り田遺跡B区

—西関東連絡道路建設に伴う発掘調査報告書—

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第301集

膳棚遺跡・廻り田遺跡B区

二〇一五年三月

山梨県教育委員会
山梨県土整備部

2015年3月

膳棚遺跡 廻り田遺跡B区

—西関東連絡道路建設に伴う発掘調査報告書—

2015.3

山梨県教育委員会
山梨県土整備部



遗迹地全景



膳棚遺跡 A 区



膳棚 C 区



膳棚 D (1 回目)



廻り田遺跡B区空中写真（真上から）

あらまし

膳棚遺跡と廻り田遺跡B地区は山梨市南地区にあります。約13,000m²という広大な遺跡であることから平成23年9月より平成25年7月にわたって長期の発掘調査を実施しました。ここでは、地点ごとの調査成果を紹介します。

平安時代のムラ

今回の調査では調査範囲の東半D区から平安時代の竪穴住居跡41軒が発見されており、この時代が遺跡の主要な時代となります。住居跡の形状・規模は隅丸方形ないし隅丸長方形で、一辺3m～5mほどのものが多くみられます。住居跡の分布はD区中央部から東半部にかけてみられますが、とりわけ中央部南側に密集してあり、当時の集落は調査区を越えさらに南側へと続くものと思われます。

集落が営まれた時期は、平安時代中頃から後期にかけて（10世紀後半から11世紀後半）と考えられます。ただし出土した土師器の分類から住居跡の年代はいくつかの時期に分けることができ、また住居跡が重なり合って発見されている例があることからも、発見された住居が全て同時期にあったものではないことが分かります。おそらく数軒から10軒前後のムラが約1世紀にわたりこの地に営まれたと考えられます。

住居の多くにはカマドがつくられています。ここでは石を構築材とした「石組みカマド」が多く、その痕跡を明瞭に残したものもあります。カマドがつくられた位置は北壁、東壁、南東隅などですが、南東隅につくられた住居が比較的多くみられます。また、カマド周辺から多くの土器が出土する傾向がみられました。

特異な遺物出土例として、住居の床に掘られた土坑（どこう）の中で縁釉陶器の皿を真っ二つに割り、その上層に土師器壺を置いて埋めたと思われるものがありますが、これは住居をつくる際に地鎮を行ったものと思われます。また、2つの土師器壺が口縁部を合わせた合子状にして直角に立てて埋納されたような状態で出土したものがあります。いずれも当時の信仰・習俗に関連したものと考えられます。

その他の遺構・遺物

竪穴住居跡のほかには、「土坑（どこう）」と呼ばれる円形や不整円形・橢円形を呈する径50cm～2mほどの竪穴がみられ、それよりもさらに小さな「ピット」

と呼ばれる穴も多数発見されています。また石を組んだように配列し、その内側に小石を敷いたようにした「石組み遺構」が発見されました。この石組み遺構は何らかの建物跡を示すものと思われますが、時期を含め詳細ははっきりしません。

そのほか土坑の中に大小の石が密集してある「集石土坑」が狭い範囲に集中して発見されました。これらの集石土坑からの出土遺物はありませんが、その中の一つから出土した炭化材の放射性炭素年代測定によると、縄文時代中期前半頃に相当するとの結果が出ています。

出土遺物は平安時代の壺・皿・甕・鉢・羽釜などの土師器がほとんどを占めますが、同時代の遺物としてはほかに須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品（刀子、鎌、釘など）、台石、砥石などがあります。平安時代以外の遺物としては縄文時代前期後半～中期初頭の土器片、打製石斧、石鏃などがあり、ほかに少量ですが中世の陶器が出土しています。

平安時代の人々の食

この集落に暮らした人々の食生活はどんなものだったのでしょうか。D区の調査区・住居跡などの土壤分析からは、イネについて植物食料としての利用及び周辺でイネの栽培が行われていた可能性があること、またモモ、オオムギ、コムギ、ヒエ、キビ、ソバ、マメ科（アズキ類、ダイズ類）、などについても栽培及び植物食料としての利用の可能性が考えられることが分かりました。

各調査区域の様子

【膳棚A区】

土坑が55基と柱穴51基、溝状遺構が5条発見されました。土坑は、直径40～50cm、深さ30～60cmで、円形または橢円形をしている形状のものが主体となっています。柱穴は、直径20～40cmで深さは30～40cmくらいで、ほとんどのものが円形をしています。土坑、柱穴ともに掘られている位置の規則性は感じられませんが、



【A区】土坑群の様子

調査区の中でも、比較的土層が安定している標高が高い位置に集中する傾向がみられます。

【膳棚B区】

B区の現状は、段差のある果樹畠でした。調査区の中でも、最も北側の道路際に位置する場所では黄褐色の粘質土にやや大型の山石が多く含まれる層が厚く堆積する様子がみられました。これは北側の山の斜面が崩れたものと考えられます。調査の結果、同個体の縄文土器片が数点まとまって出土する地点が1箇所と、土坑1基が確認できました。その場所から一段下がった場所では表土を剥がすとすぐ黒褐色粘質土が現れます。ここからは、土坑22基と溝状遺構10条、ピット22基のほかに、土師器片・縄文土器片・石器などの遺物が出土しています。

【膳棚C区】

C区はB区の東側にほぼ接するよう設定された調査区です。

小豎穴状遺構1基、土坑26基、柱穴73基、溝状遺構2条が検出されました。小豎穴状遺構は、 $2.75 \times 2.75\text{m}$ の規模で平面形は歪んだ隅丸方形をしてい平安時代のものでした。そのほかにも2条の溝状遺構や土坑、柱穴が調査区のほぼ全域から検出されています。



【C区】調査風景

【膳棚D区】

ここでは、40軒以上の住居跡が検出されています。特に調査区中央に重複する住居跡が多く何年にもわたってムラが造営されていましたことが感じられます。出土した土器片から平安時代末期の集落であったことは間違いないでしょう。特



【C区】第9号住居跡遺物埋納状況

筆すべきものとして第5号と第14号住居跡の存在があります。

第5号住居跡では堅い床下に掘られた柱穴内より表裏をみせるよう割られ埋納されたと思われる縁釉陶器が出土しました。また、14号住居跡からはカマド内の焼土層の下から完形の壺が出土しています。住居跡の壁際から壺が多く出土する傾向がみられ、カマドの祭祀に関わる資料と推測してもよいでしょう。

出土した土器類の時期をみると10世紀末から11世紀と11世紀末から12世紀前半に分類されることから時期差を持って集落が展開していた様子がうかがえます。北に接している荒神山の中腹では同時期の土師器の窯跡が確認されていることからこの集落とのふかい関係が想像されるものです。



【C区】第14号住居跡の様子

【膳棚E区】

道路部分の非常に狭い範囲を調査しました。調査の結果、平安時代の住居跡1軒のほか4基の竪穴状遺構、土坑1基が検出されました。特に土坑は縄文時代に属するものと考えられています。

【廻り田B区】

遺構の検出は竪穴式住居跡1軒、溝状遺構7条、小竪穴状遺構2基、土坑25基、柱穴82基でした。住居は一部が調査区外に伸びてありカマドあるいは炉の痕跡は検出されませんでした。しかし、古墳時代の土師器片が数点出土しています。



【廻り田B区】全景

序 文

本報告書は山梨県埋蔵文化財センターが、西関東自動車道路建設に伴いまして平成23年9月～平成25年7月までの期間で中断を挟みながら発掘調査を実施しました、山梨市南地区に所在した膳棚遺跡と隣接する廻り田遺跡（B区）の発掘調査報告書であります。

本遺跡は、重要文化財が12棟、県有形文化財が2棟を有する延喜式内社と伝える大井俣窟八幡神社の北西から北に広がる果樹園地帯にあります。発掘調査によって検出された遺構は、10世紀後半から約1世紀の間営まれた平安時代の竪穴住居跡41軒を中心としております。それに多くの土坑と呼びます円形や楕円形の竪穴等を調査いたしました。この調査では、住居が営まれていた時代の壺・皿・甕・羽釜等の土師器を中心に、綠釉陶器・灰釉陶器・須恵器等などの焼き物と、刀子や鎌等の鉄製品、砥石や台石等の石製品が出土しております。また、調査区及び住居跡での土壤分析によって、当時の人々が、モモ・オオムギ・コムギ・ヒエ・キビ・ソバ・豆類を栽培や食していたことが明らかとなりました。

本遺跡が営まれていた時代が、『延喜式』神名帳に甲斐国 山梨郡九座の一つとして「大井俣神社」が載った時に極めて近いため、本遺跡と大井俣窟八幡神社との関連が、昨年度刊行しました『上コブケ遺跡』と共に想定されますので、本報告書が、山梨郡の古代史研究に少なからぬデータを提供することとなれば幸甚であります。

最後ではありますが、本遺跡の調査に際しましてご協力を賜りました、調査区周辺の地権者及び耕作者の方々に厚く御礼申し上げます。そして、発掘調査に従事して頂きました方々には、炎天下にもかかわらずご尽力頂きましたことに、心から感謝申し上げます。

2013年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻與志夫

例　　言

- 1 本書は山梨県山梨市北地内に所在する膳棚遺跡・廻り田遺跡B地区の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、県土整備部の依頼を受けて山梨県教育委員会が実施した西関東自動車連絡道路第IV期建設工事に伴う発掘調査である。
- 3 発掘調査および整理作業、報告書刊行は山梨県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の執筆は以下のとおりに分担した。第1～3章を吉岡弘樹、第4章第1節を吉岡、同章第2節を柴田亮平、第3節を吉岡、第4節を新津茂、第5節を田口明子、第6節を吉岡、塩谷風季が執筆した。また、第5章は委託先がそれぞれ執筆し会社名を冒頭に掲示した。全体の編集は吉岡が行った。
- 5 発掘調査や整理作業にあたって、以下の事項について作業を委託し実施した。

A区	基準点測量 株式会社イビソク 空中写真撮影 株式会社東京航業研究所
B区	基準点測量 株式会社イビソク 空中写真撮影・測量図化 株式会社テクノプランニング
C区	基準点測量 株式会社イビソク 空中写真撮影・測量図化 株式会社テクノプランニング
D区	基準点測量 株式会社ケイ・データエンジニア 空中写真撮影 株式会社東京航業研究所 測量図化 株式会社東京航業研究所・株式会社シン技術コンサル 石器実測図 考古学研究所株式会社アルカ 自然化学分析 パリノ・サーヴェイ株式会社
E区	基準点測量 昭和測量株式会社
廻り田B区	基準点測量 株式会社イビソク 空中写真撮影・測量図化 株式会社テクノプランニング 自然化学分析 パリノ・サーヴェイ株式会社

- 6 本書にかかる出土品及び図面、写真是山梨県埋蔵文化財センターが保管する。

凡　　例

- 1 各遺構の順序は現地調査段階での番号を踏襲した。
- 2 全体図は基本を 1/200 とし、遺構実測図は 1/60・1/40・1/30 を、遺物実測図は 2/3・1/3 を縮尺の基本とし、それぞれにスケールを付した。
- 3 遺構・遺物観察表中について()内は推定値・残存値を表す。
- 4 図中では須恵器は断面を黒塗りとした。

目 次

巻頭写真図版

あらまし

序文

例言・凡例

目次

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯と経過	1
第2節 調査の目的と課題	2
第3節 調査期間・面積・担当者	2
第4節 調査に係る事務手続き	3
第5節 調査の組織	4

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境	8
第2節 歴史的環境	8

第3章 遺調査の方法および基本層序

第1節 発掘調査の方法	9
第2節 基本層序	9

第4章 発見された遺構と遺物

第1節 A区	13
第2節 B区	44
第3節 C区	73
第4節 D区	91
第5節 E区	229
第6節 回り田B	251

第5章

回り田遺跡B区の自然科学分析	295
膳棚遺跡D区の自然科学分析	304
膳棚遺跡D区出土土師器の胎土分析	322

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1	C区	
第2図 基本層序観察地点	11	第41図	C区全体図
第3図 基本層序柱状図1	12	第42図	C区 等高線図
第4図 基本層序柱状図2	13	第43図	土坑平面図1 1～12号土坑
A区		第44図	土坑平面図2 13～26号土坑
第5図 遺構配置図	26	第45図	溝状遺構平面図 1・2号溝
第6図 遺構全体図	27	第46図	小窓穴状遺構平面図 1号窓穴
第7図 土坑配置図	28	第47図	柱穴平面図1 1～16号ビット
第8図 溝状遺構等配置図	29	第48図	柱穴平面図2 17～32ビット
第9図 柱穴配置図	30	第49図	柱穴平面図3 33～48ビット
第10図 土坑平面図1	31	第50図	柱穴平面図4 45～64号ビット
第11図 土坑平面図2	32	第51図	柱穴平面図5 65～76号
第12図 土坑平面図3	33	第52図	出土遺物1
第13図 土坑平面図4	34	第53図	出土遺物2
第14図 溝状遺構平面図1	35	D区	
第15図 溝状遺構平面図2	36	第54図	膳棚D区 遺構全体図
第16図 柱穴平面図1	37	第55図	膳棚D区 窓穴住居跡・窓穴遺構配置図
第17図 柱穴平面図2	38	第56図	膳棚D区
第18図 出土遺物1	39		土坑・集石土坑・石組遺構・溝配置図
第19図 出土遺物2	40	第57図	膳棚D区 ビット配置図
第20図 出土遺物3	41	第58図	1号住居跡
第21図 出土遺物4	42	第59図	3号住居跡カマド、5号住居跡
第22図 出土遺物5	43	第60図	5号住居跡カマド・貼床下土坑
B区		第61図	6号住居跡、13号住居跡
第23図 調査区全体図	53	第62図	6号住居跡カマド、13号住居跡カマド
第24図 遺構平面図1	54	第63図	7号住居跡、10号住居跡
第25図 遺構平面図2	55	第64図	7号住居跡カマド、10号住居跡カマド
第26図 溝状遺構平面図1	56	第65図	8号住居跡
第27図 溝状遺構平面図3	57	第66図	9号住居跡、14号住居跡
第28図 溝状遺構平面図4	58	第67図	14号住居跡カマド、9号住居跡カマド、11号住居跡
第29図 出土遺物1 B区 土器1	59	第68図	11号住居跡カマド、台石出土状況
第30図 出土遺物2 B区 土器2	60	第69図	12号住居跡
第31図 出土遺物3 B区 土器3	61	第70図	15号住居跡、18号住居跡
第32図 出土遺物4 B区 石器1	62	第71図	18号住居跡カマド、床下土坑
第33図 出土遺物5 B区 石器2	63	第72図	16号住居跡、17号住居跡
第34図 出土遺物6 B区 石器3	64	第73図	19号住居跡、27号住居跡
第35図 出土遺物7 B区 石器4	65	第74図	20号住居跡
第36図 出土遺物8 B区 石器5	66	第75図	21号住居跡
第37図 出土遺物9 B区 石器6	67	第76図	22号住居跡
第38図 出土遺物10 B区 石器7	68	第77図	23号住居跡、24号住居跡
第39図 出土遺物11 B区 石器8	69	第78図	25号住居跡
第40図 出土遺物12 B区 石器9	70	第79図	26号住居跡

第80図	28号住居跡	164
第81図	29号住居跡	165
第82図	30号住居跡、31号住居跡	166
第83図	32号住居跡、33号住居跡	167
第84図	34号住居跡カマド、35号住居跡	168
第85図	36号住居跡	169
第86図	37号住居跡、40号住居跡	170
第87図	38号住居跡	171
第88図	39号住居跡、41号住居跡、42号住居跡	172
第89図	1～4号堅穴遺構	173
第90図	1～4号集石土坑、1～3号石組遺構	174
第91図	3～43号ピット	175
第92図	44～48号ピット	176
第93図	88～104号ピット、1～9号土坑	177
第94図	10～17号土坑	178
第95図	1～3号溝	179
第96図	出土遺物：土器類（1号堅穴住居跡）	180
第97図	出土遺物：土器類 (1号・3号堅穴住居跡)	181
第98図	出土遺物：土器類（3号堅穴住居跡）	182
第99図	出土遺物：土器類（3号堅穴住居跡）	183
第100図	出土遺物：土器類（4号堅穴住居跡）	184
第101図	出土遺物：土器類（5号堅穴住居跡）	185
第102図	出土遺物：土器類（5号堅穴住居跡）	186
第103図	出土遺物：土器類 (6号・7号堅穴住居跡)	187
第104図	出土遺物：土器類（8号堅穴住居跡）	188
第105図	出土遺物：土器類（9号堅穴住居跡）	189
第106図	出土遺物：土器類 (10号・11号堅穴住居跡)	190
第107図	出土遺物：土器類 (11号・12号堅穴住居跡)	191
第108図	出土遺物：土器類（12・13号堅穴住居跡）	192
第109図	出土遺物：土器類（13・14号堅穴住居跡）	193
第110図	出土遺物：土器類 (14号・15号堅穴住居跡)	194
第111図	出土遺物：土器類 (15号・16号・17号堅穴住居跡)	195
第112図	出土遺物：土器類 (17号・18号堅穴住居跡)	196
第113図	出土遺物：土器類 (18号・19号・20号堅穴住居跡)	197
第114図	出土遺物：土器類 (20号・21号堅穴住居跡)	198
第115図	出土遺物：土器類（22号堅穴住居跡）	199
第116図	出土遺物：土器類（22号堅穴住居跡）	200
第117図	出土遺物：土器類 (23号・24号堅穴住居跡)	201
第118図	出土遺物：土器類 (25号・26号堅穴住居跡)	202
第119図	出土遺物：土器類 (27号・28号堅穴住居跡)	203
第120図	出土遺物：土器類（28号堅穴住居跡）	204
第121図	出土遺物：土器類 (28号・29号堅穴住居跡)	205
第122図	出土遺物：土器類 (29号・30号・31号堅穴住居跡)	206
第123図	出土遺物：土器類 (32号・33号・34号堅穴住居跡)	207
第124図	出土遺物：土器類 (34号・35号・36号堅穴住居跡)	208
第125図	出土遺物：土器類 (36号・37号堅穴住居跡)	209
第126図	出土遺物：土器類（37号堅穴住居跡）	210
第127図	出土遺物：土器類 (37号・38号・39号・40号・41号堅穴住居跡)	211
第128図	出土遺物：土器類 (42号堅穴住居跡・1号・2号・3号堅穴遺構)	212
第129図	出土遺物：土器類 (3号・4号堅穴遺構、住居内ピット、ピット)	213
第130図	出土遺物：土器類 (ピット・石組遺構、遺構外)	214
第131図	出土遺物：土器類（遺構外）	215
第132図	出土遺物：土器類（遺構外）	216
第133図	出土遺物：土器類（遺構外）	217
第134図	出土遺物：土器類（遺構外、表面採集）	218
第135図	出土遺物：土器類（縄文式土器）	219
第136図	出土遺物：土器類（縄文式土器）	220
第137図	出土遺物：土器類（遺構外）	221
第138図	出土遺物：鉄器・鉄製品	222
第139図	出土遺物：石器	223
第140図	出土遺物：石器	224
第141図	出土遺物：石器	225
第142図	出土遺物：石器	226
第143図	出土遺物：石器	227
第144図	出土遺物：石器	228
E区		
第145図	調査区全体図	236
第146図	1区全体図	237
第147図	2区全体図	238
第148図	1区6号土坑・3号堅穴住居跡 1・2・4号堅穴状遺構・5号ピット群 1～3ピット	239
第149図	1区3号堅穴住居跡	240
第150図	1区6号土坑出土遺物	241

第151図	1区遺構外出土繩文土器(1)	241
第152図	1区遺構外出土繩文土器(2)	242
第153図	1区遺構外出土繩文土器(3)	243
第154図	1区遺構外出土繩文土器(4)	244
第155図	1区遺構外出土繩文土器(5)	245
第156図	1区出土石器	245
第157図	1区3号堅穴住居跡出土遺物(1)	246
第158図	1区3号堅穴住居跡出土遺物(2)	247
第159図	1区3号堅穴住居跡出土遺物(3)	248
第160図	1区1号堅穴状遺構出土遺物	248
第161図	1区5号ピット群出土遺物	248
第162図	1区1号ピット出土遺物	248
第163図	1区遺構外出土遺物(1)	248
第164図	1区遺構外出土遺物(2)	249
第165図	1区遺構外出土遺物(3)	250
第166図	2区遺構外出土遺物	250
廻り田B区		
第167図	小堅穴遺構等配置図	269
第168図	土坑配置図	270
第169図	溝状遺構配置図	271
第170図	柱穴配置図	272
第171図	遺物出土位置図	273
第172図	第1号堅穴住居跡	274
第173図	第2号堅穴状遺構	275
第174図	第1号 溝状遺構	276
第175図	第2号 溝状遺構	277
第176図	第3号～第6号 溝状遺構	278
第177図	第7号溝状遺構・第1号～第9号土坑	279
第178図	第10号～第19号土坑	280
第179図	第21号～第25号土坑・	
	第1号～第16号柱穴	281
第180図	第17号～第40号柱穴	282
第181図	第41号～第66号柱穴	283
第182図	第67号～第82号柱穴	284
第183図	出土遺物 1号・2号堅穴住居跡・	
	1号8号土坑・1号溝状遺構出土土器	285
第184図	出土遺物 2号溝状遺構出土土器(1)	286
第185図	出土遺物 3号溝状遺構出土土器(2)	287
第186図	出土遺物 4号溝状遺構出土土器(3)	288
第187図	出土遺物 5号溝状遺構出土土器(4)	289
第188図	出土遺物 6号溝状遺構出土土器(5)	290
第189図	出土遺物 7号溝状遺構出土土器(6)	291
第190図	出土遺物 8号溝状遺構出土土器(7)	292
第191図	出土遺物 9号溝状遺構出土土器(8)	293
第192図	出土遺物 10号溝状遺構・遺構外出土土器	294

表 目 次

表1	膳棚A遺構観察表	20
表2	膳棚A遺物観察表1	23
表3	膳棚A遺物観察表2	24
表4	膳棚A石器実測一覧	25
表5	膳棚B実測一覧	51
表6	膳棚C遺構一覧	75
表7	膳棚C遺物観察表	78
表8	膳棚D遺構観察表	110
表9	膳棚D遺物観察表	115
表10	膳棚E遺物観察表(1)	230
表11	膳棚E遺物観察表(2)	230
表12	膳棚E遺物観察表(3)	232
表13	膳棚E遺物観察表(4)	232
表14	膳棚E遺物観察表(5)	234
表15	膳棚E遺物観察表(6)	235
表16	廻り田B遺構観察表	255
表17	廻り田B遺物観察表	258

自然化学分析図表・図版一覧

D区胎土分析	
表1 放射性炭素年代測定および曆年較正結果	297
表2 寄生虫卵分析結果	298
表3 種実遺体分析結果	298
表4 ブドウ種子の大きさ	298
表5 土壤理化分析結果	299
図1 花粉化石群集	297
図2 ブドウ属種子の大きさ	301
D区自然科学分析	
表1 放射性炭素年代測定および曆年較正結果	305
表2 花粉分析結果	310
表3 植物珪酸体含量①	311
植物珪酸体含量②	311
表4 樹種同定結果	314
表5 種実遺体分析結果	317
表6 18号住 (C-6; 種子(炭化)出土キビの大きさ)	318
表7 土壤化学分析結果	320
図1 曆年較正結果(1σ)の確率分布	306
図2 花粉化石群集の層位分布	309
図3 植物珪酸体含量	309
D区出土土器の胎土分析	
表1 胎土分析試料一覧	322
表3 薄片観察結果②	324
図1 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度	325
図2 砂の粒径組成	326
図3 胎土中の砂の粒径組成散布図	327
図4 砕屑物・基質・孔隙の割合	327
図5 胎土中の砂の粒径組成散布図	329
廻り田B区	
図版1 花粉化石	330
図版2 種実遺体・炭化材	331

写真図版 目次

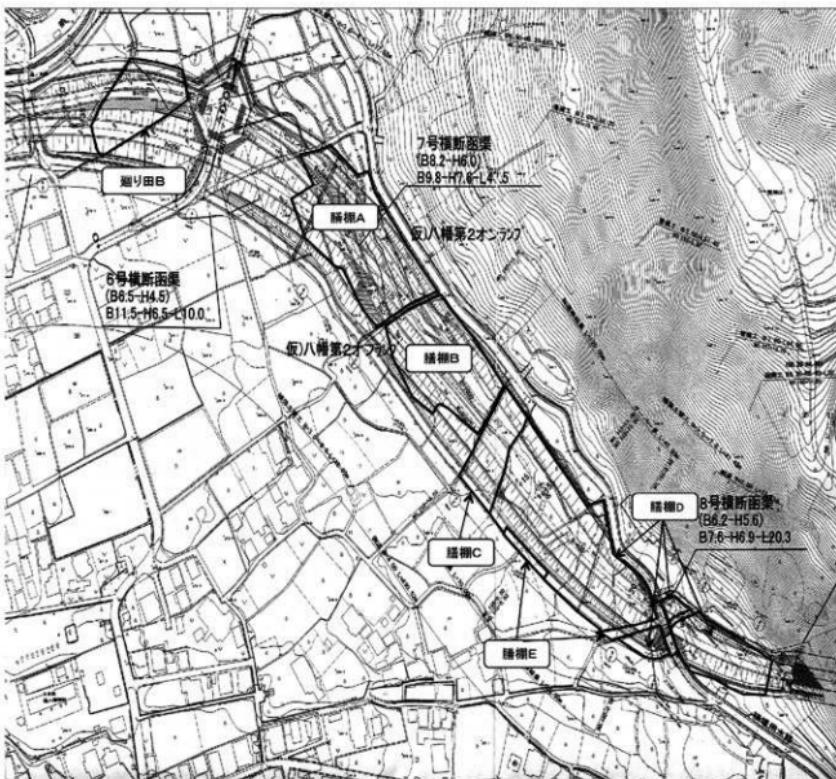
棚A区	写真図版 1~6
B区	写真図版 7
C区	写真図版 8~11
D区	写真図版 12~18
E区	写真図版 19~23
廻り田B区	写真図版 24~29

第1章

第1節 調査に至る経緯と経過

西関東連絡道路とは、埼玉県深谷市から山梨県甲府市に至る延長約110km(山梨側約34km)の地域高規格道路であり、山梨県と埼玉県を交互に連絡し経済や観光の交流効果の強化を図ることを目的としている。また、新山梨環状道路を介し、関越自動車道、中央自動車道、中部横断自動車道と連絡し、北関東地域と東海地方を結ぶネットワークを形成させ、甲府市と山梨市間の整備によって一般国道140号の渋滞緩和とともに甲府市域と岐阜地域との連携を強める目的を持っている。当道路が完成することで既存の道路の交通機能が向上し、沿道生活環境が充実改善され、山梨県の道づくりビジョンにより目指す「県内1時間交通圏の確立」が推進され県民の生活向上が期待されるものである。

勝棚遺跡と廻り田遺跡B区は上記の西関東連絡道路建設に伴って平成22年度に路線内の試掘調査が実施され山梨市北字中勝棚と東勝棚に展開する勝棚遺跡として周知されたものである。近接した位置には、千年の歴史をもつ雀八幡神社がある。ナウマン象の白堀などが発見された兄川河床遺跡などが点在している。



第1図 遺跡位置図

発掘調査に当たっては、約1万3千m²と広域な遺跡ととらえられているため調査対象地を対象面積が大きい方に加え、水路等によって分断されていたことなどからA～E区までの5分割し、それぞれに担当者を配置し、県土整備部・県教育委員会双方による定期的な工程会議を実施しながら調査を進め、平成23年度にA・B・C区を平成24年度にD・E区の発掘調査を実施した（第1図）。また、調査に入るに際し県土整備部・学術文化財課・埋蔵文化財センター及び工事関係者による現地協議を膳棚A～Cについては平成23年7月下旬に、膳棚D・Eについては平成24年当初に実施し調査範囲・調査工程・現場事務所の設置個所などを確認した。

第2節 調査の目的と課題

平成23・24年にかけて発掘調査が行われた。結果、膳棚遺跡は北側のA・B・C区と南側のD区では様相が大きく異なっている事が確認できた。A・B・C区は、土坑や柱穴などの遺構がほとんどである。また遺物に関しては摩耗の激しい土器の小片が多く確認され、縄文土器や古墳時代・平安時代の土器が混在している状況である。一方、D区においては、南北に流路が縱断しているが、その東側と荒神山の裾部に密着するように多くの平安時代の住居跡が確認されている。

膳棚遺跡の中でも、場所によって遺跡の様相が異なることは、時期的なものなのか、居住区とその他といった土地利用の方法なのかななど興味深い。

第3節 調査期間・面積・担当者

膳棚遺跡 A区

調査期間 平成23年9月1日～12月26日

調査面積 4,997m²

調査担当者 副主幹・文化財主事 吉岡弘樹

非常勤嘱託職員 小澤美和子

膳棚遺跡 B区

調査期間 平成23年9月22日～平成24年1月27日

調査面積 3,900m²

調査担当者 主査・文化財主事 笠原みゆき

非常勤嘱託職員 加々美鷗実

膳棚遺跡 C区

調査期間 平成23年12月1日～平成24年1月27日

調査面積 1,650m²

調査担当者 副主幹・文化財主事 吉岡弘樹

非常勤嘱託職員 小澤美和子

非常勤嘱託職員 塩谷風季

臨時職員 田中賢一

膳棚遺跡 D区

調査期間 平成24年8月20日～平成25年1月15日

調査面積 8,600m²

調査担当者 主査・文化財主事 笠原みゆき

文化財主事	青木真一
文化財主事	須長愛子
文化財主事	柴田亮平

勝棚遺跡	E区
調査期間	平成25年6月3日～7月31日
調査面積	440m ²
調査担当者	副主幹・文化財主事 田口明子 文化財主事 柴田亮平

廻り田遺跡	B区
調査期間	平成23年9月5日～11月30日
調査面積	2,096m ²
調査担当者	副主幹・文化財主事 吉岡弘樹 非常勤嘱託職員 塩谷風季 臨時職員 田中賢一

第4節 調査に係る事務手続き

勝棚遺跡	A区 平成23年8月23日 文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
	平成24年1月19日 文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
	平成24年2月13日 終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
	平成24年3月16日 発掘調査・整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

勝棚遺跡	B区 平成23年8月23日 文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
	平成24年2月6日 文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
	平成24年2月13日 終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
	平成24年3月22日 発掘調査・整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

勝棚遺跡	C区 平成23年12月5日 文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出
	平成24年2月6日 文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出
	平成24年2月13日 終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出
	平成24年3月16日 発掘調査・整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

勝棚遺跡	D区 平成24年8月17日 文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教
------	---

育長に提出

平成25年1月16日 文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会

教育長に提出

平成25年1月18日 終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成25年3月15日 発掘調査・整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

棚欄遺跡 E区 平成25年6月14日 文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成25年8月2日 文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成25年8月5日 終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成26年3月14日 発掘調査・整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

廻り田遺跡 B区 平成23年8月23日 文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成23年12月6日 文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成23年12月28日 終了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成24年3月19日 発掘調査・整理作業の実績報告書を山梨県教育委員会教育長に提出

第5節 調査の組織

棚欄遺跡の調査組織は以下のとおりである。

(1) 平成23年度体制

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 平賀孝雄

次長 八巻與志夫

調査研究課長 高野玄明

調査第二担当 吉岡弘樹（リーダー）小澤美和子 塩谷風季

調査第三担当 笠原みゆき 加々美鮎実

発掘調査非常勤嘱託職員

雨宮久美子 飯室恵子 飯室恵 池谷千代子 出月正敏 伊藤知子 大石清美 小澤正臣 小澤美幸 小幡敬一 河西元彦 勝田美和 岸本美苗 北野礼子 河野直美 輿石邦次 小菅衛 小菅春江 小林としみ 斎藤里美 坂本行臣 桜田美代子 佐藤昇 佐藤あけみ 塩沢昌和 清水征二 清水忠次 志村由未 高原南洋 武井美和子 武田素子 田中健二 千野富子 土屋常子 筒井聰 角田勇雄 角田三良 角田武子 直井光江 中澤保 長澤晴雄 中島辰子 中山かよ子 萩原忠 原義仁 廣瀬侯子 楠川芳久 広瀬智恵子 深澤友子 保坂悌司 前田悦郎 松本榮一 水上喜正 三森喜直 宮下善雄 村田勝利 望月明 望月孝次 望月敏子 森秋夫 山上和 横内光夫 渡辺麗子

整理作業非常勤嘱託職員

小澤美幸 斎藤里美 飯室恵子 富田圭 小林としみ 佐藤あけみ

(2) 平成24年度体制

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻與志夫

次長 福島一雄

調査研究課長 米田明訓

調査第二担当 青木真一 須長愛子

調査第三担当 笠原みゆき 柴田亮平

発掘調査非常勤嘱託職員

雨宮久美子 飯室恵子 小幡敬一 北野礼子 小菅春江 阪本國廣 清水征二 高原南洋 土屋常子 筒井聰 角田光夫 角田三良 直井光江 内藤敏夫 中込柳 花形裕 原田隆邦 保坂悌司 松本榮一 水上喜正 宮原雄二 宮下善雄 望月孝次 箕本公幸 若月あい子 若杉保 輿石邦次 小沢正臣 中澤保 千野富子 米山孝子 塩沢昌和 正木なつ子 長澤晴雄 天野美津子 石倉千春 渡辺めぐみ 望月小枝

整理作業非常勤嘱託職員

神田久美子 五味勝子 佐藤あけみ 保坂理恵子 矢崎綾 堀内律子 清水真弓 土井みさほ 梶原初美

平川涼子 川住たまみ 新津多恵 石坂恵理 猪股順子 飯室恵子 小菅春江

(3) 平成25年度体制

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻與志夫

次長 福島一雄

調査研究課長 保坂康夫

調査第二担当 田口明子 柴田亮平

発掘調査非常勤嘱託職員

新家和美 新家博明 田中健二 土井みさほ 新津多恵

整理作業非常勤嘱託職員

新家和美 土井みさほ 新津多恵

廻り田の調査組織は以下のとおりである。

(1) 平成23年度調査体制

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 平賀孝雄

次長 八巻與志夫

調査研究課長 高野玄明

調査第二担当 吉岡弘樹(リーダー) 塩谷風季

発掘調査非常勤嘱託職員

阿部和信 加藤京 向山輝 望月勝子 湯川邦夫 雨宮久美子 飯室恵子 飯室惠 池谷千代子 出月正敏
伊藤知子 大石清美 小澤正臣 小澤美幸 小幡敬一 河西元彦 勝田美和 岸本美苗 北野礼子 河野直美
奥石邦次 小菅衛 小菅春江 小林としみ 斎藤里美 坂本行臣 桜田美代子 佐藤昇 佐藤あけみ
塙沢昌和 清水征二 清水忠次 志村由未 高原南洋 武井美和子 武田素子 田中健二 千野富子 土屋常子
筒井聰 角田勇雄 角田三良 角田武子 直井光江 中澤保 長澤晴雄 中島辰子 中山かよ子 萩原忠
原義仁 廣瀬侯子 穂川芳久 広瀬智恵子 深澤友子 保坂悌司 前田悦郎 松本榮一 水上喜正
三森喜直 宮下善雄 村田勝利 望月明 望月孝次 望月敏子 森秋夫 山上和 横内光夫 渡辺麗子

整理作業非常勤嘱託職員

岸本美苗 筒井聰 穂川芳久

(2) 平成25年度調査体制

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻與志夫

次長 福島一雄

資料普及課長 山本茂樹

資料第一担当 保坂和博(リーダー) 塩谷風季

整理作業非常勤嘱託職員

川住たまみ 新津多恵 石坂恵理 猪股順子

(3) 平成26年度調査体制

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 八巻與志夫

次長 出月洋文

調査研究課長 保坂康夫

調査第三担当 吉岡弘樹(リーダー) 浅川一郎 新津 茂

第6節 調査の概要

【膳棚A区】

遺構は土坑55基・柱穴51基と溝状遺構が5条確認されている。

土坑は、直径40~50cm、深度30~60cmを測り、円形または楕円形を呈するものが主体となっている。柱穴は、

直径20~40cm、深度30~40cmを測り、円形を呈するものが多い。土坑、柱穴ともに配置の規則性は見受けられないが、調査区の中でも、比較的土層が安定している標高の高い位置より多数が確認される傾向がみられる。

【膳棚B区】

B区の現状は、段差のある果樹園で、道路際の一番高い畠と二番目の段差が1.2~1.5mほどある。この一番高い平坦面をB区-1、2段目以降の平坦面から緩やかに傾斜して南側に下る部分をB区-2とした。

B区-1は調査区の中でも、最も北側の道路際に位置する。黄褐色の粘質土にやや大型の山石が多く含まれる層が厚く堆積する様子がみられ北側の山の斜面が崩れたものと考えられる。

調査の結果、同個体の縄文土器片が数点まとめて出土する地点が1箇所と、土坑1基が確認できた。

B区-1から1段下がった下段がB区-2となる。表土を掘削するとすぐ黒褐色粘質土が現れる。これは、この地を畠として利用する際に、大きく削平されたのではないかと推定できる。

調査の結果、土坑22基と溝状遺構10条、ピット22基、土師器片・縄文土器片・石器などの遺物が出土している。

【膳棚C区】

B区の東側にはほぼ接するように設定された調査区である。小竪穴状遺構1基、土坑26基、柱穴73基、溝状遺構2条が検出された。

小竪穴状遺構は、2.75×2.75mの規模で平面形は歪んだ隅丸方形を呈している。深度は、約16cmを測る。また、出土遺物は、平安期と推測できる土器の小破片が1点出土している。第2号溝状遺構は、調査区東寄りから調査区外に向けて長さ3.5mが検出された。西端部は激しい円礫の混入によって形状等は掴めなかった。北側の壁面に約30~50cm幅の平坦面を持ち、全幅は約8mを測る。深度は約90cmで底面は弧状である。遺物の出土は無かつた。

土坑および柱穴は、調査区のほぼ全域から検出されている。

【膳棚D区】

当区では40軒以上の住居跡が検出されている。特に調査区中央に重複する住居跡が多く感ずる。

この状況と平安時代末期の土器の出土から当該期の集落であったことは間違いない。特筆すべきものとして第5号と第14号住居跡の存在がある。

第5号住居跡では貼床下に構築されたピット内より表裏をみせるように割られ埋納されたと思われる縁軸陶器が出土している。他方、14号住居跡からはカマド内の焼土層下方より完形の壺が出土している。また、住居跡の壁際から壺が多く出土する傾向がみられ、カマドの祭祀に関わる資料と推測されよう。

出土した土器類の時期をみると10世紀末から11世紀と11世紀末から12世紀前半に大別されるため時期差を持って集落が展開していた様子がうかがえる。北に接している荒神山の中腹では同時期の土師器の窯跡が確認されていることからこの集落との関係が示唆されよう。

【膳棚E区】

当区は道路部分の閉胸な範囲を調査したものであるが、平安時代の住居跡1軒のほか4基の竪穴状遺構、土坑1基が検出された。特に土坑は縄文時代に属するものと考えられている。また、平安時代の層の下に縄文時代の遺物包含層が確認されたことも特筆されよう。

【繩り田B区】

遺構の検出は竪穴式住居跡1軒、溝状遺構7条、小竪穴状遺構2基、土坑25基、柱穴82基であった。住居は

一部が調査区外に伸びておりカマドあるいはか跡は検出されなかった。しかし、古墳時代の土師器片が出土している。

第2章 遺跡周辺の環境

第1節 地理的環境

山梨県は県土の約8割が山地の内陸県である。その中心地域には逆三角形状を呈する甲府盆地があり北に秩父、東に大菩薩、南に御坂、西に3,000m級の南アルプスの峰々がこれを取り囲んでいる。また、北西部には八ヶ岳山麓、南東部には富士山が聳え立っており、県土全体を俯瞰してみると起伏の激しい地形となっている。

今回、調査した膳棚・廻り田遺跡B地区のある山梨市北地区は前述した甲府盆地の北北東の縁辺部に位置している。西に甲府市、南に笛吹市、東方に甲州市がある。また、北側は2,000m級の秩父山地が広がり埼玉県秩父市長野原川上村と接しており、関東平野と甲府方面の分水嶺となっている。一方で南方に目を向けると標高300mほどの平坦に近い傾斜を持ち甲府盆地の一部を構成している。この部分は後背の山地より流出する笛吹川、重川が市域をほぼ南北に分断している。また、兄川・弟川などの小河川の流下も見られ、複合扇状地形を形成している。笛吹川と重川に沿うように現在では国道140号やJR中央線といった交通網も発達している。さらに、埼玉県に抜ける雁坂トンネルが平成10年に開通したことにより交通の利便性が活発となってきている。

遺跡は477mの標高を持つ荒神山の裾部（標高約370m）を取り巻くように展開している。当所は南に面しており日当たりも良好で桃や葡萄の果樹経営が盛んである。

第2節 歴史的環境

遺跡地の西側にある兄川河床遺跡では昭和36年に破損した兄川右岸の用水壁の補修工事中に河床よりナウマンゾウの化石骨が発見されている。その後、平成2年までの間にナウマンゾウの化石骨の発見が続きクリーニングや資料の整理などが実施されている。また、平成6年には埋蔵文化財センターにより河川改修に伴った調査が行われ大臼歯・右座骨・シカ属角片などの資料が追加され平成8年には山梨県天然記念物に指定された。

平成23年には上コブケ遺跡の発掘調査に伴って当遺跡の橋梁建設地点を調査したがナウマンゾウの化石骨包含層は検出できなかった。

旧石器時代の遺跡としては甲府盆地東部では駿迦堂遺跡群でナイフ型石器がまとめて出土しているものの希薄といって良いだろう。なお、西関東連絡道路関係では上コブケ遺跡よりナイフ型石器1点が出土している。

縄文時代の遺跡としては草創期の東後屋敷遺跡があげられよう。続いて市内最古の土器である早期中葉の山形押型文の土器片を検出した上手原遺跡がある。前期の遺跡では、諸磯式土器が出土した三ヶ所遺跡・東後屋遺跡天神地点が、中期前葉の五領ケ台式期では窟八幡神社社家坊中群日影地点、宮ノ前遺跡、三ヶ所遺跡、東後屋敷遺跡、堀ノ内遺跡が調査されている。中期中葉では、東後屋敷遺跡、高畠遺跡などが、後期の遺跡では屋敷添遺跡があり、称名寺式土器が確認されている。また、晩期では大洞式期の土器片が出土している延命寺遺跡がある。

弥生時代では、石包丁が3点出土した堀ノ内遺跡、また、中期とされている宗高東遺跡からは大型の石鏡が5点出土している。これらの農耕具は扇状地地形において水田経営が盛んにおこなわれていたことを推定できる材料となろう。

古墳時代では、西関東連絡道路関連遺跡において中沢・武家遺跡や足原田遺跡、延命寺遺跡があげられる。その他、市内には上コブケ遺跡、膳棚遺跡も含めこの時代の遺跡が増加している傾向がみられる。

6世紀後半代からの横穴式石室を持つ後期古墳は山梨市南西部の兜山の東斜面に展開する岩下古墳群がある。この中の主墳ともいえる牧洞寺古墳は石室の全長が10.6mで県内でも大きな規模を有している。隣接した天神

塚古墳も全長9.2mあり牧洞寺古墳に次ぐ規模を誇っている。また、山梨市史編纂時の分布調査で存在が明らかとなった山根古墳群は岩下古墳群に接し46基にも及ぶと推定されており笛吹市春日居町にある春日井古墳群をも凌駕するものである。石室の構築方法は安山岩系の自然石を割り高架させており、盆地南側の自然石を加工せずに構築する技法の違いがみられる。

平安時代の遺跡分布をみると扇状地地帯への進出が見て取れる。これは、水田経営の耕作地確保のための拡大と解釈してよいだろう。条里型地割の展開にも平安時代遺跡のあり方が関連付けられてくると考えられる。上コブケ遺跡や膳棚遺跡の隣接地にはこの条里型地割が真北から約24度傾き八幡条里として知られている。また、真北より12度傾く笛吹川東岸一帯の候東条里とは区別がなされている。山梨市史によると八幡条里は古代からあった地割を安田氏が八幡荘の莊園経営に当たって再編したことによって成立したとの説が提示されている。

第3章 遺調査の方法および基本層序

第1節 発掘調査の方法

調査区全体を覆うように1辺が5mの正方形のグリッドを設定し北から南にA、B、C・・・、とアルファベット順に割り振り、西から東に1、2、3・・・と算用数字を割り当てていった。

調査は試掘の成果に基づいて遺構検出面直上まで平爪バケットを装着した重機による表土除去を行い、その後はジョレンなどを使用し遺構検出に努めた。

遺構の調査は土層セクション図、エレベーション図、遺構平面図、遺構内レベリング等を行ない遺物については直径5cm以上のものについては位置データを計測した。測量法は膳棚A・C区においては通り方測量で、グリッド杭に水糸を張り測量基準線とした。残りの調査区では、トータルステーションとコンピュータを利用した測量法で遺構・遺物の測点と実測を実施した。

第2節 基本層序（第2～4図）

膳棚遺跡では全体で共通した土層の認識は難しい。そこで、平成22年度に試掘調査した成果を基として個別に基本層序を記載することとする。

【膳棚A隣接地】

第3地点では約10cmの表土層（第1層）の下に約40cmと厚く暗茶褐色土層（第2層）が確認されている。その下方には淡暗茶褐色土層（第3層）、黒褐色土層（第4層）、橙褐色土層（第5層）、暗灰黄色砂質土層（第6層）、黒褐色粘質土層（第7層）、黒褐色砂質土層（第8層）、黒褐色砂質土層（第9層）と続く堆積が観察できた。なお、遺物包含層は無く、第9層から湧水層となる。

【膳棚A】

第4地点では、表土層（第1層）の下に茶褐色土層（第2層）、暗茶褐色土層（第3層）、黒褐色土層（第4層）があり第2層から第4層には炭化粒子が大量に混入していた。その下方には締りの強い黄褐色粘質土層（第5層）がある。当地点では遺構・遺物の検出はなかった。

【膳棚B】

第5地点では10～20cmの表土層（第1層）の下、第4地点でも観察できた茶褐色土層（第2層）が確認されている。その下方には黒褐色土層（第3層）と遺物を包含する暗茶褐色土層（第4層）があり、暗黒褐色砂質土

層（第5層）が観察される。

【暗棚C】

第6地点では20~25cmの表土層（第1層）の下方、第4地点より続く茶褐色土層（第2層）が約40cmの厚い堆積をみせている。その下、遺物を包含する黒褐色粘質土層（第3層）、淡黒褐色粘質土層（第4層）、黒褐色土層（第5層）が存在している。第5層の下方には黒褐色砂礫層（第6層）がある。

【暗棚D】

第7地点である。約20cmの表土層（第1層）の下、茶褐色土層（第2層）が15~20cm厚で堆積をみせている。この第2層は調査対象地全体に堆積している唯一の層である。第2層の下、遺物包含層である黒褐色粘質土層（第3層）と淡黒褐色粘質土層（第4層）が観察された。特に第3層は炭化粒子を多く混入させていた。さらに60cm以上の厚さの黒褐色土層（第5層）と黒褐色砂礫層（第6層）がある。

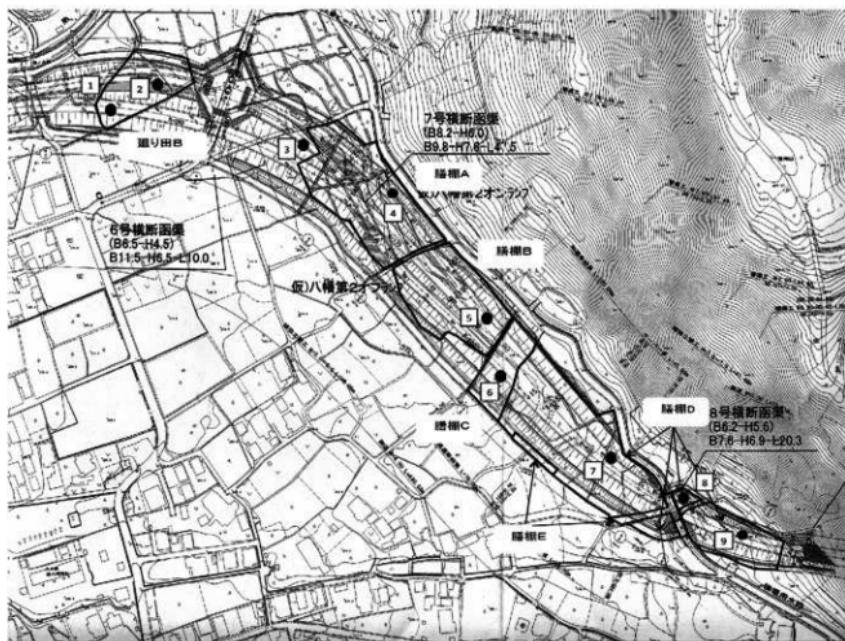
第8地点においては、約15cmの表土層（第1層）の下、茶褐色土層（第2層）が15~20cmの厚さで存在している。その下には約1mの厚く遺物を包含する淡黄褐色土層（第3層）と黒褐色土層（第4層）がある。

第9地点では約15cmの表土層（第1層）の下に茶褐色土層（第2層）が約40cmとやや厚い堆積をしている。その下には炭化粒子を多く混入する暗茶褐色土層（第3層）と黒褐色土層（第4層）が混在し特に第3層からは焼土が底面近くで検出された。さらに下方では20~45cm厚で暗茶褐色土層（第5層）と暗茶褐色砂礫層（第6層）と続いている。

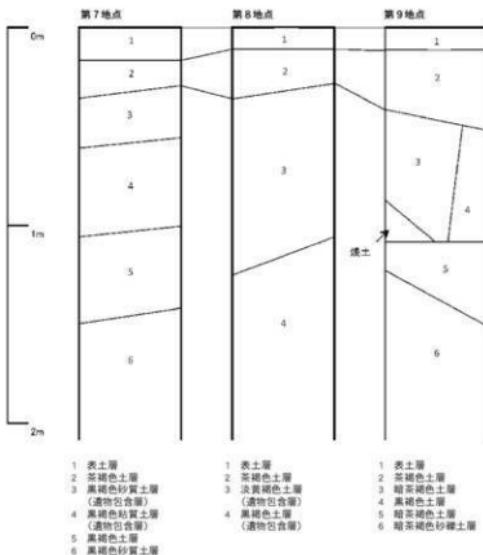
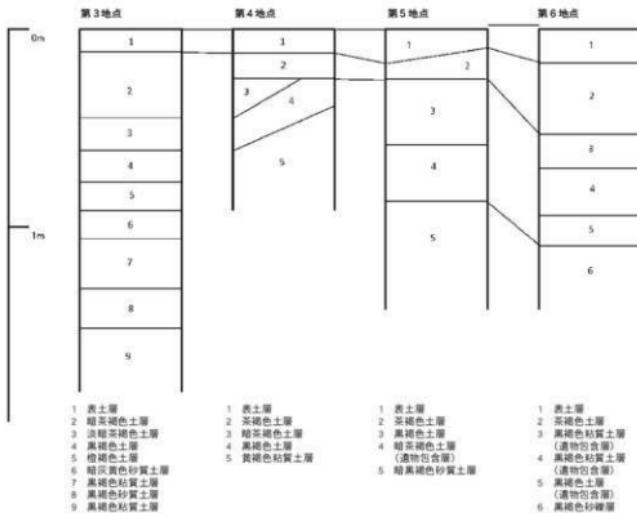
【廻り田B】

第1地点では20cmの表土層（第1層）の下に約5cmの暗青褐色土層（第2層）が薄く堆積している。その下層には暗黒褐色土層（第3層・約30cm厚）が確認できる。さらに、下層に目を向けると黄褐色砂礫土層（第4層）、暗黒褐色土層（第5層）、灰黄褐色土層（第6層）、灰褐色粘質土層（第7層）と旧河道に伴う土層を見ることができる。なお、この中で黄褐色砂礫土層は遺物包含層である。

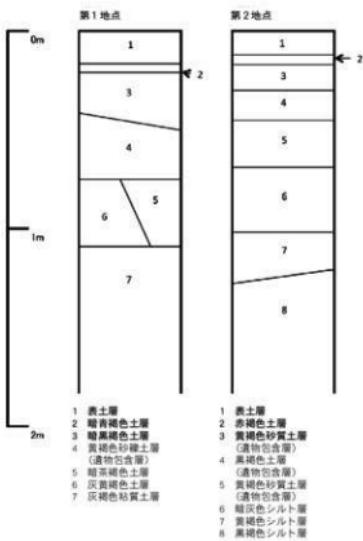
第2地点では表土層から黄褐色砂礫土層直上まで若干の土層の乱れを感じる。表土（第1層）の下には第1地点同様に堆積の薄い層（赤褐色土層・第2層）がみられる。色調こそ違うが第1地点第2層と同意層と捉えてよいものとして良いだろう。その直下には遺物が混入される黄褐色砂質土層（第3層）、黒褐色土層（第4層）、黄褐色砂質土層（第5層）が観察できる。さらにその下方には暗茶褐色シルト層（第6層）、黄褐色シルト層（第7層）、黒褐色シルト層（第8層）が存在する。



第2図 基本層序観察地点



第3図 基本層序柱状図 1



第4図 基本層序柱状図2

第4章 発見された遺構と遺物（第5～9図）

第1節 A区

(1) 土坑（第7図）

当区では56基の土坑を検出した。その分布は北側の荒神山山裾に近い部分に集中している。

第1号土坑（第10図）

B-18区において発見された。平面形状は不整梢円形を呈している。長軸は100cm、短軸は75cm、深度は32cmを測る。壁面は急傾斜で立ち上がっている。坑底は水平である。遺物の出土はなかった。

第2号土坑（第10図）

C-17・18区に跨って検出された。平面形状はほぼ円形を呈している。長軸は120cm、短軸は110cm、深度は25cmを測る。土層は2層に分層される。第1層は薄黒褐色土層底面近くに薄く第2層の暗茶褐色土層が観察された。壁は緩い傾斜を持って立ち上がっている。坑底の状況はやや傾斜を持っている。遺物は环が出土しており、構築時期は平安時代と推測される。

第3号土坑（第10図）

当土坑はC-17区に位置しており第4号土坑と第3号ビットに挟まれて検出された。平面形はほぼ円形を呈しており長軸80cm、短軸70cm、深度29cmを測る。壁はやや急な立ち上がりを見せており、坑底の状況はほぼ平坦である。遺物の出土は無かった。

第4号土坑（第10図）

C-17区より検出された。位置は第3号土坑と第3号ビットと直列した状態の北西側端部にある。平面形

状は不整椭円形を呈する。長軸96cm、短軸83cm、深度24cmを測り主軸は北西に取っている。壁は緩やかな傾斜で立ち上がり坑底は平坦である。なお、遺物の出土は無かった。

第5号土坑（第10図）

C-16・17区より検出された。北西側に隣接して第6号土坑がある。平面形状は不整椭円形を呈している。長軸209cm、短軸104cm、深度25cmを測る。主軸は東方に取っている。壁はやや急傾斜で立ち上がりを見せている。坑底は平坦である。遺物の出土は無かった。

第6号土坑（第10図）

C-16区より検出された。東側に隣接して第5号土坑がある。平面形状は不整椭円形をしており、長軸71cm、短軸56cm、深度23cmを測る。壁は急傾斜で立ち上がり底面は平坦である。遺物の出土は無かった。

第7号土坑（第10図）

C-16区より検出された。形状は不整椭円形を呈している。長軸は80cm、短軸65cm、深度35cmを測る。壁は急傾斜を持って立ち上がっている。坑底はやや傾斜している。出土遺物は环が出土しており、構築時期は平安期と推される。

第8号土坑（第10図）

B-16・17区より検出された。平面形は円形を呈している。長軸70cm、短軸65cm、深度35cmを測る。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。覆土は暗茶褐色土層で环が包含されている。構築時期は平安期である。

第9号土坑（第10図）

B-16区より検出された。平面形は椭円形を呈している。長軸111cm、短軸91cm、深度23cmを測る。土層は坑底近くに淡黒褐色土層がありその上方に第8号土坑と同様の暗茶褐色土層が観察できる。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がっている。遺物は甕片が出土しており平安期の構築と考えられる。

第10号土坑（第10図）

B-16区より検出された。平面形は不整円形を呈している。長軸71cm、短軸64cm、深度24cmを測る。坑底には自然石があり明茶褐色土層と暗茶褐色土層が覆土している。壁は急傾斜で立ち上がっている。遺物の出土は無かった。

第11号土坑（第10図）

C-16区より確認され、その規模は長軸94cm、短軸73cm、深度20cmを測る。平面形状は不整円形を呈している。坑底はやや起伏している。壁はやや急峻に立ち上がりを見せている。覆土は淡黒褐色土層の下に明茶褐色土層がわずかに確認された。なお、遺物の出土は無かった。

第12号土坑（第10図）

B-15・16区・C-15区より検出された。形状は不整円形を呈している。長軸75cm、短軸65cm、深度26cmを測る。坑底はやや丸みを帯びている。壁は急傾斜で立ち上がっている。遺物は环が出土している。構築時期は平安期が求められよう。

第13号土坑（第10図）

A-15区より確認された。平面形状は不整形を呈している。規模は長軸86cm、短軸67cm、深度25cmを測る。坑内には円礫が観察できる。土層の堆積状況は上層より淡茶褐色土層、暗茶褐色土層、茶褐色土層、明茶褐色土層と続く。坑底の状況は円礫が散見しているものの平坦である。壁は急傾斜で立ち上がっている。遺物の出土は無かった。

第14号土坑（第11図）

A-15区より検出された。第15号土坑と並列している。平面形状は椭円形で規模は長軸86cm、短軸67cm、深度25cmを測る。坑内には礫の混入が見られる。坑底は丸みを帯び壁の西側は急傾斜で東側は緩やかに立ち上がっている。土層は暗灰褐色土層の下に暗茶褐色土層が確認できる。遺物の出土は無かった。

第15号土坑（第11図）

A-15区より検出された。第14号土坑に接続しており平面形は楕円形を呈している。土層は暗灰褐色土層の下に暗橙褐色土層と暗茶褐色土層が確認できる。規模は長軸70cm、短軸59cm、深度26cmで坑底はわずかに丸みを帯び壁は緩やかに立ち上がって行く。遺物の出土はない。

第16号土坑（第11図）

A-14・15区から検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸70cm、短軸59cm、深度50cmを測る。土層の堆積状況は上層から暗灰褐色土層、暗橙褐色土層、暗茶褐色土層と続く。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がっている。遺物の出土は無い。

第17号土坑（第11図）

B・C-14区から確認された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸72cm、短軸55cm、深度51cmを測る。土層の堆積状況は上層より淡茶褐色土層、明茶褐色土層、茶褐色土層、暗灰褐色土層と観察される。坑底は丸く壁は急傾斜で立ち上がってている。遺物の出土は無い。

第18号土坑（第11図）

B-14区より検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸75cm、短軸63cm、深度45cmを測る。土層堆積状況は上層より薄茶褐色土層、茶灰色砂質土層、茶灰色砂質土層（茶色粒子が多く入る）、暗灰色砂質土層となる。坑底は平坦で壁は急傾斜で立ち上がってている。遺物の出土は無い。

第19号土坑（第11図）

B・C-14区より確認された。平面形はほぼ円形を呈している。坑底は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がってている。土層は上層より暗灰褐色土層、淡茶褐色土層、薄茶褐色土層と堆積している。規模は長軸82cm、短軸80cm、深度31cmを測る。出土遺物は壺片が出土しており、構築時期は平安期が求められよう。

第20号土坑（第11図）

B-14区より検出された。平面形は楕円形を呈しており規模は長軸100cm、短軸73cm、深度44cmを測る。当土坑は第15号ビットと接続している。坑底は平坦で壁は垂直に近い傾斜で立ち上がって行く。遺物の出土は無い。

第21号土坑（第11図）

A-14区より検出された。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸79cm、短軸69cm、深度20cmを測る。坑底はほぼ平坦で壁はやきつい角度で立ち上がって行く。覆土は暗茶褐色砂質土層の下に暗黄褐色粘土層が観察できる。遺物の出土は無かった。

第22号土坑（第11図）

A-14区より検出された。平面形は円形を呈しており、規模は長軸68cm、短軸63cm、深度15cmを測る。坑底は平坦であり壁は急角度でたちあがっている。遺物の出土は無かった。

第23号土坑（第11図）

A-14区より検出された。平面形は円形を呈している。規模は長軸72cm、短軸61cm、深度18cmを測る。坑底は平坦で壁は緩やかな角度でたちあがっていく。遺物の出土はない。

第24号土坑（第11図）

A-14区より検出された。第26号土坑と第28号ビットに挟まれている。平面形は円形を呈している。規模は長軸63cm、短軸59cm、深度24cmを測る。土層は上層より下層に向けて暗茶褐色砂質土層、暗黄褐色砂質土層、淡黄褐色土層と堆積が観察された。坑底は丸く壁は急角度で立ち上がって行く。遺物の出土はなかった。

第25号土坑（第11図）

B-13区より検出された。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸58cm、短軸49cm、深度22cmを測る。土層の堆積は上層より下層に向けて暗灰褐色砂質土層、暗灰褐色砂質土層（上層より多めの鉄分を混入する）、

灰褐色砂質土層、暗灰褐色砂質土層と観察できる。遺物の出土は無かった。

第26号土坑（第11図）

B-13区にて検出された。第25号土坑に接続している。平面形は円形で坑底は平坦である。壁はやや急傾斜で立ち上がっている。土層は単層で暗灰褐色砂質土が充填されている。なお、遺物の出土は無かった。

第27号土坑（第12図）

A・B-13区に跨って検出された。第21号ピットと接続している。平面形は円形を呈している。坑底は平坦で壁は急角度で立ち上がっている。土層の堆積は薄茶灰褐色砂質土層、暗茶灰色砂質土層、暗黄灰色砂質土層、暗黄褐色粘質土層、黒茶褐色粘質土層が上層より観察できる。遺物の出土は無い。

第28号土坑（第12図）

B-13区にて検出された。平面形は不整円形を呈している。土層は上層より茶褐色土層、茶褐色粘質土層が観察できる。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がっている。遺物の出土は無い。

第29号土坑（第12図）

C-15区より検出された。不整円形の形状を呈している。規模は長軸55cm、短軸51cm、深度33cmを測る。土層は上層より暗灰色砂質土層、茶褐色砂質土層、明茶褐色粘質土層と続く。坑底は平坦で壁は垂直に近い角度で立ち上がって行く。遺物の出土は無い。

第30号土坑（第12図・第18図）

A-13区にて検出された。第31号土坑と接続している。切り合い関係は不明である。平面形は不整円形を呈している。規模は長軸70cm、短軸61cm、深度39cmを測る。坑底は起伏に富んでおり壁は第31号土坑側は急角度で反対側は緩い傾斜で立ち上がって行く。遺物は皿が出土しており構築時期は平安期が求められよう。

第31号土坑（第12図・第18図）

A-13区にて検出され、第30号土坑と接続している。平面形状は不整円形を呈している。規模は長軸88cm、短軸63cm、深度30cmを測る。坑底は第30号土坑側に緩やかに傾斜している。壁はやや急に立ち上がっている。出土遺物は土錘が出土している。構築時期は平安時代である。

第32号土坑（第12図）

A-11・12区に跨り検出されたものである。平面形状はほぼ円形で規模は長軸69cm、短軸64cm、深度23cmである。坑底は平坦で壁はやや急角度で立ち上がっている。土層は上層から茶褐色砂質土層、暗灰色砂質土層と観察できる。遺物の出土は無い。

第33号土坑（第12図）

A・B-12区に跨って検出されたものである。平面形状は梢円形であり規模は長軸65cm、短軸55cm、深度24cmを測る。坑底より礫が検出されているが自然石が混入したものと感じ取れる。坑底の形状は平坦で壁はやや急角度で立ち上がって行く。遺物の出土は無い。

第34号土坑（第12図）

A-12区より検出された。平面形状は梢円形を呈している。規模は長軸73cm、短軸65cm、深度27cmを測る。坑底は平坦で壁はやや急角度を持っている。層位は上層より暗灰色砂質土層、淡茶褐色砂質土層、暗茶褐色粘質土層、暗黄褐色粘質土層となる。遺物の出土は無い。

第35号土坑（第12図）

A-12区より検出された。平面形状は円形を呈している。規模は長軸70cm、短軸69cm、深度31cmを測る。坑底は平坦で壁はやや急角度を持って立ち上がって行く。遺物の出土は無い。

第36号土坑（第12図）

A-11・12区に跨って検出された。平面形状は隅丸方形の形状をとる。長軸62cm、短軸60cm、深度は11cmと浅い。覆土は上層より暗茶褐色土層、円礫の入る暗黄褐色土層、暗黄褐色粘質土層となる。坑底は平

坦で壁はやや緩やかに立ち上がっている。遺物の出土は無かった。

第37号土坑（第12図）

A-11区より検出された。平面形は円形を呈している。長軸53cm、短軸49cm、深度24cmを測る。坑底はフラットで壁は急傾斜で立ち上がって行く。覆土は上層より、暗灰色砂質土層、橙褐色粘質土層、茶褐色粘質土層、淡茶褐色粘質土層となる。なお、遺物の出土は無かった。

第38号土坑（第12図）

A-11・12、B-11・12区に跨って検出された。並列して第39号土坑がある。平面形は円形を呈している。規模は長軸60cm、短軸59cm、深度24cmを測る。覆土は茶褐色砂質土層、黄茶褐色粘質土層、暗黄茶褐色粘質土層と観察できる。坑底は平坦で壁は急傾斜で立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第39号土坑（第12図）

A・B-11区において検出された。隣りには第38号土坑がある。平面形は円形を呈している。規模は長軸56cm、短軸52cm、深度24cmを測る。覆土は茶褐色砂質土層、黄茶褐色粘質土層と2層が観察できる。坑底は平坦で壁は急傾斜で立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第40・41号土坑（第12図）

双方ともにA-11区より並列して検出された。共に平面形は不整円形を呈している。規模は第40号土坑が長軸72cm、短軸64cm、深度16cmを測る。第41号土坑は、長軸115cm、短軸84cm、深度27cmを測る。覆土は第1層が暗茶褐色土層、第2層明茶褐色土層、第3層淡茶褐色土層、第4層茶褐色粘質土層、第5層淡黄褐色粘質土層、第6層淡茶褐色粘質土層、第7層黄褐色粘質土層と観察できる。坑底の状況は凹凸に富んでおり壁の立ち上がりも規則性が感じられず、風倒木痕の可能性が高い。

第42号土坑（第13図）

A-11区より検出された。平面形はほぼ円形を呈している。規模は長軸55cm、短軸51cm、深度23cmを測る。坑底は平坦で西側は緩やかに、東側はやや急角度で立ち上がっている。覆土は上層より灰褐色砂質土層、暗灰色砂質土層、暗茶褐色粘質土層、茶褐色粘質土層、明茶褐色粘質土層と続く。遺物の出土は無い。

第43号土坑（第13図）

D-14区から検出された。東側には隣接して第40号ピットがある。平面形はほぼ円形を呈している。規模は長軸63cm、短軸61cm、深度31cmを測る。坑底は平坦であるが面積が少ない。壁はやや傾斜を持って反りながら立ち上がって行く。遺物の出土は無い。

第44号土坑（第13図）

C・D-14区から検出された。平面形はほぼ円形を呈している。規模は長軸58cm、短軸57cmで深度15cmと浅い。坑底は平坦で壁の立ち上りは緩やかな傾斜をもつ。覆土は淡茶褐色土の単層である。遺物の出土は無かった。

第45号土坑（第13図）

C・D-13区から検出された。平面形はほぼ円形を呈している。規模は長軸55cm、短軸51cm、深度23cmを測る。坑底は平坦で壁は急角度で立ち上がって行く。覆土は黄褐色砂質土層、灰褐色粘質土層、淡黒褐色粘質土層と続く。遺物の出土は無かった。

第46号土坑（第13図）

D-13区から検出された。近接して第42号ピットがある。平面形はほぼ円形をしている。規模は長軸55cm、短軸52cm、深度18cmを測る。坑底は平坦で壁はやや緩やかな傾斜を持って立ち上がって行く。なお、遺物の出土は無かった。

第47号土坑（第13図）

C-12区より検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸75cm、短軸64cm、深度21cmを測る。

坑底はフラットで壁は緩やかに立ち上がって行く。覆土は上層より暗茶褐色土層、黒褐色粘質土層、薄黒褐色粘質土層、暗茶褐色粘質土層と続く。遺物の出土は無い。

第48号土坑（第13図）

C-12区、D-11・12区に跨って検出された。平面形状は不整円形を呈している。長軸73cm、短軸58cm、深度22cmを測る。坑底はやや丸みを帯び壁は緩やかに立ち上がって行く。覆土は上層より黒褐色砂質土層、暗黄褐色粘質土層となる。遺物の出土は無かった。

第49号土坑（第13図）

C-11区より検出された。平面形状は不整円形を呈している。長軸61cm、短軸52cm、深度15cmを測る。坑底にはやや起伏が見られる。壁はなだらかに立ち上がってている。覆土は上層より暗灰褐色砂質土層、暗黄褐色砂質土層となる。遺物の出土は無かった。

第50号土坑（第13図）

B・C-7区より検出された。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸95cm、短軸72cm、深度19cmを測る。坑底はわずかに丸みを帯び壁はなだらかに立ち上がって行く。覆土は上層より茶褐色土層、暗茶褐色粘質土層、暗黄褐色粘質土層となる。遺物の出土は無かった。

第51号土坑（第13図）

B-7区より検出された。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸100cm、短軸89cm、深度23cmを測る。坑底は平坦であるが自然石の混入が見られる。壁は緩やかに立ち上がって行く。覆土は上層より茶褐色土層、暗茶褐色粘質土層、淡茶褐色粘質土層、暗茶褐色粘質土層と続く。

第52号土坑（第13図）

D-12区から検出された。平面形状はほぼ円形を呈している。規模は長軸55cm、短軸53cm、深度26cmを測る。坑底は平坦面で、壁はやや急角度を持って立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第53号土坑（第13図）

F-11区より検出された。平面形状は不整楕円形を呈している。規模は長軸109cm、短軸84cm、深度26cmを測る。坑底は平坦であり壁は緩やかな傾斜を持って立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第54号土坑（第13図）

F-9区より検出された。平面形状はほぼ円形を呈している。規模は、長軸96cm、短軸95cm、深度24cmを測る。坑底は平坦で壁は緩やかな傾斜を持って立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第55号土坑（第13図）

F-10区から確認されたものである。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸76cm、短軸54cm、深度28cmを測る。坑底はわずかに丸みを帯び壁は緩やかな傾斜で立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第56号土坑（第13図）

D-17・18区、E-11・12区に跨って検出された。平面形状は不整円形を呈している。規模は長軸93cm、短軸85cm、深度12cmを測る。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

（2）溝状遺構

溝状遺構は当地区では5条が検出された。いずれも浅く歛状遺構の可能性もある。

第1号溝状遺構（第14図）

A-17・18区、B-17・18区に跨って検出された。長さ7.5m、幅約80cm、深度約30cmを測る。平面形はほぼ中央で屈曲しており、この屈曲部にピットが構築されている。また、第2号溝状遺構と並列する関係を持っている。断面形状は鍋底状を呈している。覆土は上層より黄茶褐色土層、暗茶褐色土層と続く。遺物の出土は無く、構築された時期は不明である。

第2号溝状遺構（第14図）

B-17区より検出された。第1号溝状遺構と並列している。長さ3.8m、幅約80cm、深度29cmを測る。断面形状は鍋底状を呈している。覆土は上層より茶褐色土層、淡茶褐色土層、黄茶褐色土層と続く。遺物の出土は無く、構築された時期は不明である。

第3号溝状遺構（第14図）

D-15・16区、E-15・16区に跨って検出された。平面形は緩い逆S字状を呈している。長さ6.5m、幅60cmで深度は約10cmと浅い。断面形は皿型である。覆土は黄茶褐色土層である。遺物の出土は無く構築された時期は不明である。

第4号溝状遺構（第15図・第18図）

G-10・11区にてやや弧状を描くように検出された。規模は長さ4.8m、幅約40cm、深度は13cmと浅い。断面形は皿型である。遺物の出土は縄文時代中期と推される土器片が検出されているが必ずしも構築された時期となるかは判断できない。

第5号溝状遺構（第15図）

F-7・8区よりほぼ直線的に検出されたものである。規模は長さ8.9m、幅約80cm、深度は10cmと浅い。断面形は皿型である。遺物の出土は無く構築された時期は不明である。

(3) ピット（第16～17図）

ピットについては50基が確認された。詳細については観察表を参考にされたい。

(4) 出土石器について（第19～22図）

縄文時代

打製石斧（19～40）

22点を図示した。全体的に着柄痕は弱く、顯著に確認できない資料が多い。これらは形状によって、短冊形（20・22・26～30・33～35・40）、撥形（19・38）、分銅形（24・32・36）、草鞋形（21）に区分される。短冊形が一番多く確認されている。刃部が平坦なものが多いが、中には極端に突出している資料（27）も見られる。分銅形は抉りが弱い資料が多い傾向にある。撥形は形が張りだす形状の資料が多く確認されている。資料の大半は長さ10cm程度だが、中には20・30・32・36・39のように長さ15cm（推定含む）を超える資料も確認されている。

使用石材は、頁岩とそれが由来のホルンフェルスであり、付近の河床などから採取して製作していたと推測される。

石鎌（41）

小型であるが、脚がやや長い資料である。縁辺の微細な加工は裏面を中心に行われており、精緻に作られた印象を受ける。

楔形石器（42・43）

2点ともやや厚めの剥片を素材として、両極剥離を行っている。上下両端に明確な潰れが確認でき、剥離の際の衝撃痕と考えられる。また縁辺には微細な剥離痕が施されており、43の裏面に確認できる剥離痕は石鎌の調整に似通った印象を受ける。

微細な剥離痕を有する剥片（44）

ズリから剥離された縦長剥片である。複数回の剥離で打面を作出しているのが伺える。縁辺に微細な剥離痕が確認できるが、人為的かは不明である。

エンド・スクレイパー (45)

石核を素材とした、いわゆるコア・スクレイパーである。石核の作業面に直角に近い角度で微細な剥離を連続して施し、そこを刃部としている。刃部は一部、ノッチ状を呈する。

表1 脇棚A 遺構観察表

脇棚A 土坑観察表

土坑No	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
1	B-18G	不整梢円形	100	75	32		不明	
2	C-17.18G	円形	120	110	25	有り	平安	坏
3	C-17G	円形	80	70	29		不明	
4	C-17G	不整梢円形	96	83	24		不明	
5	C-16.17G	不整梢円形	209	104	25		不明	
6	C-16G	不整梢円形	71	56	23		不明	
7	C-16G	不整梢円形	80	65	35	有り	平安	坏
8	B-16.17G	円形	70	65	23	有り	平安	坏
9	B-16G	梢円形	111	91	24	有り	平安	喪
10	B-16G	不整円形	71	64	28		不明	
11	C-16G	不整円形	94	73	20		不明	
12	B-15.16G C-15G	不整円形	75	65	26	有り	平安	坏
13	A-15G	梢円形	86	67	52		不明	
14	A-15G	梢円形	73	52	25		不明	
15	A-15G	梢円形	70	59	26		不明	
16	A-14.15G	円形	71	70	52		不明	
17	B.C-14G	梢円形	72	55	51		不明	
18	B-14G	梢円形	75	63	45		不明	
19	B.C-14G	円形	82	80	31	有り	平安	坏
20	B-14G	梢円形	100	73	44		不明	
21	A-14G	梢円形	79	69	20		不明	
22	A-14G	円形	68	63	15		不明	
23	A-14G	梢円形	72	61	18		不明	
24	A-14G	円形	63	59	24		不明	
25	B-13G	梢円形	58	49	22		不明	
26	B-13G	円形	89	83	12		不明	
27	A.B-13G	円形	69	66	27		不明	
28	A.13G	不整円形	78	74	24		不明	
29	C-15G	不整円形	55	51	33		不明	
30	A-13G	不整円形	70	61	39	有り	平安	皿
31	A-13G	梢円形	88	63	30	有り	平安	土鍬
32	A-11.12G	円形	69	64	23		不明	
33	A.B-12G	梢円形	65	55	24		不明	
34	A-12G	梢円形	73	65	27		不明	
35	A-12G	円形	70	69	31		不明	
36	A-11.12G	隅丸方形	62	60	11		不明	
37	A-11G	円形	53	49	24		不明	

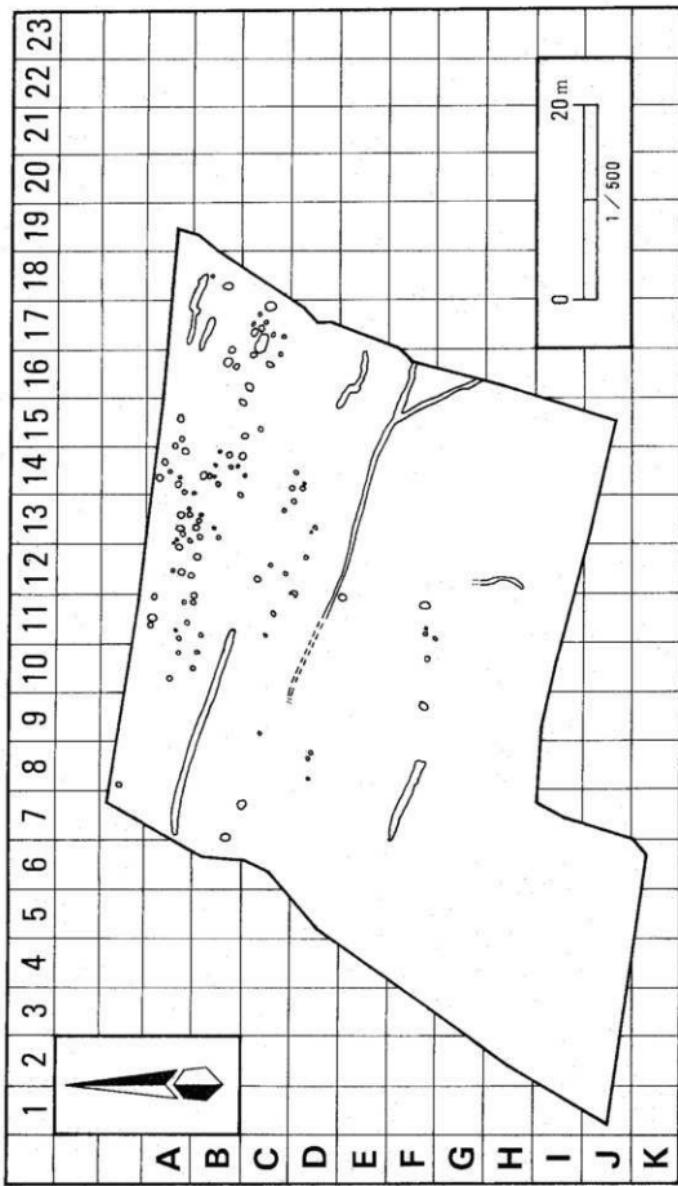
土坑No	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
38	A-11.12G	B-11.12G	円形	60	59	24		不明
39	A-B-11G		円形	56	52	24		不明
40	A-11G		不整円形	72	64	6		不明
41	A-11G		不整円形	115	84	27		不明
42	A-11G		円形	55	51	23		不明
43	D-14G		円形	63	61	31		不明
44	C,D-14G		円形	58	57	15		不明
45	C,D-13G		円形	55	51	23		不明
46	D-13G		円形	55	52	18		不明
47	C-12G		楕円形	75	64	21		不明
48	C-12G	D-11.12G	不整円形	73	58	22		不明
49	C-11G		不整円形	61	52	15		不明
50	B,C-7G		楕円形	95	72	19		不明
51	B-7G		楕円形	100	89	23		不明
52	D-12G		円形	55	53	26		不明
53	F-11G		不整楕円形	109	84	26		不明
54	F-9G		円形	96	95	24		不明
55	F-10G		楕円形	76	54	28		不明
56	D-11.12G	E-11.12G	不整円形	93	85	12		不明

膳棚 A 溝観察表

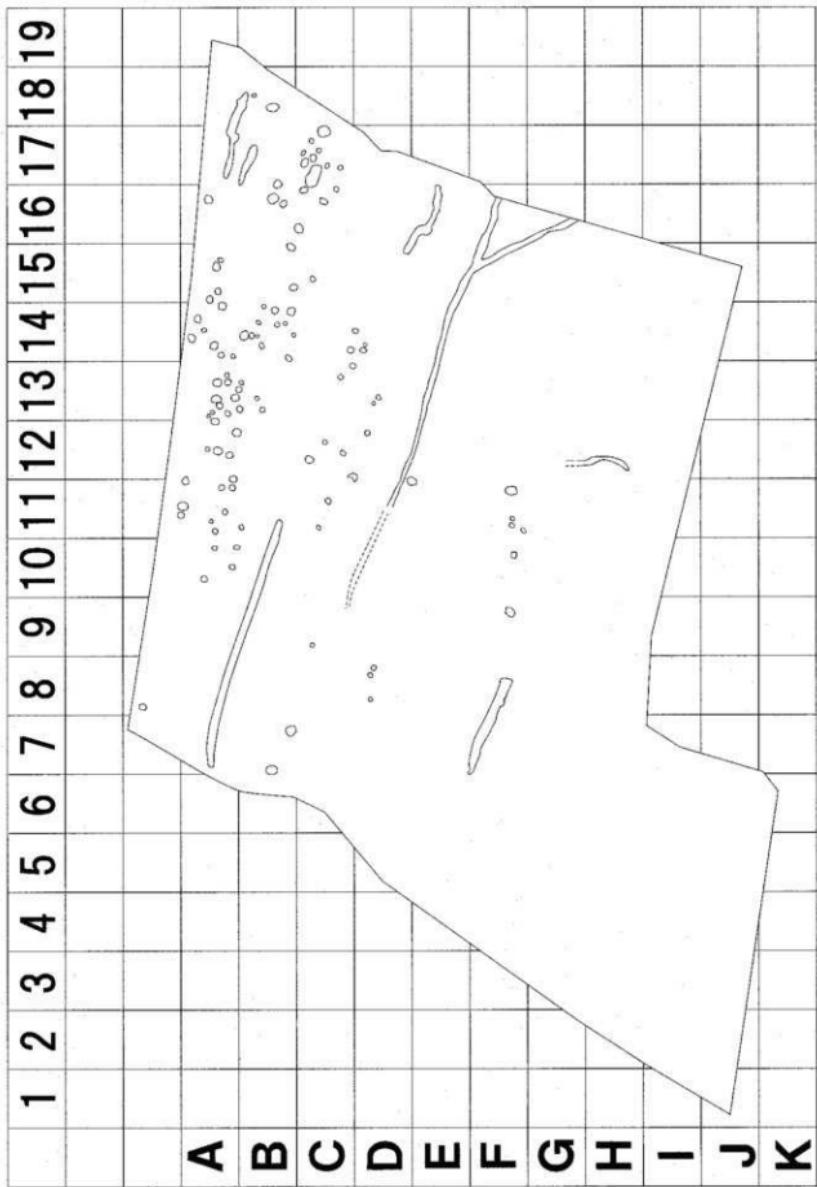
土坑No	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
1	A-17.18G	B-17.18G	鍋底形	750	80	30		不明
2		B-17G	鍋底形	380	80	29		不明
3	D-15.16G	E-15.16G	皿形	650	60	10		不明
4	G-10.11G		皿形	480	40	13	有り	繩文
5	F-7.8G		皿形	890	80	10		不明

膳棚 A ピット観察表

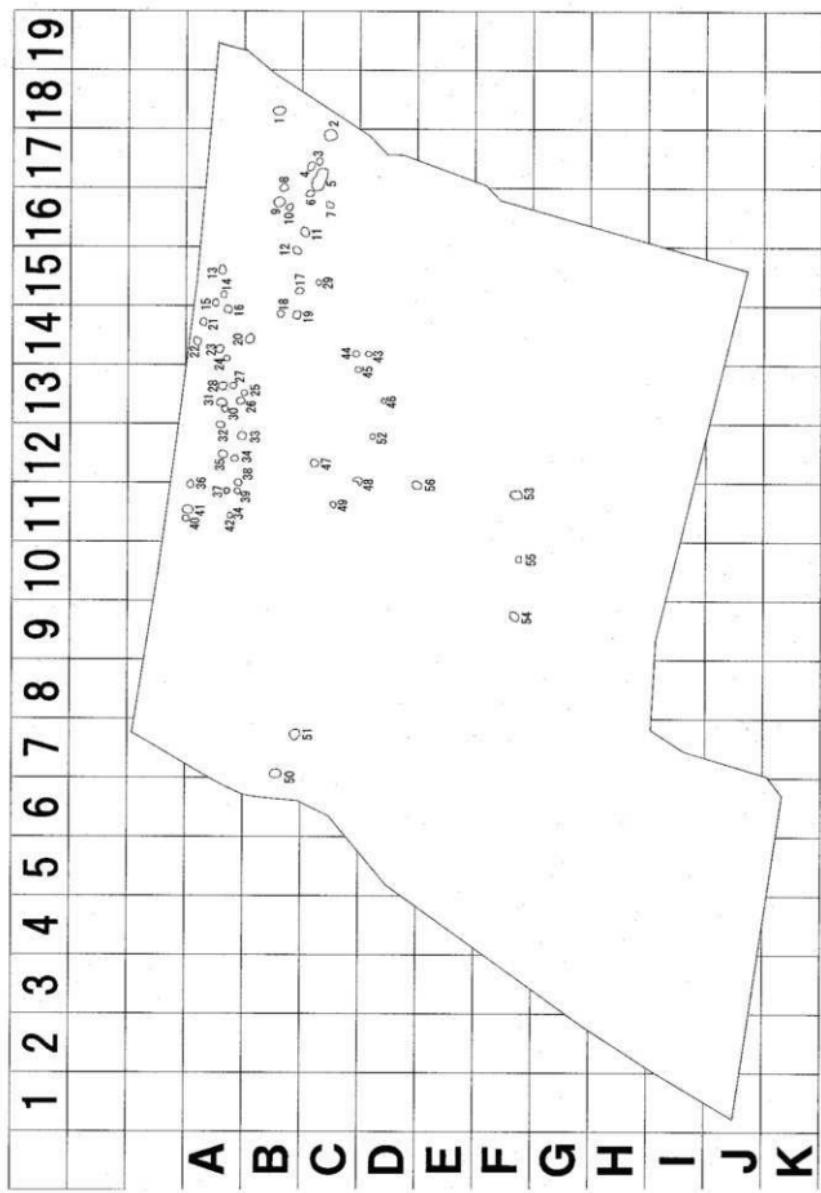
土坑No	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
1	B-18G	円形	37	36	22		不明	
2	C-17G	円形	52	50	25		不明	
3	C-17G	円形	50	49	31		不明	
4	C-17G	楕円形	60	37	23		不明	
5	C-17G	円形	51	47	27		不明	
6	C-17G	楕円形	48	38	26		不明	
7	C-16G	円形	42	37	33		不明	
8								欠番
9	B-14G	楕円形	40	28	34		不明	
10	B-14G	楕円形	46	37	32		不明	
11	B-14G	円形	31	28	23		不明	
12	B-14G	楕円形	39	30	27		不明	
13	B-14G	円形	50	46	24		不明	
14	B-14G	不整円形	35	31	39		不明	
15	B-14G	不整円形	58	43	41		不明	
16	A-14G	円形	46	42	15		不明	
17	A-14G	円形	35	34	14		不明	



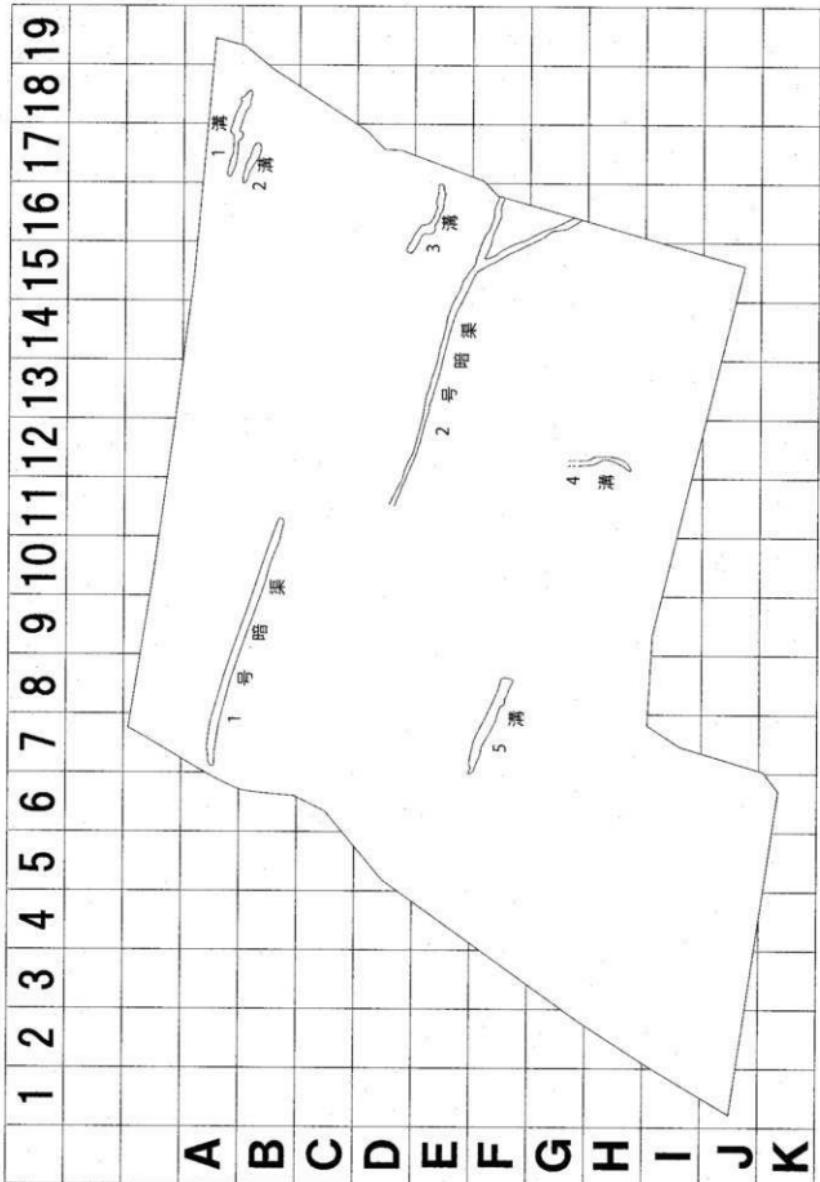
第5図 遺構配置図



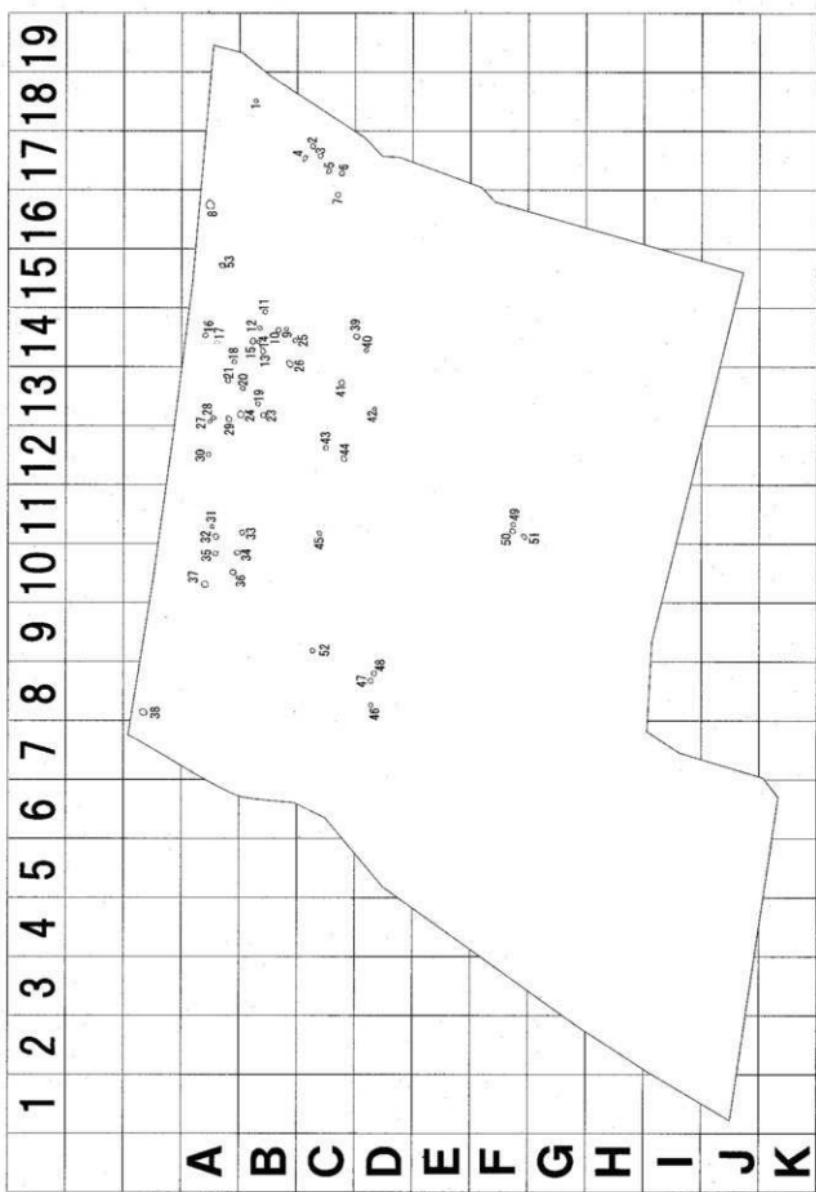
第6図 遺構全体図



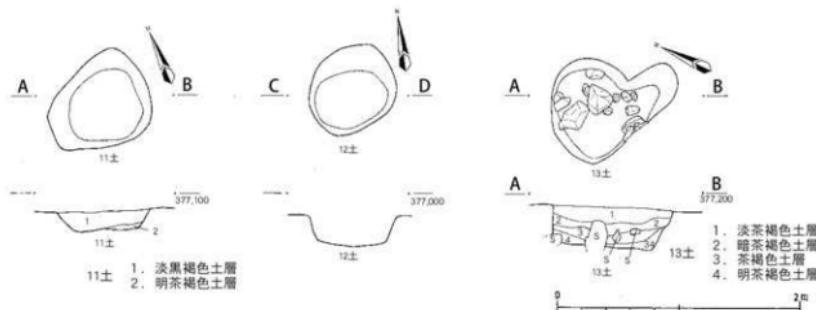
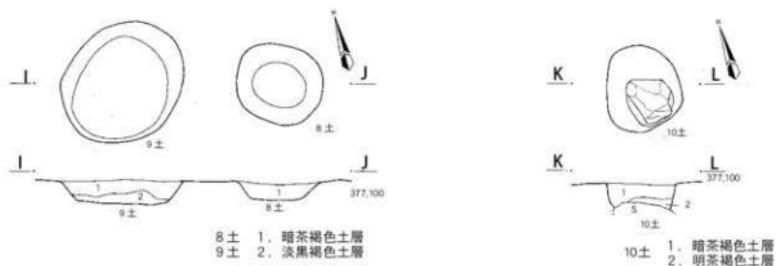
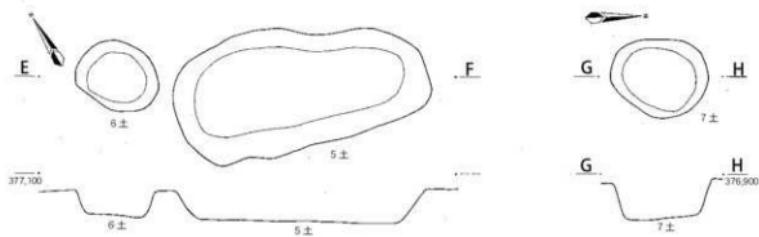
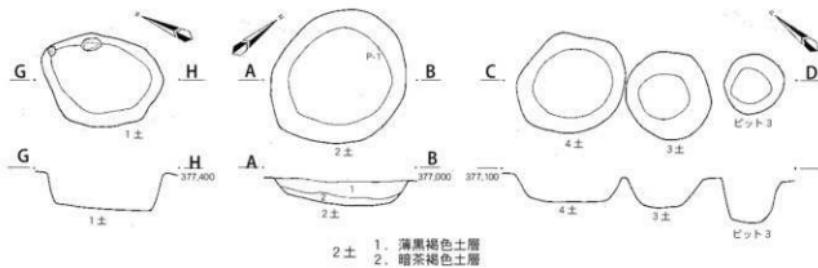
第7図 土坑配置図



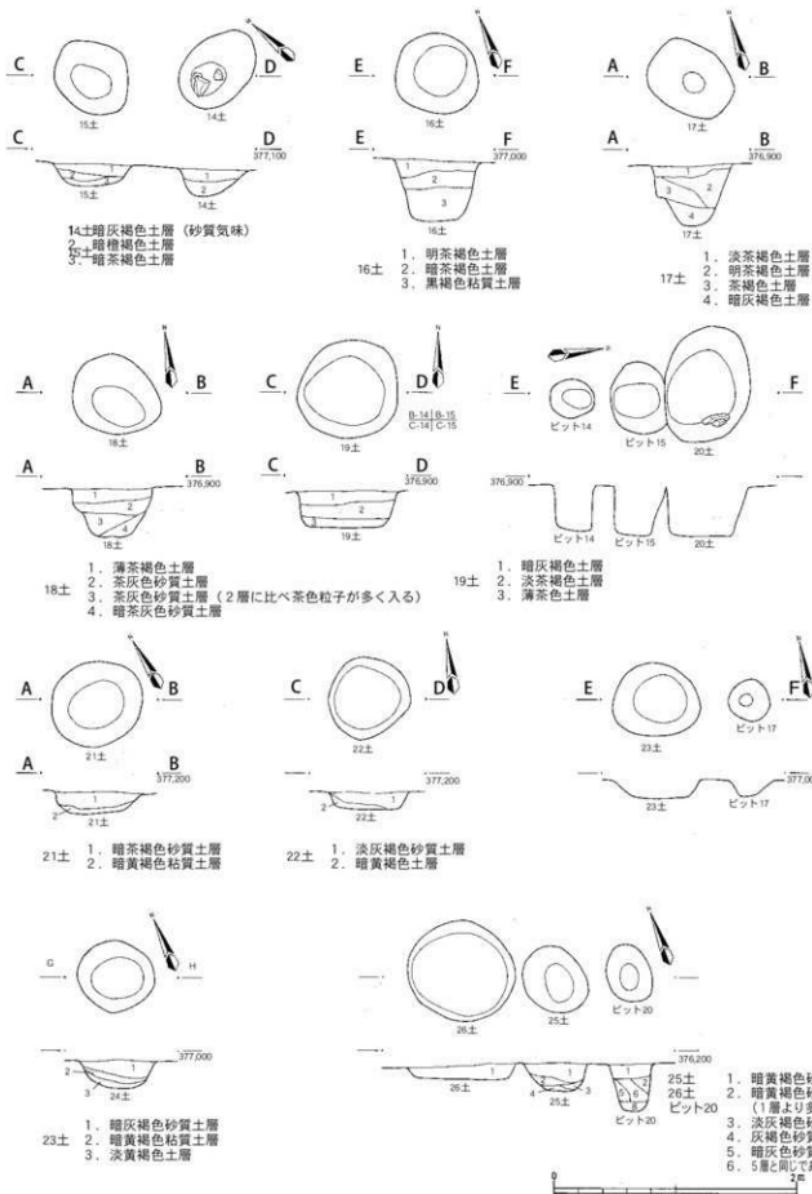
第8図 溝状造構等配置図



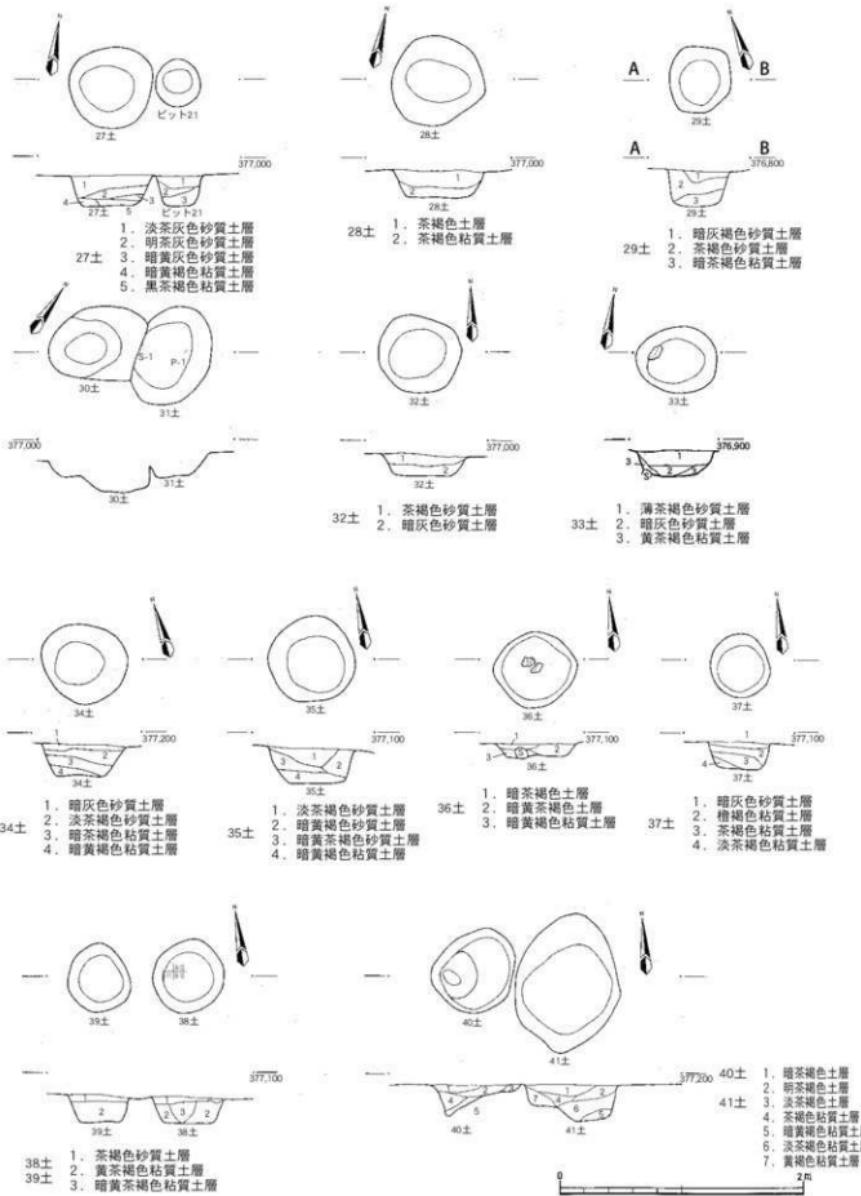
第9図 柱穴配置図



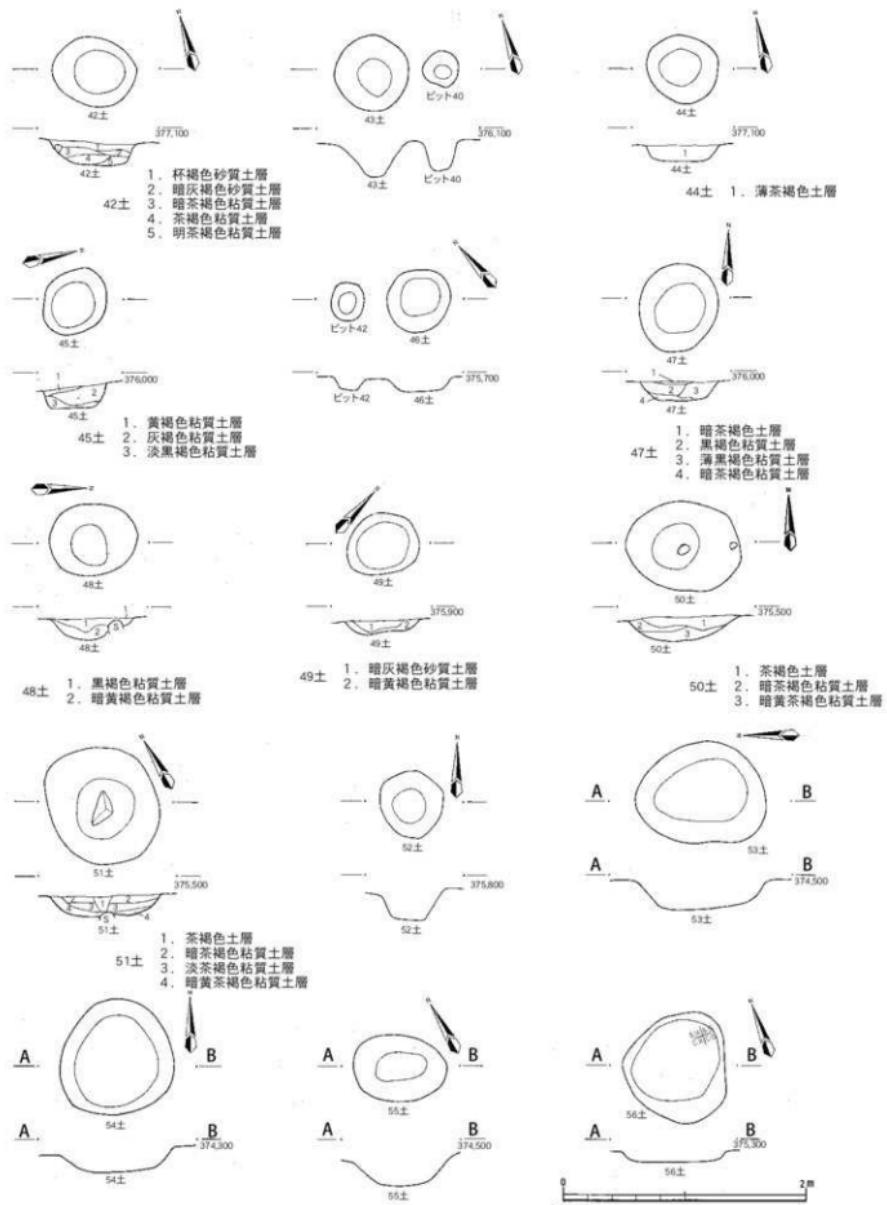
第10図 土坑平断面図 1



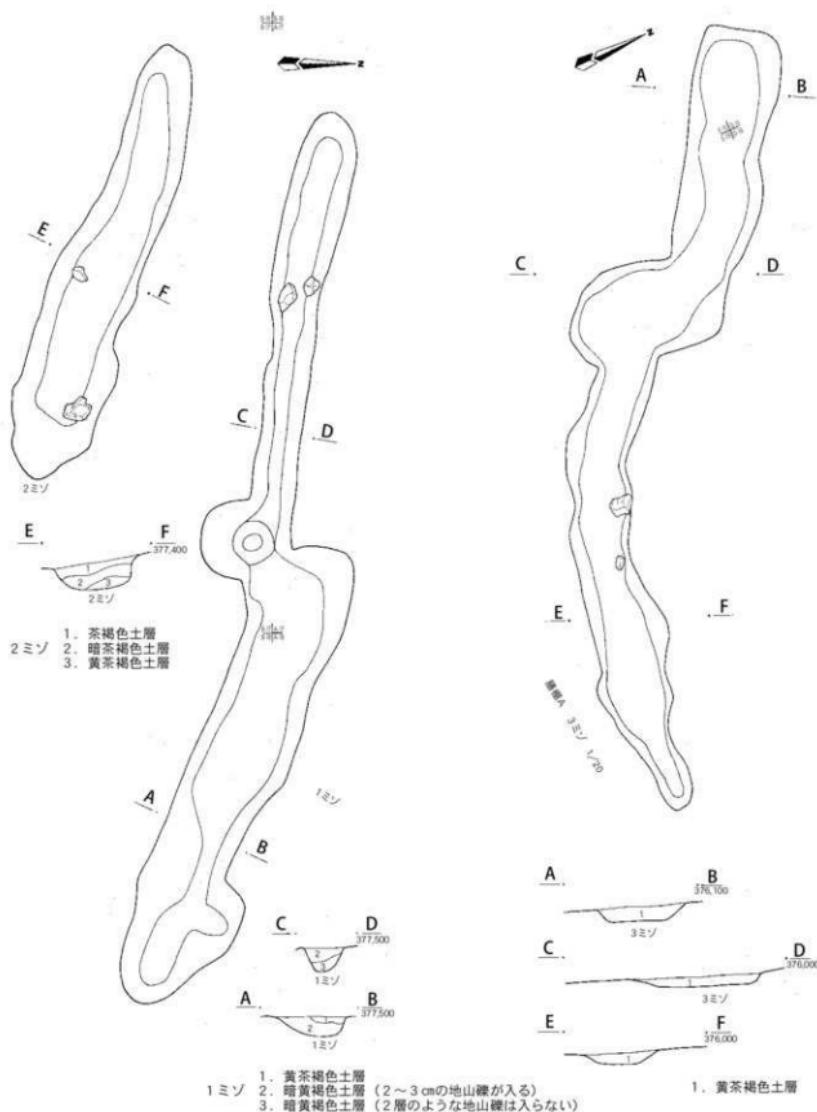
第11図 土坑平断面図 2



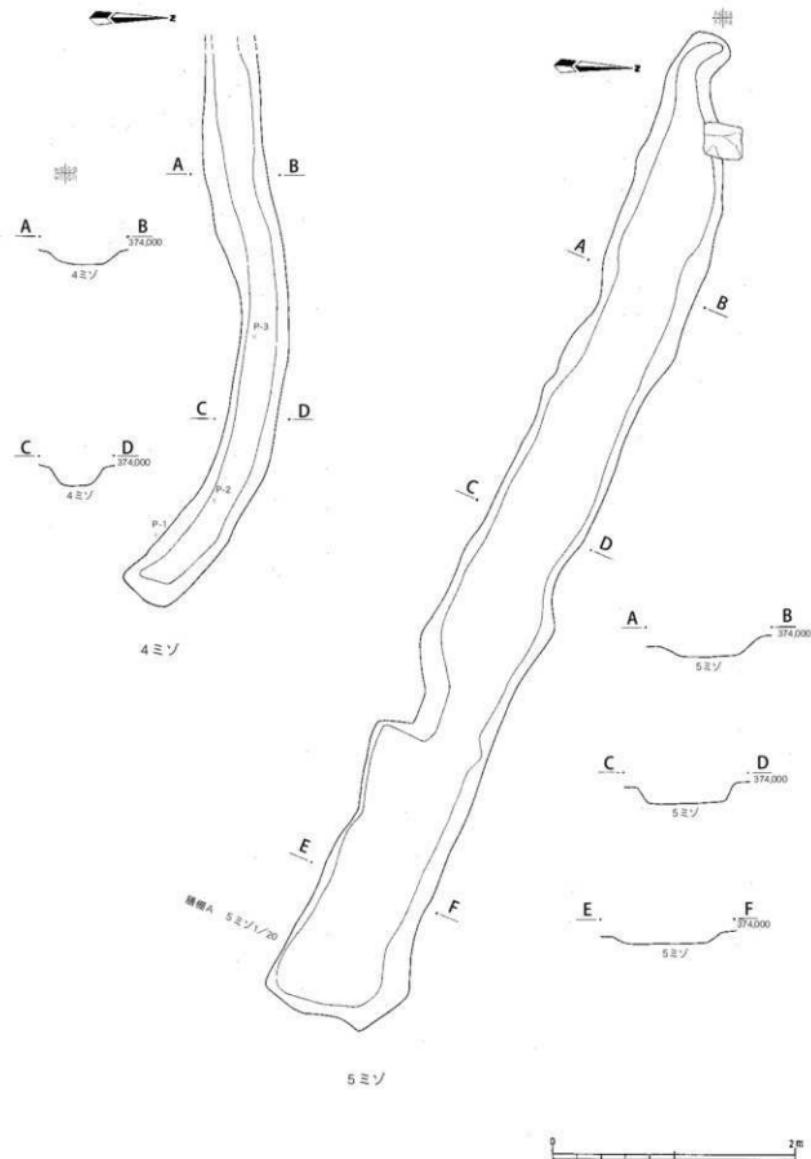
第12図 土坑平断面図 3



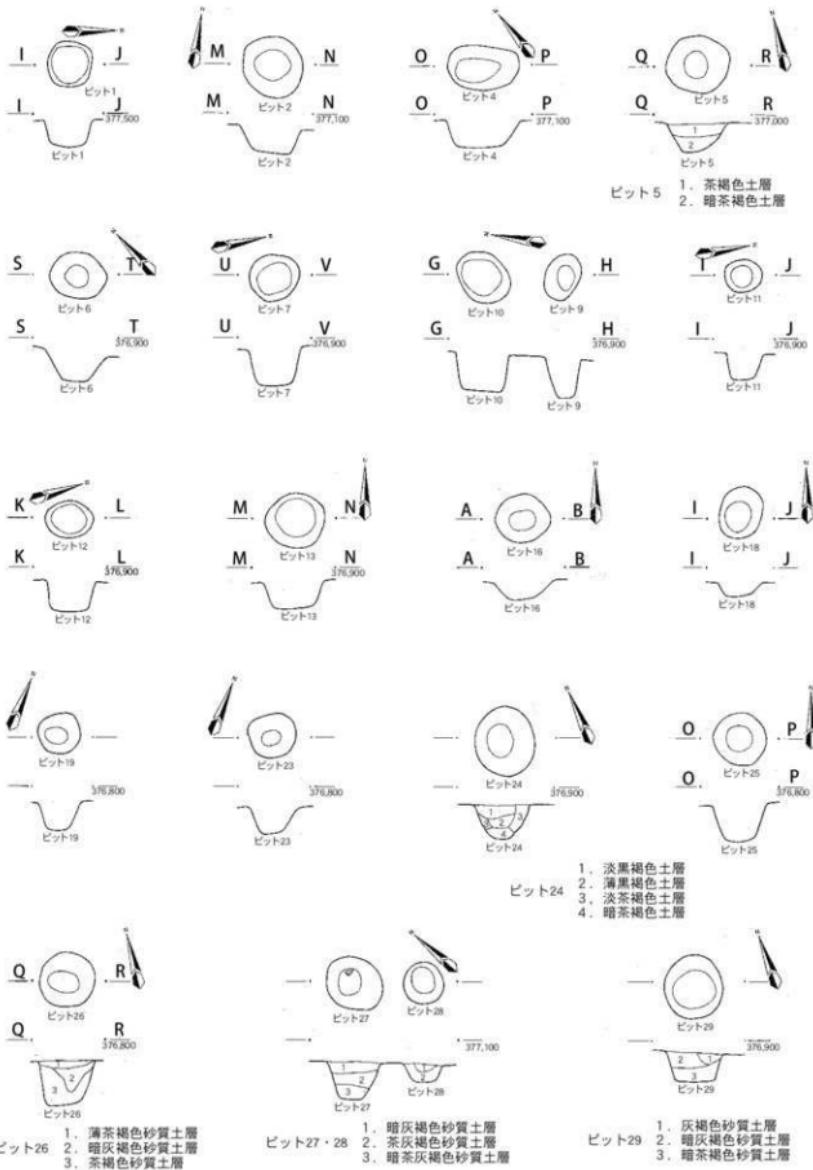
第13図 土坑断面図 4



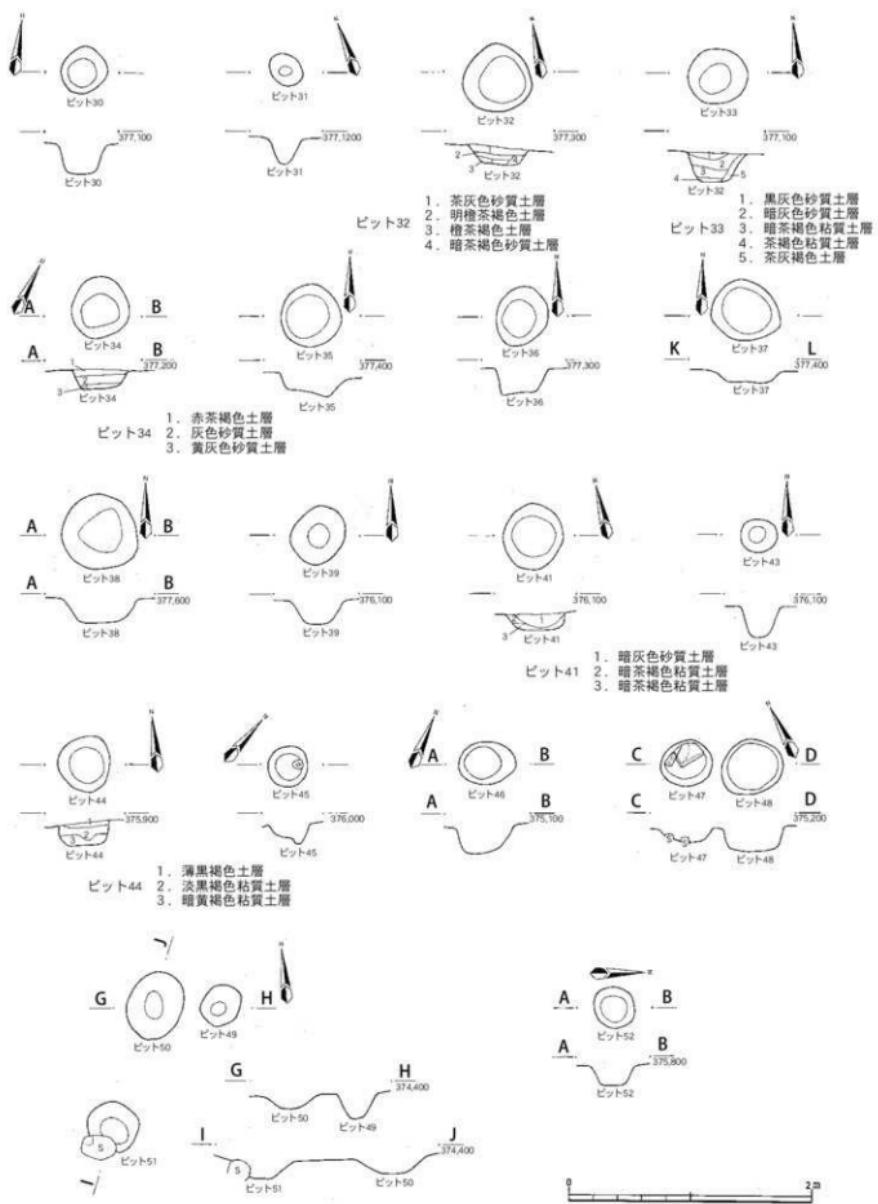
第14図 溝状遺構断面図 1



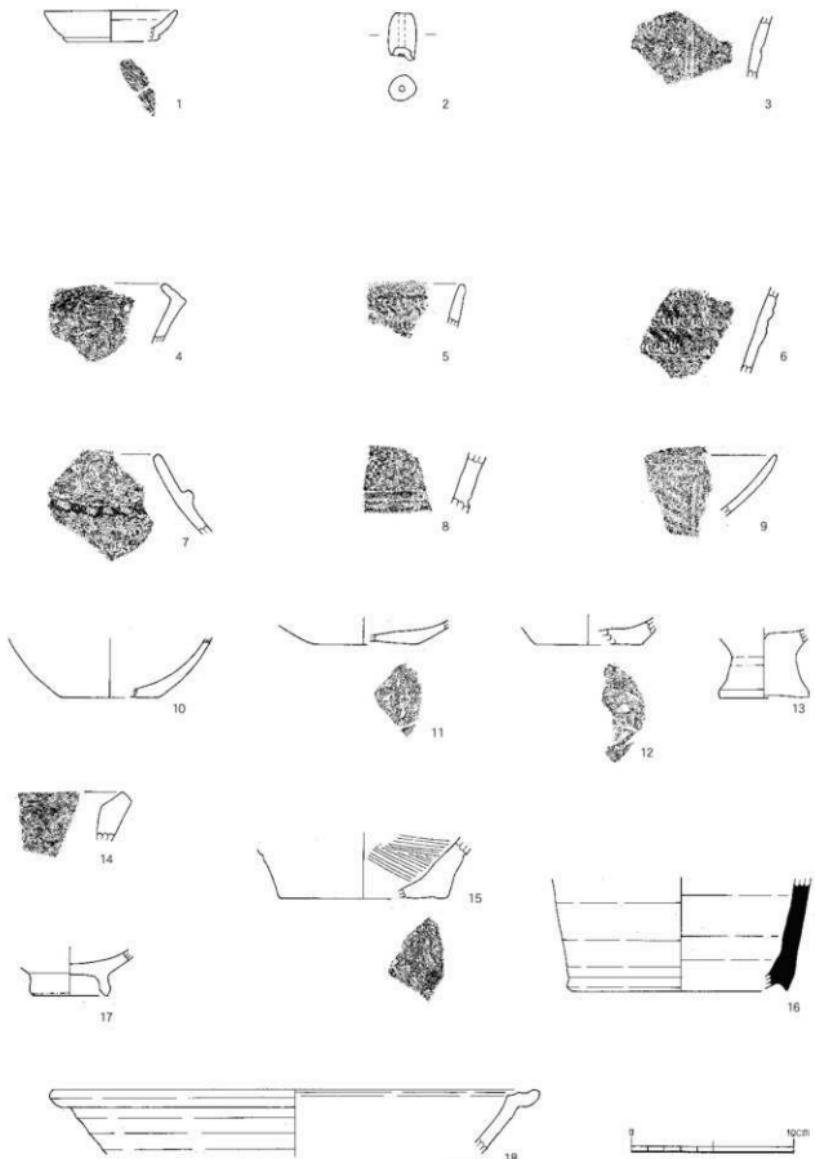
第15図 溝状遺構断面図 2



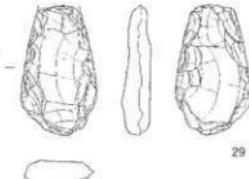
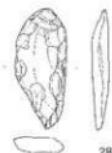
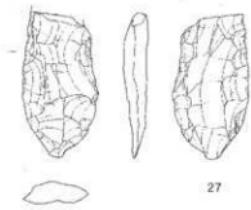
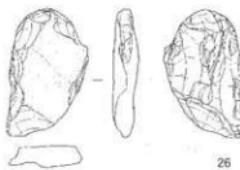
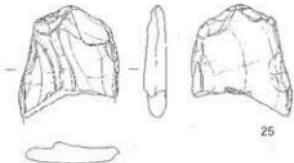
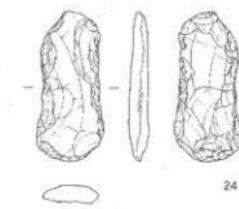
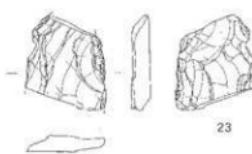
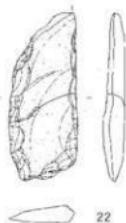
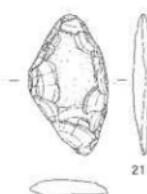
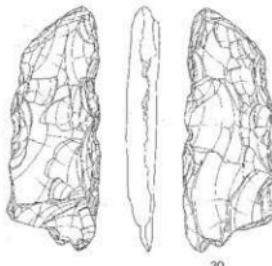
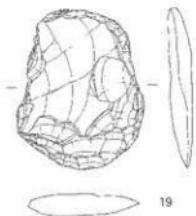
第16図 柱穴平面図 1



第17図 柱穴断面図

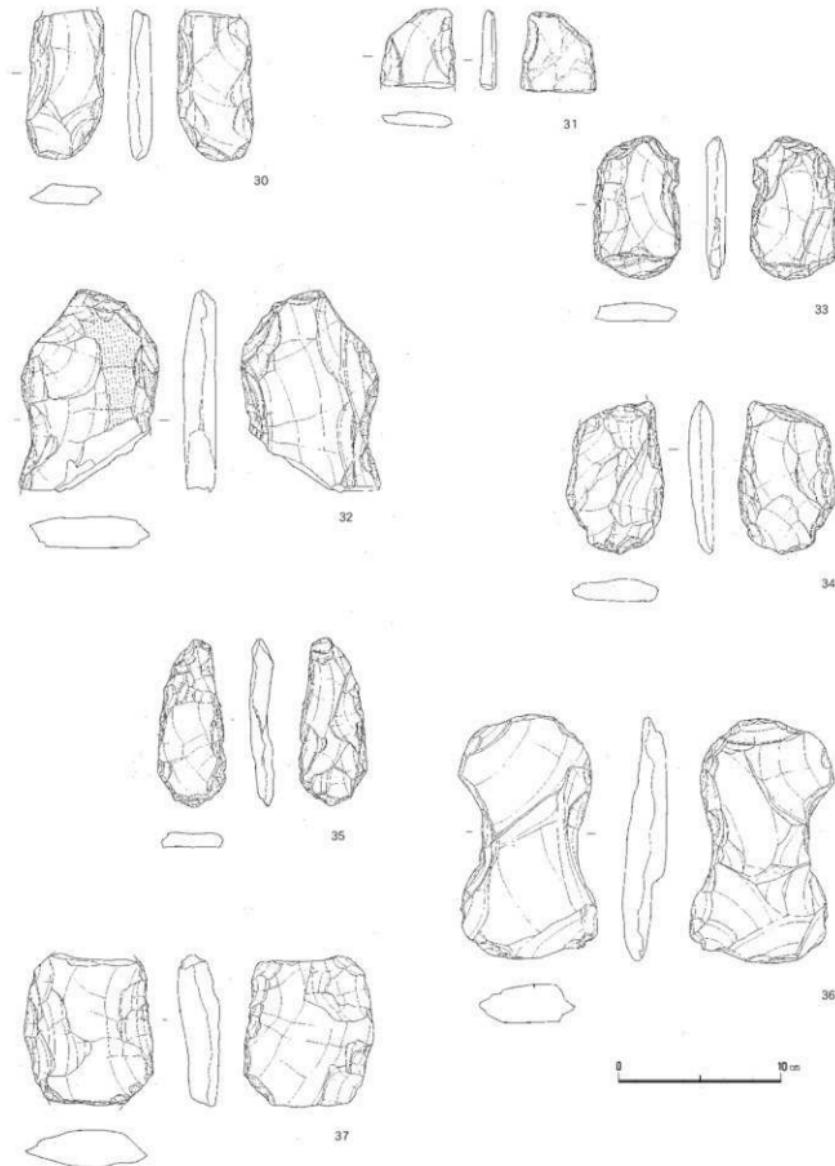


第18図 出土遺物 1

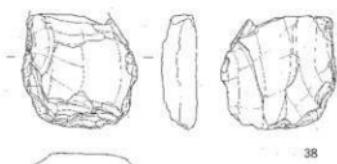


0 10mm

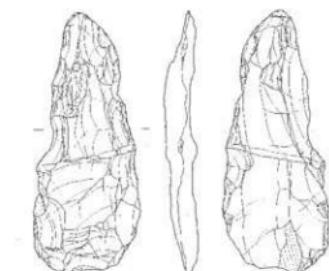
第19図 出土遺構 2



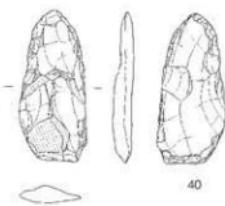
第20図 出土遺構 3



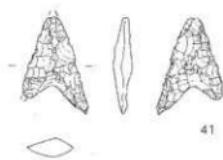
38



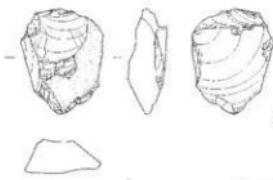
39



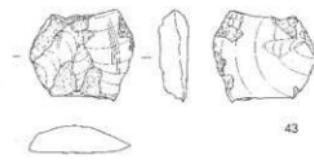
40



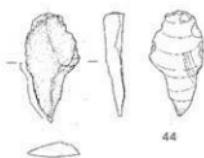
41



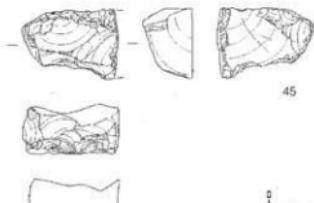
42



43



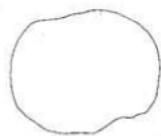
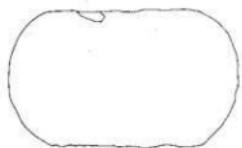
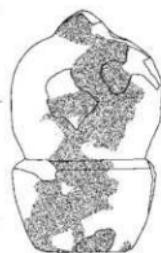
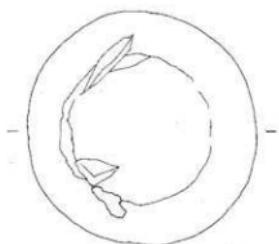
44



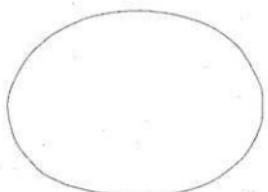
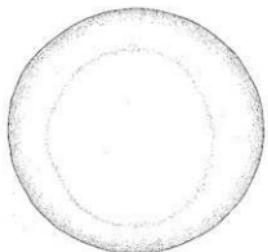
45



第21図 出土遺構4



0 20CM



0 10CM

第22図 出土遺構 5

第2節 B区

土器集中が1箇所、土坑が24基、溝が10条、ピットが22基検出された。詳細は遺構一覧表に記載している。

(1) 土坑

第1号土坑（第23図）

A-29区より検出された。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸50cm、短軸40cm、深度20cmを測る。坑底は起伏に富み壁はやや角度を持って立ち上がって行く。覆土は上層より黒褐色土層、しまりの強い褐色土層、粘性の強い褐色土層と続く。遺物の出土は無い。

第2号土坑（第23図）

C-27区より検出された。平面形状はほぼ円形を呈している。規模は長軸40cm、短軸40cm、深度20cmを測る。坑底は平坦で壁は垂直に近い角度で立ち上がって行く。遺物の出土は無い。

第3号土坑（第23図）

C-26・27区に跨って検出された。隣に第4号土坑がある。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸60cm、短軸50cmを測り深度は10cmと浅い。坑底は平坦であるが僅かな起伏が見られる。壁はやや急角度で立ち上がって行く。覆土は単層で暗褐色土である。遺物の出土は無かった。

第4号土坑（第23図）

C-26区より検出された。接近して第3号土坑が検出されている。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸70cm、短軸50cmを測り深度は10cmと浅い。坑底は平坦であるがやや起伏に富んでいる。壁は垂直に近い角度で立ち上がって行く様子が見られる。覆土は単層で暗褐色土である。遺物の出土は無かった。

第5号土坑（第23図）

C-25区より検出された。平面形状はほぼ円形を呈している。規模は長軸40cm、短軸40cm、深度20cmを測る。坑底はやや丸みを帯び壁は垂直に近い急傾斜で立ち上がって行く。覆土は上層からしまりと粘性が強い黒褐色土、しまりと粘性が強い暗褐色土、しまりに欠け粘性のある黒褐色土、しまりと粘性がある暗褐色土に分層される。遺物の出土は無い。

第6号土坑（第23図）

C-26区より検出された。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸80cm、短軸60cm、深度30cmを測る。坑底はやや丸みを見せており、壁はやや急傾斜で立ち上がって行く。遺物の出土は無い。

第7号土坑（第24図）

C・D-21区に跨って検出された。平面形状は不整の方形状を呈している。規模は長軸120cm、短軸100cm、深度30cmを測る。坑底には礫の混入が見受けられるが形状は丸みを帯びている。壁はなだらかに立ち上がっている。土層堆積状況は非常に複雑なものであった。遺物の出土は無かった。

第8号土坑（第24図）

C-25区において確認された。長軸120cm、短軸40cmの規模で平面形状は楕円形を呈しているが深度が10cmと浅く土坑と認定するか疑わしい。出土遺物は無い。

第9号土坑（第24図）

C・D-21区において検出された。隣接して第10号土坑が存在する。長軸120cm、短軸100cm、深度20cmの規模を有している。坑底は起伏に富んでいる。壁は皿状に角度を浅くして立ち上がりを見せている。出土遺物は無い。土坑と認定できるか疑わしい遺構である。

第10号土坑（第24図）

C・D-21区において検出された。隣接して第9号土坑が存在する。平面形状は不整楕円形を呈している。規模は長軸50cm、短軸40cm、深度30cmを測る。坑底には平坦面がなく壁は西側が急傾斜で東側は緩傾斜で

立ち上がっている。遺物の出土は無く、土坑と認定できるか疑わしい。

第11号土坑（第24図）

D・E-29区に跨って検出された。平面形は不整円形を呈している。規模は長軸70cm、短軸60cm、深度30cmを測る。坑底は丸みを帯びており壁は急傾斜で立ち上がりがいる。遺物の出土は無い。

第12号土坑（第24図）

E-21区より検出された。平面形状は梢円形を呈している。規模は長軸120cm、短軸90cmで深度は10cmと浅い。坑底は平坦で浅い皿状に立ち上がりを見せており。遺物の出土は無い。

第13号土坑（第26図）

E・F-22区において検出された。第9・10号溝と一体化している。平面形は梢円形を呈している。規模は長軸100cm、短軸60cm、深度は10cmを測る。坑底には自然石が露呈しており、壁は皿状に浅い角度で立ち上がりを見せており。遺物の出土は無い。また、深度の浅さなどから土坑と認定するのは疑わしい。

第14号土坑（第26図）

H-18・19区において検出された。近接して第15～19号土坑が集中している。平面形は不整円形を呈している。規模は長軸110cm、短軸80cm、深度30cmを測る。坑底は深度が深い部分と浅い部分に分かれている。壁は東側ではなだらかに西側では垂直に近い傾斜で立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第15号土坑（第26図）

H-18・19区において検出された。近接して第14～19号土坑が集中している。平面形は不整梢円形を呈している。規模は長軸120cm、短軸80cm、深度30cmを測る。坑底は平坦であるが一部にピット状の掘り込みを持っている。壁はなだらかに立ち上がりがいる。遺物の出土は無かった。

第16号土坑（第26図）

H-19区において検出された。近接して第14～19号土坑が集中している。平面形は梢円形を呈している。規模は長軸80cm、短軸60cm、深度30cmを測る。坑底はわずかに丸みを持ち壁は緩やかに立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第17号土坑（第26図）

H-18区において検出された。近接して第14～19号土坑が集中している。平面形は不整円形を呈している。規模は長軸50cm、短軸40cmを測り、深度は10cmと浅い。坑底は平坦であるが南西部に小さなピット状の掘り込みがある。壁は緩やかに立ち上がって行く。遺物の出土は無く深度も浅いことから土坑と認定するのは疑わしい。

第18号土坑（第26図）

H-18区において検出された。近接して第14～19号土坑が集中している。平面形は不整円形を呈している。規模は長軸160cm、短軸70cm、深度20cmを測る。坑内に自然石が数石混入している。坑底は平坦であり、壁は緩やかに立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第19号土坑（第26図）

H-18区において検出された。近接して第14～19号土坑が集中している。平面形は不整方形を呈している。規模は長軸80cm、短軸60cm、深度40cmを測る。坑底はやや傾斜を持つが概ね平坦といえよう。壁の立ち上がりは垂直に近い傾斜で立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第20号土坑（第24図）

H-20・21区において検出された。平面形は不整梢円形を呈している。規模は長軸50cm、短軸40cm、深度10cmを測る。坑底は平坦であり壁はなだらかに立ち上がりがいる。遺物の出土は無かった。

第21号土坑（第24図）

G-20区において検出された。平面形は不整梢円形を呈している。規模は長軸60cm、短軸40cm、深度

10cmを測る。坑底は平坦で壁はやや急角度で立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第22号土坑（第24図）

G-25区において検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸70cm、短軸50cm、深度20cmを測る。坑底は丸みを帯び、壁はなだらかに立ち上がっている。遺物の出土は無かった。

第23号土坑（第24図）

G-25・26区に跨って検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸80cm、短軸50cm、深度10cmを測る。坑底は平坦で、壁はなだらかに立ち上がっている。遺物の出土は無かった。

第24号土坑（1号土器集中）（第23・28図）

A-29区より検出された。平面形状は楕円形を呈しており、規模は長軸50cm、短軸40cm、深度20cmを測る。坑底は丸みを帯びて壁はなだらかに立ち上がっている。遺物は縄文時代中期後半以降と想定される深鉢が出土した。壁際に土器の底面がついている形ではあるが、高い位置からの出土であることから、遺構よりも新しい時期の可能性が高い。調査時は1号土器集中と呼んでいたが、無文の深鉢型土器の底部から脇部の一部であった。底部には網代痕が確認できることから、縄文時代中期後半～後期に帰属する可能性が高い。

(2) 溝状遺構

第1号溝状遺構

C-31・32区およびD-31・32区より検出された。長さ4.4m、幅0.3m、深度0.1mを測り、第1号ピットと重複している。また、近接して第20・22号ピットが確認されている。なお、遺物の出土は無い。

第2号溝状遺構

C-30区より検出された。長さ2.8m、幅0.3m、深度0.1mを測る。端部で第21号ピットと重複している。なお、遺物の出土は無い。

第3号溝状遺構

C-26・27区より検出された。長さ4.0m、幅0.5m、深度0.1mの規模である。遺物の出土は無い。

第4号溝状遺構

E-26・27区、F-27区において検出された。規模は長さ5.0m、幅0.7m、深度0.1mを測り、平面形はクランク状に伸びる形状を取っている。

第5号溝状遺構（第25図）

D-27・28区より検出された。長さ5.2m、幅0.6m、深度0.2mを測り第6号溝状遺構を切っている。

底面には礎が敷き詰められており暗渠の可能性が強い。遺物の出土は無い。

第6号溝状遺構（第25図）

D-27・28区より検出された。検出長3.0m、幅0.4m、深度0.1mを測り第5号溝状遺構に切られている。第10～14号ピットが北側に添うよう約1.8m間隔で検出された。当溝状遺構との関連性を強めている。遺物の出土は無い。

第7号溝状遺構

F-29・30区より長さ4.4m、幅0.2m、深度0.2mの規模で検出された。遺物の出土は無い。

第8号溝状遺構

E-30・31区より検出された。規模は長さ7.2m、幅0.5m、深度0.2mを測る。遺物の出土は無い。

第9号溝状遺構（第26図）

E-21～24・F-21区において検出された。当溝状遺構に並行するように第10号溝状遺構があり端末を切られている。長さは16.8m、幅0.4m、深度0.1mを測る。遺物の出土は無い。

第10号溝状遺構

E-21~24・F-21・22において検出された。前述したように第9号溝状遺構と並行し末端で第9号溝状遺構を切り込んでいる。長さは10.2m、幅0.5m、深度0.1mを測る。遺物の出土は無い。

(3) 遺構外から出土した資料を以下に記載する。

① 土器

縄文時代

中期初頭～晩期までの資料が出土したが、いずれも断片的な資料が多い。以下に詳細を記載していく。

中期初頭（第29図2~9）

2は胴部片であり、横位、斜位の集合沈線が施されている。3は波状口縁に沿った沈線が施され、その下に斜位の沈線が確認できる。4・5は沈線や隆帯で区画された中を、格子状の沈線で充填している。4は口縁部がS字状を呈する。7~9は底部片である。底部が外側に開くのが特徴である。いずれも中期中葉の中でも前期半期の資料と考えられる。

中期中葉（第29図10）

10は胴部片である。並行する2条の幅広な隆帯に、へら状工具による刻目を施している。中期中葉の中でも新しい時期の資料と考えられる。

中期後葉（第29図11）

11は胴部片である。縦位の沈線の右脇に、斜位の集合沈線を施している。この斜位の沈線は、綾杉文であることが推測される。中期後葉の中でも新しい時期の資料と考えられる。

中期（第29図12~26）

12~26は沈線文を施した資料である。12は縦位・横位沈線文によって、無文の胴部を区画している。13~26は全て縦位の集合沈線が施されている。14・20のように区画の中を集合沈線によって充填している資料も確認できる。全て中期初頭の資料である可能性が推測される。

後期前半（第30図27~34）

27は胴部片であり、弧状の沈線文が施されている。28・29は口縁と並行する沈線が施されている。28にはさらにその下に斜位の沈線が、29には沈線上に二連の刺突が施されている。両者は同一個体と考えられる。30は突起部である。中央に穿孔が施され、その周りを沈線文が囲っている。色調が灰色で、他の資料よりも精緻な印象を受ける。31は細い隆帯の上に刻み（刺突か？）が施されている。この資料は他と比べてやや新しいと考えられる。32~34は胴部片である。32は三連の横位沈線文、33は縦位の沈線文、34は弧状の沈線文がそれぞれ施されている。全体的に後期前半の中でも、古手の資料が多くなっている。

後期中葉（第30図35~38）

全体的に薄手の資料が多く確認された。

35は胴部片である。内面に横位の沈線文が施されている。外側は剥落しており、詳細は判然としない。36は外側に口縁と並行する二条の沈線と刺突を施している。内面にも口縁と並行して二条の沈線を施している。35・36は後期中葉の中でも古手の資料と考えられる。37・38は胴部片である。37には羽状沈線文が、38には斜位の沈線文が施されているが、両者は同一個体と考えられる。そのため、38の施文も羽状沈線文の一部

と考えられる。この2点は後期中葉として分類したが、羽状沈線文については後期後葉の資料にも確認されるため、新しい時期の可能性も残る。後期中葉の中でも新しい資料であると捉えている。

後期（第30図39～42・46）

39～42は胴部片である。39・41は横位の沈線文、42は斜位の沈線文を施している。この3点はいずれも後期前半の資料である可能性が推測される。42は無文である。器厚は薄く、やや黄土色がかった色調をしている。補修孔が一箇所確認できる。46は底部に網代痕が確認できる。

晩期（第30図43～45）

43は口縁部と並行する沈線文、その下に弧状の沈線文が施されている。44は突起縁の直下に巴弧線文が施されている。43・44は器厚が薄い。45は口縁部直下に綾杉文が施されている。

時期不明の資料（第30・31図47～65）

47～54は口縁部片である。47～50・52は口縁に並行した沈線文が施されている。48・50・54のように内面の調整がしっかり施されている資料が多い。55～60は胴部片である。55には三連の縱位沈線文が、56は縱方向の繩文が、57・59・60は縱位の沈線文がそれぞれ施されている。61～65は底部片である。全体的に胎土や内面の調整などから、後期の資料が多く含まれていると考えられる。

古墳時代

高坏（第31図66）

胸部から脚部にかけての破片である。小型の資料であり、外面をヘラ削りで調整している。

壺（第31図67）

口縁部の破片である。非常に断片的な資料のため、詳細は判然としない。

平安時代

土器編年については特別のことわりがない限り（坂本ほか 1983）を、年代観については（山梨県考古学協会甲斐型土器研究グループ 1992）の瀬田正明氏の論考を参考としている。

図化した資料は、全て土師器である。時期は11世紀前半と考えられる資料が多いが、異なる時期のものも確認できる。なお、その他の資料として灰釉陶器が確認されている。全て小片であり、図示しえるものはない。

坏（第31図68～79）

68・70・71は口縁部片である。68は口唇部が尖形、70・71は口唇部が玉縁であることから、それぞれ9世紀中葉、9世紀中葉～10世紀前半の資料と推測される。

69は体部～底部の破片である。外面下半部に斜めのヘラ削りを施しており、9世紀後半～10世紀前半の資料と推測される。

72～79は底部が台状を呈する一群である。全体的に厚みがあり、底部が回転糸切り痕未調整であることを特徴としている。77を除いて、いわゆる甲斐型土器の特徴的な胎土ではなく、砂の混入が多く感じられる。上記の特徴から、11世紀前半の資料と考えられる。

置きカマド（第31図80）

脚部の破片である。外面には縦ハケが、内面には斜めにハケ目を施している。やや内湾する形状である。

中世

青磁（第31図81）

81は体部片である。鉢か碗の一部と考えられるが、器厚が厚いこと、大型であることから鉢と判断した。表裏両面には釉が施され、内面には陰刻が確認できる。断片的な資料のため詳細は不明だが、唐草文などの文様を描いていると考えられる。時期についても判然としないが、釉の色合いや陰刻の文様から、中世の前半の資料と推測される。

近世

陶器（第31図82）

82は焰烙の口縁～底部片である。口縁～胴部は低く、口縁部はやや弧状に外に開いていく。胎土は密で陶器質であり、硬い印象を受ける。上記の特徴から近世の資料と推測される。

(4) 石器（第32～36図）

旧石器時代

サイド・スクレイパー（第39図135）

小型の石刃を素材としており、頭部調整のち、小口から連続して剥離されている。打面転移を複数回おこなっているが、幅広な剥片を剥離している様子も見て取れるため、作業面調整の痕跡の可能性も考えられる。素材剥片の周縁に細かく高さのある加工が連続して施されている。スクレイビングエッジというよりは、ナイフ形石器終末期に確認できる周縁加工の尖頭器のような印象を受ける。しかし、末端に尖頭部を有しないことからサイド・スクレイパーと判断した。石材は黒曜石であり、原産地は西露ヶ峰系である。これらのことから、ナイフ形石器終末期の資料と推測される。

縄文時代

打製石斧（第32図83～第36図125、第35図136）

44点を図示した。全体的に着柄痕は弱く、顯著に確認できない資料が多い。これらは形状によって、短冊形（83～85・91・94・96・100～102・104・105・107・109・110・112・114・115・117・119・121・122・124・125）、撥形（86・92・97・99・118）、分銅形（93・95・98・111・116・120）、草鞋形（113・123）に区分される。

短冊形が一番多く確認されているが、その中でも刃部が平坦なもの（83・91・96・104・109・117・122・125）、やや突出しているもの（84・85・94・101・102・107・110・114・121・124）に分類される。中には84・85のように細身の資料も確認されている。分銅形は抉りが弱い資料が多い傾向にある。撥形は肩が張りだす形状の資料が多く確認されている。

資料の大半は長さ10cm強だが、長さ15cm（推定含む）を超える大型の資料も確認されている（90・93・95・99・121・123・124）。また93は加工も精緻であり、非常に整った形状をしている。

使用石材は、頁岩とそれが由来のホルンフェルスが大半を占めており、付近の河床などから採取して製作していたと推測される。

楔形石器（第39図137、第40図142）

137は厚みを持った小型の剥片に両極剥離を行っている。上下両端には両極剥離に特有の潰れが確認できる。

また、右側縁には微細な二次加工が施されている。142はズリに近い石核に両極剥離を行っている。通常の剥離と異なり、打面の作出を行っていないことから楔形石器として報告する。

ラウンド・スクレイバー（第40図146）

端部に厚みを持った刃部を有した資料である。素材はいわゆるズリであり、刃部の加工は風化面を打面として行われている。刃部には表裏両面に二次加工が確認できるが、裏面の加工は表面に比べて大きいことから、調整の一環と推測される。ただし、右側縁の裏面の加工は角度があることから、刃部の再生を試みていた可能性も考えられる。

エンド・スクレイバー（第39図138）

端部に厚みを持った刃部を有した資料である。素材はいわゆるズリであり、刃部の加工は風化面を打面として行われている。刃部の形状は、やや抉りが入っているが、右上半部が折損しているため、全体形状を窺うことはできない。

石鎌（第39図139～141）

3点とも脚を有している。全て器厚の薄い資料であるが、調整は精緻に行われている。

石核（第40図143～145）

143は剥片状のズリを素材として、両極剥離を行っている。風化した平坦面を打面として剥離を行っていることから石核としたが、楔形石器である可能性も考えられる。144は剥片を素材とした石核である。風化した平坦面を打面として、表裏両面に剥離を行っている。145は盤状の剥片を素材としている。表裏両面に、球心状に交互剥離を行った石核である。

敲石（第37図126、第38図131）

2点とも円礫を素材としている。礫の両端と周辺の面に敲打痕が確認される。両端の敲打痕は非常に明確であるが、周辺の面にあるものは弱い。131は幼児の頭大、126は拳大である。

磨敲石（第37図127・129・130、第38図132）

すべて円礫を素材としている。127、129、130は広く平坦な面を磨面として用いており、礫の両端には敲打痕が確認できる。129の磨面は特に顕著で、若干の凹みが確認できる。132は礫の端部に磨面を持ち、周辺の面には敲打痕や磨面が確認できる。

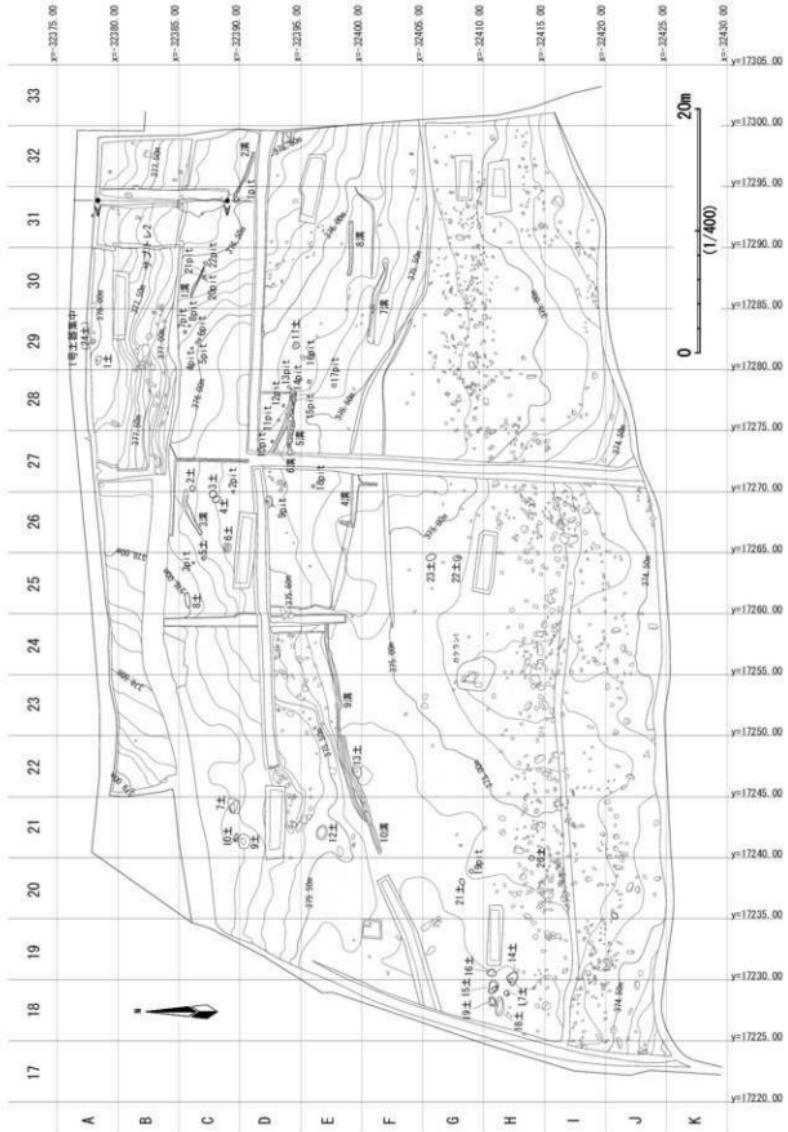
磨石（第37図128、第38図133・134）

すべて円礫を素材としている。128は広く平坦な面を磨面として用いている。重量が2,000gを超えることから、小型の石皿である可能性も考えられる。133は周縁部と端部を磨面としている。134は扁平な円礫を素材として、広く平坦な面を磨面にしている。石材はチャートであり、火山岩を素材としている他の礫石器とは様相を異にする。

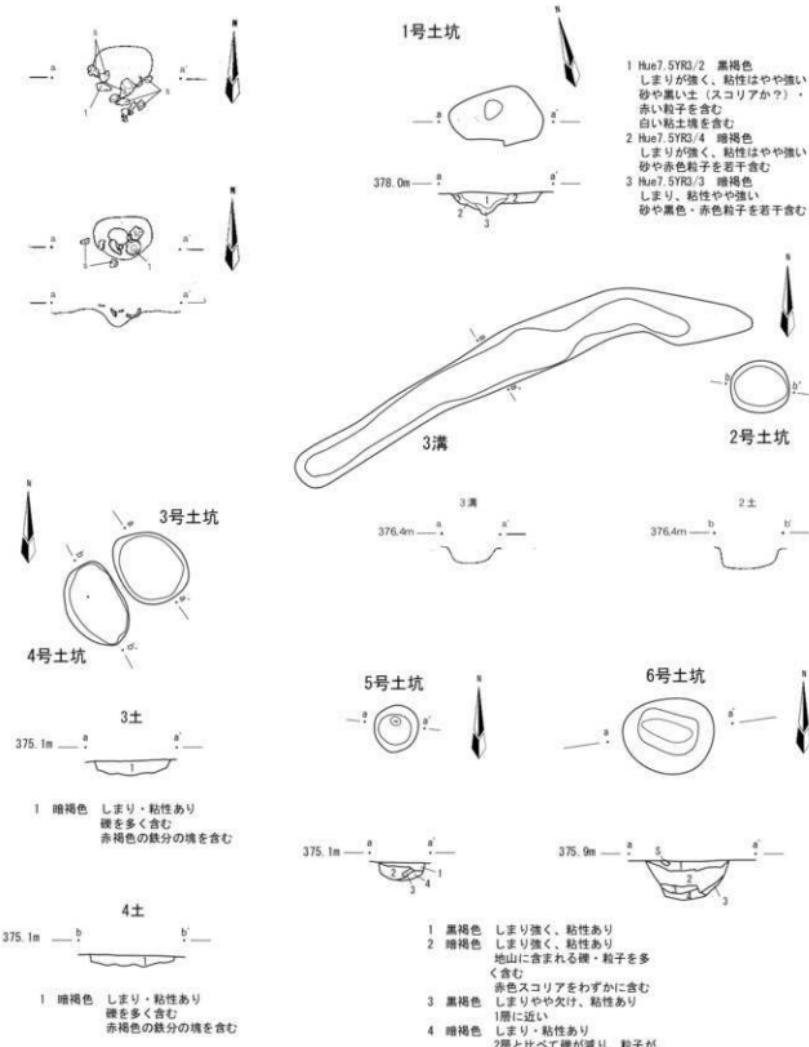
表5 膳棚B実測一覧

遺物No	遺構	調査区	器種	石材	時期	法量cm()内は推定 最大長 最大幅 最大厚			重量(g)	注記	備考
						最大長	最大幅	最大厚			
135	遺構外	B区	サイド・スクレーパー	黒曜石	先土器時代	2.51	1.49	0.49	1.3	S-50	
136	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	9.7	6.8	1.9	164.0	S-150	実測番号11
137	遺構外	B区	楔形石器	黒曜石	縄文時代	1.7	1.4	0.6	1.1	S-106	
138	遺構外	B区	エンド・スクレーパー	黒曜石	縄文時代	2.5	2.4	0.7	2.2	S-95	
139	遺構外	B区	石鏹	チャート	縄文時代	2.4	1.8	0.4	0.7	S-43	実測番号7
140	遺構外	B区	石鏹	黒曜石	縄文時代	2.0	1.2	0.4	0.4	S-31	実測番号8
141	遺構外	B区	石鏹	黒曜石	縄文時代	1.1	1.3	0.3	0.4	S-40	実測番号9
83	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	9.9	5.2	1.9	85.0	S-151	
84	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	10.0	3.1	1.1	43.0	S-122	
85	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	10.3	3.5	1.6	52.0	S-152	
86	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	14.3	6.9	1.7	157.0	調査区一括	
87	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	12.5	6.4	2.1	194.0	S-15	実測番号13
88	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	11.5	6.7	2.0	179.0	S-93	実測番号12
89	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	9.5	5.6	1.4	165.0	S-47	実測番号10
90	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	14.5	9.5	1.4	228.0	S-107	実測番号14
126	遺構外	B区	敲石	安山岩	縄文時代	11.2	8.6	8.7	1173.0	S-12	実測番号3
127	遺構外	B区	磨敲石	安山岩	縄文時代	10.9	9.1	8.3	998.0	S-29	実測番号4
128	遺構外	B区	磨石	花崗岩	縄文時代	16.5	12.0	7.4	2256.0	S-89	実測番号6
129	遺構外	B区	磨敲石	花崗岩	縄文時代	12.4	7.9	7.1	917.0	調査区一括	実測番号7
130	遺構外	B区	磨敲石	斑れい岩	縄文時代	6.5	5.3	5.1	256.0	調査区一括	実測番号8
131	遺構外	B区	敲石	安山岩	縄文時代	9.7	6.1	5.4	419.0	S-166	実測番号1
132	遺構外	B区	磨敲石	安山岩	縄文時代	9.6	7.0	6.7	779.0	S-6	実測番号2
133	遺構外	B区	磨石	花崗岩	縄文時代	14.1	10.2	8.0	1810.0	S-53	実測番号5
134	遺構外	B区	磨石(砥石?)	チャート	縄文時代	6.7	7.0	2.9	234.0		実測番号9
91	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	82.6	44.1	14.8	77.9	S-24	委託番号1
92	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	67.3	38.9	13.1	40.9	S-32	委託番号2
93	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	189.9	72.0	28.2	442.8	S-37	委託番号3
94	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	114.5	49.4	11.9	80.6	S-55	委託番号4
95	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	160.9	76.1	29.2	400.3	S-78	委託番号5
96	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	101.4	52.3	13.6	89.2	S-92	委託番号6
97	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	133.7	64.4	14.0	125.0	S-119	委託番号7
98	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	127.7	102.5	17.5	225.0	S-16	委託番号8
99	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	159.4	69.3	18.5	246.6	S-20	委託番号9
100	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	63.1	44.0	13.0	50.6	S-21	委託番号10
101	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	83.4	66.3	18.1	141.5	S-26	委託番号11
102	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	111.0	60.1	12.6	110.1	S-45	委託番号12
103	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	60.4	73.0	15.2	79.5	S-48	委託番号13
104	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	101.3	82.0	29.5	226.5	S-57	委託番号14
105	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	111.8	66.2	19.6	190.7	S-63	委託番号15
106	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	90.3	95.2	18.3	171.9	S-64	委託番号16
107	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	90.6	43.9	17.7	69.9	S-67	委託番号17
108	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	82.9	61.4	13.0	79.5	S-73	委託番号18
109	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	87.7	48.8	16.4	75.9	S-79	委託番号19
110	遺構外	B区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	42.3	48.5	9.1	26.5	S-85	委託番号20
111	遺構外	B区	打製石斧	安山岩	縄文時代	125.2	94.1	25.5	320.5	S-90	委託番号21
112	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	81.0	57.7	21.0	142.9	S-96	委託番号22
113	遺構外	B区	打製石斧	頁岩	縄文時代	98.5	48.1	11.4	55.1	S-99	委託番号23

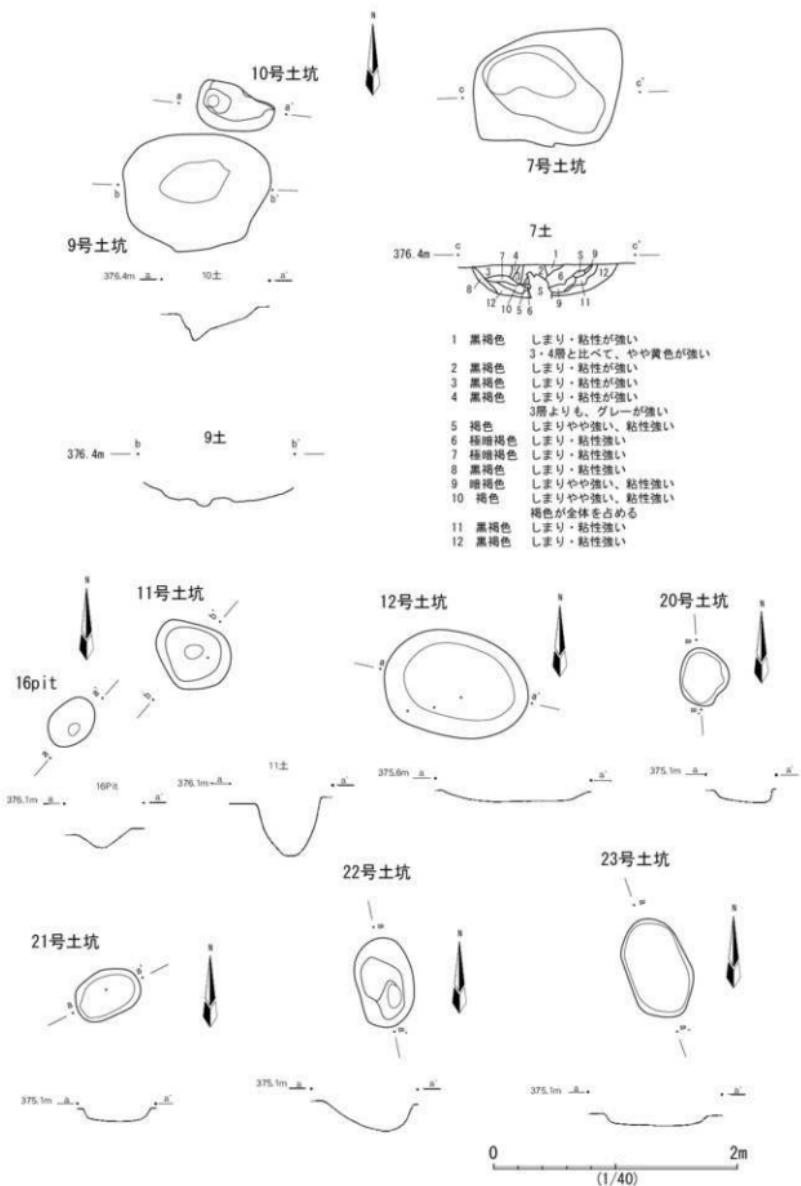
遺物No	遺構	調査区	器種	石材	時期	法徴()内は推定			重量(g)	注記	備考
						最大長	最大幅	最大厚			
114	遺構外	B 区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	60.4	47.6	10.2	38.8	S-113	委託番号24
115	遺構外	B 区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	74.8	41.4	10.2	44.9	S-114	委託番号25
116	遺構外	B 区	打製石斧	頁岩	縄文時代	93.0	73.4	17.7	133.0	S-118	委託番号26
117	遺構外	B 区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	63.9	51.0	14.6	57.7	S-131	委託番号27
118	遺構外	B 区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	99.7	50.0	11.5	72.0	S-138	委託番号28
119	遺構外	B 区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	78.4	54.5	7.5	38.0	S-156	委託番号29
120	遺構外	B 区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	95.2	64.1	16.2	94.8	S-159	委託番号30
121	遺構外	B 区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	162.1	53.1	19.2	184.5	S-160	委託番号31
122	遺構外	B 区	打製石斧	頁岩	縄文時代	78.3	51.9	13.0	61.4	S-164	委託番号32
123	遺構外	B 区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	134.7	58.8	13.9	133.9	S-169	委託番号33
124	遺構外	B 区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	168.5	54.5	18.9	196.5	S-170	委託番号34
125	遺構外	B 区	打製石斧	ホルンフェルス	縄文時代	56.6	51.6	10.8	34.3	S-174	委託番号35
142	遺構外	B 区	楔形石器	黒曜石	縄文時代	31.8	19.7	14.8	7.9	S-23	委託番号36
143	遺構外	B 区	石核	黒曜石	縄文時代	30.8	39.4	9.9	12.5	S-35	委託番号37
144	遺構外	B 区	石核	黒曜石	縄文時代	20.4	33.2	15.0	5.8	S-42	委託番号38
145	遺構外	B 区	石核	黒曜石	縄文時代	35.0	48.1	18.5	22.2	S-127	委託番号39
146	遺構外	B 区	ラウンド・スクレーバー	黒曜石	縄文時代	15.5	18.4	5.8	1.8	S-172	委託番号40



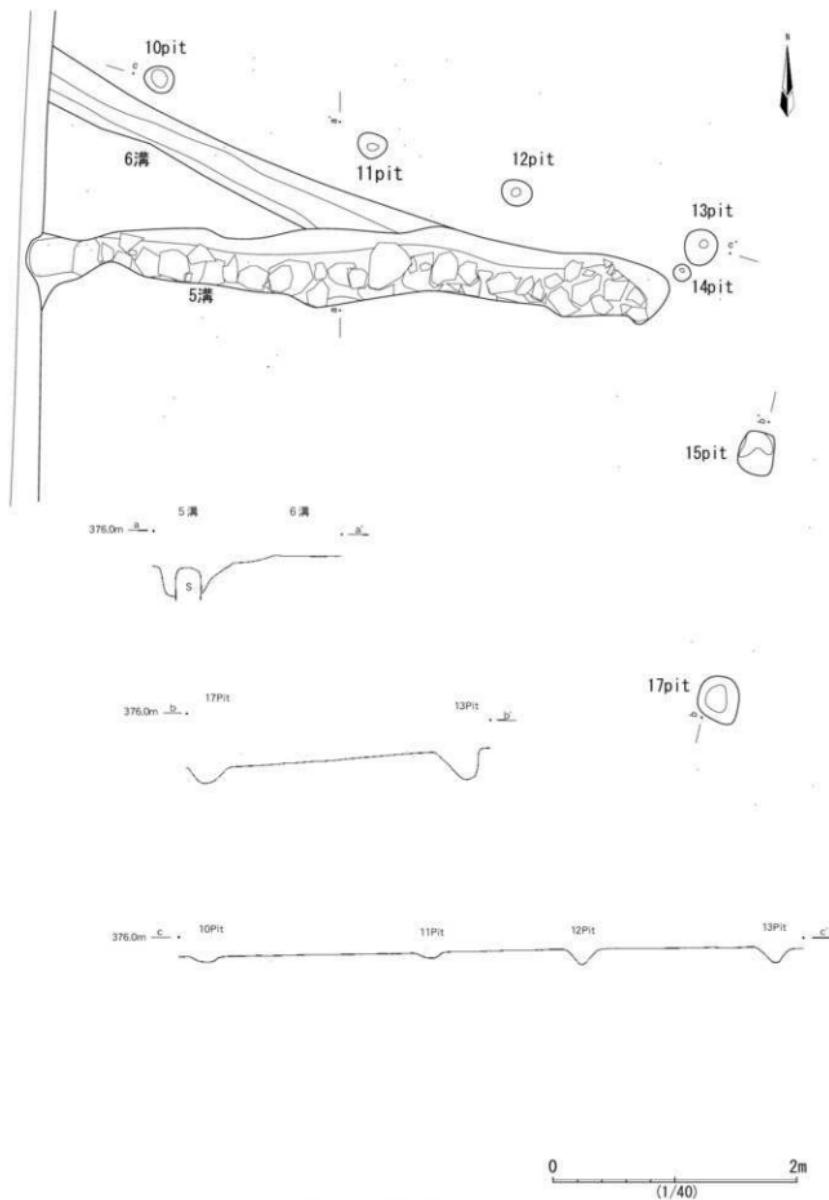
第23図 調査区全体図



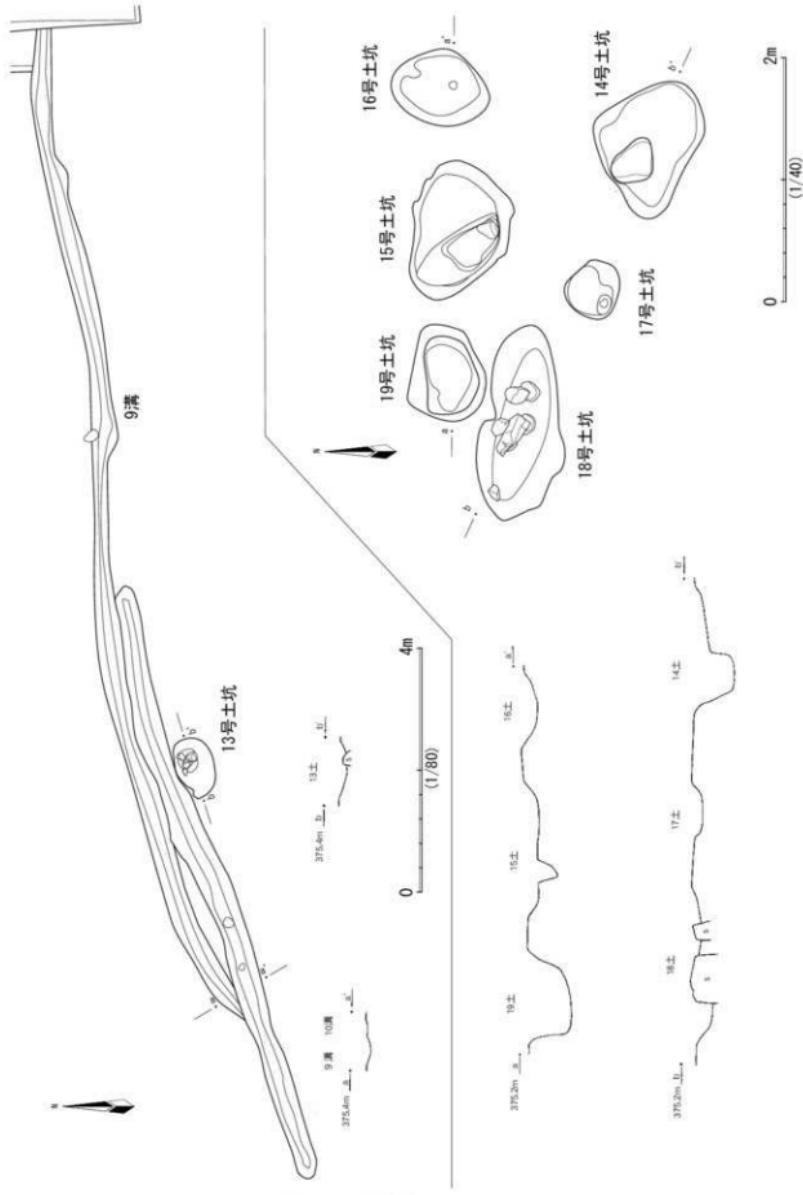
第24図 遺構平断面図1



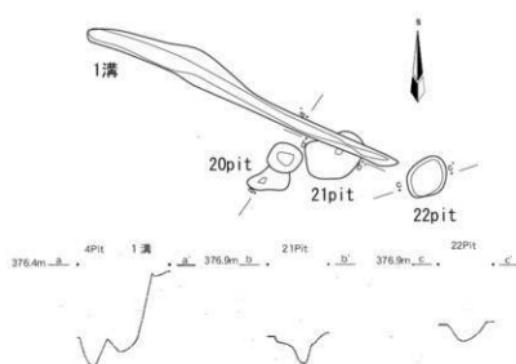
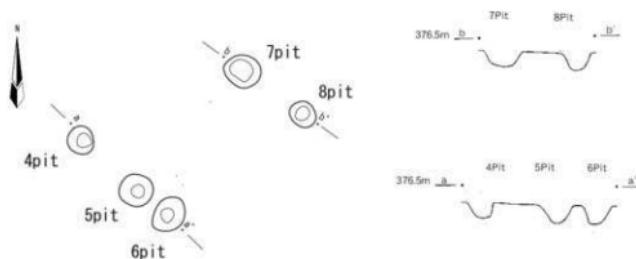
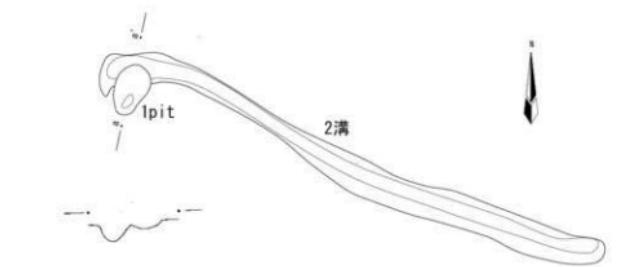
第25図 遺構平断面図 2



第26図 溝状遺構断面図1

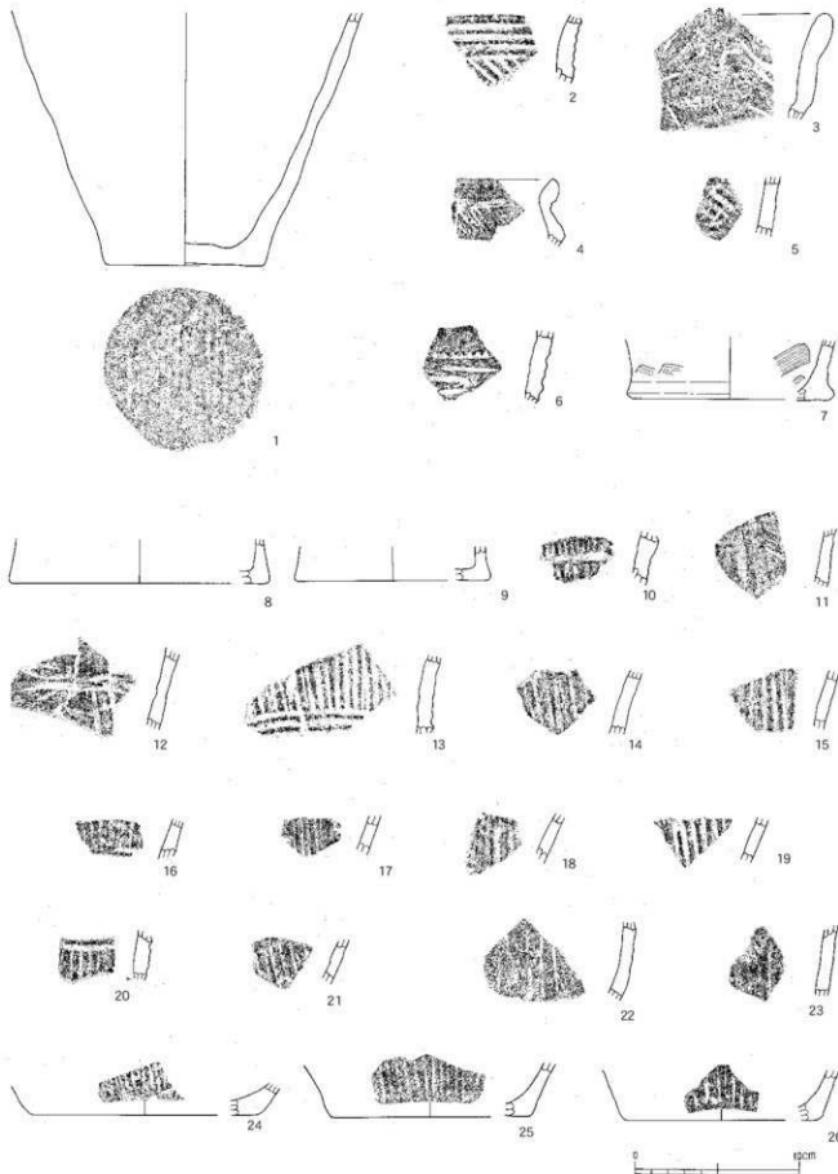


第27図 溝状遺構断面図 3

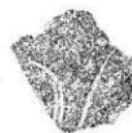


0 2m
(1/40)

第28図 溝状遺構断面図 4



第29図 出土遺物1 B区 土器1



27



28



29



30



31



31



32



33



34



35



36



36



37



38



39



40



41



42



43



44



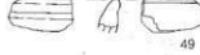
45



47



48



49



46



50



51



55



52



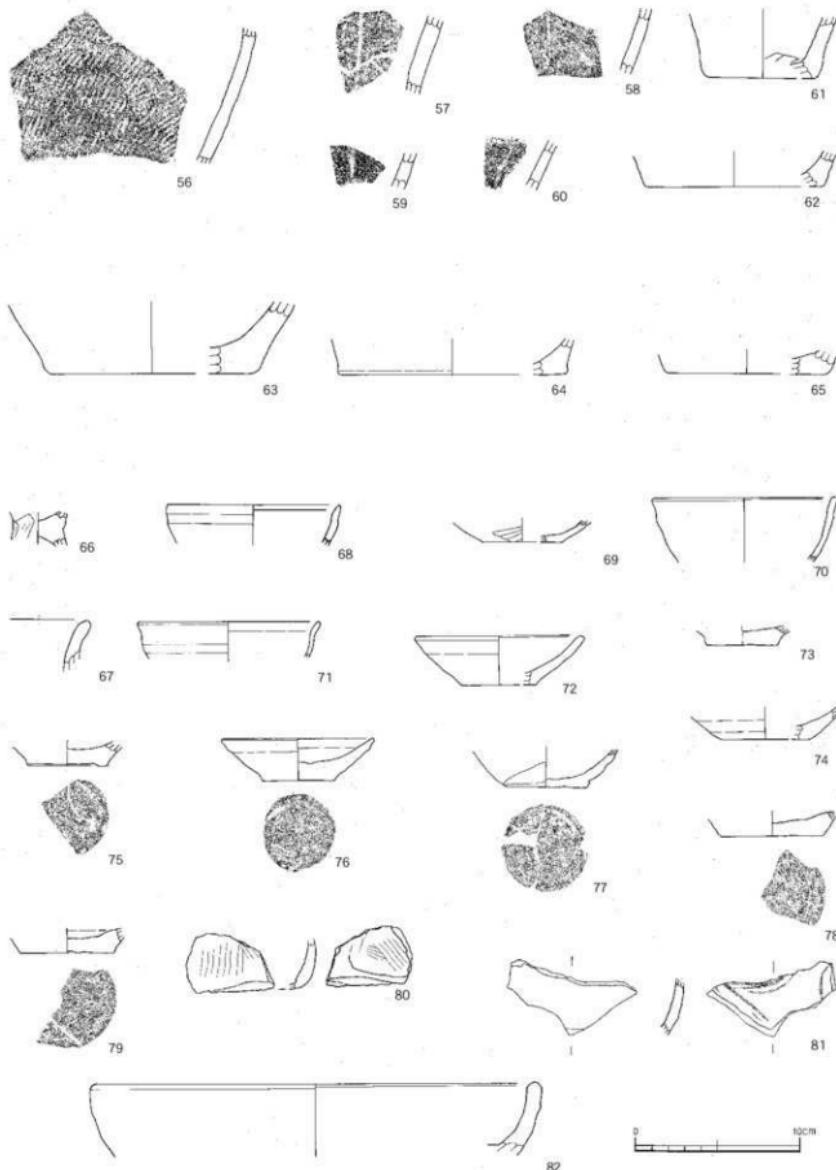
53



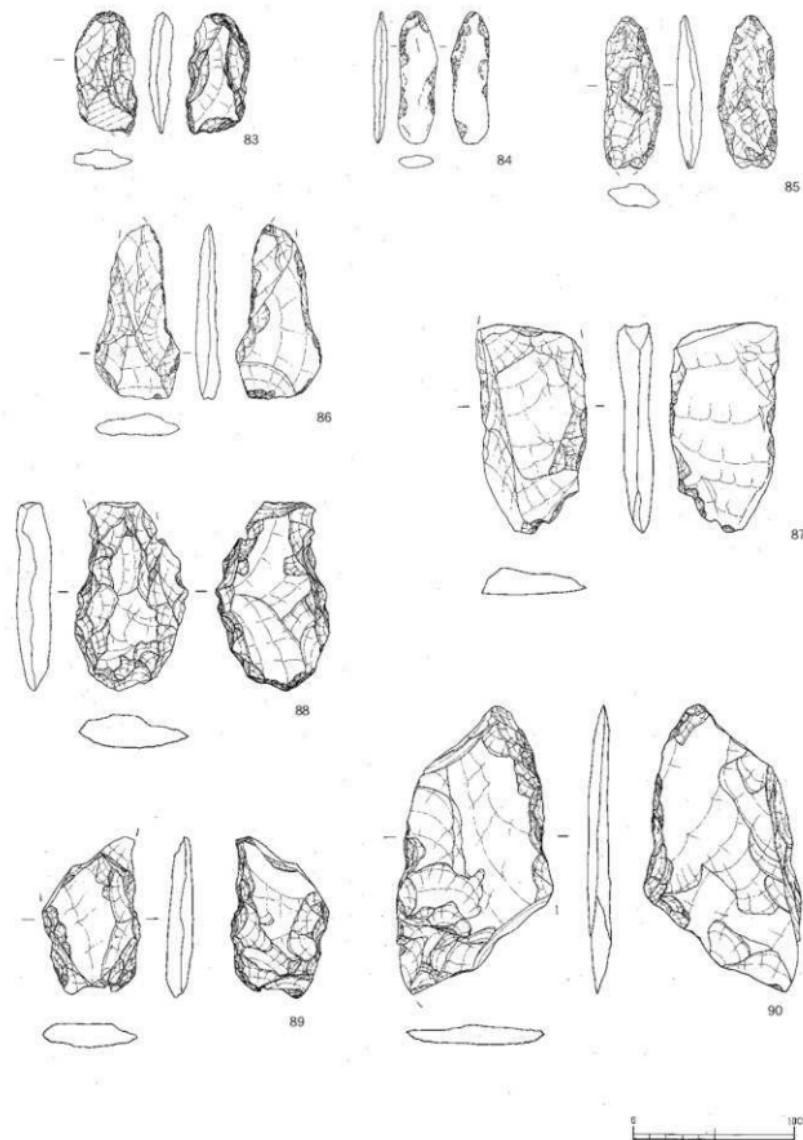
54



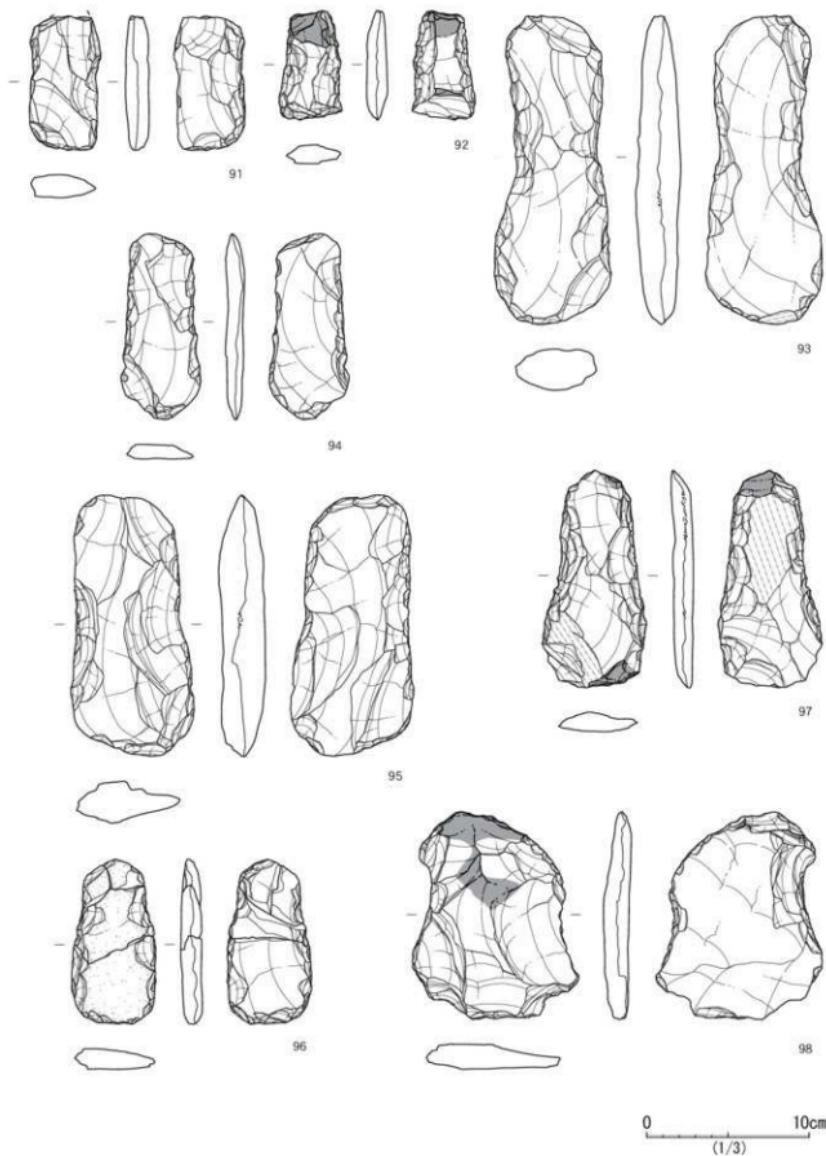
第30図 出土遺物2 B区 土器2



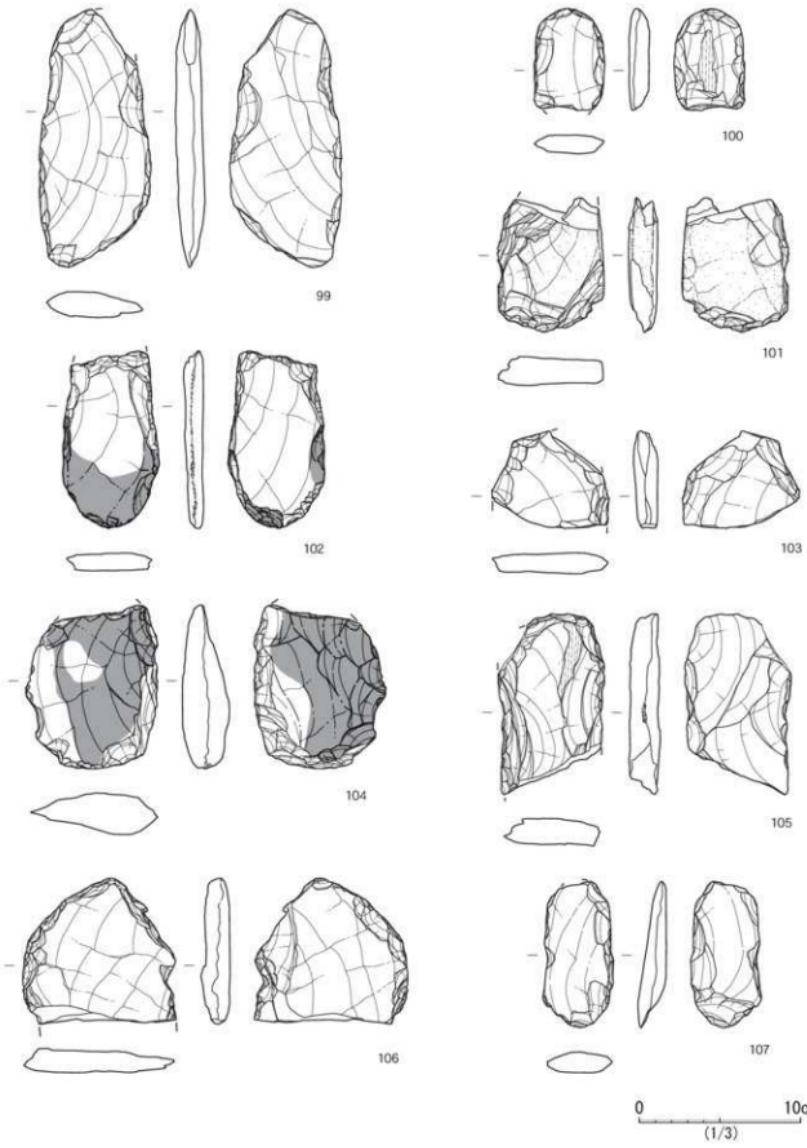
第31図 出土遺物3 B区 土器3



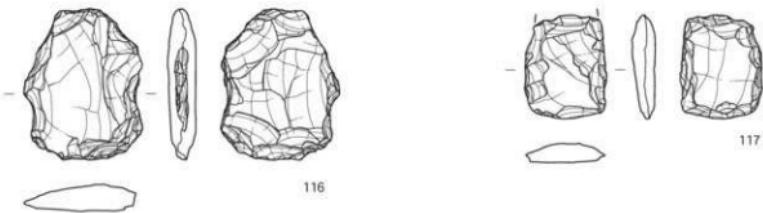
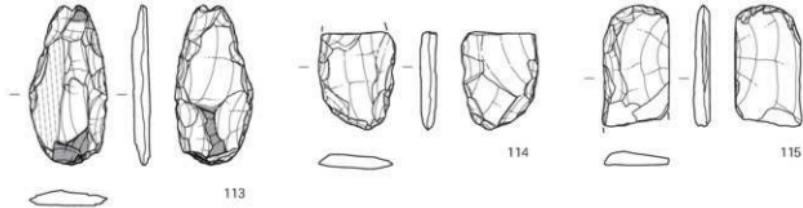
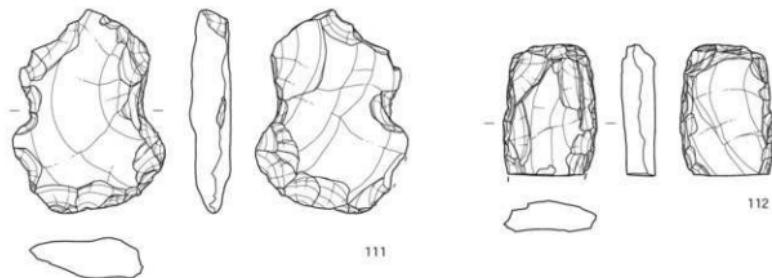
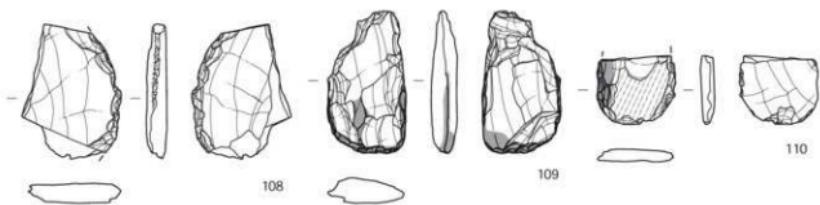
第32図 出土遺物4 B区 石器1



第33図 出土遺物5 B区 石器2

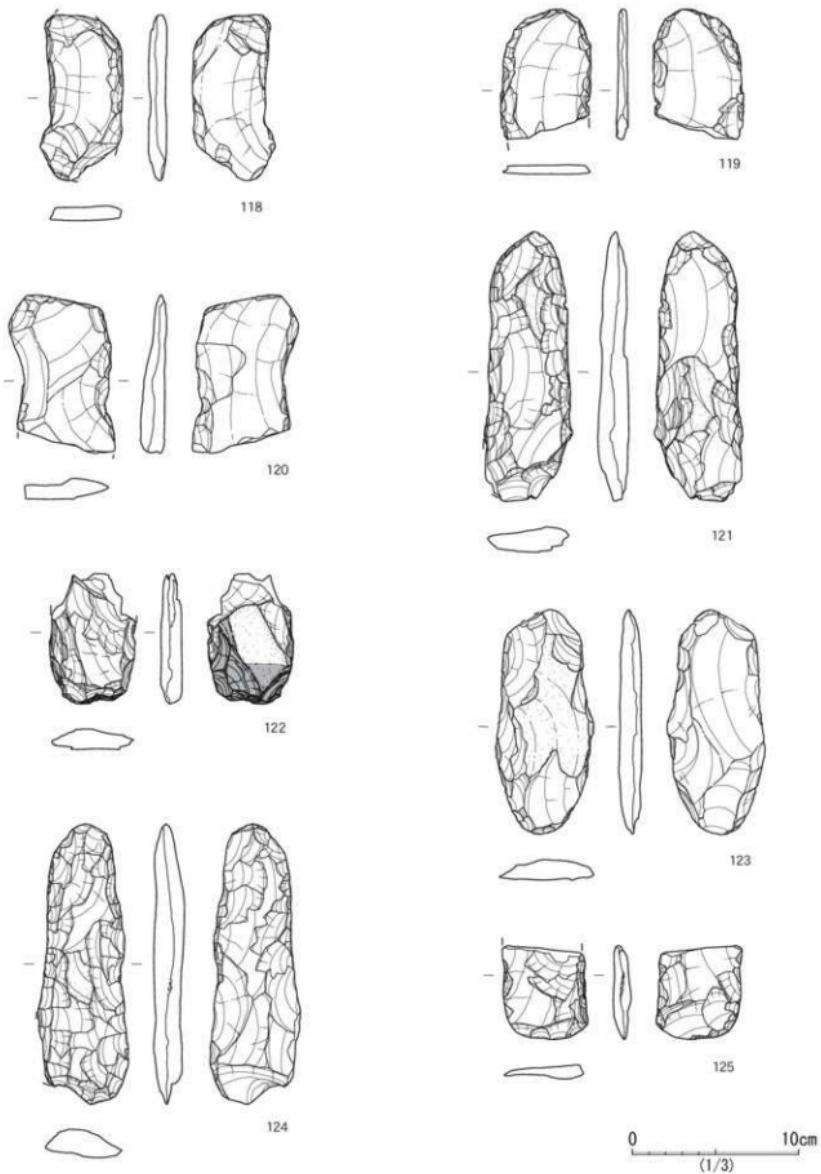


第34図 出土遺物6 B区 石器3

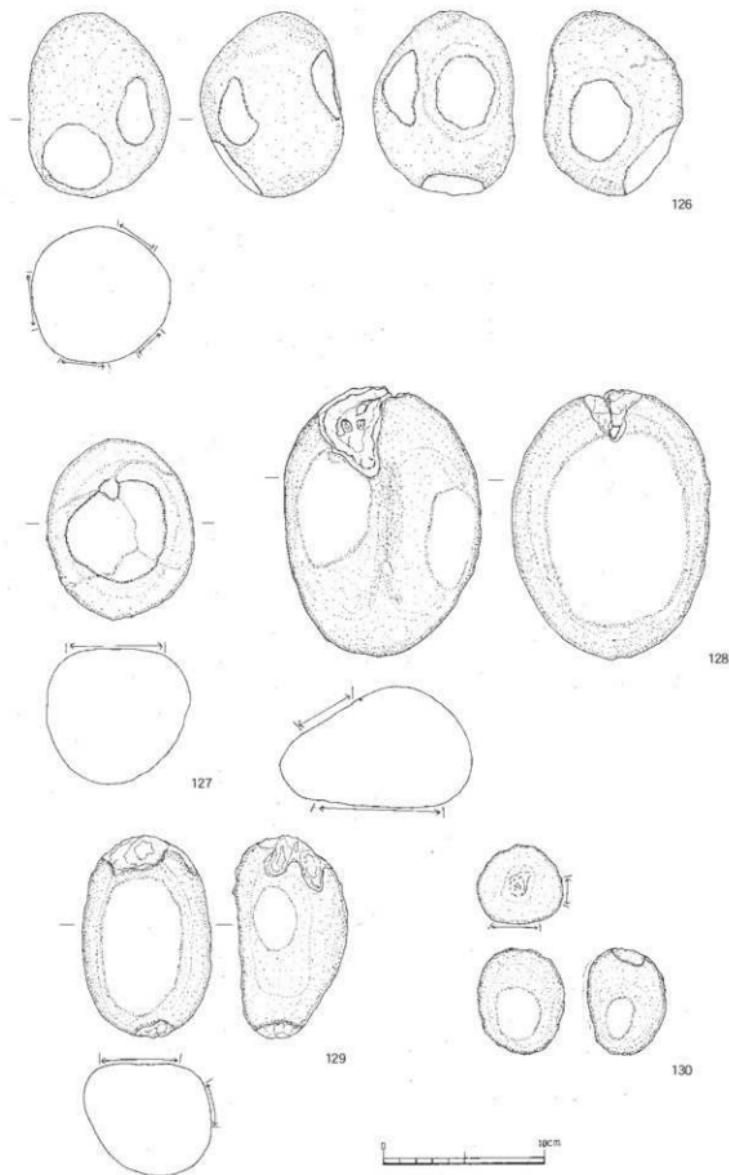


0 10cm
(1/3)

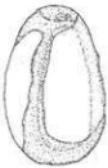
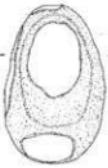
第35図 出土遺物7 B区 石器4



第36図 出土遺物8 B区 石器5



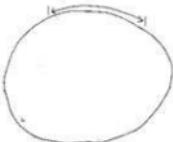
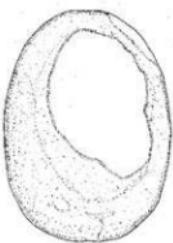
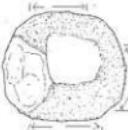
第37図 出土遺物9 B区 石器6



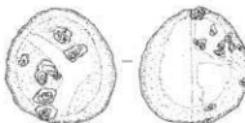
131



132



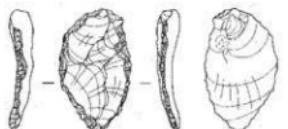
133



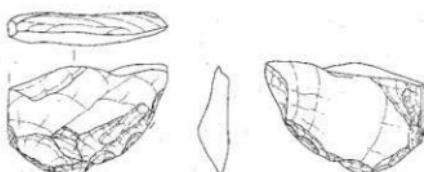
134



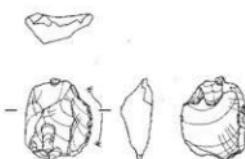
第38図 出土遺物10 B区 石器7



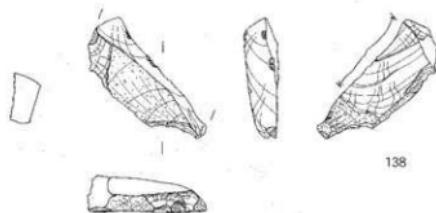
135



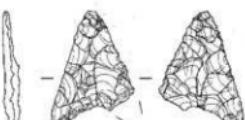
136



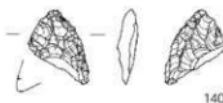
137



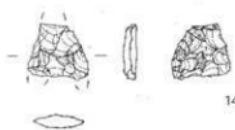
138



139



140



141



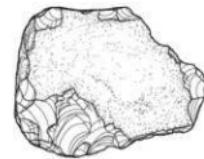
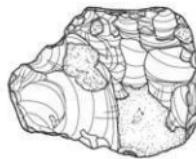
第39図 出土遺物11 B区 石器8



142



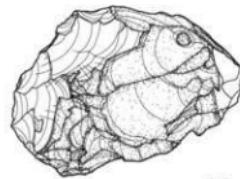
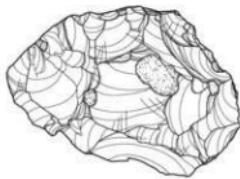
144



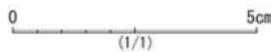
143



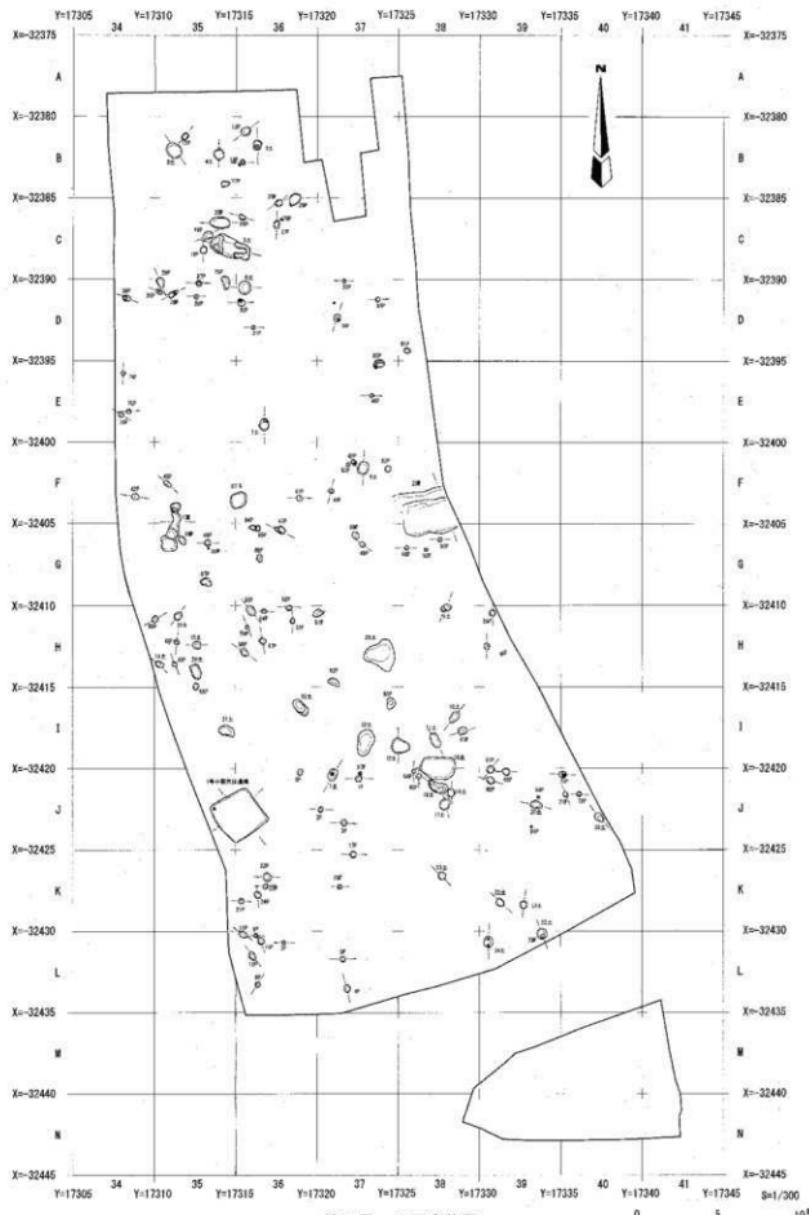
146



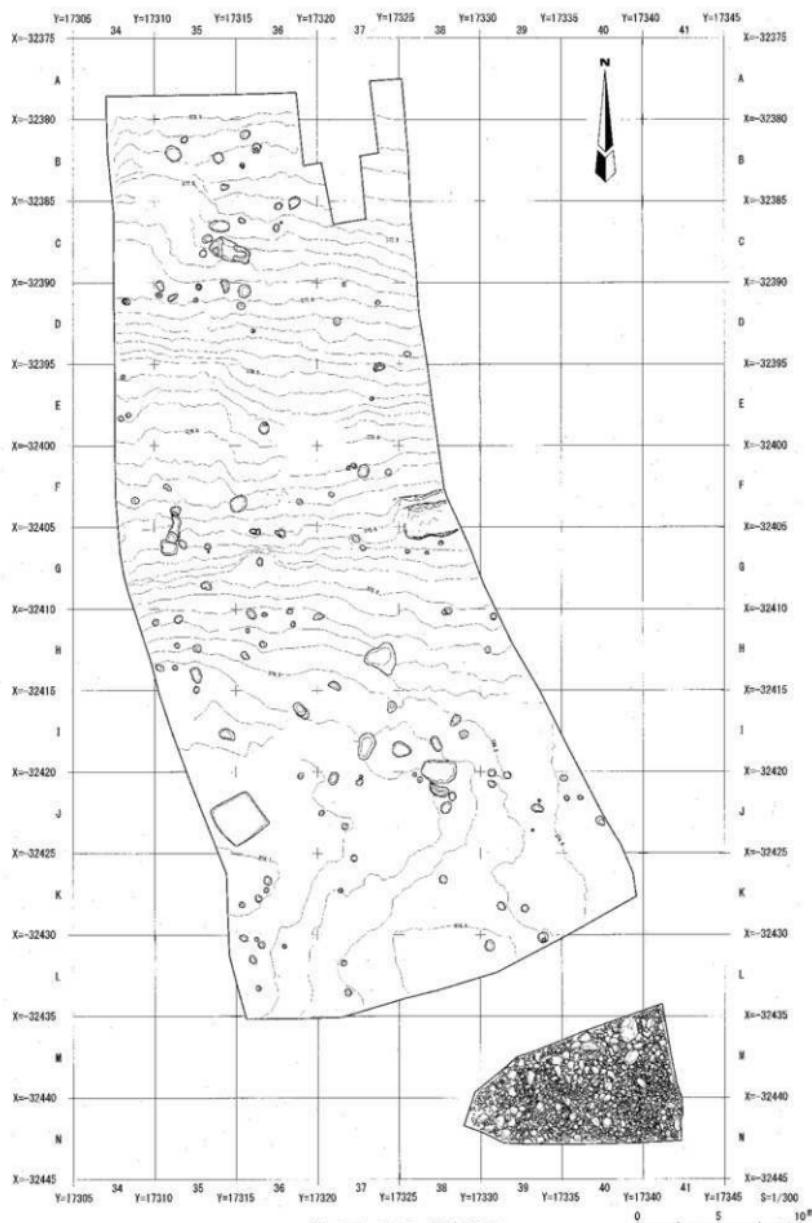
145



第40図 出土遺物12 B区 石器 9



第41図 C区全体図



第42図 C区 等高線図

第3節 C区

(1) 土坑 (第43・44図)

当区では26基の土坑を検出した。その分布はA・B区にみられるように北側の荒神山山麓に近い部分だけでなく調査区域に散在している。なお、ピットのデータについては一覧表に示してある。

第1号土坑 (第43図)

J-37区において発見された。平面形状は梢円形を呈している。長軸は80cm、短軸は58cm、深度は15.6cmを測る。壁面はなだらかに立ち上がっている。坑底はやや丸みを帯びている。遺物の出土はなかった。

第2号土坑 (第43図)

J-37区において発見された。平面形状は梢円形を呈している。長軸は65cm、短軸は53cm、深度は19.1cmを測る。坑内に自然石が混入しており、また、坑底にはわずかに窪みがある。壁は緩い傾斜を持って立ち上がっている。遺物の出土は無い。

第3号土坑 (第43図)

当土坑はB-36区に位置している。平面形は不整梢円形を呈しており長軸65cm、短軸53cm、深度19.1cmを測る。壁はなだらかに立ち上がりを見せていている。坑底の状況はほぼ平坦である。遺物の出土は無かった。

第4号土坑 (第43図)

B-35区より検出された。平面形状は隅丸方形を呈する。長軸65cm、短軸55cm、深度23.1cmを測る。壁は急傾斜を持って立ち上がり坑底は平坦である。なお、遺物の出土は無かった。

第5号土坑 (第43図)

B・C-35区より検出された。平面形状は不整梢円形を呈している。長軸259cm、短軸104cm、深度22.8cmを測る。主軸は東方に取っている。壁はやや急傾斜で立ち上がりを見せていている。坑底は平坦であり大型の自然石が1石混入している。遺物は甕・壺・壺片が出土しており、これらの遺物が流れ込みでなければ古墳から平安期の構築と考えられよう。

第6号土坑 (第43図)

D-36区より検出された。平面形状はほぼ円形をしており、長軸77cm、短軸73cm、深度19.1cmを測る。壁はやや急傾斜で立ち上がり底面は平坦である。遺物の出土は無かった。

第7号土坑 (第43図)

E-36区より検出された。形状は不整円形を呈している。長軸は80cm、短軸65cm、深度31.1cmを測る。壁は急勾配で立ち上がっている。坑底は北方向に向けて傾斜している。遺物の出土は無い。

第8号土坑 (第43図)

F-37区より検出された。平面形は不整円形を呈している。長軸81cm、短軸65cm、深度18.2cmを測る。坑底は平坦で壁は非常に緩やかに立ち上がる。遺物の出土は無い。

第9号土坑 (第43図)

G・H-38区より検出された。平面形は梢円形を呈している。長軸80cm、短軸74cm、深度37.5cmを測る。坑底は丸みを帯び壁はやや急傾斜で立ち上がっている。遺物の出土は無い。

第10号土坑 (第43図)

I-38区より検出された。平面形は梢円形を呈している。長軸80cm、短軸49cm、深度20.8cmを測る。坑底は平坦であるが僅かに丸みを帯びている。自然石の混入ある。

壁はやや傾斜を持って立ち上がっている。遺物の出土は無かった。

第11号土坑 (第43図)

I-38区より検出された。その規模は長軸99cm、短軸57cm、深度14cmを測る。平面形状は梢円形を呈している。坑底はやや丸みを帯びている。壁はなだらかに立ち上がりを見せてている。なお、遺物の出土は無かった。

第12号土坑（第43図）

I-37・38区より検出された。形状は不整円形を呈している。長軸110cm、短軸90cm、深度16.8cmを測る。坑底は平坦で壁は急傾斜で立ち上がっている。遺物の出土は無い。

第13号土坑（第44図）

K-38区より確認された。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸54cm、短軸50cm、深度23.3cmを測る。坑底の状況は平坦である。壁はやや急傾斜で立ち上がっている。遺物の出土は無かった。

第14号土坑（第44図）

H-35区より検出された。平面形状は楕円形で規模は長軸52cm、短軸42cm、深度19.5cmを測る。坑底はわずかに丸みを帯び壁は緩やかに立ち上がっている。遺物の出土は無かった。

第15号土坑（第44図）

H-35区より検出された。平面形は円形を呈している。規模は長軸50cm、短軸50cmで深度は43.8cmと深い。坑底はわずかに丸みを帯び壁は急傾斜で立ち上がって行く。遺物の出土はない。

第16号土坑（第44図）

J-38区から検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸59cm、短軸45cm、深度11cmを測る。底面はほぼ平坦で壁はやや傾斜を持って立ち上がっている。遺物の出土は無い。

第17号土坑（第44図）

J-38区から確認された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸69cm、短軸64cm、深度15.8cmを測る。坑底はやや丸く壁は傾斜を持って立ち上がっている。遺物の出土は平安期の甕片が出土している。

第18号土坑（第44図）

I・J-38区より検出された。平面形は不整楕円形を呈している。規模は長軸214cm、短軸133cm、深度19cmと大きい。坑底は平坦で壁はなだらかに立ち上がっている。遺物は縄文時代の深鉢型土器片が出土している。

第19号土坑（第44図）

J-38区より確認された。平面形は不整形を呈している。坑底は平坦で壁は急傾斜で立ち上がっている。規模は長軸129cm、短軸55cm、深度42.8cmを測る。出土遺物は無い。

第20号土坑（第44図）

J-39区より検出された。平面形は楕円形を呈しており規模は長軸82cm、短軸48cm、深度12.8cmを測る。坑底には自然石が入っているため状況の把握は難しい。壁は緩やかに立ち上がって行く。遺物の出土は無い。

第21号土坑（第44図）

H-35区より検出された。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸50cm、短軸45cm、深度20.3cmを測る。坑底はやや丸みを帯び壁はなだらかな角度で立ち上がって行く。遺物の出土は無かった。

第22号土坑（第44図）

K-39区より検出された。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸55cm、短軸43cm、深度9cmを測る。坑底は平坦であり壁はなだらかに立ち上がっている。遺物の出土は無かった。

第23号土坑（第44図）

K-39区より検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸50cm、短軸44cm、深度12.9cmを測る。坑底はやや丸みを帯び壁は緩やかな角度でたちあがっていく。遺物の出土は無い。

第24号土坑（第44図）

L-39区より検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸77cm、短軸53cm、深度21.8cmを測る。坑底はわずかに丸みを持ち壁はやや角度を有して立ち上がって行く。遺物は縄文時代の深鉢型土器片が出土している。

第25号土坑（第44図）

K・L-39区より検出された。平面形状は椭円形を呈している。規模は長軸70cm、短軸58cm、深度39.2cmを測る。坑底には小ビットがある。壁は急傾斜で立ち上がっていく。遺物は平安期の甕片の出土があった。

第26号土坑（第44図）

J-40区にて検出された。平面形は椭円形で坑底は丸みを持っている。壁はやや急傾斜で立ち上がっている。なお、遺物の出土は無かった。

(2) 溝状遺構

第1号溝状遺構（第45図）

F・G-35区より検出された。検出された規模はおおよそ長さ2.5m、幅約80cm、深度20cmを測る。平面形は直線的であるが端部で西側に90度に曲がる。近接して第42・43・96号ビットがある。遺物の出土は無い。

第2号溝状遺構（第45図）

F・G-38区より検出された。検出された規模は幅130cm、長さは160cmで残りはD区に入行って行く。深度は約60cmで遺構内には大型の礫が入り込み旧河道の可能性を思わせている。壁の立ち上がりは急角度である。遺物の出土は無い。

(3) 小竪穴状遺構

第1号小竪穴状遺構（第46図）

J-35区より検出された。規模は長軸284cm、短軸270cm、深度28.2cmを測る。覆土は3層が観察された。第1層は茶褐色土層、第2層は暗茶褐色土層、第3層は茶褐色砂質土層である。遺構内からは自然石のほか平安期の甕片が1点出土している。

第6表 脇櫛C

溝状遺構一覧

No.	位置	発掘時期	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	備考
1	F・G-35	不明	1240.0	112.0	15.0	主軸 南北
2	F-37・38、G-38	不明	311.0	282.0	82.0	主軸 東西

土坑一覧

No.	位置	時期	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	備考
1	J-37	不明	椭円形	80.0	58.0	15.6	
2	J-37	不明	椭円形	65.0	53.0	19.1	
3	B-36	不明	不整円形	101.0	82.0	20.8	
4	B-35	不明	圓丸形	65.0	55.0	23.1	
5	B・C-35	古墳～平安	不整椭円形	259.0	104.0	22.8	甕・壺・环
6	D-36	不明	椭円形	77.0	73.0	19.1	
7	E-36	不明	椭円形	80.0	65.0	31.1	
8	F-37	不明	椭円形	81.0	65.0	18.2	
9	G・H-38	不明	椭円形	80.0	74.0	37.5	
10	I-38	不明	椭円形	80.0	49.0	20.8	
11	I-38	不明	椭円形	99.0	57.0	14.0	
12	I-37・38	不明	不整円形	110.0	90.0	16.8	
13	K-38	不明	椭円形	54.0	50.0	23.3	
14	H-35	不明	椭円形	52.0	42.0	19.5	
15	H-35	不明	円形	50.0	50.0	43.8	
16	J-38	不明	椭円形	59.0	45.0	11.0	
17	J-38	平安	椭円形	69.0	64.0	15.8	甕
18	I・J-38	縄文	不整形	214.0	133.0	19.0	深跡
19	J-38	不明	不整形	129.0	55.0	42.8	
20	J-39	不明	椭円形	82.0	48.0	12.8	

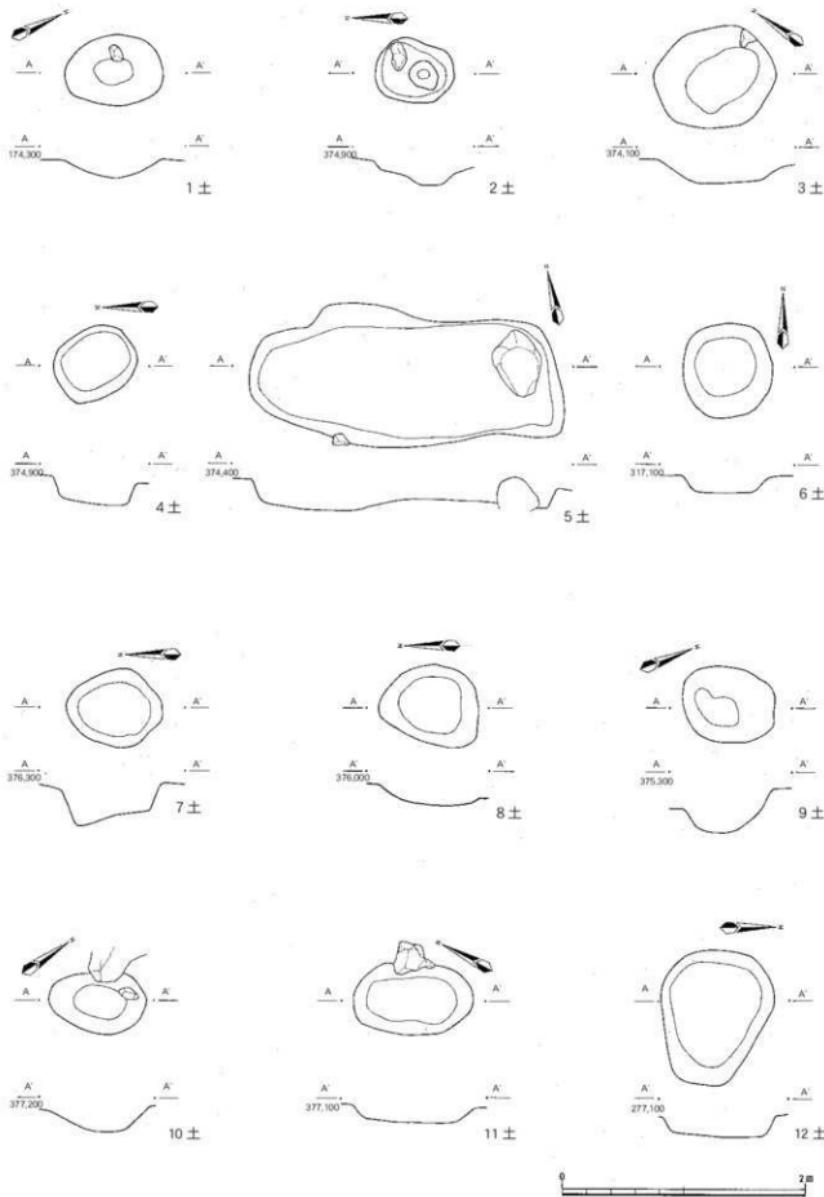
No.	位置	時期	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	備考
21	H-35	不明	椭円形	51.0	45.0	20.3	
22	K-39	不明	椭円形	55.0	43.0	9.0	
23	K-39	不明	椭円形	50.0	44.0	12.9	
24	L-39	簡文	椭円形	77.0	53.0	21.8	深跡
25	K・L-39	平安	椭円形	70.0	58.0	39.2	裏
26	J-40	不明	椭円形	65.0	40.0	22.2	

ピット一覧

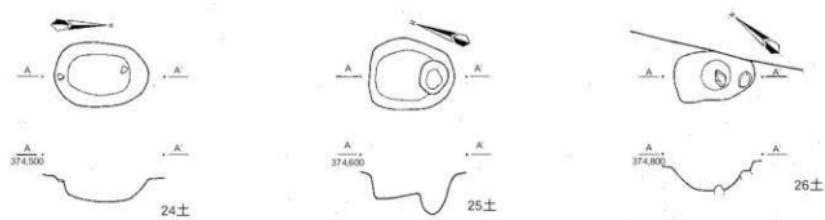
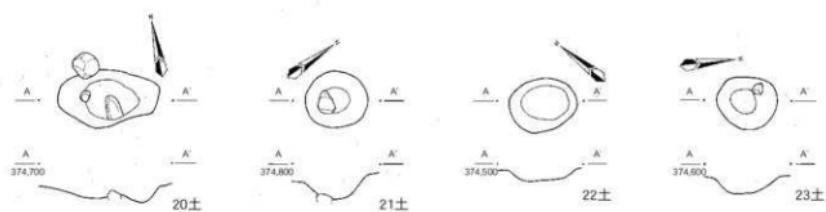
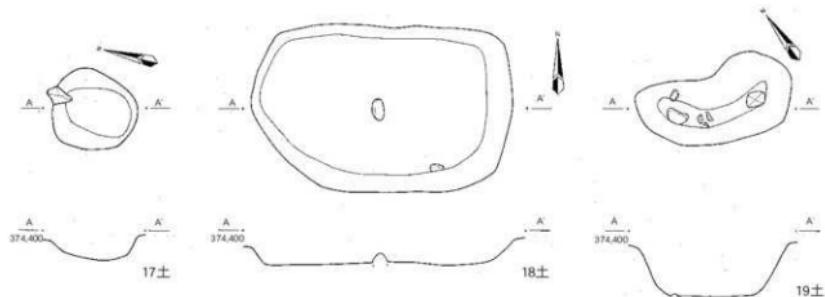
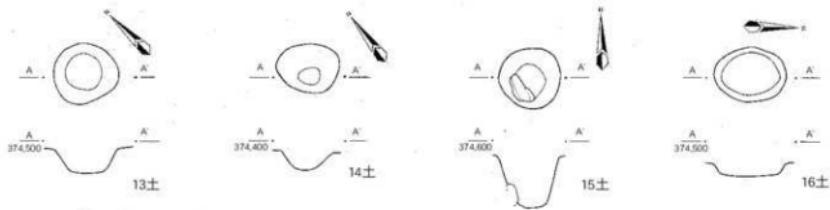
No.	位置	時期	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	備考
1	J-37	不明	椭円形	45.0	39.0	12.2	
2	J-37	不明	椭円形	40.0	34.0	14.5	
3	J-37	平安	円形	41.0	40.0	17.4	
4	L-37	不明	椭円形	49.0	40.0	32.5	
5	L-37	不明	円形	36.0	34.0	22.6	
6	J-36	不明	椭円形	40.0	32.0		
7	L-36	不明	円形	27.0	28.0	27.5	
8	L-36	不明	椭円形	32.0	30.0	24.9	
9	L-36	不明	円形	26.0	26.0	12.5	
10	L-36	不明	椭円形	53.0	41.0	24.5	
11	L-36	不明	椭円形	46.0	41.0	22.8	
12	L-36	不明	椭円形	54.0	32.0	23.3	
13	B-36	平安	椭円形	65.0	50.0	22.5	
14	B-36	平安	椭円形	34.0	30.0	19.7	
15	B-35	不明	椭円形	45.0	34.0	8.3	
16	K-37	不明	椭円形	29.0	26.0	10.4	
17	K-37	不明	円形	39.0	37.0	9.8	
18	C-35	不明	椭円形	45.0	39.0	13.9	
19	C-35	不明	椭円形	53.0	47.0	20.5	
20	C-35	不明	椭円形	125.0	72.0	31.4	
21	K-36	不明	円形	36.0	35.0	21.0	
22	K-36	不明	椭円形	35.0	32.0	13.1	
23	K-36	不明	椭円形	54.0	50.0	13.5	
24	K-36	不明	椭円形	46.0	40.0	11.6	
25	C-36	不明	椭円形	46.0	35.0	20.0	
26	B・C-36	不明	不整形	85.0	59.0	13.8	
27	C-36	不明	椭円形	53.0	38.0	16.9	
28	C-36	不明	椭円形	44.0	30.0	9.3	
29	C・D-35	不明	椭円形	67.0	48.0	26.7	
30	D-36	不明	椭円形	44.0	40.0	17.0	
31	D-36	不明	円形	22.0	22.0	908.0	
32	C・D-37	不明	椭円形	26.0	18.0	9.3	
33	D-37	不明	円形	29.0	29.0	16.6	
34	D-37	平安	椭円形	49.0	39.0	16.3	
35	D-35	不明	椭円形	40.0	32.0	25.2	
36	D-35	不明	椭円形	60.0	36.0	8.0	
37	D-35	不明	円形	35.0	35.0	15.0	
38	D-34	不明	椭円形	51.0	39.0	10.7	
39	D-35	不明	椭円形	29.0	26.0	16.5	
40	E-37	不明	椭円形	26.0	21.0	6.0	
41	F-36	不明	椭円形	40.0	38.0	33.1	
42	F-34	不明	椭円形	51.0	41.0	24.9	
43	F-35	不明	椭円形	56.0	30.0	17.6	
44	F-37	不明	椭円形	35.0	33.0	13.7	
45	F-37	不明	椭円形	40.0	32.0	11.7	
46	G-35	不明	円形	40.0	39.0	17.9	
47	G-36	不明	不整形	75.0	47.0	8.7	
48	G-37	不明	椭円形	38.0	31.0	21.1	
49	G-38	不明	円形	25.0	25.0	33.2	
50	G-38	不明	円形	27.0	27.0	28.5	
51	H-35・36	不明	不整形	72.0	48.0		
52	G・H-36	不明	椭円形	40.0	38.0	10.6	
53	H-36	不明	椭円形	40.0	29.0	14.5	
54	H-36	不明	椭円形	36.0	26.0	29.4	
55	H-36	不明	椭円形	70.0	45.0	27.2	

No.	位置	時期	平面形状	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備考
56	H-36	不明	椭円形	27.0	22.0	19.8	
57	H-36	不明	不整形	44.0	43.0	13.2	
58	H-36	不明	椭円形	56.0	42.0	21.5	
59	H-39	不明	円形	40.0	38.0	33.5	
60	H-39	不明	椭円形	45.0	35.0	18.1	
61	I-38	不明	圓角方形	55.0	46.0	43.6	
62	H-35	不明	不整形	33.0	32.0	15.0	
63	H-35	不明	椭円形	35.0	30.0	43.8	
64	I・J-38	不明	椭円形	30.0	26.0	23.0	
65	J-38	不明	椭円形	35.0	32.0	22.8	
66	I・J-39	不明	円形	48.0	47.0	21.6	
67	I・J-39	不明	椭円形	52.0	48.0	22.1	
68	J-39	不明	椭円形	48.0	43.0	12.9	
69	H-34・35	不明	椭円形	43.0	36.0	43.8	
70	J-39・40	瓣文	椭円形	53.0	42.0	25.0	石器
71	J-40	不明	円形	33.0	32.0	11.8	
72	J-40	不明	椭円形	20.0	18.0	15.0	
73	L-39	不明	椭円形	36.0	23.0	15.0	第25号土坑内
74	E-34	不明	椭円形	29.0	25.0	9.2	
75	E-34	不明	椭円形	35.0	30.0	9.2	
76	E-34	不明	椭円形	35.0	31.0	11.4	

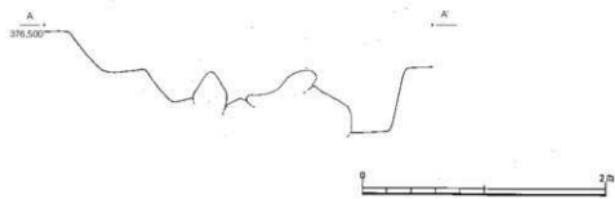
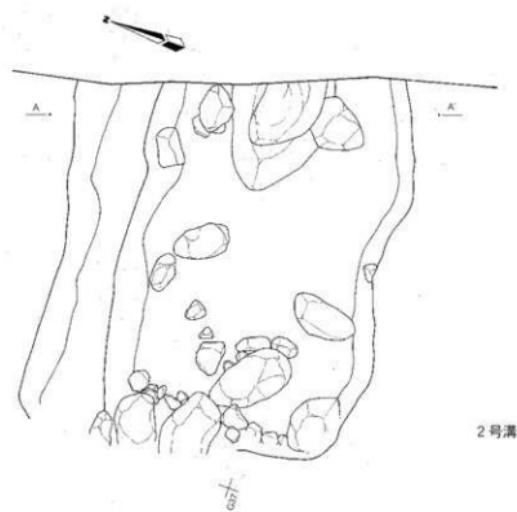
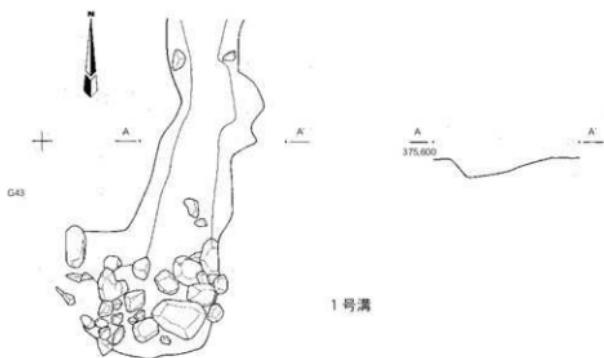
第7表 脑瘤C区递物阴影表



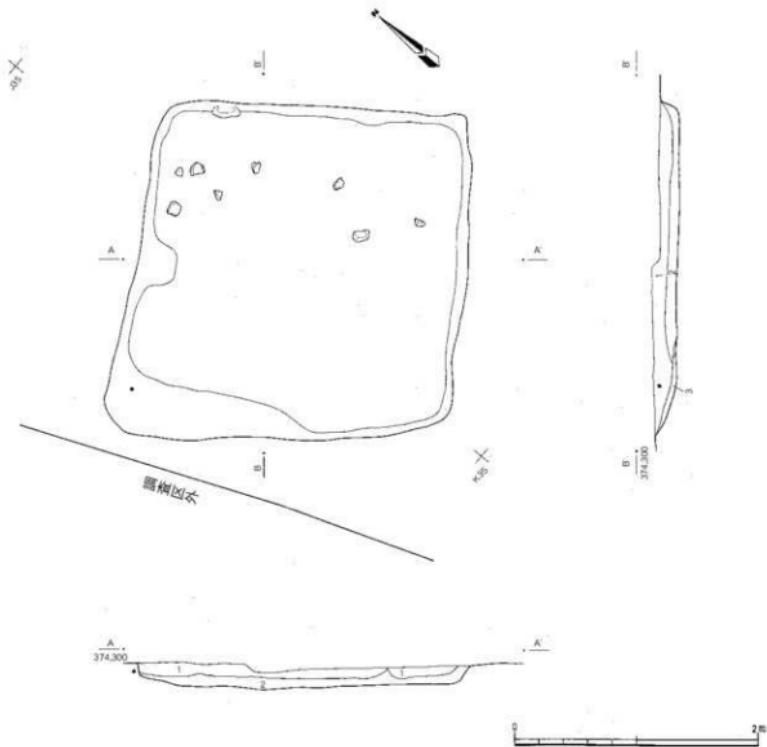
第43図 土坑平面図1 1~12号土坑



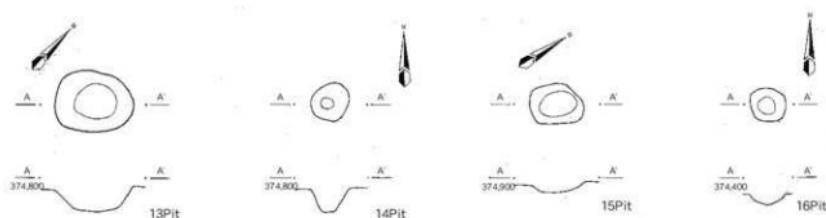
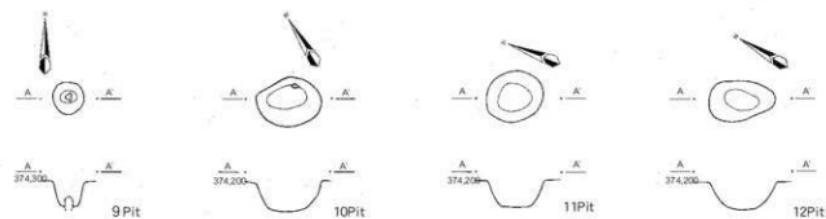
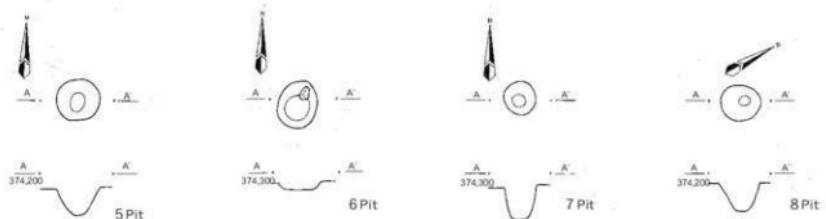
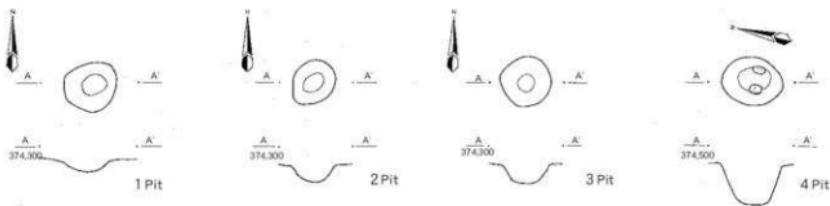
第44図 土坑平面図2 13~26号土坑



第45図 溝状遺構平断面図 1・2号溝

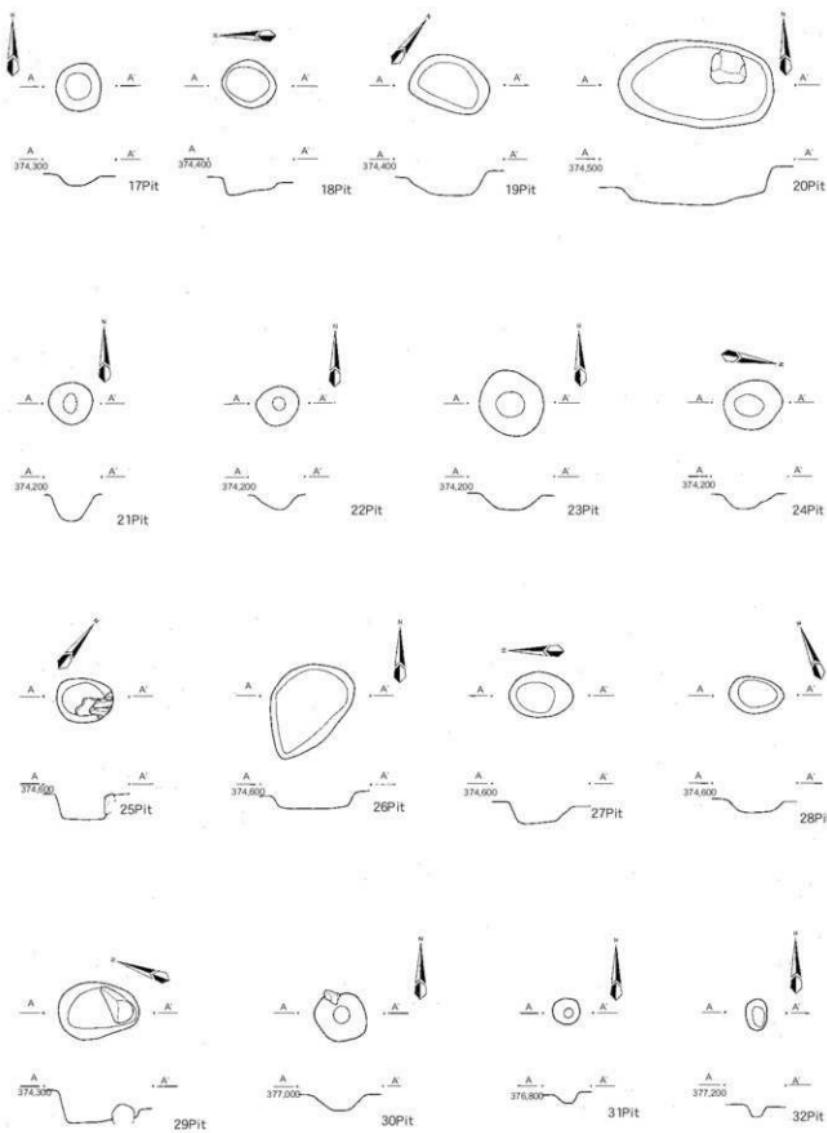


第46図 小竪穴状遺構平面面図 1号竪穴

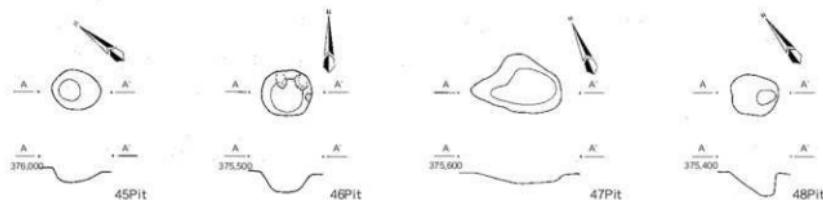
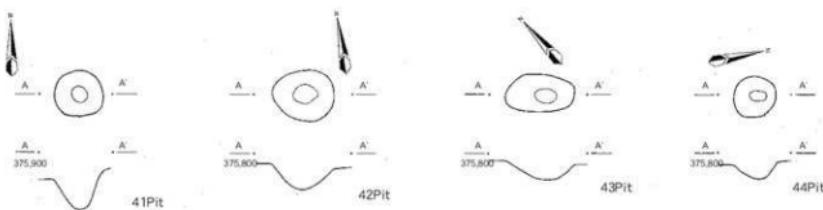
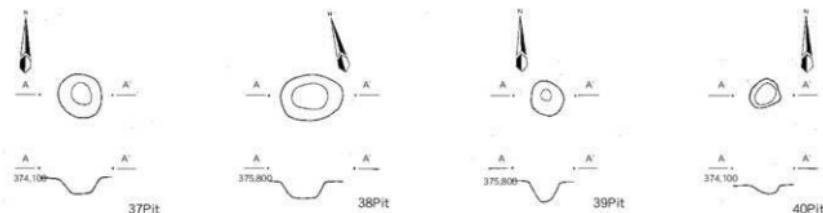
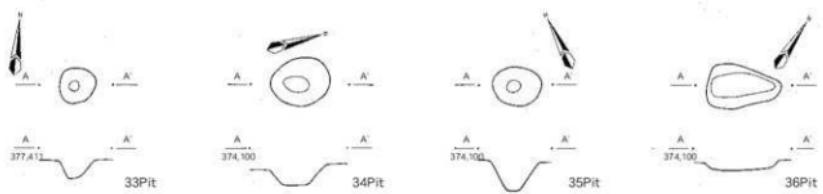


第47図 柱穴平断面図 1 1～16号ピット

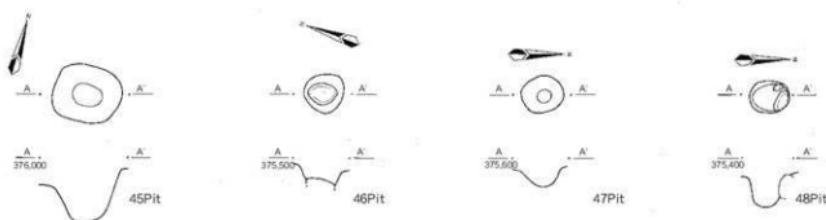
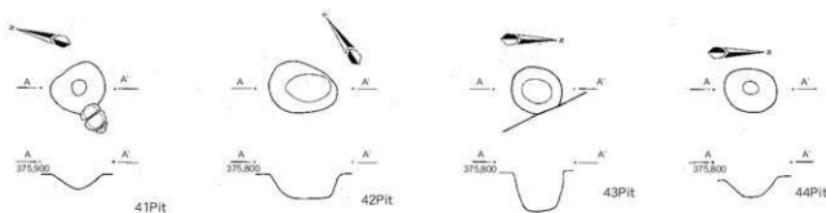
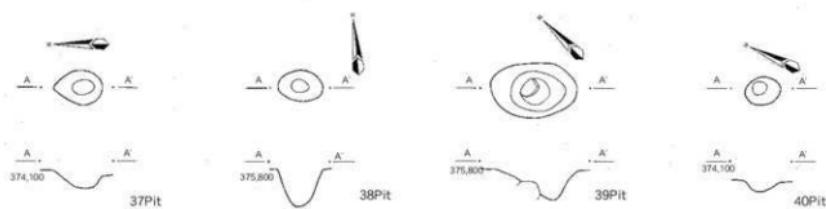
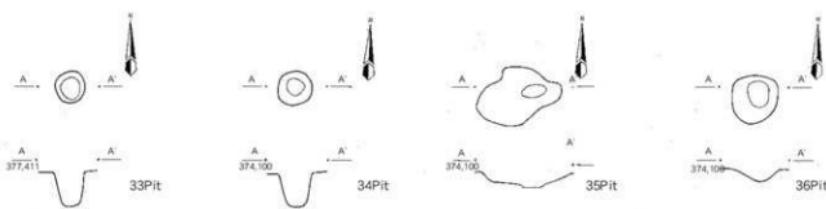




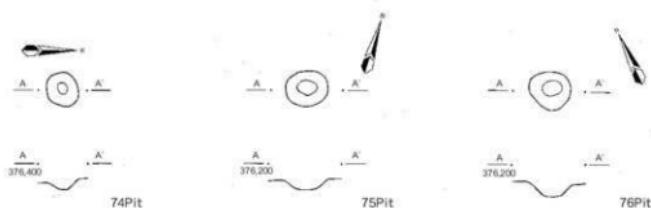
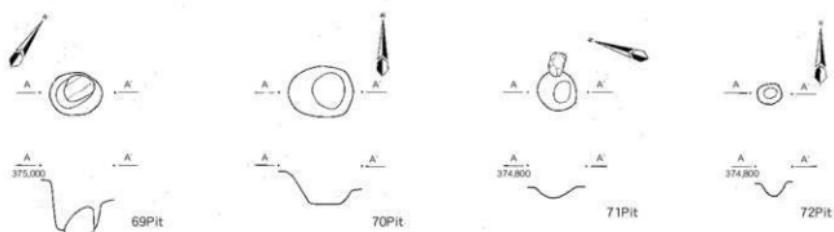
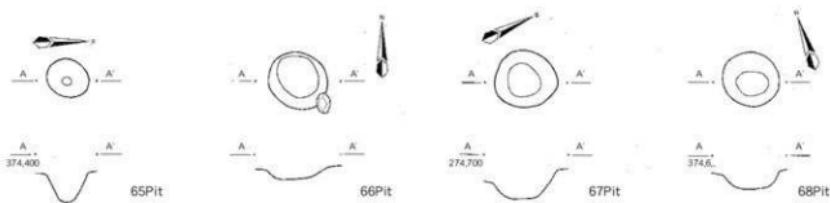
第48図 柱穴平面図2 17~32ピット



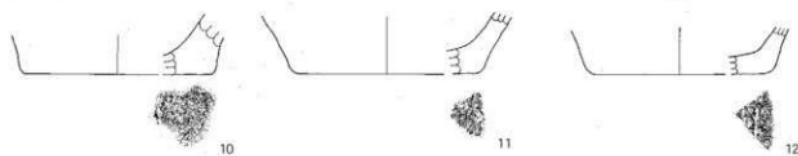
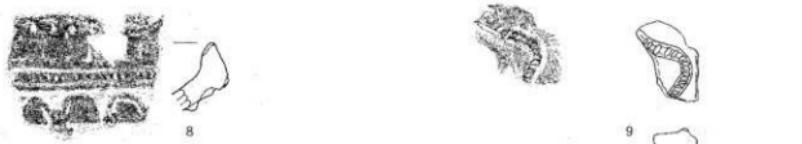
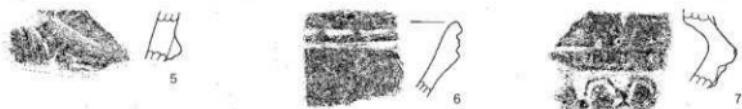
第49図 柱穴平面図3 33~48ピット



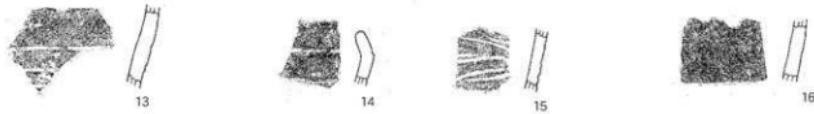
第50図 柱穴断面図4 45~64号ピット



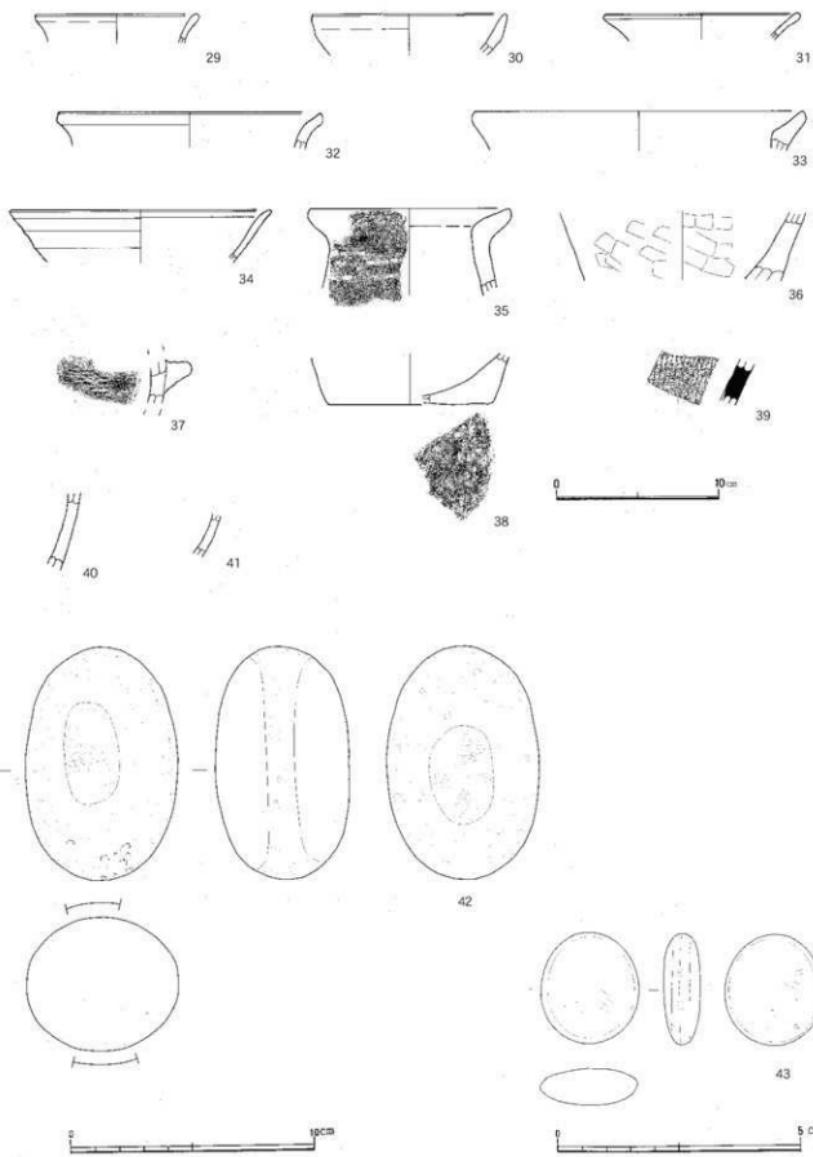
第51図 柱穴平面断面図5 65~76号



0 10 cm



第52図 出土遺物 1



第53図 出土遺物 2

第4節 D区

竪穴住居跡41軒、竪穴遺構4基、土坑16基、集石土坑4基、石組遺構3基、溝3条、ピット98基が検出された。(第54~57図)

(1) 竪穴住居跡

1号竪穴住居跡 (第58図)

[位置] I区G-56グリッド

[形態] 暗褐色土の落ち込みとして検出された。長軸(東一西方向)4.05m、短軸(南一北方向)3.50m、深さ32cm、形状は隅丸方形を呈し貼床がみられた。

[カマド] 南東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡がみられる。

[出土遺物] 第96・97図(12~15)。土師器壺(1~6)、甕(7~10・12)、片口土器(11)、灰釉陶器壺(13・14)、須恵器甕(15)などが出土している。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。口径10cmほどのものと13cmほどのものがある。片口土器(11)はロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。灰釉陶器壺は器壁が薄く、口縁が外反するものとそうでないものがある。

[時期] 10世紀後半に属すると考えられる。

3号竪穴住居跡 (第59図)

[位置] I区L-60グリッド

[形態] カマドのみ検出されたものであり、住居跡プランが確認されなかつたため形状・規模など詳細は不明である。

[カマド] 構築材に石を利用しておらず、カマド周辺の遺物分布状況から南東コーナー付近に設置されたものと思われる。

[出土遺物] 第97図(16~24)、第98図、第99図。カマド付近を主として多くの遺物が出土した。土師器壺(16~18)、皿(20)、灯明皿(19)、柱状高台付壺(21)、脚高台付皿(22)、甕(24~26)、小型甕(23)、鉢(27~29・31~33)、羽釜(34)、灰釉陶器壺(30)などである。壺・皿は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。口径は9cm~10cmほどの大きさである。甕は口縁部がやや肥厚して外反するものと、肥厚しないで外反するものがある。鉢は口縁部がゆるやかに外反するものと直線的に開くものがある。柱状高台付壺はほぼ完形品である。灰釉陶器壺は器壁が薄く、口縁部が内湾して立ち上がる。

[時期] 10世紀後半から11世紀に属すると考えられる。

4号竪穴住居跡

[位置] I区L-58グリッド

[形態] 焼土層がみられたため住居跡として調査したが、プランが確認されなかつたため形状・規模など詳細は不明である。

[カマド] カマドは確認されなかつた。

[出土遺物] 第100図。土師器壺(36~38)、柱状高台付壺(皿)(39~41)、甕(42・43)、羽釜(44・45)、灰釉陶器壺(46)、灰釉陶器長頸甕と思われるもの(47)、綠釉陶器皿(48)、綠釉陶器高台付壺(皿)(49)などが出土した。壺は内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。甕は体部から口縁部へと直線的に開くものと、直立気味に立ち上がるものがある。

[時期] 11世紀後半に属すると考えられる。

5号竪穴住居跡（第59・60図）

【位置】 I区 M-52・53グリッド

【形態】 暗褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（東—西方向）4.0m、短軸（南—北方向）3.68m、深さは53cmで隅丸長方形を呈し、貼床がみられた。この貼床の下から2基の土坑が検出された。1号土坑（5号住貼床下1号土坑）は90cm×79cmの隅丸方形を呈し深さは28cmである。2号土坑（5号住貼床下2号土坑）は100cm×79cmの楕円形を呈し深さは32cmである。土坑と住居との関係は、土坑上に貼床があることから住居よりも古いか、あるいは住居に共伴するものと考えられる。共伴の場合は意図的に埋め戻されたものとなるが、1号土坑は遺物出土状況からこの埋め戻しがなされたものと考えられる。

【カマド】 東壁中央南寄りにあり、石組みカマドの痕跡を明瞭に残している。

【出土遺物】 第101・102図（50～74）。カマド付近を主として土師器壺（50～59）、高台付皿（60）、甕（61～66）、鉢（67・68）、脚高高台付鉢（69）、灰釉陶器壺（72・73）、須恵器甕（74）など多くの遺物が出土した。また1号土坑覆土中からは土師器壺の完形品・ほぼ完形品の56・58、さらにその下方から綠釉陶器脚高高台付皿（70）が出土した。この綠釉陶器脚高高台付皿は故意に真っ二つに割られたようにあり、一つは内面を上に、一つは内面を下にして約10cmの間隔を置いて検出された。住居の地鎮に使われたものと思われる。

壺は内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。口径10～11cmのものが多いが、16cmと大形のものもみられる。甕は内外面共にハケ目整形され、口縁部がやや肥厚して外反するものと肥厚せずに外反するものがある。鉢は体部から口縁部へと直線的に開く。69は、大形で直線的に開く鉢部に内湾気味の高台をもつ。

【時期】 10世紀後半に属すると考えられる。なお本住居出土炭化材の放射性炭素年代測定では、曆年較正年代で9世紀末から10世紀後葉の値を示している。

6号竪穴住居跡（第61・62図）

【位置】 I区 M-55グリッド

【形態】 黒褐色土の落ち込みとして検出されたが、一部は調査区域外にある。残存部分では長軸4.8m、短軸4.2m、深さ35cm、形状は隅丸方形を呈すると思われる。西方で13号住居と重複しているが、重複部分に13号住居のカマドがあること及び土層の切り合いから、本住居の方が古いものと考えられる。また東側で26号住居と重複しているが新旧関係は判然としない。

【カマド】 東壁中央部にあり、石組みカマドの痕跡を残している。

【出土遺物】 第103図（75～84）。カマド付近を主として土師器壺（75～78）、脚高高台付鉢と思われるものの（79）、高台付皿（80）、柱状高台付壺（皿）（81）、脚高高台付皿（82）、鉢（83）、羽釜（84）などが出土した。またピット2からは土師器皿破片（第129図444）が出土している。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。口径は9cm、11cm、14cmほどのものがある。

【時期】 11世紀代に属すると考えられる。

7号竪穴住居跡（第63・64図）

【位置】 I区 L-52・53、M-52・53グリッド

【形態】 黒褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（東—西方向）3.9m、短軸（南—北方向）3.62m、深さ28cmの隅丸方形を呈し貼床がみられた。カマド前から北西方向に長さ2.5m、幅1.5mほどの範囲で貼床がみられる。10号住居と重複しており新旧関係は判然としないが、出土遺物からみると本住居の方が古いものといえる。

【カマド】南東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡を明瞭に残している。

【出土遺物】第103図(85~93)。土師器壺(85~89)、脚高高台付壺(90)、甕(91~92)、灰釉陶器壺か皿(93)などが出土した。壺は内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りであり、口径は10~12cmほどのものである。甕は口縁部が肥厚して外反する。

【時期】11世紀前半に属すると考えられる。なお本住居出土炭化材の放射性炭素年代測定では、曆年較正年代で10世紀末から11世紀初頭の値を示している。

8号竪穴住居跡（第65図）

【位置】I区 K-53、L-53グリッド

【形態】黒褐色土の落ち込みとして検出された。長軸(南一北方向)3.2m、短軸(東一西方向)3.16m、深さ45cmの隅丸方形を呈する。南西壁際の床下に、長軸59cm、短軸53cm、深さ23cmの不整円形を呈する土坑(8号住床下土坑)が検出された。土坑と住居との関係は、土坑上に床があることから住居よりも古いか、あるいは住居に共伴するものと考えられる。共伴の場合は意図的に埋め戻されたものとなる。

【カマド】南東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡を明瞭に残している。

【出土遺物】第104図。土師器壺(94~99)、脚高高台付壺(100)、甕(101~104)、羽釜(105)、灰釉陶器高台付壺(107)、灰釉陶器壺(108)などが出土し、床下土坑からは鉢破片(106)が出土した。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。口径11cmほどのものが多く、98はカマド袖石底部付近から出土したものである。甕は小型のものである。

【時期】10世紀後半から11世紀前半に属すると考えられる。

9号竪穴住居跡（第66・67図）

【位置】I区 K-57・58、L-57・58グリッド

【形態】黒褐色土の落ち込みとして検出された。長軸(南一北方向)5.95m、短軸(東一西方向)4.93m、深さ25cmの隅丸長方形を呈する。カマド前方に床面に密着した状態で台石が検出された。14号住居と重複しているが本住居の方が古いものと考えられる。

【カマド】南東コーナーにある。

【出土遺物】第105図。土師器壺(109~120)、脚高高台付壺(121・123~124)、柱状高台付壺(122)、甕(125)、羽釜(126)、灰釉陶器皿(127~129)などが出土した。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。口径は8~10cm、12~13cm、15~17cmほどのものに分けられる。ほぼ完形に近い112は113と2枚合わせて合子状にし、直角に立てて埋納されたようである。この壺内部の土壤化学分析では「リン酸・カルシウム含量とともに天然賦存量の範囲内にある」とし、「天然賦存量の範囲内にあるため、動植物遺体が富化された痕跡を見出すことは困難である」としている。分析の詳細は第5章に掲載した。

【時期】11世紀代に属すると考えられる。

10号竪穴住居跡（第63・64図）

【位置】I区 K-52、L-52グリッド

【形態】黒褐色土の落ち込みとして検出された。長軸(東一西方向)6.08m、短軸(南一北方向)5.74m、深さ42cmの隅丸長方形を呈する。7号住居及び12号住居と重複しておりいずれも新旧関係は判然としないが、出土遺物からみると本住居の方が新しいものといえる。

【カマド】東壁中央南寄りにあり、石組みカマドの痕跡を残している。

【出土遺物】第106図(130~140)。土師器壺(130・132)、皿(131)、脚高高台付壺(133)、柱状高台付壺(134・

135)、甕(136)、灰釉陶器皿(137・140)、灰釉陶器坏(138)、灰釉陶器花瓶(139)などが出土した。坏・皿は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。坏は口径9cmほどのものと14cmほどのものとがある。甕は口縁部が肥厚せず水平に近く外反する。139はほぼ完形に近く住居西端付近から出土した。
【時期】11世紀後半に属すると考えられる。なお本住居出土炭化材の放射性炭素年代測定では、曆年較正年代で10世紀末から11世紀前葉の値を示している。

11号竪穴住居跡（第67・68図）

【位置】I区 K-55・56、L-55・56グリッド

【形態】南西部覆土には礫・石が多く混入している。長軸（東一西方向）6.16m、短軸（南一北方向）5.75m、深さ26cmの隅丸長方形を呈する。西壁南寄りに幅1.5m、奥行き0.4mの張り出しがみられる。硬化した貼床が部分的に確認され、カマド前方東側には床面に密着した状態で台石が検出された。

【カマド】北東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡を明瞭に残している。

【出土遺物】第106図(141～149)、第107図(150～158)。カマド付近を主として多くの遺物が出土した。土師器坏(141～144)、皿(145)、柱状高台付坏(146～147・155)、柱状高台付皿(148・49)、甕(150～152・154)、羽釜(153)、小壺(156)、須恵器高台付坏か皿(157)、綠釉陶器碗(158)などである。坏・皿は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。坏は口径10cmほどのものと13cmほどのものとがある。甕は厚手で口縁部が肥厚しないで外反するものと、水平に小さく外反するものとがある。

【時期】11世紀後半に属すると考えられる。なお本住居出土炭化材の放射性炭素年代測定では、曆年較正年代で11世紀初頭から12世紀中頃の値を示している。

12号竪穴住居跡（第69図）

【位置】I区 K-52・53グリッド

【形態】黒褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（東一西方向）2.90m、短軸（南一北方向）2.65m、深さ42cmの隅丸方形を呈し、カマド西から南北方向に幅40cm～110cmで貼床がみられる。南側で10号住居と重複しており新旧関係は判然としないが、出土遺物からみると本住居の方が古いものといえる。

【カマド】南東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡を残している。

【出土遺物】第107図(159)、第108図(160～166)。土師器坏(160・161)、甕(159・162～165)、灰釉陶器小形甕(166)などである。坏は内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りであり、口径は11cmほどである。甕は内外面共にハケ目整形され、口縁部が肥厚外反するものである。

【時期】10世紀代に属すると考えられる。なお本住居出土炭化材の放射性炭素年代測定では、曆年較正年代で10世紀末から11世紀初頭の値を示している。

13号竪穴住居跡（第61・62図）

【位置】I区 M-54グリッド

【形態】暗褐色土の落ち込みとして検出された。一部が調査区域外にあり、さらに6号住居跡と重複しているため詳細は不明であるが、一边3.5mほど、深さ30cmほどの隅丸方形ないし隅丸長方形を呈するものと考えられる。カマド前方に西方向へ幅70cm、長さ2mの範囲で貼床がみられた。6号住居と重複しているが、重複部分に本住居のカマドがあること及び土層の切り合いから、本住居の方が新しいものと考えられる。

【カマド】北東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡を残している。

【出土遺物】第108図(167～172)、第109図(173～174)。土師器坏(167)、脚高台付坏(168)、甕(169・170)、羽釜(171・173・174)、灰釉陶器壺と思われるもの(172)などが出土した。坏は口径10cmほど、

内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。甕は口縁部が肥厚して水平気味に開く。

〔時期〕 11世紀前半に属すると考えられる。

14号竪穴住居跡（第66・67図）

〔位置〕 I区 L-57グリッド

〔形態〕 黒褐色土の落ち込みとして検出された。9号住居跡と重複のため全容は不明だが、4.6m×（残2.5m）を測り、形状は隅丸方形かと思われる。カマドと南西コーナーの間にピットが2基検出された。ピット1は52cm×48cmの円形を呈し深さは54cm、ピット2は34cm×（32cm）を呈し深さは39cmである。9号住居と重複しているが本住居の方が新しいものと考えられる。

〔カマド〕 南東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡を明瞭に残している。

〔出土遺物〕 第109図（175～182）、第110図（183～185）。土師器壺（175）、皿（176）、脚高高台付皿（177）、甕（180～183）、鍋（184・185）、須恵器皿（178）、灰釉陶器皿（179）などが出土した。壺・皿は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。甕182は体部上半部が開き、口縁部が内湾するものである。在地性の強いものであろうか。

〔時期〕 11世紀後半に属するものとできようか。

15号竪穴住居跡（第70図）

〔位置〕 I区 M-50・51グリッド

〔形態〕 黒褐色土の落ち込みとして検出された。一部は調査区外にあり、また18号住居跡との重複のため形状・規模ともに不明である。残存している部分では3.05m×（2.9m）、深さは17cmであり、貼床がみられ、その下から磨製石斧（第141図618）が検出された。18号住居跡との重複関係は、土層の切り合いから本住居の方が古いものと考えられる。

〔カマド〕 東壁北寄りに位置するものと思われる。

〔出土遺物〕 第110図（186～196）、第111図（197～198）。土師器壺（186～190・192）、皿（191・193）、脚高高台付皿（194）、甕（196～198）、須恵器壺（195）などが出土した。壺・皿は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。壺には口径約11cm、約13cm、約16cmのものがある。甕は口縁部が肥厚外反するものと、肥厚せずに外反するものがある。

〔時期〕 10世紀後半に属すると考えられる。なお本住居出土炭化材の放射性炭素年代測定では、曆年較正年代で9世紀末から10世紀後葉の値を示している。

16号竪穴住居跡（第72図）

〔位置〕 I区 L-51・52、M-51・52グリッド

〔形態〕 黒褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（南一北方向）4.96m、短軸（東一西方向）3.76m、深さ22cmの不整隅丸長方形を呈し、南半部分に貼床がみられた。

〔カマド〕 南東コーナーにある。

〔出土遺物〕 第111図（199～206）。土師器壺（199、200）、皿（201）、甕（202～204）、羽釜（205）、灰釉陶器碗（206）などが出土したがいずれも破片である。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。甕は口縁部が肥厚して外反する。

〔時期〕 10世紀後半に属するものとできようか。

17号竪穴住居跡（第72図）

【位置】 I区 K-51、L-51グリッド

【形態】 黒褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（南一北方向）4.36m、短軸（東一西方向）4.0m、深さ28cmの隅丸長方形を呈する。南半中央部に径1.7mの方形状の範囲で貼床がみられ、東南部床面は10cmほど低くなっている。中央南寄りにピットが2基検出された。ピット1は深さ10cm、ピット2は深さ15cmである。

【カマド】 カマドは確認されなかった。

【出土遺物】 第111図（207～210）、第112図（211～213）。土師器壺（207～210・213）、柱状高台付壺（211・212）などが出土した。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。213は底部穿孔されている。

【時期】 11世紀後半に属すると考えられる。

18号竪穴住居跡（第70・71図）

【位置】 I区 M-49グリッド

【形態】 一部調査区外にあり、また15号住居跡と重複している。残存部分でみると長軸（東一西方向）4.63m、短軸（南一北方向）4.10m、深さ31cmの隅丸方形を呈するものと思われ、南半部が一段低くなっている。15号住居との重複関係は、土層の切り合いから本住居の方が新しいものと考えられる。

カマド焼土の北、北東コーナー付近貼床下に土坑1基（18号住貼床下土坑）が検出された。この土坑は径112cm×107cmの不整円形、深さ28cmを呈し、覆土は本住居の覆土と異なり砂を含まない。土坑と住居との関係は、土坑上に貼床があることから住居よりも古いか、あるいは住居に共伴するものと考えられる。共伴の場合は意図的に埋め戻されたものとなる。

【カマド】 焼土の位置から南東コーナー付近にあったものかと思われる。

【出土遺物】 第112図（214～226）、第113図（227～229）。土師器壺（215～217）、皿（214・218～219）、柱状高台付壺（220・221）甕（222～224）、羽釜（225～227）、須恵器鉢と思われるもの（228）、灰釉陶器碗か皿（229）などが出土している。壺・皿は内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りであり、壺は口径10cmほどである。甕は口縁部が肥厚外反するものである。

【時期】 11世紀代に属すると考えられる。なお本住居出土炭化材の放射性炭素年代測定では、暦年較正年代で10世紀末から11世紀初頭の値を示している。

19号竪穴住居跡（第73図）

【位置】 I区 L-48・49、M-48・49グリッド

【形態】 黒褐色土の落ち込みとして検出された。南半部で27号住居跡と重複しており形状・規模は不明だが、残存部分でみると一辺4.3m、深さ10cmほどの隅丸方形かと思われる。重複する27号住居との新旧関係は、土層の切り合いから本住居の方が古いものと考えられる。

【カマド】 カマドは確認されなかった。

【出土遺物】 第113図（230～237）。土師器壺（230～232）、柱状高台付壺（233）、甕（234・235・237）、小型甕（236）などが出土した。壺は口径13cmほどであり、内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。甕は小ぶりのものが多く、口縁が肥厚外反するものと肥厚しないで立ち上がるものがある。

【時期】 11世紀代に属すると考えられる。

20号竪穴住居跡（第74図）

【位置】 I区 M-57・58グリッド

【形態】 黒褐色土の落ち込みとして検出された。大半が調査区域外にあり形状・規模ともに不明だが、残存部分では長軸5m、短軸2.3m、深さ37cmである。

【カマド】 北壁中央部にあり、石組みカマドの痕跡を明瞭に残している。

【出土遺物】 第113図（238～243）、第114図（244～249）。土師器壺（238・239）、皿（240）、甕（241・245）、羽釜（243・244・246）、灰釉陶器碗（247）、灰釉陶器壺と思われるもの（248）、土製品カマド支柱（249）などが出土した。壺・皿は口径11cm～12cmほど、内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。240はカマド底部から出土したほぼ完形品である。244は口径45cmと大形のものである。

【時期】 10世紀後半から11世紀前半に属すると考えられる。

21号竪穴住居跡（第75図）

【位置】 I区 M-56・57グリッド

【形態】 大半が調査区域外にあり、形状・規模ともに不明である。西側で26号住居跡と重複するが本住居の方が新しいと考えられる。

【カマド】 煉土の位置から西壁中央付近にあるものと考えられる。

【出土遺物】 第114図（250～258）。カマド付近を主として遺物が出土した。土師器壺（250・251・253・254）、皿（252・255）、柱状高台付壺か皿（256）、柱状高台付壺（257）、羽釜（258）などである。壺・皿は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。壺は口径9～10cmのものと13cmほどのものがある。皿は口径8～10cmである。

【時期】 11世紀後半に属すると考えられる。

22号竪穴住居跡（第76図）

【位置】 I区 I-56・57グリッド

【形態】 暗褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（東一西方向）4.30m、短軸（南一北方向）3.47m、深さ28cmの隅丸長方形を呈する。北東部分の床面が12cmほど一段高くなり、カマド周辺部分には貼床がみられた。

【カマド】 南東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡を残している。

【出土遺物】 第115・116図。カマド周辺を主として多くの遺物が出土している。土師器壺（259～267）、皿（268）、脚高台付壺（269）、甕（270～272）、羽釜（273～277）、片口鉢（278）、置きカマド（279）、灰釉陶器壺（280）、灰釉陶器皿（281）などである。壺・皿は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。壺は口径11cm前後、13cm前後、16cm前後のものがある。甕は口縁部が肥厚外反するもの、肥厚せずに外反するものがある。灰釉陶器壺はカマド脇から出土した完形品である。

【時期】 11世紀前半に属すると考えられる。

23号竪穴住居跡（第77図）

【位置】 I区 I-54・55グリッド

【形態】 長軸（南一北方向）4.29m、短軸（東一西方向）4.18m、深さ20cmの隅丸方形を呈し、貼床がみられた。中央部と北東コーナーにピットが検出された。中央部にあるピット1の深さは11cm、北東コーナーにあるピット2の深さは10cmである。

【カマド】 南東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡を残している。

【出土遺物】第117図(282~290)。土師器壺(282・284)、皿(283)脚高台付皿(285)、甕(286~290)などが出土した。壺・皿は口径10~11cm、内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。甕は口縁が肥厚外反するものと肥厚せずに外反するものがある。

【時期】11世紀前半に属すると考えられる。

24号竪穴住居跡（第77図）

【位置】I区 H-53グリッド

【形態】長軸(南一北方向)3.18m、短軸(東一西方向)3.18m、深さ10cmの隅丸方形を呈し、貼床がみられた。南東コーナーには一段高く張り出し様の掘り込みがみられる。

【カマド】カマドは確認されなかった。

【出土遺物】第117図(291~293)。土師器壺(291)、脚高台付壺(292)、脚高台付皿と思われるもの(293)などが出土したが、いずれも底部破片である。

【時期】11世紀前半に属すると考えられる。

25号竪穴住居跡（第78図）

【位置】I区 M-47・48グリッド

【形態】暗褐色土及び黒褐色土の落ち込みとして検出されたが、明確なプランは確認されず形状・規模など詳細は不明である。

【カマド】カマドは確認されなかった。中央南寄りに焼土・炭化物を含む土層に囲まれた粘土層(25号住粘土)が検出されたが、カマドと関係するものは不明である。

【出土遺物】第118図(294~301)。土師器壺(294~296)、甕(297~300)、羽釜(301)などが出土した。壺は口径12cm~13cmほどであり、内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。甕は口縁が肥厚外反するものと肥厚せずに外反するものがある。

【時期】10世紀後半に属すると考えられる。

26号竪穴住居跡（第79図）

【位置】I区 M-55・56グリッド

【形態】黒褐色土の落ち込みとして検出された。一部は調査区外にあり、さらに6号住居跡及び21号住居跡と重複しているため、形状・規模など詳細は不明である。6号住居跡との新旧関係は判然としないが21号住居跡との新旧関係は本住居の方が古いと考えられる。

【カマド】調査範囲内にカマドは確認されなかった。

【出土遺物】第118図(302~306)。土師器壺(302~303)、甕(304)、灰釉陶器碗(305)、灰釉陶器壺(306)などが出土したがいずれも破片である。壺は口径10cm、内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。

【時期】10世紀後半から11世紀前半に属するとできようか。

27号竪穴住居跡（第73図）

【位置】I区 M-48・49グリッド

【形態】黒褐色土の落ち込みとして検出された。南半分は調査区外にあり、残された部分も19号住居跡と重複関係にあり形状・規模は不明だが、4.6m×(残3.45)m、深さ12cmほどの隅丸方形と思われ、貼床がみられた。重複する19号住居跡との新旧関係は、土層の切り合いから本住居の方が新しいものと考えられる。

〔カマド〕 調査範囲内にカマドは確認されなかった。

〔出土遺物〕 第119図（307～313）。土師器壺（307～309）、小形甕（310）、鉢（311）などが出土し、調査区境界付近からカマド支柱（313）、土錘と思われる土製品（312）が出土した。壺は口径8～10cm、内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。

〔時期〕 11世紀代に属すると考えられる。

28号竪穴住居跡（第80図）

〔位置〕 II区 C-73・74、D-73・74グリッド

〔形態〕 長軸（南一北方向）4.0m、短軸（東一西方向）3.36m、深さ27cmの隅丸長方形を呈する。

〔カマド〕 東壁の南東コーナー近くにある。

〔出土遺物〕 第119図（314～326）、第120図、第121図（336～338）。カマド周辺や北壁下から多くの遺物が出土した。土師器壺（314・315・317・318・321・325）、皿（316・319・320・323・324）、灯明皿（322）、脚高台付皿と思われるもの（326）、甕（327～329・333）、羽釜（334～337）、置きカマド（338）、須恵器壺甕類（330）、灰釉陶器壺（331・332）などである。壺・皿は内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りであるが、319は外面下半部がヘラケズリされ、底部は回転糸切りである。壺は口径11～12cmであり、皿は口径約12cmと14cmほどのもので口唇部が玉縁状のものがある。甕は内外面共にハケ目整形され口縁部が肥厚外反する。

〔時期〕 10世紀代に属すると考えられる。なお本住居出土炭化材の放射性炭素年代測定では、暦年較正年代で9世紀末から10世紀末の値を示している。

29号竪穴住居跡（第81図）

〔位置〕 II区 C-65・66、D-65・66グリッド

〔形態〕 北辺が弧状に膨らんだ隅丸長方形で、長軸（南一北方向）3.25m、短軸（東一西方向）2.85m、深さは17cmである。

〔カマド〕 東壁北寄りにある。

〔出土遺物〕 第121図（339～342）、第122図（343～347）。カマド周辺を主として遺物が出土している。土師器壺（339～343）、甕（345）、置きカマド（346）、須恵器大甕（347）などである。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。口径11～12cmのものと口径17cmで身の深いものがある。

〔時期〕 10世紀後半に属すると考えられる。なお本住居カマド出土炭化材の放射性炭素年代測定では、暦年較正年代で9世紀末から10世紀後葉の値を示している。

30号竪穴住居跡（第82図）

〔位置〕 II区 E-70グリッド

〔形態〕 長軸（南一北方向）3.12m、短軸（東一西方向）3.0m、深さ8cmの隅丸方形を呈し、南東コーナーに張り出しがみられる。

〔カマド〕 カマドは確認されなかった。

〔出土遺物〕 第122図（348～350）。土師器脚高台付皿（348）、須恵器甕（349・350）などが出土しているが、いずれも破片である。

〔時期〕 11世紀前半に属するとできようか。

31号豎穴住居跡（第82図）

【位置】 II区 E-72、F-72グリッド

【形態】 褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（南一北方向）3.40m、短軸（東一西方向）2.90m、深さ22cmの隅丸長方形を呈する。

【カマド】 東壁中央北寄りにあり、石組みカマドの痕跡を残している。

【出土遺物】 第122図（351～358）。土師器壺（351～353）、柱状高台付壺（354）、甕（355）、羽釜（356・357）、灰釉陶器壺（358）などが出土したがいずれも破片である。壺は口径9cm、12cm、16cmほどのもので、内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。甕は口縁部が水平に外反し、羽釜には鈴が全周しないものがある。

【時期】 11世紀後半に属すると考えられる。

32号豎穴住居跡（第83図）

【位置】 II区 F-74グリッド

【形態】 黒褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（南一北方向）2.84m、短軸（東一西方向）2.20m、深さ35cmの隅丸長方形を呈する。北壁中央東寄りと南東コーナーに張り出しがみられる。

【カマド】 カマドは確認されなかった。

【出土遺物】 第123図（359～364）。土師器壺（359～361）、甕（362～363）などが出土したが、いずれも破片である。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。

【時期】 10世紀後半から11世紀代に属するとできようか。

33号豎穴住居跡（第83図）

【位置】 I区 K-50グリッド

【形態】 カマドのみ検出され、住居跡のプランは確認されず形状・規模など詳細は不明である。

【カマド】 南東コーナーに位置するものと思われ、石組みカマドの痕跡を残している。

【出土遺物】 第123図（365）。出土遺物は少なく土師器甕（365）などである。

【時期】 時期決定の資料に乏しく、平安時代に属するとしておく。

34号豎穴住居跡（第84図）

【位置】 II区 J-65グリッド

【形態】 カマドのみ検出され、住居プランが確認されなかつたため形状・規模など詳細は不明である。

【カマド】 検出されたが住居内でのカマドの位置は不明である。

【出土遺物】 第123図（366～373）、第124図（374～380）。土師器壺（366）、壺あるいは灯明皿と思われるもの（367）、柱状高台付壺（368）、甕（369～372）、鉢（373）、羽釜（374）、鍋（375）、土製品（376）、須恵器甕（379）、灰釉陶器壺（377）、陶器下ろし皿（378）、陶器碗（380）、などが出土した。壺は口径12cmほど、内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。甕は口縁部が肥厚外反するもの、肥厚せずに外反するもの、内湾気味に立ち上がるるものなどがある。柱状高台付壺（368）は台部が低い完形品である。

【時期】 11世紀後半以降に属すると考えられる。

35号豎穴住居跡（第84図）

【位置】 II区 D-65、E-65グリッド

【形態】 黒褐色土の落ち込みとして検出されたが、大半が調査区域にある。残存部でみると一辺4.1m、深さ24cmほどの隅丸方形かと思われる。

【カマド】 調査範囲内にはカマドは確認されなかった。

【出土遺物】 第124図（381～386）。出土遺物は少なく、土師器壺（381）、皿（382）、脚高高台付皿（383）、壺甕類（384）、小形壺甕類（385）、羽釜（386）などが出土したがいずれも破片である。

【時期】 11世紀前半に属するとできようか。

36号竪穴住居跡（第85図）

【位置】 II区 E-75・76グリッド

【形態】 褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（南一北方向）3.08m、短軸（東一西方向）2.92m、深さ18cmの隅丸長方形を呈する。

【カマド】 北東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡を残している。

【出土遺物】 第124図（387～391）、第125図（392～398）。土師器壺（387・388・390～392）、皿（389・393）、羽釜（396）、須恵器壺甕類（397・398）などが出土している。壺・皿は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。口径は12～13cmであり、口縁が玉縁状を呈するものがみられる

【時期】 10世紀後半に属すると考えられる。

37号竪穴住居跡（第86図）

【位置】 II区 F-64、G-63・64グリッド

【形態】 長軸（南一北方向）4.76m、短軸（東一西方向）3.94m、深さ33cmの隅丸長方形を呈する。北西コーナー部に土坑が1基、ピットが3基（ピット1～ピット3）検出された。1号土坑（37号住1号土坑）は径72×66cmの隅丸方形、深さ10cmを呈する。1号ピットは深さ12cm、2号ピットは深さ8cm、3号ピットは深さ8cmを測る。また南東コーナーに一段高くなった張り出し様の掘り込みがみられる。

【カマド】 カマドは確認されなかった。

【出土遺物】 第125図（399～403）、第126図、第127図（411～413）。土師器壺（399～402）、甕（403～405）、鉢（406・408）、浅鉢（407）、小形甕（409）、須恵器壺甕類（410・411）、灰釉陶器片などが出土した。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。口径11cmほどのものと13cmほどのものがあり、口縁が外反するもの、玉縁状のものがみられる。甕は口縁が肥厚するもの、肥厚せずに外反するものがある。鉢は口縁が肥厚するものである。

【時期】 10世紀後半に属すると考えられる。

38号竪穴住居跡（第87図）

【位置】 II区 F-62・63グリッド

【形態】 黄褐色土及び暗褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（東一西方向）3.53m、短軸（南一北方向）3.24m、深さ25cmの隅丸長方形を呈する。

【カマド】 北東コーナーにあり、石組みカマドの痕跡を残している。

【出土遺物】 第127図（414～419）。カマド周辺を主として遺物が出土している。土師器壺（414～416）、甕（417）、灰釉陶器壺（418・419）などである。壺は口径12cm～14cmであり、内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。甕は口縁部が肥厚せずに外反する。

【時期】 10世紀後半から11世紀代に属すると考えられる。

39号竪穴住居跡（第88図）

〔位置〕 II区 G-59・60、H-59・60グリッド

〔形態〕 暗褐色土の落ち込みとして検出された。41号住居跡と重複しており、一辺3m、深さ25cmほどの隅丸方形または隅丸長方形かと思われる。南西コーナー近くにピット（ピット1）が検出された。ピット1は径54cm×48cm、深さ18cmである。41号住居との新旧関係は判然としない。

〔カマド〕 カマドは確認されなかった。

〔出土遺物〕 第127図（420～421）、第129図（445～449）。出土遺物は少なく、土師器壺（420）、甕（421）などである。壺は口径14cmほどのものであり、内外面共にロクロナデ調整され底部は回転糸切りである。また、ピットからは土師器壺か灯明皿（445）、壺（446）、浅鉢（447）甕（448・449）の破片が出土している。

〔時期〕 10世紀後半に属するとできようか。

40号竪穴住居跡（第86図）

〔位置〕 II区 C-77、D-77グリッド

〔形態〕 にぶい黄褐色土の落ち込みとして検出された。長軸（南一北方向）4.0m、短軸（東一西方向）3.78m、深さ30cmの南東コーナー部がやや張り出した隅丸方形を呈する。

〔カマド〕 カマドは確認されなかった。

〔出土遺物〕 第127図（422～423）。出土遺物は少なく、内外面共にロクロナデ調整され、底部が回転糸切りの薄手の皿と思われる土師器（422・423）などが出土したがいずれも破片である。

〔時期〕 時期決定の資料に乏しく、平安時代に属するとしておく。

41号竪穴住居跡（第88図）

〔位置〕 II区 G-59・60グリッド

〔形態〕 39号住居跡と重複しており、形状・規模は不明である。39号住居跡との新旧関係は判然としない。

〔カマド〕 カマドは確認されなかった。

〔出土遺物〕 第127図（424～425）。出土遺物は少なく、土師器壺（424）、甕（425）などが出土したが、いずれも破片である。

〔時期〕 時期決定の資料に乏しく、平安時代に属するとしておく。

42号竪穴住居跡（第88図）

〔位置〕 II区 H-62グリッド

〔形態〕 住居跡プランは明瞭ではなく形状・規模は不明である。

〔カマド〕 石組みカマドの痕跡を明瞭に残している。その位置はカマドの主軸方向から南東コーナーまたは東壁にあるものと考えられる。

〔出土遺物〕 第128図（426～429）。土師器壺（426）、甕（427・428）、羽釜（429）などが出土した。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。

〔時期〕 10世紀後半に属するとできようか。

(2) 竪穴遺構

1号竪穴遺構（第89図）

〔位置〕 I区 H-57グリッド

〔形態〕南壁が不明だが、長軸（南一北方向）3.50m、短軸（東一西方向）3.0m、深さ12cmの形を呈するものと思われ、南東コーナー部分が東へと張り出している。中央から北東部にピットが3基検出された。

〔出土遺物〕第128図（430～432）。土師器壺（430）、甕（431）羽釜（432）などが出土した。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。

〔時期〕10世紀後半から11世紀前半に属するとできようか。

2号竪穴遺構（第89図）

〔位置〕I区 M-51グリッド

〔形態〕南側は調査区外にあり西側で3号竪穴遺構と重複する。掘り込みが浅くプランは検出されなかったため形状・規模など詳細は不明である。中央部と思われる部分に貼床（網掛け部分）が認められた。

〔出土遺物〕第128図（433～435）。土師器壺（433）が出土したほか、3号竪穴遺構との重複部から土師器破片（434・435）が出土した。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。

〔時期〕時期決定の資料に乏しく、平安時代に属するとしておく。

3号竪穴遺構（第89図）

〔位置〕I区 M-51グリッド

〔形態〕南側は調査区外にあり東側で2号竪穴遺構と重複する。長軸（東一西方向）3.16m、短軸（南一北方向）（残2.1）m、深さ16cmであり、形状は隅丸方形となろうか。中央部に貼床（網掛け部分）が認められた。

〔出土遺物〕第128図（436～438）・第129図（439～442）。土師器壺（436・437）、脚高台付皿（438）、甕（439～442）などが出土した。壺は内外面共にロクロナデ調整され、底部は回転糸切りである。甕は口縁部が肥厚するものとしないものとがある。

〔時期〕11世紀前半に属すると考えられる。

4号竪穴遺構（第89図）

〔位置〕I区 K-60・61、L-60・61

〔形態〕西辺がやや短く、長軸（東一西方向）2.63m、短軸（南一北方向）2.12m、深さ6cmの隅丸長方形を呈する。

〔出土遺物〕第129図443。土師器壺破片と思われるもの（443）が出土した。

〔時期〕時期決定の資料に乏しく、平安時代に属するとしておく。

③ 土坑

1号土坑（第93図）

〔位置〕I区 L-59グリッド、9号住居跡と4号竪穴遺構の間にある。

〔形態〕長軸53cm、短軸50cm、深さ24cmの円形を呈する。

〔出土遺物・時期〕伴出する遺物はなく、時期は不明である。

2号土坑（第93図）

〔位置〕I区 K-59グリッド、9号住居跡と4号竪穴遺構の間にある。

〔形態〕長軸88cm、短軸84cm、深さ27cmの円形を呈する。

〔出土遺物・時期〕伴出する遺物はなく、時期は不明である。

3号土坑（第93図）

【位置】 I区 K-59グリッド、9号住居跡と4号竪穴遺構の間にある。

【形態】 長軸74cm、短軸64cm、深さ24cmの隅丸方形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

4号土坑（第93図）

【位置】 I区 K-59グリッド、9号住居跡と4号竪穴遺構の間にある。

【形態】 長軸58cm、短軸58cm、深さ33cmの円形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

5号土坑（第93図）

【位置】 I区 K-59グリッド、9号住居跡と4号竪穴遺構の間にある。

【形態】 長軸78cm、短軸70cm、深さ36cmの不整円形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

6号土坑（第93図）

【位置】 I区 K-57グリッド、14号住居跡の北にある。

【形態】 長軸71cm、短軸66cm、深さ9cmの隅丸方形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

7号土坑（第93図）

【位置】 I区 E-44グリッドにある。

【形態】 長軸160cm、短軸93cm、深さ48cmの不整長円形を呈する。主軸方位はN-20°-E。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

9号土坑（第93図）

【位置】 I区 J-48グリッド

【形態】 長軸290cm、短軸82cm、深さ9cmの不整長円形を呈する。主軸方位はN-5°-E。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

10号土坑（第94図）

【位置】 I区 K-51グリッド、17号住居跡の北にある。

【形態】 長軸198cm、短軸114cm、深さ39cmの不整隅丸長方形を呈する。主軸方位はN-77°-E。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

11号土坑（第94図）

【位置】 I区 E-49グリッド

【形態】 長軸146cm、短軸73cm、深さ33cmの長円形を呈する。主軸方位はN-20°-E。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

12号土坑（第94図）

【位置】 II区 C-65グリッド、35号住居と重複関係にある。

【形態・時期】 一部が調査区域外にあり全容は不明であるが、残された部分でみると長軸73cm、短軸55cm、深さ33cmである。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

13号土坑（第94図）

【位置】 II区 I-69グリッド、59~80号ピット群の中にある。

【形態】 長軸148cm、短軸138cm、深さ27cmの隅丸方形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

14号土坑（第94図）

【位置】 II区 H-67・68グリッド、81~86号ピット群の南にある。

【形態】 長軸136cm、短軸110cm、深さ40cmの不整円形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

15号土坑（第94図）

【位置】 II区 E-74・75グリッド、32号住居跡と36号住居跡の間にある。

【形態】 長軸138cm、短軸118cm、深さ30cmの楕円形を呈する

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

16号土坑（第94図）

【位置】 II区 G-61グリッド、39号住居跡の東側にある。

【形態】 長軸93cm、短軸80cm、深さ39cmの不整円形を呈し、北側がなだらかに立ち上がる。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

17号土坑（第94図）

【位置】 II区 G-61グリッド、39号住居跡の東側にある。

【形態】 長軸108cm、短軸92cm、深さ36cmの不整円形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

(4) 集石土坑

集石土坑は調査区西端F-39からG-40グリッドにかけて集中してある。

1号集石土坑（第90図）

【位置】 I区 F-39グリッド

【形態】 土坑の中に拳大ほどの礫が密集してある。土坑の規模・形状は長軸148cm、短軸124cm、深さ55cmの楕円形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。なおこの集石土坑出土炭化材の放射性炭素年代測定では暦年較正年代でcal B C3327-cal B C3093の値を示し、縄文時代中期前半頃に相当する。

2号集石土坑（第90図）

【位置】 I区 G-40グリッド

【形態】 土坑の中に大小の礫が密集してある。土坑の規模・形状は長軸156cm、短軸120cm、深さ52cmの楕円形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

3号集石土坑（第90図）

【位置】 I区 G-39グリッド

【形態】 土坑の中に大小の礫が密集してある。土坑の規模・形状は長軸170cm、短軸120cm、深さ34cmの不整楕円形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

4号集石土坑（第90図）

【位置】 I区 G-39グリッド

【形態】 土坑の中に大小の礫が密集してある。土坑の規模・形状は長軸174cm、短軸132cm、深さ28cmの不整楕円形を呈する。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期は不明である。

(5) 石組遺構

1号石組遺構（第90図）

【位置】 I区 J-57・58グリッド

【形態】 磚群が敷詰められたように検出された。幅3.5m、長さ5mで北東方向に延び、北端は石列となり東方に曲がりその先端は2号石組遺構につながるようである。

【出土遺物・時期】 平安時代土師器壺と思われる破片（第130図466）などが出土している。何らかの建物跡を示すものかと思われるが、遺構の属する時期や性格など詳細は判然としない。

2号石組遺構（第90図）

【位置】 I区 J-58・59グリッド

【形態】 長さ約8mで1号石組遺構の北側石列から続くような形で東に延びる石列である。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期や性格などは不明である。

3号石組遺構（第90図）

【位置】 II区 A-79、B-59グリッド

【形態・時期】 大小の磚で構成される石列が南北方向に2列ないし3列ある。磚は側面を上にして列をなして石組みしたかのようにあり、石列間及び内側には磚が敷かれたようである。石列は北端で東に曲がり全体の形は逆コの字形を呈するが、あるいは東端で南に折れ、口の字状になるのかもしれない。西辺の長さは7.5m、北辺の長さは5.7mを測る。

【出土遺物・時期】 平安時代土師器壺（第130図463・465）、皿（同464・467）の破片などが出土している。何らかの建物跡を示すものかと思われるが、遺構の属する時期を含め詳細は判然としない。

(6) 溝

1号溝（第95図）

【位置】 II区 D-66・67グリッド

【形態・時期】 南北に長い溝である。北端に向かい狭くなり南側は調査区外にある。残存部分でみると長さ3.8m、幅0.7m、深さ6cmを測る。

【出土遺物・時期】 平安時代土師器壊片（第130図462）が出土しているが、遺構の属する時期や性格などは判然としない。

2号溝（第95図）

【位置】 II区 D-67グリッド

【形態】 1号溝北半部東側に1号溝と並行してあり長さ2.7m、幅0.97m、深さ6cmを測る。中央部がくびれており幅は0.54mと狭くなる。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期や性格などは不明である。

3号溝（第95図）

【位置】 II区 C-71~76、D-71~76グリッド

【形態】 28号住居跡の西・北・東を囲むようにある溝である。西辺は長さ8.9m、幅0.9m、深さ4cmであり、東辺は長さ8.0m、幅1.2m、深さ6cmである。北辺は長さ24m、幅1.1m、西半部には暗渠様に小礫がみられる。

【出土遺物・時期】 伴出する遺物はなく、時期や性格などは不明である。

(7) ピット（第91・92・93図）

【位置】 98基のピットが検出されたが、その分布は大きく8群に分けられる。第1はI区4号竪穴遺構と9号住居跡との間にあり、2号・3号・4号・5号住居跡などの周辺にあるもの（4~23号ピット）、第2はI区21号住居跡北側にあるもの（3,29~30,50号ピット）、第3はI区24号住居跡の北東にあるもの（32~49号ピット）、第4はI区8号住居跡と11号住居跡の間にあるもの（52~56号ピット）、第5はII区13号土坑北側にあるもの（59~66, 68~80号ピット）、第6はII区14号土坑北側にあるもの（81~86号ピット）、第7はII区38号住居跡西側・第41号住居跡北側にあるもの（87~92, 103~104号ピット）、第8は36・40号住居跡周辺にあるもの（95~99, 101号ピット）である。

【形態】 形状・規模は様々であり詳細は第8表遺構観察表に記した。

【出土遺物】 第129図、第130図。遺物が出土したピットは少なく、いずれも破片である。18号ピットからは土師器壺（450）、59号ピットからは土師器壊（451）・甕（453）・縁軸陶器皿（452）、63号ピットからは土師器鉢（454）、65号ピットからは土師器甕（455）、70号ピットからは土師器皿（456）、88号ピットからは土師器甕（457）、89号ピットからは土師器甕（458）、94号ピットからは土師器壊（460）・脚高台付壊（459）・灰釉陶器碗（461）などが出土した。

(8) 遺構外出土土器

土師器（第130図468~480、第131図、第132図500~507・509~512、第133図513~515、第137図576~577・579~580）

ほぼ完形に近い壺（475・477・479・481・482・485）以外は、壊、甕、鉢、羽釜、柱状高台付壊、柱状高台付皿などの破片でありいずれも平安時代のものである。577・579・580は極厚手のものであり平安から中世のこね鉢と思われる。

須恵器（第133図516～522、第134図523・531）

壺、甕、鉢、壺甕類などの破片である。

灰釉陶器（第134図524～527・529・530、第137図581）

壺、碗、脚高台皿、壺などの破片である。

綠釉陶器（第134図532）

脚高台付皿の破片である。

表面採集土器（第134図534～539）

平安時代土師器壺、柱状高台付壺、羽釜などの破片である。

(9) 土製品等

カマド支柱（第114図249、第119図313）

249は20号住居跡から、313は27号住居跡から出土したものである。

土錘（第119図312）

27号住居跡から出土したもので貫通孔を持つ。性格は判然としないが土錘としておく。

円盤形小土器（第134図533）

533は遺構外から出土し、土師器片の側縁部がなめらかに調整されたものである。

その他土製品（第124図376）

376は34号住居跡から出土したものである。中央部に穿孔されているが、全体に摩耗しておりその形状は不明である。

(10) 縄文式土器（第135・136図）

豊穴住居跡の覆土及び遺構外から、縄文時代前期後半諸磯B式土器（540～546）・諸磯c式土器（547～549）、前期末（550～552）、中期初頭五領ヶ台式土器（553～566）、中期中葉曾利II式土器（567～568）、後期前葉堀之内式土器（569）、後期中葉加曾利B式土器（570～572）、晚期前半清水天王山式土器（573～574）などの土器片が出土した。

(11) 中世陶器

34号住居跡からおろし皿破片（第124図378）、碗の小破片（同380）、遺構外からこね鉢破片（第132図508）、皿破片（第134図528）などが出土した。

(12) 鉄器・鉄製品（第138図）

刀子（582～583、586、588、601、604）

582は5号住居跡、588は10号住居跡からの出土であり、そのほかは遺構外出土である。

釘 (589～591、593、595、597)

589～591は11号住居跡、593は21号住居跡、595は5号住居跡からの出土であり、そのほかは遺構外出土である。

鎌 (587)

22号住居跡から出土したものである。

板状鉄製品 (584、603)

584は11号住居跡、603は遺構外からの出土である。

棒状鉄製品 (585、592、594、596、598～600、602、605～606、609)

592は13号住居跡、594は22号住居跡、599は11号住居跡、605は13号住居跡から出土した。そのほかは遺構外出土である。

その他 (607・608)

形状・性格不明のものである。

③ 石器

すり石 (第139図610～611)

610は11号住居跡、611は遺構外から出土した。石材は閃緑岩である。

台石 (第139図612、140図613)

612は5号住居跡、613は10号住居跡から出土した。石材は閃緑岩である。

砥石 (第140図614～616、141図617)

614は15号住居跡、615は20号住居跡、616は37号住居跡、617は遺構外から出土した。石材は617が花崗岩であり、そのほかは流紋岩である。

磨製石斧 (第141図618)

618は15号住居跡の貼床下から出土した。石材は緑色凝灰岩である。

打製石斧 (第141～144図623～655)

複型が多いが分銅型、短冊型もみられる。639は1号住居、629・642・648は5号住居、645は9号住居、647は10号住居、631は12号住居、624は15号住居、630は18号住居、626・633は19号住居、643は20号住居から出土した。そのほかは遺構外の出土である。石材は632・637・641・644～645・647～649・651・654～655が粘板岩、653が凝灰岩、そのほかはホルンフェルスである。

石鎌 (第141図619～621)

619は1号住居跡、621は34号住居跡、620は遺構外からの出土であり、石材はいずれも黒曜石である。

実測番号	測定項目	測定場所	内寸	外寸	内寸測定	外寸測定	測定	色調	被覆		地図	資料参考
									口径	高さ		
2 438	42引脚(7×10脚)	平安	上部端	圓	38mm	-	(5.2)	8.5 ナナメアーチ ヘラ形	525YK3-58H 525TR4-58H	白色紙子下地	白	織合 丸板
4 429	42引脚(7×10脚)	平安	上部端	圓	280	(20.4)	ヨコナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	75TR4-58H 75TR4-58H	白色紙子下地	白	70% 織合
3 430	19脚(7×3脚)	平安	上部端	圓	133	3.5	6.5 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR6-8H 37VR6-8H	白色紙子多くて芯	白	65% 織合
2 431	19脚(7×3脚)	平安	上部端	圓	32.0	(7.0)	- ナメアーチ ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	内 SYR4-44-58 外 SYR4-44-58	白色紙子下地	白	織合 丸板
1 432	19脚(7×3脚)	平安	上部端	圓	23.0	(3.4)	- ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR5-8H 37VR5-8H	白色紙子下地	白	織合 丸板
4 433	29引脚(7×4脚)	平安	上部端	圓	-	(1.8)	6.2 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR6-6H 37VR6-6H	白色紙子多くて芯	白	織合 丸板
6 434	29引脚(7×4脚)	平安	上部端	不規	-	(0.9)	3.1 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	75TR3-9H 75TR3-9H	白色紙子、2列目、黒く見える細粒	白	織合 丸板
5 435	29引脚(7×4脚)	平安	上部端	圓	-	(2.4)	- ナメアーチ ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR4-44-58 37VR4-44-58	白色紙子、2列目	白	織合 丸板
7 436	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	-	(1.8)	6.0 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR5-6H 37VR5-6H	白色紙子多くて芯	白	織合 丸板
9 437	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	-	(2.8)	8.0 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR5-6H 37VR5-6H	白色紙子下地	白	20% 織合
10 438	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	-	(1.5)	- ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR5-7H 37VR5-7H	白色紙子下地	白	織合 丸板
12 439	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	20.0	(11.1)	- ナメアーチ ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	外 SYR4-44-58 外 SYR4-44-58	白色紙子、長方形	白	織合 丸板
8 441	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	19.0	(3.5)	- ナメアーチ ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	内 SYR4-44-58 内 SYR4-44-58	白色紙子、長方形	白	織合 丸板
13 442	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	20.0	(5.5)	- ナメアーチ ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	内 SYR4-44-58 内 SYR4-44-58	白色紙子、長方形	白	織合 丸板
14 443	40引脚(7×6脚)	平安	上部端	圓	30.0	(5.3)	- ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR6-10H 37VR6-10H	白色紙子、2列目	白	織合 丸板
1 444	40引脚(7×6脚)	平安	上部端	圓	-	(1.0)	5.2 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR6-8H 37VR6-8H	白色紙子多くて芯	白	25% 織合
5 445	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	-	(1.9)	4.0 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR5-8H 37VR5-8H	白色紙子多くて芯	白	14.6% 織合
4 446	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	9.6	3.0	4.0 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR6-4C-53 37VR6-4C-53	淡薄色	白	60% 織合
3 447	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	32.0	(9.3)	- ナメアーチ ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	57VR5-8H 57VR5-8H	白色紙子下地	白	織合 丸板
1 448	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	-	(4.8)	12.2 ナメアーチ ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	57VR5-6H 57VR5-6H	白色紙子、2列目	白	織合 丸板
2 449	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	32.0	(0.6)	- ナメアーチ ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	57VR5-8H 57VR5-8H	白色紙子下地	白	織合 丸板
1 450	18引脚(2ト	平安	上部端	圓	-	(3.0)	7.0 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	10YR6-4C-53 10YR6-4C-53	淡薄色	白	0% 織合
3 451	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	-	(1.2)	5.0 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	75YR7-6H 75YR7-6H	白色紙子下地	白	織合 丸板
2 452	39引脚(7×5脚)	平安	縦輪開き端	圓	-	(1.5)	- ナメアーチ ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	37VR7-2H 37VR7-2H	淡薄色	白	織合 丸板
4 453	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	36.0	(8.3)	- ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	10YR7-6H 10YR7-6H	白色紙子、2列目	白	織合 丸板
5 454	39引脚(7×5脚)	平安	上部端	圓	26.8	(6.8)	- ナメアーチ ナメアーチ 直角形	ナメアーチ タテナメアーチ 直角形	内 SYR4-44-58 内 SYR4-44-58	白色紙子、長方形	白	織合 丸板
6 455	65引脚(2ト	平安	上部端	圓	-	(11.3)	3.0 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	25YR6-8H 25YR6-8H	白色紙子多くて芯	白	織合 丸板
7 456	70引脚(2ト	平安	上部端	圓	11.0	1.4	6.0 ヨコナメアーチ 直角形	ヨコナメアーチ タテナメアーチ 直角形	75VR6-8H 75VR6-8H	白色紙子下地	白	織合 丸板

実測番号	測量月日	測量	内寸	外寸	高さ	幅	奥行き	表面調質	色調	被上		地図	資料番号	備考
										内寸	外寸			
8 457	98/9/27	平安	上998	横	-	(2.2)	8.0	2.5TR4.6粉刷色	白(白色粒子、5mm×2mm石子)C	直	607	反転		
9 458	98/9/27	平安	上998	横	-	(2.9)	-	3TR4.6粉刷色	砂、石、瓦石D	直	607	反転		
12 459	98/9/27	平安	上998	脚高台付	-	(2.5)	7.8	ロクロナガ、黒(黒)	白(白色粒子、砂)C	直	2076			
11 460	98/9/27	平安	上998	横	-	(3.4)	-	3TR4.6粉刷色	白(白色粒子、砂)C	直	607	反転		
10 461	98/9/27	平安	上998	脚高台付	-	(5.5)	8.6	黒(黒)付底面	3TR4.6粉刷色	直	3076	反転		
1 462	98/9/27	平安	上998	横?	-	(1.4)	-	ロクロナガ	3TR5.6粉刷色	直	607	反転		
4 463	98/9/27	平安	上998	横?	-	(1.6)	-	ロクロナガ	3TR5.6粉刷色	直	607	反転		
5 464	98/9/27	平安	上998	横?	-	(1.1)	-	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	2077	反転		
3 465	98/9/27	平安	上998	横?	-	(2.3)	-	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	607	反転		
1 466	98/9/27	平安	上998	横?	-	(1.9)	5.6	ロクロナガ、△彫刻	3TR6.6粉刷色	直	607	反転		
2 467	98/9/27	平安	上998	横?	-	(1.0)	-	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	607	反転		
5 468	98/9/27	平安	上998	横?	-	(2.3)	-	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	2077	反転		
1 469	98/9/27	平安	上998	横?	-	(4.3)	-	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	607	反転		
3 470	98/9/27	平安	上998	横?	-	(3.0)	-	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	703	一般反転		
2 471	98/9/27	平安	上998	脚高台	-	(4.5)	-	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	607	反転		
4 472	98/9/27	平安	上998	横?	-	(5.8)	-	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	607	反転		
5 473	98/9/27	平安	上998	横?	-	(8.4)	4.4	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	4076	一般反転		
16 474	98/9/27	平安	上998	横?	-	(10.6)	3.1	ロクロナガ、底面	3TR6.6粉刷色	直	4076	一般反転		
35 475	98/9/27	平安	上998	横?	-	(10.3)	2.4	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	607	反転		
34 476	98/9/27	平安	上998	横?	-	(10.2)	(2.85)	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	435			
56 477	98/9/27	平安	上998	横?	-	(11.2)	3.1	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	607	反転		
18 478	98/9/27	平安	上998	横?	-	(11.0)	3.3	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	2076	反転		
52 479	98/9/27	平安	上998	横?	-	(11.5)	3.8	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	607	反転		
10 480	98/9/27	平安	上998	横?	-	(12.0)	2.9	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	4076	反転		
47 481	98/9/27	平安	上998	横?	-	(12.9)	6.4	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	8076	一般反転		
65 482	98/9/27	平安	上998	横?	-	(11.8)	3.6	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	9076			
53 483	98/9/27	平安	上998	横?	-	(11.2)	3.6	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	6076			
17 484	98/9/27	平安	上998	横?	-	(14.4)	3.5	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	435	反転		
48 485	98/9/27	平安	上998	横?	-	(11.6)	(3.7)	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	8076			
60 486	98/9/27	平安	上998	横?	-	(13.0)	4.3	ロクロナガ	3TR6.6粉刷色	直	6076			

采集番号	科属種名	通稱	肉眼	構造	形質	外因測量 (mm)	内因測量 (mm)	固有	色調		地質	質地	備考		
									外因測量 輪郭切り縁	内因測量 輪郭切り縁					
7 487	道外	平安	上油路	坪	-	(2.2)	6.7	6.7	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色粒子多く含む	良	40%	灰化
14 488	道外	平安	上油路	柱状風化面	-	(3.7)	8.4	8.2	ロクロナデ	ロクロナデ	密	白色粒子多く含む	良	80%	一般灰化
30 490	道外	平安	上油路	脚風化面	-	(3.1)	8.2	8.2	ロクロナデ	ロクロナデ	細緻	白色粒子多く含む	良	30%	一般灰化
55 490	道外	平安	上油路	柱状風化面	11.4	2.2	4.4	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ	少少粗	白色粒子、水色粒子	良	30%	一般灰化
3 491	道外	平安	上油路	柱状風化面	-	(3.6)	5.0	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ	少少粗	白色粒子、乳白色子、長石	良	30%	灰化
15 492	道外	平安	上油路	柱状風化面	-	(2.6)	5.4	5.4	ロクロナデ	ロクロナデ	少少粗	白色粒子	良	45%	灰化
12 493	道外	平安	上油路	柱状風化面	8.4	3.0	5.0	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ	少少粗	白色粒子、水色粒子多く含む	良	70%	灰化
1 494	道外	平安	上油路	柱状風化面	-	(3.6)	4.0	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ	少少粗	白色粒子、水色粒子	良	20%	一般灰化
49 495	道外	平安	上油路	柱状風化面	-	(4.0)	6.0	6.0	ロクロナデ	ロクロナデ	少少粗	白色粒子、水色粒子、9%多く	良	30%	灰化
21 496	道外	平安	上油路	鐵	31.7	(3.4)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子	良	60%	灰化
61 497	道外	平安	上油路	鐵	29.0	(7.9)	-	-	タチナデ	タチナデ	少少粗	白色粒子	良	60%	灰化
31 498	道外	平安	上油路	小山塊	11.5	(4.4)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子多く含む	良	60%	灰化
28 499	道外	平安	上油路	鐵	-	(9.6)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子、水色粒子	良	60%	灰化
8 500	道外	平安	上油路	鐵	19.0	(10.2)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子、2%、長石	良	60%	灰化
66 501	道外	平安	上油路	鐵	24.0	(10.2)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子多く含む	良	60%	灰化
19 502	道外	平安	上油路	鐵	32.0	(9.0)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子、2%	良	60%	灰化
42 503	道外	平安	上油路	鐵	-	(4.6)	14.0	14.0	ロクロナデ	ロクロナデ	少少粗	白色粒子、2%	良	60%	灰化
6 504	道外	平安	上油路	鐵	-	(2.3)	10.2	10.2	ナデ	ナデ	少少粗	内 5%BC(0.9)外 5%BC、褐色	良	60%	灰化
33 505	道外	平安	上油路	鐵	-	(4.6)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子	良	60%	灰化
32 506	道外	平安	上油路	鐵	-	(2.7)	8.0	8.0	ナデ	ナデ	少少粗	白色粒子、2%?	良	60%	灰化
13 507	道外	平安	上油路	鐵	-	(2.5)	8.0	8.0	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子、2%?	良	60%	灰化
62 508	道外	中性	陶器	ごみ	33.6	(7.6)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子、2%?	良	60%	一般灰化
11 509	道外	平安	上油路	鐵	-	(3.6)	8.2	8.2	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子	良	60%	灰化
63 510	道外	平安	上油路	泥炭	23.0	(4.3)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	少少粗	白色粒子、2%?	良	60%	灰化
67 511	道外	平安	上油路	泥炭	27.0	11.3	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子	良	60%	灰化
29 512	道外	平安	上油路	鐵	-	(4.6)	10.0	10.0	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子、2%?	良	60%	灰化
41 513	道外	平安	上油路	泥炭	28.0	(9.2)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子、2%?	良	60%	灰化
20 514	道外	平安	上油路	泥炭	31.6	(7.6)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子、2%?	良	60%	灰化
59 515	道外	平安	上油路	鐵	32.0	(6.9)	-	-	タチハヤ	タチハヤ	少少粗	白色粒子多く含む	良	60%	灰化
51 516	道外	平安	油田路	-	16.0	(4.2)	-	-	-	-	少少粗	2.5%BC(2.6)褐色	良	60%	灰化

采药地名	科属	花期	内质	外质	内质	外质	内质	外质	内质	外质	产地	特征	参考
26 517 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	淡绿 淡绿	口径 口径	深绿 深绿	口径 口径	深绿 深绿	外面浅黄 底有红斑, 叶缘有红斑,	外面浅黄 底有红斑, 叶缘有红斑,	密 密	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
54 518 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(1.5)	7.8	— —	0.0785/25白色	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
23 519 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(13.2)	— —	— —	粉红叶状花序, 粉红叶状花序	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
9 520 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(15.5)	— —	— —	淡紫 淡紫	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
58 521 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(6.5)	— —	— —	淡紫 淡紫	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
39 522 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(12.3)	— —	— —	淡紫 淡紫	NS灰色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
4 523 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(0.3)	— —	— —	淡紫 淡紫	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
24 524 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(3.8)	— —	— —	淡紫 淡紫	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
2 525 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(1.5)	5.8	— —	粉红叶状花序, 粉红叶状花序	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
25 526 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(2.2)	8.3	— —	粉红叶状花序, 粉红叶状花序	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
37 527 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(3.6)	15.4	— —	粉红叶状花序, 粉红叶状花序	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
44 528 道外 中世	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(1.9)	— —	— —	粉红叶状花序, 粉红叶状花序	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
38 529 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	绿 绿	— —	(6.3)	— —	— —	粉红叶状花序, 粉红叶状花序	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
27 530 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	肥 肥	0.9	(4.7)	1.35	— —	— —	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
22 531 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	肥 肥	— —	(8.0)	— —	— —	— —	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
57 532 道外 平安	豆科 豆科	初夏 初夏	肥 肥	— —	(11.8)	2.4	— —	粉红叶状花序, 粉红叶状花序	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
68 上製品 道外野生	豆科 豆科	平安	上制 上制	— —	— —	— —	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
4 534 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	16.0	15.0	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
5 535 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	16.0	(3.9)	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
1 536 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	8.8	3.3	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
2 537 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	27.0	(3.8)	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
6 538 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	(2.4)	6.2	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
3 539 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	28.2	(8.0)	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
1 540 539 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	(5.8)	— —	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
2 541 540 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	(4.5)	— —	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
3 542 545 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	(4.0)	— —	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
5 543 546 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	(4.4)	— —	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
6 544 547 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	(3.7)	— —	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
7 545 549 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	(4.0)	— —	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
4 546 549 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	(4.2)	— —	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密
8 547 549 道外 平安	豆科 豆科	上制 上制	肥 肥	— —	(0.3)	— —	— —	粉红形小花上 粉红形小花上	2.57/19白色	良	浅叶— 密	浅叶— 密	浅叶— 密

発見番号	標本番号	種類	固有	相列	深場	口唇	頭部	外因頭部	頭部	色調		地上	地表	現存率	備考
										外因頭部	内因頭部				
9	548	1,607.4ミリ	羅文時代頭骨	羅文式上唇	深井	+	(7.6)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
10	549	1,607.4ミリ	羅文時代頭骨 復元	羅文式上唇	深井	-	(6.8)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
11	550	1,597.4ミリ	羅文時代頭骨	羅文式上唇	深井	-	(5.5)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
12	551	1,532.9ミリ	羅文時代頭骨	羅文式上唇	深井	-	(3.0)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
13	552	1,607.4ミリ	羅文時代頭骨	羅文式上唇	深井	-	(4.8)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
15	553	10.3分厚7.0幅6.8 初期頭	羅文式上唇	深井	-	(3.2)	-	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
19	554	1,587.4ミリ	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(1.7)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
18	555	10.3分厚6.8幅6.8 初期頭	羅文式上唇	深井	-	(3.4)	-	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
22	556	1,467.4ミリ	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(2.9)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
23	557	1,546.7ミリ	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(4.4)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
14	558	3.3分厚6.7幅6.8 初期頭	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(3.9)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
17	559	7.9分厚7.3幅6.8 初期頭	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(3.4)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
16	560	10.3分厚7.0幅6.8 初期頭	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(3.8)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
20	561	1,474.7ミリ	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(4.8)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
26	562	10.3分厚7.0幅6.8 初期頭	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(3.6)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
24	563	1,577.4ミリ	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(5.4)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
25	564	1,487.4ミリ	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(3.8)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
27	565	1,512.7ミリ	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(4.2)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
21	566	8.9分厚7.3幅6.8 中期頭	羅文式上唇	羅文式上唇	浅井	-	(4.7)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
28	567	0.45ミリ	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(5.3)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
29	568	1,454.7ミリ	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(5.8)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
30	569	2.5分厚7.0幅6.8 初期頭	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(7.4)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	高微c
31	570	1.60-1.61	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(6.6)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	加利B
32	571	1.61分厚7.0幅6.8 中期	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(7.7)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	加利B
33	572	1,537.4ミリ	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(0.9)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	加利B
34	573	10.3分厚7.0幅6.8 中期	羅文式上唇	羅文式上唇	深井	-	(4.0)	-	-	5784-44-5-1の赤褐色	やや暗い 赤褐色	長石、石英むら	白	細片	加利B

采样点号	剖面图	地层	岩性	颗粒	溶蚀	冲积	冲积(cm)	外溢冲积	冲积	冲积(cm)	外溢冲积	冲积	冲积(cm)						
35 574	1.50m/1.77m	层状 风化壳代冲积 的下部	风化壳代冲积	漂砾	-	(3-4)	-	冲积冲积带	冲积冲积带	冲积冲积带	冲积冲积带	冲积冲积带	冲积冲积带	冲积冲积带	冲积冲积带	冲积冲积带	冲积冲积带	冲积冲积带	
64 575	道外	风化壳代冲积	风化壳代冲积	砾	-	(6.0)	-	冲积带	冲积带	冲积带	冲积带	冲积带	冲积带	冲积带	冲积带	冲积带	冲积带	冲积带	
36 576	道外	平原	冲积	冲积	-	(4.2)	8.0	~>冲积带?	~>冲积带?	~>冲积带?	~>冲积带?	~>冲积带?	~>冲积带?	~>冲积带?	~>冲积带?	~>冲积带?	~>冲积带?	~>冲积带?	
40 577	道外	平原~中积	上淤泥	冲积	29.8	(11.4)	-	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	
45 578	道外	低洼	冲积	冲积	-	(3.0)	7.4	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	
43 579	道外	平原~中积	上淤泥	冲积	22.0	(4.2)	-	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	
46 580	道外	平原~中积	上淤泥	冲积	-	(4.8)	-	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	
50 581	道外	平原	冲积带?	冲积	-	(5.0)	11.6	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	冲积带?	

土制品勘察表

采样点号	剖面图	地层	岩性	颗粒	溶蚀	冲积	冲积(cm)	外溢冲积	冲积	冲积(cm)	外溢冲积	冲积	冲积(cm)						
12 249	20170713008	平原	漂砾	冲积	冲积	8.7	3.05	3	冲积	冲积	冲积	冲积	冲积	冲积	冲积	冲积	冲积	冲积	冲积
6 312	271707131008	平原	上冲积	冲积?	冲积?	8.6	6.6	6.4	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?
7 313	271707131008	平原	上冲积	冲积?	冲积?	6.5	4.2	3.7	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?
14 376	2409170713008	平原	上冲积	冲积?	冲积?	2.5	2.5	0.7	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?
68 533	道外	平原	上淤泥	冲积?	冲积?	4.0	3.8	1.1	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?	冲积?

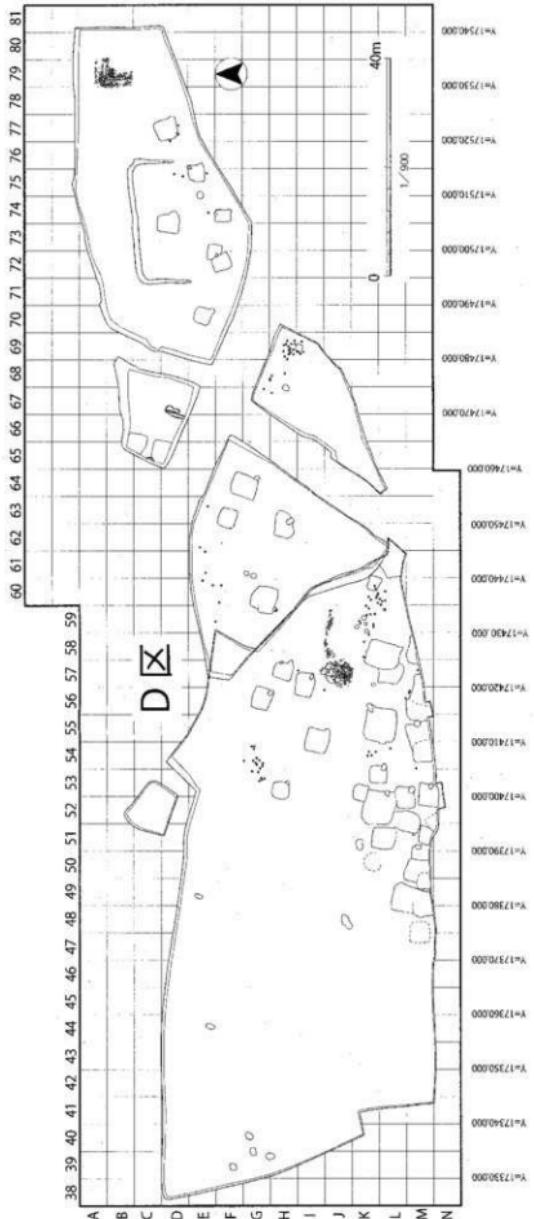
鉄製品観察表

捕図番号	遺構	種別	器種	寸法: cm			注記	備考
				最大長	最大幅	最大厚		
582	5号竪穴住居跡	鉄製品	刀子	(8.15)	1.07	0.53	39023	
583	調査区	鉄製品	刀子	(10.4)	1.5	0.5	39022	
584	11号竪穴住居跡	鉄製品	板状鉄製品	(4.2)	1.8	0.65	39032	
585	調査区	鉄製品	棒状鉄製品	(0.57)	0.15	0.05	39044	
586	N-52 グリッド	鉄製品	刀子	(6.2)	1.5	0.65	39042	
587	22号竪穴住居跡	鉄製品	鍔	(12.7)	3.0	1.15	39038	
588	10号竪穴住居跡	鉄製品	刀子	14.76	1.13	0.9	39025	
589	11号竪穴住居跡	鉄製品	釘	(3.5)	0.65	0.65	39029	
590	11号竪穴住居跡	鉄製品	釘	(6.9)	0.7	0.65	39030	
591	11号竪穴住居跡	鉄製品	釘	7.6	0.7	0.75	39027	
592	13号竪穴住居跡	鉄製品	棒状鉄製品	4.86	0.55	0.58	39033	
593	21号竪穴住居跡	鉄製品	釘	(5.7)	0.6	0.5	39037	
594	22号竪穴住居跡	鉄製品	棒状鉄製品	6.1	0.7	0.65	39039	
595	5号竪穴住居跡	鉄製品	釘	(4.5)	0.6	0.55	39041	
596	調査区	鉄製品	棒状鉄製品	5.3	0.9	0.9	39026	
597	調査区	鉄製品	釘	(4.4)	0.75	0.5	39045	
598	調査区	鉄製品	棒状鉄製品	(4.95)	0.77	0.75	39046	
599	11号竪穴住居跡	鉄製品	棒状鉄製品	(3.95)	0.4	0.4	39031	
600	調査区	鉄製品	棒状鉄製品	(4.73)	0.65	0.62	39047	
601	調査区	鉄製品	刀子	(6.35)	1.5	0.45	39035	
602	調査区	鉄製品	棒状鉄製品	(5.66)	0.87	0.55	39036	
603	調査区	鉄製品	板状鉄製品	4.2	1.5	0.4	39021	
604	調査区	鉄製品	刀子 ?	(3.4)	0.7	0.4	39024	
605	13号竪穴住居跡	鉄製品	棒状鉄製品	(4.71)	0.71	1.6	39034	
606	調査区	鉄製品	棒状鉄製品	(5.26)	2.25	1.1	39048	
607	11号竪穴住居跡	鉄製品	?	3.4	3.8	2.4	39028	
608	23号竪穴住居跡	鉄製品	?	5.37	4.27	2.53	39040	
609	N-52 グリッド	鉄製品	棒状鉄製品	3.97	3.2	1.54	39043	

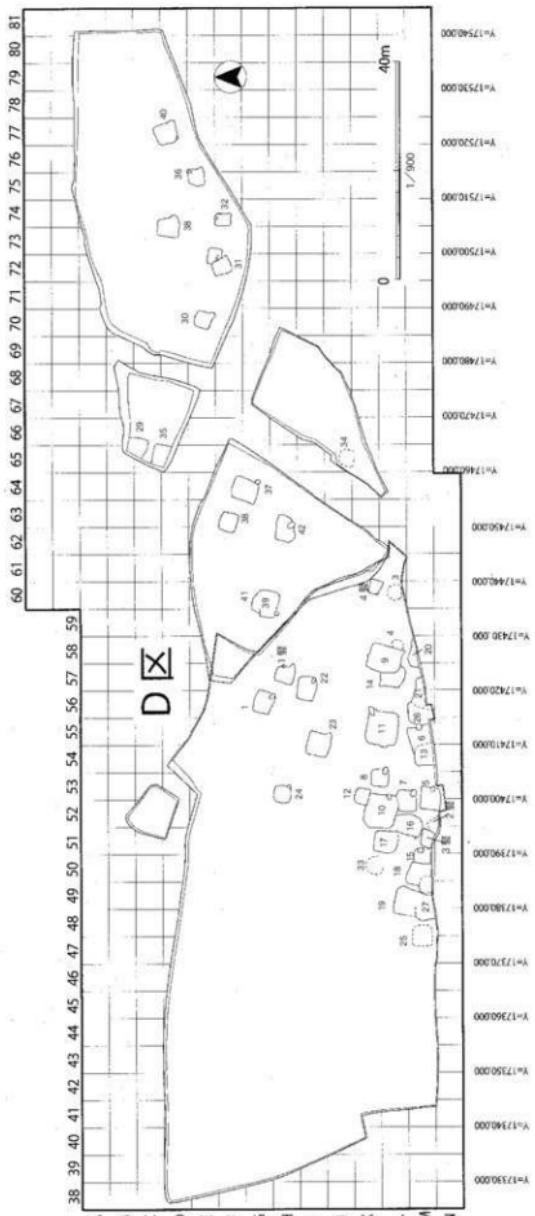
石器観察表

資料番号	捕図番号	遺構名	器種	石材	寸法 (cm)				状態	S番号
					長さ	幅	厚み	重量 (g)		
1	610	11号竪穴住居跡	すり石	閃緑岩	14.86	8.56	6.42	1274.0	完形	S-1
2	611	グリッド一括	すり石	閃緑岩	14.87	7.64	5.23	899.8	完形	S-397
3	612	5号竪穴住居跡	台石	閃緑岩	23.28	17.5	10.13	6600.0	欠損	S-3
4	613	10号竪穴住居跡	台石	閃緑岩	20.2	22.13	8.96	6077.9	欠損	
5	614	15号竪穴住居跡	砥石	流紋岩	12.85	5.46	5.6	289.1	欠損	S-3
6	615	20号竪穴住居跡	砥石	流紋岩	8.4	3.67	3.69	99.6	完形	S-1
46	616	37号竪穴住居跡	砥石	花崗岩	24.2	13.2	6.6	24000.0	完形	S-2
7	617	グリッド一括	砥石	流紋岩	10.46	4.49	1.63	122.8	完形	S-2
8	618	15号竪穴住居跡	磨製石斧	緑色凝灰岩	18.35	5.91	3.11	546.5	欠損	S-2
9	619	1号竪穴住居跡	石礫	黒曜石	1.51	1.11	0.26	0.4	欠損	
11	620	K-51 グリッド	石礫	黒曜石	1.86	1.35	0.3	0.5	欠損	
10	621	34号竪穴住居跡	石礫	黒曜石	2.2	1.4	0.44	1.0	欠損	
45	622	グリッド一括	剥片	水晶	1.54	0.84	0.44	0.6	完形	
27	623	J-57 グリッド	打製石斧	ホルンフェルス	7.15	3.65	1.23	26.3	欠損	

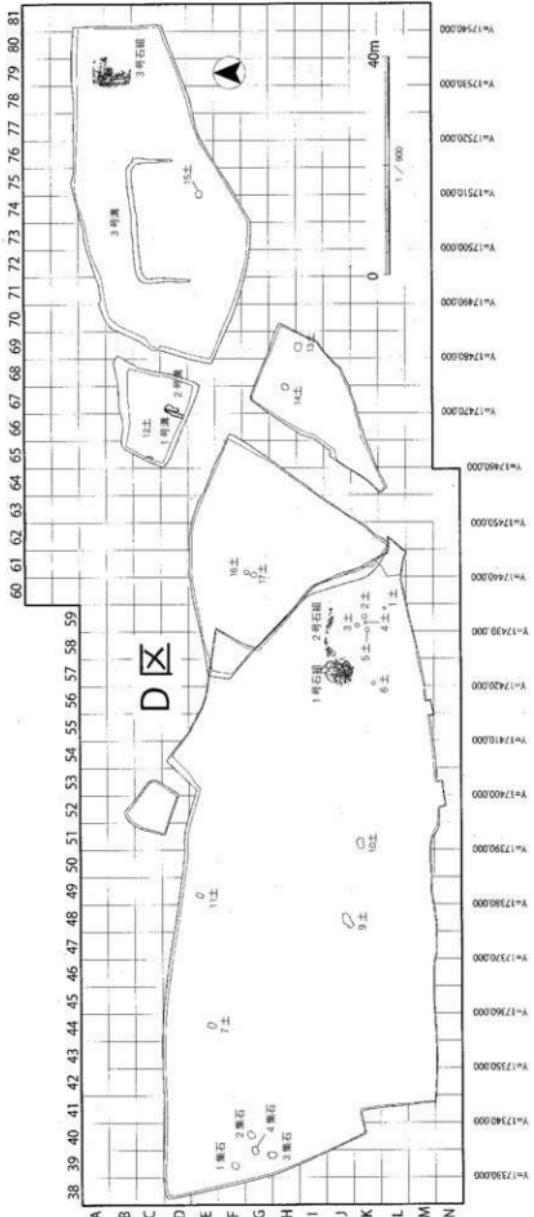
資料番号	挿図番号	遺構名	器種	石材	寸法 (cm)				状態	S番号
					長さ	幅	厚み	重量 (g)		
18	624	15号竪穴住居跡	打製石斧	ホルンフェルス	7.42	4.54	1.18	46.6	完形	
24	625	5号竪穴住居周辺	打製石斧	ホルンフェルス	8.49	3.93	1.31	47.1	完形	
28	626	19号竪穴住居跡	打製石斧	ホルンフェルス	9.14	3.45	1.2	37.6	完形	S-1
21	627	K-53グリッド	打製石斧	ホルンフェルス	10.15	4.76	1.27	71.2	完形	
29	628	表探	打製石斧	ホルンフェルス	8.69	4.81	1.56	72.5	完形	
15	629	5号竪穴住居跡	打製石斧	ホルンフェルス	8.21	4.29	1.33	55.2	完形	
22	630	18号竪穴住居跡	打製石斧	ホルンフェルス	6.9	4.13	1.2	37.7	完形	
31	631	12号竪穴住居跡	打製石斧	ホルンフェルス	9.3	5.17	1.02	51.5	欠損	
17	632	M-57グリッド	打製石斧	粘板岩	8.72	5.81	1.1	56.5	欠損	
19	633	19号竪穴住居跡	打製石斧	ホルンフェルス	7.97	5.58	1.39	54.3	完形	S-2
13	634	J-54グリッド	打製石斧	ホルンフェルス	9	4.78	1.3	62.1	完形	
23	635	K-52グリッド	打製石斧	ホルンフェルス	8.61	4.35	1.05	43.1	欠損	
14	636	J-54グリッド	打製石斧	ホルンフェルス	9.05	4.38	1.12	44.7	完形	
30	637	J-60グリッド	打製石斧	粘板岩	9.52	5.46	1.28	78.2	欠損	S-19
16	638	L-50グリッド	打製石斧	ホルンフェルス	11.33	5.08	1.27	92.2	完形	
43	639	1号竪穴住居跡	打製石斧	ホルンフェルス	10.76	4.96	1.92	144.2	欠損	S-1
20	640	8号竪穴住居周辺	打製石斧	ホルンフェルス	9.83	3.95	1.29	64.2	完形	
34	641	H-53グリッド	打製石斧	粘板岩	11.17	3.86	1.36	51.2	完形	
26	642	5号竪穴住居跡	打製石斧	ホルンフェルス	10.63	4.89	1.07	64.2	完形	
35	643	20号竪穴住居跡	打製石斧	ホルンフェルス	12.16	4.95	1.64	100.2	完形	
12	644	39号レンチ	打製石斧	粘板岩	10.65	5.63	1.12	69.8	完形	
25	645	9号竪穴住居跡	打製石斧	粘板岩	9.51	6.37	1.52	92.2	完形	
32	646	グリッド一括	打製石斧	ホルンフェルス	11.38	5.93	1.39	97.4	完形	S-6
39	647	10号竪穴住居跡	打製石斧	粘板岩	11.36	5.95	1.98	122.0	欠損	
36	648	5号竪穴住居跡	打製石斧	粘板岩	10.85	6.63	1.9	137.8	欠損	
33	649	L-59グリッド	打製石斧	粘板岩	10.64	7	1.83	177.8	完形	S-22
40	650	表探	打製石斧	ホルンフェルス	12.22	5.62	1.3	117.5	欠損	
38	651	表探	打製石斧	粘板岩	15.1	5.68	2.57	248.1	完形	
41	652	表探	打製石斧	ホルンフェルス	14.29	7.15	3.05	349.4	欠損	
42	653	グリッド一括	打製石斧	凝灰岩	12.05	9.72	3.86	411.6	未成品	S-5
37	654	M-52グリッド	打製石斧	粘板岩	13.95	6.02	1.76	172.9	欠損	
44	655	G-51グリッド	横刃形石斧	粘板岩	8.59	4.25	1.03	39.9	完形	S-13



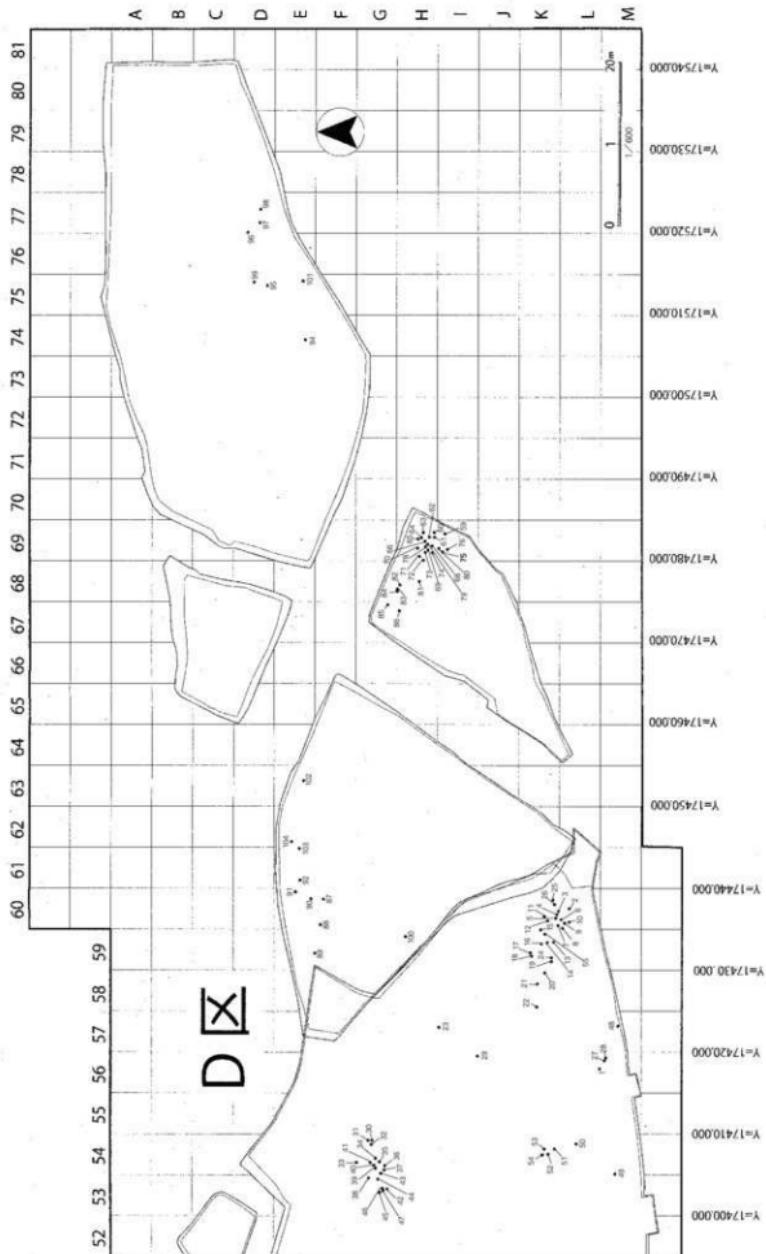
第54図 脇棚D区遺構全体図



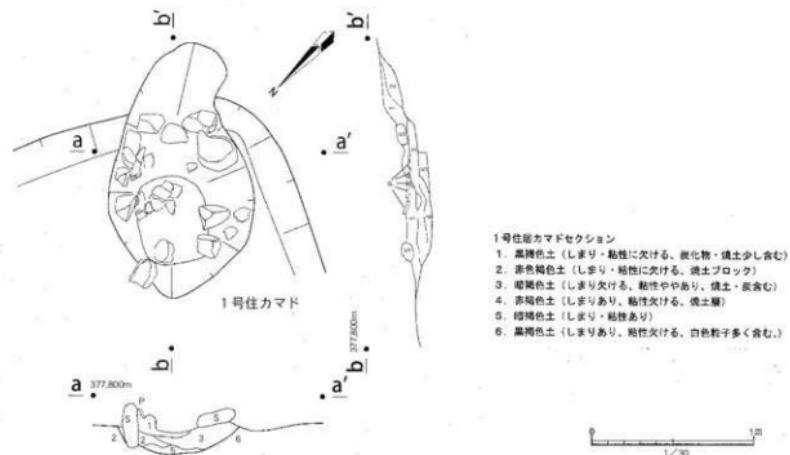
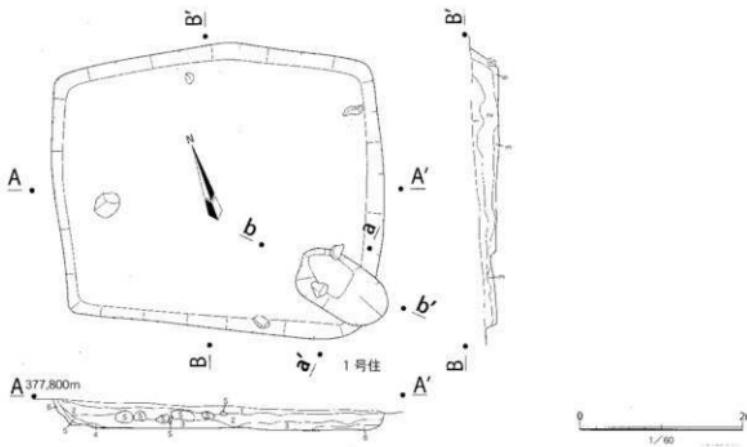
第55図 謄櫛D区 壇穴住居跡・壇穴遺構配置図



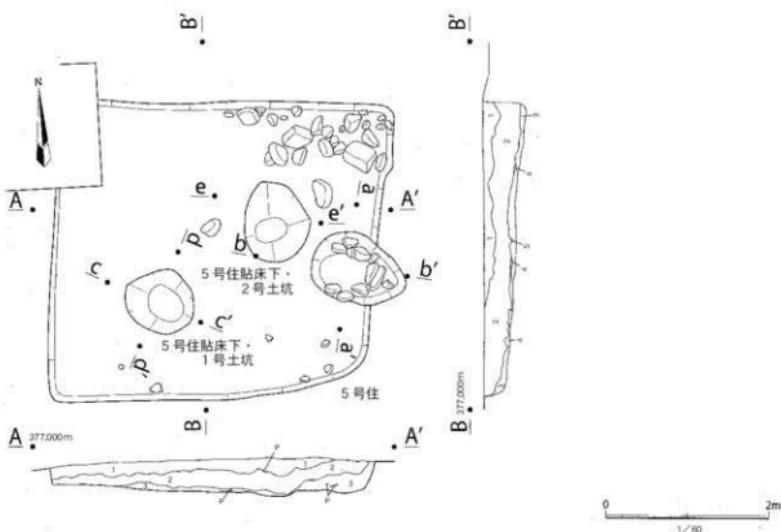
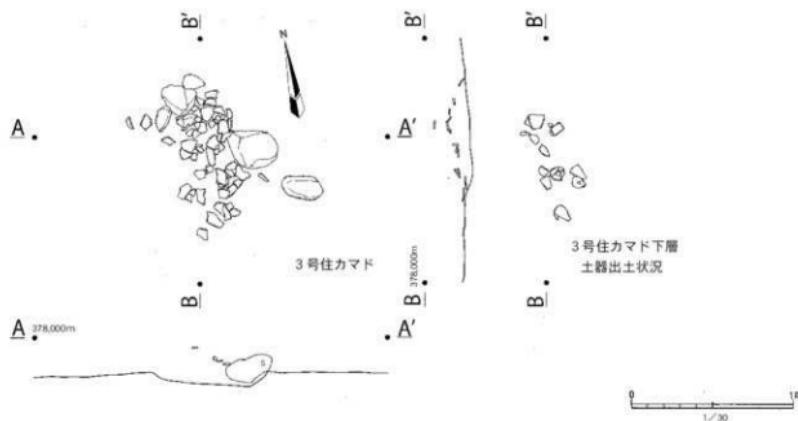
第56図 脇棚D区 土坑・集積土坑・石組遺構・溝配置図



第57図 諸標D区 ピット配置図



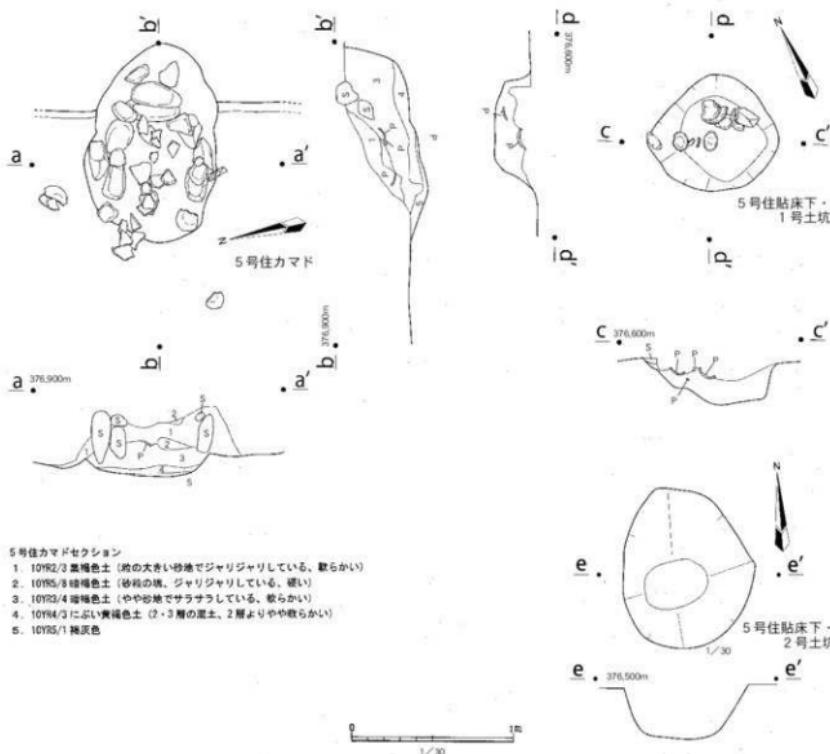
第58図 1号住居跡



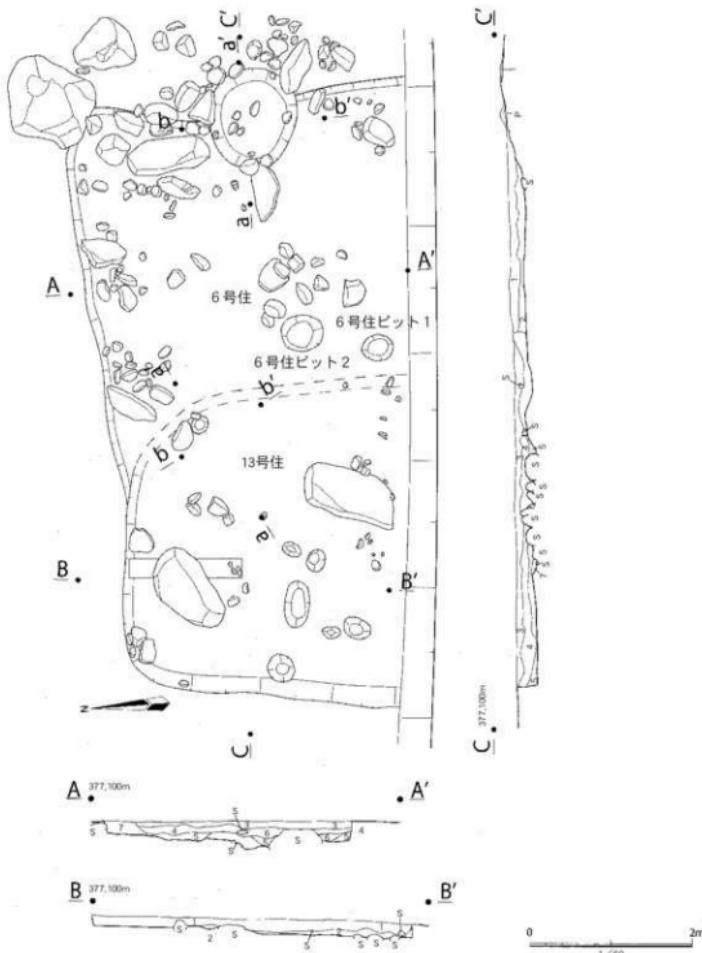
5号住セクション

1. 10YR3/3 細褐色土（白い砂粒を多量に含む、しまりあり、ジャリジャリしている）
2. 2.5Y3/2 黒褐色土（白い砂粒を含む、1層よりもサラサラしている）
3. 2.5Y3/2 黒褐色土（白い砂粒をわずかに含む、非常に軟らかくサラサラしている、スポット的に4層を含む）
4. 10YR2/4 細褐色土（しまりあり、粘性やあります）

第59図 3号住居跡カマド、5号住居跡



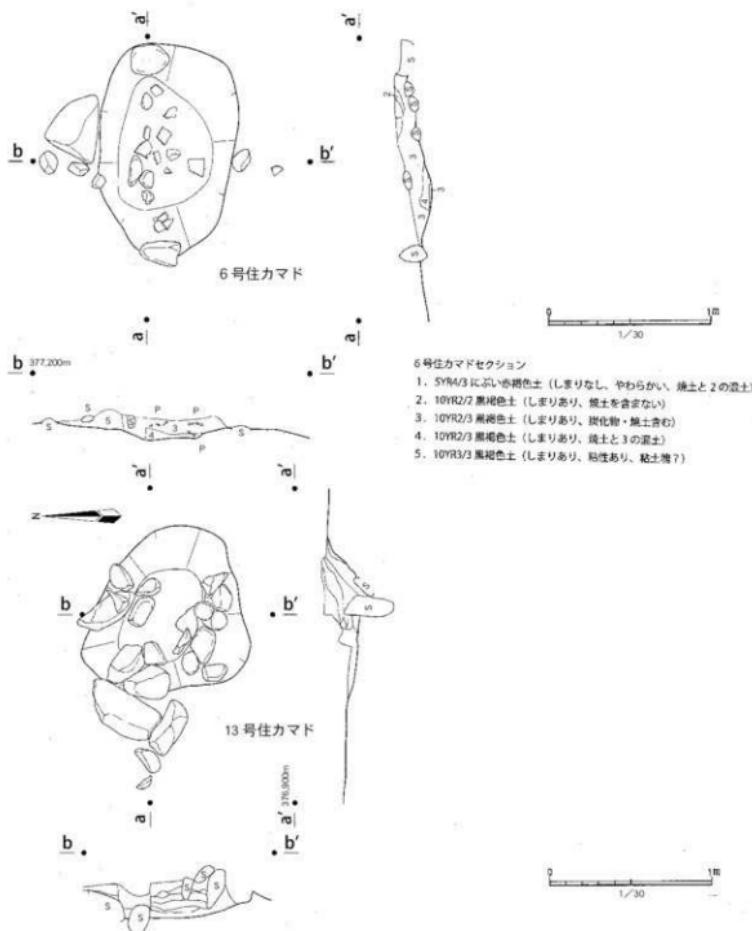
第60図 5号住居跡カマド・貼床下土坑



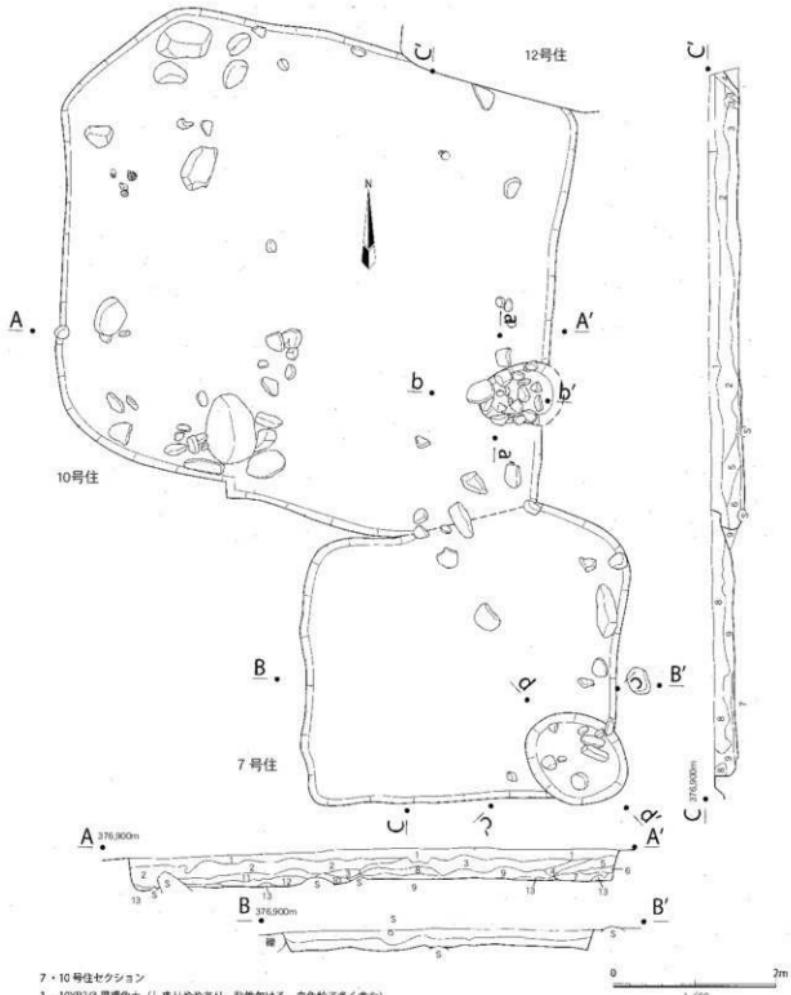
6・13号住セクション

1. 10YR2/3 黒褐色土 (白色の砂粒を少々含む、砂質で軟らかく、若干ノサバサしている)
2. 10YR3/3 暗褐色土 (白色的砂粒を少々含む、砂質で軟らかく、1番よりもノサバサ感が強い)
3. 10YR3/3 暗褐色土 (白色的砂粒を大量に含む、しまりが強く、非常に硬い)
4. 10YR2/2 黒褐色土 (白色的砂粒を含む、しまりがあり、硬い)
5. 10YR3/4 暗褐色土 (白色的砂粒をほとんど含まない、砂地で軟らかい、褐色の土をブロック状に含む)
6. 10YR4/6 褐色土 (白色的砂粒を多く含む、砂地で硬く、ジャリジャリしている。5番に入っているブロック状の土と同様)
7. 10YR2/2 黑褐色土 (白色的砂粒を含まない、砂地で軟らかく、サラサラしている、地山)

第61図 6号住居跡、13号住居跡



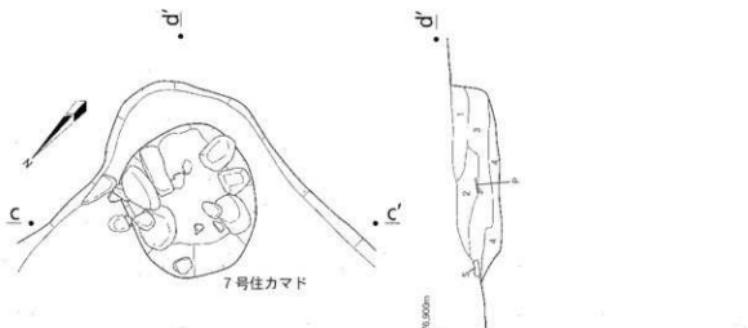
第62図 6号住居跡カマド、13号住居跡カマド



7・10号住セクション

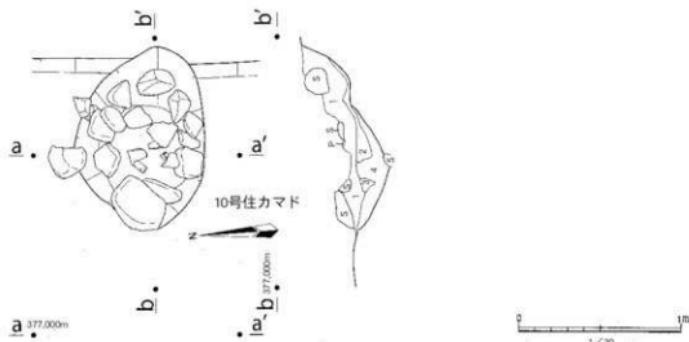
1. 10YR2/3 黒褐色土 (しまりややあり、粘性欠ける、白色粒子多く含む)
2. 10YR3/2 黒褐色土 (しまりやや欠け、粘性欠ける、白色粒子1層より減る、炭化物径2cmのものも入る、堆土少ない)
3. 10YR3/2 黒褐色土 (しまりやや欠け、粘性欠ける、白色粒子さらに減る、炭化物も減るが含まれる、堆土ほとんど含まない)
4. 10YR2/2 黒褐色土 (しまりややあり、粘性欠ける、白色粒子少し多め、底も堆土もほんの少し含む、10号住堆土)
5. 10YR2/2 黑褐色土 (しまりやや欠け、粘性なし、白色粒子少し減る、底・堆土少し含む)
6. 10YR2/2 黑褐色土 (しまりやや欠け、粘性なし、白色粒子少し含む、底・堆土微量に含む)
7. 10YR2/2 黑褐色土 (しまりやや欠け、粘性なし、粘土質何かが點状がないところの土、6層よりやや明るい)
8. 10YR2/3 黑褐色土 (しまりややあり、粘性なし、白色粒子多い、底や堆土はあまり含まない)
9. 10YR2/2 黑褐色土 (しまりやや欠け、粘性欠ける、白色粒子少し減る、堆土・灰含む)
- 9'. 10YR2/2 黑褐色土 (7号住の範囲か)
10. 10YR2/2 黑褐色土 (粘床面上の土、しまり欠け、粘性やや)
11. 10YR2/2 黑褐色土 (粘床の取れた部分、薄土・灰ほんの少し含む)

第63図 7号住居跡、10号住居跡



7号住カマドセクション

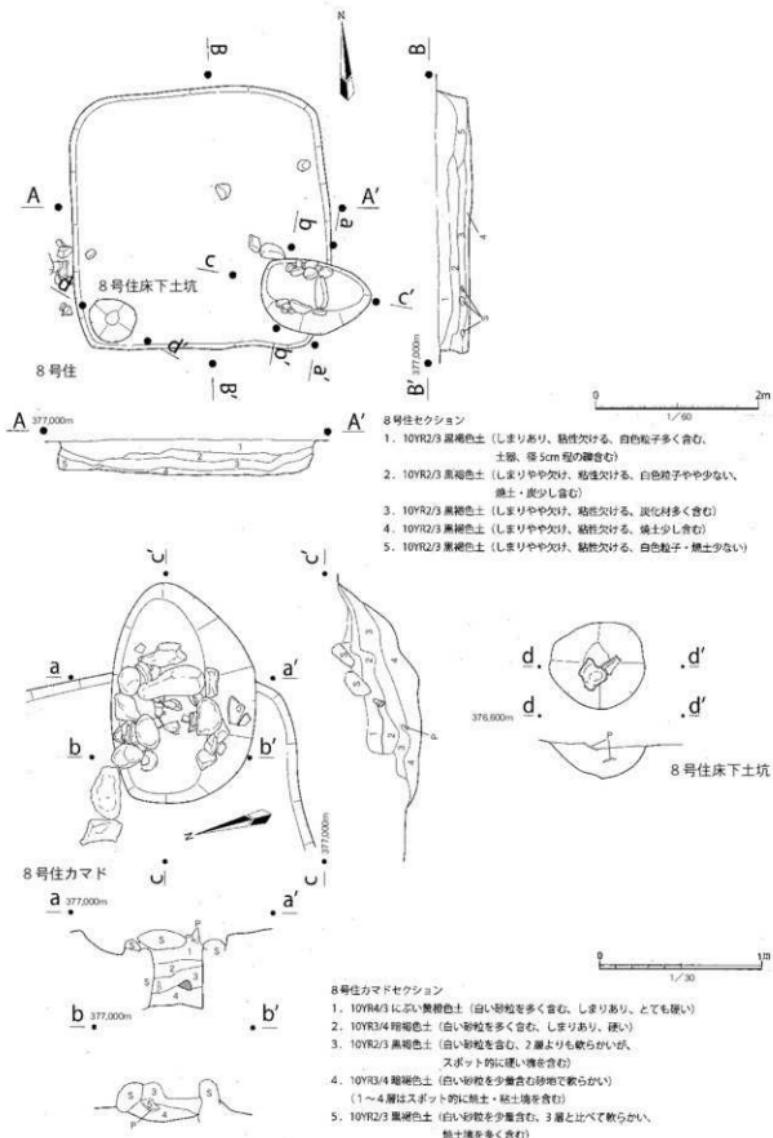
1. 7SYR2/3 濃褐色土 (しまりやや欠け、粘性なし、焼土・炭含む)
2. 7SYR2/2 黒褐色土 (しまり欠け、粘性なし、焼土・炭ほとんど含まない)
3. 7SYR2/2 黑褐色土 (しまり欠け、粘性なし、焼土少ない)
4. 10YR2/3 黑褐色土



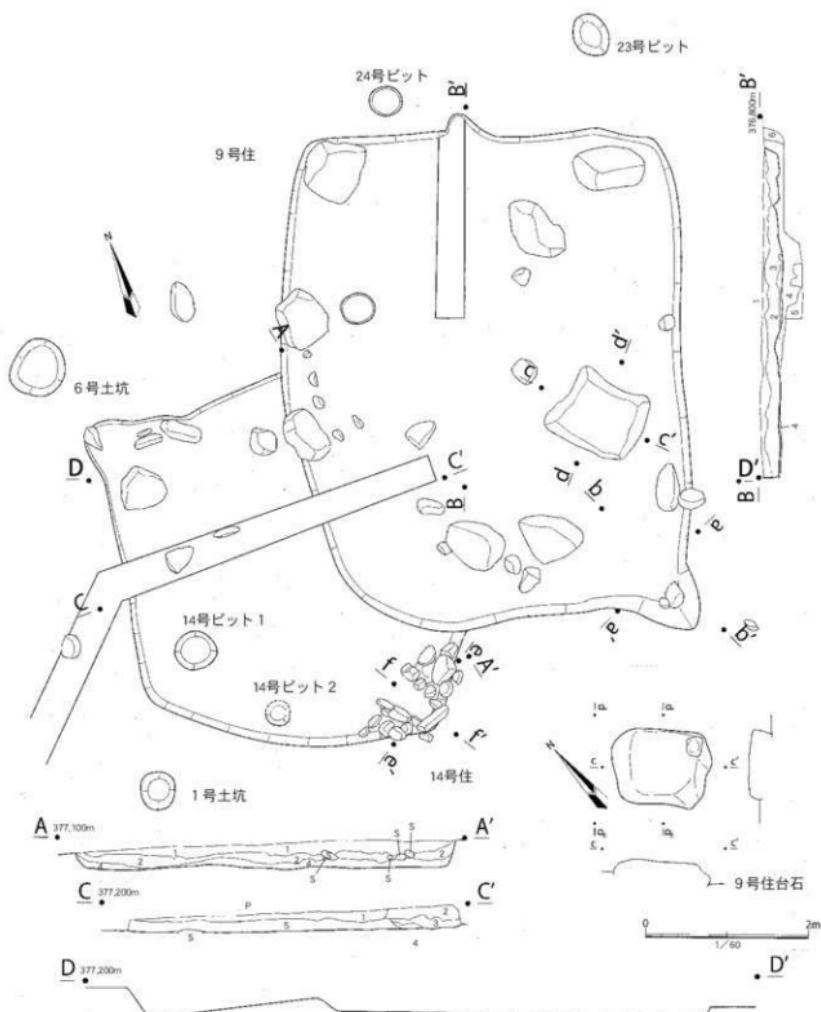
10号住カマドセクション

1. 10YR2/3 黒褐色土 (しまりが強く、バサバサしている、焼土を少量含む)
2. SYR4/6 布褐色土 (焼土塊、しまりが強く、バサバサしている)
3. SYR4/6 布褐色土 (焼土塊、2層に比べて硬い)
4. 10YR2/2 黑褐色土 (しまりが強く、バサバサしている、1層に比べてしまりあり)

第64図 7号住居跡カマド、10号住居跡カマド



第65図 8号住居跡



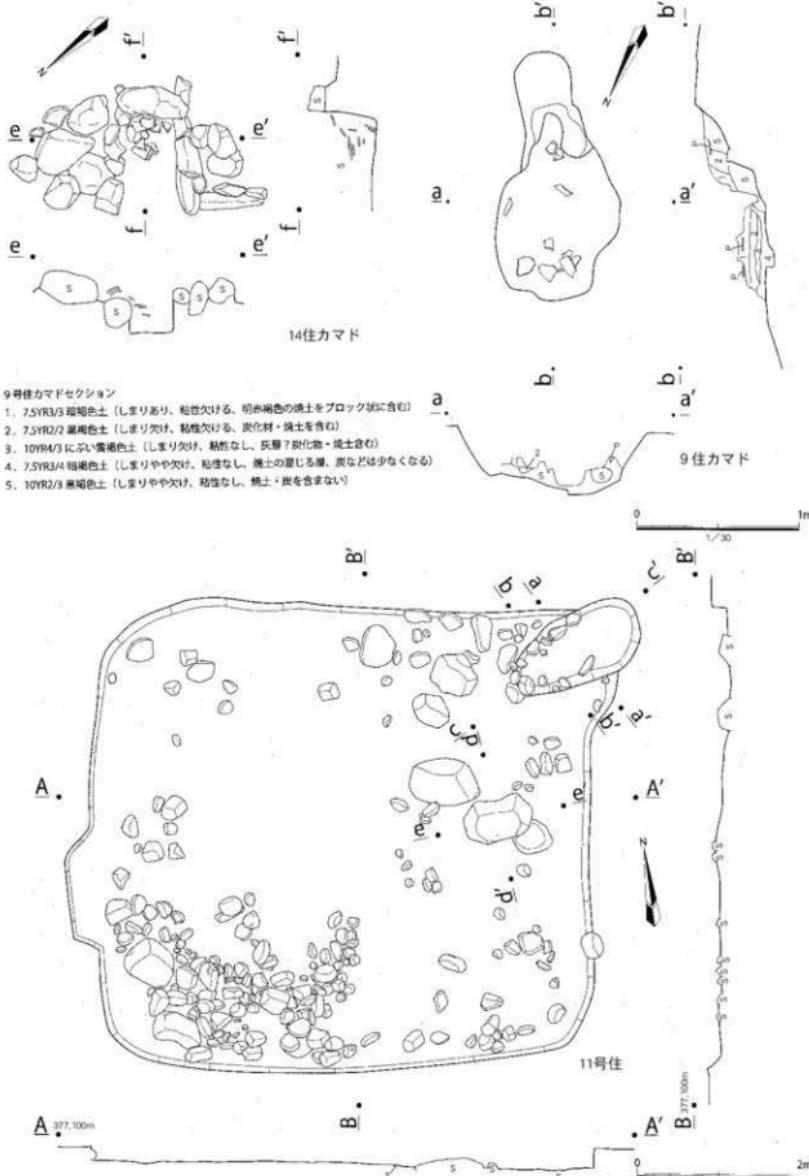
9号住セクション

1. 10YR2/2 黒褐色土 (白い砂粒を含む、2層に比べてパサパサしている。しまり弱い)
2. 10YR2/3 黒褐色土 (白い砂粒を含む、1層に比べてしっとりしている。しまりが強い)
(1・2層ともにスポット的に白い砂粒を多く含む)
3. 10YR2/2 黑褐色土 (やや砂地。しまり強く、スコリア等をほとんど含まない。
スポット的IC明るい土を含む)
4. 10YR2/2 黑褐色土 (やや砂地。歓らかい。スコリア等をほとんど含まない。
北面へ行くほど明るい)
5. 10YR2/2 黑褐色土 (4層に似るが全体的に明るい)
6. 10YR2/3 黑褐色土 (4・5層に似るが、全体的にパサパサしている)

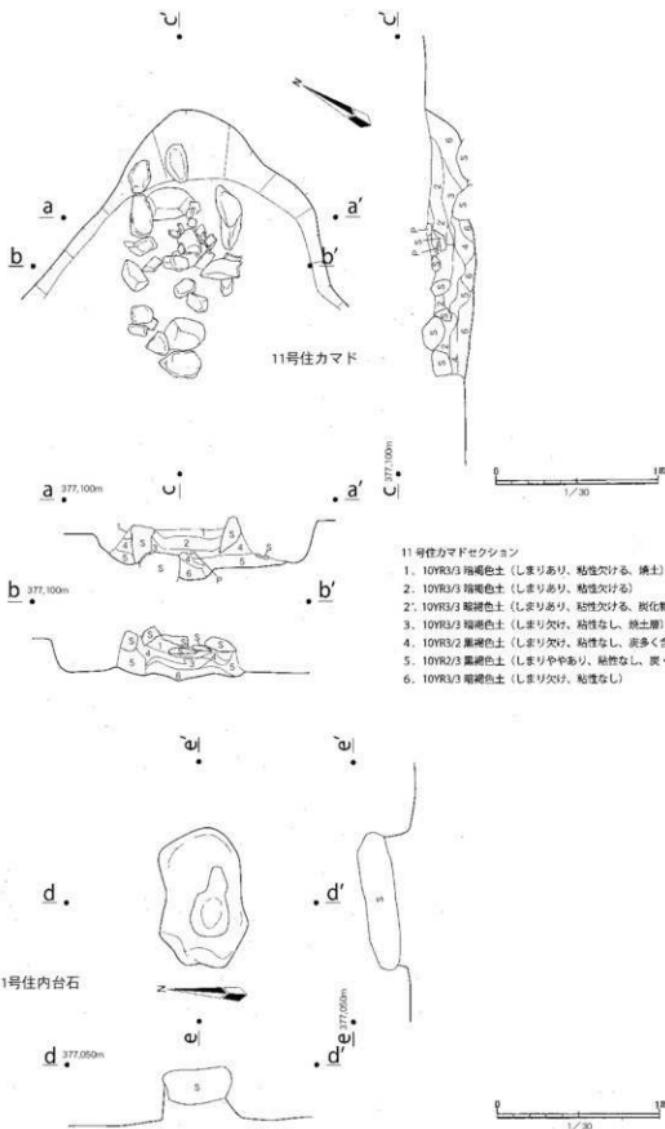
14号住セクション

1. 10YR2/2 黑褐色土 (白い砂粒を含む。しまりあり、硬い)
2. 7.5YR2/2 黑褐色土 (白い砂粒を含む。しまりあり、硬い)
黄灰色土の塊をブロック状に含む)
3. 10YR2/2 黑褐色土 (白い砂粒を少しある。2層より歓らかいかが4層より硬い)
4. 10YR2/2 黑褐色土 (2層と比べて白い砂粒をほとんど含まない。
砂質でサラサラしており、歓らかい)
5. 10YR2/2 黑褐色土 (白い砂粒を少しある。砂質で歓らかい)

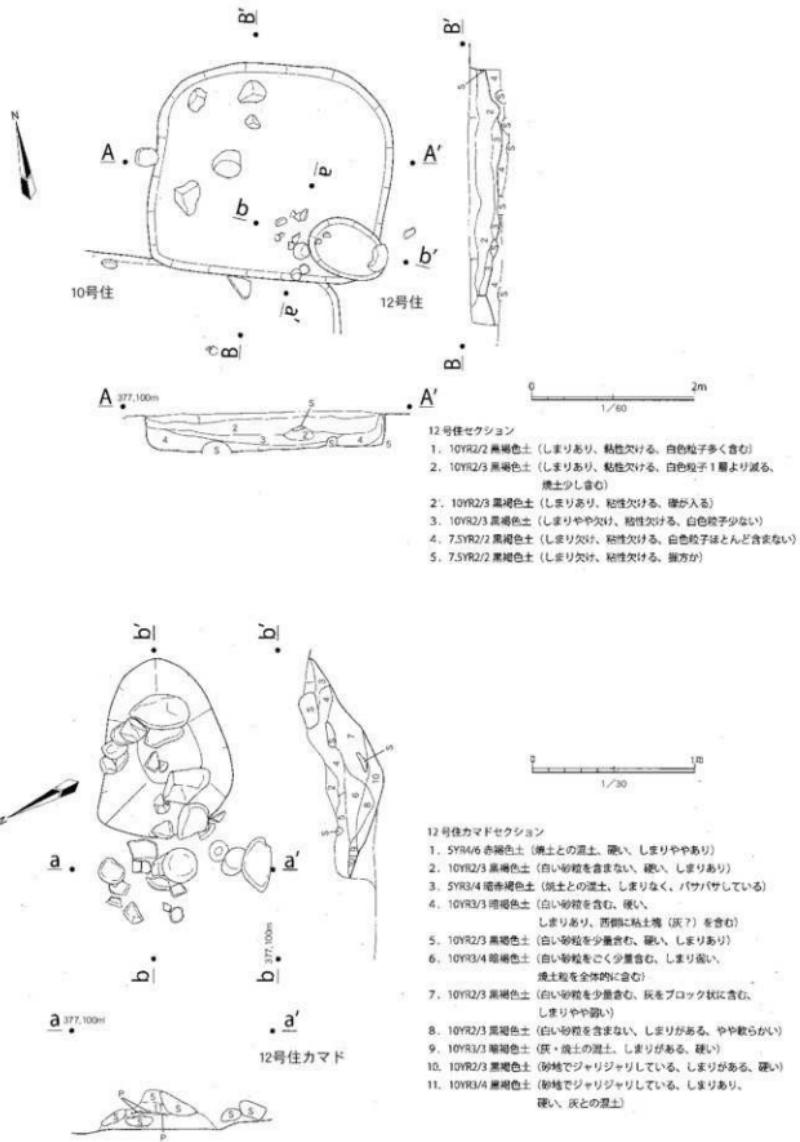
第66図 9号住居跡、14号住居跡



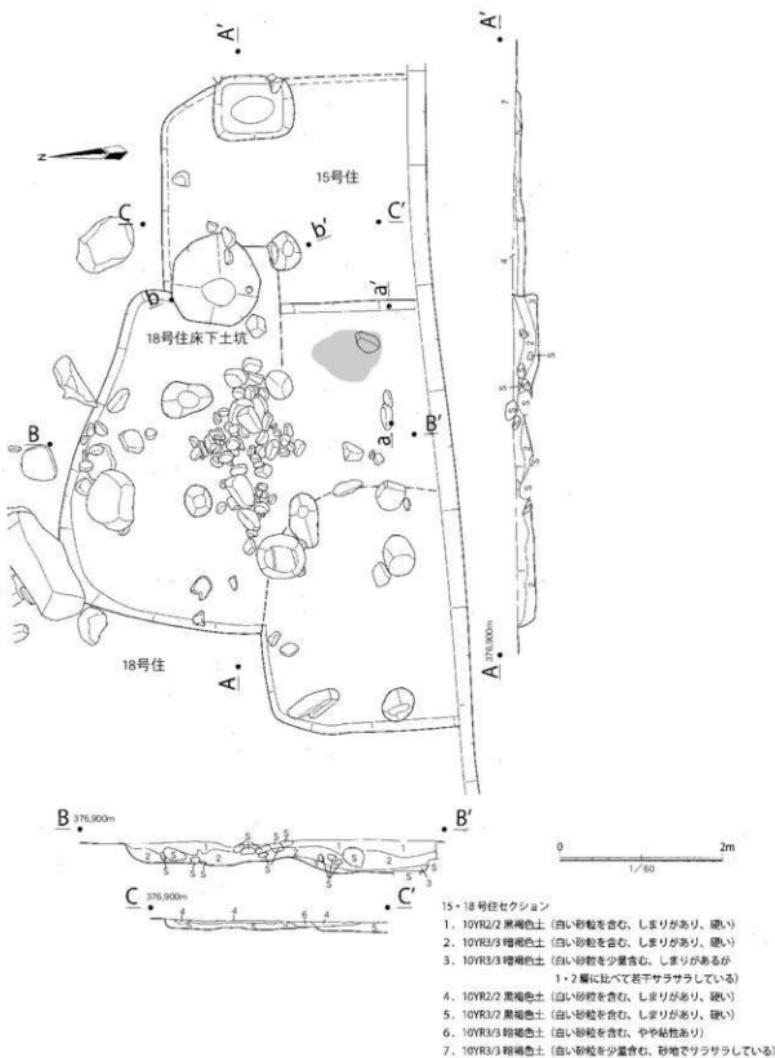
第67図 14号住居跡カマド、9号住居跡カマド、11号住居跡



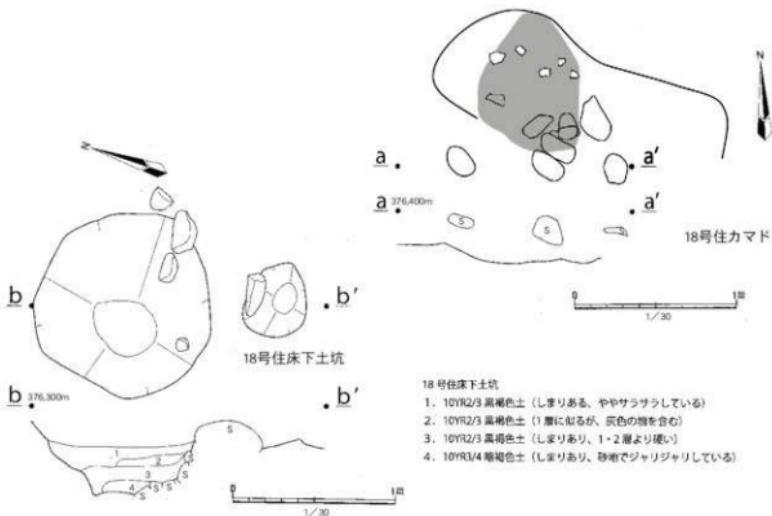
第68図 11号住居跡カマド、台石出土状況



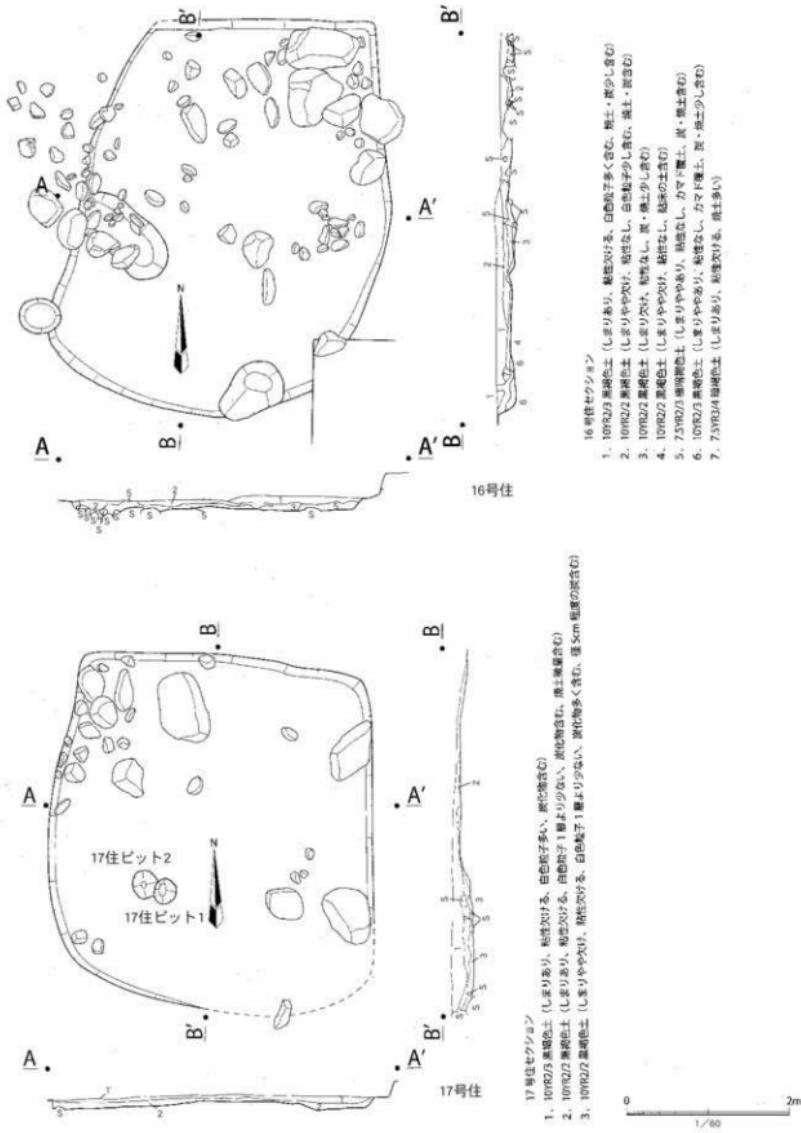
第69図 12号住居跡



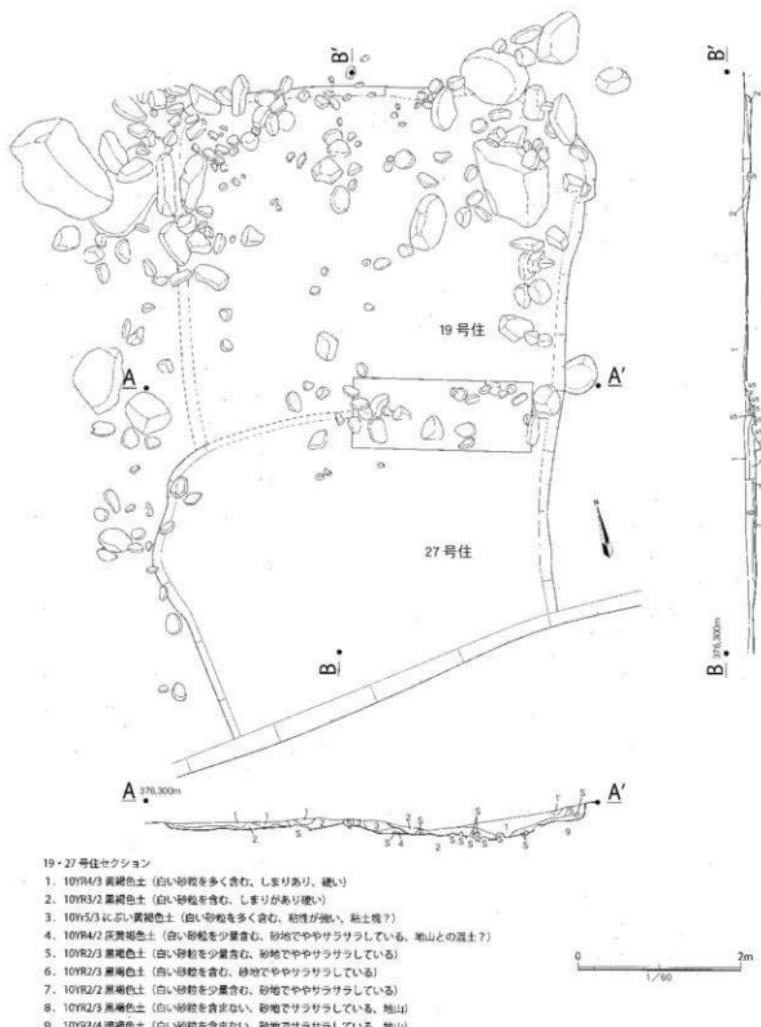
第70図 15号住居跡、18号住居跡



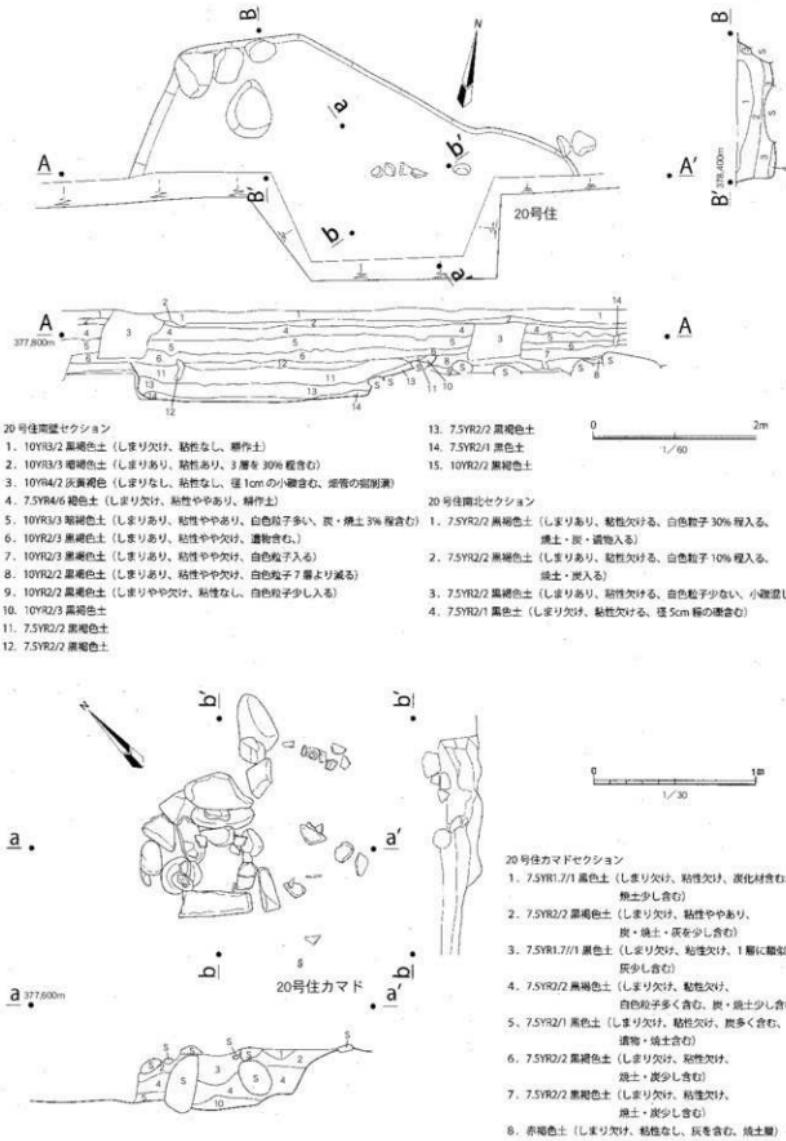
第71図 18号住居跡カマド、床下土坑



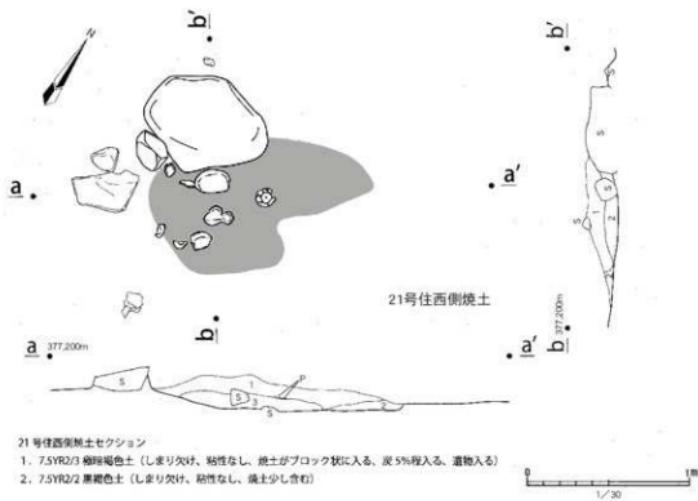
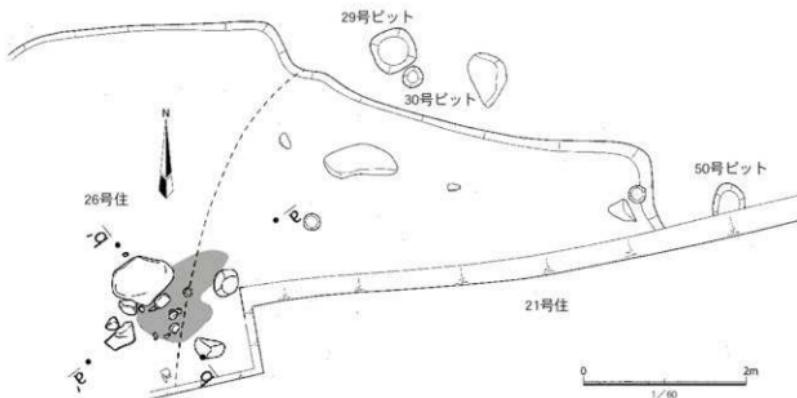
第72図 16号住居跡、17号住居跡



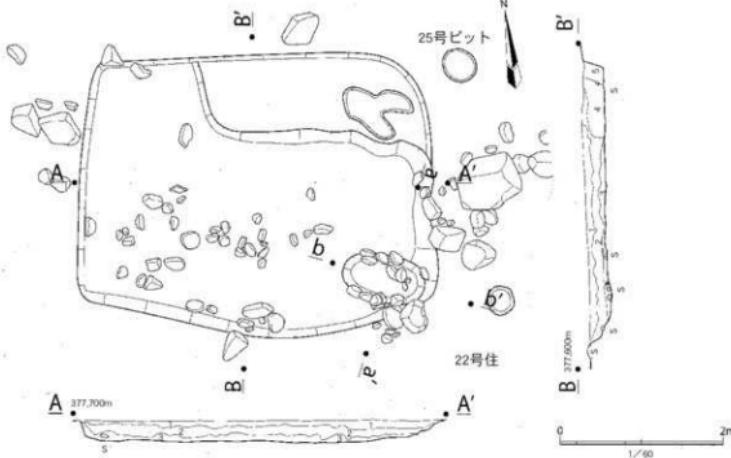
第73図 19号住居跡、27号住居跡



第74図 20号住居跡



第75図 21号住居跡

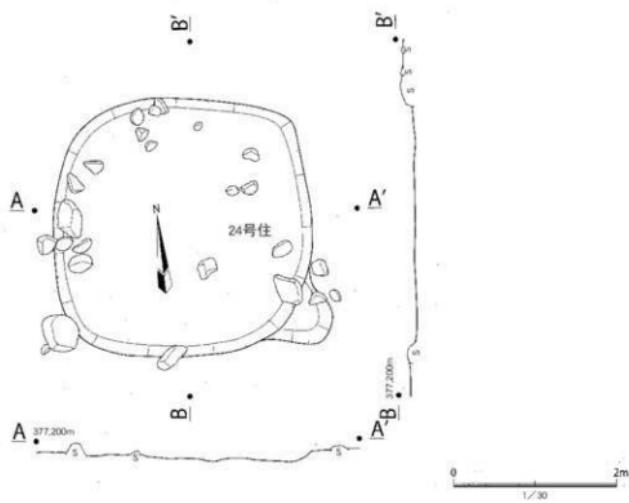
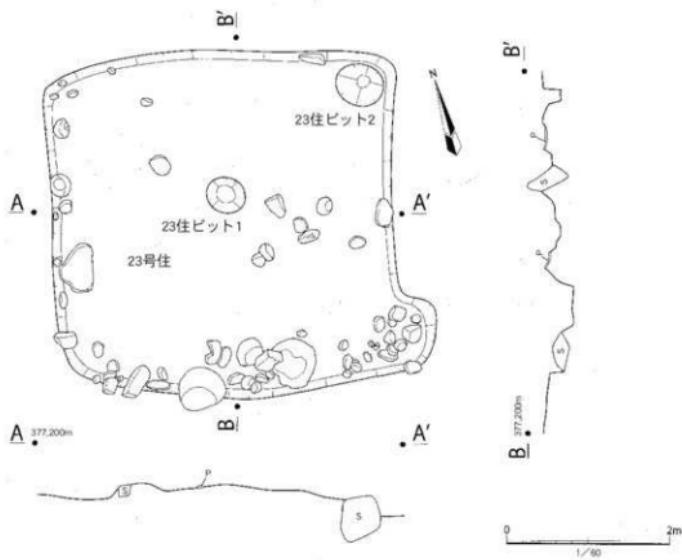


22号住セクション

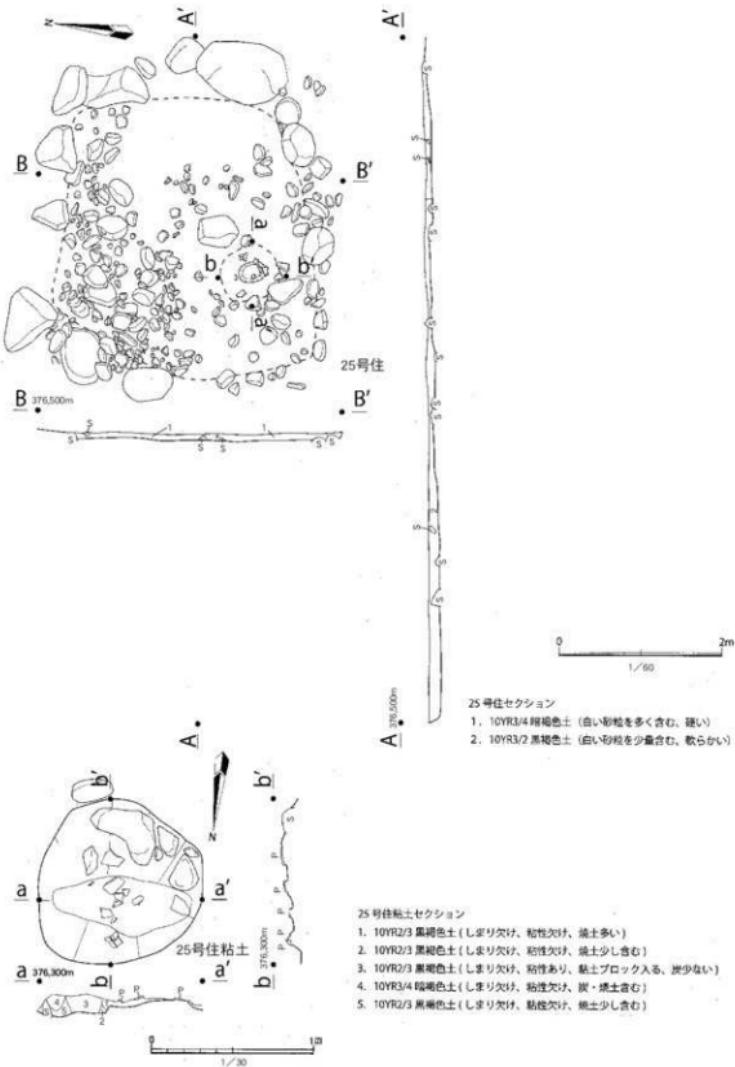
1. 10YR3/3 條帶褐色土 (白い砂粒を多く含む、しまりが強く、とても硬い)
2. 10YR2/4 條帶褐色土 (白い砂粒を含む、しまりがあり、硬い)
3. 10YR2/2 黒褐色土 (白い砂粒を少し含む、軟らかくバサバサしている、多量の白い砂を含んだ硬い土塊をスポット的に含む)
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 (白い砂粒を多く含む、しまりが強く、とても硬い)
5. 10YR3/3 條帶褐色土 (4層と比べて白い砂粒が多い、しまりが強く、とても硬い)



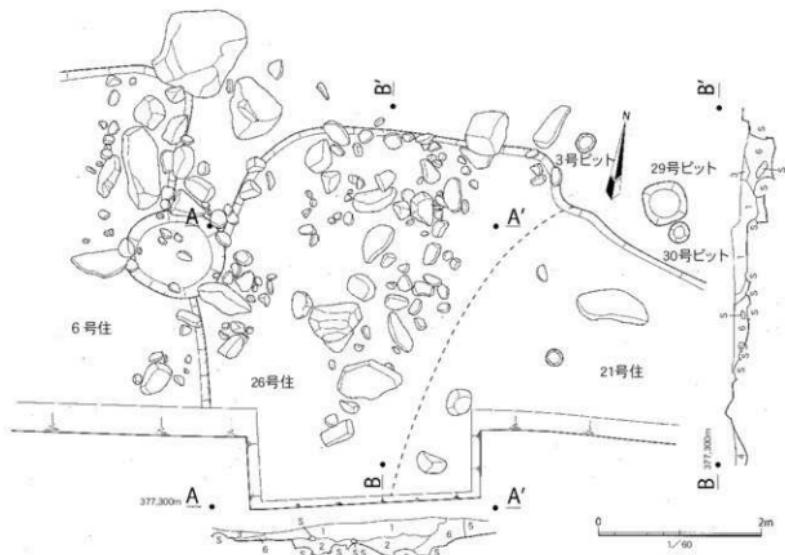
第76図 22号住居跡



第77図 23号住居跡、24号住居跡



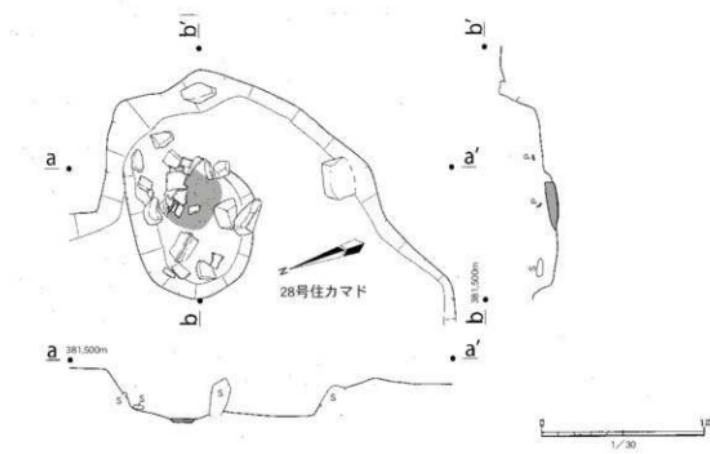
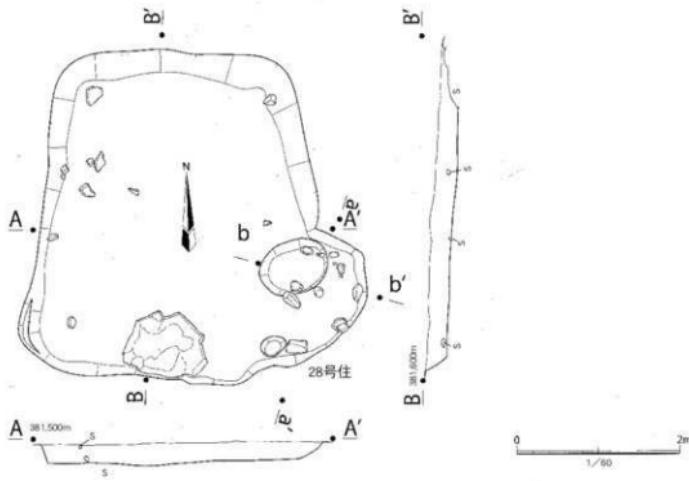
第78図 25号住居跡



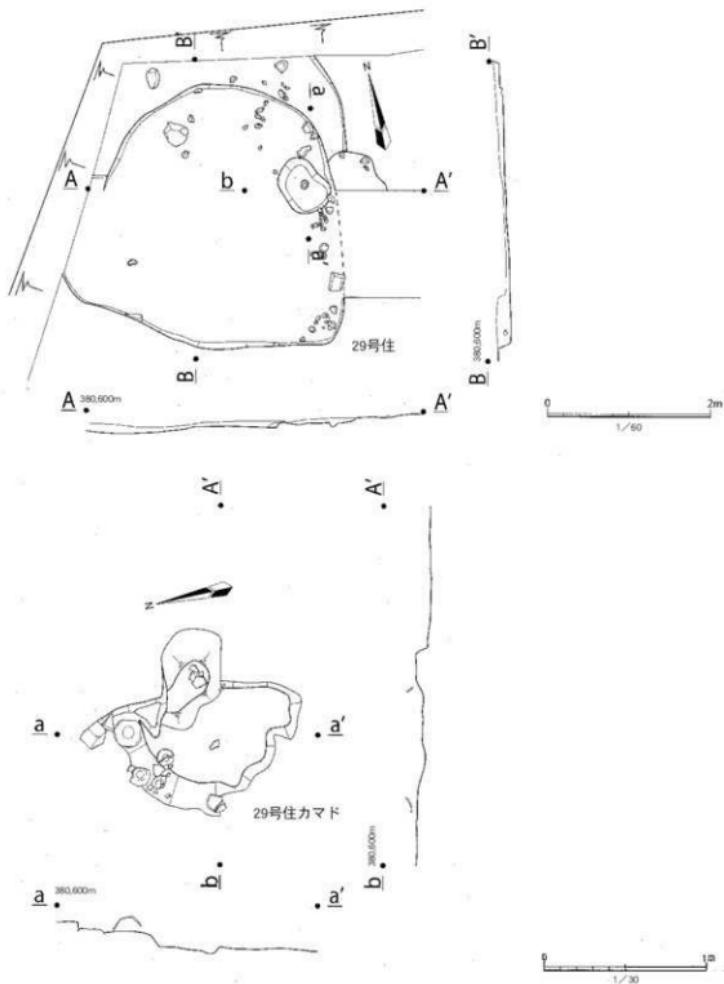
26号住セクション

1. 10YR2/3 黒褐色土（白い砂粒を多く含む、しまりがあり、硬い）
2. 10YR3/4 黑褐色土（白い砂粒を多く含む、しまりがあり、硬い）
3. 10YR2/3 黑褐色土（白い砂粒をほとんど含まない、砂粒だけを量よりしまりあり）
4. 10YR2/3 黑褐色土（白い砂粒をほとんど含まない、漂土を多く含む）
5. 10YR2/2 黑褐色土（白い砂粒を少量含む、砂地だがしまりあり、21号住の覆土）
6. 10YR2/3 黑褐色土（白い砂粒をほとんど含まない、砂地、地山）

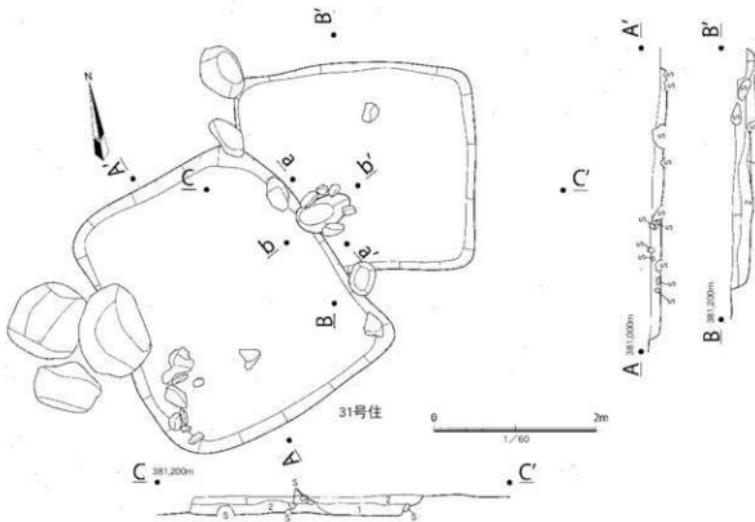
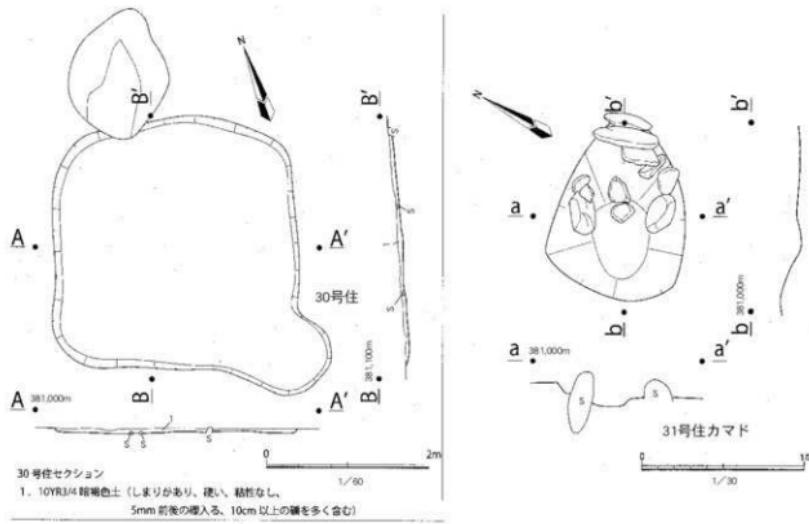
第79図 26号住居跡



第80図 28号住居跡

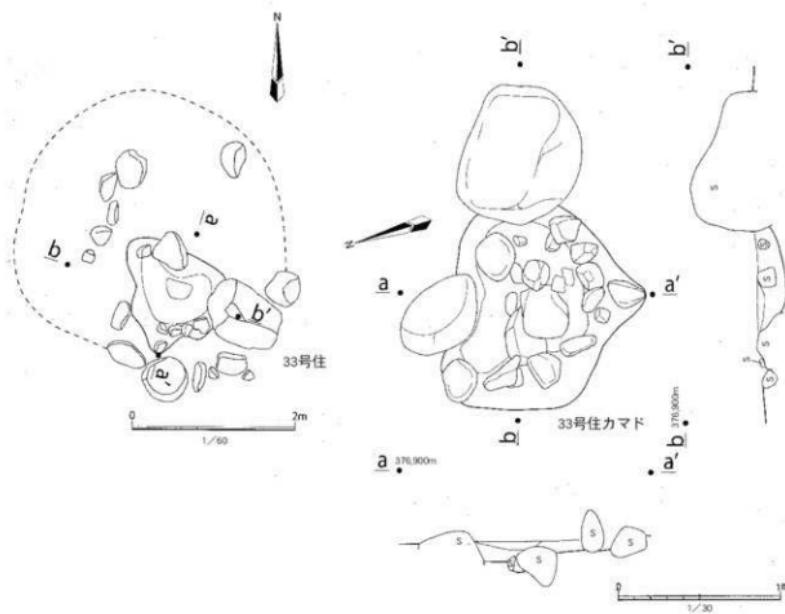
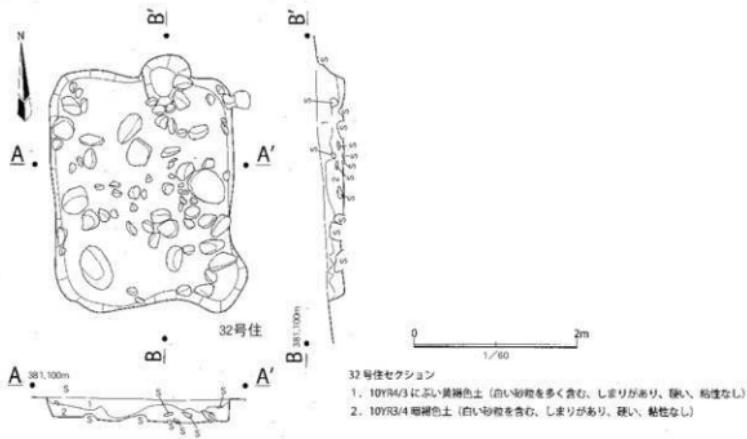


第81図 29号住居跡

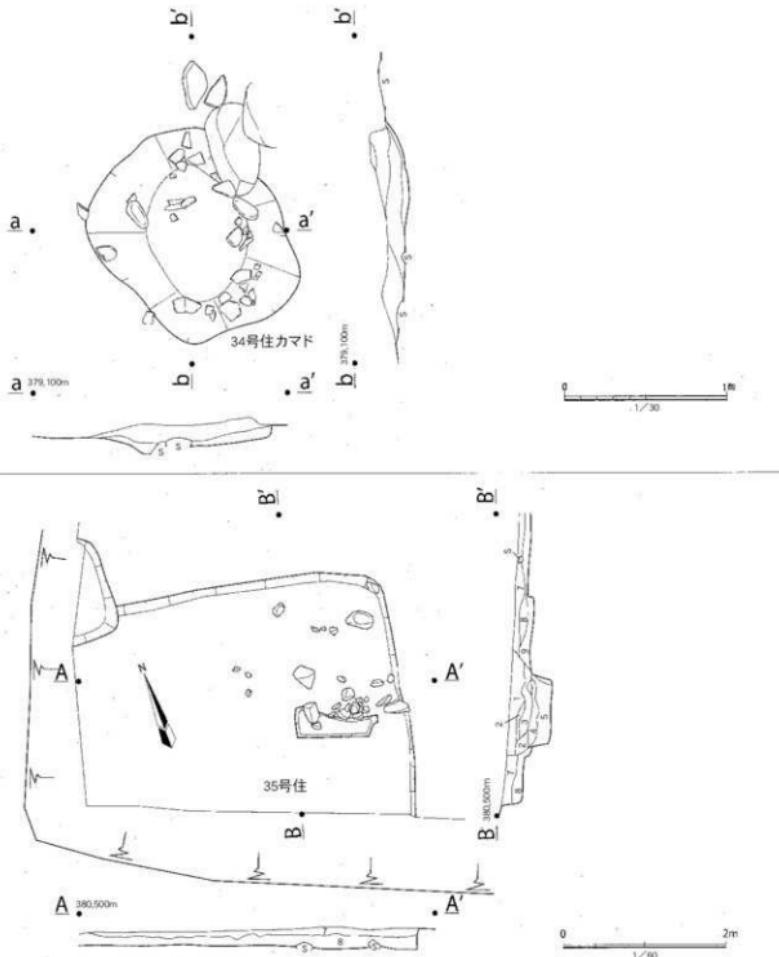


- 31号住セクション**
1. 10YR4/4褐色土（白い砂粒を多く含む、しまりがあり、硬い、粘性なし）
 2. 10YR3/4暗褐色土（白い砂粒を多く含む、しまりがあり、硬い、粘性なし）
 3. 10YR3/4暗褐色土（白い砂粒を含まない、しまりがあるが、軟らかい、粘性ややあり）

第82図 30号住居跡、31号住居跡

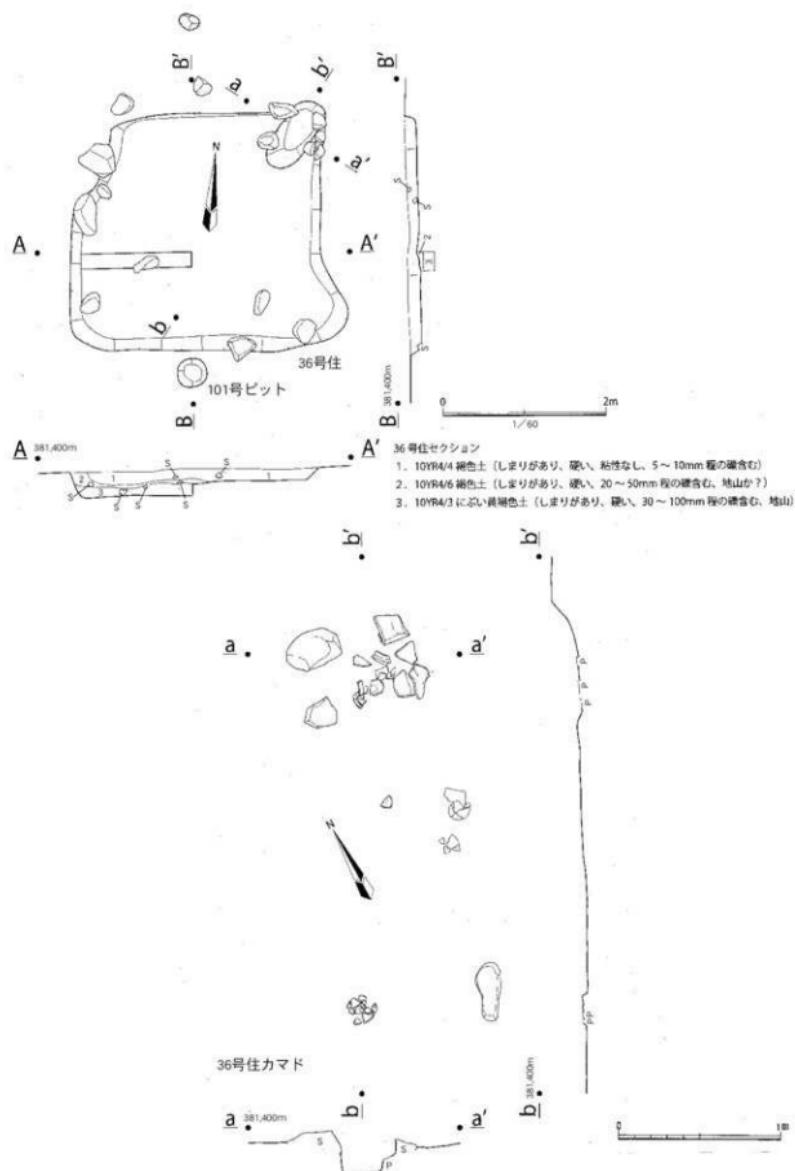


第83図 32号住居跡、33号住居跡

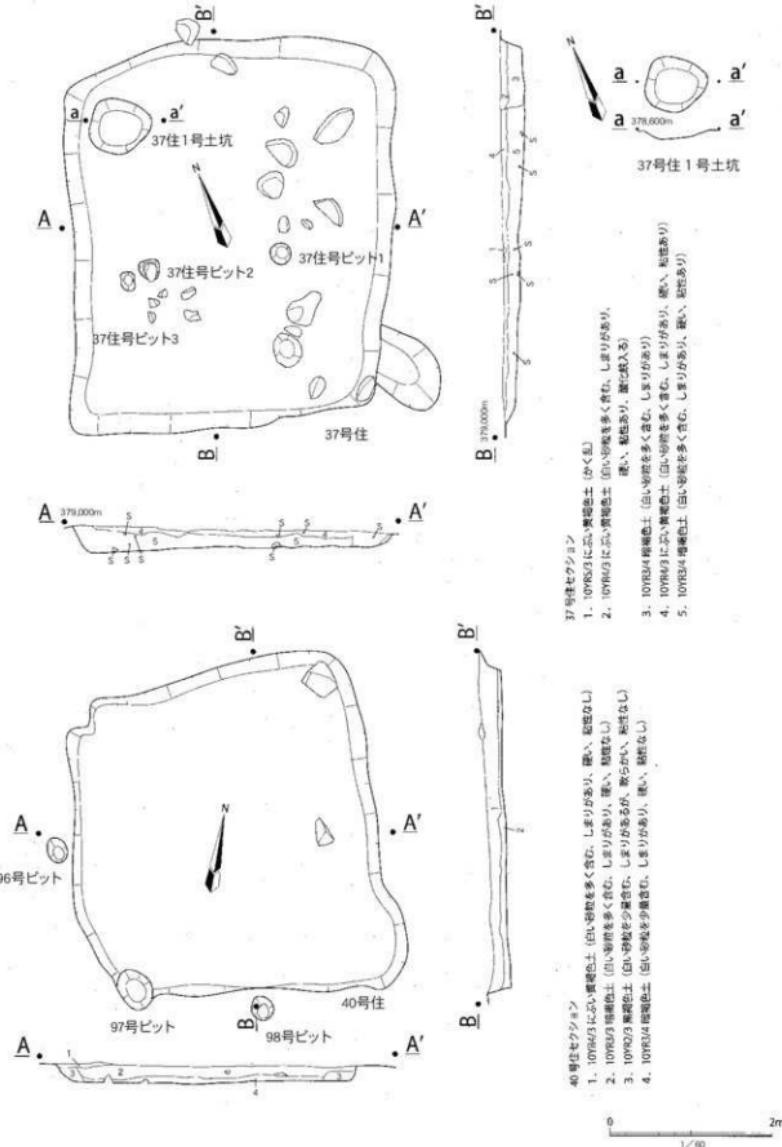


- 35号住セクション
1. 10YR2/4 黒褐色土 (白い砂粒を多く含む、しまりあり、やや歛らかい、やや粘性なし)
 2. 10YR3/3 黑褐色土 (白い砂粒を多く含む、しまりあり、硬い、粘性なし)
 3. 10YR2/3 黑褐色土 (白い砂粒を少量含む、しまりあり、歛らかい、粘性あり)
 4. 10YR2/3 黑褐色土 (白い砂粒を含む、しまりあり、やや歛らかい、やや粘性あり)
 5. 10YR2/2 黒褐色土 (白い砂粒を含む、しまりあり、やや歛らかい、やや粘性あり)
 6. 10YR3/3 黑褐色土 (白い砂粒を少量含む、しまりあり、歛らかい、粘性あり)
 7. 10YR3/4 黑褐色土 (白い砂粒を多く含む、しまりがあり、硬い、粘性なし)
 8. 10YR2/3 黑褐色土 (白い砂粒を多く含む、しまりがあり、硬い、粘性なし)

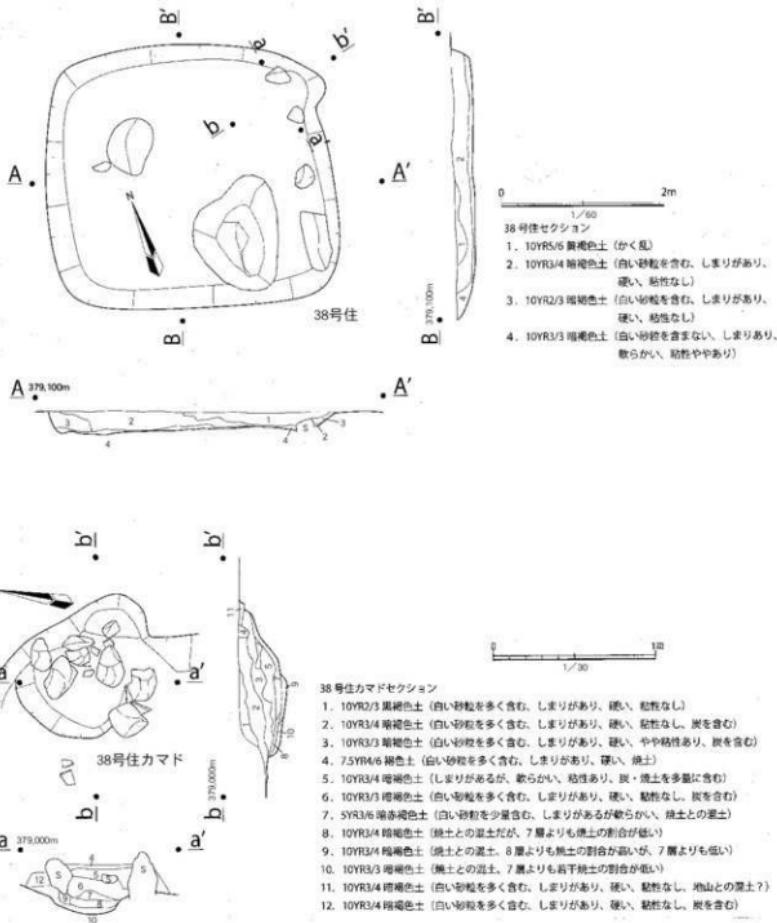
第84図 34号住居跡カマド、35号住居跡



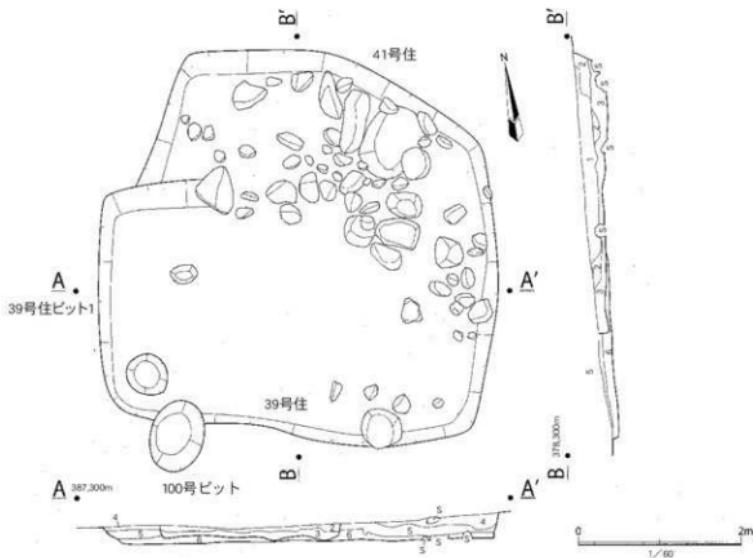
第85図 36号住居跡



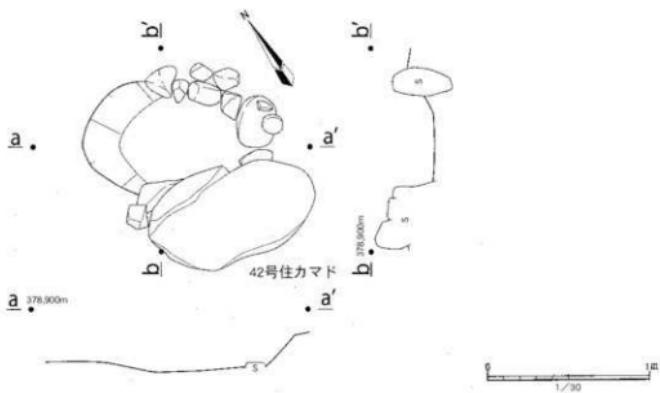
第86図 37号住居跡、40号住居跡



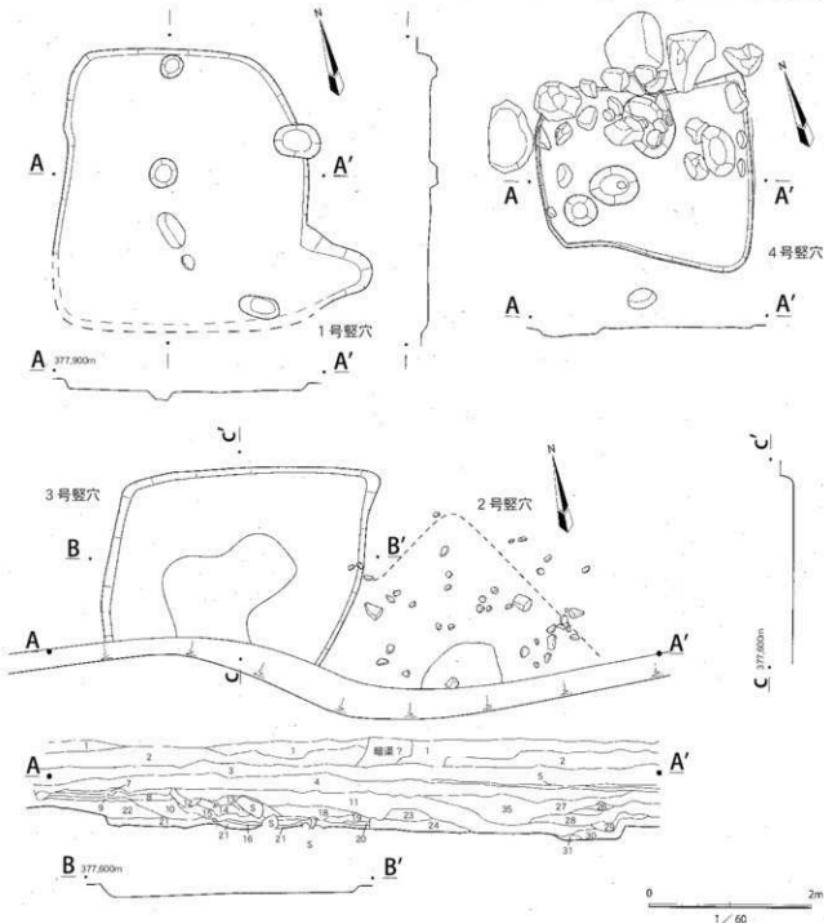
第87図 38号住居跡



- 39・41号住セクション
1. 10YR3/2 黒褐色土 (白い砂粒を含む、しまりがあり、硬い、やや粘性あり)
 2. 10YR3/3 増褐色土 (白い砂粒を多く含む、しまりがあり、硬い、粘性あり)
 3. 10YR2/3 黑褐色土 (白い砂粒を含まない、しまりがあるが、軟らかい、粘性なし)
 4. 10YR3/4 増褐色土 (白い砂粒を含む、しまりがあり、硬い、粘性なし)
 5. 10YR3/4 増褐色土 (白い砂粒を含む、しまりはあるが、やや軟らかい、粘性なし)
 6. 10YR3/3 増褐色土 (白い砂粒を少量含む、しまりはあるが、軟らかい、粘性なし)



第88図 39号住居跡、41号住居跡、42号住居跡

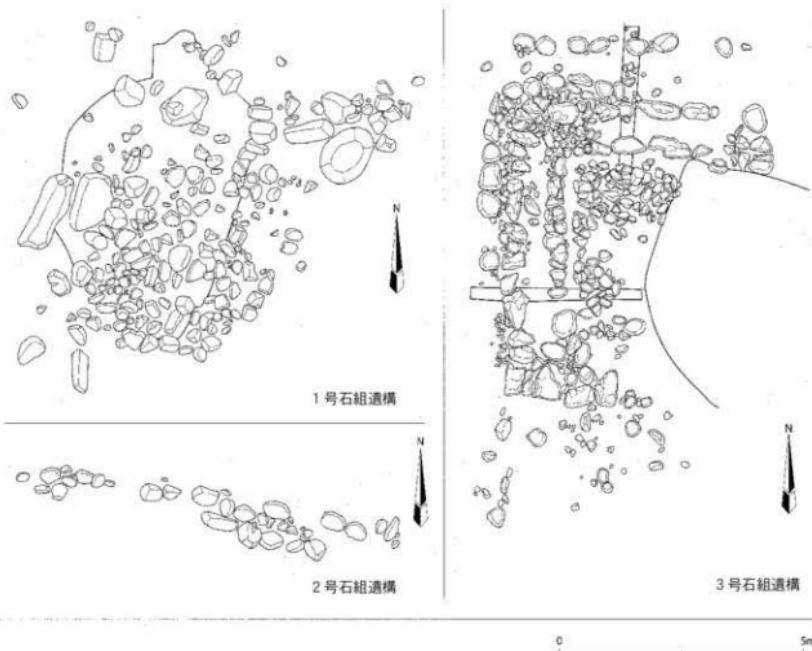
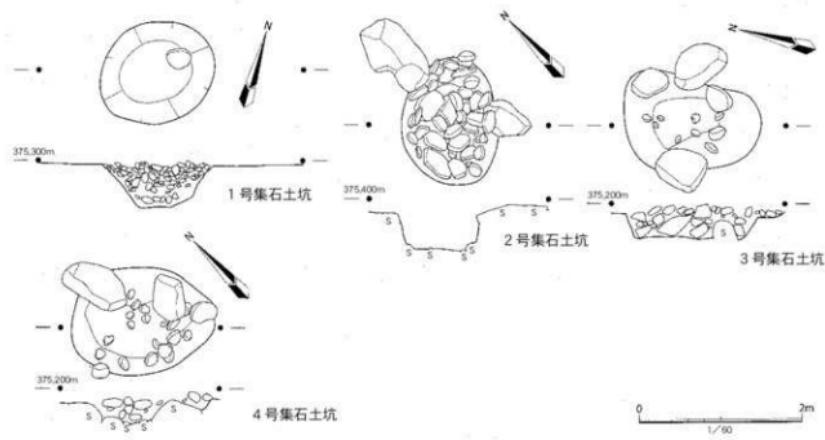


2・3号断面

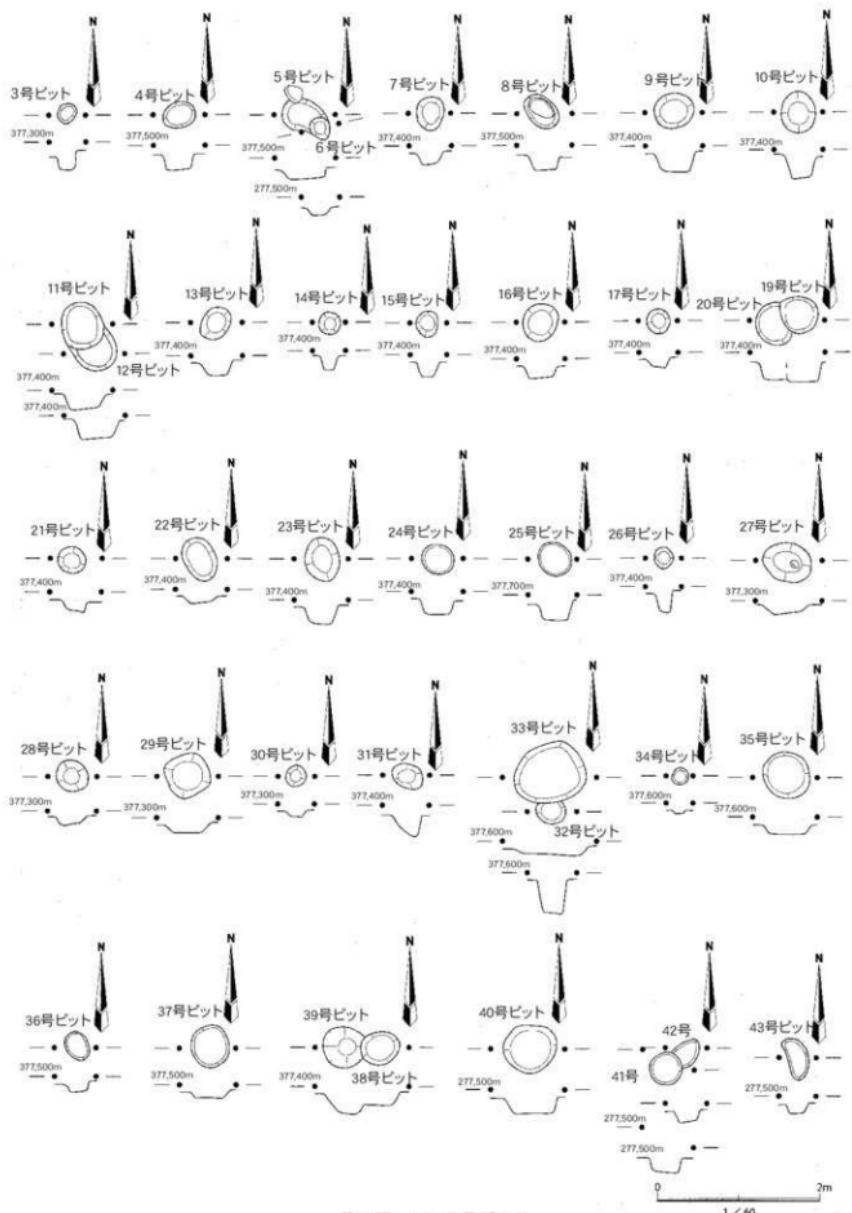
1. 75Y93/3 黒褐色土 (しまりかけ、粘性ややあり、耕作土)
2. 10Y92/2 黒褐色土 (しまりかけ、粘性ややあり、粘土ブロックが入る)
3. 75Y92/3 黑褐色土 (しまりあり、粘性ややあり、黄・薄赤し含む、白色セカリ含む)
4. 10Y92/2 黑褐色土 (しまりあり、粘性あり、黄・薄赤、白色スコリア含む)
5. 10Y92/2 黑褐色土 (しまりあり、粘性少々あり、田んぼの未土?)
6. 10Y92/2 黑褐色土 (しまりあり、粘性少々)
7. 10Y92/2 黑褐色土 (しまりやや少々、粘性なし)
8. 75Y92/3 黑褐色土 (しまりあり、粘性少々、鐵鏽の塊土)
9. 75Y92/2 黑褐色土 (しまり少々、粘性少々、鐵鏽)
10. 75Y92/2 黑褐色土 (しまりやや少々、粘性なし、住居の堆土)
11. 10Y92/2 黑褐色土 (しまりやや少々、粘性なし、住居の堆土、白色セカリやや減)
12. 75Y93/4 黑褐色土 (しまりあり、粘性なし、粘土多い)
13. 10Y92/2 黑褐色土 (しまりあり、粘性少々)
14. 75Y92/2 黑褐色土 (しまりあり、粘性少々、鐵土質)
15. 75Y92/2 黑褐色土 (しまりやや少々、粘性なし、黄・薄赤を少し含む)
16. 75Y92/4 黑褐色土 (しまりかけ、粘性なし、黄・薄赤少しある)

17. 75Y92/2 多褐色土 (しまり少々、粘性なし、黄・薄赤少しある)
18. 75Y92/2 黑褐色土 (しまりかけ、粘性なし、黄・薄赤多く含む)
19. 75Y92/3 黑褐色土 (しまりかけ、粘性なし、黄土・灰多々含む)
20. 75Y92/3 黑褐色土 (しまりかけ、粘性なし、薄泥質含む)
21. 75Y93/4 黑褐色土 (しまりなし、粘性なし、耕作の堆土)
22. 75Y92/3 黑褐色土 (しまりかけ、粘性なし、耕作土の鉄土質)
23. 75Y92/2 黑褐色土 (しまりあり、粘性少々、鐵土・灰多々含む、カマド壁土?)
24. 75Y93/4 黑褐色土 (しまりあり、粘性少々、灰・鐵土多く含む、カマド壁土?)
25. 10Y92/2 黑褐色土 (しまりやや少々、粘性なし、灰・灰土・ブロック含む)
26. 10Y92/2 黑褐色土 (しまりかけ、粘性なし、灰・鐵土含む)
27. 10Y92/2 黑褐色土 (しまりかけ、粘性なし、鐵土少々含む)
28. 10Y92/2 黑褐色土 (しまりかけ、粘性なし、黃・薄赤を少し含む)
29. 10Y92/2 黑褐色土 (しまり少々、粘性なし)
30. 10Y92/2 黑褐色土 (しまり少々、粘性なし、鐵土)
31. 10Y92/2 黑褐色土 (しまり少々、粘性なし、相土の鉄土質)

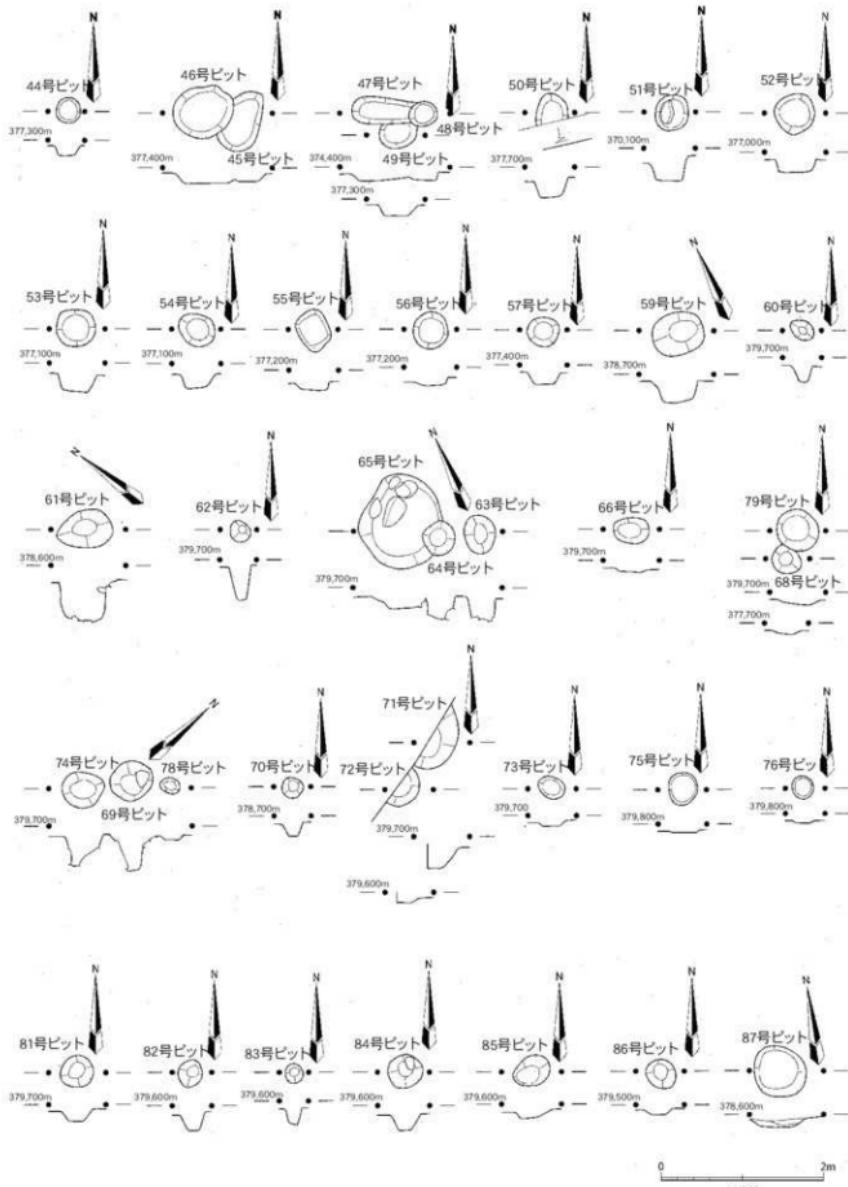
第89図 1～4号竖穴遺構



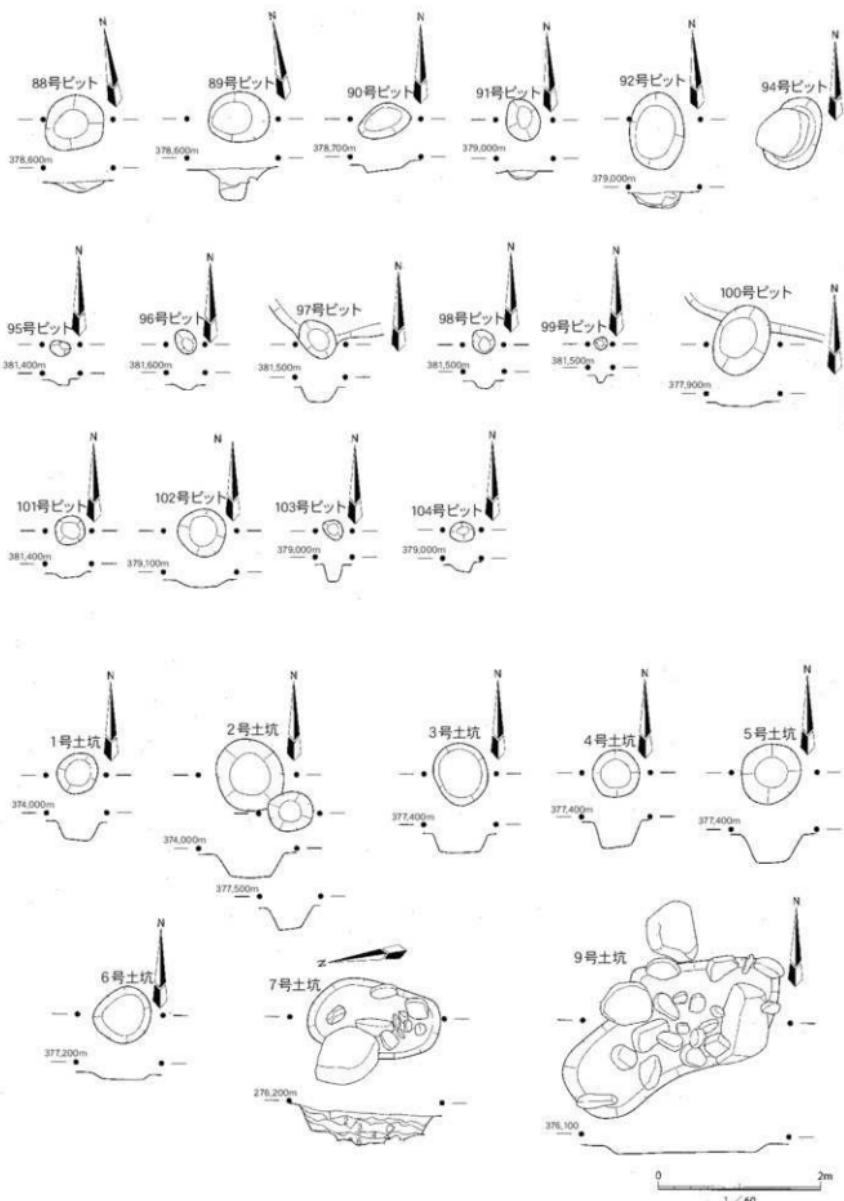
第90図 1～4号集石土坑、1～3号石組遺構



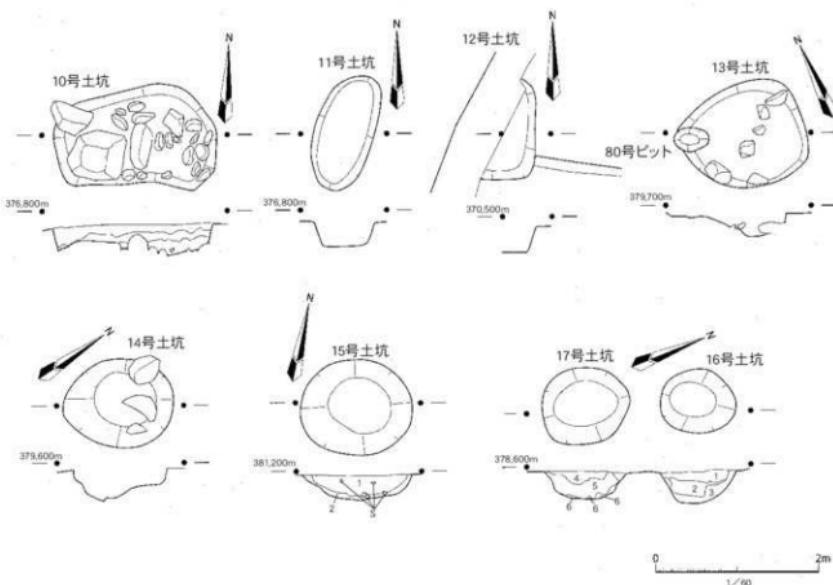
第91図 3～43号ピット



第92図 44~48号ピット



第93図 88～104号ピット、1～9号土坑



7号土坑セクション

1. 10YR2/1 黒褐色土 (白い砂粒を多く含む。しまりがあり、硬い)
2. 10YR2/1 黒褐色土 (白い砂粒を含む。しまりがあり、やや粘性がある)
3. 10YR2/4 暗褐色土 (白い砂粒を含む。しまりがあり、やや粘性あり、黒い土をブロック状に含む)
4. 10YR4/2 暗褐色土 (白い砂粒を少量含む。砂地でサラサラしている)
5. 10YR2/3 黒褐色土 (口唇にブロック状に入っていた土。歯らかい。やや粘性がある)
6. 10YR2/2 黒褐色土 (白い砂粒を含まない。砂地でサラサラしている。堆山か?)

10号土坑セクション

1. 10YR3/4 暗褐色土 (白い砂粒を含む。硬い)
2. 10YR3/3 暗褐色土 (白い砂粒を少量含む。砂地でサラサラしている)
3. 10YR3/2 黒褐色土 (白い砂粒を含まない。2層よりもサラサラしている。堆山か?)

15号土坑セクション

1. 10YR3/4 暗褐色土 (白い砂粒を多く含む。しまりがあり、硬い、粘性なし)
2. 10YR2/4 暗褐色土 (白い砂粒をわずかに含む。しまりがなく、歯らかい、粘性なし)

16・17号土坑セクション

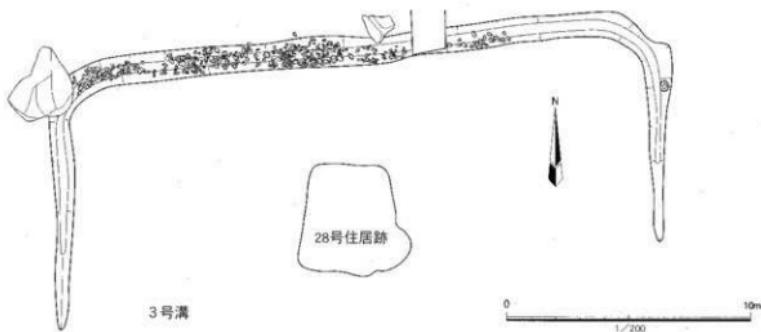
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 (白い砂粒を多く含む。砂地(2層)との混土。しまりがあるが、歯らかい。粘性なし)
2. 10YR3/3 暗褐色土 (しまりがなく、歯らかい。砂地、粘性なし)
3. 10YR2/4 暗褐色土 (白い砂粒を含まない。しまりがなく、歯らかい。やや砂地、粘性なし)
4. 1層と同じ
5. 2層と同じ
6. 10YR2/3 黒褐色土 (白い砂粒を含まない。しまりがなく、歯らかい。やや砂地、粘性なし)

第94図 10～17号土坑

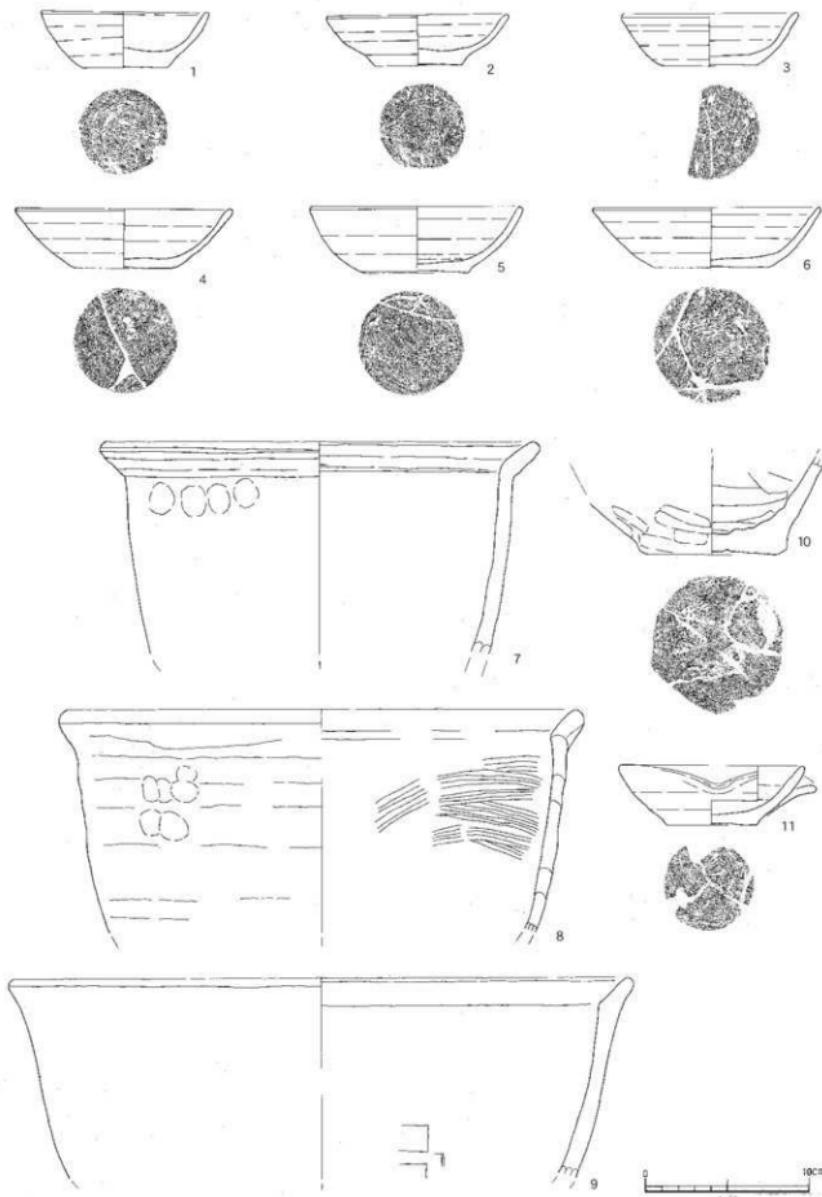


380.700m

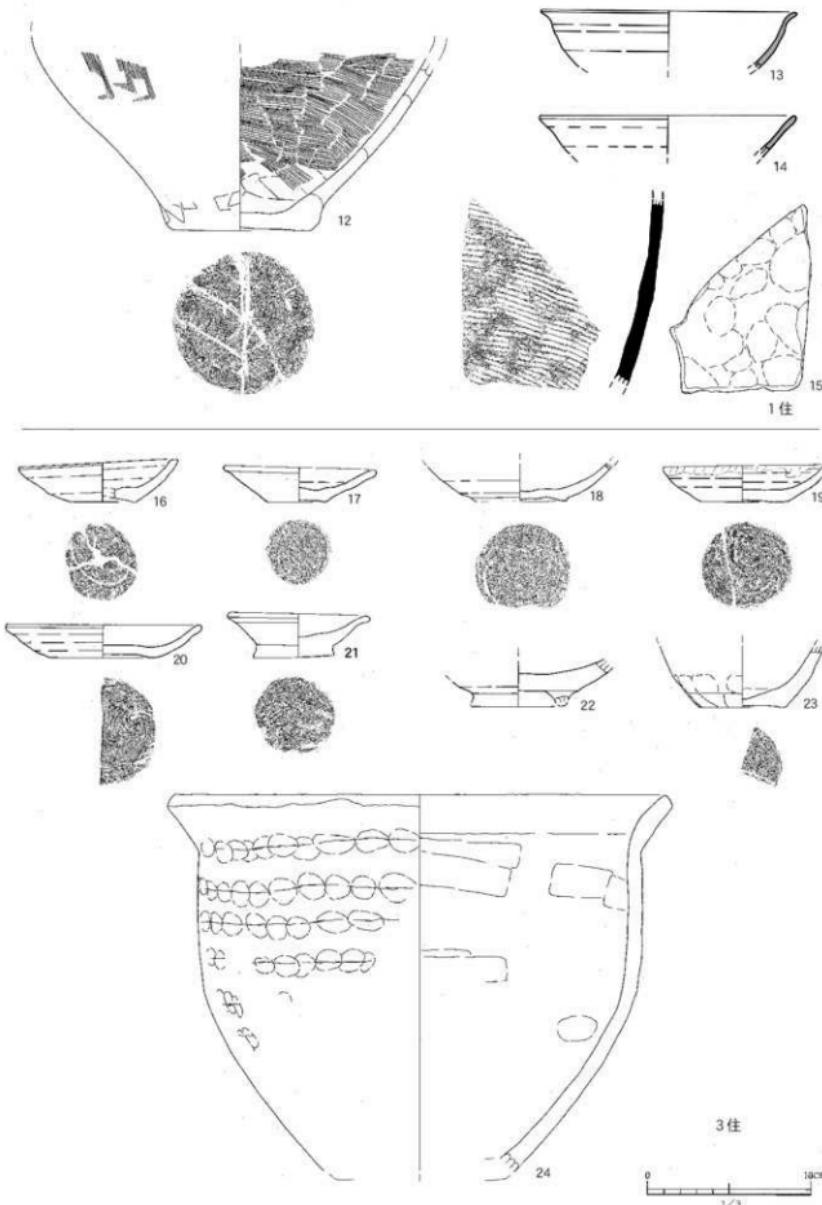
380.700m



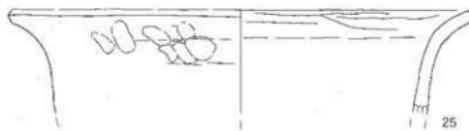
第95図 1～3号溝



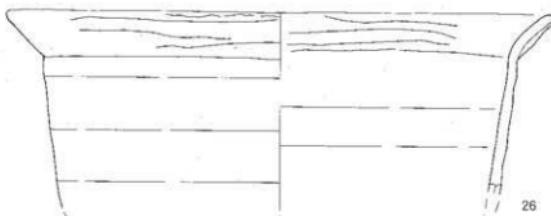
第96図 出土遺物：土器類（1号住居跡）



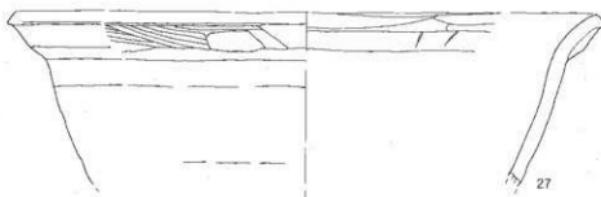
第97図 出土遺物：土器類（1号・3号住居跡）



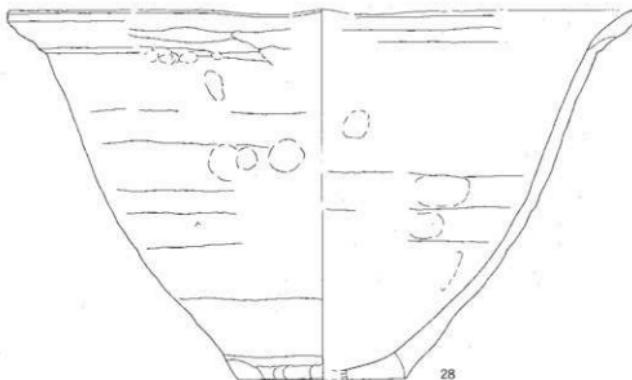
25



26



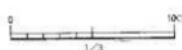
27

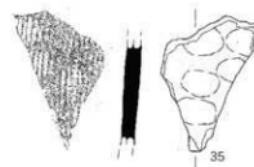
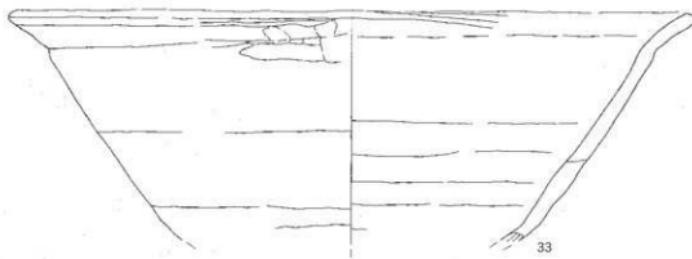
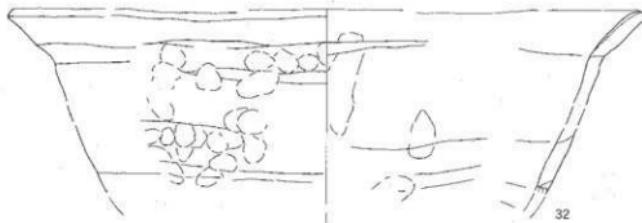
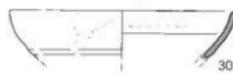


28

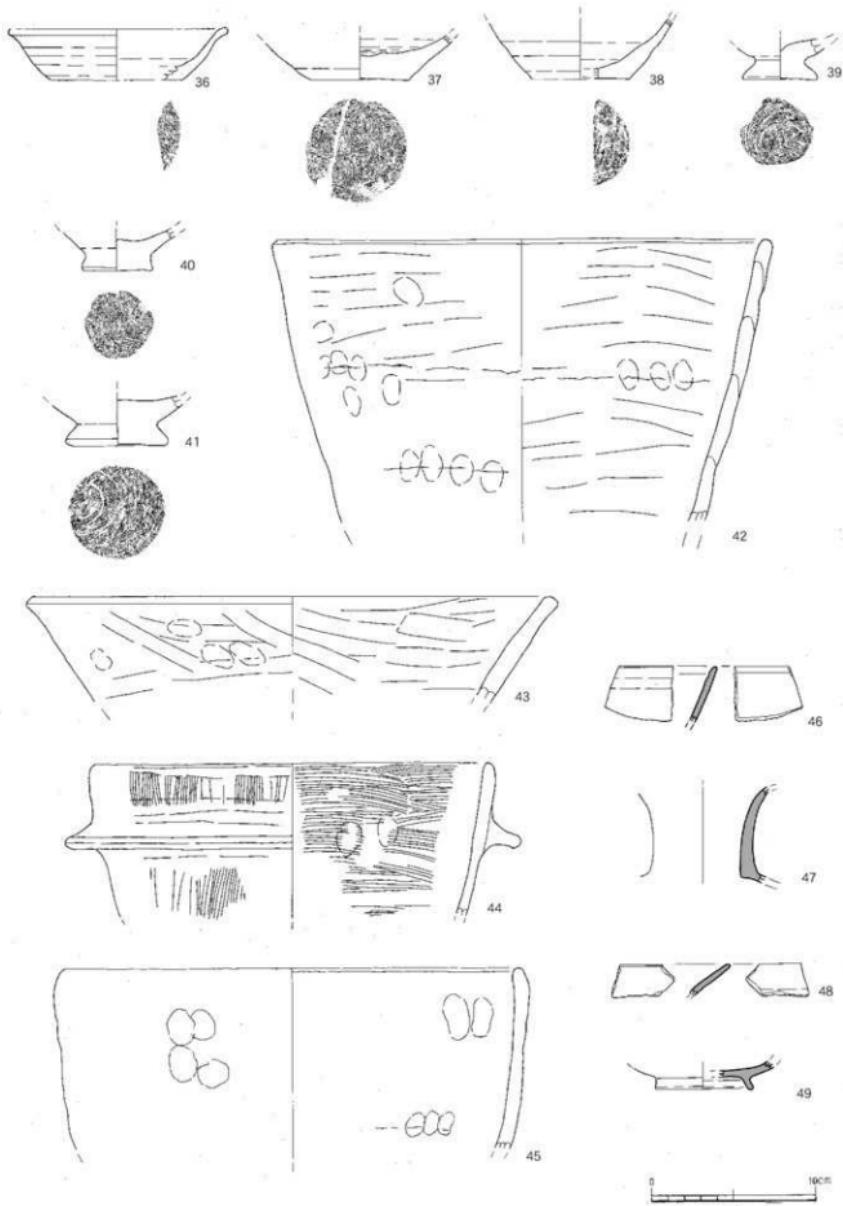


第98図 出土遺物：土器類（3号住居跡）

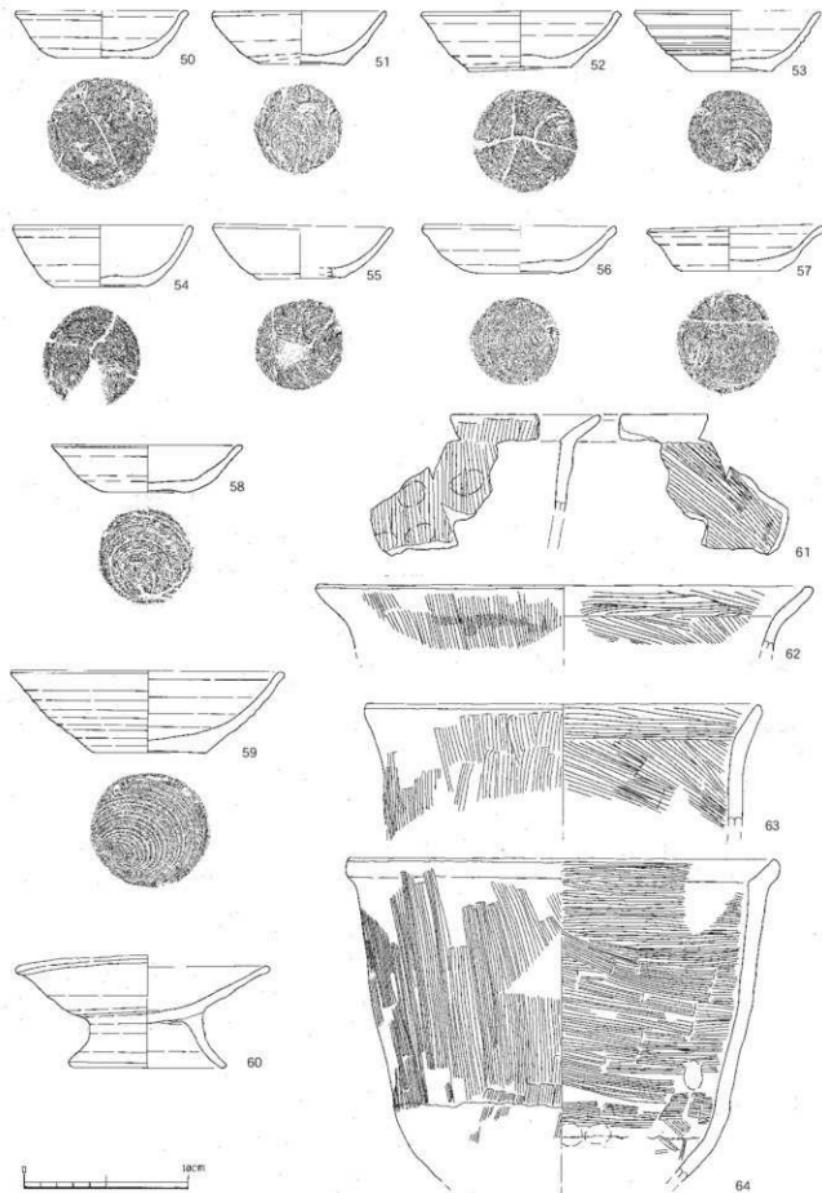




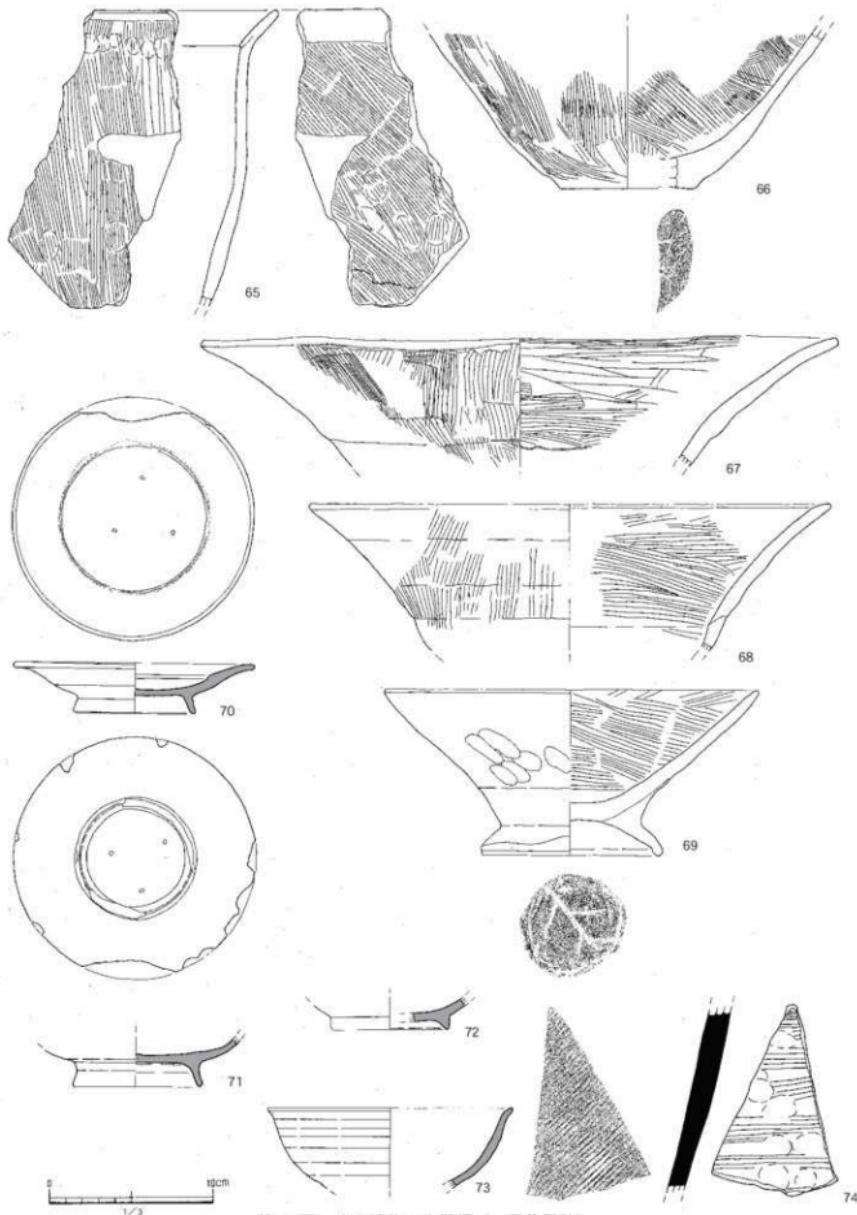
第99図 出土遺物：土器類（3号住居跡）



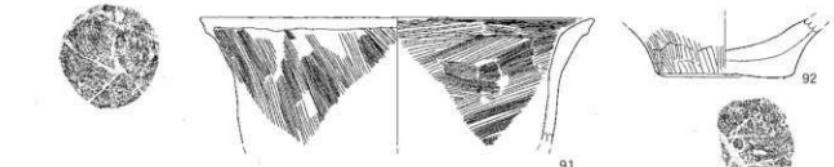
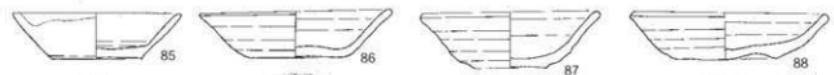
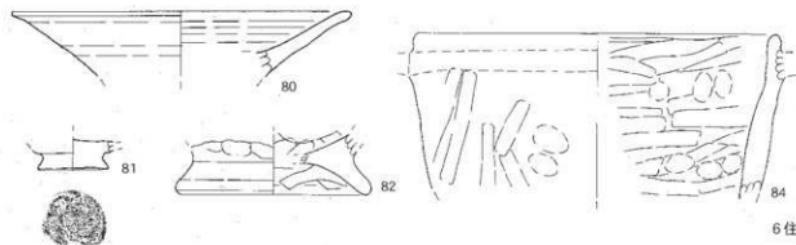
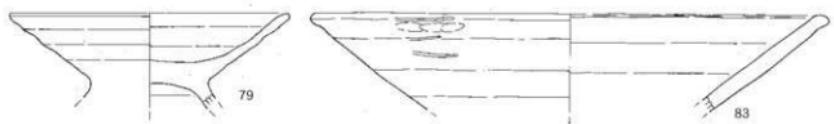
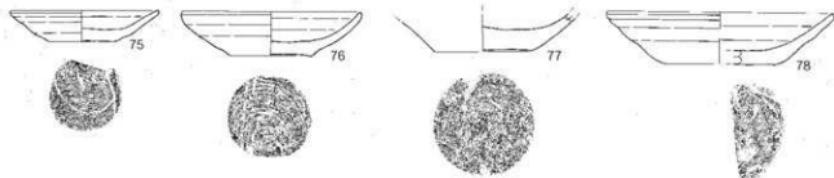
第100図 出土遺物：土器類（4号住居跡）



第101図 出土遺物：土器類（5号住居跡）

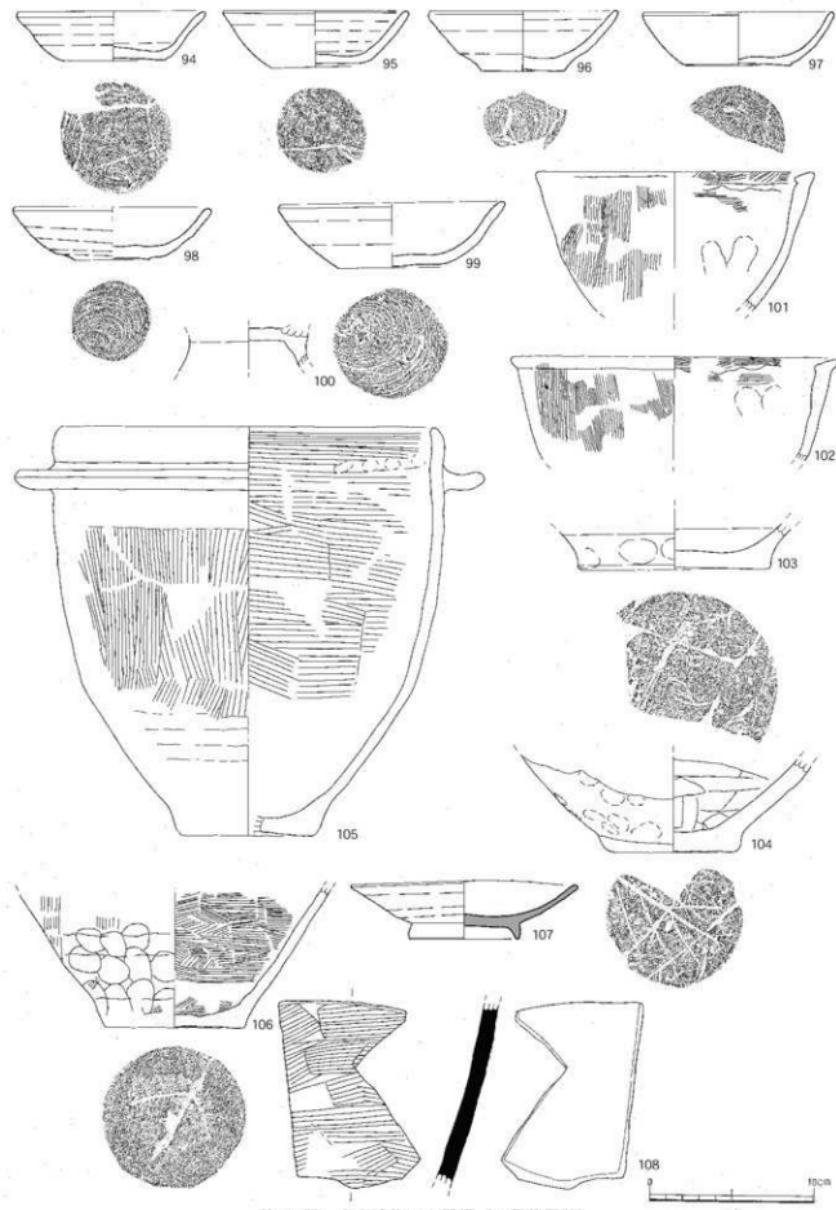


第102図 出土遺物：土器類（5号住居跡）

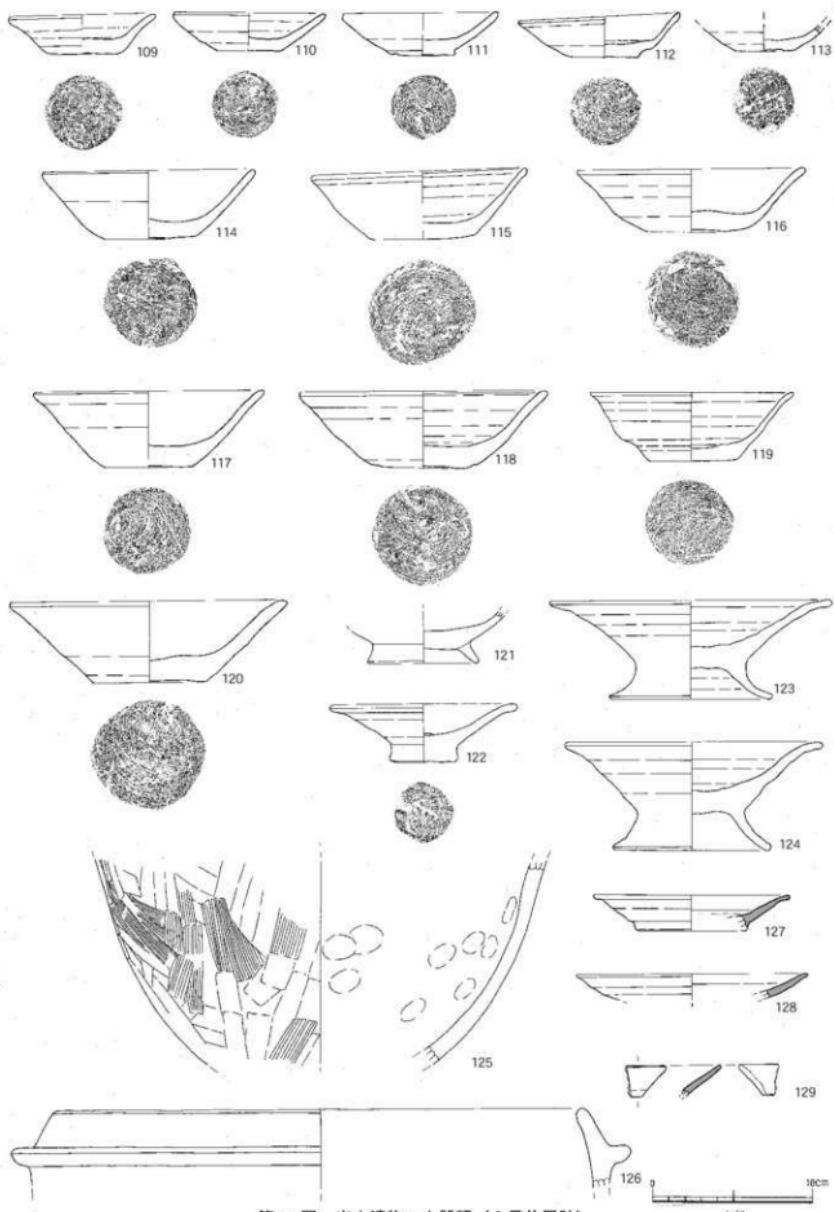


0 1/3 10cm

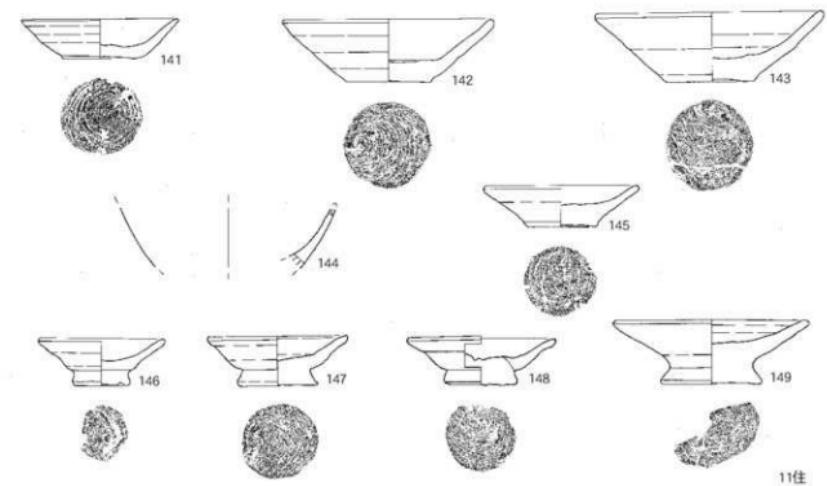
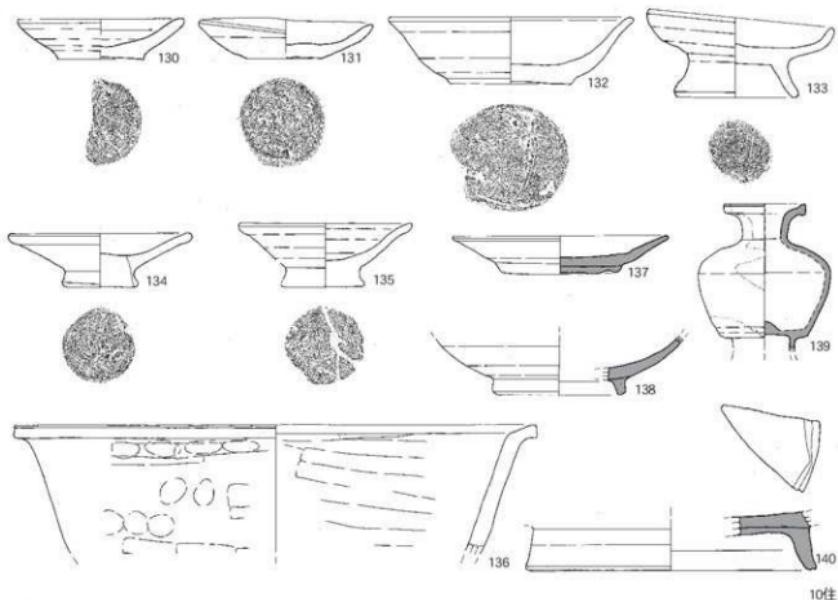
第103図 出土遺物：土器類（6号・7号住居跡）



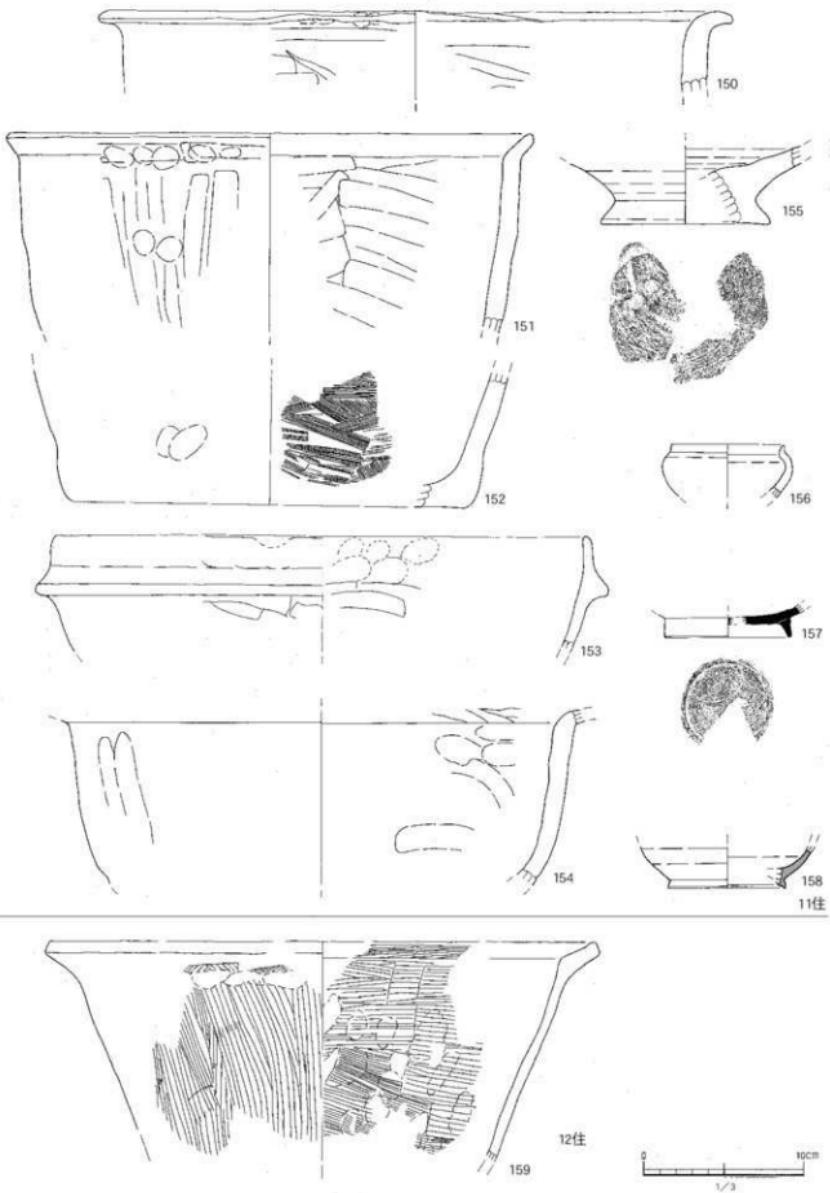
第104図 出土遺物：土器類（8号住居跡）



第105図 出土遺物：土器類（9号住居跡）



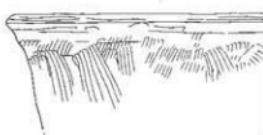
第106図 出土遺物：土器類（10号・11号住居跡）



第107図 出土遺物：土器類（11号・12号住居跡）



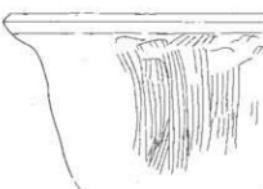
160



163



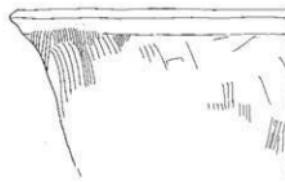
161



164



162



165



166

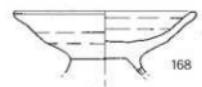
12住



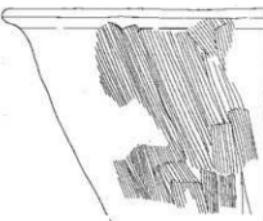
167



169



168



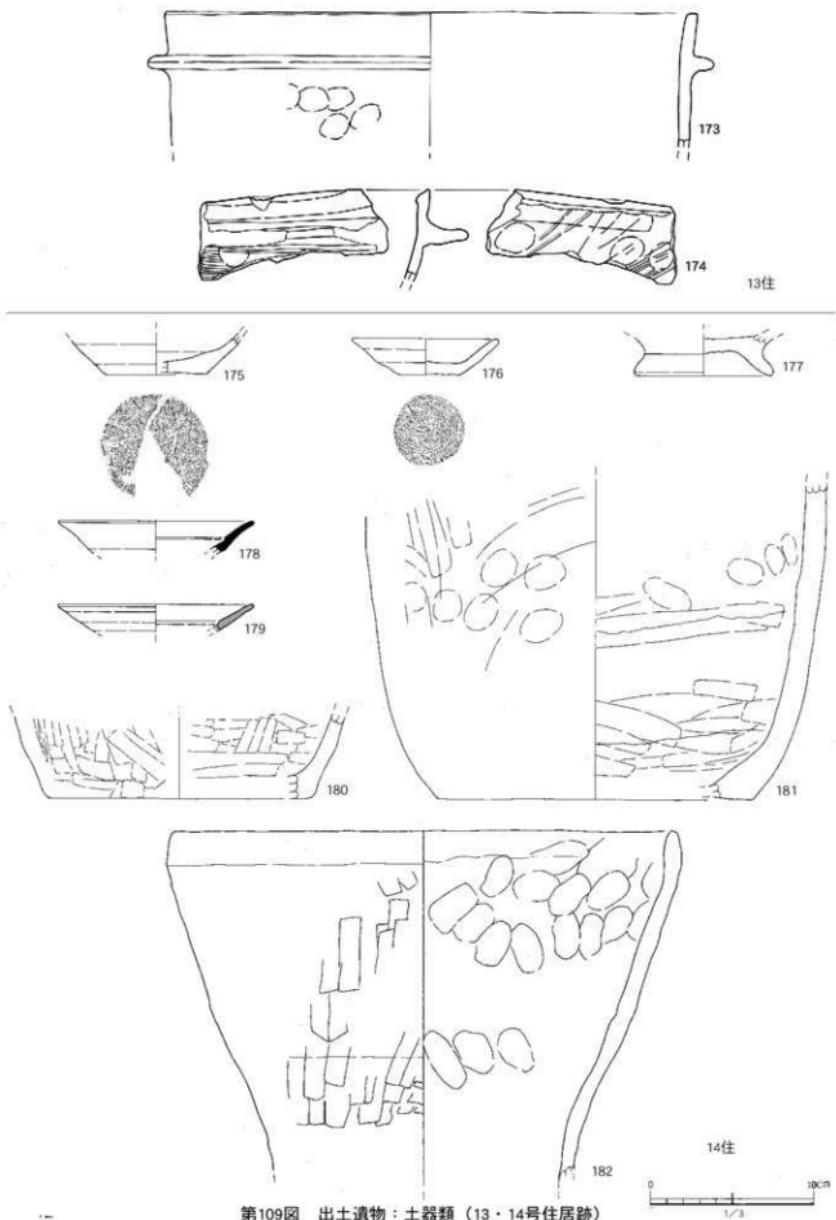
170



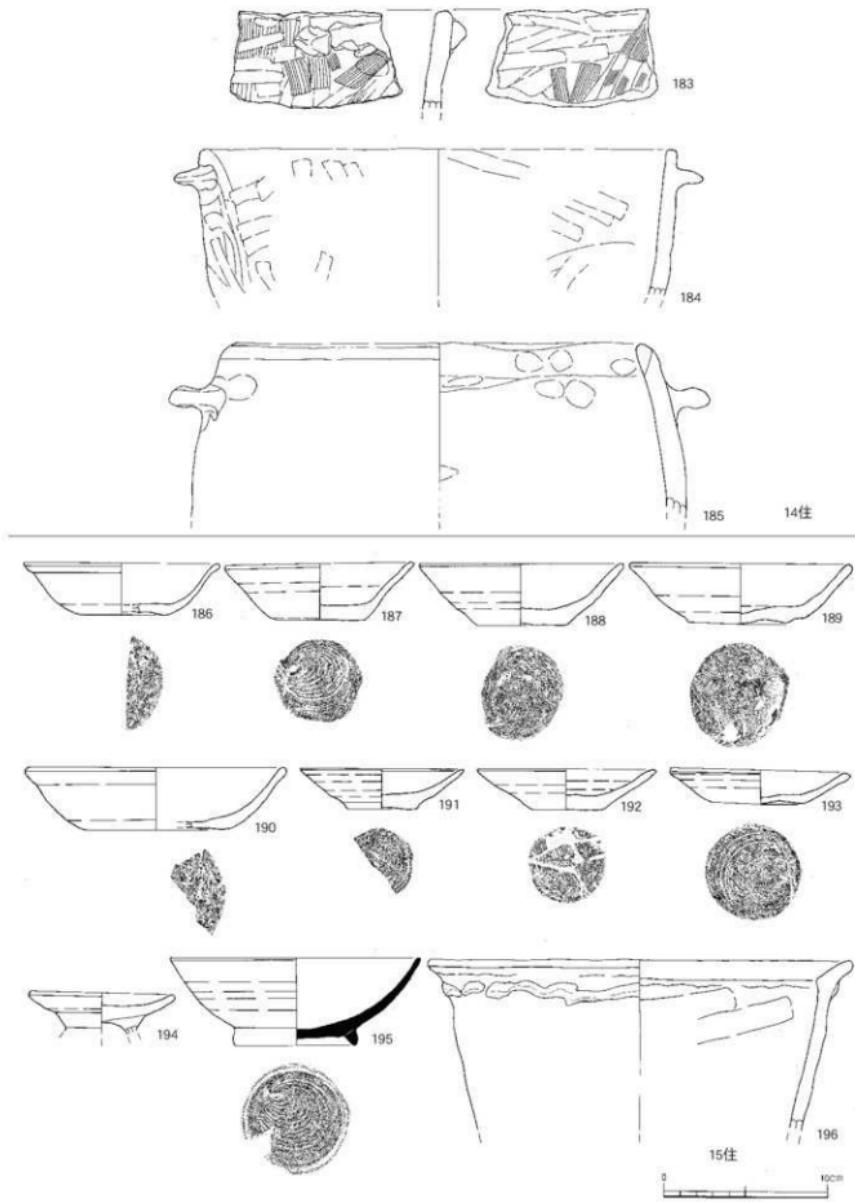
172

171
13住

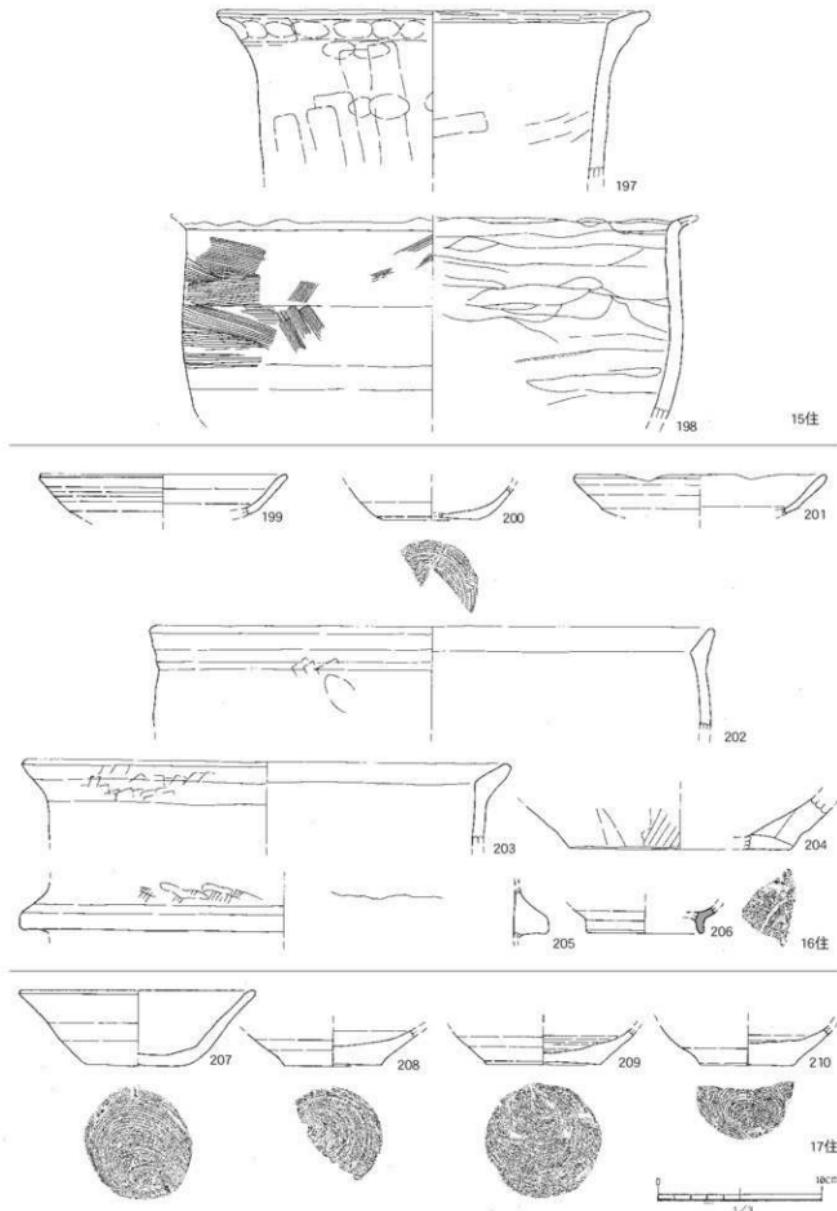
第108図 出土遺物：土器類（12・13号住居跡）



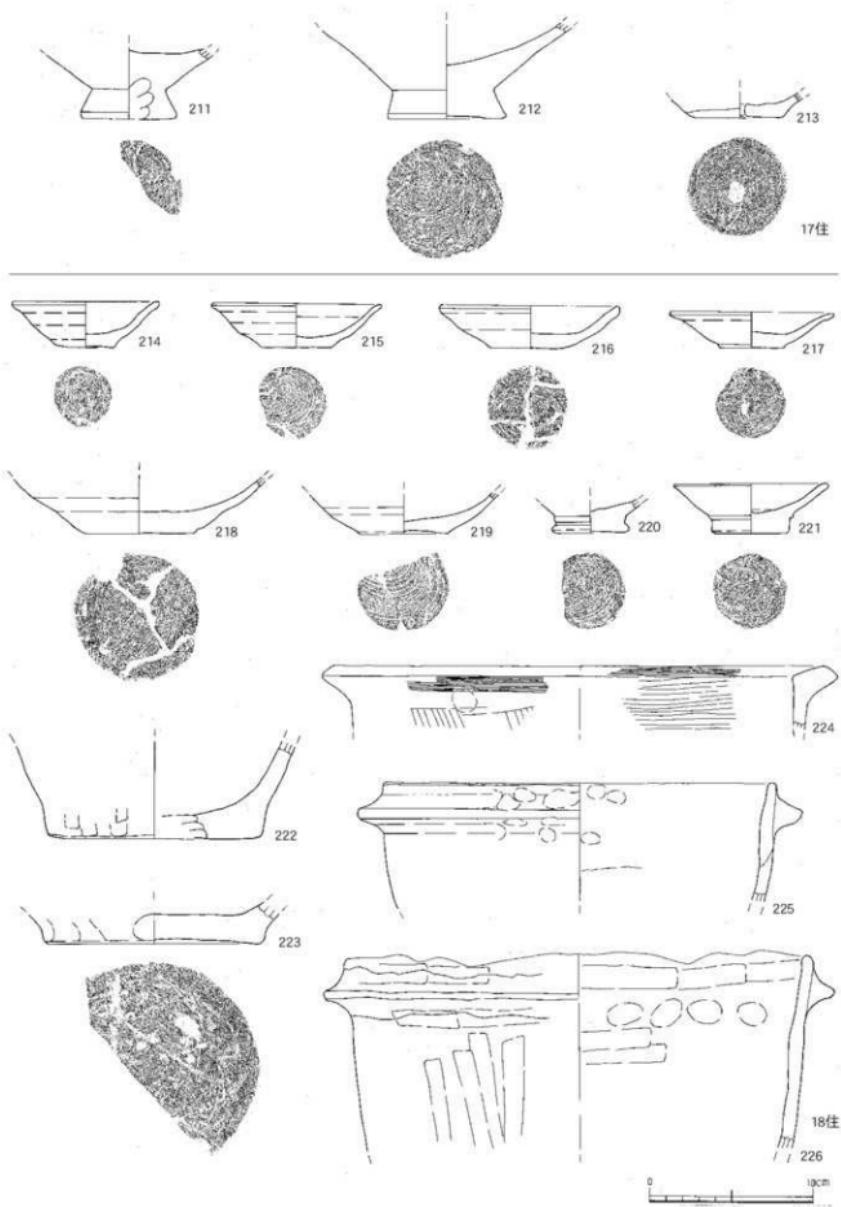
第109図 出土遺物：土器類（13・14号住居跡）



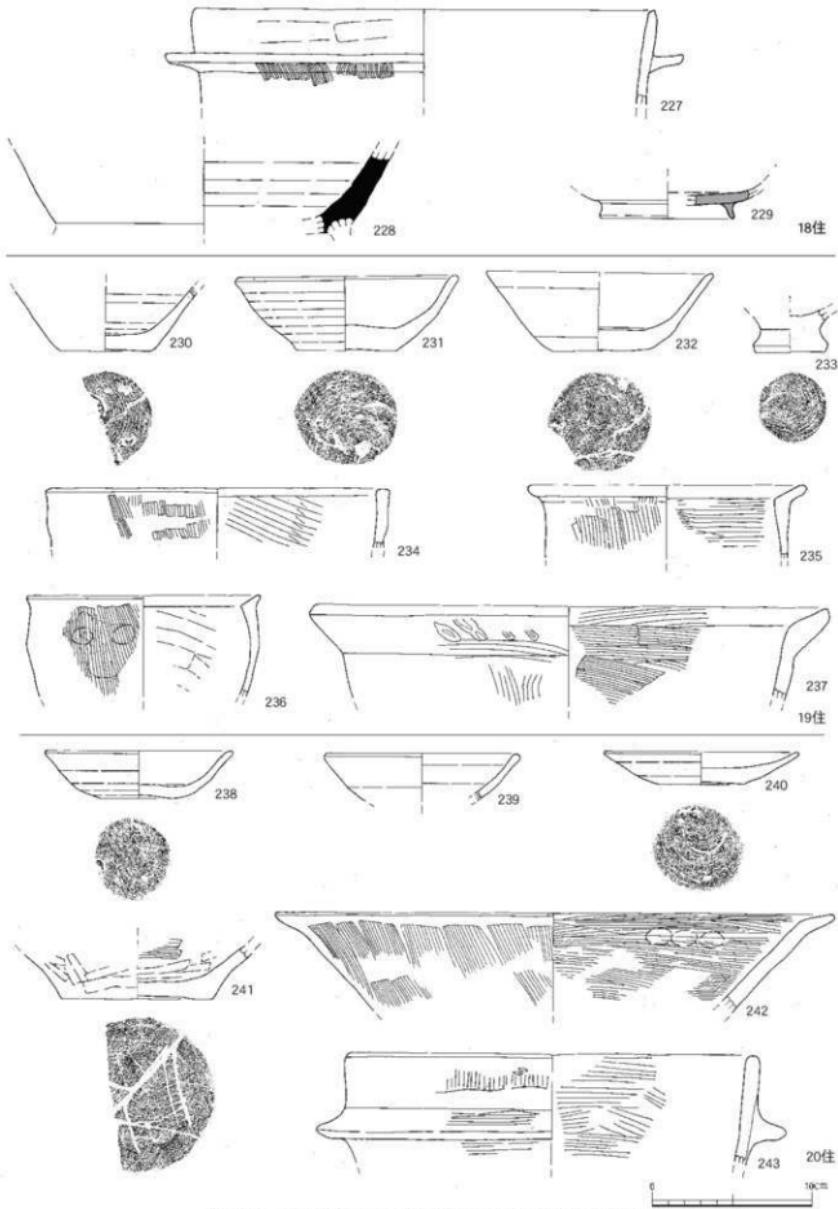
第110図 出土遺物：土器類（14号・15号住居跡）



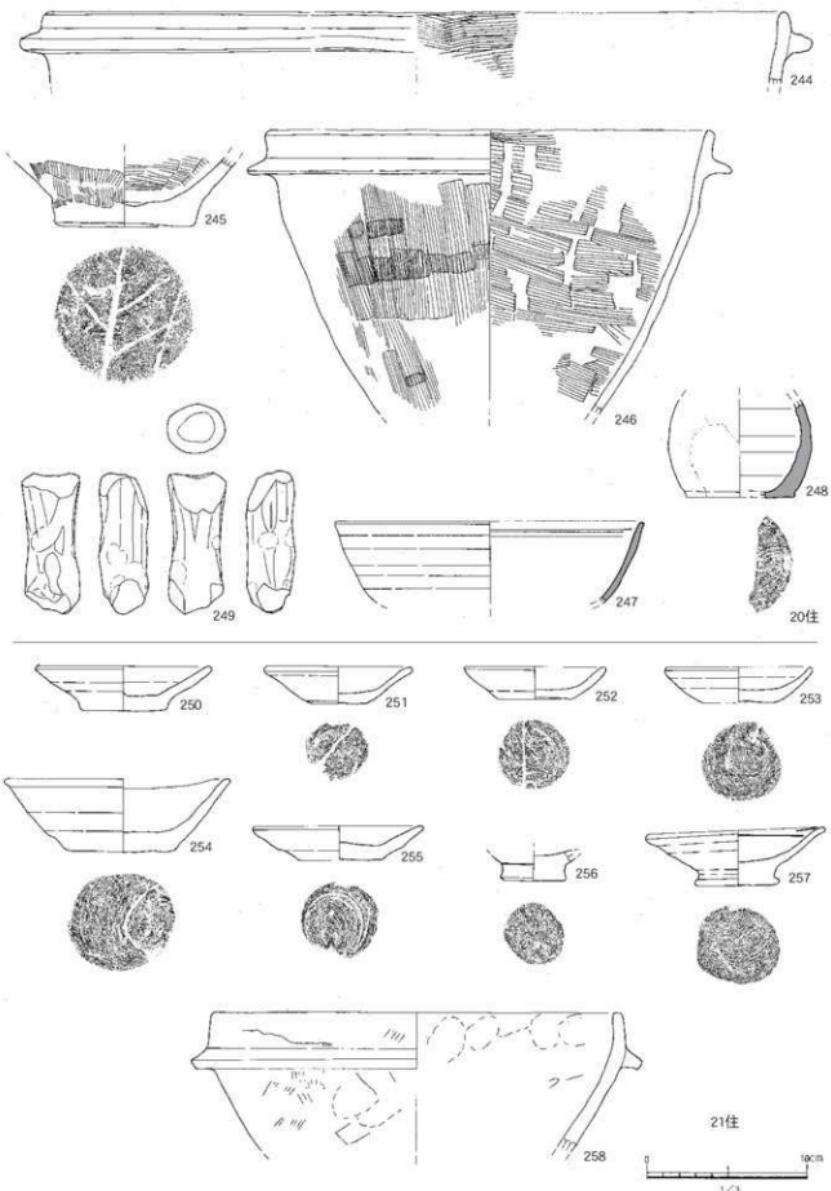
第111図 出土遺物：土器類（15号・16号・17号住居跡）



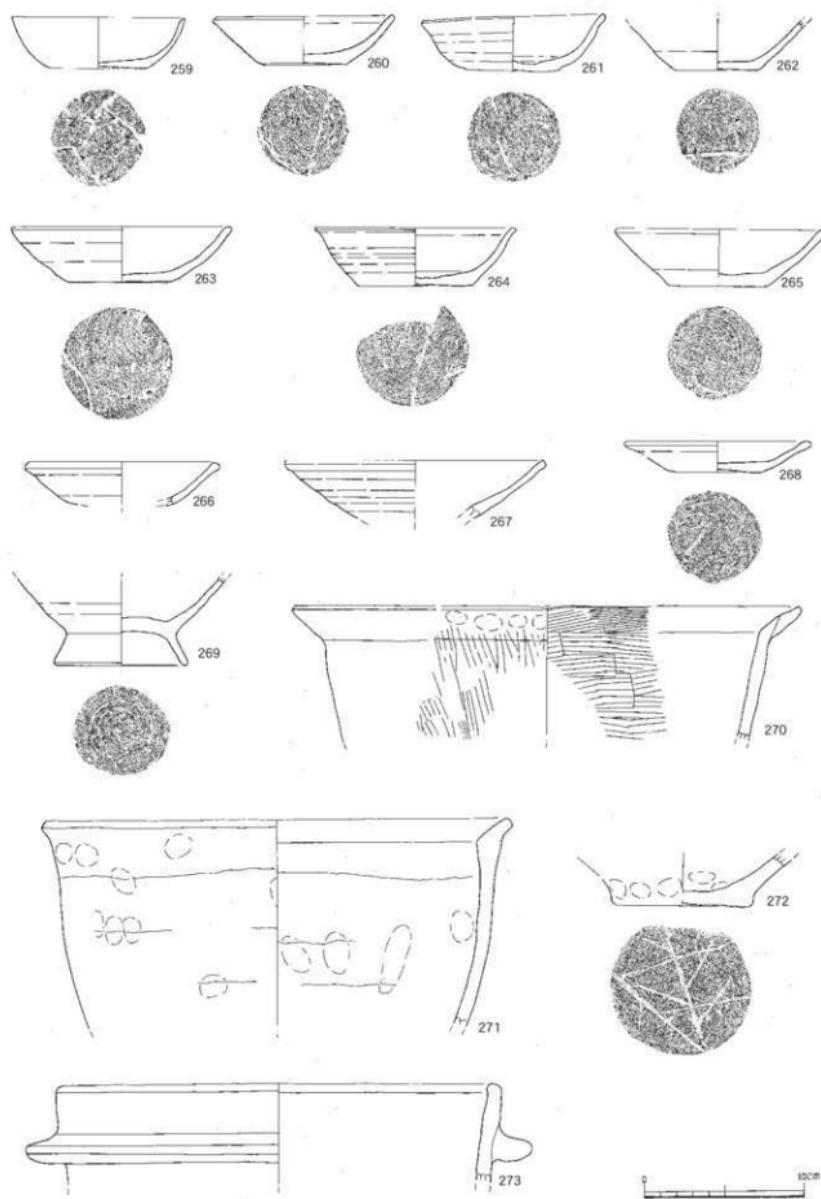
第112図 出土遺物：土器類（17号・18号住居跡）



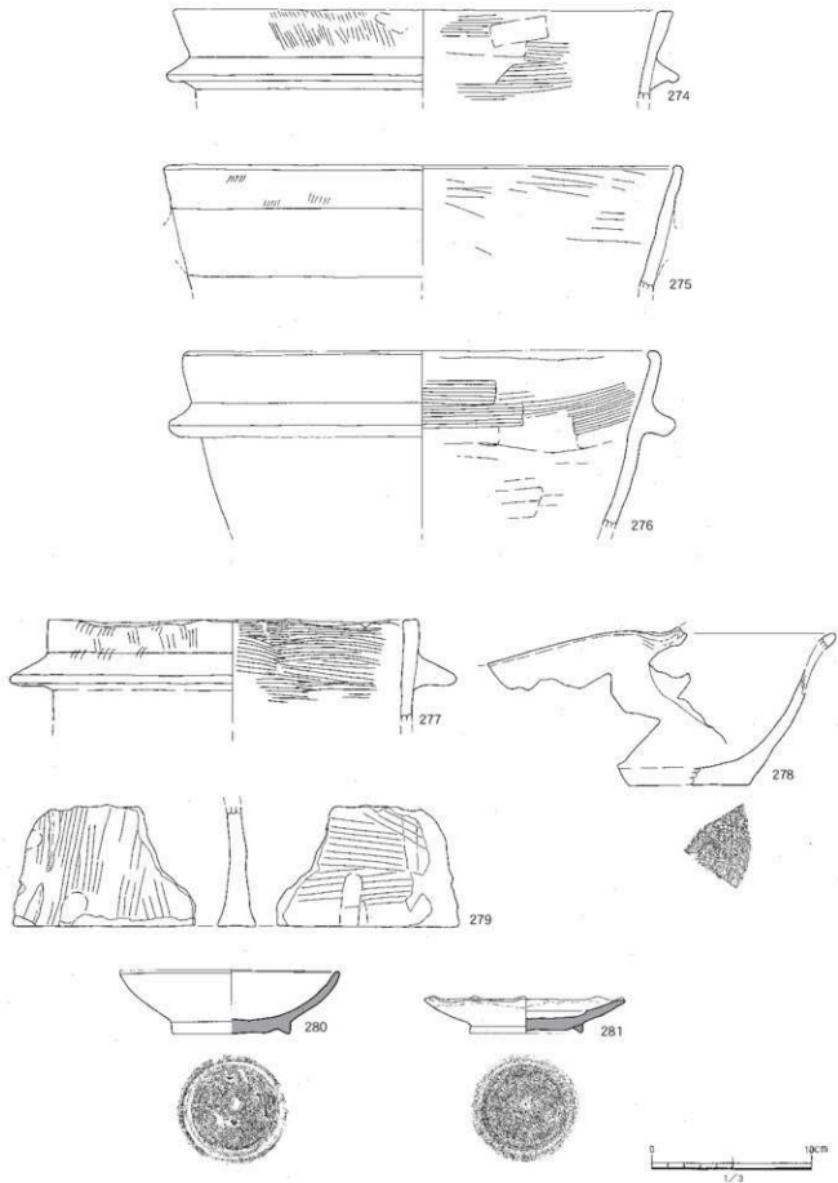
第113図 出土遺物：土器類（18号・19号・20号住居跡）



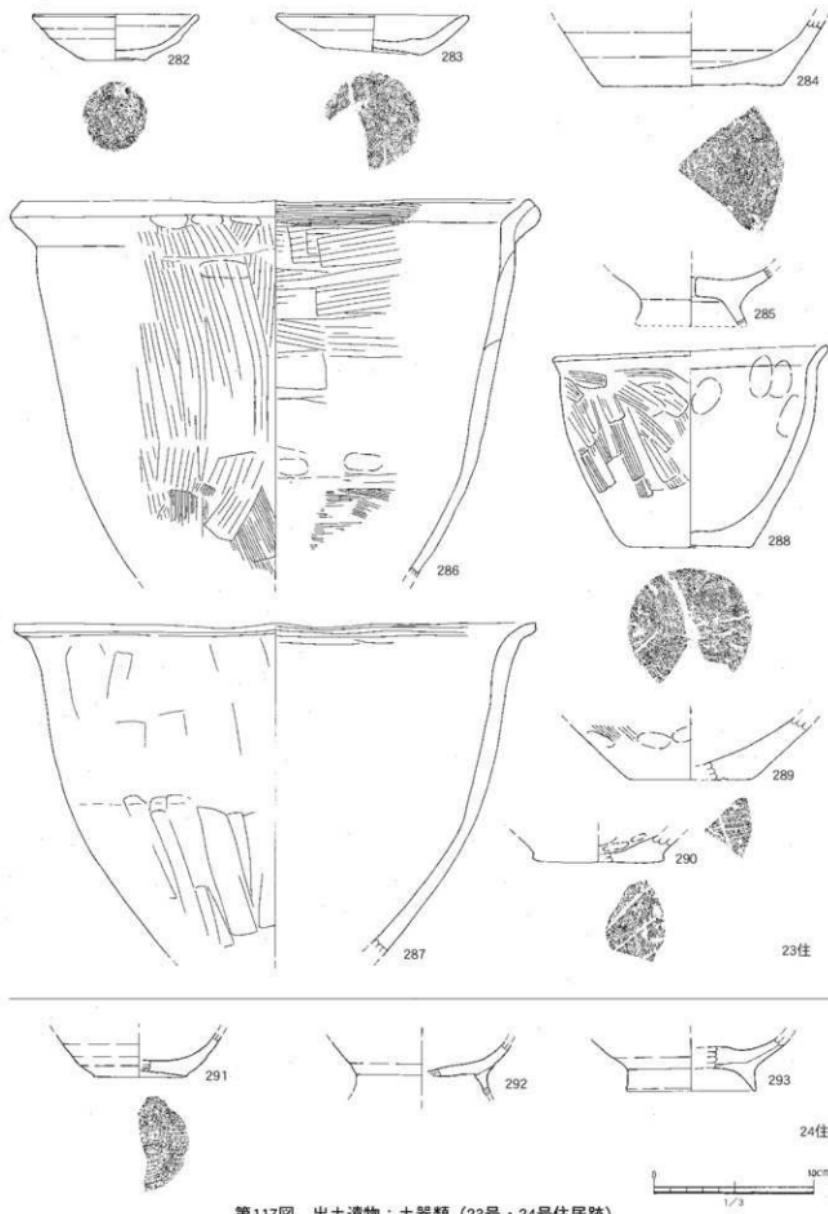
第114図 出土遺物：土器類（20号・21号住居跡）



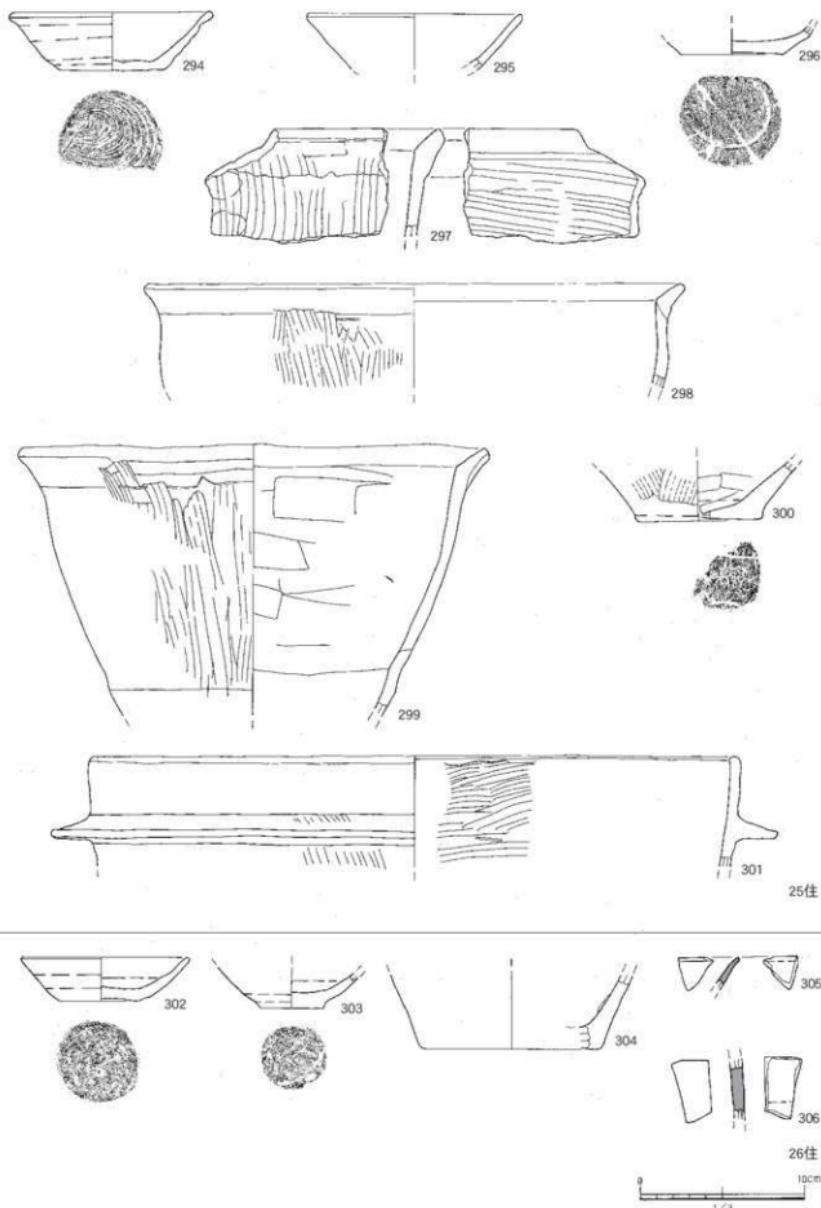
第115図 出土遺物：土器類（22号住居跡）



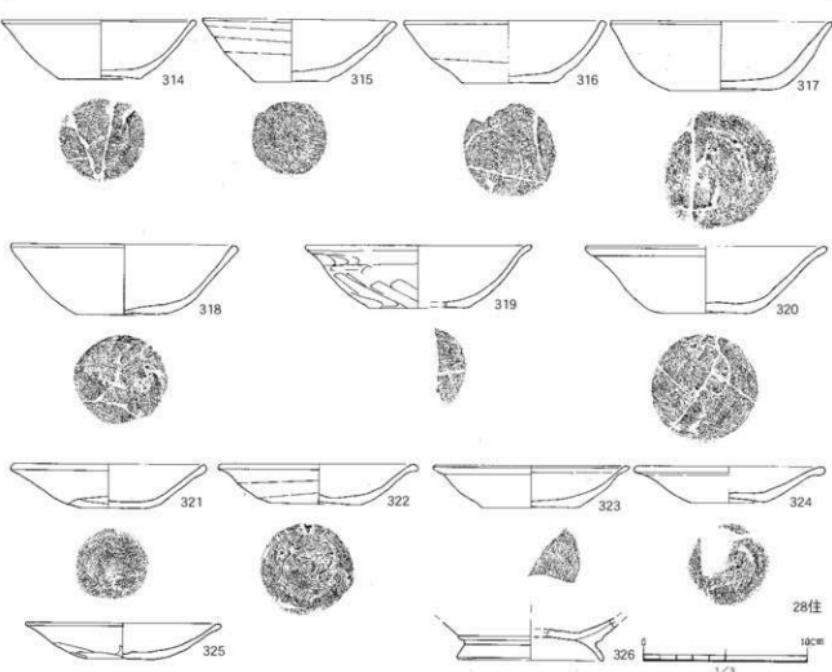
第116図 出土遺物：土器類（22号住居跡）



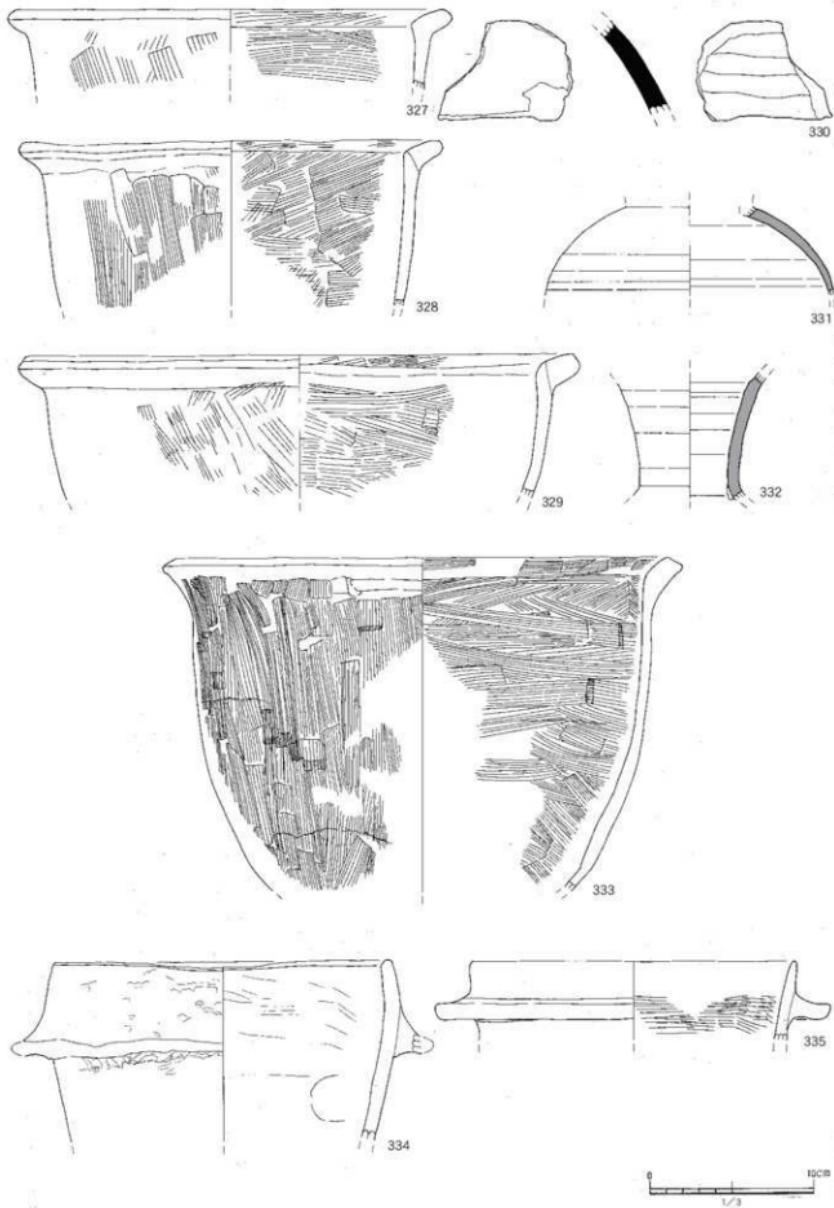
第117図 出土遺物：土器類（23号・24号住居跡）



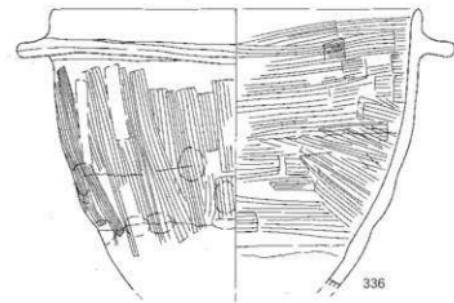
第118図 出土遺物：土器類（25号・26号住居跡）



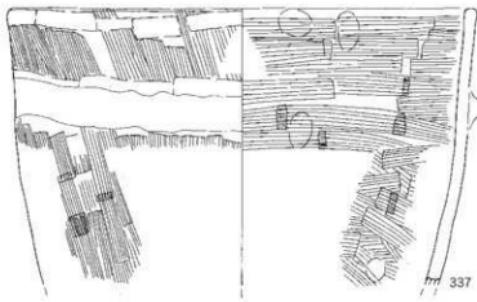
第119図 出土遺物：土器類（27号・28号住居跡）



第120図 出土遺物：土器類（28号住居跡）



336



337



338

28住



339



340



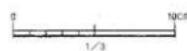
341



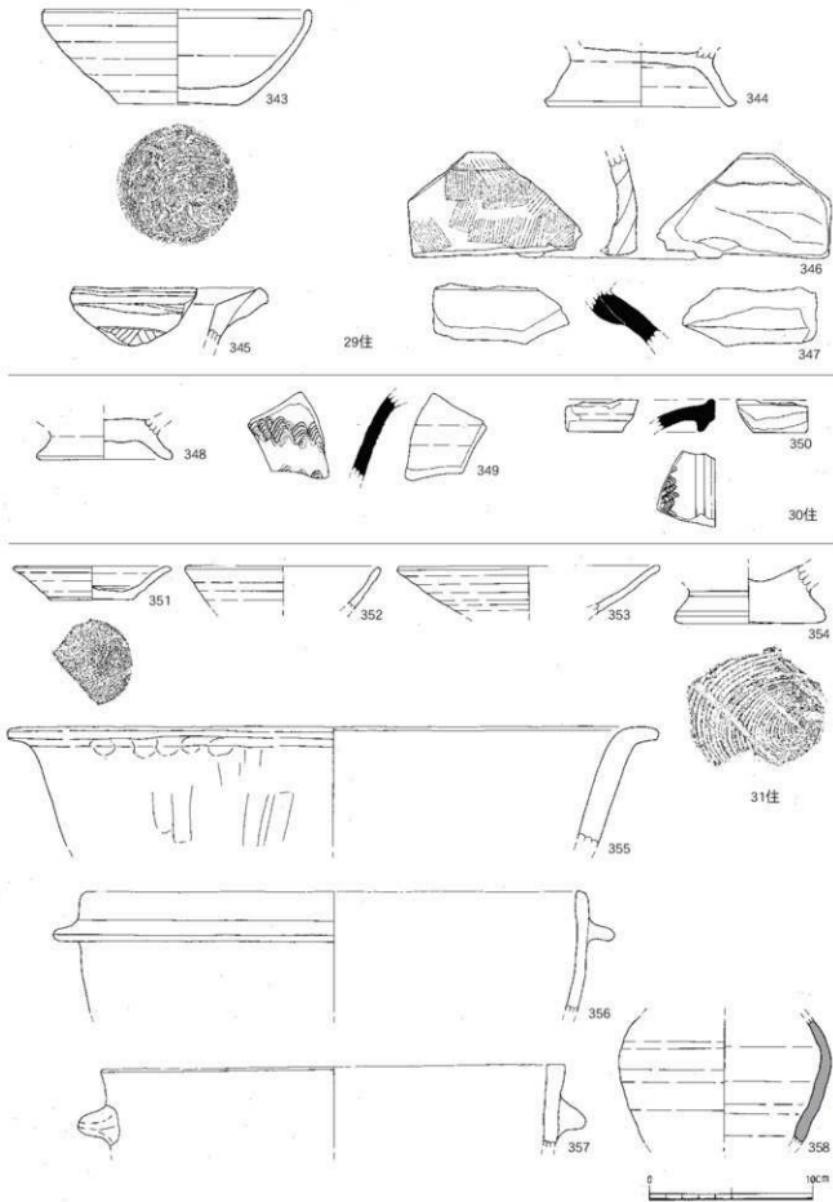
342



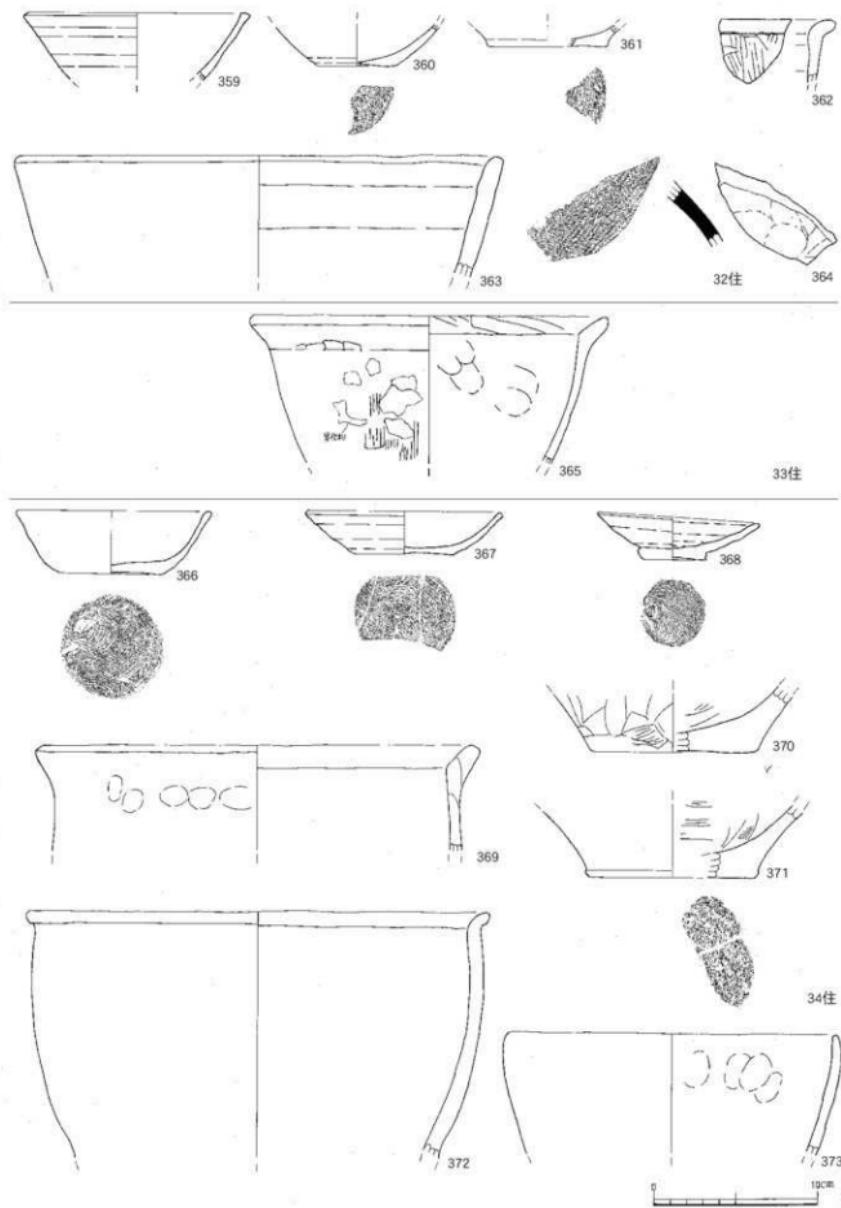
29住



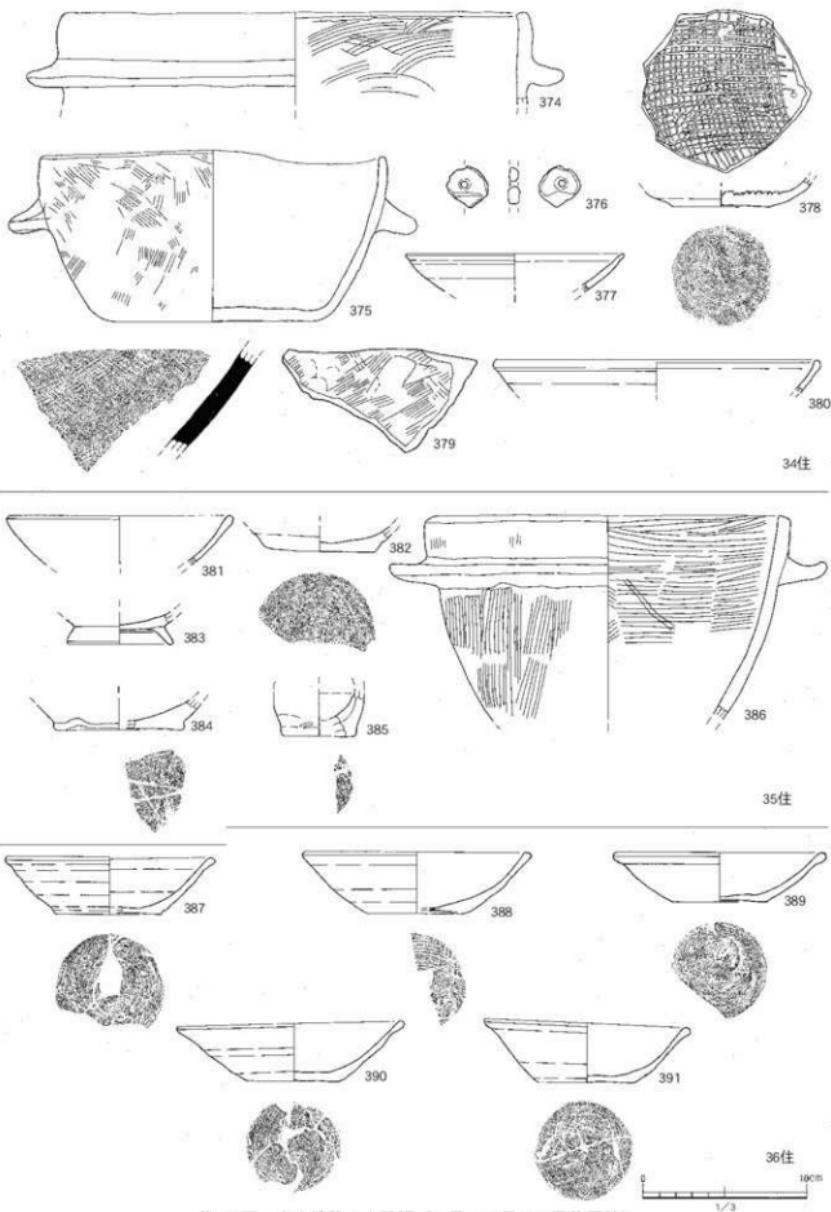
第121図 出土遺物：土器類（28号・29号住居跡）



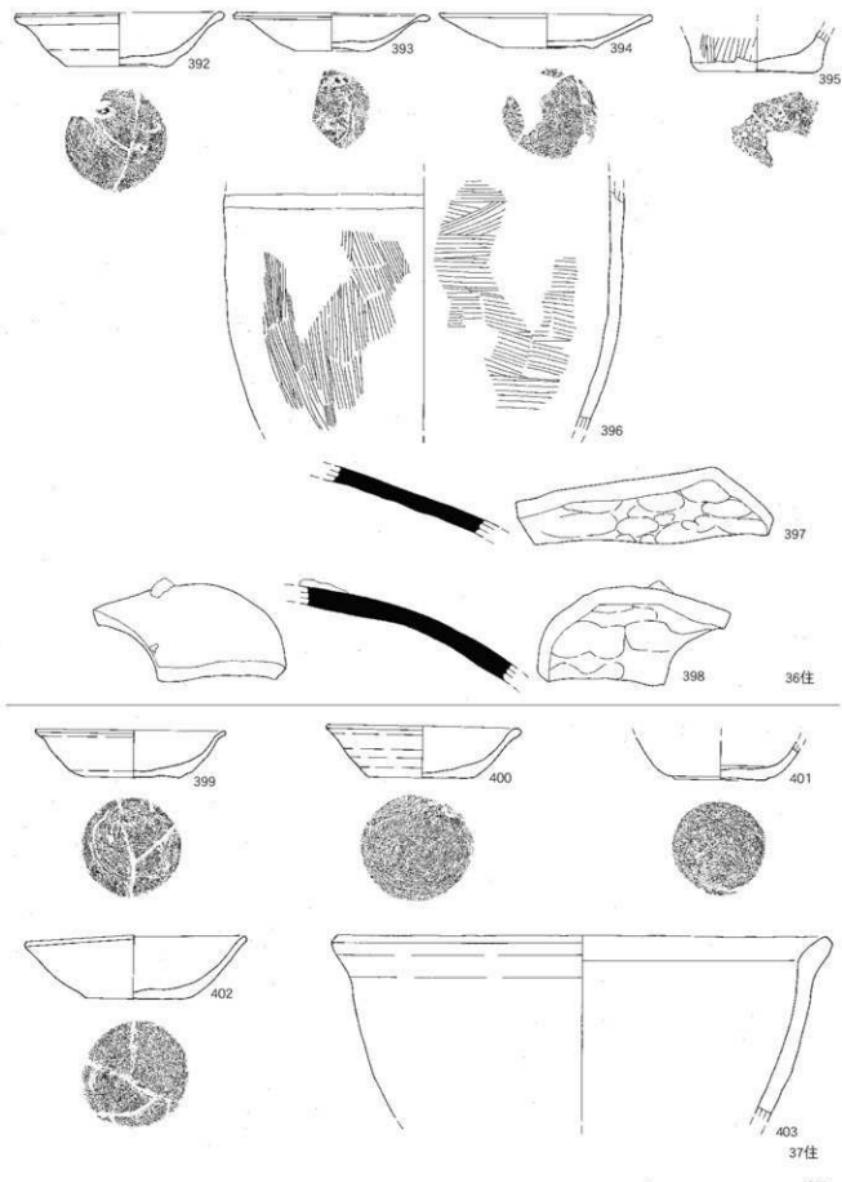
第122図 出土遺物：土器類（29号・30号・31号住居跡）



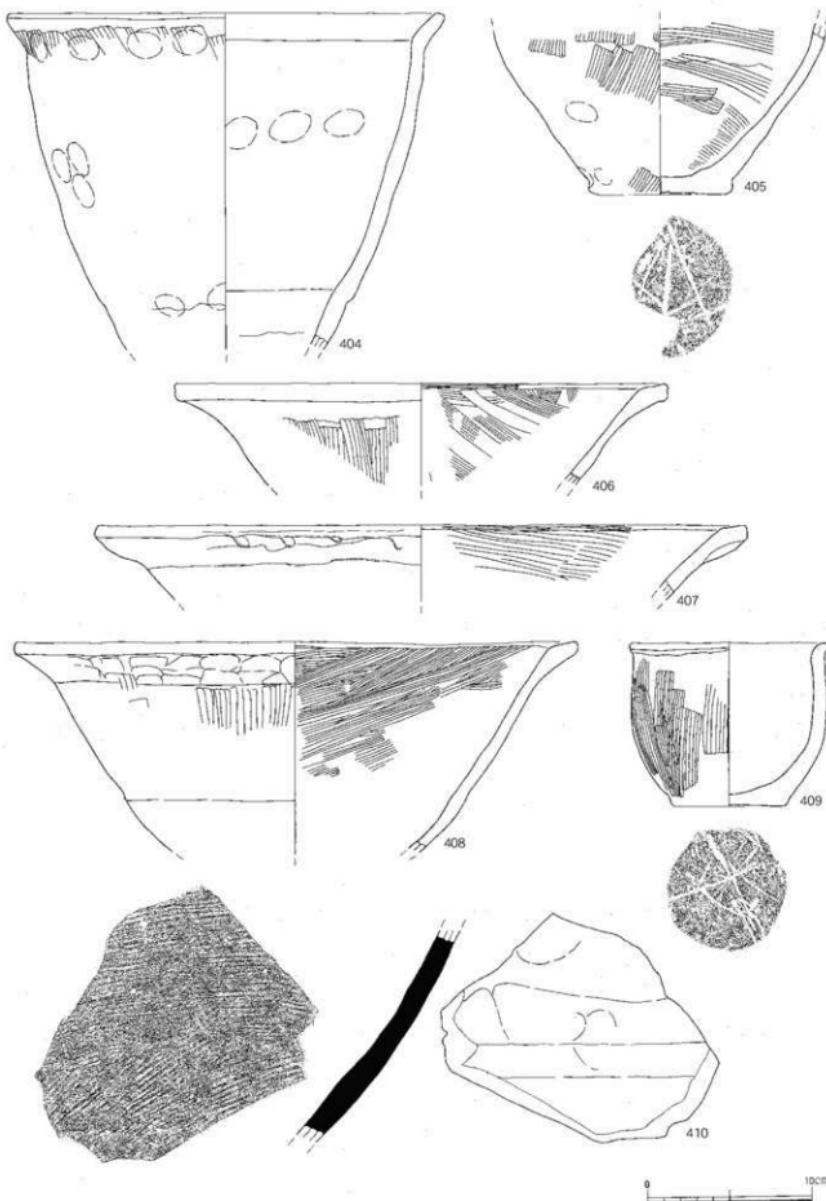
第123図 出土遺物：土器類（32号・33号・34号住居跡）



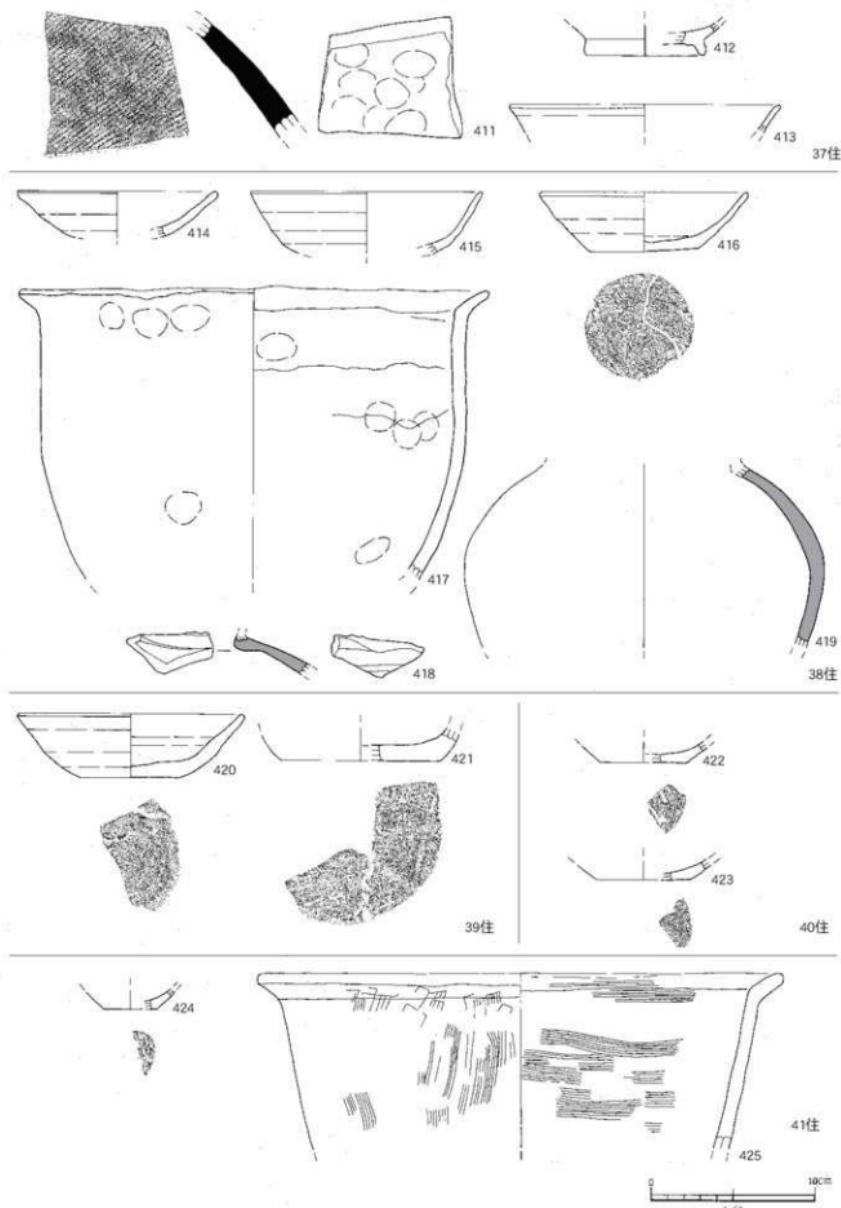
第124図 出土遺物：土器類（34号・35号・36号住居跡）



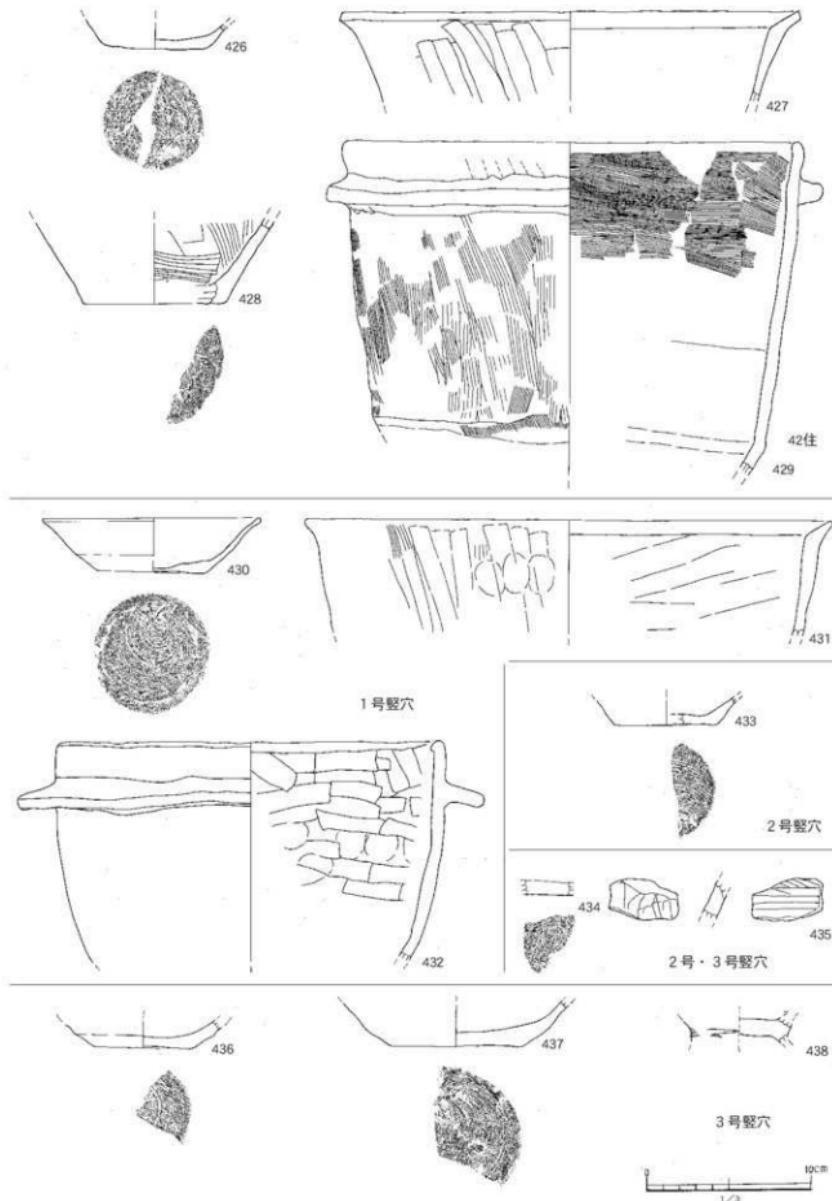
第125図 出土遺物：土器類（36号・37号住居跡）



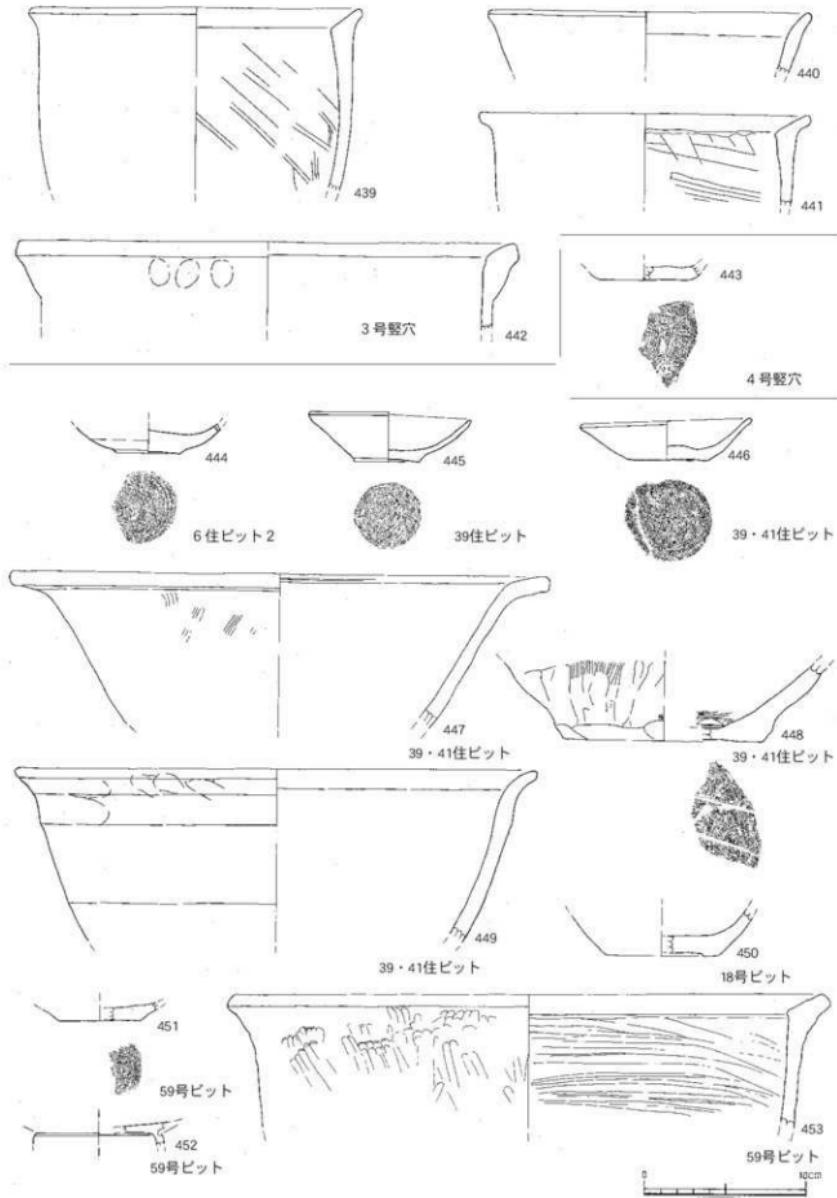
第126図 出土遺物：土器類（37号住居跡）



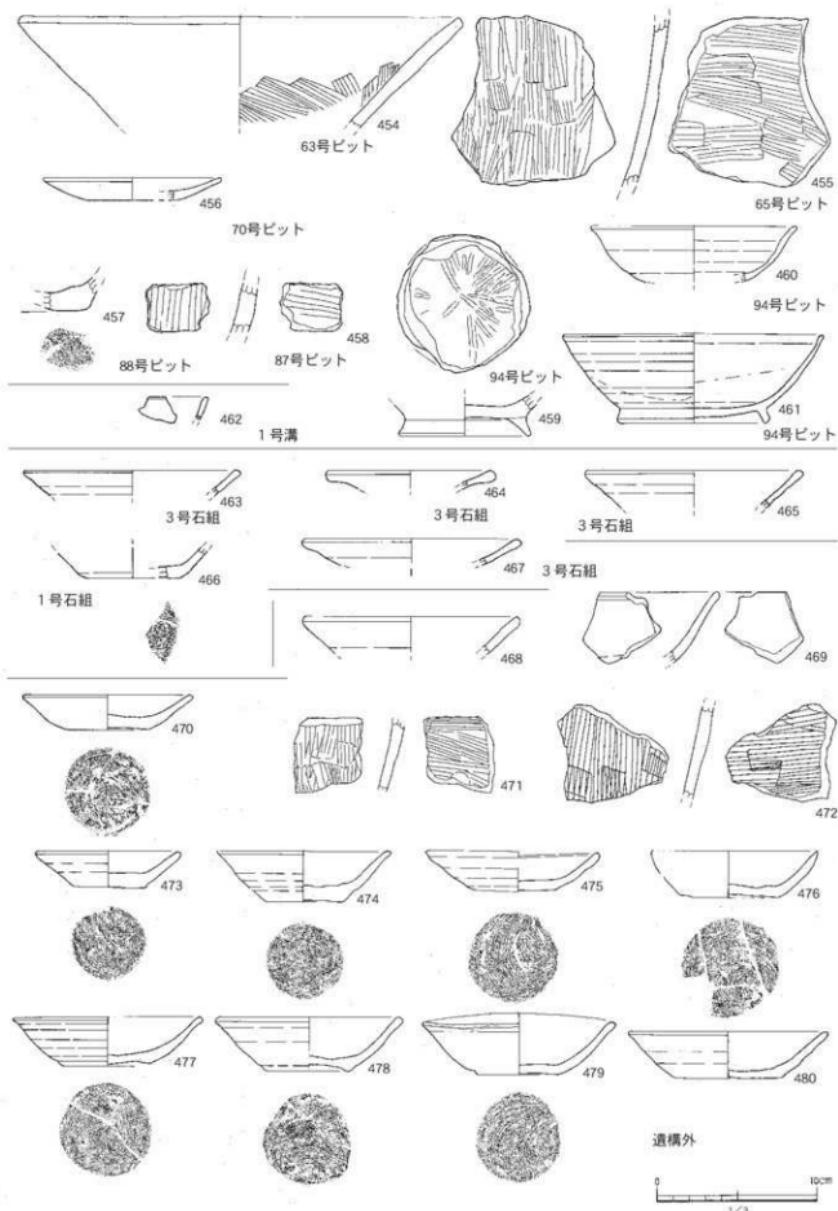
第127図 出土遺物：土器類（37号・38号・39号・40号・41号住居跡）

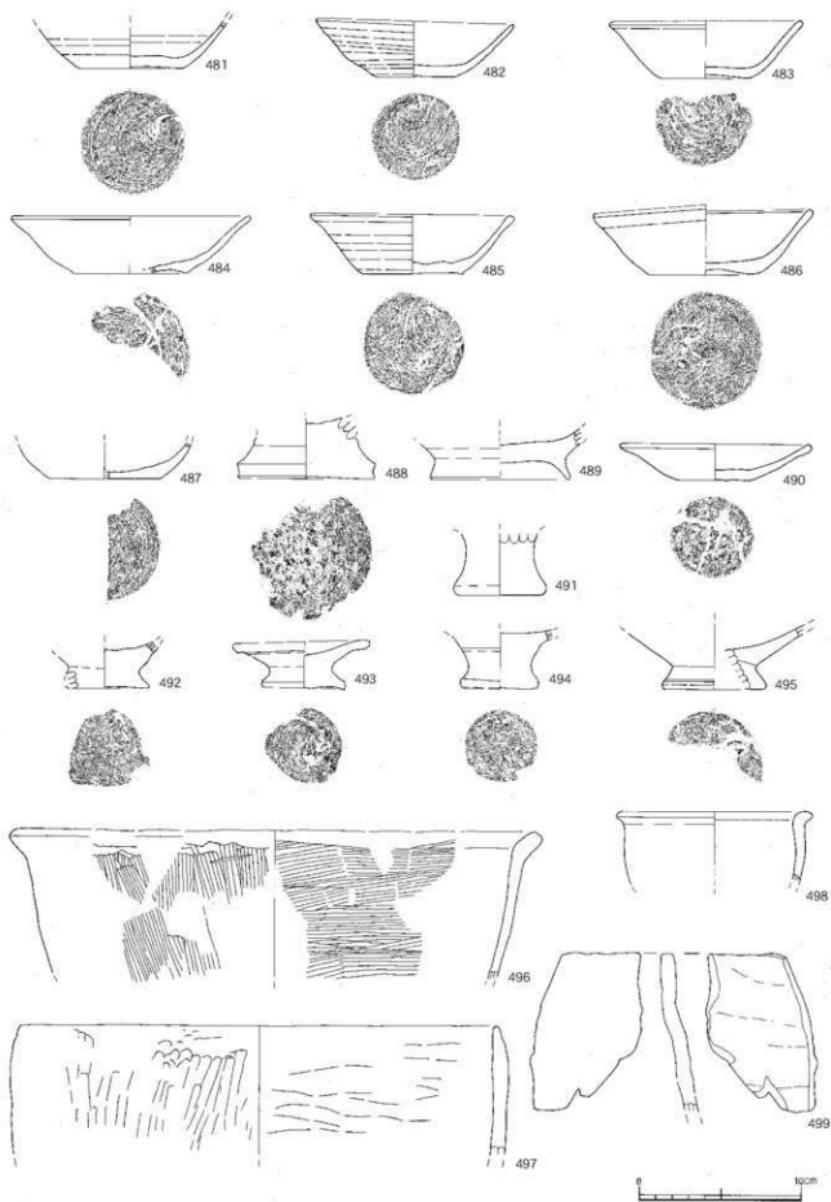


第128図 出土遺物：土器類（42号住居跡・1号・2号・3号竪穴遺構）

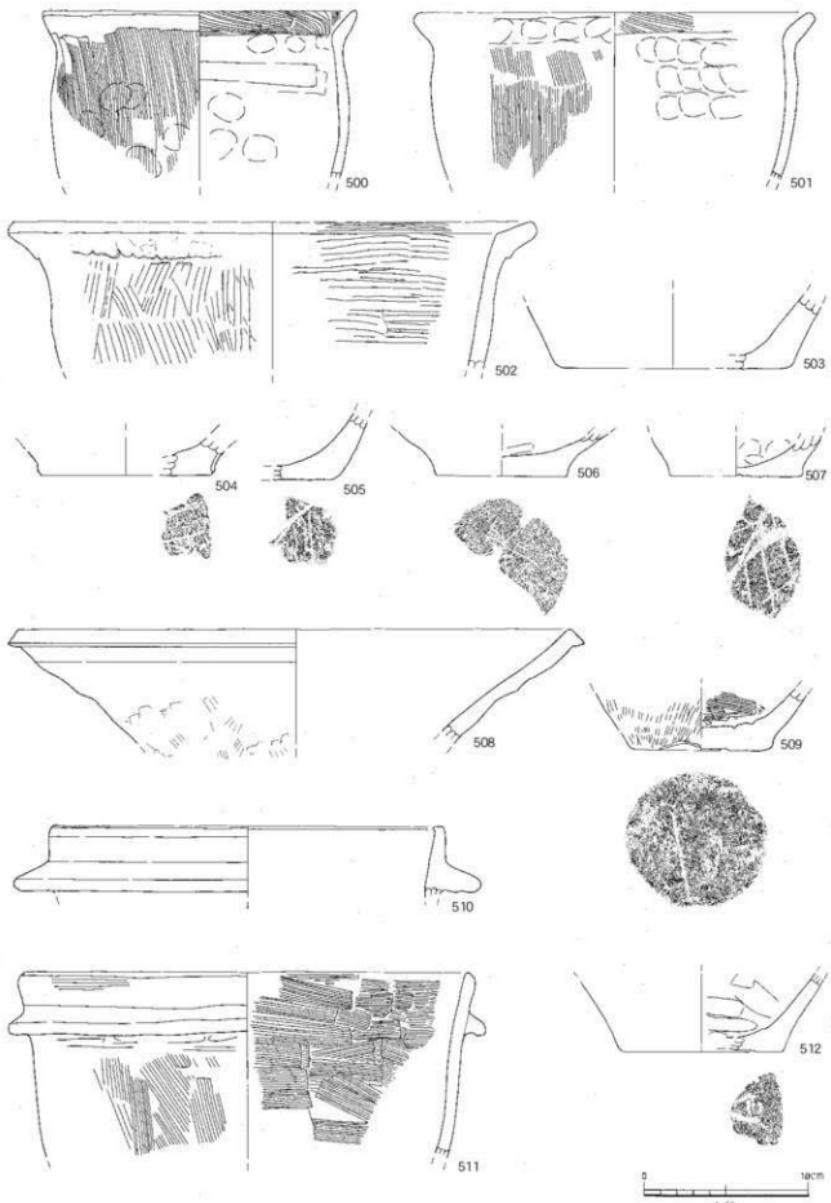


第129図 出土遺物：土器類（3号・4号竪穴遺構、住居内ピット、ピット）

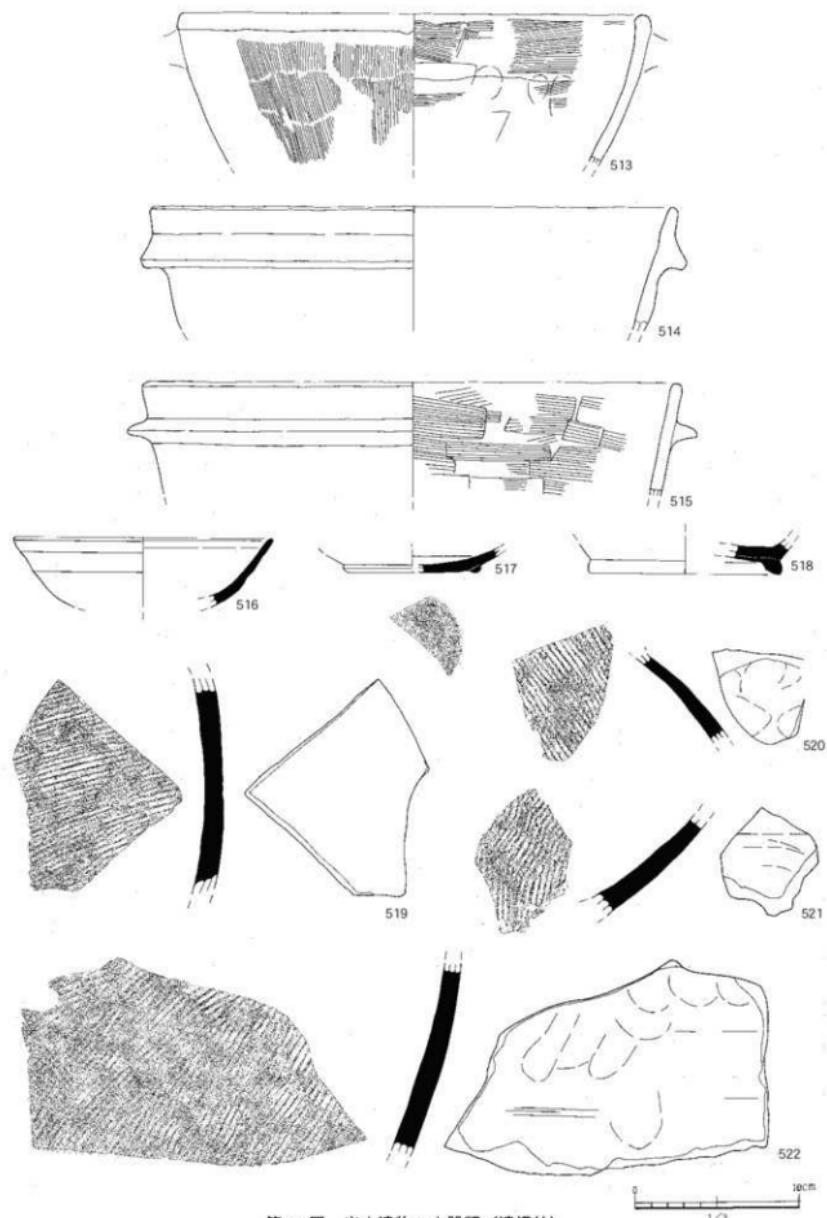




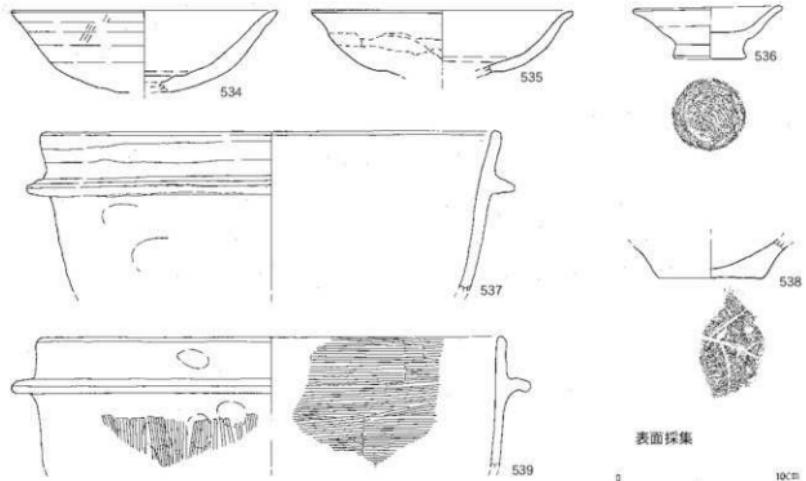
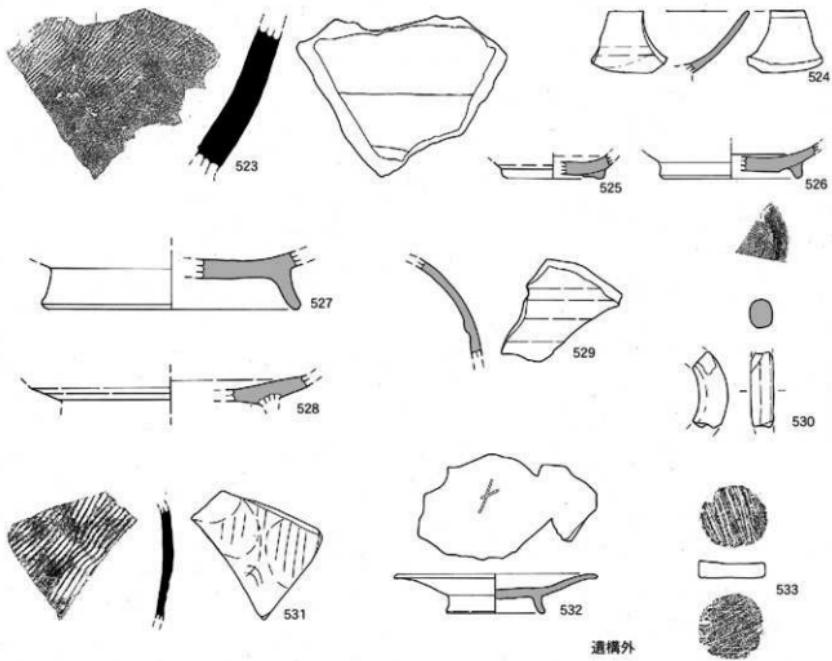
第131図 出土遺物：土器類（遺構外）



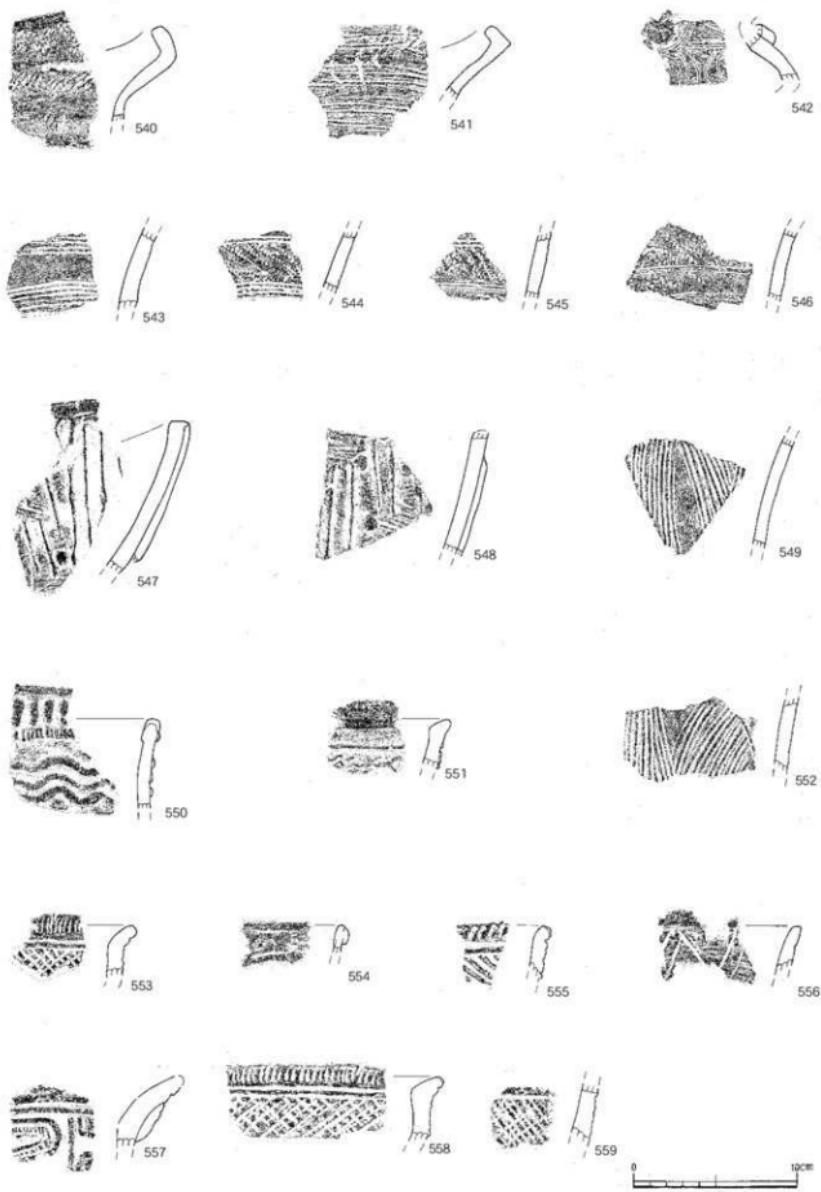
第132図 出土遺物：土器類（遺構外）



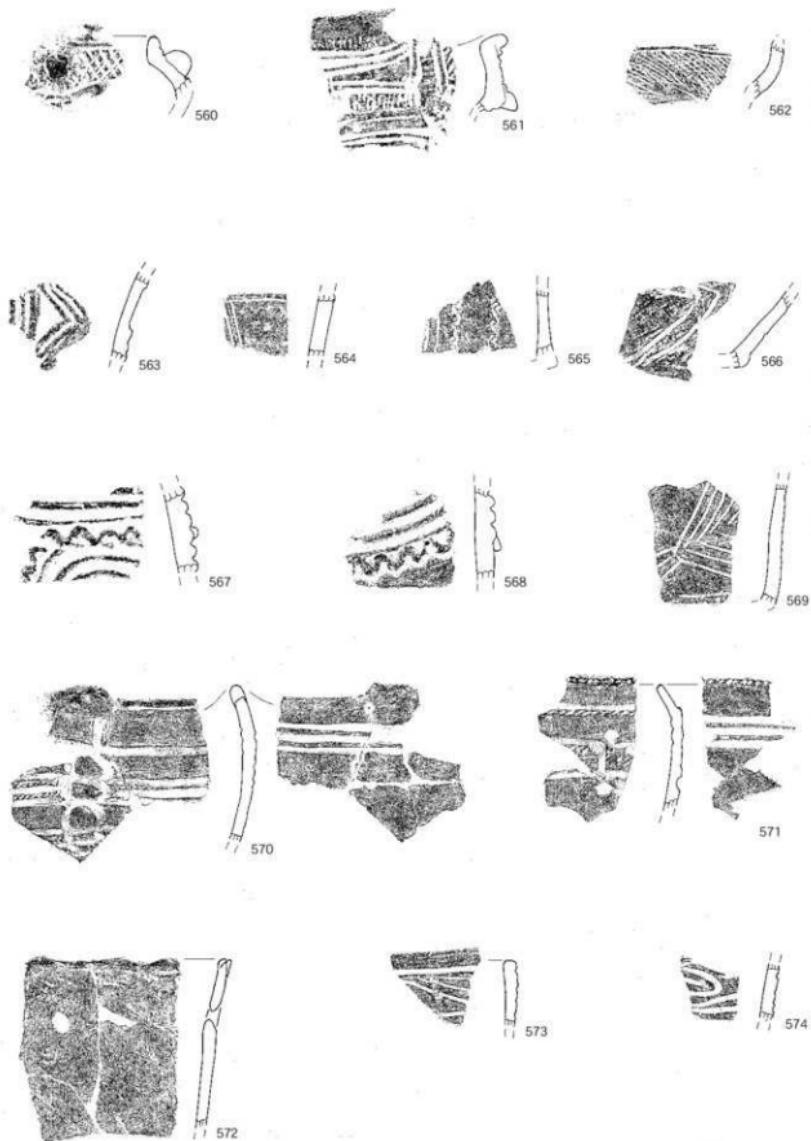
第133図 出土遺物：土器類（遺構外）



第134図 出土遺物：土器類（遺構外、表面採集）

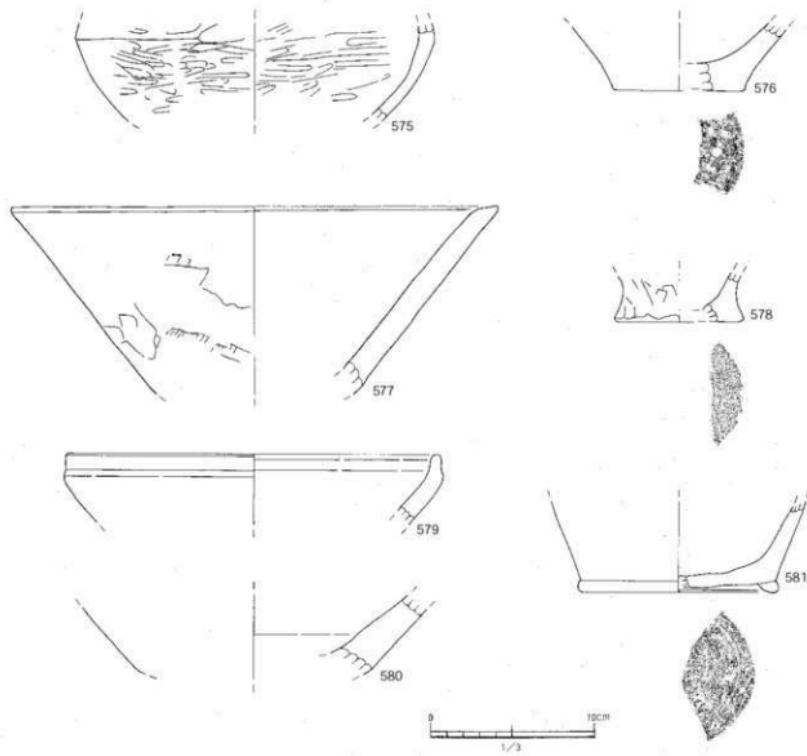


第135図 出土遺物：土器類（縄文式土器）

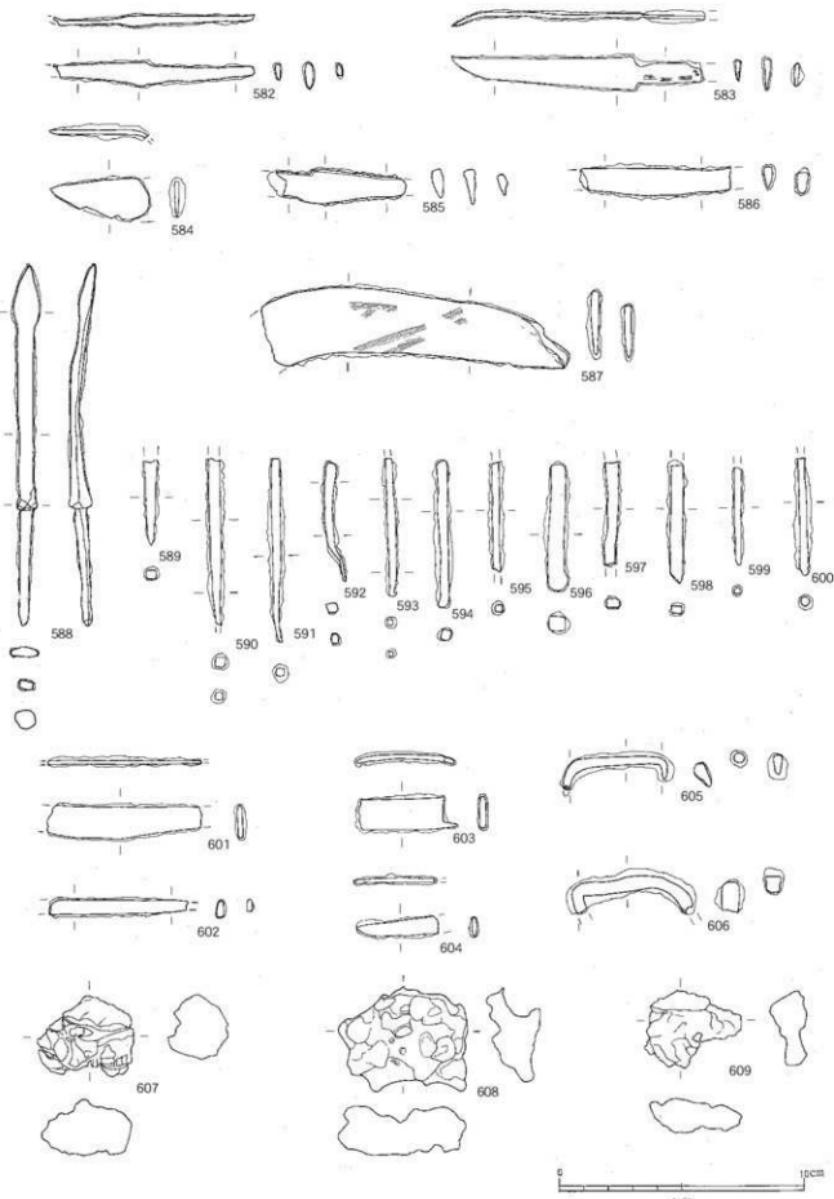


第136図 出土遺物：土器類（縄文式土器）

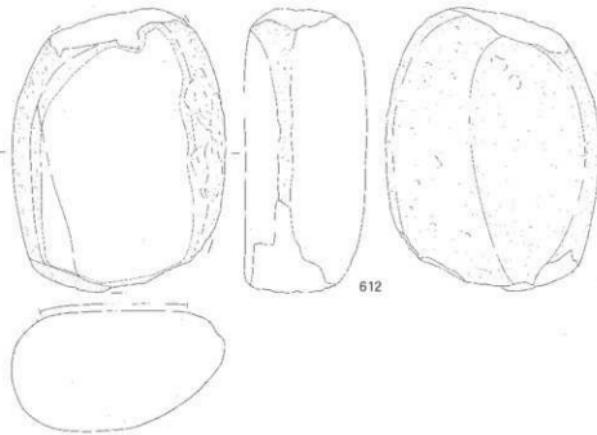
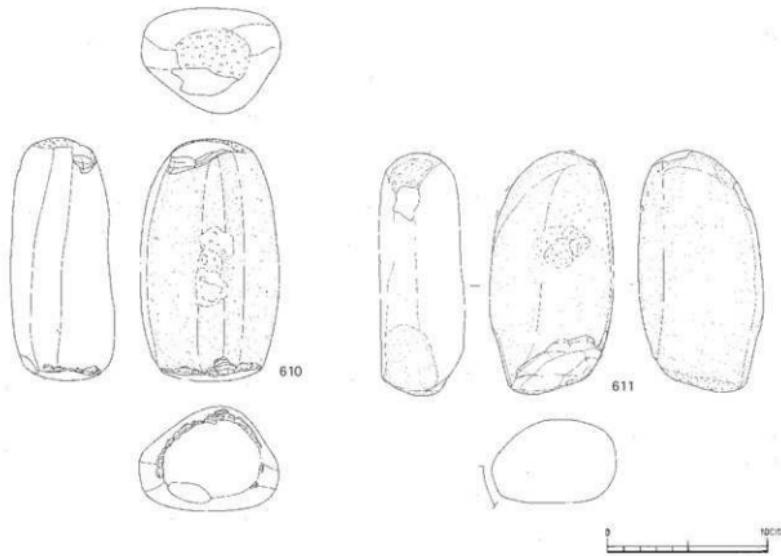




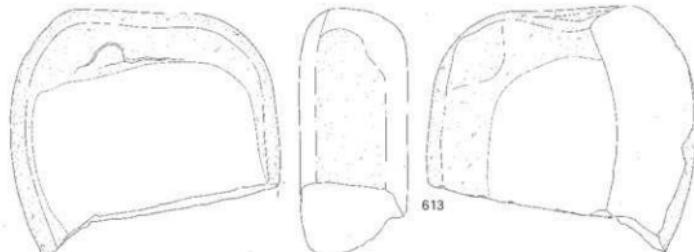
第137図 出土遺物：土器類（遺構外）



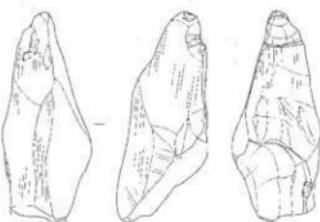
第138図 出土遺物：鉄器・鉄製品



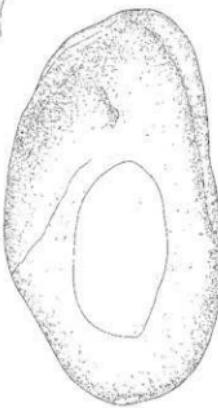
第139図 出土遺物：石器



0 20cm



614



616

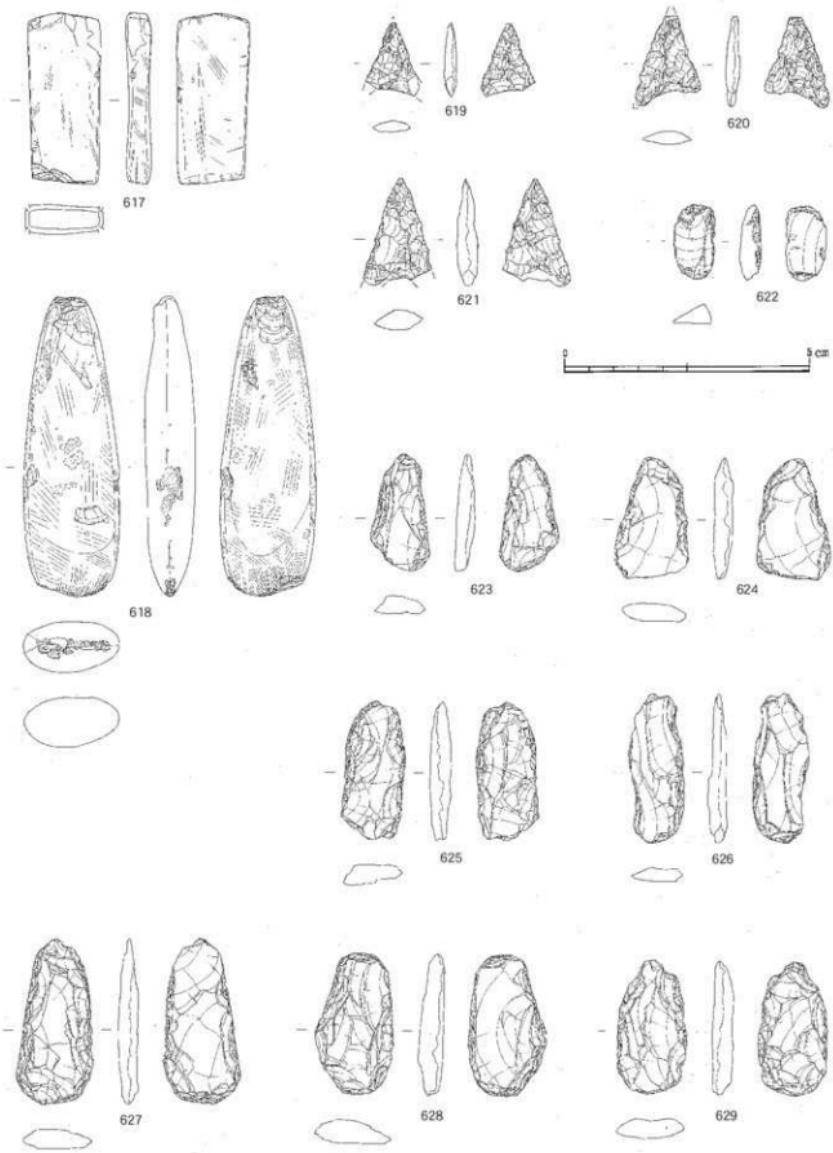


615

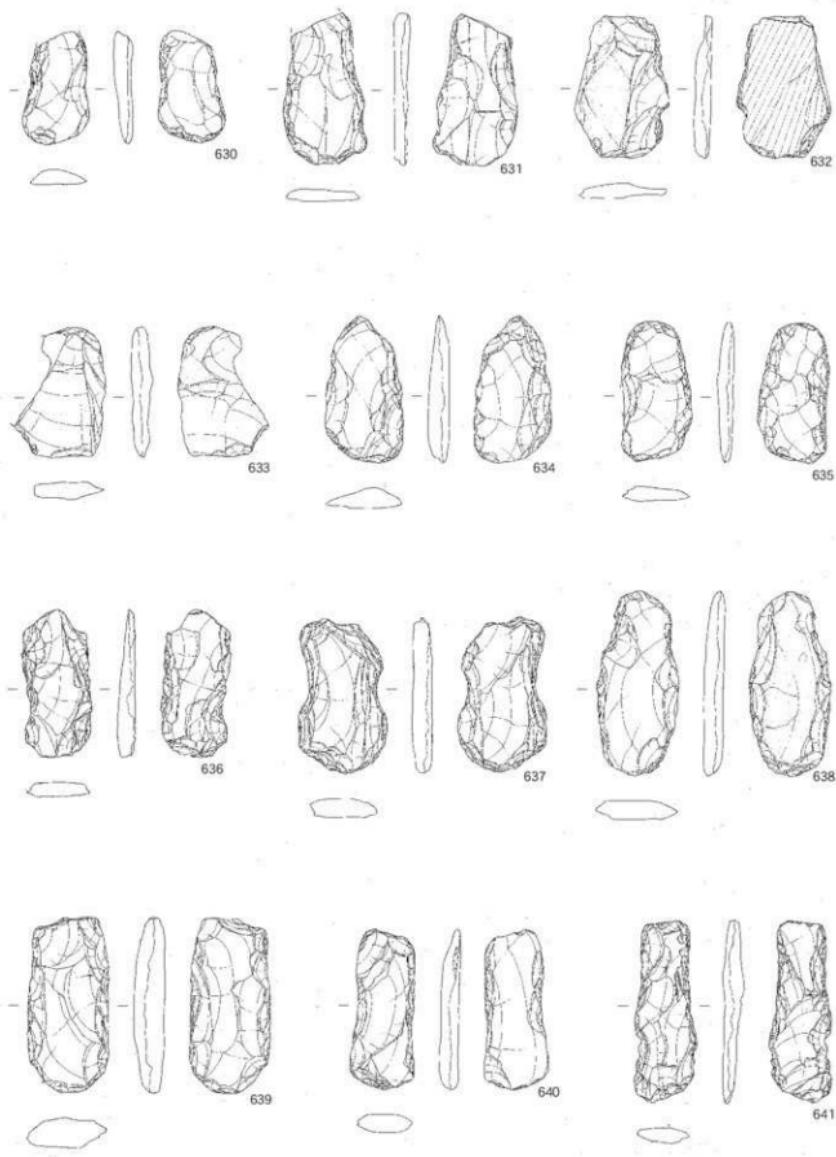


0 10cm

第140図 出土遺物：石器



第141図 出土遺物：石器



第142図 出土遺物：石器



642



643



644



645



646



647



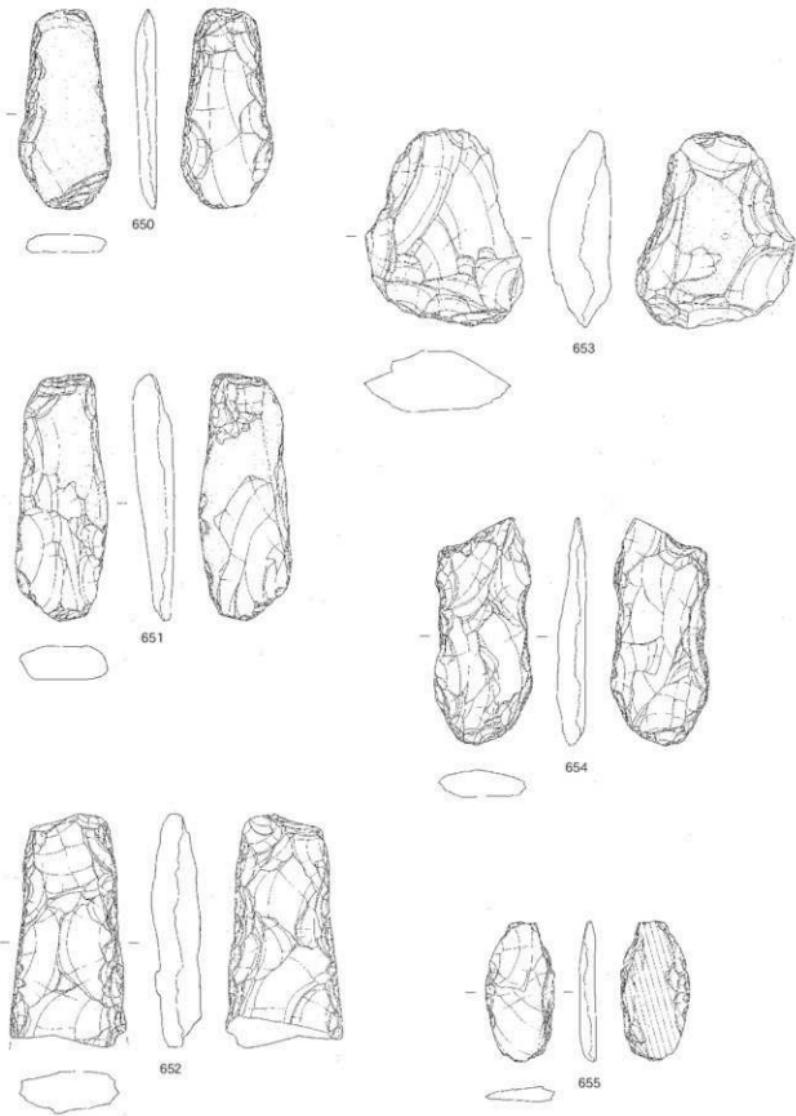
648



649



第143図 出土遺物：石器



第144図 出土遺物：石器

第5節 E区（第145図）

調査区が離れていたため西側を1区、東側を2区とした。遺構番号は竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑・ピット群は発見された順番に通じて付け、ピットは別にした。

(1) 1区の成果（表11～15、第146図、写真図版19～22）

1区では縄文時代の土坑1、平安時代の竪穴住居跡1・竪穴状遺構1・ピット群1・ピット1、時期不明の竪穴状遺構1・ピット2を発見した。

・6号土坑（表10、第146・148～165図、写真図版20）

（位置）N-52（重複）なし（形態）東西約0.6m、南北約0.55m、深さ約0.3m確認。円形か。（時期）縄文時代中期初頭（備考）現地表から約1m下、基本層序V層に掘り込まれている。東・南側は調査区外に伸びる。

・3号竪穴住居跡（表13、第148・149図、写真図版19・23）

（位置）M・N-51・52（重複）2号竪穴状遺構に切られ、4号竪穴状遺構を切っている。（形態）南壁約2.4m、東壁約1.0m残存。確認面からの深さ約0.5m。方形。（主軸）N-80°-W（カマド）東壁南寄りに位置する。石をコの字に組み土師器甕等の破片と粘土により構築される。（時期）11世紀前半（備考）約4分の1残存。北側はD区へ伸びる。

・1号竪穴状遺構（表13、第148図、写真図版19）

（位置）M・N-52（重複）1号ピットに切られている。（形態）東西約1.25m、南北約0.9m、確認面からの深さ約0.3m残存。方形か。（ピット）調査区東壁際南北約0.5m、東西約0.2m、底面からの深さ約0.2mのピットを確認。半分以上は調査区外。（時期）11世紀前半か。（備考）現地表から約0.8m下、基本層序V層に掘り込まれている。東側は調査区外に伸びる。D区3号竪穴状遺構の一部。

・2号竪穴状遺構（第148図）

（位置）M・N-52（重複）1号竪穴状遺構・1号ピットに切られ、3号住居跡を切っている。（形態）南北約0.5m、東西約0.45m、確認面からの深さ約0.45mの円形か。（時期）平安（備考）北側はD区へ伸びる。

・4号竪穴状遺構（第148図）

（位置）M・N-51・52（重複）3号住居跡・2号竪穴状遺構に切られる。（形態）東西約2.25m、南北約1.45m、確認面からの深さ約0.15m。方形。（時期）平安（備考）なし

・5号ピット群（表14、第148図、写真図版20）

（位置）M-51（重複）なし（形態）5つの不整形の掘り込みを確認。最大のものは南北約0.6m、東西約0.45m、確認面からの深さ約0.12m、他は径約0.05～0.2m、深さ約0.04m。（時期）平安（備考）D区の埋め土を除去した下で確認。

・1号ピット（表14、第148図、写真図版20）

（位置）M-52（重複）1・2号竪穴状遺構を切っている。（形態）0.7×0.4m、深さ約0.15mの円形か。（時期）平安（備考）北側はD区へ伸びる。

・2号ピット（第148図、写真図版20）

（位置）M-51（重複）なし（形態）径約0.2m、深さ約0.1mの円形。（時期）不明（備考）D区の埋め土を除去した下で確認。

・3号ピット（第148図）

（位置）M-51（重複）なし（形態）東西約0.4m、南北約0.2m、深さ約0.1mの不整形。（時期）不明（備考）D区の埋め土を除去した下で確認。

(2) 2区の成果（表12・14～15、第147・166図、写真図版19）

元々舗装道路の部分であったため、現地表面から約1～1.5mが碎石等でほとんど攢乱を受け遺構は発見されなかった。遺物は黒曜石の剝片1・土師器環破片1・須恵器甕破片1・灰釉陶器高台付碗破片1が出土地。

表10 腊糊E遺物觀察表[1]

器 類 名 稱 序 號	番 号	尖頭 遺物	圓 底 盤 等 級	直 徑 口 徑 器 高 底 徑	種類 器形	口徑 器高 底徑	色調	胎土	燒成 部位~底部破片	殘存	時代	時期 五箇ヶ台	備考
150 20 1	73	6号土坑	1、2	網文土器 深钵	—	(7.8) (16.0)	内外面赤褐色 赤粒、白粒、 石英、長石	白胎、黑粒、 雲母	白胎、黑粒、 石英、長石、雲母、 白胎、長石、雲母、 白胎、黑粒、石英、 雲母	中越	沈綸	關文中期初頭、沈 綸	
150 21 18	69	3号8676 柱洞跡	3号-15- 151[260]	網文土器 深钵	—	(5.5)	内外面褐色	白胎、黑粒、石英、 雲母	白胎、黑粒、石英、 長石、雲母	後半	五箇ヶ台	關文中期 初頭	

表11 腊糊E遺物觀察表[2]

器 類 名 稱 序 號	番 号	尖頭 遺物	圓 底 盤 等 級	直 徑 口 徑 器 高 底 徑	種類 器形	口徑 器高 底徑	色調	胎土	燒成 部位	殘存	時代	時期 五箇ヶ台	備考
151 20 1	95	N51G	P65	網文土器 深鉢	—	(3.9)	—	內外面に茶褐色 黃褐色	白胎、黑粒、 雲母	口緣部破片	繩文初期	中越	沈綸
151 20 2	71	4号	P1	網文土器 深鉢	—	(2.2)	—	外面部褐色(內面に茶褐色)	白胎、長石、雲母、 白胎、黑粒、石英、 雲母	網文初期 解剖破片	繩文初期	中越	沈綸
151 20 3	89	N51G	P45	網文土器 深鉢	—	(3.2)	—	外面上に茶褐色(内面に茶褐色)	白胎、長石、雲母、 白胎、黑粒、石英、 雲母	口緣部破片	繩文初期	中越	集合沈綸、沈綸
151 20 4	99	N52G	—括	網文土器 深鉢	—	(2.6)	—	内外面褐色	白胎、石英、 白胎、黑粒、石英、 雲母	口緣部破片	繩文初期	後半	諸職b
151 20 5	100	N52G	—括	網文土器 深鉢	—	(2.4)	—	内外面褐色	白胎、黑粒、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母	口緣部破片	繩文	後半	沈綸
151 20 6	68	3号8676 柱洞跡	P16	網文土器 深鉢	—	(5.7)	—	内外面褐色	白胎、黑點、石英、 白胎、黑粒、石英、 雲母	網文初期 解剖破片	繩文初期	後半	木ノ葉文
151 20 7	72	4号	—括	網文土器 深鉢	—	(2.5)	—	内外面褐色	白胎、黑點、石英、 長石、雲母	網文初期 解剖破片	繩文初期	後半	諸職
151 20 8	85	N50G	—括	網文土器 深鉢	—	(3.1)	—	内外面褐色	白胎、赤粒、 白胎、黑點、石英、 雲母	網文初期 解剖破片	繩文初期	後半	諸職
152 21 9	77	N50G	P64	網文土器 深鉢	—	(2.9)	—	内外面に茶褐色(内面に茶褐色)	白胎、黑點、石英、 白胎、黑粒、石英、 雲母	網文初期 解剖破片	繩文初期	後半	諸職?
152 21 10	82	N50G	P46	網文土器 深鉢	—	(3.1)	—	外面上に茶褐色(内面に茶褐色)	白胎、黑點、石英、 白胎、黑粒、石英、 雲母	網文初期 解剖破片	繩文初期	後半	諸職?
152 21 11	90	N51G	P66	網文土器 深鉢	—	(3.9)	—	外面上に茶褐色(内面に茶褐色)	白胎、黑點、石英、 白胎、黑粒、石英、 雲母	網文初期 解剖破片	繩文	後半	諸職?
152 21 12	101	N52G	P67	網文土器 深鉢	—	(3.0)	—	内外面赤褐色	白胎、黑點、石英、 白胎、赤粒、石英、 雲母	網文初期 解剖破片	繩文	後半	諸職
152 21 13	96	N51G	P22	網文土器 深鉢	—	(3.3)	—	内外面褐色	白胎、黑點、石英、 白胎、赤粒、石英、 雲母	網文初期 解剖破片	繩文初期	後半	諸職?
152 21 14	109	16号	—括	網文土器 深鉢	—	(4.9)	—	外面上に茶褐色(内面に茶褐色)	白胎、黑點、石英、 白胎、黑粒、石英、 雲母	網文初期 解剖破片	繩文	後半	諸職
152 21 15	74	N49G	P5	網文土器 深鉢	—	(2.5)	—	内外面赤褐色	白胎、石英、長 石、雲母	口緣部破片	繩文初期	五箇ヶ台	沈綸
152 21 16	86	N50G	P53	網文土器 深鉢	—	(1.6)	—	内外面に茶褐色 色	白胎、黑點、石英、 白胎、雲母	口緣部破片	繩文初期	五箇ヶ台	口唇部刻み目、沈 綸
152 21 17	103	18号	—括	網文土器 深鉢	—	(2.9)	—	内外面赤褐色	白胎、黑點、石英、 長石、雲母	口緣部破片	繩文初期	五箇ヶ台	口唇部刻み目、沈 綸
152 21 18	69	3号8676 柱洞跡	P51[260]	網文土器 深鉢	—	(5.5)	—	内外面褐色	白胎、黑點、石英、 長石、雲母	網文初期 解剖破片	繩文	後半	集合沈綸

回	版	高	番	类别	番号	注記	番号	種類	器形	口径	器高	底径	色調	胎土	焼成	残存	時代	時期	備考
152	21	19	70	4号堅穴 1号弱穴 1号弱穴 2号弱	3号一括	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	内外面黃褐色	白胎、黑點、赤粒、 石英、長石、 雲母、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 長石、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	沈綱			
152	21	20	67	1号堅穴 2号弱	1号一括	縄文土器	深鉢	—	(2.5)	—	内外面褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	沈綱			
153	21	21	75	N49G	P29	縄文土器	深鉢	—	(3.5)	—	内外面褐色	白胎、赤粒、 白胎、石英、長石、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	沈綱、隆帶			
153	21	22	76	N49G	P28	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	—	内外面黃褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	闇文、平行沈綱			
153	21	23	79	N50G	—一括	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	内外面に点状黒褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	隆帶に刻み、沈綱、 三角印刻			
153	21	24	80	N50G	—一括	縄文土器	深鉢	—	(3.1)	—	内外面に点状黒褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	沈綱			
153	21	25	83	N50G	—一括	縄文土器	深鉢	—	(3.9)	—	内外面に点状黒褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	平行沈綱			
153	21	26	84	N50G	P52	縄文土器	深鉢	—	(4.6)	—	内外面に点状黒褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	平行沈綱			
153	21	27	87	N50G	P51	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	内外面に点状黒褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	平行沈綱			
153	21	28	92	N51G	N 51GP62	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	外面に点状黒褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	沈綱			
153	21	29	105	1K	—一括	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	内外面褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	刻み目、沈綱			
153	21	30	106	1K	—一括	縄文土器	深鉢	—	(3.7)	—	内外面褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	集合沈綱、沈綱			
153	21	31	107	1K	—一括	縄文土器	深鉢	—	(2.8)	—	内外面褐色	白胎、石英、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	刻み目、沈綱			
153	21	32	104	1K	—一括	縄文土器	深鉢	—	(1.8)	—	内外面明赤褐色	白胎、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	隆帶に刻み、沈綱			
154	22	33	108	1K	—一括	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	内外面褐色	白胎、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	沈綱			
154	22	34	93	1K	—一括	縄文土器	深鉢	—	(4.8)	—	内外面に点状黒褐色	白胎、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	沈綱			
154	22	35	102	1K	—一括	縄文土器	深鉢	—	(2.6)	—	内外面に点状黒褐色	白胎、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	集合沈綱、沈綱			
154	22	36	88	N50G	P57	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	—	内外面褐色	白胎、 白胎、黑點、石英、 雲母、白胎、石英、 白胎、石英、	底削破片	縄文中期 初頭	五頭ヶ台	集合沈綱			
154	22	37	98	N51G	N 51G-1括	縄文土器	深鉢	—	(2.5)	—	内外面に点状黒褐色	白胎、 白胎、黑點、赤粒、 石英、雲母、 白胎、黑點、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 後期	五頭ヶ台	刻美文			
154	22	38	94	N51G	N 51GP43	縄文土器	深鉢	—	(3.5)	—	外面に点状黒褐色	白胎、 白胎、黑點、石英、 長石、雲母、 白胎、黑點、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 後期	五頭ヶ台	曾利、刻美文			
154	22	39	110	1K	—一括	縄文土器	深鉢	—	(3.0)	—	外面に点状黒褐色	白胎、 白胎、黑點、石英、 長石、雲母、 白胎、黑點、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 後期	五頭ヶ台	曾利			
154	22	40	91	N51G	N 51GP44	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	外面褐色に点状黒褐色	白胎、 白胎、黑點、石英、 長石、雲母、 白胎、黑點、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 後期	五頭ヶ台	曾利			
154	22	41	97	N51G	N 51G-1括	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	外面褐色に点状黒褐色	白胎、 白胎、黑點、石英、 長石、雲母、 白胎、黑點、石英、 白胎、石英、	輪削破片	縄文中期 後期	五頭ヶ台	沈綱、刻美文			

圖版	寫真番号	美術番号	遺構番号	注記番号	種類	器形	口径	器高	底径	色調	胎土	焼成度	残存	時代	時期	備考
155	22	42	81	N50G	N50GP2	縄文土器	深鉢	—	(3.1)	外面部に赤褐色、内面部明	黒粒、石英、長石、雲母、黑粉、白粒、石英、	剥落破片	縄文	涪水天王山	失羽根状沈縫	
155	22	43	78	N50G	N50G-P1	縄文土器	深鉢	—	(3.5)	内外面部に赤褐色	黒粒、白粒、石英、	口縁部破片	縄文	大洞B	圓文	沈縫

表12 腸端E遺物観察表[3]

図版番号	写真番号	美術番号	遺構番号	注記番号	種類	器形	口径	器高	底径	色調	胎土	焼成度	残存	(cm)	備考
156	22	1	4	3号窓穴住居跡	S29	磨石	花崗岩	8.3	5.7	—	—	3.9	296.6		
156	22	2	2	1区	—	打製石斧	フナルンフエルス	10.6	4.3	—	—	1.7	102.6		
156	22	3	1	1区	—	打製石斧	砂岩	7.7	5.5	—	—	2.2	108		
156	22	4	3	N51G	S58	打製石斧	頁岩	10.9	5	—	—	1.4	93.9		
156	22	5	N48G	—	—	刮削片	黒曜石	1.2	0.96	—	—	0.1	0.1	観察表のみ	
156	22	6	N49G	—	—	刮削片	黒曜石	2.27	1.2	—	—	0.36	0.9	"	
156	22	7	N50G	—	—	二次加工刮削片	黒曜石	1.6	0.86	—	—	0.34	0.4	"	
156	22	8	N50G	—	—	刮削片	黒曜石	1.9	1.33	—	—	0.35	0.9	"	
156	22	9	N51G	—	—	刮削片	黒曜石	1.56	1.44	—	—	0.17	0.6	"	
156	22	10	1区	—	—	刮削片	黒曜石	2.29	1.44	—	—	0.58	1.8	"	
156	22	11	1区	—	—	刮削片	黒曜石	1.52	0.88	—	—	0.38	0.3	"	
156	22	12	I-66G	—	—	刮削片	黒曜石	1.81	1.43	—	—	0.53	1.1	"	

表13 腸端E遺物観察表[4]

図版番号	写真番号	美術番号	遺構番号	注記番号	種類	器形	口径	器高	底径	色調	胎土	焼成度	残存	(cm)	備考	
157	23	1	9	3号窓穴 住居跡	21	土師器	环	11.2	3.7	5.6	赤粒、白粒、 赤粒、白粒、 赤粒、白粒、 赤粒、白粒、	外側燒 ムラ	80%	平安	外側体部下平ヘクロナ アリ、内面クロナデ テ、底部剥離	
157	2	15	3号窓穴 住居跡	—	土師器	环	(13.0)	2.9	(7.4)	内外面明褐色	—	—	—	内外面クロナデ	内外面剥離	
157	3	13	3号窓穴 住居跡	P3	土師器	环	(13.0)	(4.3)	—	内外面明褐色	赤粒、白粒、 赤粒、白粒、 赤粒、白粒、	口唇部～ 底部剥離 ムラ	80%	平安	外側体部下平ヘクロナ アリ、内面クロナデ テ、底部剥離	
157	4	12	3号窓穴 住居跡	P11	土師器	环	(12.0)	(3.0)	—	—	—	—	—	—	内外面剥離	内外面剥離
157	5	11	3号窓穴 住居跡	P10	土師器	环	(10.4)	(3.0)	—	内外面明褐色	赤粒、白粒、 赤粒、白粒、 赤粒、白粒、	口唇部～ 底部剥離 ムラ	100%	平安	内外面剥離	
157	6	14	3号窓穴 住居跡	P17	土師器	环	(11.0)	(2.5)	—	内外面明褐色	赤粒、白粒、 赤粒、白粒、 赤粒、白粒、	口唇部～ 底部剥離 ムラ	100%	平安	内外面剥離	

図版番号	写真番号	宝物番号	遺構	注記番号	種類	器形	口径	器高	底径	色調	衝土	焼成	残存	時代	時期	調整	備考
157	7	16	3号竪穴 住居跡	-括	土師器	壺	(1.2)	(2.1)	-	外面橙褐色 内面にぶい黄 色	赤粒、白粒	口縁部～ 体部破片	平安		内外面クロナデ、 No8と同一解体か?		
157	8	17	3号竪穴 住居跡	P7-1	土師器	壺	(1.2)	(2.1)	-	外面橙褐色 内面にぶい黄 色	赤粒、白粒	口縁部～ 体部破片	平安		内外面クロナデ、 No7と同一解体か?		
157	9	21	3号竪穴 住居跡	P5	土師器	壺	-	(2.6)	(6.0)	内外面橙褐色 長石	白粒、黒粒、石英、 母貝	体部～底 部破片	平安		内外面クロナデ、 No7と同一解体か?		
157	10	19	3号竪穴 住居跡	P4	土師器	壺	-	(1.4)	(5.6)	内外面褐色 長石	赤粒、白粒、雲 母	体部～底 部破片	平安		内外面クロナデ、 No7と同一解体か?		
157	11	20	3号竪穴 住居跡	P23	土師器	壺	-	(1.0)	(4.4)	外面赤褐色 内面にぶい黄 色	赤粒、白粒、雲 母	体部～底 部破片	平安		底部回転条きり鉢		
157	12	10	3号竪穴 住居跡	P20	土師器	高台付 (内面黒 色)	(1.16)	5.1	6	外面にぶい 黒褐色	黒粒	口縁部～ 体部未	50%	平安	10世紀末 底部回転条きり鉢	東北系 か?	
157	13	25	3号竪穴 住居跡	P22	土師器	高台付	-	(3.6)	-	外面明黄 褐色	赤粒、白粒、黒 粒	破片	平安		内外面クロナデ、 底部回転条きり鉢		
157	14	18	3号竪穴 住居跡	P7	土師器	高台付	-	(2.5)	-	内外面橙色 白粒	赤粒、白粒	破片	平安		内外面クロナデ、 底部回転条きり鉢		
157	23	15	29	3号竪穴 住居跡	カマドP4, 8, 14, 34	土窯器	甕	(2.6)	(7.5)	-	外面褐色 白粒	白粒、黒粒、石英、 母貝	口縁部～ 体部破片	平安		内外面ヘラケシリ	
157	16	30	3号竪穴 住居跡	カマドP7	土窯器	甕	(20.0)	(4.9)	-	外面明黄 長石	白粒、黒粒、石英、 長石	口縁部～ 体部破片	平安		外筋1棘部ハケメ、 内外面ヘラケシリ		
158	17	26	3号竪穴 住居跡	P12.24.28 P33.D区 15住-括	土窯器	甕	(19.2)	15.5	(8.6)	内面にぶ い赤褐色 母貝	黒粒、石英、雲 母	口縁部～ 体部未	40%	平安	内外面ヘラケメ・ 内面ヘラケシリ		
158	18	27	3号竪穴 住居跡	カマドP2, 31, 32	土窯器	甕	(19.0)	(11.6)	-	内外面褐色 長石、雲母	白粒、黒粒、石英、 長石、雲母	口縁部～ 体部破片	平安		内外面ハケメ、 内面ヘラケシリ		
158	19	28	3号竪穴 住居跡	カマドP2, 21, 30	土窯器	甕	(23.6)	(21.7)	-	内外面にぶ い赤褐色 雲母	白粒、黒粒、石英、 長石、雲母	口縁部～ 体部破片	平安		内外面収ハケメ、 内面下半壁丸のため 不明		
158	20	32	3号竪穴 住居跡	カマドP17.18, 19	土窯器	甕	-	(9.8)	-	内外面褐色 内面褐色 雲母	白粒、黒粒、石英、 長石、雲母	口縁部～ 体部破片	平安		外筋ハケメ、 内面ヘラケシリ		
158	21	22	3号竪穴 住居跡	P18	土窯器	甕	-	(3.9)	-	外面黒褐色 内面褐色 長石、雲母	白粒、黒粒、石英、 長石、雲母	口縁部～底 部破片	平安		内外面ヘラケメ、 内面ヘラケシリ		
158	22	31	3号竪穴 住居跡	カマドP25	土窯器	甕	-	(7.3)	(9.0)	内外面褐色 雲母	白粒、黒粒、石英、 長石、雲母	口縁部～底 部破片	平安		内外面ヘラケメ、 内面ヘラケシリ		
159	23	32	3号竪穴 住居跡	カマドP26	土窯器	釜釜	(24.0)	(10.9)	-	内外面暗褐色 長石、雲母	白粒、黒粒、石英、 長石、雲母	口縁部～ 体部破片	平安		内外面ハケメ		
159	24	23	3号竪穴 住居跡	P13	土窯器	釜釜	-	-	-	内面にぶ い赤褐色 雲母	白粒、黒粒、石英、 長石、雲母	口縁部部分 の剥離	平安		外面ヘラナデ、 内面ハケメ		
159	25	24	3号竪穴 住居跡	P15	碌砂陶器	甕	(12.8)	(1.5)	-	内外面灰黃 白色	白粒	口縁部～ 体部未	1.5cm	平安		通物地深 表の深	
26	34	3号竪穴 住居跡	Tou6	灰陶陶器	甕	-	(4.7)	-	内外面灰白 白色	白粒、黒粒	口縁部～ 体部未	1.5cm	平安				

回数	写真番号	器皿番号	実測番号	注記番号	種類	口径	器高	底径	色調	胎土	焼成	現存	時代	時期	調整	備考
160	1	5	1号窓穴 1号窓穴	—括・1層	土師器	环	(12.0)	(2.4)	—	内外面明赤 外褐色	赤粒、白粒、 白母、石英、雲	口縁部～ 全体破片	平安	内外面クロナデ	内外面クロナデ	
160	2	4	1号窓穴 1号窓穴	P2・1層	土師器	环	(14.0)	(2.1)	—	内外面明赤 外褐色	赤粒、白粒、 白母	口縁部～ 全体破片	平安	内外面クロナデ	内外面クロナデ	
160	3	2	1号窓穴 1号窓穴	P12・2層	土師器	环	(12.0)	(2.9)	—	内外面明赤 外褐色	赤粒、石英、長 石	口縁部～ 全体破片	平安	内外面クロナデ	内外面クロナデ	
160	4	3	1号窓穴 1号窓穴	P7・1層	土師器	环	(12.0)	(2.2)	—	内外面明赤 外褐色	赤粒、石英、長 石	口縁部～ 全体破片	平安	外面ヘラナデ？、底 部剥落、系引き痕	外面ヘラナデ	
160	5	1	1号窓穴 1号窓穴	P1・1層	土師器	三	(12.0)	(2.4)	(5.0)	内外面粉色	赤粒	口縁部～ 底部破片	平安	内外面ヘケメ	内外面ヘケメ	
160	6	6	1号窓穴 1号窓穴	P3・1層	土師器	羽釜	—	—	—	外面黒褐色 内外面灰褐色	白粒、黑粒、石英、 長石	羽根部分 の破片	平安	内外面クロナデ、 底部剥落、系引き痕	内外面クロナデ	
161	1	8	5号ビツ ト群	P1	土師器	环	—	-2.4	-2.6	内外面明赤 外褐色	白粒、黑粒、 白母、石英、雲母	20%	平安	—	—	
162	1	7	1号ビツ ト	--括	土師器	支脚	—	—	—	内外面明赤 外褐色	白粒、黑粒、石英、 長石、雲母	75%	平安	—	—	

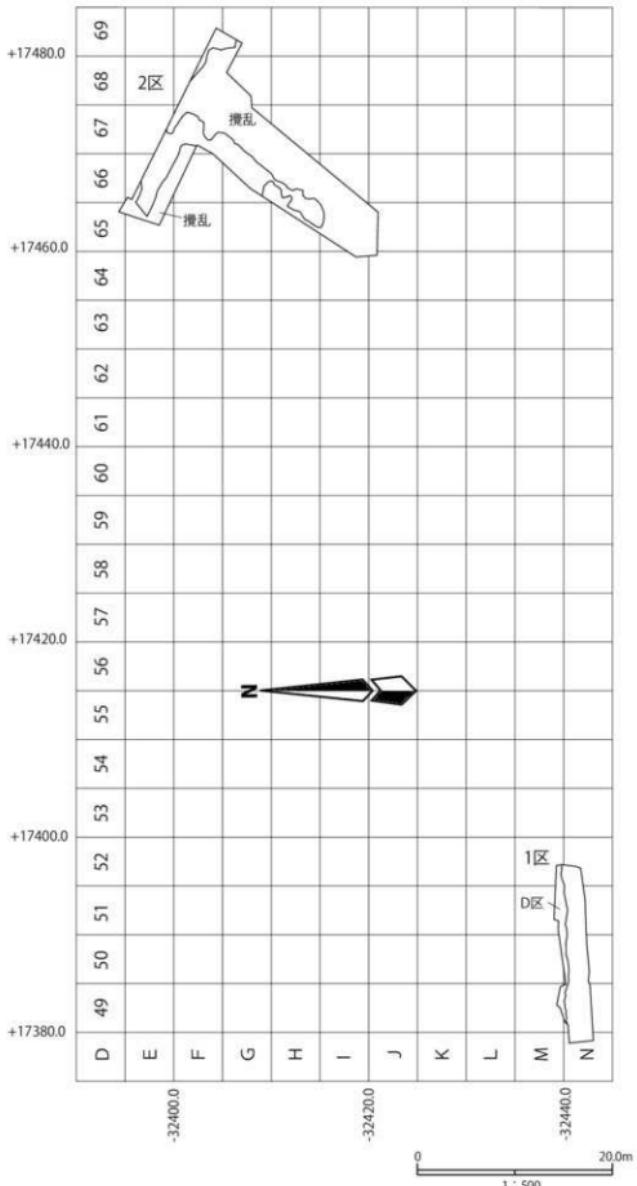
(cm)

表14 膨脹E遺物観察表(5)

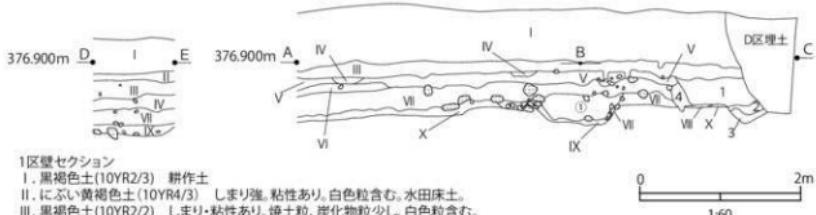
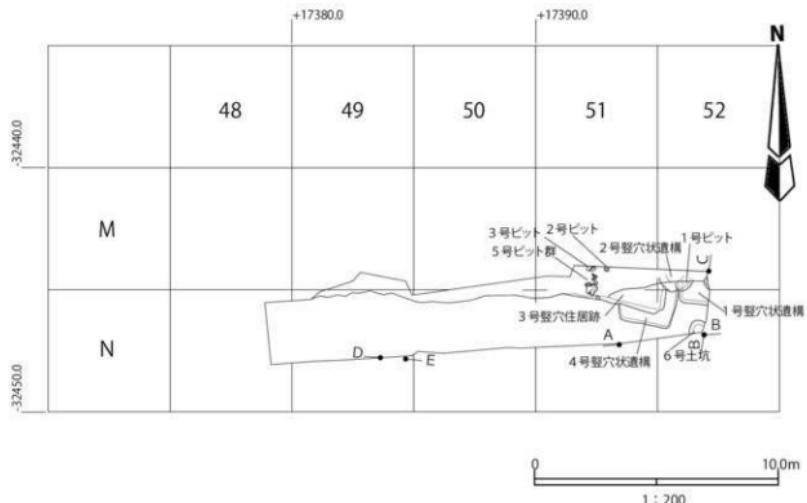
回数	写真番号	器皿番号	実測番号	調査	注記番号	種類	器形	口径	器高	底径	色調	胎土	焼成	現存	時代	時期	調整	備考
163	1	35	1区	N48 GP21, GP13.39	土師器	环	(11.8)	3.6	6.0	内外面粉色	赤粒、白粒、 白母	口縁部～底 部破片	45%	平安	外面ヘラケズリ、底 部剥落、系引き痕	外面ヘラケズリ、底 部剥落、系引き痕		
163	2	45	1区	—括	土師器	环	(13.0)	2.9	(6.6)	内外面明赤褐色	赤粒、白粒、 白母	口縁部～底 部破片	平安	此部剥落、系引き痕	此部剥落、系引き痕			
163	3	46	1区	—括	土師器	环	(12.2)	4.3	(7.2)	内外面粉色	白粒、赤粒、 長石	口縁部～底 部破片	平安	外面ヘラケズリ	外面ヘラケズリ			
164	4	48	1区	—括	土師器	环	(12.0)	3.0	(6.2)	内外面明赤褐色	赤粒、白粒、 白母	口縁部～底 部破片	平安	—	—			
164	5	42	N48G	—括	土師器	环	(11.6)	(2.1)	—	内外面粉色	白粒、黑粒	口縁部～体 部破片	平安	—	—			
164	6	43	N48G	P54	土師器	环	—	(2.5)	(4.6)	内外面明赤褐色	赤粒、白粒	口縁部～底 部破片	平安	外面ヘラケズリ、底 部剥落、系引き痕	外面ヘラケズリ、底 部剥落、系引き痕			
164	7	36	N49G	P13	土師器	环	—	(2.3)	5.6	内外面粉色	赤粒	体部～底 部破片	平安	—	—			
164	8	37	N49G	P38	土師器	环	—	(1.7)	(6.5)	内外面粉色	赤粒、黑粒	体部～底 部破片	平安	—	—			
164	9	49	1区	—括	土師器	环	—	(2.0)	(6.4)	内外面粉色	赤粒、白粒、 黑粒、石英	体部～底 部破片	平安	底部剥落、系引き痕	底部剥落、系引き痕			
164	10	57	1区	—括	土師器	环	—	(1.8)	(6.6)	内外面粉色	白粒	体部～底 部破片	平安	—	—			
164	11	50	1区	—括	土師器	高台付 环?	—	(2.4)	5.4	内外面粉色	白粒、黑粒、 白母、小石	30%	平安	内外面クロナデ、 底部剥落、系引き痕	内外面クロナデ、 底部剥落、系引き痕			
164	12	52	1区	—括	土師器	高台付 环?	—	(2.0)	5.4	内外面粉色	赤粒、白粒、 白母、石英	高台部のみ	平安	底部剥落、系引き痕	柱状台			

図版 番号	写真 番号	実測 番号	遺物 名	注記番号	種類	器形	口径	器高	底径	色調	胎土	焼成	残存	時代	時期	調整	備考
164	13	51	I区	-	土師器	高台付 环	-	(2.0)	(6.8)	内外面赤褐色	赤粒、黒粒	高台部のみ 口縁部～胴	口縁部破片	平安	内部面クロナナデ、 底部面赤褐色、内 面ヘケメ	付け高台	
164	14	38	N 49G	P41	土師器	甕	(18.8)	(3.5)	-	内外面に赤褐色	白粒、黒粒、 雲母	口縁部～胴	口縁部破片	平安	外部面赤褐色、内 面ヘケメ	子デ	
164	15	54	I区	-	土師器	甕	(20.8)	(4.6)	-	内外面に赤褐色	白粒、黒粒、 雲母	口縁部～胴	口縁部破片	平安	外部面赤褐色へラ 子デ	ヘラ	
164	16	56	I区	-	土師器	甕	-	(3.8)	-	内外面に赤褐色	白粒、 石英、 長石、 雲母	口縁部～胴	口縁部破片	平安	内外面ヘケメ	ヘケメ	
164	17	55	I区	-	土師器	甕	-	(4.2)	-	内外面に赤褐色	白粒、 黒粒、 雲母	口縁部～胴	口縁部破片	平安	内外面ヘケメ	ヘケメ	
164	18	59	I区	-	土師器	甕	-	(2.1)	(12.4)	内外面赤褐色	赤粒、 石英、 長石	底部破片	底部破片	平安	外面ヘラチ、 底部木葉瓶	ヘラチ	
164	19	39	N 49G	P33	土師器	甕	-	(2.7)	(9.2)	内外面灰褐色	赤粒、 白粒、 石英、 長石	底部破片	底部破片	平安	外面ヘケメ、底部木 葉瓶	ヘケメ	
164	20	58	I区	-	土師器	甕	-	(2.0)	(6.6)	外面赤褐色/内 面灰褐色	赤粒、 白粒、 石英、 長石	底部破片	底部破片	平安	内部ヘラチ、底部木 葉瓶	ヘラチ	
164	21	53	I区	-	土師器	片口甕	-	(7.8)	-	内外面に赤褐色	赤粒、 白粒、 石英、 長石	底部破片	底部破片	平安	外面指痕	指痕	
165	22	41	N 49G	P32	土師器	糸釜	-	(3.6)	-	内外面赤褐色	赤粒、 白粒、 石英、 長石	底部破片	底部破片	平安	底部木葉瓶	木葉瓶	
165	23	40	N 49G	P31	土師器	糸釜	-	(3.4)	-	内外面赤褐色	赤粒、 白粒、 石英、 長石	底部破片	底部破片	平安	内部ヘラチ	ヘラチ	
165	24	44	N 48G	P8	土師器	置き力 マド	-	(3.5)	-	内外面赤褐色	白粒、 黒粒、 石英、 長石、 雲母	底部破片	底部破片	平安	底部木葉瓶	木葉瓶	
165	25	61	I区	-	須恵器	甕	-	(3.1)	-	内外面灰白色	白粒	底部破片	底部破片	平安	内部ヘラチ	ヘラチ	
165	26	60	I区	-	灰陶陶 器	高台付 輪	-	(1.9)	-	内外面灰白色	白粒、 黒粒	底部破片	底部破片	平安	内部面クロナナデ	ヘラチ	

表15 膜糊E 遺物観察表(6)



第145図 調査区全体図

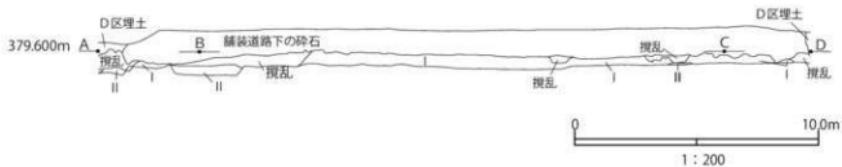
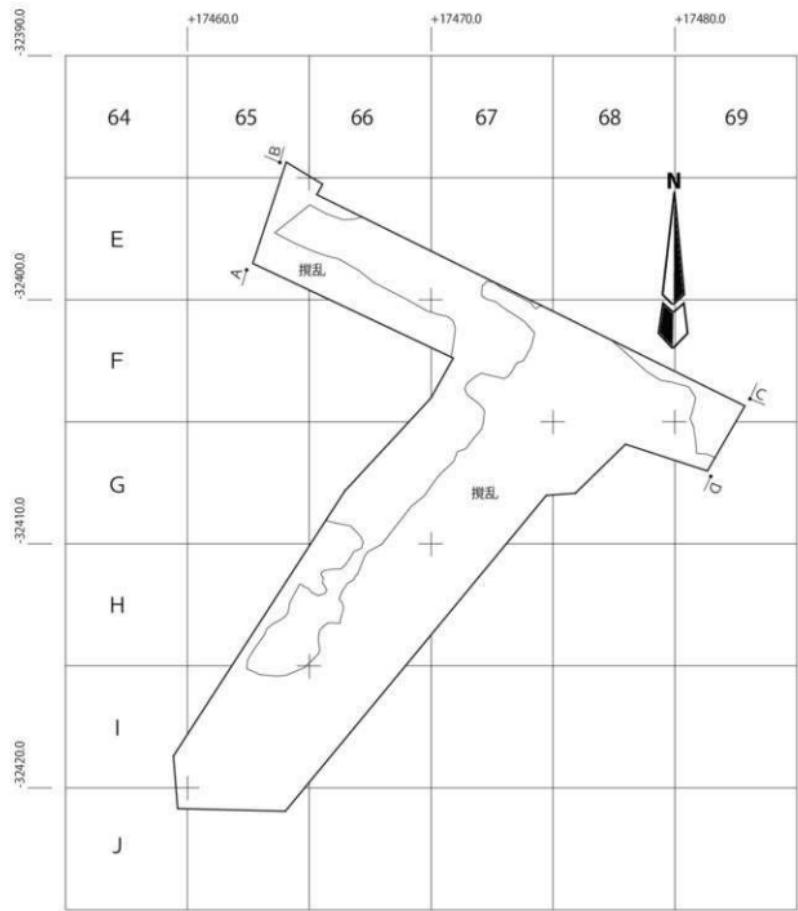


1区壁セクション

- I. 黒褐色土(10YR2/3) 耕作土
II. にふい黄褐色土(10YR4/3) しまり強。粘性あり。白色粒含む。水田床土。
III. 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。燒土粒、炭化物粒少し。白色粒含む。
IV. 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性あり。炭化物粒、白色粒含む。
V. 暗褐色土(10YR4/3) しまり強。粘性あり。燒土、炭化物粒少ない。2層ブロック含む。白色粒含む。
VI. 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。炭化物粒、白色粒含む。
VII. 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり。粘性弱。燒土粒、炭化物粒少ない。白色粒少ない。
VIII. 暗褐色砂質土(10YR3/3) しまり・粘性あり。白色粒微量。黒褐色土ブロック含む。
IX. 黑褐色砂質土(10YR2/2) しまり強。粘性弱。白色粒微量。
X. にふい黄褐色土(10YR4/3) しまり・粘性弱。
1. 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性あり。燒土粒、炭化物粒含む。白色粒2層より多い。褐色土(10YR4/4)ブロック含む。
2. 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。燒土粒、炭化物粒含む。3層と同じ。白色粒少ない。褐色土粒(10YR4/4)含む。
3. 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。燒土粒、炭化物粒含む。白色粒4層より少ない。褐色土ブロック含む。
4. 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。燒土粒、炭化物粒少ない。白色粒少ない。
- ①. 黑褐色土(10YR3/1) しまりあり。粘性弱。燒土粒、炭化物粒少ない。石(径1.0cm以下)多い。

※ 1～4層は1号擾土、①層は6号擾土。

第146図 1区全体図

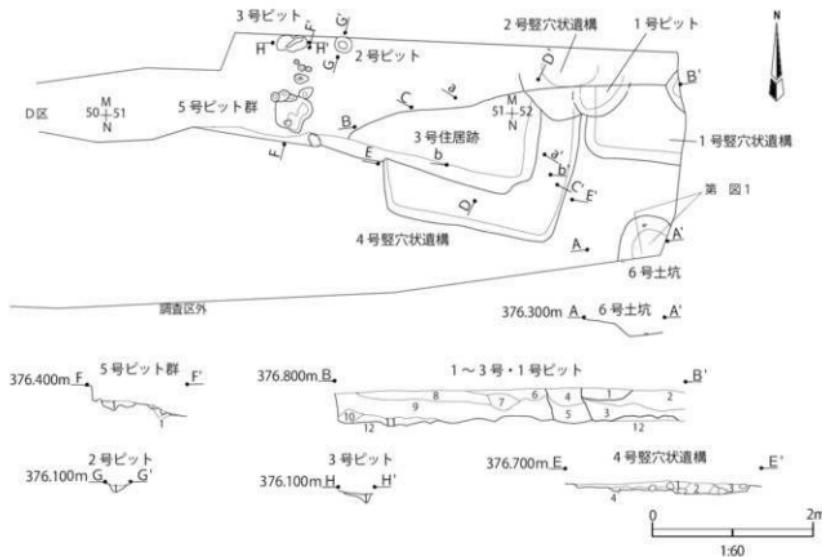


2区調査区壁セクション

I. 黒褐色粘質土(2.5Y3/1) しまり・粘性強。白色粒多い。

II. 黒褐色粘質土(2.5Y3/2) しまり・粘性強。石含む。白色粒 I 層より少ない。D区地山

第147図 2区全体図



1号～3号・1号ピット

1. 黒褐色土(10YR2/3) しまり・粘性あり。焼土ブロック(径 1.5 cm以下)多い。炭化物粒(径 1.5 cm以下)含む。白色粒含む。
2. 黒褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。焼土ブロック(径 0.5 cm以下)少ない。炭化物粒(径 2.0 cm以下)含む。白色粒少ない。
3. 黒褐色土(10YR2/3) しまりあり。粘性強。焼土粒(径 0.2 cm以下)若干含む。炭化物粒(径 1.0 cm以下)若干含む。白色粒少ない。
4. 黑褐色土(10YR2/2) しまりあり。粘性弱。焼土粒、炭化物粒少ない。白色粒多い。
5. 黑褐色土(10YR3/2) しまり・粘性あり。焼土ブロック(径 1.0 cm以下)、炭化物粒若干含む。白色粒少ない。

6. 暗褐色土(10YR3/3) しまりあり。粘性弱。炭化物粒(径 4.0 cm)含む。白色粒多い。

7. 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性あり。炭化物粒少し含む。白色粒多い。

8. 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり。粘性弱。焼土粒、炭化物粒若干含む。白色粒含む。

9. 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性あり。焼土粒若干含む。炭化物粒(径 1.0 cm以下)少し含む。白色粒少ない。

10. 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり。粘性弱。焼土粒、炭化物粒若干含む。白色粒少ない。

11. 黑褐色土(10YR2/3) しまりあり。粘性弱。焼土粒若干含む。白色粒少ない。12層ブロック含む。

12. 暗褐色土(10YR3/4) しまりあり。粘性弱。(地山)

※ 1層：1号ピット、2・3層：1号竪穴状遺構、4・5層：2号竪穴状遺構、6～11層：3号住居跡

4号竪穴状遺構

1. 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。焼土粒、炭化物粒少ない。白色粒微量。

2. 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。白色粒 1層よりやや多い。

3. 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。焼土粒、炭化物粒 1層より少ない。

4. 黑褐色砂質土(10YR2/2) しまりあり。粘性弱。白色粒含む。(地山)

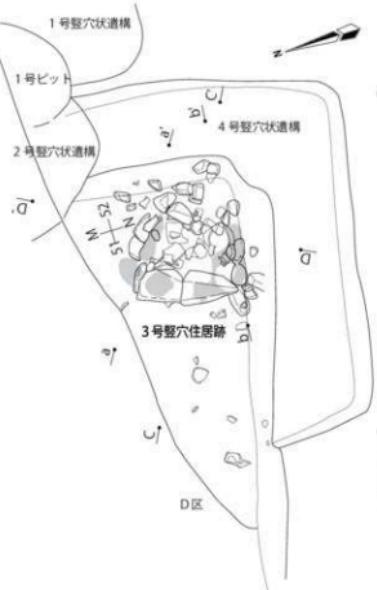
5号ピット群

1. 黑褐色砂質土(10YR2/3) しまりあり。粘性弱。焼土粒、炭化物粒含む。白色粒多い。

1・2号ピット

1. 暗褐色砂質土(10YR3/3) しまりあり。粘性なし。焼土粒、炭化物粒含む。暗褐色砂質土(10YR3/4)ブロック含む。

第148図 1区 6号土坑・3号竪穴住居跡・1・2・4号竪穴状遺構・5号ピット群・1～3ピット

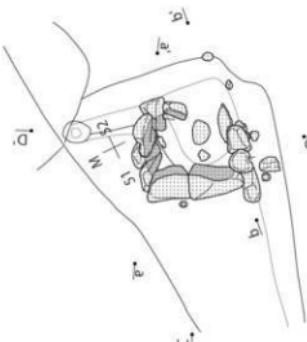
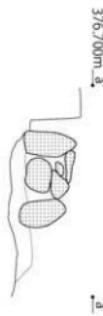
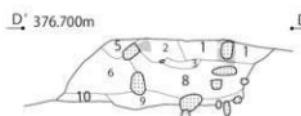


D' 376.700m



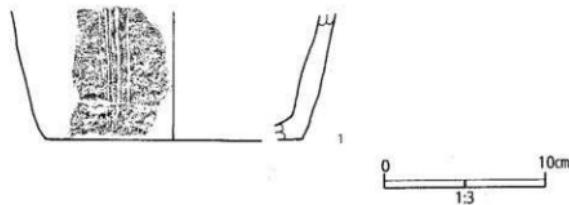
3号竪穴住居跡

1. 黒褐色砂質土(10YR2/3) しまりあり。粘性弱。
焼土粒、炭化物粒微量。白色粒多い。
2. 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性あり。
焼土粒、炭化物粒微量。暗褐色
粘質土(10YR3/3) ブロック含む。
白色粒1層より少い。
3. 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性あり。
焼土粒、炭化物粒少ない。
白色粒1層より多い。
4. 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性あり。焼土粒、
炭化物粒1・2層より多い。
5. 暗褐色土(10YR3/3) しまりあり。粘性弱。
炭化物粒(径4.0cm以下)含む。
白色粒多い。
6. 暗褐色土(10YR3/3) しまり・粘性あり。
焼土粒若干、炭化物粒(径1.0cm以下)
少し含む。白色粒少ない。
7. 黑褐色土(10YR2/3) しまり・粘性あり。
焼土粒少い、炭化物粒多い。
白色粒少ない。
8. 黑褐色砂質土(10YR2/3) しまりあり。粘性弱。
焼土粒(径1.0cm)、炭化物粒含む。
9. 黑褐色土(10YR2/2) しまり・粘性あり。
焼土粒多い。炭化物粒少ない。
石(径5.0cm) 多く含む。
10. 黑褐色土(10YR3/2) しまり強。粘性弱。
焼土粒、炭化物粒微量。白色粒含む。
地山(黑褐色砂質土(10YR3/3)) ブック含む。

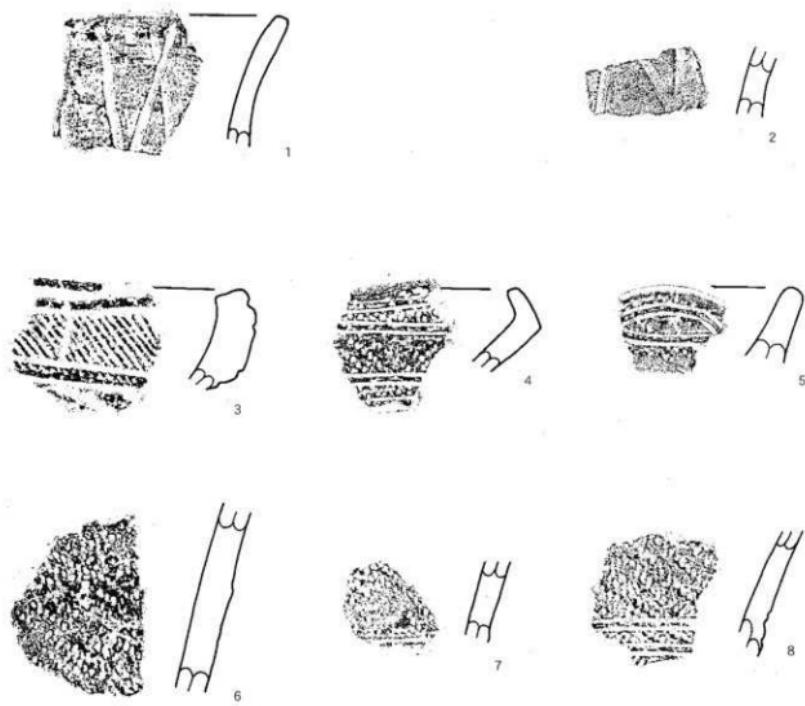


0 1m
1:30

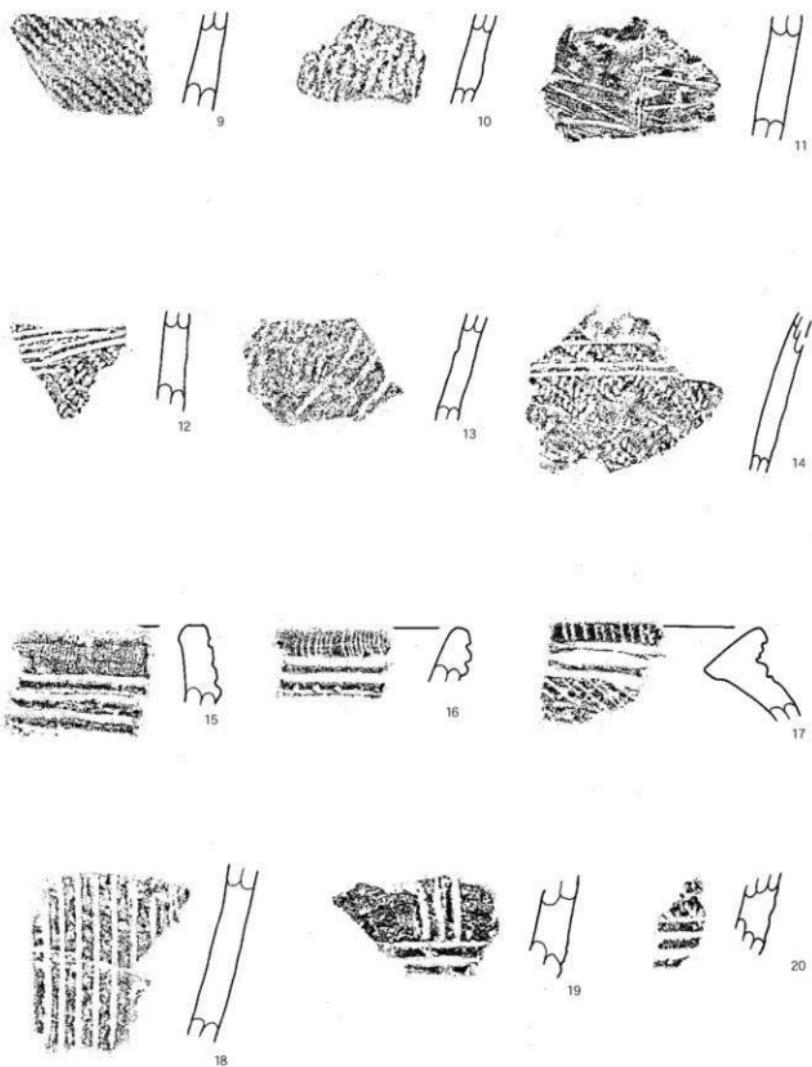
第149図 1区 3号竪穴住居跡



第150図 1区6号土坑出土遺物

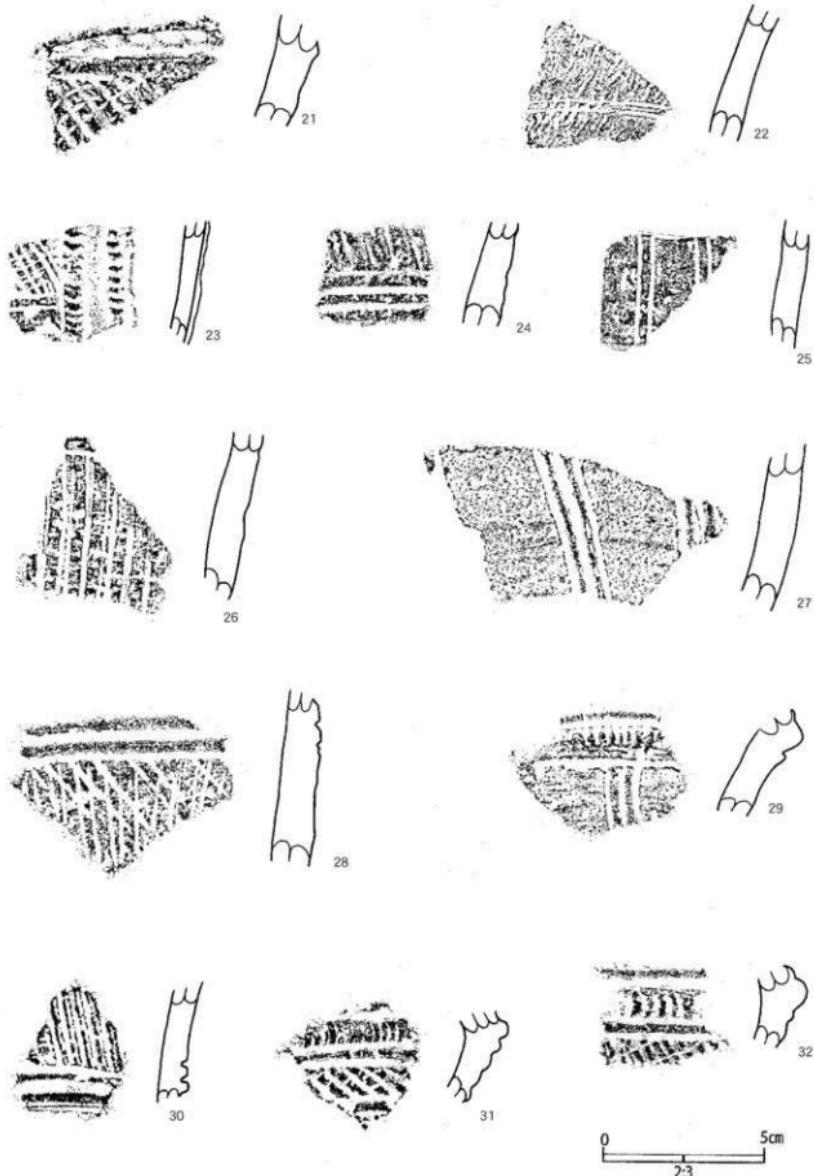


第151図 1区遺構外出土縄文土器(1)

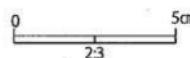
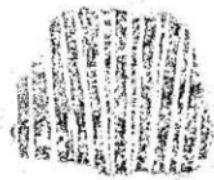


0 5cm
2:3

第152図 1区遺構出土土器(2)



第153図 1区遺構外出土縄文土器(3)



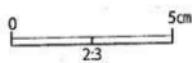
第154図 1区遺構出土繩文土器(4)



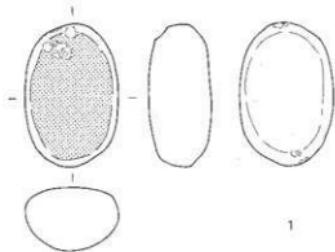
42



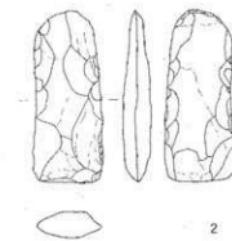
43



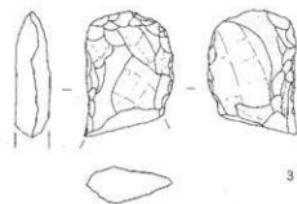
第155図 1区遺構外出土縄文土器(5)



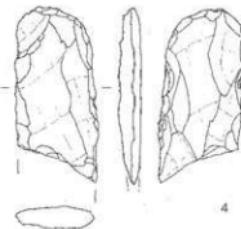
1



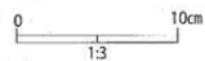
2



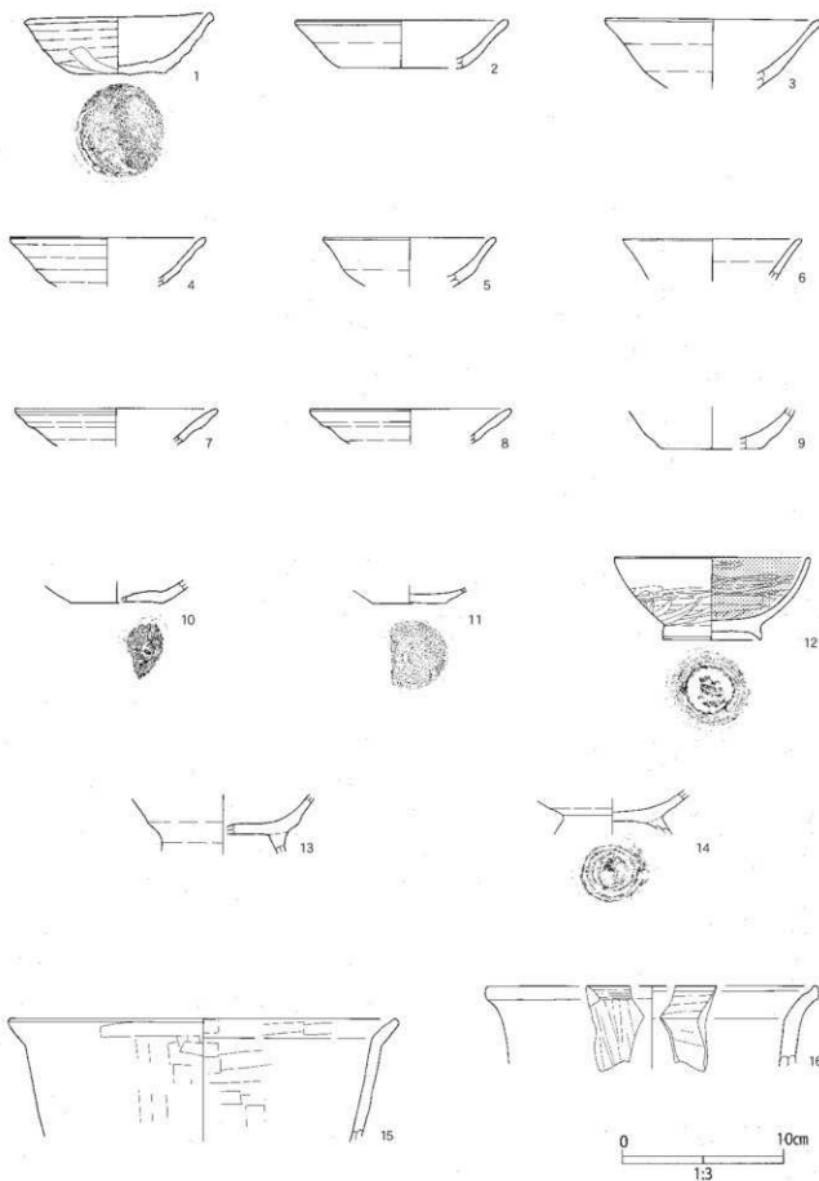
3



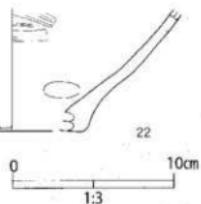
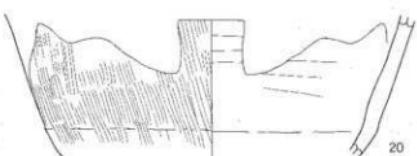
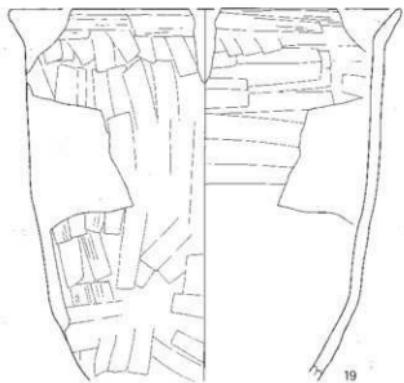
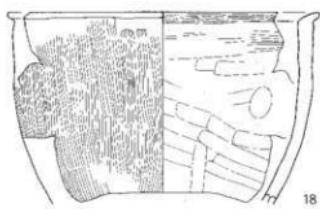
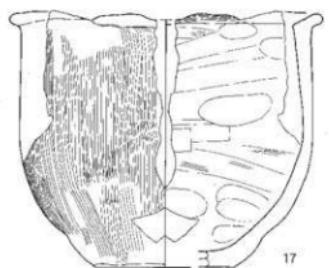
4



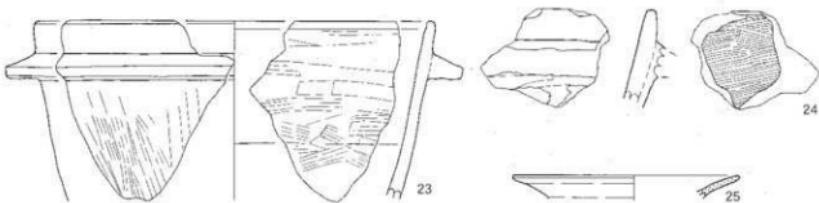
第156図 1区出土石器



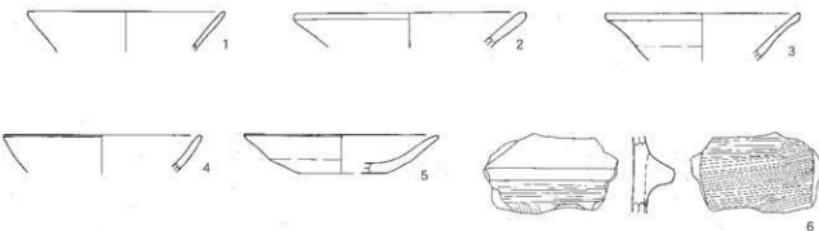
第157図 1区3号竪穴住居跡出土遺物(1)



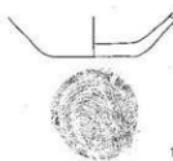
第158図 1区3号竪穴住居跡出土遺物(2)



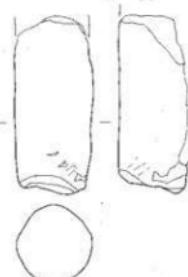
第159図 1区3号竪穴住居跡出土遺物(3)



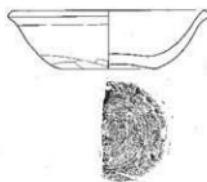
第160図 1区1号竪穴状遺構出土遺物



第161図 1区5号ピット群出土遺物

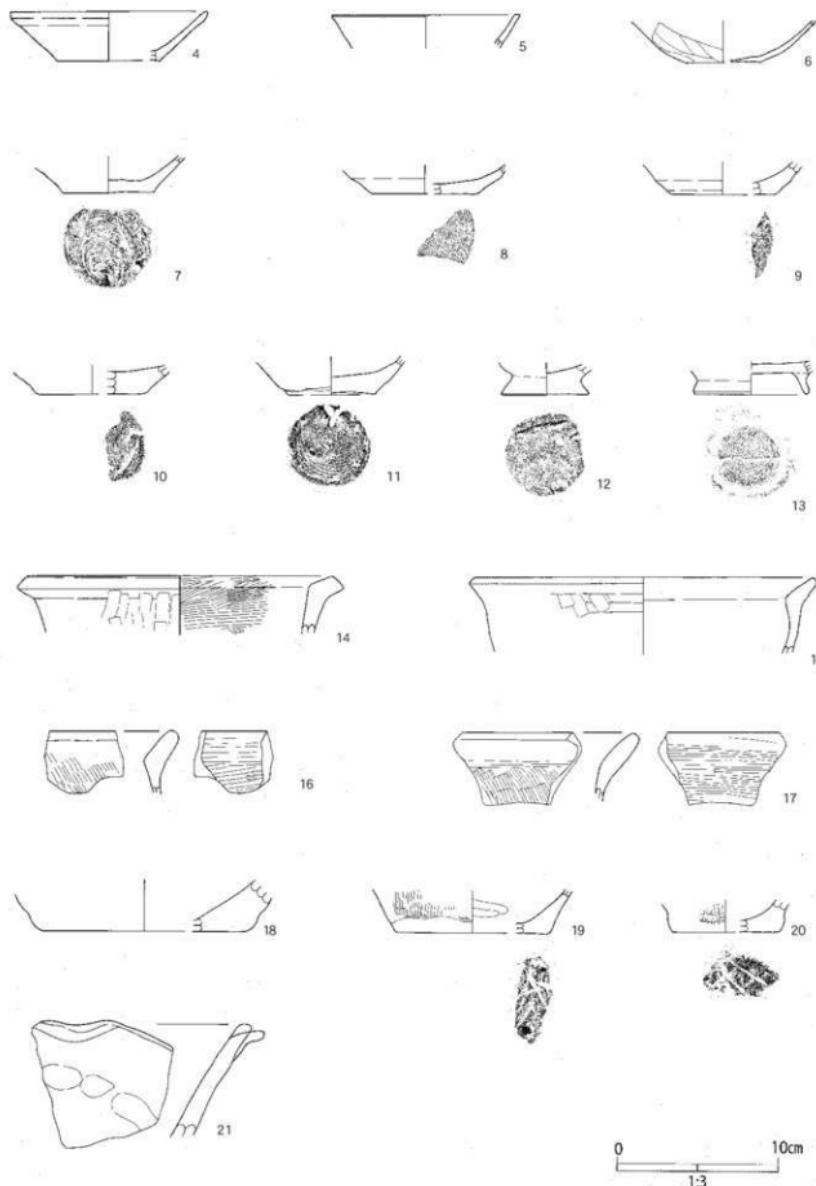


第162図 1区1号ピット出土遺物

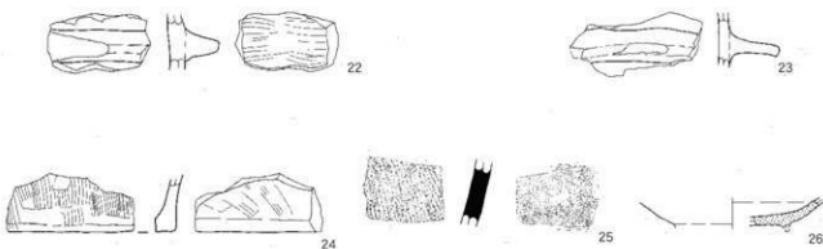


第163図 1区遺構外出土遺物(1)

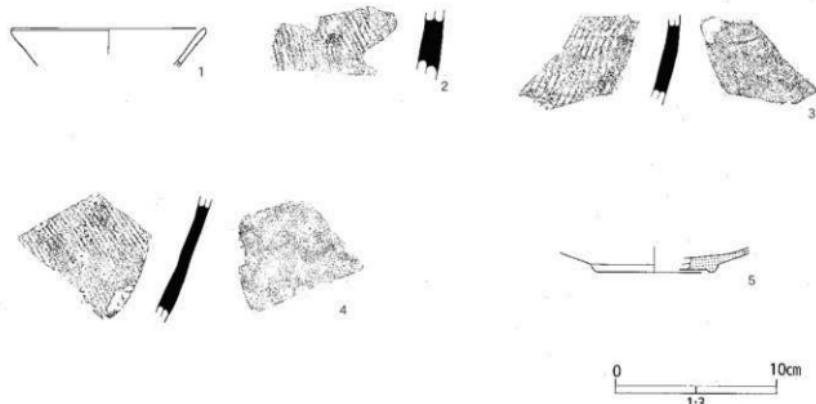
0 10cm
1:3



第164図 1区遺構外出土遺物(2)



第165図 1区遺構外出土遺物(3)



第166図 2区遺構外出土遺物

第6節廻り田B

(1)土坑

当区では25基の土坑を検出した。その分布は北側から中央にかけてと南側に近い部分に集中している。

第1号土坑

D-3・4区とE-4区に跨り検出された。また、第1号住居跡と接続している。平面形状は梢円形を呈している。長軸は不明である。短軸は222.5cm、深度は23.5cmを測る。壁面は急傾斜で立ち上がっている。坑底は水平であり長軸45cm、短軸38cmのピットを有している。土層の堆積は黒褐色土の単層である。遺物の出土は古墳時代の甕片が出土している。

第2号土坑

M-4区において検出された。平面形状はほぼ円形を呈している。長軸は167cm、短軸は160.5cm、深度は111.5cmを測る。壁は坑底から中程まではほぼ垂直に立ち上がり上方に向かって朝顔状に緩い傾斜を持つて開口していく。坑底の状況はやや傾斜を持っている。遺物の出土は無い。

第3号土坑

当土坑はM-5区に位置している。平面形は不整梢円形を呈しており長軸132.5cm、短軸90cm、深度47.5cmを測る。壁はやや急な立ち上がりを見せており、坑底の状況は丸みを帯びている。土層堆積状況は暗褐色砂質土層の下に暗褐色砂層がある。遺物の出土は無かった。

第4号土坑

N-4区より検出された。平面形状は不整梢円形を呈する。長軸102.5cm、短軸72.5cm、深度22.5cmを測っている。壁は急勾配で立ち上がり坑底は平坦である。土層は暗褐色砂層の単層である。なお、遺物の出土は無かった。

第5号土坑

M-4区より検出された。平面形状は梢円形を呈している。長軸80cm、短軸65cm、深度70.5cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がりを見せており、坑底は丸みを帯びている。土層の堆積は黒褐色砂質土層の下に暗褐色砂層が観察された。遺物の出土は無かった。

第6号土坑

L-4区より検出された。平面形状は円形を呈しており、長軸145cm、短軸133.5cm、深度64cmを測る。壁は西側では急傾斜で、東側ではやや緩やかに立ち上がりを見せており、底面は平坦であるが東側から西側に向かってやや下っている。土層堆積状況は縦まりの違う黒褐色砂質土層が三層観察できた。遺物の出土は無かった。

第7号土坑

C-16区より検出された。形状は不整円形を呈している。長軸は107.5cm、短軸107.5cm、深度33cmを測る。壁は急傾斜を持って立ち上がっている。坑底は平坦であるがやや傾斜している。土層は黒褐色砂質土の単層である。出土遺物は無い。

第8号土坑

D-2区より検出された。平面形は不整円形を呈している。長軸は不明である。短軸185cm、深度152cmを測る。坑底は起伏に富み北東方向に上っていく傾向を持っている。壁は急峻に立ち上がる。土層堆積状況は上層より表土層、黄褐色土層、黄褐色砂質土層、黒色粘質土層、暗褐色土層、黒褐色土層と続く。また、垂直方向に大きく攪乱が見られる。遺物の出土は甕片が出土しており構築時期は古墳時代と推測されよう。

第9号土坑

E-8区より検出された。平面形は不整梢円形を呈している。長軸221.5cm、短軸142cm、深度32cmを測る。坑底はわずかに丸みを帯びている。壁は緩やかに立ち上がっている。遺物の出土は無い。

第10号土坑

I - 5 区より検出された。平面形は不整円形を呈している。長軸86.5cm、短軸78cm、深度26.5cmを測る。坑底は僅かに小さな凹凸がみられる。壁は急傾斜で立ち上がっている。土層の堆積は締まりの違う暗褐色土層が2層確認できた。遺物の出土は無かった。

第11号土坑

I - 6 区より確認され、その規模は長軸102.5cm、短軸78cm、深度16.5cmを測る。平面形状は楕円形を呈している。坑底は平坦であり、壁はなだらかに立ち上がりを見せてている。土層の堆積は締まりの違う暗褐色土層が2層観察できた。なお、遺物の出土は無かった。

第12号土坑

I - 5・6 区より検出された。形状は円形を呈している。長軸94.5cm、短軸80cm、深度25cmを測る。坑底は平坦で壁はやや傾斜を持って立ち上がっている。土層の堆積は締まりの違う暗褐色土層が2層確認できた。遺物の出土は無い。

第13号土坑

H - 5・6 区より確認された。平面形状は楕円形を呈している。規模は長軸112cm、短軸89.5cm、深度15cmを測る。坑底の状況は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。土層堆積状況は暗褐色土層が単層で確認できた。遺物の出土は無かった。

第14号土坑

H - 7 区より検出された。平面形状は楕円形で規模は長軸95cm、短軸66.5cm、深度16cmを測る。坑底は平坦で壁はやや急傾斜で立ち上がっている。遺物の出土は無かった。

第15号土坑

G - 7 区より検出された。平面形は不整楕円形を呈している。規模は長軸117.5cm、短軸75cm、深度17.5cmで坑底は平坦で壁はやや急角度で立ち上がって行く。土層堆積状況は暗褐色土層が単層で確認できた。遺物の出土はない。

第16号土坑

H - 6 区から検出された。平面形は不整楕円形を呈している。規模は長軸272.5cm、短軸211.5cm、深度16.5cmを測る。底面はほぼ平坦な二段構造となっている。壁は緩やかに立ち上がっている。土層堆積状況は第1層に暗褐色土層、第2層に褐色土層、第3層に暗褐色土層と確認できた。遺物の出土は無い。

第17号土坑

H - 5・6 区から確認された。平面形は不整楕円形を呈している。規模は長軸109cm、短軸61cmを測り、深度は15cmと浅い。坑底はほぼ平坦で壁は急傾斜で立ち上がっている。遺物の出土は無い。

第18号土坑

F・G - 6 区より検出された。平面形は不整形を呈している。規模は長軸275cm、短軸234.5cm、深度43cmを測る。坑底は平坦で壁は急傾斜で立ち上がっている。土層堆積状況は第1層黒褐色粘質土層、第2層暗褐色土層、第3層暗褐色土層と観察でき繊々遺物の出土は無い。

第19号土坑

C・D - 5 区より確認された。平面形は不整形を呈している。坑底は平坦で壁はほぼ皿状に僅かな傾斜を作つて立ち上がっている。規模は長軸382cm、短軸229cmを測り深度は6cmと浅く土坑に認定するにはやや疑問が残る。土層は4層に分層されているがいずれも暗褐色土層である。

第20号土坑

C - 7 区より検出された。平面形は円形を呈しており規模は長軸68cm、短軸57cm、深度9cmを測る。坑底は平坦で壁はやや急な傾斜で立ち上がって行く。土層堆積はにぶい黄褐色の砂質土の単層である。遺物の出

土は無い。

第21号土坑

C-5区より検出された。平面形は楕円形を呈しており、規模は長軸121cm、短軸97.5cm、深度20.3cmを測る。坑底はほぼ平坦で二段構造となっている。壁は急角度で立ち上がって行く。土層の堆積は暗褐色砂質土の単層である。遺物の出土は無かった。

第22号土坑

F-5区より検出された。平面形は不整楕円形を呈しており、規模は長軸107cm、短軸96cm、深度13cmを測る。坑底は平坦であり壁は緩やかに皿状を呈し立ち上がっている。土層は暗褐色土の単層である。遺物の出土は無かった。

第23号土坑

F-4区より検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸105cm、短軸51cm、深度12.9cmを測る。坑底は平坦で壁は緩やかな角度でたちあがっていく。土層は暗褐色土の単層である。遺物の出土はない。

第24号土坑

G-4区より検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸160cm、短軸62cm、深度133cmを測る。ほぼ平坦であるが自然礫がみられる。壁は垂直に近い急角度で立ち上がって行く。土層堆積状況は大きく4層に分層できる。上層によりぶい黄褐色土層、第2層に暗褐色砂層、第3層として暗褐色砂質土層がありこの第3層中にブロック状に第4層の黒褐色土層がある。また、この第3層には拳大程の自然礫が多量に観察できる。遺物の出土はなかった。

第25号土坑

C-5区より検出された。平面形は楕円形を呈している。規模は長軸117cm、短軸106cm、深度29.5cmを測る。坑底は平坦であるが自然礫が全面に観察できる。壁はやや急傾斜で立ち上がっている。土層の堆積は上層より暗褐色土層、黒褐色砂質土層の2層に分層できる。なお、遺物の出土は無かった。

(2) ピット

ピットについては82基が確認された。詳細については観察表を参考にされたい。

(3) 溝状遺構

溝状遺構は旧河道も含め7条が検出された。

第1号溝状遺構

D-6・7・8、E-6・7・8・9、F-7・8・9、G-7・8、H-8区において検出された。W-69°-Nに主軸が求められる。検出された規模は長軸21.25m 短軸約9.15m、深度約1.01m であり調査区外にまで伸びている。底部はほぼ平坦でやや緩い傾斜を持って立ち上がって行く。溝内には第3号土坑がある。当溝の性格は土層堆積状況より黒褐色土や砂質土層、粘質土層などが薄い互層を形成していることから旧河道と推測される。遺物は希薄で縄文時代中期の深鉢型土器片が3点出土している。

第2号溝状遺構

D-2・3、E-2・3、F-2・3、G-2・3、H-2・3・4、I-4、J-4・5、K-4・5区に跨りほぼ直線状に検出された。W-72°-Nに主軸が求められる。規模は長軸37.5m、短軸2.82m、深度0.5mを測り直線状に伸びている。断面形は浅い皿状を呈している。第1号住居跡、第1号小竪穴状遺構、第7号溝状遺構、第8号土坑に切られており、北西側の調査区外に伸びている。遺物の出土は約700点と多く、その大半は古墳時代に帰属するものである。ほぼ完形の小型片口壺が1点正位で出土していたことと、遺物の出土が集中していることから水場における祭祀行為が行われた可能性がある。

第3号溝状遺構

M-2・3・4、N-2・3・4・5、O-4・5区に跨がり検出された。主軸方位はW-32°-Nに取っている。規模は長軸14.73m、短軸4.3m、深度1.28mを有し、北東方向で遺構外に伸びている。底部は凹凸が激しく壁は急勾配で立ち上がっていく。当遺構からは古墳時代の土器片のほか大型の自然流木が出土している。

第4号溝状遺構

C・D-4区より検出されたものである。主軸方位をW-44°-Nに取っている。近接して第1号住居跡が存在している。規模は長軸3.1m・短軸1.89m・深度0.21mを測りその大半は遺構外に伸展している。なお、遺物の出土は無かった。

第5号溝状遺構

C・D-9区より検出された。大部分が遺構外に伸展しているため主軸方位は分からぬ。検出された規模は長軸約6m程だけあり、底部が平坦で壁がやや緩く立ち上がりをみせている。遺物の出土は無い。

第6号溝状遺構

C・D-9区より検出された。第5号溝状遺構に連結されている。溝底部は丸みを帯びており小ピットが2基検出されている。壁は急角度で立ち上がっている。規模は長軸1.1m、短軸0.38m、深度0.3mを測る。遺物の出土は無い。

第7号溝状遺構

F-3・4区より検出されたもので主軸方位をE-9°-Sに取る。遺物の出土は無かった。

第1号小竪穴状遺構

E-2区より検出されたもので、遺構の大半が調査区外に埋没していたと思われるが、後世の掘削を受けていた。平面形は隅丸方形を呈している。規模は長軸5.21m、深度0.34mを測る。遺物の出土は無い。

第2号小竪状遺構

E-3区より検出された。平面形は隅丸方形を呈している。規模は第2号溝状遺構と試掘トレーニチに切られているため不明。先後関係は第2号溝状遺構よりも古い。遺物の出土はない。

第1号住居跡

D-3・4区より検出された。平面形は隅丸方形を呈している。規模は短軸4.98m、深度0.34mを測る。調査区北西を拡張して住居の壁を検出するよう努めたが壁面は調査区外に伸びていた。遺物の出土の多くは古墳時代に帰属するものである。

表16 回り田B遺構観察表

土坑 No.	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
1	D-34・E-4	楕円形		222.5	23.5	有り	古墳	カメ
2	M-4	円形	167	160.5	111.5			
3	M-5	不整椭円形	132.5	90	47.5			
4	N-4	不整椭円形	102.5	72.5	22.5			
5	M-4	楕円形	80	65	70.5			
6	L-4	円形	145	133.5	64			
7	L-4	不整円形	107.5	107.5	33			
8	D-2	不整円形		185	152	有り	古墳	ツボ
9	E-8	不整椭円形	221.5	142	32			
10	I-5	不整円形	86.5	78	26.5			
11	I-6	楕円形	102.5	78	16.5			
12	I-5・6	円形	94.5	80	25			
13	H-5・6	楕円形	112	89.5	15			
14	H-7	楕円形	95	66.5	16			
15	G-7	不整椭円形	117.5	75	17.5			
16	H-6	不整椭円形	272.5	211.5	16.5			
17	H-5・6	不整椭円形	109	61	15			
18	F・G-6	不整形	275	234.5	43			
19	C・D-5	不整形	382	229	6			
20	C-7	円形	68	57	9			
21	C-5	楕円形	121	97.5	20.3			
22	F-5	不整椭円形	107	96	13			
23	F-4	楕円形	105	51	12.9			
24	G-4	楕円形	160	62	133			
25	C-5	椭円形	117	106	29.5			

溝観察表

溝No	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
1	D-6・7・8 E-6・7・8・9 F-7・8・9 G-7・8 H-8	皿状	2120	915	101	有り	縄文中期	
2	D-2・3 E-2・3 F-2・3 G-2・3 H-2・3 I-4・5 K-4・5	皿状	3,750	282	50	有り	古墳	
3	M-2・3・4 N-2・3・4・5 O-4・5	起伏に富む	1473	430	128	有り	古墳	
4	C・D-4	皿状	310	189	21			
5	C・D-9	皿状	600		148			
6	C・D-9	皿状	110	38	30			
7	F-3・4	皿状	186	86	4			

ピット観察表

ピット No.	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
1	M-5	楕円形	50	34	7			
2	L・M-4	円形	53	50	33			
3	L-5	円形	40	36	33			
4	L-4	楕円形	54	47	26			
5	M-4	円形	40	36	46			

土坑 No.	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
6	L-4	楕円形	58	40	22			
7	L-4	不整円形	58	51	22			
8	L-4	楕円形	32	26	28			
9	K-5	楕円形	27	24	20			
10	K-5	楕円形	34	19	7			
11	K-5	楕円形	34	27	7			
12	K・L-5	円形	23	20	28			
13	K-5	不整円形	50	43	26			
14	L-5	不整円形	39	19	21			
15	L-5	不整円形	29	28	20			
16	L-5	円形	30	28	12			
17	L-5	円形	25	26	16			
18	L-5	円形	20	20	13			
19	L-5	不整円形	20	19	30			
20	L-5	楕円形	20	20	20			
21	M-5	楕円形	16	14	12			
22	N-5	楕円形	18	14	12			
23	L-5	楕円形	16	14	9			
24	K-6	円形	36	36	12			
25	C-4・5	楕円形	48	37	55			
26	D-4・5	楕円形	58	46	10			
27	D-5	円形	24	20	8			
28	D-5	円形	20	18	9			
29	D・E-6	楕円形	18	16	6			
30	D-5	円形	33	30	6			
31	E-5	不整円形	41	9	13			
32	D-6	楕円形	28	23	9			
33	E-5	円形	40	36	7			
34	E-6	楕円形	38	24	6			
35	E-5	円形	42	42	8.5			
36	I-6	楕円形	46	30	7.5			
37	I-6	円形	30	28	15			
38	I-6	楕円形	30	26	18			
39	I-6・7	円形	46	43	12			
40	I-7	円形	28	20	8			
41	I-7	円形	33	30	18			
42	I-7	楕円形	28	16	10			
43	I-7	楕円形	28	19	6			
44	H-6	円形	20	18	8			
45	H-5	円形	21	20	9			
46	H-5	楕円形	41	32	4			
47	H-5	円形	28	24	8			
48	H-6	不整楕円形	40	22	10			
49	G-6	楕円形	25	23	6			
50	G-6	楕円形	24	22	4			
51	G-6	楕円形	39	32	11			
52	H-8	楕円形	35	29	10.5			
53	J-6	円形	60.5	57	7			

土坑 No.	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
54	K-6	円形	40	40.5	23			
55	C-7	不整円形	33	33	30			
56	D-5	円形	27	30	4.5			
57	L-5	円形	46	48	37			
58	F-5	楕円形	65	52	25			
59	F-4	楕円形	26	20	10			
60	G-4	楕円形	54	36	12			
61	G-4	円形	40	36	26			
62	G-5	楕円形	44	26	23			
63	G-5	円形	30	26	16			
64	M-4	楕円形	45	42	31			
65	J-5	楕円形	32	21	26			
66	D-7	楕円形	60	47	18			
67	C-7	不整円形	42	46	26			
68	D-9	円形	36	38	10			
69	I-3	楕円形	46	31	21			
70	I-3	円形	26	24	12			
71	K-3	円形	54	43	16			
72	D-9	楕円形	48	40	23			
73	D-9	円形	36	31	40			
74	D・E-9	楕円形	40	36	19			
75	D・E-9	楕円形	46	40	16			
76	D-9	楕円形	43	36	12			
77	D-9	円形	33	32	35			
78	C-8	円形	21	21	18			
79	C-9	楕円形	30	20	16			
80	F-3	楕円形	22	16	21			
81	D-3	楕円形		70	26			
82	K-4	楕円形	30	26	15			

小豎穴状遺構観察表

No.	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
1	E-2	隅丸方形	521		34	無		
2	E-3	隅丸方形				無		

住居跡観察表

No.	グリッド	平面形状	規模(cm)			遺物の有無	時代	備考
			長軸	短軸	深度			
1	D-3・4	隅丸方形		498	18	有	古墳	

表17 繰り田B遺物觀察表

通番	番号	発掘場所	遺物	出土場所	種別	器種	寸法(cm)			色調	土	焼	保存率(%)	備考	圖版	圖版番号		
							口径	底径	高さ									
1	1	13 1 住	一括	土器	直	(13.5)	0.4	-	明治期	外	内	ナデ、折り出し口縁	内:少々灰化、外ナデ(不規則)、底:7.5YR5/6	外:ヨコナデ、所り出し口縁(火候)	外	内		
2	2	10 1 住	1788	土器	直	-	(2.3)	(0.5)	-	明治期	外	内	ナデ(スズ)、ナデ	内:少々灰化、外ナデ(不規則)、底:	ナデ(スズ)、ナデ	古燒	焼片	
3	3	11 1 住	1777	土器	直	-	(2.5)	(0.0)	-	明治期	外	内	ナデ(スズ)、ナデ	内:少々灰化、外ナデ(不規則)、底:	ナデ(スズ)、ナデ	古燒	焼片	
4	4	1 住	13077	土器	直	-	(4.7)	-	小壺	白・青色粒子、石	良	良	ナデ、ナデ、本焼	内:少々灰化、口縁:「口縁:ヨコナデ」(火候)	ナデ(スズ)、ナデ	古燒	焼片	
5	5	4 住	1781	土器	直	-	(5.2)	-	杓	白・青色粒子、石	良	良	ナデ、ナデ、ミガキ	内:少々灰化、口縁:「口縁:ヨコナデ」(火候)	ナデ(スズ)、ナデ	古燒	焼片	
6	6	8 住	1784	土器	直	-	(3.3)	-	小壺	明治期	白・青色粒子、石	良	ナデ、ミガキ	内:ナデ(不規則)、外:ヨコナデ(不規則)	外:ナデ(スズ)、ミガキ(不規則)	古燒	焼片	
7	7	7 住	1772	土器	直	-	(4.8)	-	杓	白・青色粒子、石	良	良	ナデ(スズ)	内:外とも厚唇(上と腰窓なし)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
8	8	6 住	1769	土器	直	-	(3.1)	-	明治期	白・青色粒子、石	良	良	ナデ、ナデ	内:ナデ、外:ヨコナデ(火候)、ナデ(火候)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
9	9	18 1 住	一括	土器	直	-	(2.1)	-	小壺	白・青色粒子、石	良	良	ナデ	内:ナデ、外:斜め凹凸	ナデ	古燒	焼片	
10	10	15 1 住	一括	土器	直	-	(2.6)	-	明治期	白・青色粒子、石	良	良	ナデ(スズ)	内:ナデ(不規則)、外:ヨコナデ(不規則)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
11	11	16 1 住	一括	土器	直	-	(3.2)	-	口縁	白・青色粒子、石	良	良	ナデ(スズ)	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
12	12	3 1 住	1278	土器	直	-	(3.6)	-	小壺	明治期	白・青色粒子、石	良	ナデ、ナデ、指痕	内:ナデ(スズ)、ナデ(火候)、外:ナデ	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
13	13	2 1 住	1725	土器	直	-	(3.1)	-	小壺	明治期	白・青色粒子、石	良	ナデ、ナデ	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
14	14	9 住	1783	土器	直	-	(6.3)	-	杓	白・青色粒子、石	良	良	ナデ(スズ)	内:外とも厚唇(上と腰窓なし)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
15	15	17 1 住	一括	土器	直	-	(2.4)	-	明治期	白・青色粒子、石	良	ナデ	ナデ(スズ)	内:ナデ(スズ)、ナデ(火候)、ナデ(不規則)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
16	16	5 1 住	1775	土器	直	-	(2.9)	-	杓	白・青色粒子、石	良	ナデ	ナデ	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
17	17	14 1 住	一括	土器	直	(0.38)	(2.35)	-	明治期	白・青色粒子、石	良	ナデ	ナデ	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
18	18	19 1 住	一括	土器	直	-	(2.5)	-	明治期	白・青色粒子、石	良	ナデ	ナデ	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
19	19	12 1 住	一括	土器	直	かがり付	(7.2)	(1.8)	小壺	白・青色粒子、石	良	ナデ	ナデ	内:ナデ(スズ)、ナデ(火候)、ナデ(不規則)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
20	1	20 2 住	235	土器	直	-	(2.9)	-	小壺	白色粒子、金雲母	良	ナデ	ナデ(スズ)	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
21	2	24 2 住	245	土器	直	-	(4.7)	-	口縁	白色粒子、金雲母	良	ナデ	ナデ(スズ)	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
22	3	23 2 住	242	土器	直	-	(3.3)	-	小壺	白色粒子、金雲母	良	ナデ	ナデ	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
23	4	21 2 住	249	土器	直	-	(2.4)	-	小壺	白色粒子、金雲母	良	ナデ	ナデ	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
24	5	25 2 住	233	土器	直	-	(10.8)	(0.8)	小壺	白色粒子、金雲母	良	ナデ	ナデ	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
25	6	22 2 住	244	土器	直	-	(6.4)	-	小壺	白色粒子、金雲母	良	ナデ	ナデ	内:外:ヨコナデ	ナデ	古燒	焼片	
26	7	26 2 住	247	土器	直	-	(4.0)	(1.9)	明治期	白色粒子、金雲母	良	ナデ	ナデ	内:外とも厚唇(上と腰窓なし)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
27	1	27 1 住	256	土器	直	-	(3.6)	-	小壺	白色粒子、金雲母	良	ナデ	ナデ	内:ナデ(スズ)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
28	1	28 8 住	1910	土器	直	-	(2.8)	5.8	明治期	白色粒子、石	良	ナデ	ナデ	内:外とも厚唇(上と腰窓なし)	ナデ(スズ)	古燒	焼片	
29	1	30 1 住	一括	土器	直	(2.8)	-	(4.6)	-	小壺	白色粒子、石	良	ナデ	ナデ	内:外とも厚唇(上と腰窓なし)	ナデ(スズ)	古燒	焼片

番号	学名	備考	分布	計量 (cm)		色調	備考	備考2	外	内	表面	現存率
				口径	高さ							
30	2	29	1.溝 3.32	上端	深8	-	金合歯	内	断土	金合歯	口内	25%5/6
31	3	31	1.溝 裂し	上端	深8	(4.0)	明治期	-	小窓	白色粘子。石窓、良	口内	25%4/8
32	4	294	1.溝 1678	石窓	石8	15.0	8.0	2.5	-	白色粘子。石窓、良	口内	95%
33	1	32	2.溝 1200	上端	破	(8.2)	10.6	7.0	明治期	白色粘子。石窓、良	口内	2.3%5/6
34	2	41	2.溝 798	上端	破	17.6	(3.8)	-	小窓	白色粘子。石窓、良	口内	75%3/4.6
35	3	43	2.溝 969.	上端	破	(5.1)	-	明治期	白・赤色粘子。良	口内	31%5/6	
36	4	44	2.溝 990	上端	破	15.8	(4.2)	-	小窓	白色・赤色粘子。良	口内	31%4/6
37	5	64	2.溝 779	上端	破	(14.8)	(1.7)	稍	-	白色粘子。石窓、良	口内	7.5%3/6
38	6	90	2.溝 一筋	上端	破	(11.3)	(2.1)	-	小窓	白色粘子。石窓、良	口内	5%8/4
39	7	46	2.溝 107	上端	破	21.8	(2.2)	-	明治期	白色・赤色粘子。良	口内	25%5/8
40	8	57	2.溝 859	上端	破	(13.8)	(1.6)	-	小窓	白色粘子。石窓、良	口内	31%4/6
41	9	108	2.溝 631	上端	破	(16.0)	(5.8)	-	小窓	白色粘子。石窓、良	口内	2.3%5/6
42	10	45	2.溝 1068	上端	破	12.8	(5.0)	-	小窓	白色粘子。金	口内	2.3%5/6
43	11	218	2.溝 59	上端	破	(7.8)	(1.7)	-	明治期	白色・赤色粘子。石窓、良	口内	5%8/4
44	12	97	2.溝 1161	上端	破	(10.3)	(4.2)	-	小窓	白色・赤色粘子。石窓、良	口内	31%5/6
45	13	228	2.溝 71	上端	破	10.2	(4.4)	-	小窓	白色粘子。石窓、良	口内	7.5%3/6
46	14	71	2.溝 1203	上端	破	11.4	(4.1)	-	小窓	白色粘子。石窓、良	口内	75%6/4
47	15	62	2.溝 1099	上端	破	11.4	(3.6)	-	小窓	白色粘子。金	口内	5%8/4
48	16	33	2.溝 236	上端	破	15.0	(5.0)	-	小窓	白色粘子。石窓、良	口内	2.3%5/6
49	17	81	2.溝 1326	上端	破	(8.7)	(3.7)	稍	白・赤色粘子。良	口内	2.3%5/6	
50	18	79	2.溝 189	上端	破	8.8	(2.3)	-	明治期	白色粘子。良	口内	2.3%5/8
51	19	63	2.溝 793	上端	破	10.4	(1.3)	-	明治期	白色粘子。金	口内	31%5/6
52	20	35	2.溝 1222	上端	破	16.8	(3.3)	-	小窓	白色粘子。石窓、良	口内	2.3%5/6
53	21	70	2.溝 104	上端	破	19.0	(3.7)	-	小窓	白色粘子。金	口内	2.3%5/6
54	22	224	2.溝 1588	上端	破	9.2	(2.9)	-	白色粘子。石窓、良	口内	7.5%3/6	
55	23	233	2.溝 227	上端	破	(3.35)	-	白・赤色粘子。石窓、良	口内	10%5/3		
56	24	102	2.溝 1417	上端	破	(3.00)	-	小窓	白色粘子。金	口内	2.3%5/6	
57	25	231	2.溝 1808	上端	破	(5.1)	-	小窓	白色粘子。石窓、良	口内	2.3%5/6	

番号	学名	種別	分布地	形質		形質		形質		形質		形質		形質			
				口徑	高さ	幅	深さ	内	外	内	外	内	外	内	外		
58	26	100	2清	1150	上端	越	-	(6.3)	小端	白色粒子石英，良	白色粒子石英，良	ナデ	内：ナデ，外：磨耗不規則	SYB4/6	古墳	鏡片	
59	27	104	2清	1214	上端	越	-	(4.9)	小端	白色粒子石英，良	白色粒子石英，良	ナデ	内：ナデ，外：ヨコナガ	SYB4/6	古墳	鏡片	
60	28	103	2清	1194	上端	越	-	(5.0)	中	白色粒子石英，良	白色粒子石英，良	ナデ	内：鏡面，外：ハラ	SYB4/3	古墳	鏡片	
61	29	106	2清	1012	上端	越	-	(3.6)	中	白色粒子石英，良	白色粒子石英，良	ナデ	内：外：ナデ，外：鏡面	SYB5/8	古墳	鏡片	
62	30	288	2清	53	上端	越	-	(3.1)	中	明小端	白色粒子石英，良	ナデ	磨耗による外：外も調節不規則	SYB5/6	古墳	鏡片	
63	31	164	2清	623	上端	越	-	(3.9)	中	明小端	白色粒子石英，良	ナデ	内：ミガキ，ナデ	SYB5/6	古墳	鏡片	
64	32	99	2清	154	508、 1490、 1455	上端	-	(12.7)	合	に点状 に斜面	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ、ナデ	SYB4/6	10YB5/4	古墳	鏡片
65	33	114	2清	279	上端	越	-	(4.6)	中	明小端	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ	SYB4/6	古墳	鏡片	
66	34	237	2清	1321、 1298	上端	越	-	(7.7)	中	明小端	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ	SYB3/3	古墳	鏡片	
67	35	112	2清	1381	上端	越	-	(5.4)	中	明小端	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ	SYB6/6	古墳	鏡片	
68	36	283	2清	232	上端	越	-	(5.8)	中	明小端	黑色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ	SYB5/4	古墳	鏡片	
69	37	229	2清	1452	上端	越	-	(3.8)	中	明小端	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ	SYB5/6	古墳	鏡片	
70	38	141	2清	176	上端	越	-	(2.5)	15.0	明小端	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ	SYB5/6	古墳	鏡片	
71	39	144	2清	665	上端	越	-	(4.0)	(13.8) 横、黒	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ	SYB6/6	古墳	鏡片		
72	40	159	2清	1112	上端	越	-	(3.6)	10.0	明小端	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ	SYB5/8	古墳	鏡片	
73	41	273	2清	278	上端	越	-	(3.8)	8.2	中	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ケズリ	SYB1/71	古墳	鏡片	
74	42	157	2清	1429	上端	越	-	(2.0)	(7.5) 中	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ	SYB5/6	古墳	鏡片		
75	43	285	2清	1611	上端	越	-	(5.5)	(10.0) 中	白色粒子石英，良	ナデ	ナシ，ミガキ	SYB6/6	古墳	鏡片		
76	44	147	2清	1408	上端	越	-	(4.2)	(8.0) 横、 合	に点状 に斜面	白色粒子石英，良	ミガキ	内：ミガキ，外：ミガキ	SYB5/6	古墳	鏡片	
77	45	153	2清	705	上端	越	-	(1.8)	7.8	小端	白色粒子石英，良	ナデ	内：ミガキ	SYB4/6	古墳	鏡片	
78	46	143	2清	1081	上端	越	-	(2.7)	12.4	小端	白色粒子石英，良	ナデ	内：ナシ，外：ミガキ	SYB4/6	古墳	鏡片	
79	47	280	2清	285	上端	越	-	(2.7)	6.4	中	白色粒子石英，良	ナデ	内：ナシ，外：ミガキ	SYB4/3	古墳	鏡片	
80	48	282	2清	279	上端	越	-	(4.8)	5.8	明小端	白色粒子石英，良	ナデ	内：ミガキ	SYB5/8	古墳	鏡片	
81	49	146	2清	170、 517、 1531	上端	越	-	(10.0)	(0.4) 横	白、黑	白色粒子石英，良	ナデ	内：ミガキ	SYB6/6	古墳	鏡片	
82	50	148	2清	1024	上端	越	-	(3.4)	(0.8) 明小端	白色粒子石英，良	ナデ	内：ナシ，外：ミガキ	SYB5/6	古墳	鏡片		
83	51	274	2清	525	上端	越	-	(2.05)	4.2	明小端	白色粒子石英，良	ナデ	内：ミガキ	SYB5/8	古墳	鏡片	
84	52	142	2清	1104	上端	越	-	(2.8)	5.8	黑	白色粒子石英，良	ナデ	内：ミガキ	SYB3/1	古墳	鏡片	

番号	学名	通名	原上名	種別	分布(=cm)	色調		断土	断土	備考		色調?	
						口付	裏			外	内		
85 53	158 2 濡	946	上葉	越	-	(2.1)	(8.6) 小丸	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	ハサウエイテラジウム, ミスチカ, (内・外) 削り下地 (不削), リム	5VRR4/6	古地	
86 54	156 2 濡	1087	上葉	越	-	(1.8)	9.6 黒丸	白色粒子, 金云母	白色粒子, 石英	リム, カスラーナナ, リム	10VRL2	古地	
87 55	149 2 濡	1776	上葉	越	-	(2.0)	(0.2) 小丸	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	5VRR4/6	古地	
88 56	283 2 濡	1590	上葉	越	-	(2.3)	(8.6) 枯, 黑	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, カスラーナナ, リム	7.5VRR6/7.6	古地	
89 57	128 2 濡	290	上葉	越	-	(5.7)	4.4 明赤	白色粒子, 金	白色粒子, 金	リム, リム, リム, リム	7.5VRR5/6	古地	
90 58	140 2 濡	287, 801	上葉	越	-	(2.4)	9.0 枯	自・赤色粒子, 石英	自・赤色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	5VRR7/6	古地	
91 59	145 2 濡	1096	上葉	越	-	(3.1)	(8.0) 明赤	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	5VRR7/8	古地	
92 60	130 2 濡	1850	上葉	越	-	(3.6)	4.5 明赤	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	7.5VRR5/6	古地	
93 61	281 2 濡	577	上葉	越	-	(2.0)	10.2 枯	枯	白・赤色粒子, 石英	白・赤色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	5VRR7/6	古地
94 62	275 2 濡	1508	上葉	越	-	(2.8)	(4.0) 明赤	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	5VRR5/6	古地	
95 63	131 2 濡	624	上葉	越	-	(2.65)	5.0 明赤	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	5VRR5/6	古地	
96 64	277 2 濡	207	上葉	越	-	(1.95)	4.8 小丸	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	5VRR4/8	古地	
97 65	278 2 濡	1496	上葉	越	-	(1.9)	4.8 和	赤地	自・白・赤色粒子, 金	白・赤色粒子, 金	リム, リム, リム, リム	7.5VRR4/6	古地
98 66	286 2 濡	58	上葉	越	-	(2.55)	(6.2) 明赤	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	5VRR5/6	古地	
99 67	132 2 濡	940	上葉	越	-	(2.4)	3.9 小丸	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	5VRR5/6	古地	
100 68	136 2 濡	1011	上葉	越	-	(1.4)	4.5 黑丸	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, リム, リム, リム	5VRR4/6	古地	
101 69	160 2 濡	852	上葉	越	-	(1.1)	(4.6) 和	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, カスラーナナ, リム	7.5VRR7/1	古地	
102 70	279 2 濡	592	上葉	越	-	(1.4)	4.0 和	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, カスラーナナ, リム	2.5VRR4/4	古地	
103 71	276 2 濡	206	上葉	越	-	(1.8)	4.6 小丸	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, カスラーナナ, リム	7.5VRR5/4	古地	
104 72	151 2 濡	1193	上葉	越	-	(2.4)	5.0 褐	白色粒子	白色粒子	リム, カスラーナナ, リム	5VRR4/6	古地	
105 73	159 2 濡	725	上葉	越	-	(1.85)	(6.2) 明赤	白色粒子, 石英	白色粒子, 石英	リム, リム, リム	5VRR5/6	古地	
106 74	135 2 濡	1018	上葉	越	-	(1.6)	3.6 明赤	自・白色粒子, 金	自・白色粒子, 金	リム, カスラーナナ, リム	5VRR3/6	古地	
107 75	219 2 濡	1594	上葉	越	-	(2.8)	-(?)	自・白色粒子, 石英	自・白色粒子, 石英	リム, カスラーナナ, リム	7.5VRR5/4	古地	
108 76	67 2 濡	528	上葉	越	-	(4.15)	- 枯	自・白色粒子, 石英	自・白色粒子, 石英	リム, リム, リム	5VRR7/6	古地	
109 77	73 2 濡	1492	上葉	越	-	(2.1)	-(?)	白・赤色粒子, 石英	白・赤色粒子, 石英	リム, カスラーナナ, リム	7.5VRR5/4	古地	
110 78	75 2 濡	1509	上葉	越	-	(3.2)	- 明赤	白・赤色粒子, 金	白・赤色粒子, 金	リム, カスラーナナ, リム	5VRR3/2	古地	
111 79	78 2 濡	1418	上葉	越	-	(4.2)	- 褐	白・赤色粒子, 金	白・赤色粒子, 金	リム, カスラーナナ, リム	7.5VRR4/3	古地	
112 80	69 2 濡	154	上葉	越	-	(3.95)	- 明赤	白・赤色粒子, 金	白・赤色粒子, 金	リム, カスラーナナ, リム	2.5VRR3/2	古地	

番号	学名	種別	分布上部	種別	分布 (cm)		色調	被毛	備考	備考		色調?	外	内	交配	保存状
					口径	幅高				被毛	外					
113	81	209	2.清	674	1.頭	越	-	(2.7)	-	白色	白色	白色	2.5YR3.6	古地	破片	
114	82	55	2.清	1205	1.頭	越	-	(3.8)	-	白色	白色	白色	2.5YR4.3	古地	破片	
115	83	244	2.清	1513	1.頭	越	-	(4.25)	-	白色	白色	白色	107BG.4	古地	破片	
116	84	110	2.清	1314	1.頭	越	-	(4.0)	-	白色	白色	白色	75YR5.4	古地	破片	
117	85	236	2.清	229	1.頭	越	-	(3.4)	-	石灰	石灰	石灰	75YR4.4	古地	破片	
118	86	113	2.清	?	1.頭	越	-	(6.2)	-	明赤	白色	白色	5YR5.6	古地	破片	
119	87	111	2.清	1198	1.頭	越	-	(5.6)	-	明赤	白色	白色	3.5YR5.6	古地	破片	
120	88	147	2.清	1150	1.頭	越	-	(3.8)	-	小頭	白色	白色	5YR4.8	古地	破片	
121	89	242	2.清	1602	1.頭	越	-	(4.0)	-	小頭	白色	白色	5YR4.8	古地	破片	
122	90	247	2.清	265	1.頭	越	-	(4.7)	-	明赤	白色	白色	2.5YR5.6	古地	破片	
123	91	607	2.清	637	1.頭	小帽	-	(2.5)	-	明赤	白色	白色	5YR5.6	古地	破片	
124	92	66	2.清	1042	1.頭	小帽	-	(3.4)	-	小頭	白色	白色	2.5YR4.8	古地	破片	
125	93	241	2.清	1024	1.頭	小帽	-	(4.2)	-	小頭	白色	白色	107BG.4	古地	破片	
126	94	101	2.清	973	1.頭	小帽	-	(3.6)	-	明赤	白色	白色	5YR5.6	古地	破片	
127	95	240	2.清	961	1.頭	小帽	-	(4.7)	-	小頭	白色	白色	5YR4.8	古地	破片	
128	96	163	2.清	-	1.頭	小帽	-	(2.2)	-	4.6	明赤	白色	107BG.2	古地	破片	
129	97	155	2.清	1173	1.頭	小帽	-	(2.4)	-	3.6	明赤	白色	5YR5.6	古地	破片	
130	98	134	2.清	181	1.頭	小帽	-	(2.0)	-	3.0	小頭	白色	5YR5.6	古地	破片	
131	99	137	2.清	1351	1.頭	越	-	(1.6)	-	4.1	明赤	白色	5YR5.3	古地	破片	
132	100	138	2.清	1117	1.頭	越	-	(1.3)	-	4.5	小頭	白色	5YR4.6	107BG.2	古地	破片
133	101	95	2.清	-	1.頭	越	-	5.6	(2.3)	小頭	白色	白色	5YR4.6	古地	破片	
134	102	53	2.清	1051	1.頭	費(S711)	-	(4.5)	-	自	白色	白色	5YR5.6	古地	破片	
135	103	59	2.清	698	1.頭	費(S711)	(13.4)	(2.5)	相	白色	白色	5YR5.6	古地	破片		
136	104	61	2.清	199	1.頭	費(S711)	15.0	(2.9)	相	白色	白色	107BG.2	古地	破片		
137	105	54	2.清	1350	1.頭	費(S711)	(14.8)	(2.9)	相	白色	白色	5YR5.6	古地	破片		
138	106	87	2.清	-	1.頭	費(S711)	(15.8)	(2.5)	相	自	白色	白色	5YR5.6	古地	破片	
139	107	58	2.清	1254	1.頭	費(S711)	(17.7)	(2.0)	相	白色	白色	5YR5.6	古地	破片		
140	108	89	2.清	-	1.頭	費(S711)	(12.8)	(1.9)	明赤	白色	白色	5YR5.6	古地	破片		
141	109	88	2.清	-	1.頭	費(S711)	(18.2)	(2.0)	-	明赤	白色	白色	5YR5.6	古地	破片	

番号	学名	備考	分布	計測 (cm)			色調	被毛	備考	計測 (cm)			色調	被毛	備考
				口径	高さ	範囲				内	外	内			
142. 110	287. 2. 游	40	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
143. 111	180. 2. 游	1494	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
144. 112	259. 2. 游	589	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
145. 113	258. 2. 游	514	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
146. 114	103. 2. 游	589	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
147. 115	98. 2. 游	105	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
148. 116	184. 2. 游	1120	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
149. 117	243. 2. 游	281	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
150. 118	283. 2. 游	599	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
151. 119	257. 2. 游	-	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
152. 120	125. 2. 游	649	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
153. 121	122. 2. 游	995	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
154. 122	127. 2. 游	-	上顎	黒	(5.1)	-	白	白色粒子、石斑、良	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
155. 123	47. 2. 游	613	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
156. 124	34. 2. 游	1022	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
157. 125	42. 2. 游	111	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
158. 126	38. 2. 游	992	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
159. 127	52. 2. 游	1159	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
160. 128	40. 2. 游	1413	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
161. 129	50. 2. 游	1234	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
162. 130	222. 2. 游	513	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
163. 131	60. 2. 游	1554	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
164. 132	74. 2. 游	707	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
165. 133	82. 2. 游	1056	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
166. 134	84. 2. 游	-	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
167. 135	39. 2. 游	610	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
168. 136	36. 2. 游	1211	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	
169. 137	230. 2. 游	237	上顎	白	(5.1)	-	白	白色粒子、金剛鳥	内:ナガ、ナラ	内:ナガ、ナラ	外:ナガ、ナラ	2.5YR6/6	古墳	鏡片	

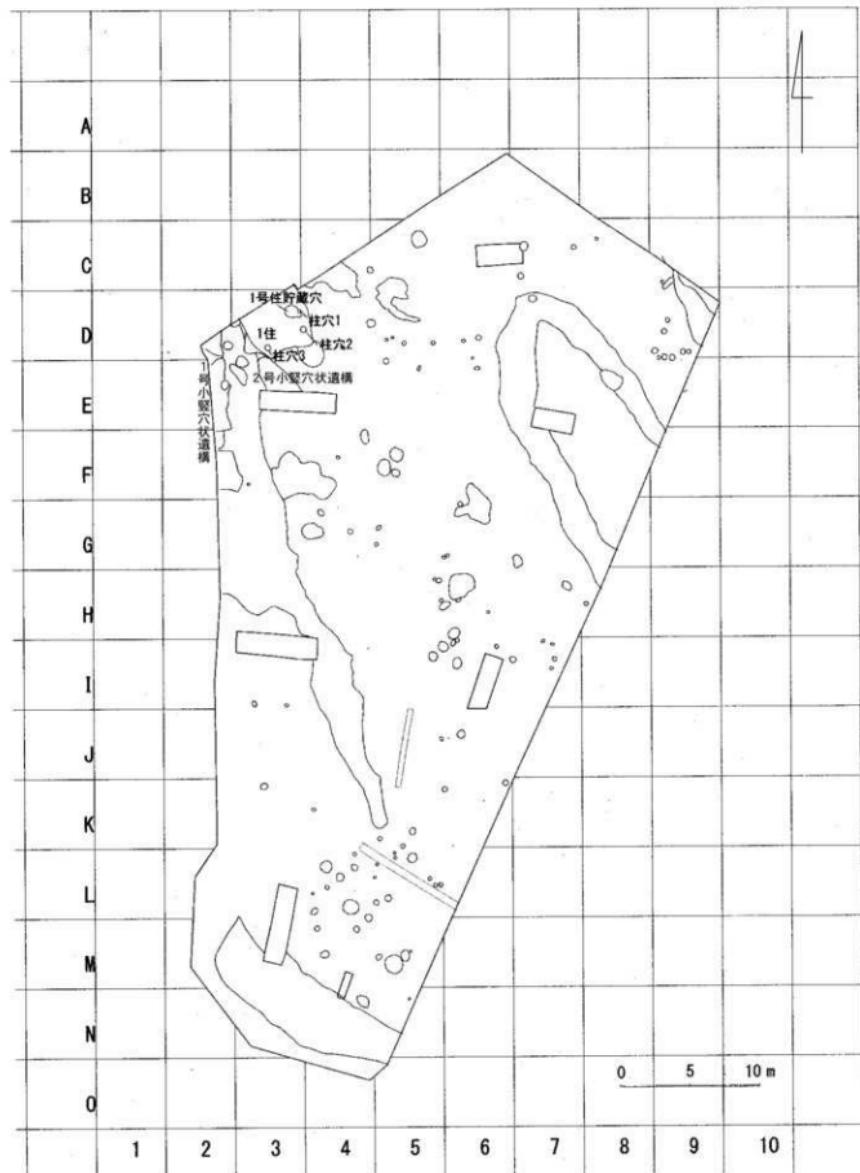
番号	学名	備考	分布	計量 (cm)		色調	標考	色調	分布	現存率	
				口径	高さ						
170	138	83	2.清	一括	上端	平行葉	白色粒子、全凹鏡	白色粒子、ナデ	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY834	外
171	139	48	2.清	1316	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ナデ、外:ナデ	SY844	内
172	140	49	2.清	1116	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
173	141	220	2.清	629	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
174	142	68	2.清	177	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY853	外
175	143	105	2.清	178	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY854	外
176	144	234	2.清	281	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
177	145	115	2.清	524	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY854	外
178	146	217	2.清	571*	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY856	外
179	147	109	2.清	1178	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY854	外
180	148	232	2.清	1583	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
181	149	235	2.清	1485	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY848	外
182	150	126	2.清	—	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY853	外
183	151	123	2.清	1031	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY853	外
184	152	120	2.清	38	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
185	153	178	2.清	1058	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
186	154	175	2.清	978	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY848	外
187	155	263	2.清	264	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
188	156	171	2.清	630	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
189	157	264	2.清	288	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
190	158	265	2.清	277	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY856	外
191	159	177	2.清	947	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
192	160	173	2.清	811	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外
193	161	268	2.清	808	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY848	外
194	162	267	2.清	280	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY856	外
195	163	269	2.清	55	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY848	外
196	164	266	2.清	503	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY858	外
197	165	174	2.清	186	上端	平行葉	自・端・赤色粒子 金凹鏡	自・端・赤色粒子 金凹鏡	内:ヨコナ・ナデ、外:ヨコナ・ナデ	SY846	外

番号	学名	備考	分布	計量 (cm)		色調	断土	根莖 (%)	備考	観察		交配	保存状
				口径	高さ					外	内		
158 166	176 2 浅 6000 上部	花被	日本	(2.3)	-	白色花子、石英	直	(8%)	(内)コロナ少、子房、外:タチウツ(不育)	7.5YR5/6	古墳	鏡片	
159 167	172 2 浅 980 上部	花被	-	(2.8)	-	自・白花子、金	直	(8%)	(内)ナラ、ナラ、スケル	2.5YR4/6	古墳	鏡片	
200 168	271 2 浅 27, 47 上部	花被	-	(1.35)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	(内)ナラ	7.5YR6/6	古墳	鏡片	
201 169	270 2 浅 217 上部	花被	-	(0.6)	(13.0)	白色花子、石英	直	(ナラ)	(内)コロナナラ少、子房、ナラ少	3YR4/6	古墳	鏡片	
202 170	37 2 浅 1189 上部	花被	-	(4.3)	(4.0)	白色花子、石英	直	(ナラ)	(内)ナラ少、ナラ少	2.5YR5/4	古墳	鏡片	
203 171	165 2 浅 1265 上部	花被	-	(0.6)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:スズナナラ、ヘラクルス少、ナナカマド少	2.5YR4/4	古墳	鏡片	
204 172	261 2 浅 68 上部	花被	-	(0.8)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR5/6	古墳	鏡片	
205 173	170 2 浅 1101 上部	花被	-	(0.6)	8.0	白色花子、金	直	(ナラ)	(内)ナラ少、ナラ少、子房少	3YR4/8	古墳	鏡片	
206 174	167 2 浅 1348 上部	花被	-	(5.3)	9.0	白色花子、金	直	(ナラ)	内:スズナナラ、ヘラクルス少、ナナカマド少	2.5YR4/6	古墳	鏡片	
207 175	166 2 浅 1015, 1432, 1603 上部	花被	-	(5.3)	8.4	白色花子、金	直	(ナラ)	内:ヘラクルス、ヘラクルス少、ナナカマド少	3YR4/8	古墳	鏡片	
208 176	260 2 浅 1548 上部	花被	-	(5.7)	(0.7)	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	2.5YR4/6	古墳	鏡片	
209 177	262 2 浅 282 上部	花被	-	(5.0)	(8.05)	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:スズナナラ少、ヘラクルス少、ナラ少	2.5YR5/2	古墳	鏡片	
210 178	169 2 浅 980 上部	花被	-	(5.4)	10.0	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR4/8	古墳	鏡片	
211 179	183 2 浅 174 上部	花被	-	(4.4)	10.2	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:スズナナラ少、ヘラクルス少、ナナカマド少	10.7R6/4	古墳	鏡片	
212 180	187 2 浅 一括 上部	花被	-	(3.2)	5.8	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR4/8	古墳	鏡片	
213 181	181 2 浅 807, 1317 上部	花被	-	(4.6)	(7.4)	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	7.5YR5/5,	古墳	鏡片	
214 182	221 2 浅 230 上部	花被	-	(2.9)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	7.5YR	古墳	鏡片	
215 183	72 2 浅 154 上部	花被	-	(3.6)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR4/8	古墳	鏡片	
216 184	56 2 浅 185 上部	花被	-	(4.0)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR4/4	古墳	鏡片	
217 185	76 2 浅 1204 上部	花被	-	(3.2)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR5/8	古墳	鏡片	
218 186	96 2 浅 一括 上部	花被	-	(2.0)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR4/8	古墳	鏡片	
219 187	292 2 浅 1219 上部	花被	-	(3.8)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR4/8	古墳	鏡片	
220 188	246 2 浅 570 上部	花被	-	(4.0)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR5/4	古墳	鏡片	
221 189	121 2 浅 115 上部	花被	-	(4.1)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	7.5YR5/4	古墳	鏡片	
222 190	146 2 浅 709 上部	花被	-	(3.5)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR4/6	古墳	鏡片	
223 191	118 2 浅 691 上部	花被	-	(2.5)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	3YR4/6	古墳	鏡片	
224 192	124 2 浅 1442 上部	花被	-	(3.2)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	7.5YR3/4	古墳	鏡片	
225 193	248 2 浅 1510 上部	花被	-	(5.7)	-	白色花子、石英	直	(ナラ)	内:ナラ少、ナラ少、ナラ少	2.5YR4/4	古墳	鏡片	

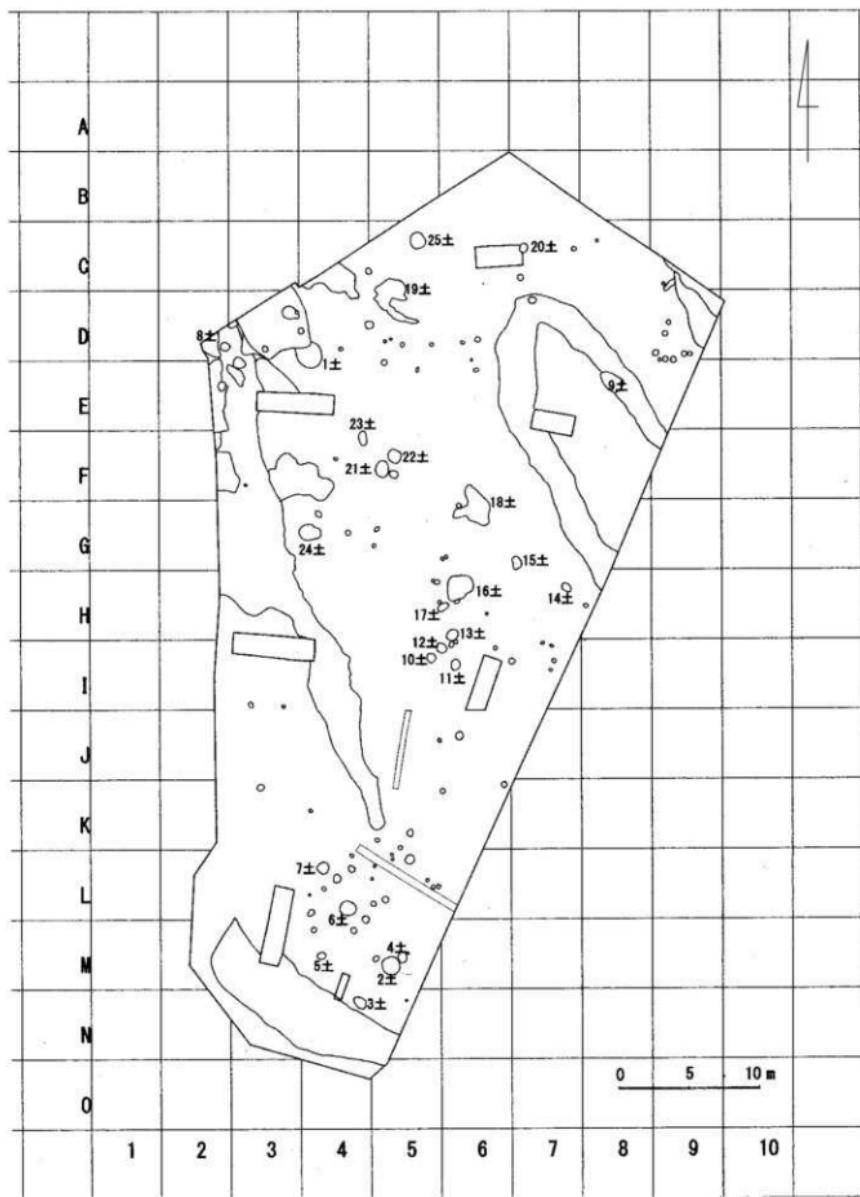
番号	学名	種別	分布地	植物	形質 (cm)			色調	備考	備考2	外	内	识别	保存率
					口径	高さ	紙径							
Z26 104	119 2 游	736	上園	竹叶型	-	(3.3)	-	白色系、石斑、	内:白20%外:ナナメスジ	2.5YR3/2	古墳	鏡片		
Z27 105	245 2 游	1501	上園	竹叶型	-	(3.75)	-	白色系、石斑、	内:白20%外:ナナメスジ	7.5YR3/4	古墳	鏡片		
Z28 106	249 2 游	32	上園	竹叶型	-	(4.1)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ナナメスジ	7.5YR3/3	古墳	鏡片		
Z29 107	210 2 游	-1話	上園	圓	-	(4.0)	-	白色系、石斑、	ナメ、羽状葉文 留文	5YR3/5	古墳	鏡片	羽状葉文	
Z30 108	152 2 游	335	上園	圓	-	(1.9)	8.0	白色系、石斑、	内:ヨコサカ、外:ヨコサカスジ	5YR4/8	古墳	鏡片		
Z31 109	150 2 游	941	上園	圓	-	(1.7)	7.6	白色系、石斑、	内:ナメ、ナナメスジ	5YR5/8	古墳	鏡片		
Z32 200	80 2 游	718, 719	上園	圓	(19.8)	(4.45)	-	白色系、石斑、	横縞にヨリ外:外モ調節可	反面	平安	鏡片		
Z33 201	51 2 游	1654	上園	扁平	(1.3)	(3.0)	-	白色系、石斑、	内:ナナメスジ、外:ヨコサカ	反面	古墳	鏡片		
Z34 202	92 2 游	-1話	上園	扁平	(19.8)	(3.45)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ヨコサカ	反面	古墳	鏡片		
Z35 203	91 2 游	-1話	上園	扁平	(10.8)	(2.5)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ヨコサカ	反面	古墳	鏡片		
Z36 204	194 2 游	547	上園	扁平	-	(4.4)	-	白色系、石斑、	横縞にヨリ外:外モ調節可	反面	古墳	鏡片		
Z37 205	207 2 游	668	上園	扁平	-	(3.4)	-	白色系、石斑、	内:ナナメスジ、外:ヨコサカ	反面	古墳	鏡片		
Z38 206	188 2 游	1361	上園	扁平	-	(8.9)	-	白色系、石斑、	ナメ	5YR6/6	古墳	鏡片		
Z39 207	252 2 游	1179	上園	扁平	-	(5.3)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ナナメスジ	5YR4/6	古墳	鏡片		
Z40 208	189 2 游	949	上園	扁平	-	(3.5)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ナナメスジ	5YR5/6	古墳	鏡片		
Z41 209	190 2 游	1220	上園	扁平	-	(3.9)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ナナメスジ	2.5YR4/8	古墳	鏡片		
Z42 210	191 2 游	733	上園	扁平	-	(3.6)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ナナメスジ	5YR5/6	古墳	鏡片		
Z43 211	253 2 游	260	上園	扁平	-	(3.0)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ナナメスジ	5YR4/6	古墳	鏡片		
Z44 212	254 2 游	260	上園	扁平	-	(2.9)	-	白色系、石斑、	横縞にヨリ外:外調節可	一面反面	古墳	鏡片		
Z45 213	255 2 游	484	上園	扁平	-	(2.3)	-	白色系、石斑、	ナメ、ミガキ	2.5YR4/8	古墳	鏡片		
Z46 214	185 2 游	-1話	上園	扁平	-	(2.4)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ミガキ、ナメ、	5YR4/8	古墳	鏡片		
Z47 215	199 2 游	1737	上園	扁平	-	(3.7)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ミガキ、ナメ、	7.5YR5/6	古墳	鏡片		
Z48 216	201 2 游	-1話	上園	扁平	-	(3.6)	-	白色系、石斑、	内:ナメ、ミガキ	7.5YR6/6	古墳	鏡片		
Z49 217	203 2 游	776	上園	扁平	-	(4.2)	-	白色系、石斑、	ナメ、ミガキ、ナメ、	2.5YR3/6	古墳	鏡片		
Z50 218	251 2 游	507, 1591	上園	扁平	-	(5.0)	10.6	白色系、石斑、	内:ナメ、ヨコサカ	5YR4/8	古墳	鏡片		
Z51 219	182 2 游	967	上園	扁平	-	(3.4)	8.8	白色系、石斑、	内:ナメ、ヨコサカ	5YR6/6	古墳	鏡片		
Z52 220	197 2 游	175	上園	扁平	-	(4.4)	15.4	白色系、石斑、	内:ナメ、ヨコサカ	5YR5/6	古墳	鏡片		

番号	学名	種名	分布	標高	経度	計量 (cm)		色調	断土	根出率 (%)	備考	備考2		外 内	剥削率
						口径	高さ					内	外		
253 221	195 2 游	937	上層	高地	-	(3.7)	11.4	明赤褐	白色粒子、石塊	良	八寸、穿孔(3方切)	内:ナチュラル、外:ハサツ 及み	古墳	破片	
254 222	200 2 游	1188	上層	高地	-	(4.35)	(10.0)	稍	英・赤色粒子、石	良	ナギ、穿孔(3方切)	内:外ナチュラル(表面は少し剥離)、穿孔(2寸方切)	5%R5/8	古墳	
255 223	198 2 游	799	上層	高地	-	(4.2)	(15.0)	赤褐	白・赤色粒子、石	良	ナギ、穿孔(3方切)	内:外ナチュラル(表面は少し剥離)、穿孔(1寸方切)	7.5%R6/6	古墳	
256 224	196 2 游	195	上層	高地	-	(3.9)	10.8	明赤褐	白色粒子、石塊	良	ナギ、穿孔(3方切)	内:ヨコナメ、外:サガラ、穿孔(1寸方切)	2.5%Y4/6	古墳	
257 225	185 2 游	-	上層	高地	-	(3.3)	11.8	明赤褐	白色粒子、石	良	ナギナ	内: 廃面無し、外:明赤褐	5%R5/6	古墳	
258 226	256 2 游	43	上層	高地	-	(2.3)	-	赤褐	黑・白色粒子、石	良	ナギナ、手取(4寸) ニニギユ	内:外ナチュラル、手取(4寸) ニニギユ	2.5%Y4/8	古墳	
259 227	65 2 游	1077	上層	高地	-	(8.4)	(1.9)	稍	黑・白色粒子、石	良	ナギナ	内:外:ヨコナメ 及み	7.5%R6/6	古墳	
260 228	192 2 游	1454	上層	高地	-	(2.2)	-	明赤褐	白色粒子、石塊	良	ナギナ、穿孔(3方切)	内:ヨコナメ、手取(4寸) 及み	2.5%Y5/8	古墳	
261 229	77 2 游	1751	上層	坪	-	(5.0)	(2.8)	稍	白・白色粒子、石	良	ナギナ	内:外:ヨコナメ 及み	7.5%R6/6	古墳	
262 230	229 2 游	699	上層	坪	-	(10.4)	(2.6)	稍	白・白色粒子、石	良	ナギナ、ナギ	内:ヨコナメ、外:ナギナ	7.5%Y7/6	古墳	
263 231	211 2 游	202	上層	坪	-	(2.2)	4.2	稍	白・白色粒子、石	良	ナギナ、系印(2寸)	内:ナチュラル、底:系印(2寸)	7.5%R6/6	古墳	
264 232	227 2 游	218	上層	坪	-	(2.4)	-	明赤褐	黑色粒子、石塊	良	ナギナ、ナギナ、ナギ	内:ヨコナメ、手取(4寸) 及み	2.5%Y5/6	古墳	
265 233	226 2 游	1725	上層	坪	-	(10.2)	(3.0)	稍	金銀色粒子、石塊	良	ナギナ	内:ナチュラル、外:ナギナ 及み	5%R4/6	古墳	
266 234	206 2 游	283	上層	坪	-	(5.25)	3.6	赤褐	白色粒子、石塊	良	ナギナ、ナギ	内:ナギナ、底:ナギナ	5%Y4/8	古墳	
267 235	129 2 游	224	上層	坪	(10.0)	4.9	-	白・黑色粒子、石塊	金銀色粒子、石塊	良	ナギナ、ナギ、小形 スカラベナメ	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	2.5%Y4/6	古墳	
268 236	225 2 游	62	上層	坪	15.0	(4.4)	-	不純 白色	白色粒子、石	良	ナギナ	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	5%Y5/4	古墳	
269 237	93 2 游	-	一括	上層	(9.0)	(3.45)	-	赤褐	白色粒子、石	良	ナギナ	内:外:ヨコナメ 及み	5%Y4/6	古墳	
270 238	86 2 游	-	一括	上層	(11.85)	(4.0)	-	赤褐	白色粒子、石	良	ナギナ	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	2.5%Y4/6	古墳	
271 239	133 2 游	1383	上層	坪	(2.0)	4.2	小塊	白色粒子、金銀色 粒子	白色粒子、金銀色 粒子	良	ナギナ 及み	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	4.5	古墳	
272 240	161 2 游	-	一括	上層	-	(5.0)	小塊	白色粒子、石塊	白色粒子、石塊	良	ナギナ、ミナギナ、ナギ 及み	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	2.5%Y4/6	古墳	
273 241	284 2 游	1609	上層	坪	(3.35)	(5.4)	小塊	に点 白色	白色粒子、石塊	良	ナギナ、ナギ 及み	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	2.5%Y4/8	古墳	
274 242	272 2 游	1605	上層	坪	(1.35)	5.5	小塊	白色粒子、石塊	白色粒子、石塊	良	ナギナ、ナギ 及み	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	2.5%Y4/6	古墳	
275 243	166 2 游	1360	上層	基	5.4	(6.0)	-	小塊 黑	白色粒子、石塊	良	ナギナ、ナギ 及み	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	2.5%Y4/6	古墳	
276 244	204 2 游	1145	上層	基	-	(1.0)	小塊	白色粒子、石塊	白色粒子、石塊	良	ナギナ、ミナギナ、ナギ 及み	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	3%Y4/6	古墳	
277 245	203 2 游	1110	上層	基	-	(3.7)	(4.0)	小塊	白色粒子、石塊	良	ナギナ	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	3%Y4/6	古墳	
278 246	205 2 游	621	上層	基	-	(3.05)	3.2	小塊	白色粒子、石塊	良	ナギナ	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	3%Y4/8	古墳	
279 1	214 2 游	471	上層	基	-	(8.1)	小塊	白色 石塊	白色 石塊	良	ナギナ	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	3%Y4/6	古墳	
280 2	213 2 游	264	上層	基	(3.2)	-	小塊	白色 石塊	白色 石塊	良	ナギナ	内:ヨコナメ、外:ナギナ 及み	3%Y4/8	古墳	

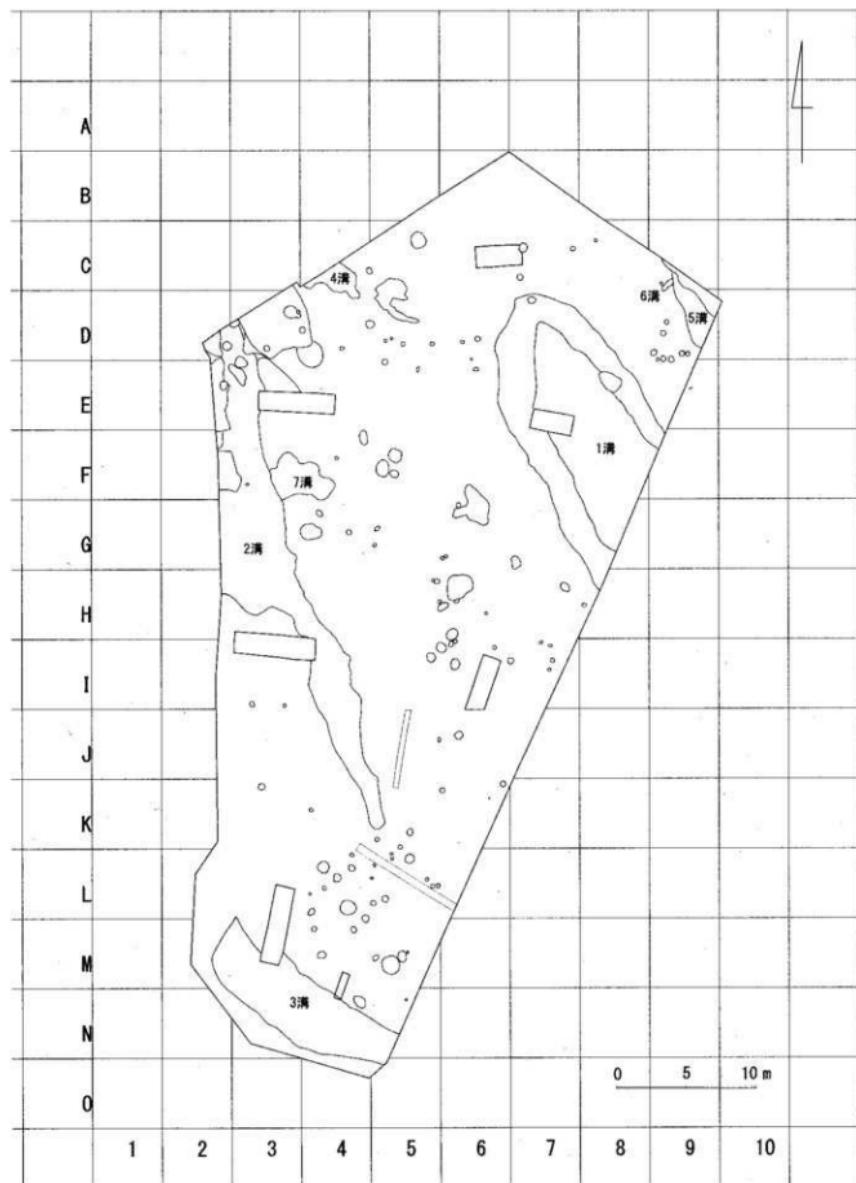
番号	表面	番号	表面	寸法 (cm)	口径	高さ	底面	色調		断土	断面	備考		参考		色調?	外	内	表面
								口径	高さ			口径	高さ	外	内				
281	3	223	2.清	385	1.圓	11.2	(2.7)	-	周	白・黑色粒子・金	直	ハサ・削尖	内・外コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	7.5YR4/6	古墳	鏡片			
282	4	216	2.清	406(1067)	1.圓	4.4	(3.6)	-	周	白・黑色粒子・石焼	直	内・外コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	SYR5/6	古墳	鏡片				
283	5	215	2.清	209	1.圓	14.7	5.8	周	白・黑色粒子・石焼	直	ハサケズノ、ナデ	内・外コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	7.5YR4/6	古墳	鏡片				
284	6	212	2.清	387	1.圓	13.6	(6.4)	-	周	白・黑色粒子・金	直	ハサケズノ、ナデ	内・外コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	SYR5/6	平安	鏡片			
285	1	250	感8%	380	1.圓	13.3	-	周	白・黑色粒子・石	直	棒状印文	内・外コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	SYR5/6	古墳	鏡片				
286	2	154	1.4	-	1.清	8.8	8.8	小地	白・黑色粒子・金	直	ハサ・ミガキ	内・外コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	SYR4/8	古墳	鏡片				
287	3	162	2.時	-	1.清	4.6	4.6	周	白色粒子・金	直	棒状印文	内・外コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	7.5YR4/4	古墳	鏡片				
288	4	289	1.4	-	1.清	13.0	(1.1)	周	黑色粒子・金	直	ナデ	内・外・コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	SYR5/6	古墳	鏡片				
289	5	94	1.4	-	1.清	19.6	(2.5)	-	小地	白・黑色粒子・金	直	ハサ・ナデ	内・外・コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	SYR4/6	古墳	鏡片			
290	6	179	2.時	-	1.清	14.9	-	周	白・黑色粒子・石	直	ナデ	内・外・コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	SYR5/6	古墳	鏡片				
291	7	85	1.4	-	1.清	21.4	(2.3)	-	周	白・黑色粒子・金	直	ナデ	内・外・コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	7.5YR5/4	古墳	鏡片			
292	8	257	2.7	-	1.清	13.0	-	小地	白・黑色粒子・石	直	棒状印文	内・外・コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	SYR4/4	古墳	鏡片				
293	9	290	1.4	-	1.清	14.0	-	周	白・黑色粒子・金	直	ハサ・ミガキ	内・外・コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	2.5YR4/6	古墳	鏡片				
294	10	208	2.時	-	1.清	12.7	(3.2)	周	白・黑色粒子・石	直	底部穿孔	内・外・コロナ(小鉤形)、口縁削尖、外:	SYR5/6	古墳	鏡片				



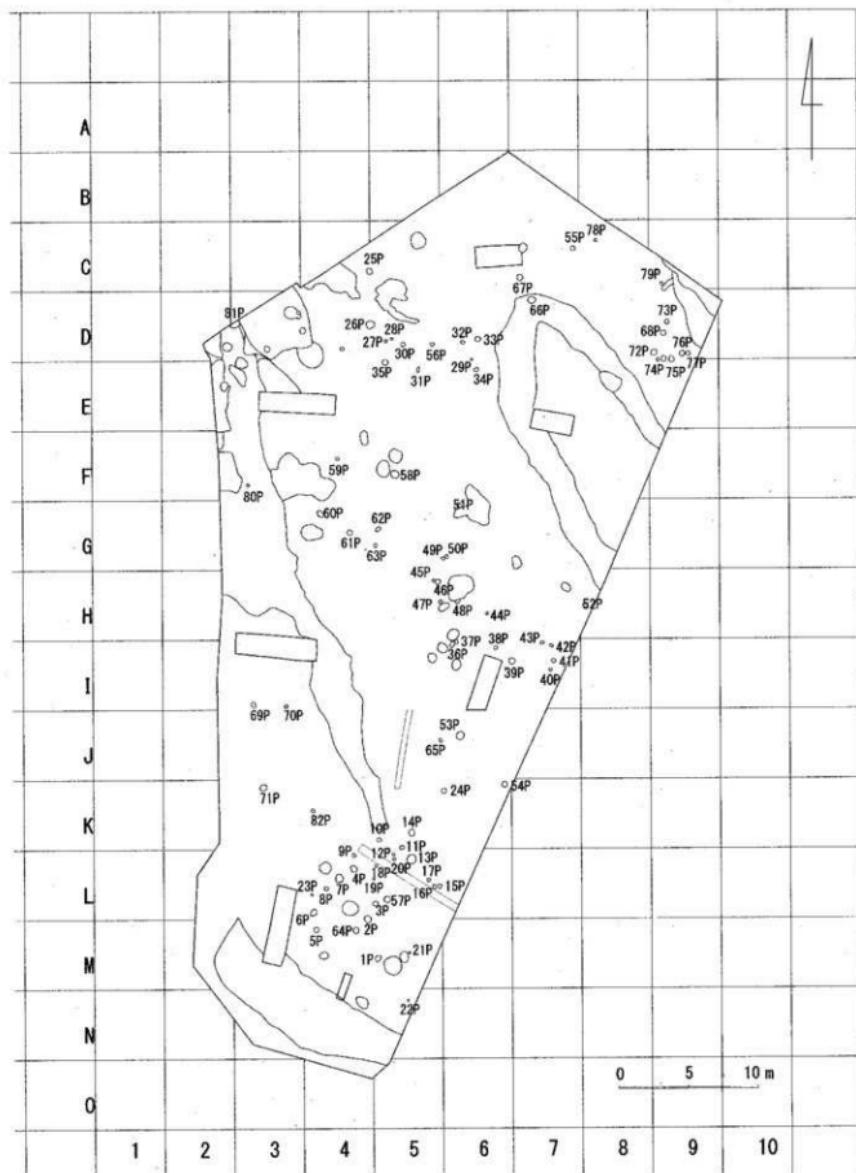
第167図 小堅穴遺構等配置図



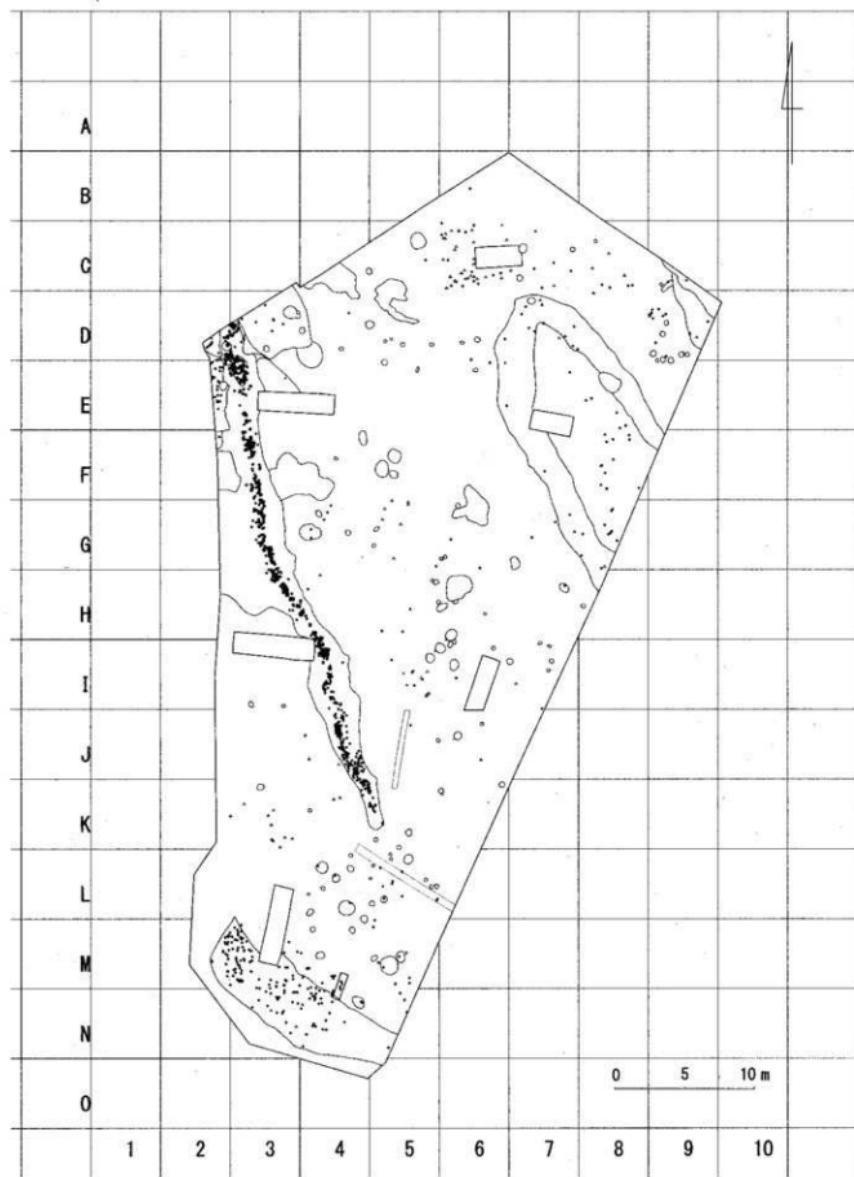
第168図 土坑配置図



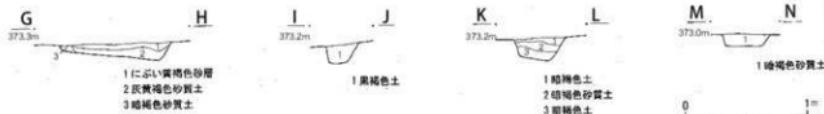
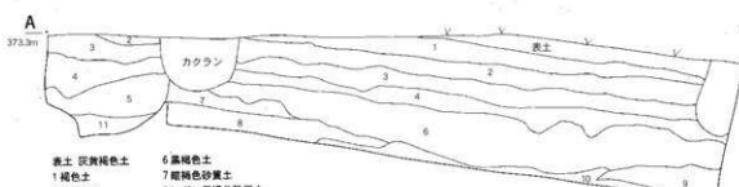
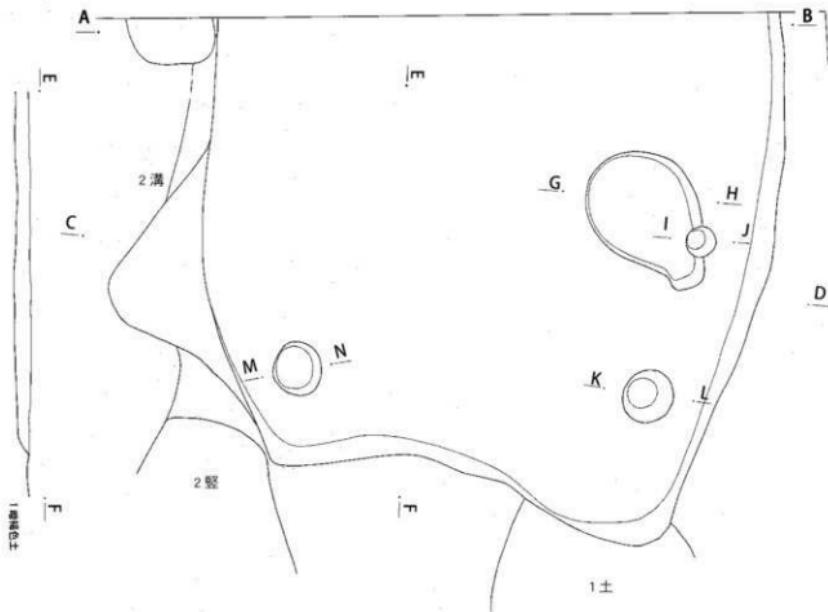
第169図 溝状遺構配置図



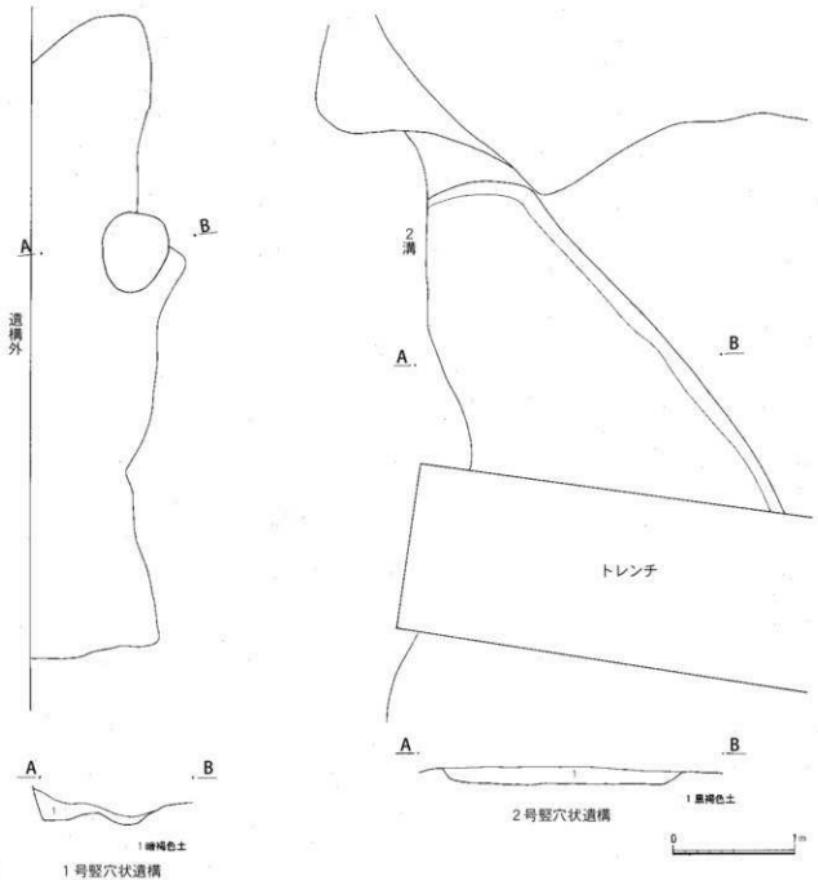
第170図 柱穴配置図



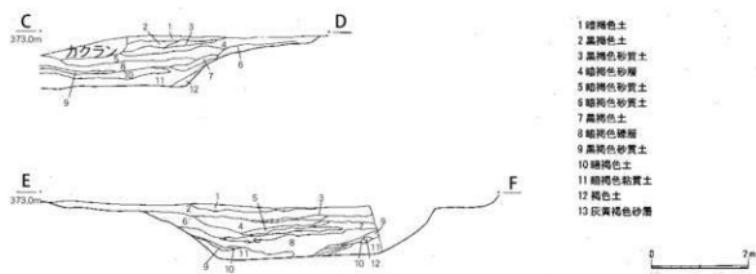
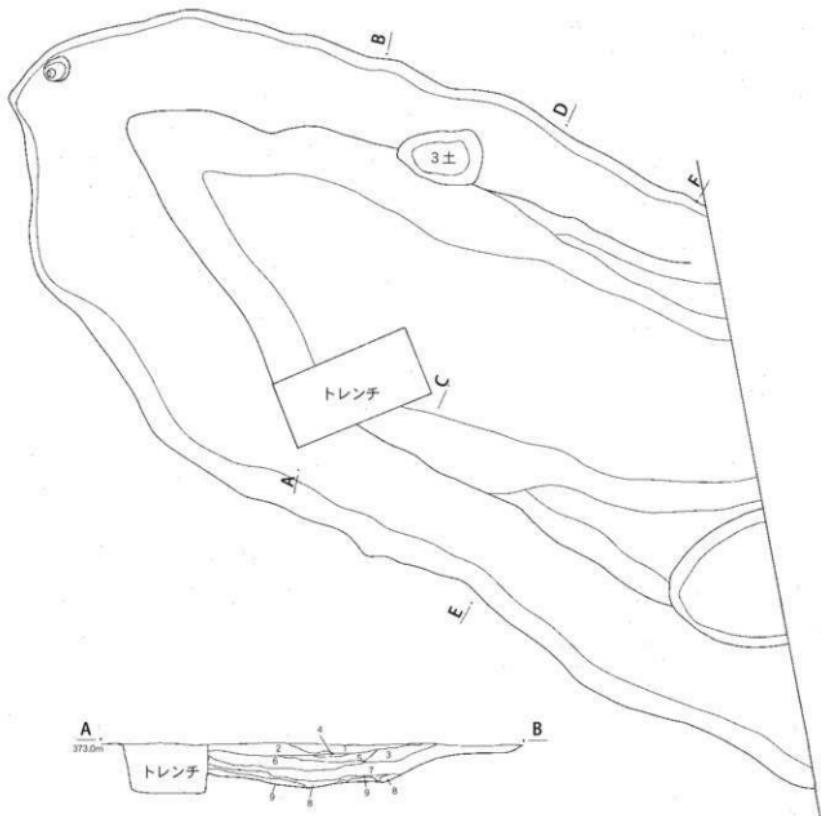
第171図 遺物出土位置図



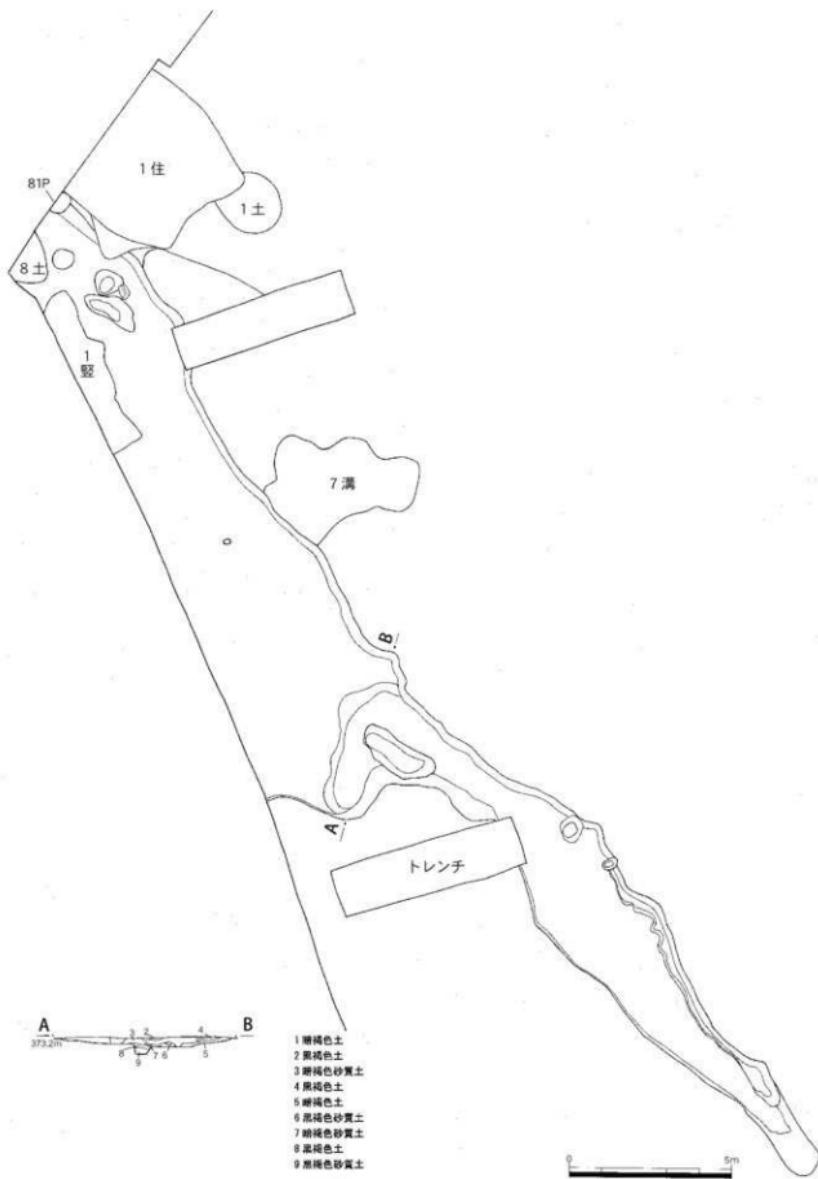
第172図 第1号竪穴住居跡



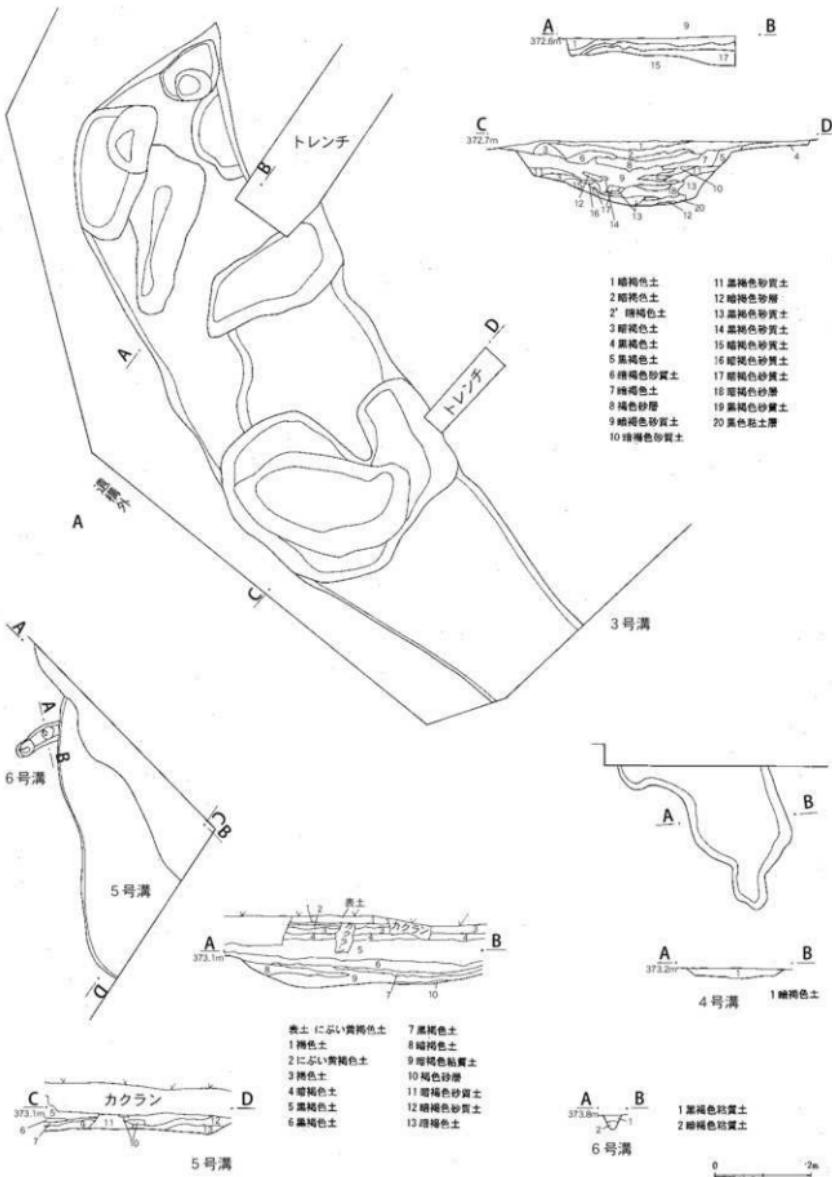
第173図 第2号竪穴状遺構



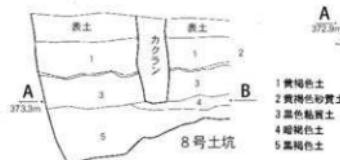
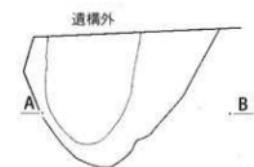
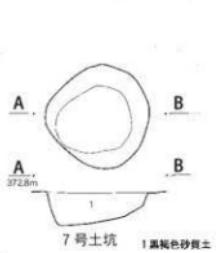
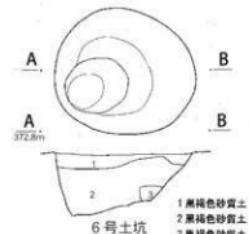
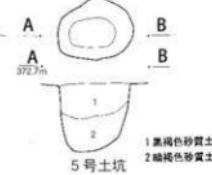
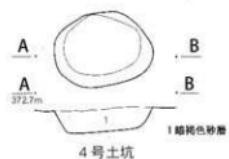
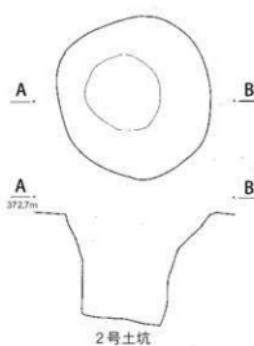
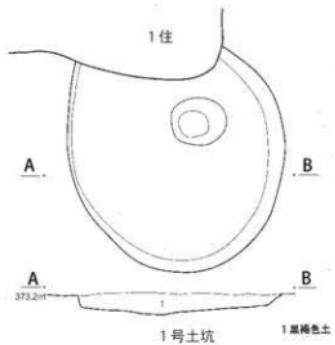
第174図 第1号 溝状遺構



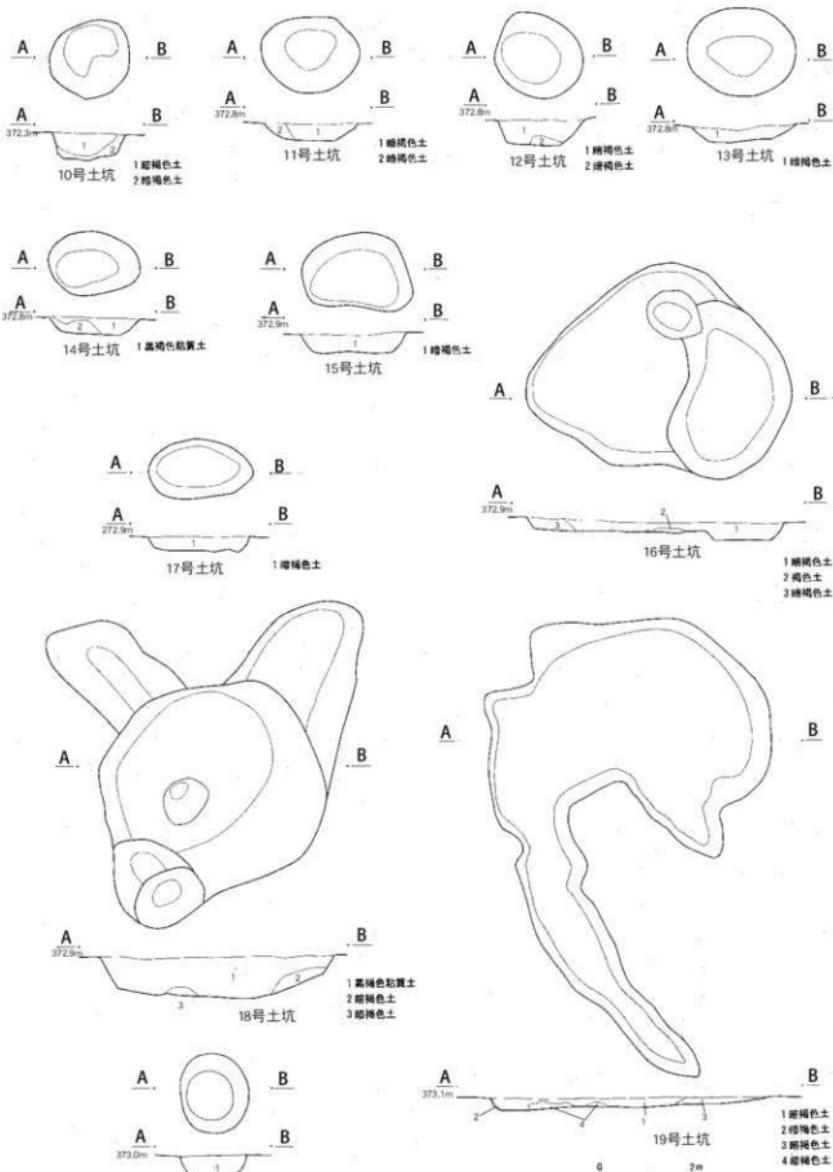
第175図 第2号 溝状遺構



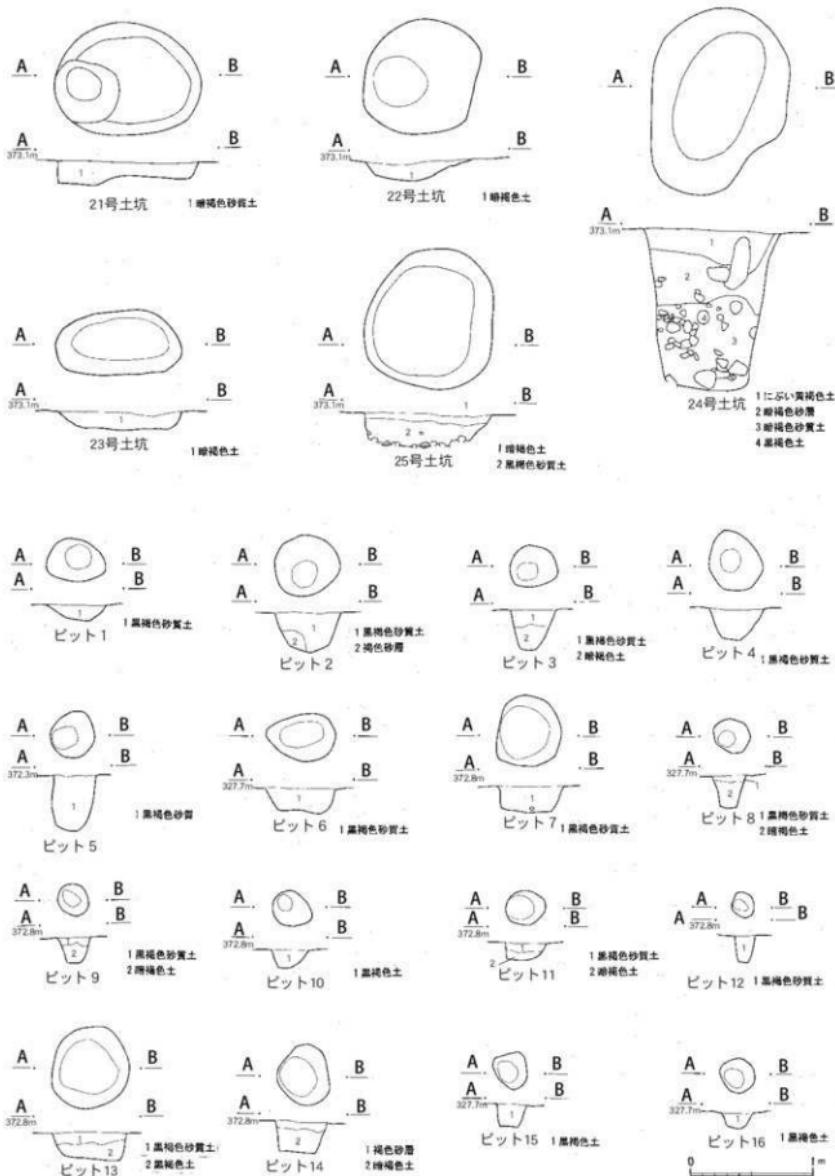
第176図 第3号～第6号 溝状構造



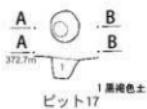
第177図 第7号溝状遺構・第1号～第9号土坑



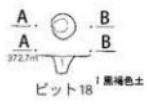
第178図 第10号～第19号土坑



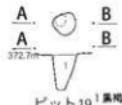
第179図 第21号～第25号土坑・第1号～第16号柱穴



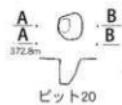
ピット17



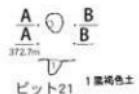
ピット18



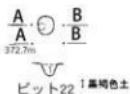
ピット19



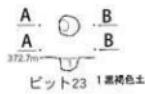
ピット20



ピット21



ピット22

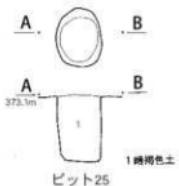


ピット23

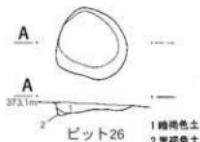


ピット24

2 黒褐色土



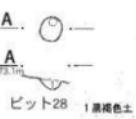
ピット25



ピット26



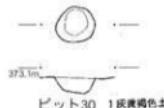
ピット27



ピット28



ピット29



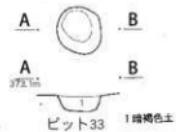
ピット30



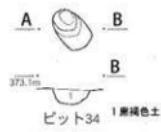
ピット31



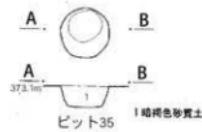
ピット32



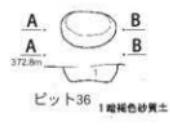
ピット33



ピット34

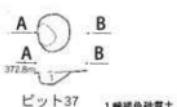


ピット35

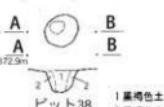


ピット36

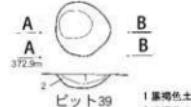
1 黑褐色砂質土



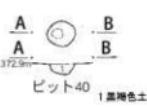
ピット37



ピット38



ピット39

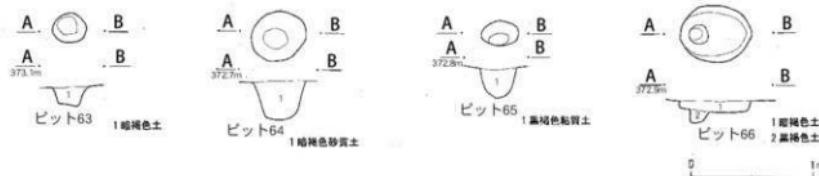
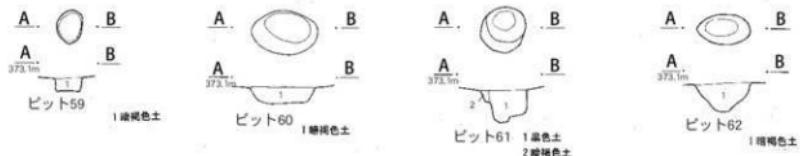
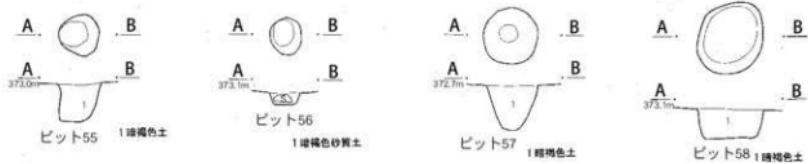
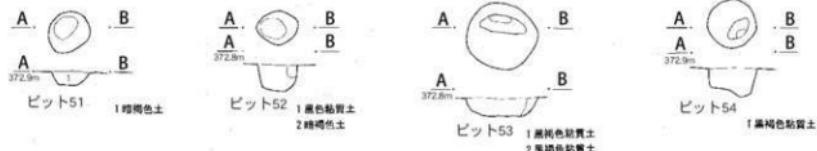


ピット40

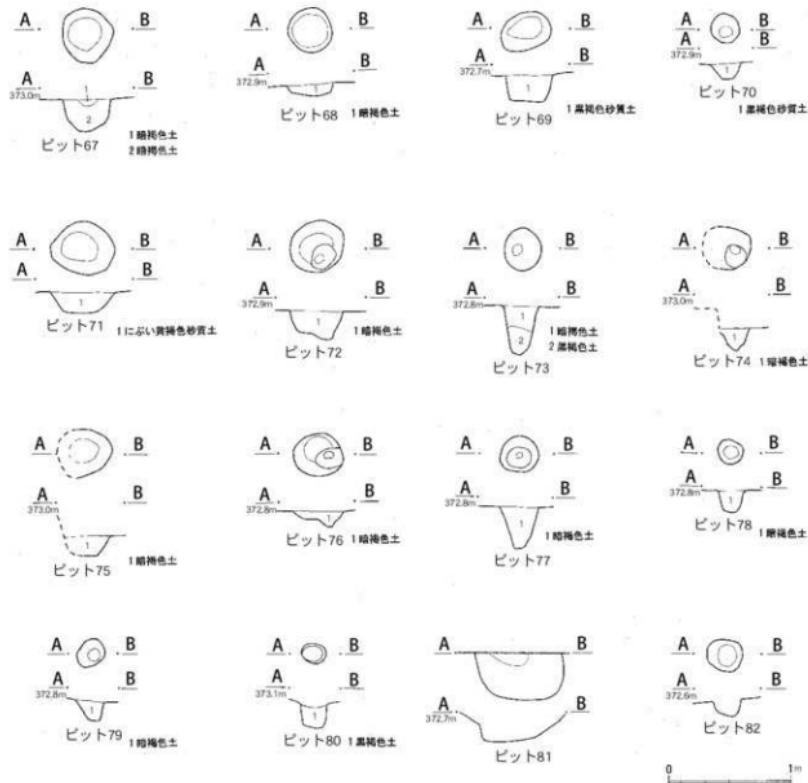
1 黑褐色土



第180図 第17号～第40号柱穴

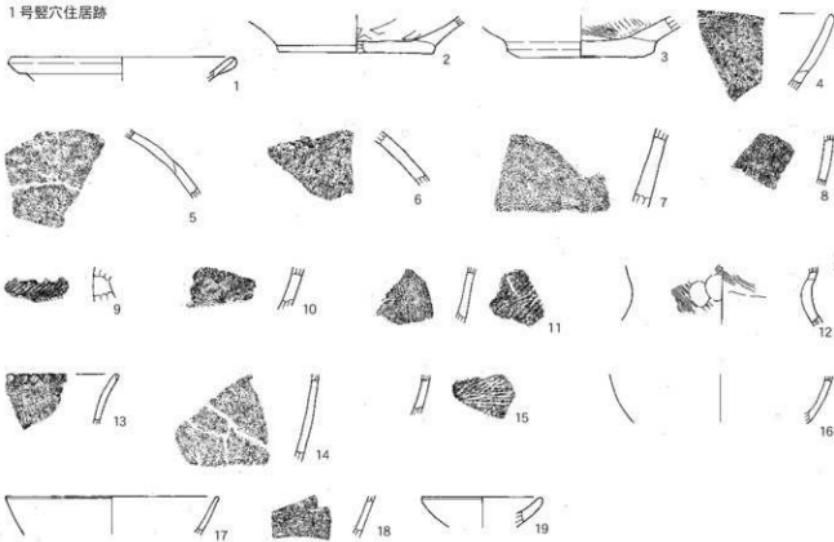


第181図 第41号～第66号柱穴



第182図 第67号～第82号柱穴

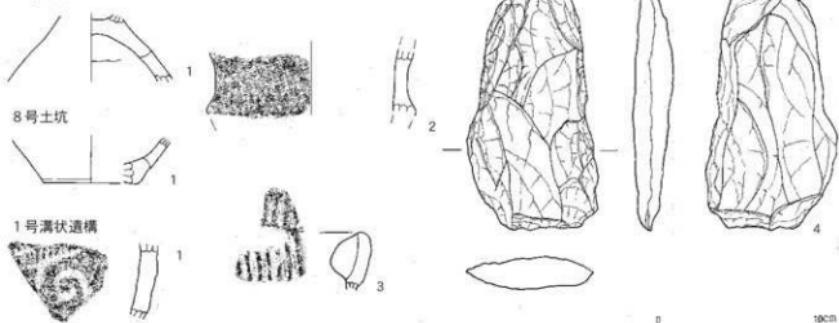
1号竪穴住居跡



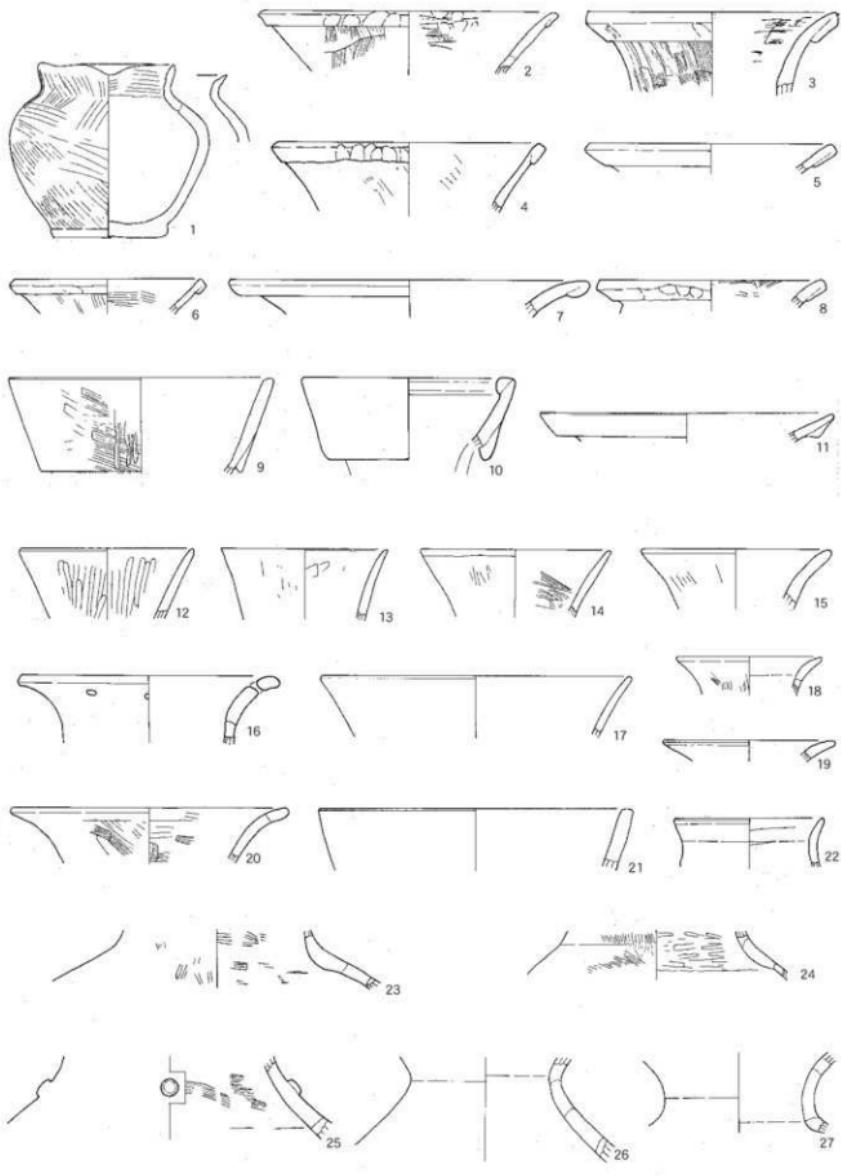
2号竪穴住居跡



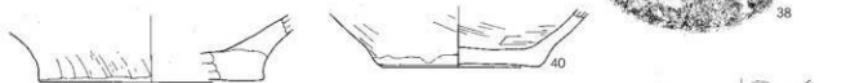
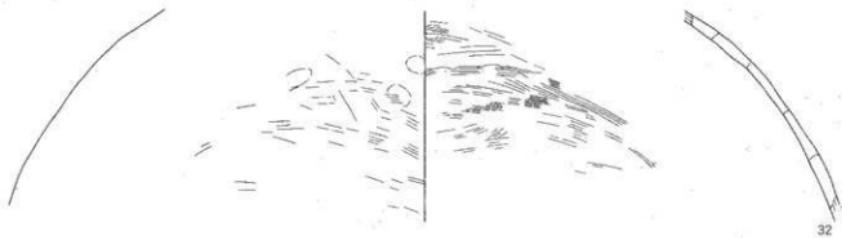
1号土坑



第183図 出土遺物 1 1号・2号竪穴住居跡・1号8号土坑・1号溝状遺構出土土器

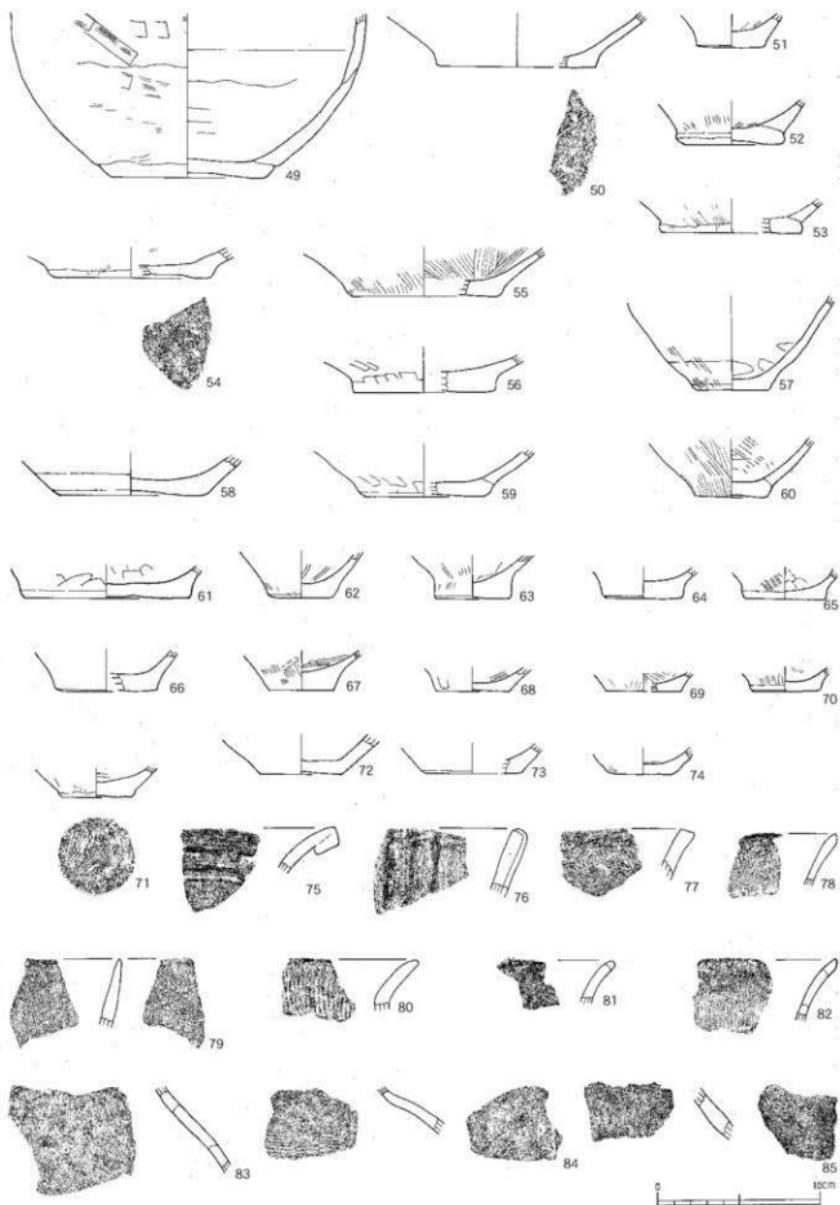


第184図 出土遺物2 2号溝状遺構出土土器(1)

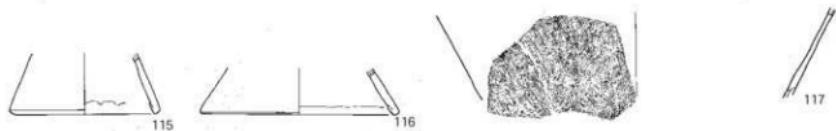
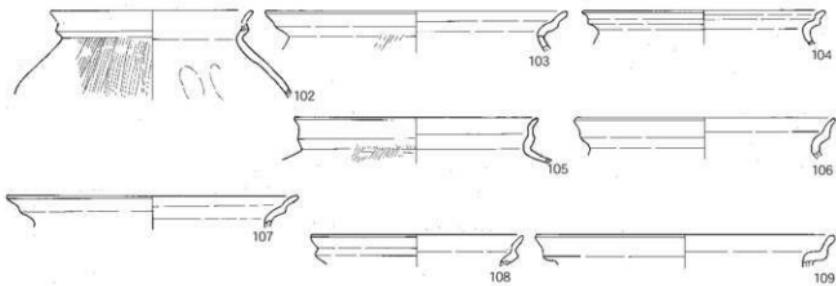
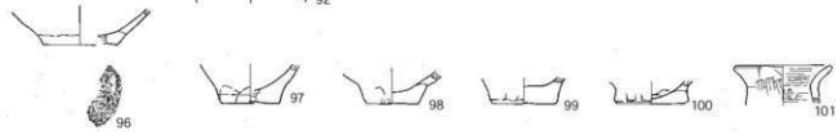
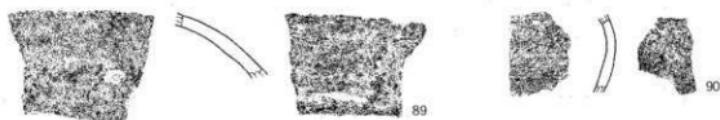


0 10cm

第185図 出土遺物3 2号溝状遺構出土土器(2)

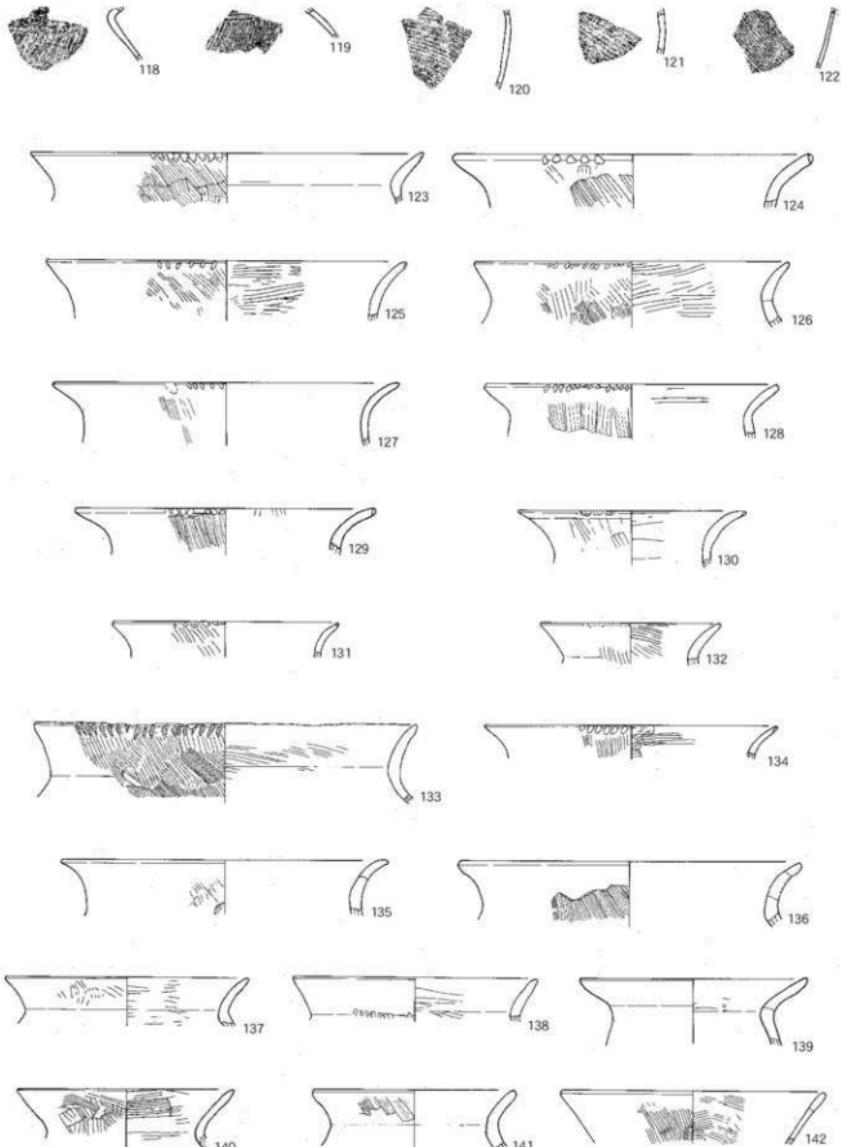


第186図 出土遺物4 2号溝状遺構出土土器(3)



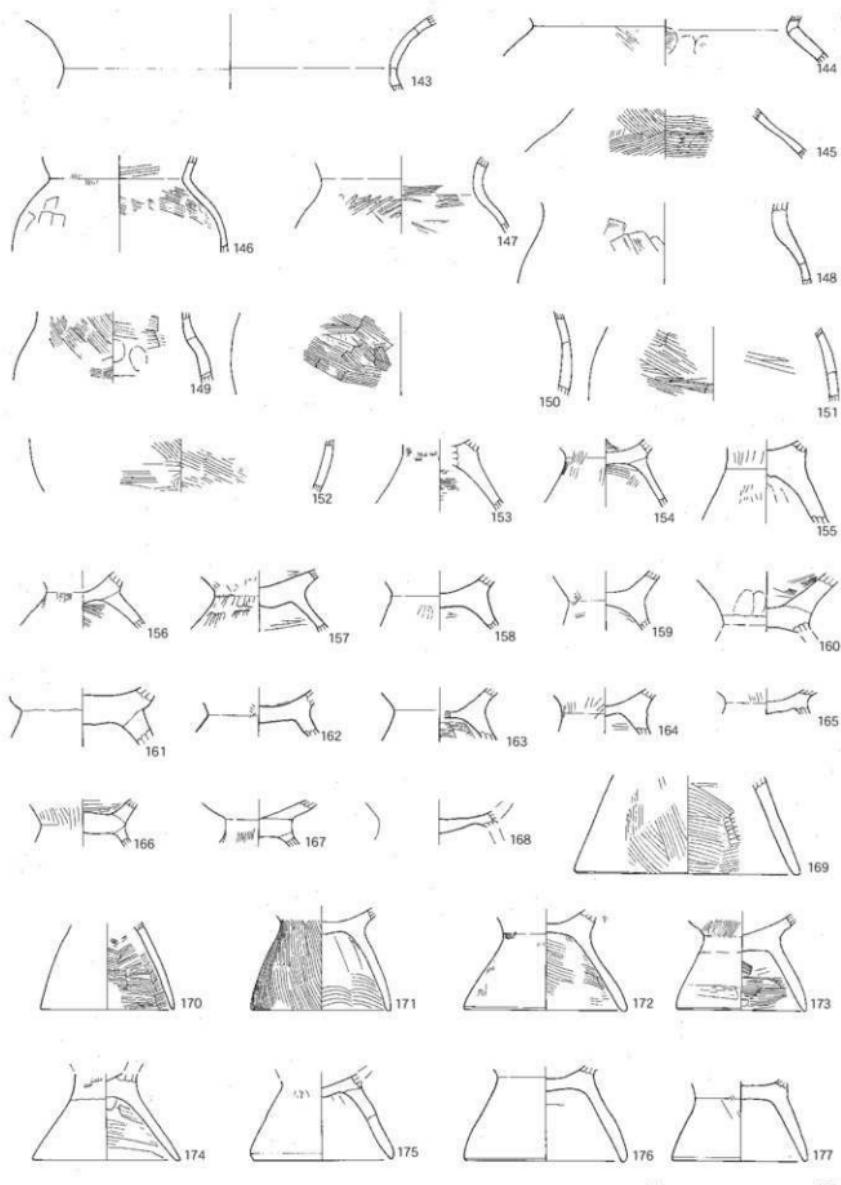
第187図 出土遺物5 2号溝状遺構出土土器(4)

0 10cm



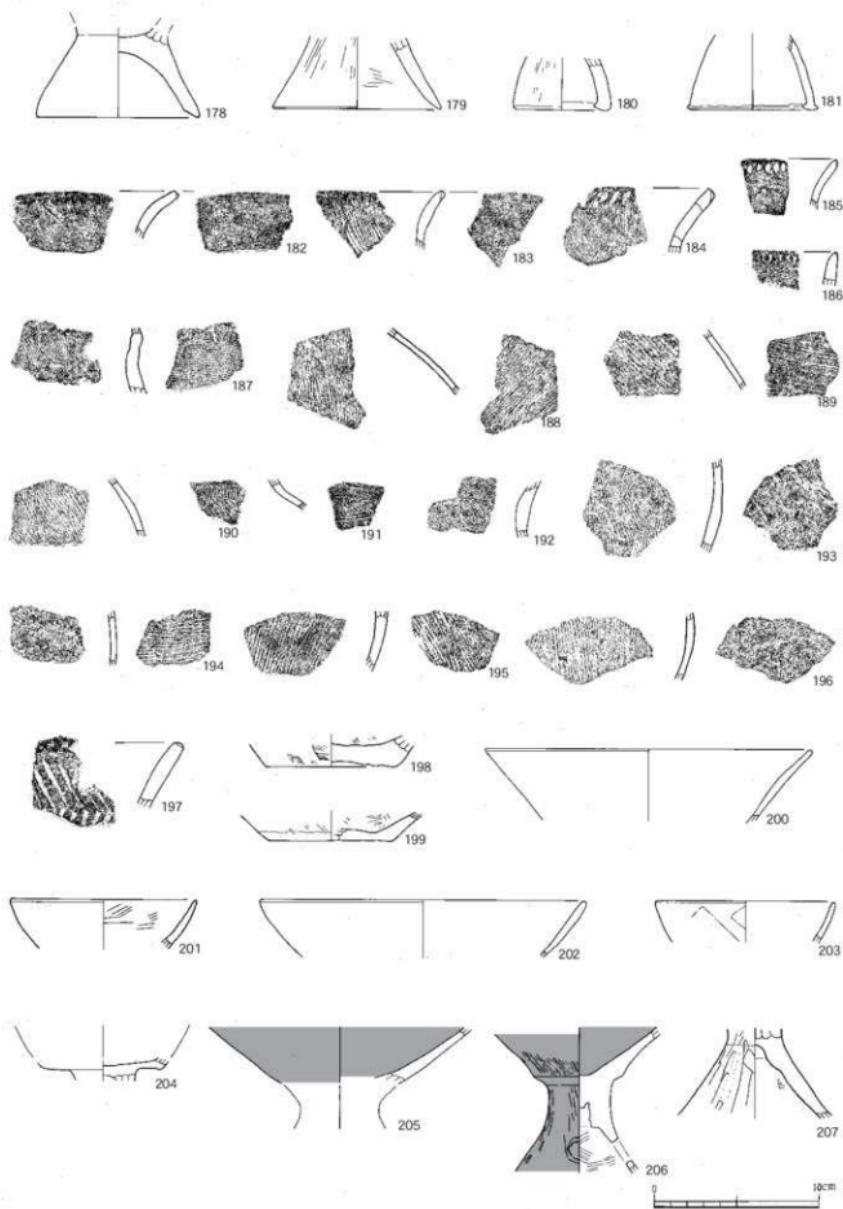
第188図 出土遺物 6 2号溝状遺構出土土器(5)



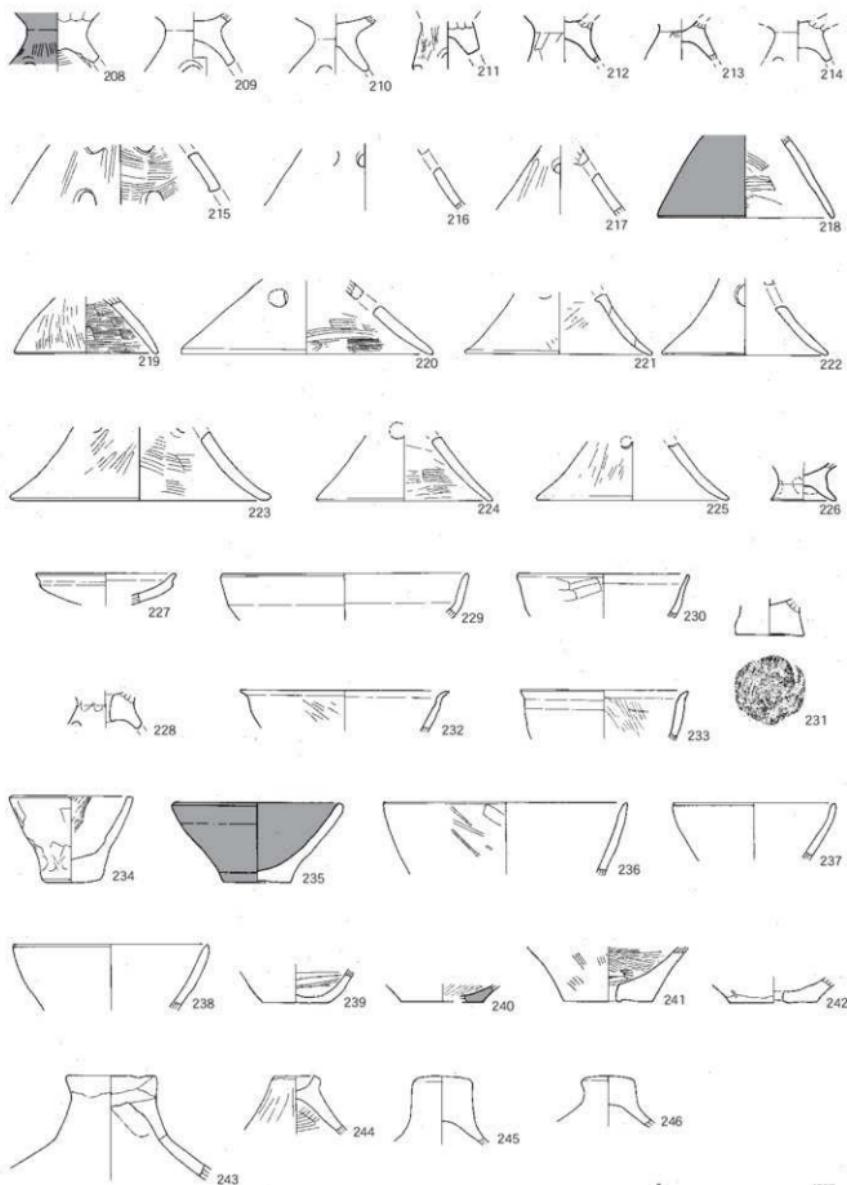


第189図 出土遺物7 2号溝状遺構出土土器(6)

0 10cm

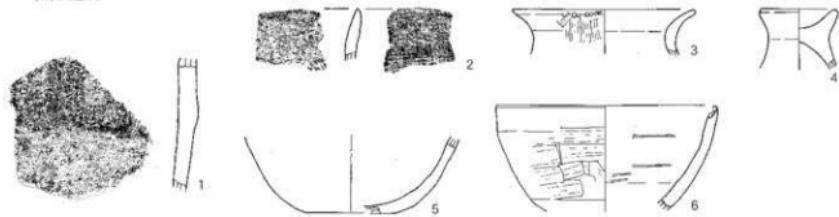


第190図 出土遺物8 2号溝状遺構出土土器(7)

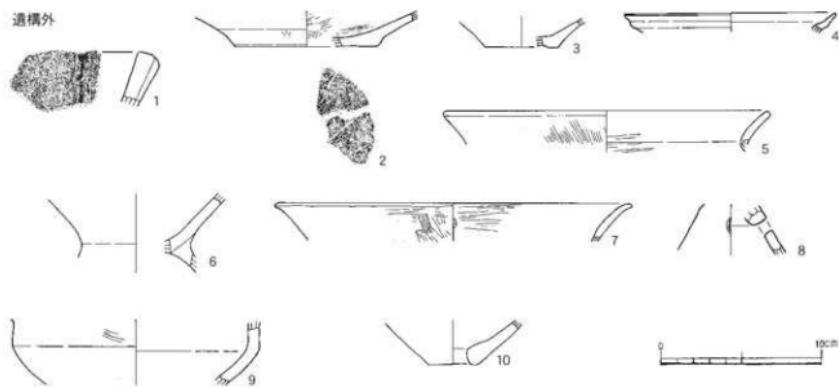


第191図 出土遺物9 2号溝状遺構出土土器(8)

3号溝状遺構



遺構外



第192図 出土遺物10 2号溝状遺構・遺構外出土土器

第5章廻り田遺跡B区の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

廻り田遺跡B区（山梨県山梨市北地内）は、笛吹川支流である弟川左岸、兄川および弟川の開析により段丘化した台地付近に位置する。本遺跡の発掘調査では、古墳時代の土器が出土した竪穴住居跡のほか、古墳時代の遺構とされる自然流路とみられる溝状遺構および多量の土器が集中して出土した溝状遺構、土坑、ピットなどが検出されている。

本報告では、遺構の年代、遺構の性格や用途および出土した種実遺体や炭化材などの大型植物化石の種類の検討などを目的として、自然科学分析調査を実施した。

1. 試料

試料は、古墳時代の2号溝より採取された土壤2点、3号溝より出土した炭化材2点および24号土坑より採取された土壤1点の、計5点である。以下に、各試料の概要を記す。

(1) 2号溝

2号溝は、古墳時代前期の水辺の祭祀跡の可能性がある土器集中が確認された遺構である。試料は、同溝内の土器集中部より採取された土壤（2号溝土器集中北側土）と、正位の状態で出土したほぼ完形の小型片口短頭壺（№1200）内を充填する土壤（2号溝小型片口短頭壺内土）の2点である。試料の観察では、2号溝土器集中北側が暗褐灰～暗灰褐色を呈する砂混じりシルト、2号溝小型片口短頭壺内土が暗褐色砂混じりシルトとなる。

上記した土壤試料については、小型片口短頭壺の内容物の検討を目的として、とくに土壤の化学性（腐植、リン酸、カルシウム）に着目し、調査を行った。また、比較対照試料として、2号溝土器集中北側土および後述する24号土坑2層の2試料が供されている。

(2) 3号溝

3号溝は、埋積する堆積物の状況から自然流路（旧河道）と推定されている。同堆積物中より出土した炭化材（№477炭化物）は、調査時の記録によれば、約30cm×20cm×1cm程度の大きさとされている。この炭化材は乾燥により破碎したため、炭化物①・②として保管された状態にある。試料の観察では、炭化物①が複数の炭化材片からなり、炭化物②には長さ約10cm、幅約4cm、厚さ約1.5cmの板状（板目～追柾）を呈する炭化材が確認された。

上記した炭化材試料については、試料の観察所見を参考とし、板状を呈する炭化材（炭化物②）の観察範囲内の最外年輪を含む部位を放射性炭素年代測定に供し、さらに同一試料を対象に炭化材同定を行った。

(3) 24号土坑

試料は、24号土坑2層より採取された土壤である。試料の観察では、暗（黄）褐色を呈する泥混じりの砂質土からなり、種実遺体が多量混じる状況が確認される。

上記した土壤試料については、土壤の化学性の調査のほか、寄生虫卵分析および種実遺体分析を行った。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

試料に土壤や根などの目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをビンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C（30分）850°C（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、

測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NECPelletron9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバッケグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いて δ 13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(OneSigma:68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBONCALIBRATIONPROGRAMCALIBREV6.0.0(Copyright1986-2010MStuiverandPJReimer)を用い、誤差として標準偏差(OneSigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ (σ は統計的に真の値が68%、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲)双方の値を示す。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

(2) 寄生虫卵分析

試料10ccを正確に秤り取る。これについて水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し、寄生虫卵および花粉・胞子を分離・濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封じてプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての寄生虫卵と花粉・胞子化石について同定・計数する。同定に際しては、当社保有的現生標本の他、寄生虫卵は佐伯ほか(1998)、斎藤・田中(2007)などを、花粉化石は島倉(1973)、中村(1980)などを参考にする。

結果は、寄生虫卵、花粉・胞子化石については堆積物1ccあたりに含まれる個数を一覧表として示し、花粉・胞子化石については同定および計数結果も一覧表として併せて表示する。寄生虫卵、花粉・胞子の個数については有効数字を考慮し、100単位として表示する。

また、花粉化石群集の散布図も表示する。図表中で複数の種類を-(ハイフン)で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

(3) 種実遺体分析

堆積物から種実遺体を分離・抽出するために、試料700cc(1,321g)を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。水洗後の試料をシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。種実遺体の同定は、現生標本と石川(1994)、中山ほか(2000)などを参考に実施し、個数を数えて結果を一覧表で示す。

分析後は、年代測定対象とした5個以外の種実遺体を分類群別に容器に入れ、約70%のエタノール溶液で液没し、保管する。

(4) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口(横断面)・桿目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

(5) 土壤理化分析

有機炭素量はチューリン法、リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解-原子吸光法(土壤標準分析・測定法委員会、1986)に従った。以下に各項目の操

作工程を示す。

1) 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩で篩い分ける。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉碎し、0.5mm篩を全通させ、粉碎土試料を作成する。風乾細土試料については、105°Cで4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

2) 有機炭素

粉碎土試料0.100~0.300gを100ml三角フラスコに正確に秤とり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200°Cの砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量(Org-C乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

3) リン酸、カルシウム含量

粉碎土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸(HNO₃)約10mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸(HClO₄)約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸(P205)濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム(CaO)濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量(P205mg/g)とカルシウム含量(CaOmg/g)を求める。

表1. 放射性炭素年代測定および曆年較正結果

			補正年代 (曆年較正用) (yrBP)	曆年較正結果										相対比	Code No.	
				0					20							
				cal	BC	761	-	cal	BC	741	cal	BP	2,710	-	2,690	0.139
3号洞 №477 炭化物② 炭化材(ケヤキ)	2,500±30	-25.47±0.29	2,497±25	cal	BC	689	-	cal	BC	682	cal	BP	2,638	-	2,631	0.057
				cal	BC	671	-	cal	BC	663	cal	BP	2,620	-	2,612	0.052
				cal	BC	648	-	cal	BC	549	cal	BP	2,597	-	2,498	0.753
				cal	BC	772	-	cal	BC	537	cal	BP	2,721	-	2,486	0.993
				cal	BC	529	-	cal	BC	523	cal	BP	2,478	-	2,472	0.007
24号土坑 2層 砂灰遺体 (ブドウ種子)	Modern	-30.07±0.36	Modern												IAAA- 123456	

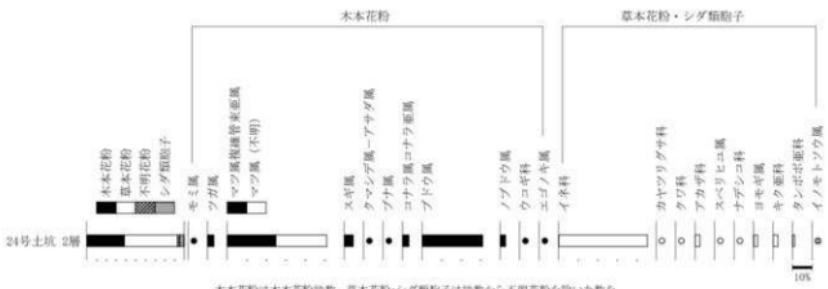


図1. 花粉化石群集

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

出土炭化材および種実遺体の同位体効果による補正を行った測定結果(補正年代)は、3号溝No477炭化物②が2,500±30yrBP、24号土坑2層種実遺体がModernを示す(表1)。また、3号溝No477炭化物②の暦年較正結果(σ)はcalBC761~calBC549である(表1)。

(2) 寄生虫卵分析

結果を表2、図1に示す。24号土坑2層からは、寄生虫卵は1個体も検出されなかった。なお、同試料からは花粉化石やシダ類胞子が堆積物1ccあたり約400個程度/ccが確認された。泥炭などの試料では、単位容積あたり数千~数万個産出するため、同試料における花粉化石・シダ類胞子の含量は低いと考えられる。

寄生虫卵が検出されなかっただため、参考として花粉化石の産状について確認を行った。花粉化石は定量解析が行える程度の産出であり、保存状態は花粉外膜が破損・溶解しているものが確認される。花粉化石群集は、草本花粉の出現率がやや高い。木本花粉では、マツ属とブドウ属が多く産し、ツガ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属、ノブドウ属などを伴う。一方の草本花粉は、イネ科が優占し、アカザ科、ヨモギ属、キク亜科、タンボボ亜科などを伴う。

(3) 種実遺体分析

結果を表3に示す。24号土坑2層からは、栽培種のブドウの種子が210個(完形206個、破片4個)抽出・同定された。なお、本試料からは、ブドウ以外の種実遺体は検出されなかった。以下に出土種実遺体の形態的特徴等を述べる。

・ブドウ (*VitisviniferaL.*) ブドウ科ブドウ属

種子は灰~黒褐色で、狹~広倒卵形、側面観は半平倒卵形、やや偏平なこん棒状などを呈する。基部は、長さ1.5~2mm、最小径1.5mm程度のやや太く嘴状に尖る核嚢があり、基部は切

表3. 種実遺体分析結果

24号土坑				
分類群	部位	状態		備考
ブドウ	種子	完形 破片	206 4	5個: 放射性炭素年代測定対象 2個背面, 2個腹面(左右)
分析量			700 (cc)	
			1,321 濡重(g)	

表4. ブドウ種子の大きさ

遺跡名	時期	標本数 (n)	長さ			幅			厚さ		
			最小 (mm)	最大 (mm)	平均値 (mm)	標準 偏差	最小 (mm)	最大 (mm)	平均値 (mm)	標準 偏差	最小 (mm)
廻り田遺跡B区	(Modern)	205	5.7	9.1	7.92	0.62	4.1	6.0	5.19	0.34	2.4
甲府城下町遺跡 ¹⁾	近代	112	5.0	7.2	6.27	0.40	3.7	5.4	4.55	0.32	2.8
護国寺門前町遺跡 ²⁾	江戸	2	6.0	6.6	6.26	0.41	4.5	5.2	4.89	0.50	2.9

*1 パリノ・サーヴェイ (2008)

*2 パリノ・サーヴェイ (2009)

表2. 寄生虫卵分析結果

24号土坑 2層	
種類	
寄生虫卵	0
花粉・胞子数 [個/cc]	400
木本花粉	
モミ属	1
ツガ属	7
マツ属松椎管束亞属	52
マツ属(不明)	55
スギ属	10
クマシデ属ーアサダ属	2
ブナ属	1
コナラ属コナラ亜属	7
ブドウ属	65
ノブドウ属	6
ウコギ科	1
エゴノキ属	2
草本花粉	
イネ科	241
カヤツリグサ科	3
クワ科	1
アザザ科	14
スペリヒユ属	2
ナデシコ科	3
ヨモギ属	11
キク亜科	14
タンボボ亜科	6
不明花粉	
不明花粉	12
シダ類胞子	
イノモトソウ属	1
他のシダ類胞子	24
合計	
木本花粉	209
草本花粉	295
不明花粉	12
シダ類胞子	25
合計(不明を除く)	529

表5. 土壤理化分析結果

遺構名	地点・層位 (試料名)	土性 ^①	土色 ^②		有機炭素 (%)	腐植 ^③ (%)	全リン酸 P2O5 (mg/g)	全カルシウム CaO (mg/g)
2号溝	小型片口短頭壺内土 (No1200 土器内埋積土)	SICL	10YR3/2	黒褐	0.65	1.12	1.39	6.11
		SIC	7.5YR3/3	暗褐	0.73	1.26	1.85	6.83
24号土坑	2層	SL	10YR3/4	暗褐	0.76	1.31	1.43	6.55

<註>

*1 土性：土壤調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編、1984)の野外土性による。

SL:砂壌土(粘土0~15%, シルト0~35%, 砂65~85%)

SICL:シルト質壌土(粘土15~25%, シルト45~85%, 砂0~40%)

SIC:シルト質壌土(粘土25~45%, シルト45~75%, 砂0~30%)

*2 土色マニセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修、1967)による。

*3 腐植：有機炭素量×1.724

形で腹面側の先に脐がある。腹面は正中線上に(鈍)稜をなし、細い筋が走る。正中線の左右には、各1個の長さ2mm、幅0.3~0.4mm程度の広線~狭梢円形で深く窪む核窪がある。背面は、正中線上に倒へら形、卵形の合点があり、細く浅い溝に囲まれてやや凹むが不明瞭である。種皮は厚さ0.5mm程度で、外種皮と内種皮の2枚からなり、表面は粗面である。外種皮の外側は薄く柔らかい膜状、内側はリグニン化した硬化層で、断面は柵状である。

状態が良好な完形個体205個を対象として、デジタルノギスを用いて種子の大きさ(長さ、幅、厚さ)の計測を行った。その結果、長さが最小5.7~最大9.1(平均7.92±標準偏差0.62)mm、幅が4.1~6.0(5.19±0.34)mm、厚さが2.4~4.7(3.64±0.36)mmであった(表4、図5)。野生種のブドウ属や、遺跡出土の栽培種(甲府城下町遺跡、護国寺門前町遺跡)(パリノ・サーヴェイ株式会社、2008,2009)よりも大型である(表4)。本遺跡の出土種子は、大型で核嘴が太く長く、合点が不明瞭でやや凹む形状を呈することから、栽培種(松元・千葉2008)と判断される。

(4) 樹種同定

3号溝より出土した炭化材は、広葉樹のケヤキに同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・ケヤキ (Zelkovaserrata(Thunb.)Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔團部は1-2列、孔團外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帶状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1~6細胞幅、1~50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

(5) 土壤理化分析

結果を表5に示す。分析に供された試料の野外土性(ペドロジスト懇談会編、1984)は、2号溝の小型片口短頭壺内土がSICL(シルト質壌土)、同土器集中区北側土がSIC(シルト質壌土)とシルト質である一方、24号土坑2層はSL(砂壌土)と砂質である。また、土色は、2号溝小型片口短頭壺内土が10YR3/2黒褐、同土器集中区北側土が7.5YR3/3暗褐、24号土坑2層が10YR3/4暗褐である。

3試料の化学性のうち、腐植含量は、2号溝小型片口短頭壺内土が1.12%、同土器集中区北側土が1.26%、24号土坑2層が1.31%である。リン酸含量は、2号溝小型片口短頭壺内土が1.39mg/g、同土器集中区北側土が1.85mg/g、24号土坑2層が1.43mg/gである。カルシウム含量は、2号溝小型片口短頭壺内土が6.11mg/g、同土器集中区北側土が6.83mg/g、24号土坑2層が6.55mg/gである。

4. 考察

(1) 遺構の年代

3号溝から出土した炭化材(No477炭化物②)の放射性炭素年代測定結果、補正年代は2,500±30yrBPを示した。また、10の曆年代範囲についてみると、およそ繩文時代晚期後半から末頃までの年代に相当する(小林、2009など)。3号溝は、調査所見では、自然流路(旧河道)と推定されていることから、出土炭化材は集水

域よりもたらされた履歴の異なる資料である可能性なども考えられる。

一方、24号土坑2層から出土した種実遺体（ブドウ種子）は Modern であった。この結果から、比較的新しい時期の遺構と推定される。なお、後述するブドウ属の種子の大きさの検討においても、現在の栽培種や甲府城下町遺跡（甲府市）の近代と考えられる埋桶から出土したブドウ属と同様に大型である。この点からも比較的新しい時期の資料であることが想定され、調和する結果と言える。

なお、3号溝から出土した炭化材は、ケヤキに同定された。ケヤキは、河畔や渓谷等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度や耐久性が高い。山梨県内の縄文時代の遺跡からケヤキが出土した事例では、上ノ原遺跡（旧須玉町）の縄文時代中期とされる住居跡出土炭化材や土坑出土炭化材、日影田遺跡（旧高根町）の縄文時代中期初頭～後期とされる焼土出土炭化材等の報告例がある（伊東・山田,2012）。3号溝から出土した炭化材（炭化物②）については、板状を呈する状況が確認されたものの、本来の形状を反映するか不明である点や2次堆積資料の可能性があるため、詳細な検討は困難である。

(3) 2号溝

2号溝では、小型片口短頸壺内および2号溝の土器集中部北側より採取された土壌について、化学性の検討を行った。

土壌中に普通に含まれるリン酸含量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例がある（Bowen, 1983; Bolt・Bruggenwert, 1980; 川崎ほか, 1991; 天野ほか, 1991）。これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5mg/g（川崎ほか, 1991）という報告例があり、これまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0mg/gを越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通1～50mg/g（藤貫, 1979）といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい傾向にある。これは、リン酸に比べると土壌中に固定され難い性質による。

上記した2試料の土壤化学分析では、リン酸およびカルシウム含量は、いずれも天然賦存量を下回る値を示した。2試料間の比較においては、土器集中区北側試料がわずかにリン酸やカルシウムの含量が高いという特徴を示す。小型片口短頸壺内の土については、対照とした覆土試料の値をいずれも下回るため、遺体埋納などによる成分の富化を見出すには至らない。

また、24号土坑2層との比較においても、小型片口短頸壺内土はリン酸やカルシウムの含量の値を下回る結果となっており、同様の点が示唆される。なお、3試料間の比較では、2号溝土器集中区北側試料のリン酸やカルシウムの含量が高い。ただし、いずれも天然賦存量を下回る値であるため、その評価についてはさらに資料の蓄積による検討が必要と考えられる。

(4) 24号土坑

24号土坑は、2層より出土したブドウ属種子の放射性炭素年代測定では、Modern という結果が得られたことから、現代に近い比較的新しい時期の遺構と推定された。

また、ブドウ属の種子が検出された堆積物を対象とした寄生虫卵分析では、寄生虫卵は確認されず、花粉化石やシダ類胞子が検出されのみである。寄生虫卵は、普通の土壌中にも含まれるが、糞便などの堆積物で多産する調査事例が報告されている（例えば金原・金原, 1992, 1993；金原ほか, 1995など）。寄生虫卵の分解に対する抵抗性は、花粉化石と同程度とされる。花粉化石が検出されている状況を考慮すれば、24号土坑に糞便などが存在した可能性は低いと考えられる。土壌の化学性においても腐植およびリン酸含量の値を考慮すると、いずれも天然賦存量の範囲内にあり、富化された痕跡を見出すことは困難である。

なお、同試料中の花粉化石の産状についてみると、木本類ではブドウ属が多産するという特徴が認められた。さらに同堆積物中からは、栽培種のブドウの種子のみが多量に検出されている。これらの結果から、周辺でのブドウ栽培が示唆される。

また、ブドウ属以外に産出した花粉化石では、マツ属が多産した。マツ属は、確認できた種類は全て複雑管束亞属であることから、不明も含めて複雑管束亞属に由来する可能性がある。複雑管束亞属には、クロマツとアカマツが含まれるが、どちらも極端な陽樹であり、生育環境が広く、木材も有用である。放射性炭素年代測定結果などを考慮すると、植林や二次林として周囲に生育したことが推定される。針葉樹のスギ属も、山梨県内には自生しない種類であり、古くから植林されてきた種類であることから、植林されたものに由来すると思

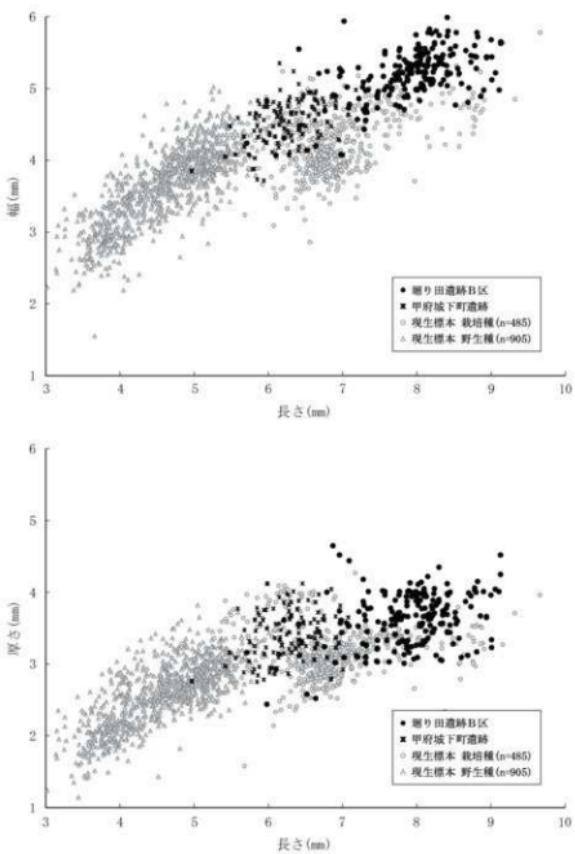


図2. ブドウ属種子の大きさ

われる。この他、コナラ亜属、クマシデ属・アサダ属、エゴノキ属、ウコギ科などは、二次林を構成する種類が含まれるため、周囲に二次林を形成していた可能性があり、ノブドウ属は二次林などの林縁などに生育したとみられる。なお、針葉樹のモミ属やツガ属、落葉広葉樹のブナ属は、甲府盆地周縁の山地や丘陵の森林植生に由来にすると考えられる。一方、草本類に確認された分類群は、多産したイネ科をはじめとして、いわゆる人里植物を含むことから、これらの分類群からなる草地が遺跡周辺に分布していたと考えられる。

(5) ブドウ種子について

日本におけるブドウ栽培は、1186年甲斐国の雨宮勘解由により、中国から渡來した種から生じたと推察される甲州ブドウが見出され、栽培に移されたのが最初とされる説や、行基伝説など諸説ある。ただし、詳細は不明であり、確実な証拠は戦国期の宣教師の史料に登場するものが最古とされる。江戸時代には、甲州を主体に3~4品種が存在し、明治時代以後の栽培管理では複数の品種があったとされるものの、いずれも詳細は不明である。

山梨県内の遺跡出土例についてみると、大坪遺跡（甲府市）の9世紀代とされる河川埋土5層より確認されたブドウ属が最も古い事例（新山,2002a）であり、この他甲府城下町遺跡の近代の埋桶からの出土例（パリノ・サーヴェイ,2008）がある。また、近世以降の事例については、江戸府内の遺跡で多数確認されており、ゴミ穴から出土した事例（日本橋蛎殻町一丁目（第2次）遺跡、坂町遺跡）やトイレ遺構から出土した事例（尾張藩上屋敷跡遺跡、汐留遺跡、甲府城下町遺跡）、さらに埋葬施設から出土した事例（護国寺門前町遺跡）などがある（株式会社古環境研究所,2001; 金原ほか,1996; 新山,2003b,2002c; 鈴木,2004; パリノ・サーヴェイ株式会社,2008,2009）。

本遺跡の24号土坑2層は、ブドウ属花粉の多産とブドウ種子の多量検出によって特徴付けられた。これらの産状から、花期および結実期という異なる時期に由来するものが含まれることが示唆される。なお、ブドウの非可食部（種子）のみが検出されるという状況を考慮すると、利用後の残渣の廃棄と周辺土壤の埋積という過程が推定される。また、出土ブドウ種子については、本試料の計測結果と既存の野生種や甲府城下町遺跡出土種子の計測データとの比較（表4、図5）から、より大型の個体が主体となるという傾向が確認された。

引用文献

- 天野洋司・太田 健・草場 敏・中井 信,1991,中部日本以北の土壤型別蓄積リンの形態別計量.農林水産省農林水産技術会議事務局編 土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発,28-36.
- Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M,1980,土壤の化学.岩田進午・三輪齊太郎・井上隆弘・陽 捷行訳,学会出版センター,309p.
- Bowen,H.J.M.,1983,環境無機化学-元素の循環と生化学-.浅見輝男・茅野充男訳,博友社,297p.
- 土壤標準分析・測定法委員会編,1986,土壤標準分析・測定法,博友社,354p.
- 林 昭三,1991,日本產木材 脳微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 伊東隆夫,1995,日本產広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本產広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本產広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本產広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本產広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久（編）,2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.
- 株式会社古環境研究所,2001,尾張藩上屋敷跡におけるトイレ遺構検出分析-第13地点検出試料-,尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅷ, 東京都埋蔵文化財センター調査報告第98集, 東京都埋蔵文化財センター,468-473.
- 金原正明・金原正子,1992,花粉分析および寄生虫.藤原京跡の便所遺構-右京七条一坊西北坪-,奈良国立文化財研究所,12-15.
- 金原正明・金原正子,1993,史跡松江城二ノ丸番所跡SK-04内堆積土の分析.史跡松江城発掘調査報告書,松江市教委委員会,51-56.

- 金原正明・金原正子・中村亮仁,1995,大宮坊跡（廻跡）における自然科学的分析、史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ,石川県鹿島町教育委員会,51-70.
- 金原正明・金原正子・岡山邦子,1996,沙留遺跡における寄生虫卵分析、花粉分析、種実同定、沙留遺跡－沙留遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書－第3分冊、沙留地区遺跡調査会編,415-422.
- 川崎弘・吉田濬・井上恒久,1991,九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量、農林水産省 農林水産技術会議事務局編 土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発,23-27.
- 小林謙一,2009,近畿以東の地域への拡散、弥生農耕の始まりとその年代、新弥生時代のはじまり 第4巻,55-82.
- 松元美由紀・千葉博俊,2008,現生ブドウ属種子の形状と遺跡出土種実との比較、日本植生史学会第23回大会講演要旨集,59-60.
- 中村純,1980,日本產花粉の標微 I II (図版),大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12,13集,91p.
- 中山至大・井之口秀希・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑、東北大学出版社,642p.
- 新山雅広,2002a,大坪遺跡から出土した大型植物化石、大坪遺跡－平成12年度調査地点の報告－、大坪遺跡発掘調査会,30-34. 図版46-48.
- 新山雅広,2002b,尾張藩上屋敷跡遺跡から出土した大型植物化石、尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書X、東京都埋蔵文化財センター調査報告第114集、東京都埋蔵文化財センター,571-577.
- 新山雅広,2002c,坂町遺跡から出土した大型植物化石、東京都新宿区 坂町遺跡、財団法人新宿区生涯学習財團・新宿歴史博物館 埋蔵文化財課,110-112.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修,1967,新版標準土色帖。
- パリノ・サーヴェイ株式会社,2008,自然化学分析、山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第258集 甲府城下町遺跡（北口県有地）－北口県有地開発に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－、山梨県教育委員会,245-263.
- ベドロジスト懇談会,1984,野外土性の判定、ベドロジスト懇談会編 土壌調査ハンドブック、博友社,39-40.
- 佐伯秀治・升秀夫・早川典之,1998,臨床検査シリーズ 寄生虫鑑別アトラス－オールカラー版－、株式会社メディカルサイエンス社,162P.
- 齊藤崇人・田中義文,2007,寄生虫卵殻の形態分類、徳永重元博士献呈論集、パリノ・サーヴェイ株式会社,407-416.---
- 島地謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織、地球社,176p.
- 島倉巳三郎,1973,日本植物の花粉形態、大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集,60p.
- 鈴木伸哉,2004,大型植物遺体、日本橋蛎殻町一丁目遺跡II－中央区日本橋蛎殻町一丁目36番 集合住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書－、中央区教育委員会事務局編、株式会社エルカクエイ・中央区教育委員会,192-195.
- WheelerE.A.,BassP.andGassonP.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト、伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修)、海青社,122p. [WheelerE.A.,BassP.andGassonP.E.(1989)IAWAListofMicroscopicFeaturesforHardwoodIdentification].

膳棚遺跡D区の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

膳棚遺跡D区（山梨県山梨市北地内）は、甲府盆地北東部を流れる笛吹川の支流である兄川が作る小扇状地の南東端部付近に位置している。この扇状地は、高位、中位、低位の各段丘に区分されており（三村ほか, 1984）、本遺跡は低位段丘上に位置する。本遺跡の発掘調査の結果、平安時代の大規模な集落の存在が明らかとされている。

本報告では、膳棚遺跡D区より検出された遺構の年代、住居跡の床面下より合子状態で出土した壺の内容物、古植生および植物利用などの検討を目的として、自然科学分析を実施した。

I. 遺構の年代

1. 試料

試料は、D区I・IIより検出された住居跡および集石などから出土した炭化材10点である。出土炭化材が供された遺構は、D区Iが5号住、7号住、10号住、11号住、12号住、15号住、18号住の7遺構、D区IIが28号住、29号住、1号集石の3遺構である。

これらの試料の観察では、5号住(C-4)が芯持丸木状(径約3cm)の炭化材、7号住(C-5)が半裁状(径約3.5cm)の炭化材、10号住(C-30)が分割材状(ミカン割状、半径約3cm)の炭化材、11号住(C-7)が芯持丸木状(径約1.4cm)の炭化材、12号住(C-5)が分割材状(ミカン割状、半径約1.5cm以上)の炭化材、15号住(C-2)が分割材状(半径約1cm)の炭化材、18号住(C-10)が分割材状(ミカン割状、半径2.5cm以上)の炭化材、29号住カマド(C)が分割材状(ミカン割状、半径約1cm)の炭化材、28号住(炭Na1)が分割材状(ミカン割状、半径1.5cm以上)の炭化材、1号集石(C-10)が分割材状(ミカン割状、半径1.6cm以上)を呈する。放射性炭素年代測定には、上記した観察所見を参考として、観察範囲内の最外年輪を含む複数年輪を供した。

なお、本分析では、上記した炭化材試料について樹種同定を実施している。同定結果は、一覧として表4に示した。

2. 分析方法

試料に土壌や根などの目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する(酸・アルカリ・酸処理)。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀浴(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500°C(30分) 850°C(2時間)で加熱する。液体空素と液体空素+エタノールの温度差を利用して、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650°Cで10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。

測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NECPelletron9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1,950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(OneSigma:68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBONCALIBRATIONPROGRAMCALIBREV6.0.0(Copyright1986-2010MStuiverandPJReimer)を用い、誤差として標準偏差(OneSigma)を用いる。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)

表 1. 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

試料	測定年代 (yrBP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正結果										相対比	測定番号 Code No.							
				cal	AD	896	-	cal	AD	923	cal	BP	1,054	-	1,027	0.428						
5号柱 C-4 (炭化材)	1,110 ± 20	-28.01 ± 0.44	1,098 ± 23	σ	cal	AD	941	-	cal	AD	975	cal	BP	1,009	-	975	0.572	IAAA-123586				
					cal	AD	891	-	cal	AD	987	cal	BP	1,059	-	963	1.000					
7号柱 C-5 (炭化材)	1,040 ± 20	-29.70 ± 0.29	1,041 ± 24	σ	cal	AD	990	-	cal	AD	1,018	cal	BP	960	-	932	1.000	IAAA-123587				
					cal	AD	903	-	cal	AD	914	cal	BP	1,047	-	1,036	0.030					
10号柱 C-30 (炭化材)	1,000 ± 20	-26.98 ± 0.35	1,002 ± 22	σ	cal	AD	970	-	cal	AD	1,026	cal	BP	980	-	924	0.970	IAAA-123588				
					cal	AD	997	-	cal	AD	1,005	cal	BP	953	-	945	0.161					
11号柱 C-7 (炭化材)	990 ± 20	-27.34 ± 0.46	991 ± 24	σ	cal	AD	1,012	-	cal	AD	1,034	cal	BP	938	-	916	0.839	IAAA-123589				
					cal	AD	988	-	cal	AD	1,045	cal	BP	962	-	905	0.908					
12号柱 C-5 (炭化材)	1,030 ± 20	-29.31 ± 0.31	1,031 ± 22	σ	cal	AD	1,096	-	cal	AD	1,120	cal	BP	854	-	830	0.078	IAAA-123590				
					cal	AD	1,141	-	cal	AD	1,147	cal	BP	809	-	803	0.015					
15号柱 C-2 (炭化材)	1,100 ± 20	-28.04 ± 0.35	1,100 ± 23	σ	cal	AD	1,014	-	cal	AD	1,043	cal	BP	936	-	907	0.794	IAAA-123591				
					cal	AD	1,103	-	cal	AD	1,118	cal	BP	847	-	832	0.188					
18号柱 C-10 (炭化材)	1,040 ± 20	-27.45 ± 0.32	1,036 ± 24	σ	cal	AD	945	-	cal	AD	982	cal	BP	1,005	-	968	0.600	IAAA-123592				
					cal	AD	891	-	cal	AD	991	cal	BP	1,059	-	959	1.000					
29号柱カマF (炭化材)	1,100 ± 20	-25.01 ± 0.45	1,103 ± 24	σ	cal	AD	992	-	cal	AD	1,019	cal	BP	958	-	931	1.000	IAAA-123593				
					cal	AD	906	-	cal	AD	911	cal	BP	1,044	-	1,039	0.012					
28号柱カマI (炭化材)	1,080 ± 30	-26.38 ± 0.53	1,081 ± 25	σ	cal	AD	972	-	cal	AD	1,028	cal	BP	978	-	922	0.988	IAAA-123594				
					cal	AD	943	-	cal	AD	980	cal	BP	1,007	-	970	0.584					
1号集石 C-10 (炭化材)	4,470 ± 30	-25.06 ± 0.34	4,470 ± 27	σ	cal	AD	899	-	cal	AD	919	cal	BP	1,051	-	1,031	0.320	IAAA-123595				
					cal	AD	950	-	cal	AD	994	cal	BP	1,000	-	956	0.680					
					cal	AD	895	-	cal	AD	925	cal	BP	1,055	-	1,025	0.283					
					cal	AD	936	-	cal	AD	1,016	cal	BP	1,014	-	934	0.717					
				σ	cal	BC	3,327	-	cal	BC	3,218	cal	BP	5,276	-	5,167	0.721	IAAA-123595				
					cal	BC	3,175	-	cal	BC	3,160	cal	BP	5,124	-	5,109	0.097					
				σ	cal	BC	3,120	-	cal	BC	3,093	cal	BP	5,069	-	5,042	0.182	IAAA-123595				
					cal	BC	3,337	-	cal	BC	3,208	cal	BP	5,286	-	5,157	0.571					
				σ	cal	BC	3,193	-	cal	BC	3,149	cal	BP	5,142	-	5,098	0.138	IAAA-123595				
					cal	BC	3,140	-	cal	BC	3,083	cal	BP	5,089	-	5,032	0.198					
				σ	cal	BC	3,067	-	cal	BC	3,027	cal	BP	5,016	-	4,976	0.094					

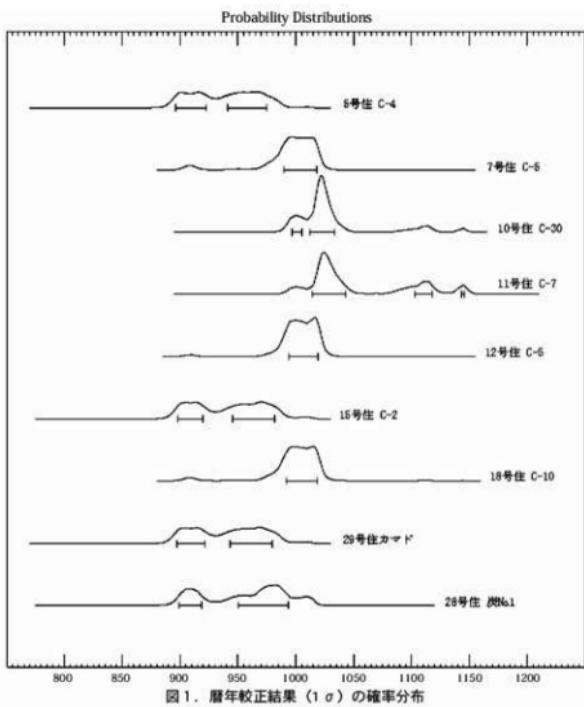


図1. 历年較正結果 (1σ) の確率分布

を較正することである。历年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に历年較正プログラムや历年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。

历年較正結果は、測定誤差 σ 、 2σ （ σ は統計的に真の値が68%、 2σ は真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を示す。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3. 結果および考察

各遺構から出土した炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、5号住（C-4）が1,110±20yrBP、7号住（C-5）が1,040±20yrBP、10号住（C-30）が1,000±20yrBP、11号住（C-7）が990±20yrBP、12号住（C-5）が1,030±20yrBP、15号住（C-2）が1,100±20yrBP、18号住（C-10）が1,040±20yrBP、29号住カマドが1,100±20yrBP、28号住（炭No1）が1,080±30yrBP、1号集石（C-10）が4,470±30yrBPを示す（表1）。

历年較正結果（ σ ）は、5号住（C-4）がcalAD896 - calAD975、7号住（C-5）がcalAD990 - calAD1,018、10号住（C-30）がcalAD997 - calAD1,034、11号住（C-7）がcalAD1,014 - calAD1,146、12号住（C-5）がcalAD994 - calAD1,019、15号住（C-2）がcalAD898 - calAD982、18号住（C-10）がcalAD992 - calAD1,019、29号住カマドがcalAD897 - calAD980、28号住（炭No1）がcalAD899 - calAD994、1号集

石（C-10）がcalBC3,327 - calBC3,093（calBP5,276 - 5,042）である（表1）

各試料より得られた10の曆年代範囲を参考すると、1号集石（C-10）は縄文時代中期前半頃に相当し、この他の9試料は10世紀初頭前後から12世紀中頃に相当する。この結果は、本遺跡が平安時代を主体とする集落であるという、調査所見を支持する。また、平安時代頃に相当する住居跡の曆年代について詳細にみると、10世紀初頭前後から10世紀後半頃までの曆年代を示す試料（5号住、15号住、28号住、29号住）と、10世紀後半から11世紀前半（12世紀中頃を含む）までの曆年代を示す試料（7号住、10号住、11号住、12号住、18号住）とに大きく分けられる（図1）。なお、調査所見から、遺構の重複関係が確認された7号住、10号住および12号住は、近似する曆年代範囲を示しており、有意な時期差を示唆するには至らない。

II. 古植生

1. 試料

試料は、2・3竪穴南壁東西セクション（以下、調査区南壁）およびD区1の5号住埋積物（以下、5号住覆土）より採取された土壤である。以下に、各試料の概要を記す。

(1) 調査区南壁

試料の採取地点は、調査区南壁の3竪（3号住）断面が確認された堆積層（基本土層）に相当する。試料は現表土から3号住床面下位の堆積層（地山）までの各層位より採取されている。基本土層は、調査担当者により下位より8～1層に区分されており、8層が地山、7層が古代の竪穴住居跡（3号住）覆土下部、6層が同覆土上部、5・4層が古代の竪穴住居跡覆土上位の堆積物であり、側方方向に連続する。3～1層はいずれも古代以降の堆積物であり、1層が現表土に相当する。なお、上記した土層のうち層厚の厚い2層と3層および6～8層は、上・下部あるいは上・中・下部に分けられ、採取されている。

分析に供された試料は、上記した1～8層より採取された土壤13点からなる。試料の観察では、1層（サンプル1）および2層（サンプル2-1,2-2）が灰色シルト、3層（サンプル3-1～3-3）が暗灰～暗褐色シルト、4層（サンプル4）と5層（サンプル5）が暗灰色シルト、6層（サンプル6-1,6-2）と7層（サンプル7-1、7-2）が砂混じり黒灰色シルト、8層（サンプル8-1）が7層より砂分が多く混じる黒灰色シルトからなる。

(2) 5号住覆土

試料は、5号住覆土の各層位の層厚に応じて、1層より2点（サンプル1-1, 1-2）、2層より4点（サンプル2-1～2-4）、3層より2点（サンプル3-1, 3-2）の計8点が採取されている。試料の観察では、いずれも色調や層相（岩相）が類似し、暗褐～黒褐色を呈する泥混じり砂（あるいは砂混じり泥）からなる。

本項目では、上記した試料のうち調査区南壁の土壤13点と5号住覆土の各層より選択した土壤3点（サンプル1-2, 2-2, 3-2）を対象に、花粉分析および植物珪酸体分析を実施した。

2. 分析方法

(1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトトリシス（無水酢酸9:濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中村（1980）などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類を（ハイフン）で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるため、出現した種類を十で表示するに留めている。

(2) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタンゲステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由來した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由來した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤（2010）の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作製に用いた分析残渣量を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示し、各分類群の植物珪酸体含量を試料ごとに図示する。各分類群の含量は100単位として表示し、100個/g未満は「<100」で表示する。また、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後、100単位として表示している。

3. 結果

（1）花粉分析

結果を表2、図2に示す。花粉化石は、全体的に産出状況が悪く、検出された花粉化石も保存状態は不良である。以下、地点毎の産状を述べる。

1) 調査区南壁

調査区南壁試料では、サンプル1からのみ、からうじて定量解析に耐えうる量の花粉化石が産出した。他の試料と比較すると保存状態は良いものの、花粉外膜が破損・溶解する化石が多い。

サンプル1の花粉化石群集は、木本花粉とシダ類胞子の割合が高い。木本花粉では、マツ属が優占し、この他にモミ属、ツガ属、トウヒ属、スギ属、ヤマモモ属、クマシデ属・アサダ属、ハンノキ属、ニレ属・ケヤキ属、エノキ属・ムクノキ属などを伴う。草本花粉では、イネ科が最も多く産出し、カヤツリグサ科、サナエタデ節－ウナギツカミ節、ナデシコ科、オミナエシ属、キク亞科なども認められる。シダ類胞子では、水生シダ類のサンショウウモなどが確認される。

試料番号2-1, 2-2は、後述する試料に比べ花粉化石がやや産出する。産出した花粉化石は、サンプル1で多産したマツ属、ツガ属、イネ科などが確認される。

試料番号3-1～8-1は、花粉化石の産出状況が極めて悪い。木本花粉ではツガ属、マツ属、スギ属、イチイ科・イヌガヤ科・ヒノキ科などが、草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節・ウナギツカミ節、キク亞科、タンボボア科などが、わずかに認められた程度である。

2) 5号住覆土

5号住覆土試料（サンプル1-2, 2-2, 3-2）は、いずれも花粉化石の産出状況が極めて悪く、サンプル2-2からイネ科が、サンプル1-2, 2-2からシダ類胞子が、わずかに認められた程度である。

（2）植物珪酸体分析

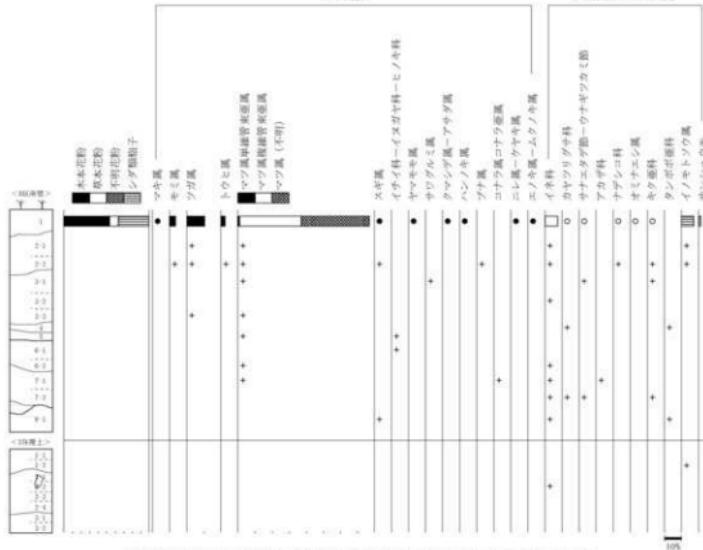
結果を表3、図3に示す。以下、地点毎の産状を述べる。

1) 調査区南壁

調査区南壁試料の植物珪酸体含量は、4,800～2.3万個である。層位の変化をみると、堆積層下部に相当するサンプル8-1が4,800個/g、サンプル7-2が7,100個/gと1万個/g未満である。この他は1万個/gを超える、サンプル4が2.3万個/gと最も高く、サンプル3-2が2.2万個/gと次いで高い。

検出された分類群では、栽培植物のイネ属の含量が全体的に高い。イネ属の含量は、短細胞珪酸体ではサンプル8-1が未検出、サンプル7-2が200個/g、サンプル5が400個/gと含量が低いが、この他は1,200～2,000個/gである。一方、機動細胞珪酸体は、サンプル8-1が600個/g、サンプル7-2が700個/gと含量が低いが、この他は1,500～4,100個/gである。また、珪化組織片として、穎珪酸体がサンプル7-2と5を除く試料より、短細胞列がサンプル8-1を除く試料より検出されるほか、機動細胞列がサンプル7-1と6-1より検出される。この他、栽培種を含む分類群であるオオムギ族（短細胞珪酸体）が、サンプル8-1を除く各試料より検出される。

上記した栽培植物および栽培種を含む分類群以外では、メダケ属を含むタケ亞科、ヨシ属、ススキ属、



木本花粉は木本花粉数、草本花粉・シダ類胞子は細胞から不明花粉を除いた数を基準として百分率で表した。
○(●)21%未満、+は木本花粉100個未満の試料において検出された種類を示す。

図2. 花粉化石群集の層位分布



凡てはあたりの個数で示す。●○は100個未満を定性的に示す。

図3. 植物蜡酸体含量

表 2. 花粉分析結果

分類群	調査区南壁										5号柱(覆土)					
						3号柱(覆土)										
	1	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4	5	6-1	6-2	7-1	7-2	8-1	1-2	2-2	3-2
木本花粉																
ヤキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モミ属	4	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツガ属	12	5	7	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トウヒ属	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属單球賀束葉属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マツ属(不明)	41	10	13	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
スギ属	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
イチイ科イヌガヤ科ヒノキ科	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
ヤマモモ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サワグルミ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クマシデ属アサガ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ハンノキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブナ属	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コナラ属コナラ亜属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ニレ属ケヤキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキ属ムクノキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本花粉																
イネ科	16	5	4	-	1	-	-	-	1	1	2	2	-	1	-	-
カヤツリグサ科	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-
サナエタケ属ウナギツカエ属	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
アカザ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
ナデシコ科	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オミナエシ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
キク亜科	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
タンボボ科	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-
不明花粉	-	1	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
シダ類孢子																
イノモツツク属	15	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
サンショウモ	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
他のシダ類孢子	58	40	55	29	9	38	11	6	11	4	12	3	2	2	5	-
合計																
木本花粉	113	26	29	2	0	2	0	2	1	1	3	0	1	0	0	0
草本花粉	22	5	7	3	1	0	2	0	0	1	2	5	3	0	1	0
不明花粉	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
シダ類孢子	76	41	57	29	9	38	11	6	11	4	12	3	2	3	5	0
合計(不明を除く)	211	72	93	34	10	40	13	8	12	6	17	8	6	3	6	0

イチゴツナギ亜科、シバ属などが検出される。

2) 5号柱覆土

5号柱覆土試料の植物珪酸体含量は、サンプル3-2が1.6万個/g、サンプル2-2が1.9万個/g、サンプル1-2が2.4万個/gであり、覆土上部で含量が高くなるという傾向を示す。

検出された分類群では、調査区南壁と同様に栽培植物のイネ属の産出が目立つ。イネ属の含量は、短細胞珪酸体ではサンプル3-2が1,300個/g、サンプル2-2が1,900個/g、サンプル1-2が1,600個/gである。機動細胞珪酸体含量では、サンプル3-2が1,600個/g、サンプル2-2が2,600個/g、サンプル1-2が約2,500個/gである。また、珪化組織片として、穎珪酸体がサンプル2-2と1-2から、短細胞列が各試料より検出される。この他、栽培種を含むオムギ族(短細胞珪酸体)も検出される。

表3. 植物珪酸体含量(1)

分類群	調査区面積										(kg/ha)	
	1	2-1	2-2	3-1	3-2	3-3	4	5	6-1	6-2	7-1	7-2
イネ科葉部知細胞珪酸体												
イネ族イネ属	1,800	1,200	1,200	1,400	2,000	1,600	2,000	400	1,500	1,200	1,300	200
メダケ属	400	200	500	400	600	400	400	300	300	500	200	-
タケ亜科	1,100	1,100	1,400	1,200	1,600	1,400	1,300	800	1,300	1,000	1,300	500
ヨシ属	100	300	100	100	400	200	100	-	100	300	300	200
ウシクサ族ススキ属	<100	300	100	300	400	200	400	300	200	500	600	200
イチゴナガギ草科オムギ族	300	100	300	200	500	300	400	200	400	400	100	-
イチゴナガギ草科	1,200	200	700	500	900	700	900	700	1,000	700	600	100
不明	4,800	5,000	4,000	3,400	3,200	4,200	5,600	3,300	3,900	3,900	5,100	2,500
イネ科茎身機動細胞珪酸体												
イネ族イネ属	2,900	2,700	3,100	3,300	4,100	3,500	4,000	1,500	2,800	2,200	2,300	700
メダケ属	500	400	800	500	600	400	400	400	400	400	300	100
タケ亜科	600	700	1,000	1,200	1,200	1,100	800	500	900	800	800	500
ヨシ属	200	500	700	400	600	200	400	<100	100	600	400	100
ウシクサ族	200	400	300	800	600	800	1,000	200	1,000	300	900	100
シバ属	1,000	900	-	100	<100	100	-	-	-	<100	100	-
不明	4,600	3,600	5,200	4,800	5,400	5,000	5,600	3,000	4,800	4,600	4,600	1,600
合計	9,900	8,400	8,300	7,400	9,600	8,800	11,000	6,000	8,700	8,600	9,500	3,800
イネ科葉部知細胞珪酸体	10,000	9,200	11,100	11,200	12,700	11,100	12,100	5,600	10,100	9,100	9,400	3,300
植物珪酸体合量	19,900	17,600	19,400	18,600	22,300	19,900	23,100	11,600	18,800	17,700	18,900	7,100
珪化組織片												
イネ族珪酸体	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
イネ族知細胞片	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	
イネ族機動細胞片	-	-	-	-	-	-	-	-	*	-	-	
<珪化組織片>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

<未検出: *: 検出, **: 多い>

表3. 植物珪酸体含量(2)

分類群	5号位(覆土)		
	1-2	2-2	3-2
イネ科葉部知細胞珪酸体			
イネ族イネ属	1,600	1,900	1,300
メダケ属	700	400	300
タケ亜科	3,100	1,500	1,300
ヨシ属	500	700	400
ウシクサ族ススキ属	700	400	500
イチゴナガギ草科オムギ族	300	200	200
イチゴナガギ草科	1,300	700	500
不明	7,800	5,400	4,800
イネ科茎身機動細胞珪酸体			
イネ族イネ属	2,500	2,600	1,600
メダケ属	500	200	400
タケ亜科	1,000	700	800
ヨシ属	100	300	400
ウシクサ族	500	500	400
シバ属	-	-	-
不明	3,800	3,200	2,700
合計	16,000	11,100	9,300
イネ科葉部知細胞珪酸体	8,400	7,600	6,300
植物珪酸体合量	24,400	18,700	15,600
珪化組織片			
イネ族珪酸体	*	*	-
イネ族知細胞片	*	*	*
イネ族機動細胞片	*	-	-
<珪化組織片>	-	-	-

<未検出: *: 検出, **: 多い>

上記した栽培植物および栽培種を含む分類群以外も調査区南壁試料と組成がほぼ類似し、メダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、スキ属、イチゴツナギ亜科などが検出される。

4. 考察

調査区南壁（3号住居土含む）と5号住居土を対象とした花粉分析の結果、多くの試料は産状が悪く、解析に有効な個体数が産出した試料は調査区南壁の1層のみであった。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている。また腐蝕に対する抵抗性が種類により異なっており、落葉広葉樹に由来する花粉よりも針葉樹に由来する花粉やシダ類胞子の方が酸化に対する抵抗性が高いとされている（中村,1967; 徳永・山内,1971; 三宅・中越,1998など）。

今回検出された花粉化石は、木本・草本のいずれも比較的分解に強い花粉や、分解が進んでも同定可能な種類が検出されている。検出された花粉化石の保存状態も考慮すると、経年変化の影響を受けており、分解に強い花粉などが選択的に残存していると推定される。

現表土に相当する1層の花粉化石群集についてみると、優占するマツ属複雜管束亜属は二次林や植林などとして分布したマツ属に由来すると考えられる。また、モミ属やツガ属などの針葉樹は後背山地を含む周辺域の森林植生に由来すると考えられる。この他、クマシデ属ーアサダ属、ハンノキ属、ニレ属ーケヤキ属、エノキ属ークノキ属などは、周辺の河川や沢沿いなどに生育する林分を反映すると推定される。また、草本花粉で多く産出したイネ科をはじめとして、カヤツリグサ科、サンエタデ節ーウナギツカミ節、ナデシコ科、オミナエシ属、キク亜科、タンポポ亜科などは、開けた明るい場所を好む人里植物を含むことから、調査地周辺の草地植生を反映すると考えられる。

一方、植物珪酸体では、住居跡覆土およびその上位の堆積層よりメダケ属を含むタケ亜科、ヨシ属、スキ属、イチゴツナギ亜科、シバ属などが検出された。これらの分類群の層位の変化では、全体的にタケ亜科の含量が高く、調査区南壁の2層上部と1層ではシバ属の含量も高くなるという特徴を示した。おそらく、古代の住居廃絶以降、調査地周辺の草地にはイチゴツナギ亜科やシバ属が生育しており、比較的乾燥した場所にはメダケ属を含むタケ亜科やスキ属などが、湿润な場所には好むヨシ属などのイネ科植生が分布したと考えられる。

また、栽培植物のイネ属や栽培種を含むオオムギ族も検出された。植物珪酸体分析を用いて水田跡（稻作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料1g当り5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稻作が行われた可能性が高いと判断されている（杉山,2000）。また水田跡が明瞭に検出された土層でもイネ属の機動細胞珪酸体含量が3,000個/g程度の場合もあるとされている。

本遺跡のイネ属の機動細胞珪酸体含量は、調査区南壁の4~1層では5,000個/gを下回るもの3,000個/g前後および3,000個/g以上を示すことから、稻作が行われていた可能性が考えられる。一方、住居跡覆土試料については、3,000個/gに近い含量を示す試料も含まれるが、周辺に分布した土壤の埋積や埋積過程の凹地を利用した生活残渣の廃棄という履歴などが想定される。すなわち、調査地周辺における稻作を反映している可能性とともに、住居構築材や燃料材などの資材や利用後の残渣の痕跡を示している可能性もあり、住居跡覆土の母材となった堆積物の由来や混入物の産状を含めた検討が望まれる。

また、オオムギ族は、住居跡掘込みの基底をなす8層（サンプル8-1）を除く各試料より検出された。現段階では、植物珪酸体の形態による栽培種と野生種との区別は困難であり、ムギ類の栽培を明らかにするには至らない。なお、ムギ類については、本遺跡では古代の住居跡より炭化種実として検出されているほか、山梨県内では古代以降にムギ類を中心とした雑穀の利用が多くなるという傾向が指摘されている（櫛原,1999）。ムギ類種実の検出や利用傾向などを考慮すると、本遺跡におけるオオムギ族の植物珪酸体の検出はムギ栽培の一端を示している可能性もあり、今後の資料の蓄積による検証が期待される。

今回の分析対象とされた試料は、上述したように花粉化石の産状が悪く、平安時代末頃の周辺植生に関わる資料は得られなかったが、隣接する兄川河床遺跡では当該期の良好な資料が得られている。同遺跡の放射性炭素年代測定結果に基づく暦年較正結果から11~13世紀頃に相当すると考えられる堆積層の花粉および種実分析結果によれば、モミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、トウヒ属およびイチイ科・イヌガヤ科・ヒノキ科など

の針葉樹、ブナ属やコナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹が甲府盆地周辺の山地の森林植生として認められ、周辺の林縁や河川沿いの河畔などには広葉樹を主体としてシデ類やカバノキ属、ハンノキ属、ニレ属・ケヤキ属、カエデ属などを含む多くの分類群が生育したとされている。また、分析対象とされた堆積層は、木本および草本花粉の産出状況によって分けられ、とくにコナラ属コナラ亜属の減少とイネ科（イネ属を含む）の多産という特徴も指摘される。

以上の産状を踏まえ、今回の分析結果についてみると、コナラ属コナラ亜属については、放射性炭素年代測定試料の炭化材に認められたクヌギ節やコナラ節が含まれる。また、古代の住居跡覆土ではイネ属植物珪酸体が比較的高い含量を示したが、兄川河床遺跡のイネ科花粉が多産した層位では、イネ属花粉の割合が高い（26～34%）という状況が指摘できる。これらの状況と兄川河床遺跡の花粉群集組成の特徴との関連性については、調査事例が少ないため、さらに資料の蓄積による検討が望まれる。

III. 植物利用

1. 試料

(1) 樹種同定

試料は、I章の放射性炭素年代測定に供された炭化材10点である。試料の詳細は、結果とともに表4に記す。

(2) 種実遺体分析

試料は、古代の住居跡内や覆土などから採取された土壤や炭化物である。以下に、各試料の概要を記す。

1) D区 I 5号住

試料は、5号住の床下から出土した土器皿内（5号住床下；P-2）を充填する土壤である。土壤は、土器皿内底部に認められ、焼土様（橙褐色～褐色の極細粒砂～シルト）を呈する。

2) D区 I 14号住

試料は、14号住のカマド床下より採取された土壤10点（14号住-1～10）である。試料の観察では、いずれも極微量の炭化物および焼土（橙褐色～褐色泥～泥質砂）が混じる黒褐色～暗褐色（灰褐色）色を呈する砂質泥～泥質砂からなる。

3) D区 I 18号住

試料は、住居跡覆土の中層より採取された土壤（暗褐色砂泥じりシルト；18住C-6炭化種子）である。試料の観察では、この土壤試料中には、炭化種子とみられる多量の粒状炭化物（径約2～3mm）や粒状炭化物が含めし塊状を呈する炭化物が混じる状況が確認された。

4) D区 I 22号住

試料は、住居跡中央よりやや北東部に位置する床面上より出土した植物遺体1点（22住炭化物-1）である。

2. 分析方法

(1) 樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柵目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）や Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

(2) 種実遺体分析

土壤試料は、水を満たした容器に投入し、浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌した後、浮いた炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（20～30回程度）。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料をシャーレに集めて40℃48時間乾燥後、双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて種実遺体を抽出する。

土壤試料より抽出された種実遺体および床面より出土した植物遺体の同定は、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）などを参考とし、個数を数えて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区别

が困難な複数の分類群は、-（ハイフオン）で結んで表示する。分析後は、種実遺体を容器に入れて保管する。種実以外の抽出物と分析残渣は、重量を記録し、チャック付ポリ袋に入れて保管する。

3. 結果

1) 樹種同定

同定結果を表4に示す。放射性炭素年代測定に供された炭化材は、広葉樹3分類群（コナラ属コナラ亜属クヌギ節、コナラ属コナラ亜属コナラ節、クリ）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

- ・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1-2列、道管は孔圈外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1-20細胞高のものと複合放射組織がある。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1-2列、道管は孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1-20細胞高のものと複合放射組織がある。

- ・クリ (*Castanea* *crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1-15細胞高。

2) 種実遺体分析

1) 種実遺体の出土状況

結果を表5に示す。分析に供された8試料を通じて、被子植物16分類群（木本のモモ、草本のイネ、オオムギ、コムギ、キビ、ヒエ近似種、イネ科、テンツキ近似種、ソバ、アカザ科、マメ科（アズキ類、ダイズ類）、マメ科？、エノキグサ、ナス科、メナモミ属）711個の種実が同定された。この他、種類の同定に至らず不明とした種実が47個ある。種実遺体以外では、炭化材や土器片が確認された。以下に、試料毎に産状を述べる。

- ・5号住（貼床下土器P-2）

土壤10cc(15.5g)からは、種実遺体は確認されなかった。分析残渣は4.5gを量る。

表4. 樹種同定結果

遺構名	地点名	試料名	形状	径*	種類
5号住		C-4	芯持丸木状	3.0	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
7号住		C-5	半裁状	3.5	コナラ属コナラ亜属コナラ節
10号住		C-30	(ミカン削状)	(3.0)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
11号住		C-7	芯持丸木状	1.4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
12号住		C-5	(ミカン削状)	(>1.5)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
15号住		C-2	(ミカン削状)	(1.0)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
18号住		C-10	(ミカン削状)	(>2.5)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
28号住		炭№1	(ミカン削状)	(1.0)	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
29号住	カマド	C	(ミカン削状)	(>1.5)	コナラ属コナラ亜属コナラ節
1号集石		C-10	(ミカン削状)	(>1.6)	クリ

*表中の括弧内の数字は、半径に相当する。

・14号住（試料番号2, 4, 6, 8, 10）

土壤（各試料500g）からは、栽培種の炭化種実が少量確認されたのみであったため、さらに土壌1.5～2kg程度を追加して分析を実施した。その結果、各試料2.5kg（14号住-10は約2kg）からは、栽培種7分類群（モモ、イネ、オオムギ、コムギ、ヒエ近似種、マメ科（アズキ類、ダイズ類）54個、その他の草本4分類群（イネ科、マメ科？、ナス科、メナモミ属）10個、計64個の炭化種実と、草本4分類群（イネ科、テンツキ近似種、アカザ科、エノキグサ）11個の炭化していない種実が確認された。この他に、46個は状態不良の炭化物片のため種類の同定に至らず不明としている。種実以外では、14号住-6を除く4試料から土器片（17個）が確認された。分析残渣は、炭化材主体が計6.5g、砂礫主体が計1.1kgを量る。

炭化種実は、栽培種とその可能性がある分類群を主体とする。栽培種は、14号住-2から13個（イネの胚乳が7個、オオムギが5個、マメ科（ダイズ類）が1個）、14号住-4から7個（イネの穎が2個、胚乳が3個、オオムギが1個、ヒエ近似種が1個）、14号住-6から4個（イネの胚乳が1個、オオムギが2個、マメ科（ダイズ類）が1個）、14号住-8から21個（モモが2個、イネの穎が5個、胚乳が4個、オオムギが7個、コムギが1個、ヒエ近似種が1個、マメ科（アズキ類）が1個）、14号住-10から9個（イネの胚乳が4個、オオムギ・コムギが3個、コムギが2個）が確認された。

栽培種とその可能性を除いた分類群は、14号住-2からマメ科？が1個、14号住-8からイネ科が1個、マメ科？が3個、ナス科が1個、メナモミ属が2個、14号住-10からマメ科？が1個、メナモミ属が1個確認された。いずれも明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する草本類である。

なお、炭化していない種実に関しては、後代の混入の可能性が高いと判断されるため、結果の表示にとどめ、解析からは除外している。

・18号住（C-6）

土壤30cc（25.5g）からは、炭化した栽培種のキビの穎・胚乳が475個（1.0g）とイネの穎・胚乳が3個（0.02g）の、計478個（1.0g）が確認された。分析残渣は、炭化材主体が0.02g、砂礫主体が3.7gを量る。

なお、本試料については、上記した結果を踏まえ、さらにキビ以外の穀類の把握を目的として、土壤100cc（173.0g）について分析を行った。その結果、イネの胚乳が2個（0.01g）、コムギが1個（<0.01g）、ソバが5個（0.02g）、マメ科（アズキ類）が1個（0.02g）確認された。多量のキビは、複数個が集結した塊状炭化物と、状態が良好な100個を上限に抽出し、残りは完形主体と破片主体とに一括している。完形主体のキビの重量（6.38g）から推定される数量は約5,300個、破片主体も合わせた重量（8.6g）から推定される数量は約7,200個である。分析残渣は、炭化材主体が0.04g、砂礫主体が26.6gを量る。

・22号住（炭化物-1）

植物遺体は、灰褐色、長さ3.0cm、径1.5cmの紡錘体を呈し、湿重2.2gを量る。本試料は、炭化していない植物の節の可能性がある。

2) 主要分類群の記載

以下に、主な分類群の形態的特徴などを述べる。

・モモ（PrunuspersicaBatsch） バラ科サクラ属

核は炭化しており黒色、完形ならば、長さ1.5～2.5cm、径1～2cmのやや偏平な広楕円体で、頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縱溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。出土核は半分未満の破片で、残存径は5.5mmを測る。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。半割面は平滑で、1個の種子が入る広卵状の窪みがある。

・イネ（OryzasatativaL.） イネ科イネ属

本分析で確認された炭化米は、表面模様がほぼ明瞭で、果皮や種皮が残る玄米の状態で、内穎や外穎（糊）の付着もみられた。炭化米の出土部位の厳密な区別は困難であるため、本分析では、非可食部の内穎・外穎を「穎（果）」、内部の可食部を「胚乳」としている。

胚乳は、炭化しており黒色、長さは4.0～4.4mm、幅2.5～3.1mm、厚さは1.5～1.8mmのやや偏平な長楕円体。基部一端には、胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面は、2～3本の縦隆条が明瞭で、穎が付着した個

体が確認された。

穎(果)は、炭化個体は黒色、灰化個体は灰白色。完形ならば長さ6~7.5mm、幅3~4mm、厚さ2mm程度の偏平な長楕円体。破片は最大2mm程度。基部に径1mm程度の斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎(護穎)と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稈粉を構成する。穎は薄く、表面には顆粒状突起が縱列する。

・オオムギ (*Hordeum vulgare L.*) イネ科オオムギ属

胚乳は炭化しており黒色、長さ4.0~5.2mm、幅2.5~3.1mm、厚さ2.1~2.3mmのやや偏平な紡錘状長楕円体で両端は尖る。腹面正中線上にやや太く深い縱溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面は粗面で微細な縱筋がある。

・コムギ (*Triticum aestivum L.*) イネ科コムギ属

穎(果)・胚乳は炭化しており黒色、長さ3.7mm、幅2.0mm、厚さ1.3mmの楕円体で、オオムギよりも丸みを帯びる。腹面正中線上にやや太く深い縱溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面には微細な粒状模様があり、穎が付着する個体もみられる。穎は薄く、表面は平滑で微細な縱筋が配列する。

なお、状態が不良で、オオムギとの区別が難しい個体を「ハイフォン」で結んでいる。

・キビ (*Panicum italicum L.*) イネ科キビ属

穎(果)・胚乳は炭化しており黒色、やや偏平な広卵形で背面は丸みがあり腹面はやや平ら。胚乳基部正中線上は、背面に長さ0.8~1.1mm、幅0.6~0.9mmの馬蹄形、腹面に径0.5mmの半円形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面で、穎(果)が付着する個体が多い。果皮は薄く、表面は平滑で光沢があり、微細な縱長の網目模様が縱列する。

18号住(C-6)より出土した状態が良好な100個の大きさは、長さが最小1.7~最大2.3(平均2.02±標準偏差0.10)、幅が1.5~2.0(平均1.79±0.10)、厚さが1.2~1.7(平均1.40±0.10)であった(表6)。なお、長さ1.3mm、幅1.0mm程度の小型個体は、生育状態が不良なキビあるいは野生種に由来する可能性があるため、キビ?としている。

複数の穎・胚乳が密着した塊状炭化物も確認された。塊状炭化物は、最大径0.5mmを測り、個々の穎果は隣接するが、同一方向の配列は認められず、区々である。葉や茎などの他の部位や、他の分類群の種実、虫類などの混入物も認められなかった。

・ヒエ近似種 (*Echinochloa cf. utilis Ohwiet Yabuno*) イネ科ヒエ属

胚乳は炭化しており黒色。長さ2.0mm、幅1.3mm、厚さ0.8mm(14号住:4)と、長さ2.1mm、幅1.5mm、厚さ0.9mm(14号住:8)の半広卵形。背面は丸みがあり腹面はやや平ら。胚乳基部正中線上は、背面に長さ0.9mm、幅0.6mmの馬蹄形、腹面に径0.5mm程度の半円形の胚の凹みがある。胚乳表面は粗面。

・ソバ (*Fagopyrum esculentum oenoch*) タデ科ソバ属

果実は炭化しており黒色、径2.5~4.3mmの三稜状広卵形。稜は鋭く尖り、基部に萼がある。表面は粗面で、浅く細い横筋状模様がある。

・アズキ類 (*Vigna subgen. Ceratotropis* (Piper) Verdc.) マメ科ササゲ属

種子は炭化しており黒色、長さ5.3mm、幅3.4mm、厚さ3.6mm(18号住:C-6)のやや偏平な直方体状楕円体。腹面の子葉合わせ目上に、残存長3.1mm、幅1.0mmの長楕円形の臍がある。臍は種皮よりもやや窪んだ位置にあり、長軸正中線上に走る臍溝は「厚膜タイプ」(小畠,2008)である。表面に泥が付着するため、幼根や珠孔、種瘤は不明瞭であった。

子葉の合わせ目に沿って割れた面はやや平滑で、北大基準(吉崎,1992)の「アズキグループ(幼根が臍の終わり程から急に立ち上がり、胚珠中央に向けて伸びる)」に該当する初生葉の痕跡や、胚軸跡の溝が確認される。種皮は薄く、表面はやや平滑~粗面で、断面は柵状。

・ダイズ類 (*Glycine max (L.) Merr. subsp. max (L.) Merr.*) マメ科ダイズ属

種子は炭化しており黒色、長さ4.0mm、幅3.4mm、厚さ2.8mm(14号住:6)のやや偏平な楕円体で焼き彫れている。腹面の子葉合わせ目上にある長楕円形の臍を欠損する。幼根は突出し、長さ2.1mm、幅1.1mm

表5. 種実遺体分析結果

分類群	部位	状態	D区						備考			
			5号住	14号住	18号住		22号住					
			貼床下 土器 P.2	24.6. 8.10	C-6種子(炭化)	数量	重量	炭化物 -1				
炭化物												
栽培種												
モモ	核	破片	-	2	-	-	-	-				
イネ	穎	破片	-	5	-	-	-	-	14住8: 灰化			
		破片(基部)	-	2	-	-	-	-				
	穎・胚乳	完形	-	1	2	0.01	1	0.01				
		破片(基部)	-	-	1	0.01	-	-				
	胚乳	完形	-	5	-	-	1	<0.01				
		破片	-	13	-	-	-	-				
オオムギ	胚乳	完形	-	7	-	-	-	-				
		破片	-	8	-	-	-	-				
オオムギ・コムギ	胚乳	完形	-	1	-	-	-	-				
		破片	-	2	-	-	-	-				
コムギ	穎・胚乳	完形	-	1	-	-	-	-				
	胚乳	完形	-	2	-	-	1	<0.01				
キビ	穎・胚乳	完形	-	-	446	0.53	100	0.12	- *1			
	穎・胚乳	塊状	-	-	15	0.18	48	0.17	-			
キビ?	穎・胚乳	完形	-	-	14	0.02	-	-	小型			
キビ主体	穎・胚乳	完形主体	-	-	-	-	-	6.38	乾重(g), 推定約5.300 個			
		破片主体	-	-	-	0.28	-	1.93	乾重(g), 植物片等含む			
ヒエ近似種	胚乳	完形	-	2	-	-	-	-				
ソバ	果実	完形	-	-	-	-	5	0.02	-			
マメ科(アズキ類)	種子	完形	-	-	-	-	1	0.02	-			
		破片	-	1	-	-	-	-				
マメ科(ダイズ類)	種子	完形	-	1	-	-	-	-	駆露出			
マメ科(ダイズ類?)	種子	完形	-	1	-	-	-	-	駆欠損			
その他(草本)												
イネ科	胚乳	完形	-	1	-	-	-	-				
マメ科?	種子	完形	-	5	-	-	-	-	14住8: 1個発芽			
ナス科	種子	完形	-	1	-	-	-	-				
メナモミ属	果実	完形	-	3	-	-	-	-				
不明		破片	-	46	-	-	-	-				
炭化材主体(植物片・砂礫等含む)			-	6.54	-	0.02	-	0.04	乾重(g)			
炭化種実合計												
栽培種			-	54	478	1.03	157	8.65	計689個			
その他(草本)			-	10	-	-	-	-	計10個			
合計			-	64	478	1.03	157	8.65	計699個			
炭化していない植物												
イネ科	果実	完形	-	1	-	-	-	-				
		破片	-	1	-	-	-	-				
テンツキ近似種	果実	完形	-	1	-	-	-	-				
アカザ科	種子	完形	-	4	-	-	-	-				
		破片	-	3	-	-	-	-				
エノキグサ	種子	完形	-	1	-	-	-	-				
不明	節?	-	-	-	-	-	-	1	長さ3.0cm, 径1.5cm			
無機物												
土器片			-	17	-	-	-	-				
			-	29	-	-	-	-	乾重(g)			
砂礫主体			5	1,124	-	3.7	-	26.6	乾重(g), 5住: 燃土主体			
分析量			15.5	12,025	25.5	-	173.0	2.2	湿重(g)			
			10	-	30	-	100	-	(cc)			

*1 状態の良好なキビ100個を計測(表5)

表6. 18号住（C-6;種子（炭化））出土キビの大きさ

番号	計測値 (mm)			番号	計測値 (mm)			番号	計測値 (mm)			番号	計測値 (mm)		
	長さ	幅	厚さ		長さ	幅	厚さ		長さ	幅	厚さ		長さ	幅	厚さ
1	2.1	1.7	1.4	26	2.1	1.6	1.2	51	2.1	1.9	1.4	76	2.0	1.7	1.3
2	2.0	1.8	1.5	27	2.0	1.7	1.4	52	1.8	1.8	1.3	77	2.1	2.0	1.5
3	1.8	1.8	1.3	28	2.0	1.9	1.2	53	2.0	1.8	1.5	78	1.8	1.9	1.5
4	2.0	1.8	1.3	29	2.1	1.8	1.4	54	1.8	1.8	1.5	79	2.0	1.7	1.2
5	1.9	1.9	1.4	30	2.0	1.6	1.3	55	2.1	1.8	1.5	80	2.0	2.0	1.7
6	1.9	2.0	1.4	31	2.1	1.7	1.6	56	2.0	1.8	1.4	81	2.0	1.8	1.4
7	2.1	1.7	1.4	32	1.9	1.7	1.4	57	2.1	1.9	1.5	82	2.0	1.7	1.4
8	2.0	1.7	1.3	33	2.1	1.9	1.4	58	1.9	1.9	1.4	83	2.0	1.8	1.5
9	2.1	1.7	1.4	34	2.0	1.9	1.4	59	2.2	1.9	1.4	84	2.0	1.8	1.4
10	2.1	1.9	1.7	35	2.0	1.5	1.3	60	2.0	1.7	1.4	85	2.1	1.8	1.5
11	2.0	1.7	1.4	36	2.2	1.8	1.4	61	1.9	1.8	1.3	86	2.0	1.7	1.3
12	2.1	1.6	1.4	37	2.0	1.9	1.5	62	2.1	1.6	1.3	87	1.9	1.9	1.4
13	2.0	1.9	1.4	38	2.0	2.0	1.4	63	1.9	1.7	1.3	88	2.3	1.8	1.4
14	2.2	1.8	1.3	39	2.0	1.9	1.6	64	2.0	1.7	1.3	89	1.9	1.9	1.4
15	2.2	1.8	1.5	40	2.0	1.5	1.5	65	1.9	1.8	1.3	90	2.0	1.9	1.5
16	2.0	1.7	1.5	41	2.0	1.8	1.3	66	2.0	1.7	1.3	91	2.1	1.9	1.4
17	2.1	1.8	1.5	42	2.0	1.9	1.5	67	2.1	1.8	1.3	92	2.0	1.8	1.5
18	1.9	1.9	1.5	43	2.0	1.8	1.3	68	2.0	1.8	1.5	93	2.1	1.9	1.5
19	1.9	1.7	1.4	44	2.0	1.9	1.4	69	2.1	1.8	1.3	94	1.9	1.9	1.4
20	1.9	1.9	1.4	45	2.2	2.0	1.5	70	2.1	1.9	1.5	95	2.0	1.6	1.3
21	2.1	1.7	1.4	46	2.1	1.8	1.3	71	1.9	1.8	1.3	96	2.0	1.8	1.4
22	2.1	1.9	1.7	47	2.0	1.7	1.2	72	2.0	1.9	1.4	97	2.0	1.8	1.4
23	1.7	1.8	1.4	48	2.2	1.9	1.6	73	2.0	1.7	1.4	98	2.1	1.7	1.5
24	1.9	2.0	1.4	49	1.9	1.8	1.3	74	2.2	1.8	1.5	99	2.1	1.8	1.4
25	2.0	1.8	1.4	50	2.1	2.0	1.4	75	2.0	1.8	1.3	100	1.9	1.7	1.4
標本数 (n)				100			100			100			100		
				最小			1.7			1.5			1.2		
				最大			2.3			2.0			1.7		
				平均			2.02			1.79			1.40		
				標準偏差			0.10			0.10			0.10		

1) 計測にはデジタルノギスを用いた。

2) 番号1～40は試料30cc、番号41～100は試料100ccより選択・抽出。

を測る。種皮表面は粗面で、焼き崩れて発泡している。

4. 考察

(1) 木材利用

平安時代頃の年代を示した住居跡出土炭化材には、クヌギ節とコナラ節が認められた。クヌギ節とコナラ節は、いずれも二次林を構成する落葉高木であり、クヌギ節はより湿った環境を好む。また、木材の材質は、いずれも重硬で強度が高い。

住居跡出土炭化材は、各遺構1点と数量が少ないものの、対象とした9点のうち7点をクヌギ節が占めることから、クヌギ節を主体とした木材利用の可能性がある。また、コナラ節の炭化材が確認された29号住試料は、カマド出土であることから燃料材としての利用も考えられる。なお、本遺跡周辺（嶽東地域）における古代の住居跡から出土した炭化材の調査事例では、古婦毛遺跡（旧勝沼町）や足原田遺跡（山梨市）などでクヌギ節、コナラ節、モミ属などが確認されている（伊東・山田,2012）。

一方、绳文時代中期前半頃の年代を示した1号集石の炭化材は、クリに同定された。クリは、二次林などに生育する落葉高木で、木材は重硬で強度や耐朽性が高い。今回の結果から、クリが燃料材として利用されたことが推定される。本遺跡周辺では、西田町遺跡（旧一宮町）の集石堆から出土した炭化材にクヌギ節が確認された事例がある。この他は、嶽北地域の遺跡から出土した炭化材の事例が多く、とくに住居跡から出土した炭化材が主体であり、クリの利用が多く認められている（伊東・山田,2012）。

(2) 植物質食料

古代の住居跡より採取された試料を対象とした種実遺体分析の結果、カマド床下の焼土（14号住）からは炭化した果樹のモモ、穀類のイネ、オオムギ、コムギ、ヒエ近似種、豆類のマメ科（アズキ類、ダイズ類）が、住居跡覆土試料（18号住）からは多量の炭化した雑穀類のキビの穎・胚乳のほか、穀類のイネ、コムギ、

ソバと、豆類のマメ科（アズキ類）が確認された。このうちモモやイネ、ムギ類（オオムギ、コムギ）、キビ、ソバは渡来した栽培種である。これらの栽培種や栽培の可能性のある炭化種実の検出から、平安時代頃における栽培および植物質食料としての利用が示唆される。

なお、14号住試料からはイネの穎や表面に穎が残るイネ、コムギが確認された。また、18号住試料より多量検出されたキビは、殆どが表面に穎がついた状態で、複数個が密着し塊状を為す状態の試料も確認された。14号住はカマド床下の焼土であることから、検出された炭化種実は食利用の痕跡あるいは植物質食料の非可食部の燃料材としての利用が推定される。18号住試料は、住居跡覆土の中層より検出されていることから、住居廃絶後の埋積過程において出土（採取）地点に廃棄されたことなどが想定される。さらに、上述したキビの産状などを考慮すると、キビは糊すり前の状態で保管されており、何等かの原因により炭化したことが推定される。

本遺跡周辺における平安時代頃の栽培種および栽培種の可能性がある種実遺体等などの検出事例としては、上記した兄川河床遺跡の事例が挙げられる。上述した11～13世紀頃と考えられる堆積層を対象とした分析結果では、炭化したイネの穎・胚乳および未炭化の穎のほか、コムギ、アワ、エゴマ、ナス属などの種実遺体やソバ属花粉が確認されている。

IV. 土壌化学分析

1. 試料

試料は、5号住覆土より採取された土壌3点（サンプル1-2, 2-2, 3-1）と、9号住の床下より出土した合子状態の壺内を埋積する土壌1点（9号住P-64・P-65）の、計4点である。本分析では、合子状態で出土した壺内の土壌の化学性（有機炭素、全リン酸、全カルシウム）に着目し、5号住試料を対照として、検討を行った。

2. 分析方法

有機炭素量はチューリン法、リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解一バナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解一原子吸光法（土壤標準分析・測定法委員会, 1986）に従った。以下に各項目の操作工程を示す。

(1) 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩で篩い分ける。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉碎し、0.5mm篩を全通させ、粉碎土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

(2) 有機炭素

粉碎土試料0.400～0.600gを100ml三角フラスコに正確に秤とり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C 乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

(3) リン酸、カルシウム含量

粉碎土試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO₃）約10mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO₄）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P2O₅）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P2O₅mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

3. 結果

結果を表7に示す。

(1) 5号住覆土

5号住覆土試料の3点（サンプル1-2, 2-2, 2-1）の野外土性（ペドロジスト懇談会編, 1984）はいずれもCL（埴壌土）であり、土色はサンプル1-2および3-2が黒褐（10YR2/3）、サンプル2-2が黒褐（10YR2/2）とやや暗色である。

腐植含量は、サンプル1-2が1.62%、サンプル2-2が1.78%、サンプル3-2が1.48%であり、土色に相応した値を示す。リン酸含量はサンプル1-2が1.84mg/g、サンプル2-2が1.79mg/g、サンプル3-2が1.69mg/gであり、カルシウム含量はサンプル1-2が3.79mg/g、サンプル2-2が3.83mg/g、サンプル3-2が4.03mg/gと、ほぼ一定の値である。

(2) 9号住杯内（9号住P-64・P-65）

9号住の合子状態で出土した杯内土壤の野外土性はLiC（軽埴土）であり、土色は黒褐（10YR2/2）とやや暗色である。土壤の化学性は、腐植含量が2.03%、リン酸含量が2.38mg/g、カルシウム含量が4.99mg/gであり、いずれも5号住覆土試料の値を上回る。

4. 考察

リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壤中に還元され、土壤有機物や土壤中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成することができる。特に活性アルミニウムの多い火山灰土では、非火山性の土壤や沖積低地堆積物などに比べればリン酸の固定力が高いため、火山灰土に立地した遺跡での生物起源残留物の痕跡確認にリン酸含量は有効なことがある。

土壤中に普通に含まれるリン酸含量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例がある（Bowen, 1983; Bolt・Bruggenwert, 1980; 川崎ほか, 1991; 天野ほか, 1991）。これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0mg/g程度であり、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5mg/g（川崎ほか, 1991）という報告例がある。また、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壤では6.0mg/gを越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通1~50mg/g（藤貫, 1979）といわれ、含量幅がリン酸よりも大きい傾向にある。これは、リン酸に比べると土壤中に固定され難い性質による。

今回の分析対象とした試料のうち、対照試料とした5号住覆土試料では腐植含量は土色に相応する傾向にあり、サンプル2-2で1.78%と最も高い。また、リン酸およびカルシウム含量は、3試料ともに上記した天然賦存量の範囲内にあり、リン酸含量が1.69~1.84mg/g、カルシウム含量が3.79~4.03mg/gであった。これに対して、9号住の杯内土壤は、腐植含量が2.03%、リン酸含量が2.38mg/g、カルシウム含量が4.99mg/gと5号住覆土試料との比較においては各項目ともに高い値を示すものの、リン酸・カルシウム含量とともに天然賦存量の範囲内にある。

以上の結果から、各試料とともに天然賦存量の範囲内にあるため、動・植物遺体が富化された痕跡を見出すことは困難である。また、9号住杯内土壤の化学性は、5号住覆土試料との比較では、腐植とリン酸の挙動から正の相関が推定され、リン酸含量は腐植の増加に伴う可能性が高いと判断される。

表7. 土壤化学分析結果

調査区	遺構	試料番号	土性 ^{a)}	土色 ^{b)}		有機炭素 (%)	腐植 ^{c)} (%)	全リン酸 P2O5 (mg/g)	全カルシウム CaO (mg/g)
D区I	5号住	1-2	CL	10YR2/3	黒褐	0.94	1.62	1.84	3.79
		2-2	CL	10YR2/2	黒褐	1.03	1.78	1.79	3.83
		3-2	CL	10YR2/3	黒褐	0.86	1.48	1.69	4.03
	9号住	P-64・P-65	LiC	10YR2/2	黒褐	1.18	2.03	2.38	4.99

1) 土性: 土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編, 1984）の野外土性による。

CL: 増壌土（粘土15~25%、シルト20~45%、砂3~65%）

LiC: 軽埴土（粘土25~45%、シルト0~45%、砂10~55%）

2) 土色: マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修, 1967）による。

3) 腐植: 有機炭素素×1.724.

引用文献

- 天野洋司・太田 健・草場 敏・中井 信,1991. 中部日本以北の土壤型別蓄積リンの形態別計量. 農林水産省 農林水産技術会議事務局編 土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発,28-36.
- Bolt,G.H.・Bruggenwert,M.G.M,1980. 土壤の化学. 岩田進午・三輪聰太郎・井上隆弘・陽 捷行訳, 学会出版センター,309p.
- Bowen,H.J.M.,1983. 環境無機化学- 元素の循環と生化学-. 浅見輝男・茅野充男訳, 博友社,297p.
- 土壤標準分析・測定法委員会編,1986. 土壤標準分析・測定法, 博友社,354p.
- 藤貫 正,1979. カルシウム. 地質調査所化学分析法,52,57-61.
- 石川茂雄,1994. 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 川崎 弘・吉田 霧・井上恒久,1991. 九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量. 農林水産省 農林水産技術会議事務局編 土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発,23-27.
- 近藤鍊三,2010. プラント・オパール図譜. 北海道大学出版会,387p.
- 三宅 尚・中越信和,1998. 森林土壤に堆積した花粉・胞子の保存状態. 植生史研究,6,15-30.
- 中村 純,1967. 花粉分析. 古今書院,232p.
- 中村 純,1980. 日本產花粉の標徵 I II (図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12,13集,91p.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000. 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会,642p.
- 農林省農林水産技術会議事務局監修,1967. 新版標準土色帖.
- 小畠弘巳,2008. マメ科種子同定法. 「極東先史古代の雑穀3」, 日本学術振興会平成16~19年度科学研究費補助金 (基盤B-2) (課題番号16320110) 「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書. 小畠弘巳編, 熊本大学埋蔵文化財調査室,225-252.
- ペドロジスト懇談会,1984. 野外土性の判定. ペドロジスト懇談会編 土壤調査ハンドブック, 博友社,39-40.
- 島倉巳三郎,1973. 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集,60p.
- 杉山真二,2000. 植物珪酸体 (プラント・オパール). 辻 誠一郎 (編著) 考古学と自然科学3 考古学と植物学. 同成社,189-213.
- 徳永重元・山内輝子,1971. 花粉・胞子・化石の研究法. 共立出版株式会社,50-73.
- 吉崎昌一,1992. 古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナル No.355,2-14.

膳棚遺跡D区出土土師器の胎土分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

膳棚遺跡D区は、甲府盆地北東部を流れる笛吹川の支流である兄川が作る小扇状地の南東端部付近に位置している。この扇状地は、高位、中位、低位の各段丘に区分されており（三村ほか,1984）、膳棚遺跡の位置は低位段丘上にある。低位段丘はローム層の載っていない侵食段丘面とされていることから、完新世以降に離水したものと考えられる。

本報告では、膳棚遺跡D区から出土した平安時代の土師器の材質（胎土）の特性を明らかにすることにより、周辺地質との比較などから、土器の产地に関する資料を作成する。また、膳棚遺跡の北側に分布する丘陵斜面上には、荒神山遺跡が存在し、窯跡とみられる遺構が確認されている（山梨市教育委員会,1987）。今回の分析では、山梨市より提供された荒神山窯跡の2号窯より出土した土師器についても同様の分析を実施し、生産地（窯跡）と消費地（集落）との間の胎土の特性の比較・検討も行った。

1. 試料

試料は、膳棚遺跡D区の住居跡から出土した平安時代の土師器環3点と、柱状高台を有する土師器2点の計5点と、荒神山遺跡の2号窯から出土した土師器環4点と柱状高台を有する土師器1点の計5点の、合計10点である。

なお、本分析では、便宜上、膳棚遺跡出土試料をNo.1～5、荒神山遺跡の2号窯試料をNo.6～10と番号を付して扱っている。各試料の詳細および分析時の試料観察結果を一覧として、表1に示す。

2. 分析方法

胎土分析には、現在様々な分析方法が用いられているが、大きく分けて鉱物組成や岩片組成を求める方法と化学組成を求める方法がある。前者は切片による薄片作製が主に用いられており、後者では蛍光X線分析が最もよく用いられている方法である。前者の方法は、胎土の特徴が捉えやすいこと、地質との関連性を考えやすいことなどの利点があり、胎土中における砂粒の量や、その粒径組成、砂を構成する鉱物片、岩石片および微化石の種類などを捉えることが可能であり、得られる情報が多い。以下に、本分析で実施した薄片作製観察の工程を記す。

表1. 胎土分析試料一覧

試料 No.	遺跡名	遺構	遺物No.	剖面・部位	重量 (g)	観察所見
1	膳棚D	5住	P-21	Hf	53.31	全体的に砂粒が目立たないきめ細かな質感を呈する表面であり、鉱物は径0.5mm以下の黒雲母片が中量認められる。
2	膳棚D	9住	P-29	柱状高台	41.07	径0.5～1.5mmの石英粒や白色粒が少額、径0.5mm以下の黒色鉱物粒が少量散在する。
3	膳棚D	10住	P-5	柱状高台	42.61	径0.5mm以下の白色粒が少額、径0.5mm以下の黒色鉱物粒が少量散在し、径1.0mmの黒雲母片が極微量認められた。
4	膳棚D	18住 カマド	P-6	Hf	46.31	全体的に砂粒が目立たないきめ細かな質感を呈する表面であり、鉱物は径0.5mm以下の黒色鉱物粒が中量認められる。
5	膳棚D	21住	P-35	Hf	95.41	径0.5～1.5mmの石英粒が微量、径0.5mm以下の黒色鉱物粒が少量散在する。
6	荒神山	2号窯	P-14	Hf	40.52	径0.5～1.5mmの石英粒が少額散在する。
7	荒神山	2号窯	P-20	Hf	15.58	全体的に砂粒が目立たないきめ細かな質感を呈する表面であり、鉱物は径0.5mm以下の石英、黒色鉱物粒、黒雲母片が少額認められる。
8	荒神山	2号窯	P-23	Hf	21.90	径0.5～1.5mmの石英粒や白色粒が少額、径0.5mm以下の黒色鉱物粒が少額散在する。
9	荒神山	2号窯	P-38	Hf	43.24	径0.5～1.5mmの赤色粒が少額、径0.5mm以下の石英、黒色鉱物粒、黒雲母片が微量散在する。
10	荒神山	2号窯	-	柱状高台	65.00	径1.0～3.0mmの花崗岩片、径1.0～1.5mmの白色粒、径0.5mm以下の石英が微量散在する。

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成を明らかにした。

薄片観察結果は、松田ほか（1999）の方法に従って表記する。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片および岩石片の種類構成を調べたものである。この方法では、胎土における砂の含量や粒径組成により、土器の製作技法の違いを見出すことができるため、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能である。以下にその手順を述べる。

砂粒の計数は、メカニカルステージを用いて0.5mm間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。なお、径0.5mm以上の粗粒砂以上の粒子については、ポイント数ではなく粒数を計数した。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを示す。

3. 結果

観察結果を表2、3、図1～4に示す。以下に、鉱物・岩石組成、粒径組成、碎屑物・基質・孔隙の順に各試料の特徴を述べる。

(1) 鉱物・岩石組成

1) 脇棚遺跡D区

No.1を除く4試料は、ほぼ同様の組成を示す。すなわち、砂粒の主体は、互いにほぼ同量程度の石英と斜長石の鉱物片であり、これらに次いで角閃石の鉱物片と花崗岩類の岩石片が少量含まれる。この他、カリ長石、斜方輝石、緑簾石、黒雲母などの鉱物片や、泥岩、砂岩、凝灰岩、流紋岩・デイサイト、安山岩、多結晶石英および火山ガラスなどがいずれも微量含まれる。また植物珪酸体とみられる微化石も微量認められた。

No.1は、石英と斜長石の鉱物片を主体とすることおよび角閃石の鉱物片を少量含むことは他の試料と同様であるが、花崗岩類の岩石片が含まれず、少量の黒雲母の鉱物片が含まれることで、他の試料とは区別される。

2) 荒神山遺跡2号窯

No.7を除く4試料は、ほぼ同様の組成を示す。その組成は、上述した脇棚遺跡D区試料のNo.2～5までの試料とはほぼ同様であると言える。花崗岩類以外に微量認められる岩石片には、脇棚遺跡D区試料と同様の砂岩と凝灰岩のほか、No.8にはホルンフェルスも認められる。

No.7は、石英と斜長石の鉱物片を主体とし、少量の角閃石の鉱物片を伴うという点では他の試料とも共通するが、上述したNo.1と同様に花崗岩類の岩石片を含まないことで、他の試料とは区別される。

(2) 粒径組成

脇棚遺跡D区試料では、No.1以外の4試料は、いずれも細粒砂をモードとする組成を示し、No.1は極細粒砂をモードとする。荒神山遺跡2号窯試料では、No.6、9、10の3試料は細粒砂をモードとする組成であるが、No.7は極細粒砂をモードとし、No.8は中粒砂をモードとする。このような各試料の粒径組成の傾向をより明確に捉える目的で、細粒砂より粗粒側の粒径（細礫、極粗粒砂、粗粒砂、中粒砂）と細粒側の粒径（極細粒砂、粗粒シルト、中粒シルト）に分けて、それぞれの割合を軸として散布図（図3）に示した。脇棚遺跡D区試料のNo.1と荒神山遺跡2号窯試料のNo.7は、ともに他の試料からは細粒側に大きく離れた位置にある。他の試料については、図の中央よりやや左寄り、すなわち粗粒側にずれた範囲に散開する。詳細にみると、脇棚遺跡D区試料のNo.2と荒神山遺跡2号窯試料のNo.8の2試料は、さらに粗粒側にずれた位置に分布する。

(3) 碎屑物・基質・孔隙の割合

碎屑物の割合は、多くの試料は20%前後の値を示す（図4）。ただし、脇棚遺跡D区試料のNo.1、荒神山遺跡2号窯試料のNo.7およびNo.8の3試料は約15%と若干低い値を示す。

表3. 薄片観察結果(2)

試料	薄片 分	砂粒の種類構成												合計									
		結晶片						岩石片							その他								
		石英	カリ長石	斜長石	斜方輝石	單斜輝石	角閃石	綠泥石	黑雲母	ジルコン	不透明物	泥岩	砂岩	凝灰岩	流紋岩	安山岩	多結晶石英	花崗岩類	ホルンフェルス	変質岩	火山ガラス	酸化鉄結核	植物珪化体
No.6 英神山 2号窓 P-14	細粒																						0
	英神山	3															1			2	1		7
	2号窓	14	1	2													1		3	7			28
	P-14	19	1	11	2		1										1	1					36
	粗粒砂	32	1	33	2		4	1													1		74
	極粗粒砂	11		20			2		1								1			1			36
	粗粒シルト	4		7			2	2												4	19		0
	中粒シルト																						839
	基質																						22
	孔隙																						
No.7 英神山 2号窓 P-20	細粒																						0
	極粗粒砂																						1
	粗粒砂																			2		2	
	中粒砂																						0
	細粒砂	16		8			1																25
	極細粒砂	23		14			3												2			42	
	粗粒シルト	19		9																1		29	
	中粒シルト																						0
	基質																						557
	孔隙																						12
No.8 英神山 2号窓 P-23	細粒																			1			1
	極粗粒砂																			2			2
	粗粒砂	2	1	1													1	8				13	
	中粒砂	9	3	7			2										3	6	1			31	
	細粒砂	12		9			2															24	
	極細粒砂	6		5			1															12	
	粗粒シルト	4		5			1												1	11		2	
	中粒シルト	1		1																		560	
	基質																						22
	孔隙																						
No.9 英神山 2号窓 P-38	細粒																						0
	極粗粒砂	1																					2
	粗粒砂	8					1												9			18	
	中粒砂	20	5		4											1	4	1				35	
	細粒砂	29	2	29	1	9	1	1	1													72	
	極細粒砂	9	23		10	4	1	1	1										1	49		20	
	粗粒シルト	6	8		4	1	1	1	1													4	
	中粒シルト	2	1		1			1														916	
	基質																						22
	孔隙																						
No.10 英神山 2号窓	細粒																		1				1
	極粗粒砂	5	1																				0
	粗粒砂	16	1	7		6										1	5	2				14	
	中粒砂	29	1	30	2	6	2	3	2							7	1					38	
	細粒砂	15		22		5	1	3	3							1	2					49	
	粗粒シルト	8		8		2	1												1	20		0	
	中粒シルト																						799
	基質																						43
	孔隙																						
	備考	基質はやシルト質で、黒雲母、酸化鉄、石英、長石類、炭酸物などで埋められる。変質岩としたものは、緑巖石、石英などからなり。花崗岩の変質部とみられる。																					

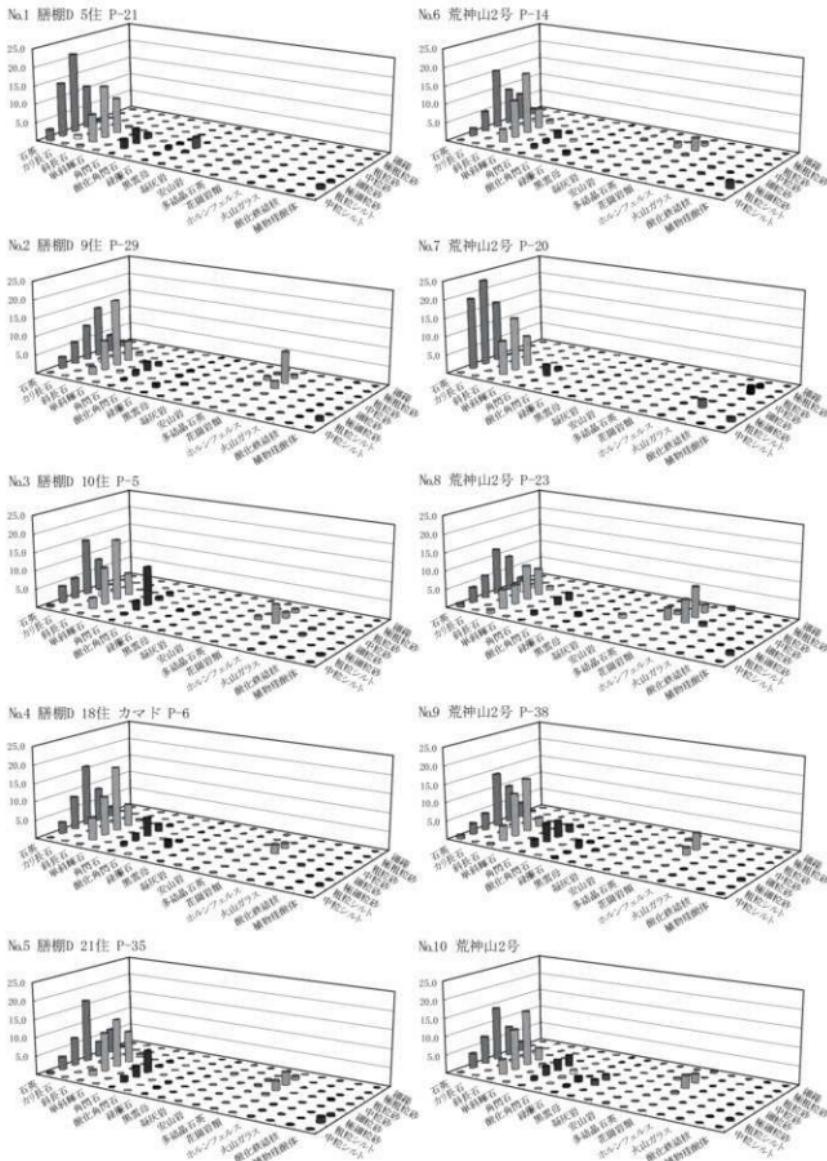


図1. 各粒度階における鉱物・岩石出現頻度

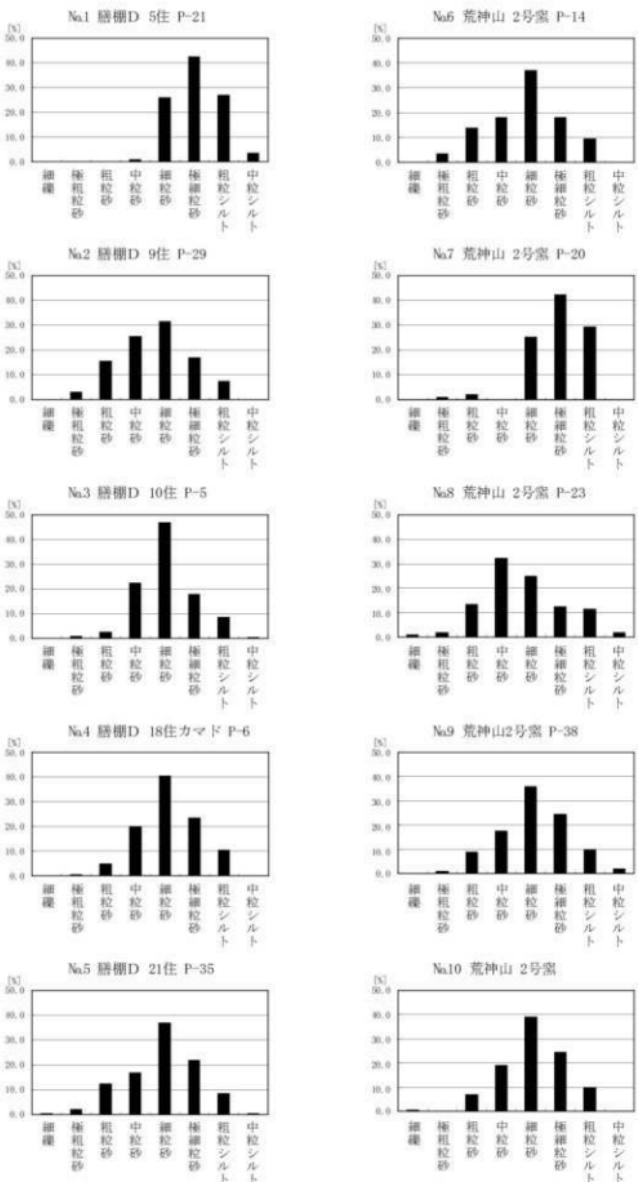


図2. 砂の粒径組成

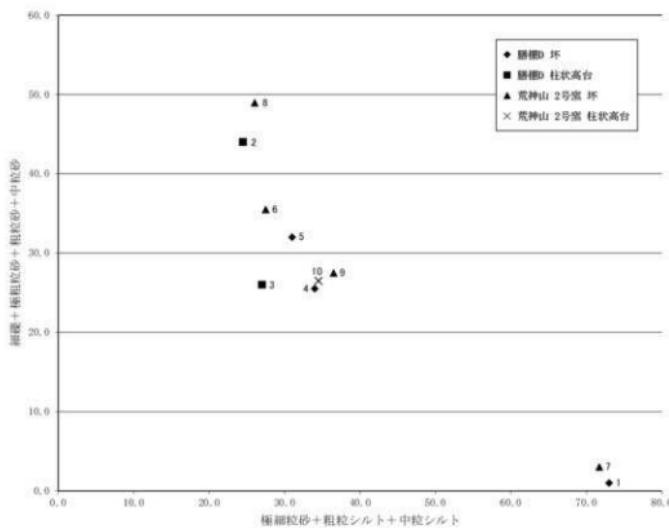


図3. 脱土中の砂の粒径組成散布図

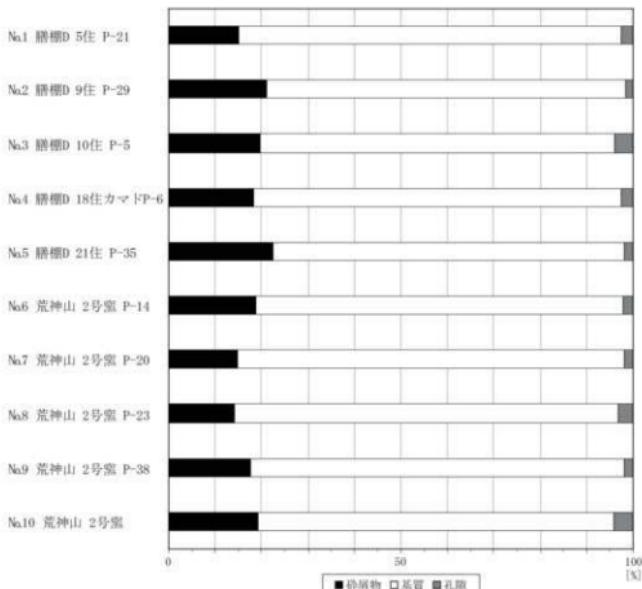


図4. 碎屑物・基質・孔隙の割合

4. 考察

(1) 土器胎土の特徴と地質学的背景

膳棚遺跡D区試料のNo.1と荒神山遺跡2号窯出土試料のNo.7を除く8試料は、鉱物・岩石組成において、石英と斜長石が多く、カリ長石が少ないと角閃石が多いことおよび花崗岩類の岩石片が多いという同様の特徴を示した。この結果から、同一の地質学的背景を有する地域内の堆積物が材料として使用されていると考えられる。また、上記した胎土の鉱物・岩石組成の特徴により、角閃石黒雲母花崗閃緑岩が広く分布する地質学的背景が推定される。

膳棚遺跡の位置する兄川の扇状地周辺の地質は、三村ほか（1984）に詳しい。兄川の扇状地は、北東側と南西側を山地に挟まれている。荒神山遺跡が位置する北東側の山地は、新第三紀中新世に形成された甲府花崗岩体の中の広瀬花崗閃緑岩により構成されており、兄川上流域の扇頂付近の北東側山地には花崗岩体に貫入された新第三紀中新世の馬場溶結凝灰岩という地質も分布する。一方の南西側の山地は、新第三紀鮮新世の山口輕石凝灰岩と窪平泥流堆積物により構成されている。広瀬花崗閃緑岩の岩相は、カミングトン閃石含有量緑色角閃石黒雲母トーナル岩・花崗閃緑岩と記載されているから、膳棚遺跡D区と荒神山遺跡から出土した土師器の胎土から推定される地質学的背景とよく一致する。

なお、花崗岩類以外に微量認められた岩石片については、三村ほか（1984）の記載により、泥岩や砂岩、凝灰岩、安山岩は山口凝灰岩と窪平泥流堆積物に由来が求められ、流紋岩・ディサイトおよびホルンフェルスは馬場溶結凝灰岩に由来を求めることができる。これらの花崗岩類以外の岩石片の含有量が、胎土中ではいずれも微量であることについては、2つの理由が考えられる。一つは花崗岩体の縁辺に分布する堆積物が使用されていることであり、このような堆積物の場合、花崗岩体表層から供給される岩石片が圧倒的に多いために、花崗岩体以外の由来の砂は微量となる。2つ目は、砂の由来を扇状地の砂礫層や河川砂を想定した場合に、花崗岩類とそれ以外の各岩石片では物理的な強さが異なるため、扇状地末端の堆積物中に残存する割合は花崗岩類の岩石片の方が相対的に多くなっているということである。実際に河西（1989）による甲府盆地の河川堆積物の分析では、花崗岩類の分布と他の地質が接しているような地質学的背景の笛吹川水系の河川砂においては、どの場所でも花崗岩類の岩石片の割合が突出して多い状況が示されている。

以上のことから、No.1とNo.7の2試料を除く土師器は、鉱物・岩石組成における特徴が互いに共通し、広瀬花崗閃緑岩の縁辺に相当する調査区周辺の堆積物が使用されている可能性が高いと考えられる。

また、No.1とNo.7の2試料は、花崗岩類の岩石片を含まないことと粒径組成が他の試料よりも細粒傾向にあるという特徴を示した。ただし、鉱物片の組成は、他の試料と同様であり、特にNo.1には黒雲母も含まれている。すなわち、鉱物組成からは、他の試料と同様に角閃石黒雲母花崗閃緑岩の分布域が地質学的背景として想定される。なお、これらの2試料の特徴として認められた花崗岩類の岩石片を含まない点や粒径の違いは、材料（粘土）採取地の違いや土師器製作時の調整などに起因する可能性もあり、今後の課題である。一方、2遺跡から出土する土師器には、特性の異なる胎土の土師器が含まれることが確認された点や、その胎土の特性が類似するという共通性は両者の関係が強いことを示していると考えられる。

また、今回の分析に供された試料には、柱状高台を有する土師器が3試料（膳棚遺跡D区；No.2, 3、荒神山遺跡2号窯；No.10）含まれる。上記したNo.1およびNo.7を除く、試料間の鉱物・岩石組成においては、明瞭な違いが認められないことから、材料（粘土）あるいは土師器製作過程における素地土の調整はほぼ同様であった可能性がある。

(2) 山梨県内の事例との比較

山梨県内のいわゆる郡内地域に所在する三ノ側遺跡（都留市）では、住居跡内より一括で出土した土師器などを対象に、今回と同様の手法を用いた調査が実施されている。三ノ側遺跡から出土した土師器については、観察所見により、在地性の堀之内原タイプのほか、甲府盆地、神奈川、静岡などの産地が予想される資料が供されている。その結果、胎土中の鉱物・岩石組成から推定される地質学的背景により、試料中には桂川流域に由来すると考えられるものが多いう結果が得られている。一方、三ノ側遺跡試料の一部には、観察所見および胎土分析結果からとともに甲府盆地産とされたものが確認されている。そこで、今回の分析結果と三ノ側遺跡の胎土分析によって甲府盆地産とされた土師器の鉱物・岩石組成および粒径組成について比

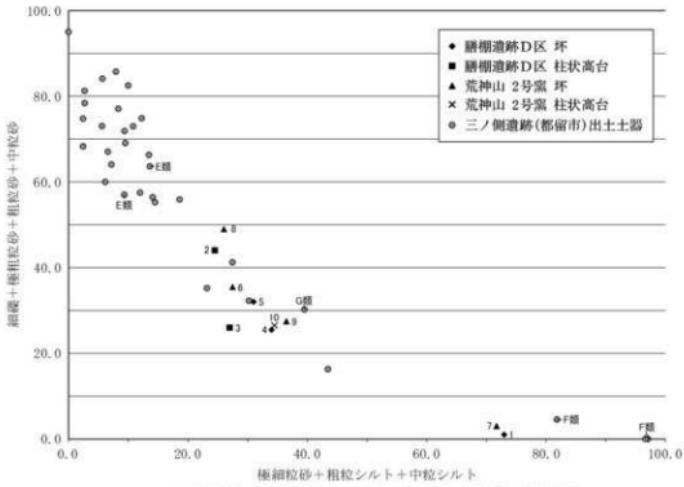


図5. 胎土中の砂の粒径組成散布図

較を行った。

三ノ側遺跡試料に確認された甲府盆地に由来が求められた土師器の鉱物・岩石組成は3種類あり、石英と斜長石および花崗岩類の岩石片を主体とするもの（E類）、花崗岩類の岩石片は含まれずに石英と斜長石を主体とし、微量の角閃石を含むもの（F類）および微量の花崗岩類とチャートの岩石片を含むもの（G類）がある。今回の試料の多数を占める鉱物・岩石組成は、上記したE類の組成と共通性が高い。ただし、粒径組成の傾向では、三ノ側遺跡試料は本分析試料に比べるとやや粗粒側に分布するという特徴を示す（図5）。また、No1とNo7はF類の組成に類似し、粒径組成の傾向も近似するという特徴が窺える。

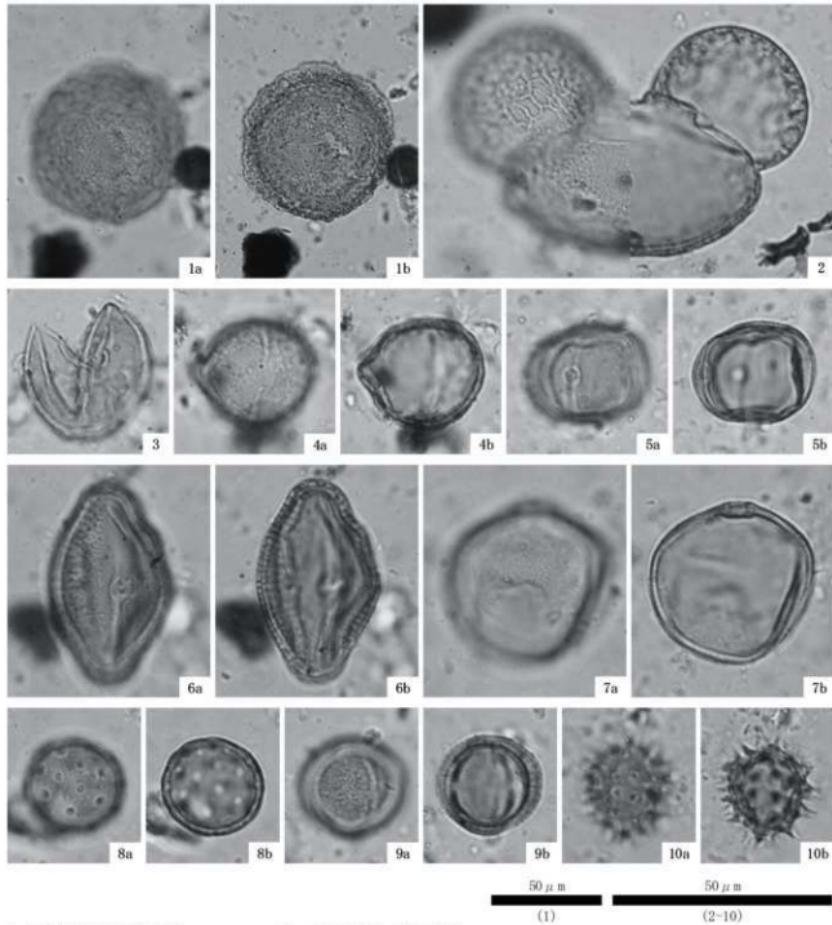
以上の検討は、各遺跡から出土した土師器の生産地の特定を目的とするものではないが、甲府盆地外の地域で出土した甲府盆地産とされた土師器の胎土と、甲府盆地内の窯跡および近接する集落（遺跡）から出土した土師器胎土の鉱物・岩石組成や粒径組成において、部分的ながらも共通性が見出せた意義は大きい。今後、時代や地域性なども含め生産地資料や集落単位での胎土の特性を明らかにし、それらを比較検討することにより、甲府盆地内および周辺地域との関係における土師器の生産と消費に関わる資料の作成が可能になると期待される。

引用文献

- 河西 学, 1989, 甲府盆地における河川堆積物の岩石鉱物組成-土器胎土分析のための基礎データ-, 山梨考古学論集II, 505-523.
- 松田順一郎・三輪若葉・別所秀高, 1999, 瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察 - 岩石学的・堆積学的による -, 日本国文化財科学会第16回大会発表要旨集, 120-121.
- 三村弘二・加藤祐三・片田正人, 1984, 御岳昇仙峠地域の地質・地域地質研究報告 (5万分の1図幅), 地質調査所, 61p.

廻り田 B 区

図版1 花粉化石



1. ツガ属(24号土坑;2層)
3. スギ属(24号土坑;2層)
5. ブドウ属(24号土坑;2層)
7. イネ科(24号土坑;2層)
9. ヨモギ属(24号土坑;2層)
2. マツ属(24号土坑;2層)
4. コナラ属コナラ亜属(24号土坑;2層)
6. ノブドウ属(24号土坑;2層)
8. アカザ科(24号土坑;2層)
10. キク亜科(24号土坑;2層)

図版2 種実遺体・炭化材



1. ブドウ 種子(24号土坑;2層)*

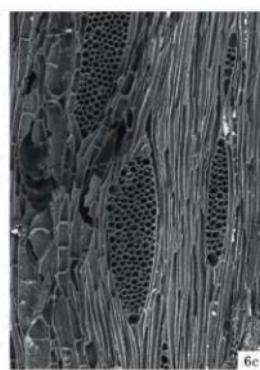
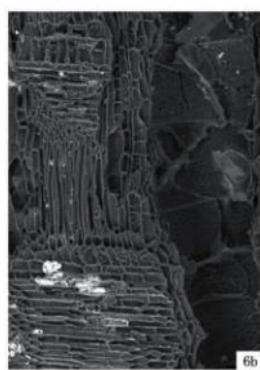
3. ブドウ 種子(24号土坑;2層)*

5. ブドウ 種子(24号土坑;2層)

*放射性炭素年代測定試料

2. ブドウ 種子(24号土坑;2層)*

4. ブドウ 種子(24号土坑;2層)



6. ケヤキ (3号溝;No.477)

a:木口, b:柾目, c:板目

100 μm:6a

100 μm:6b, c

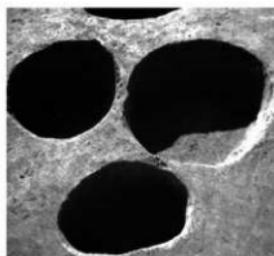
写 真 図 版



第1号土坑



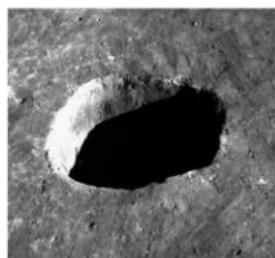
第2号土坑



第3・4号土坑・第4号PIT



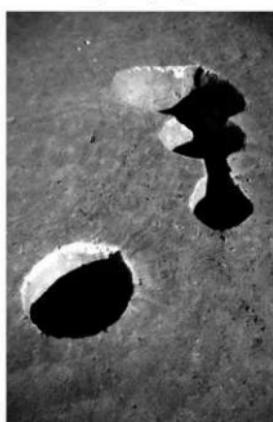
第5・6号土坑



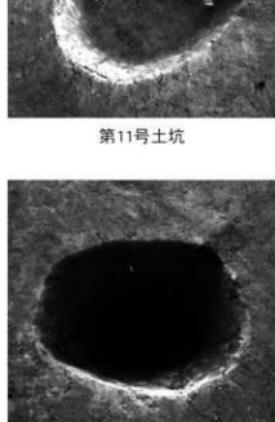
第7号土坑



第8・9・10号土坑



第11号土坑



第12号土坑



第13号土坑



第14・15・16号土坑

第20号土坑・第13・14・15号PIT

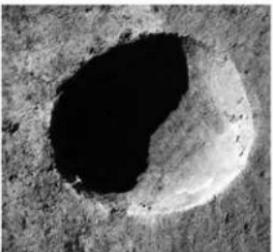
写真図版 2



第18号土坑



第19号土坑



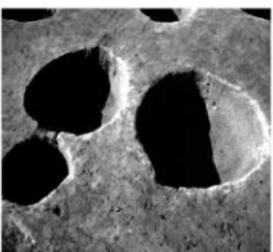
第22号土坑



第24号土坑・第18号PIT



第25・26号土坑と第20号他PIT群



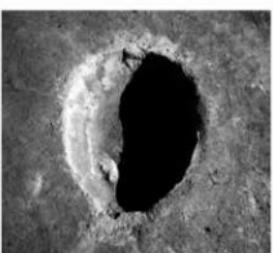
第27・28号土坑・第21PIT



第30・31号土坑



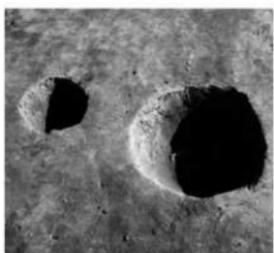
第32号土坑



第33号土坑



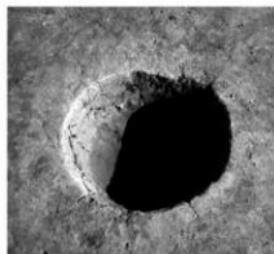
第34号土坑



第35号土坑・第28号PIT



第36号土坑



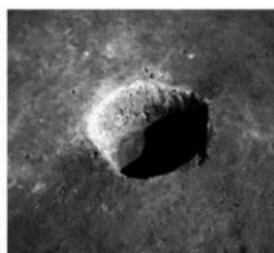
第37号土坑



第38・39号土坑



第40・41号土坑



第42号土坑



第48号土坑



第49号土坑



第50号土坑



第51号土坑



第52号土坑



第53号土坑



第54号土坑



第55号土坑

写真図版 4



土坑群検出状況(西側から)



土坑群検出状況(東側から)



第1・2号溝状遺構



第3号溝状遺構



調査前の状況 その 1



調査前の状況 その 2



表土剥ぎの様子 その 1



表土剥ぎの様子 その 2



空撮の様子



調査風景 その 1



調査風景 その 2



埋戻し風景

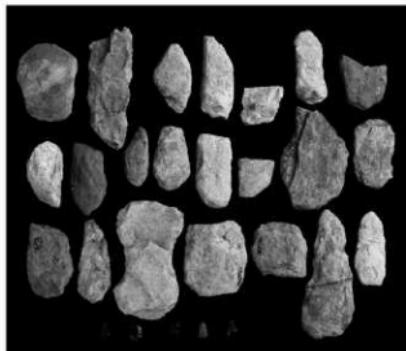
写真図版 6



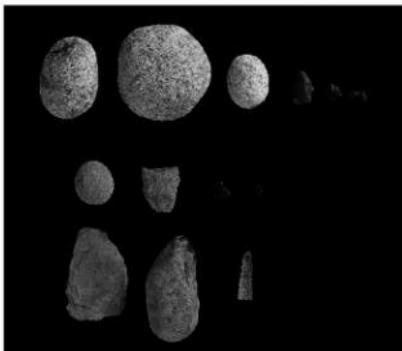
出土遺物 その1



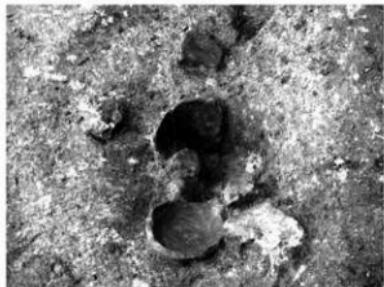
出土遺物 その2



出土遺物 その3



出土遺物 その4



縄文土器出土状況



発掘調査風景その 1



第 7 号溝状遺構間掘状況



【B 区】全景



出土遺物 1 ~ 21



出土遺物 22 ~ 37



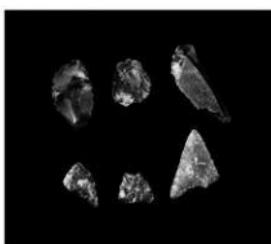
出土遺物 38 ~ 68



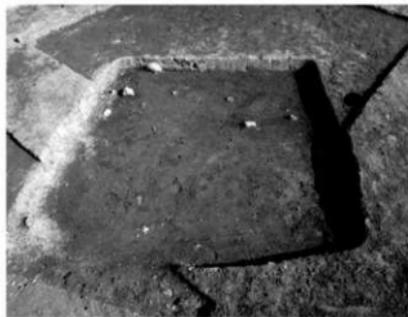
出土遺物 69 ~ 83



打製石斧



黒曜石石器



第1号小竪穴状遺構



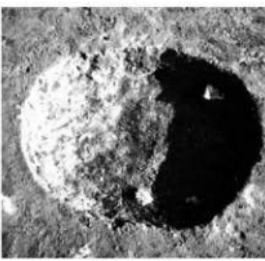
第1号小竪穴状遺構 セクション



第1号土坑



第2号土坑



第3号土坑



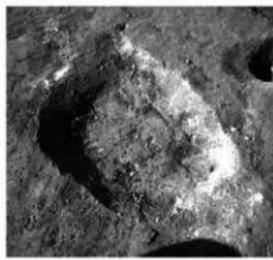
第4号土坑



第5号土坑



第6号土坑



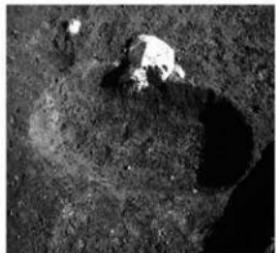
第7号土坑



第8号土坑



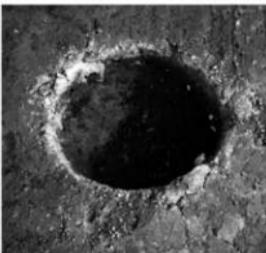
第10号土坑



第11号土坑



第12号土坑



第13号土坑



第15号土坑



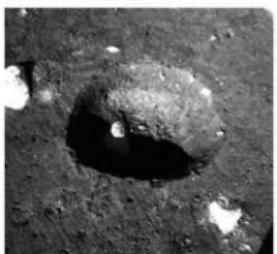
第16号土坑



第18号土坑



第20号土坑



第21号土坑



第19号土坑



第1号溝状遺構

写真図版 10



第 2 号溝状遺構



調査風景 その 1



調査風景 その 2



調査前の状況 その 1



調査前の状況 その 2



表土剥ぎの様子 その 1



表土剥ぎの様子 その 2



完掘風景



基準杭の設置風景



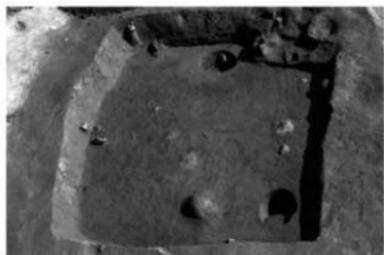
安全対策の状況



埋戻し状況 その 1



埋戻し状況 その 2



第1号住居跡



第2号住居跡調査状況



第4号住居跡



第6号住居跡



第6号住居跡



第6号住居跡カマド検出状況



第7号住居跡



第7号住居跡
カマド検出状況



第7号住居跡遺物出土状況



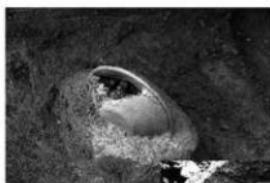
第8号住居跡



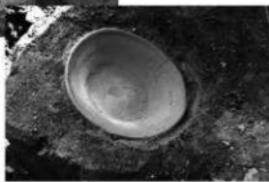
第8号住居跡カマド検出状況



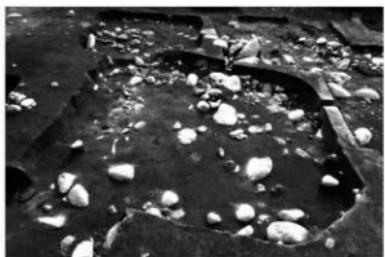
第9号住居跡



第9号住居跡
遺物出土状況



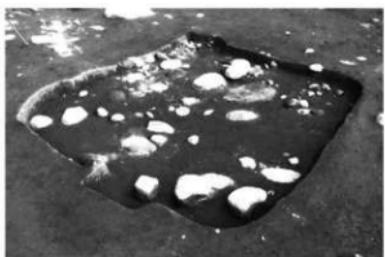
第9号住居跡遺物出土状況



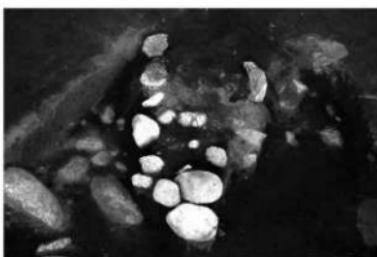
第10号住居跡



第10号住居跡遺物出土状況



第11号住居跡

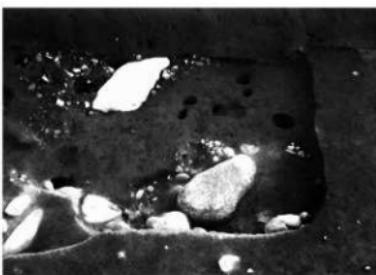


第11号住居跡カマド検出状況

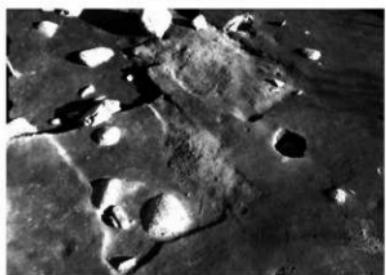
写真図版 14



第12号住居跡



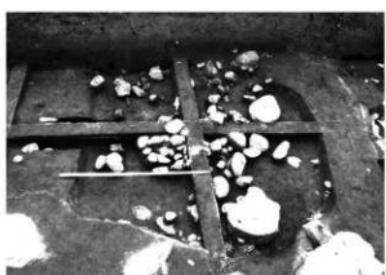
第13号住居跡



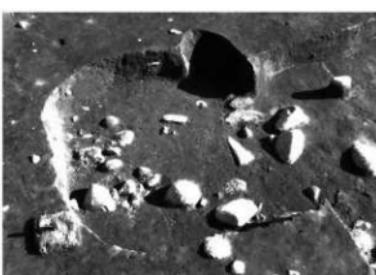
第14号住居跡



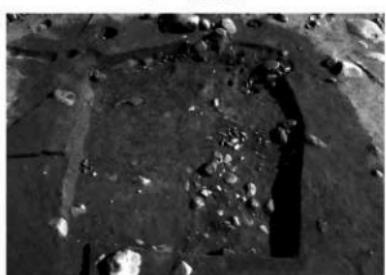
第21号住居跡



第18号住居跡



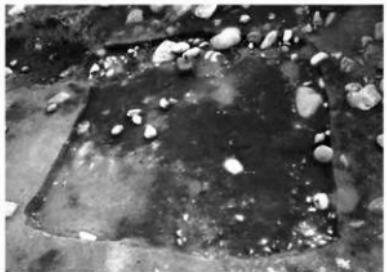
第21号住居跡



第22号住居跡



第22号住居跡カマド検出状況



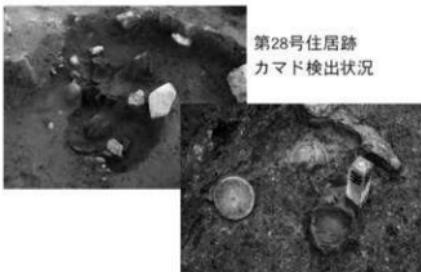
第23号住居跡



第24号住居跡



第28号住居跡



第28号住居跡
カマド検出状況



第29号住居跡



第29号住居跡遺物出土状況



第30号住居跡

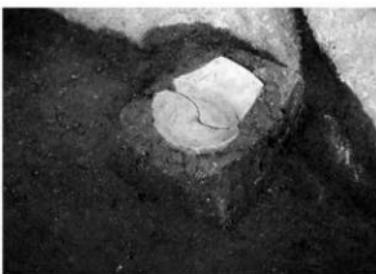


第31号住居跡

写真図版 16



第32号住居跡



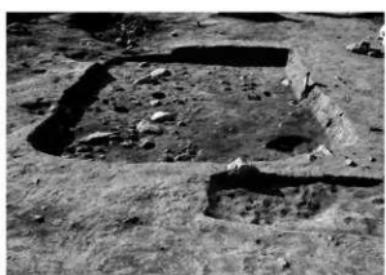
第32号住居跡遺物出土状況



第34号住居跡



第36号住居跡



第37号住居跡



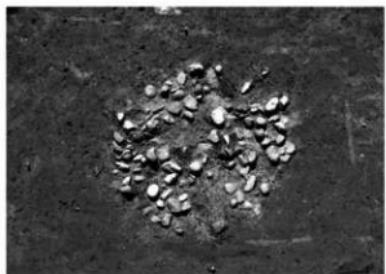
第38号住居跡



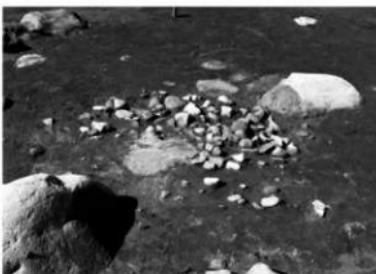
第39号住居跡



第40号住居跡



第1号集石土坑



第2号集石土坑



第1号石組遺構



第3号石組遺構



調査風景その1



調査風景その2



調査風景その3



調査風景その4

写真図版 18



調査地より富士山を望む



調査前の様子



表土剥ぎの様子その1



表土剥ぎの様子その2



1区 全景（北から）



2区 全景（南から）



1区 1号竪穴状遺構（北から）



1区 3号竪穴住居跡（北から）



1区 3号竪穴住居跡カマド（西から）

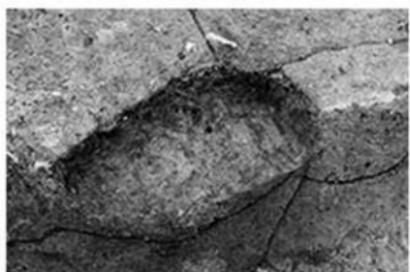
写真図版 20



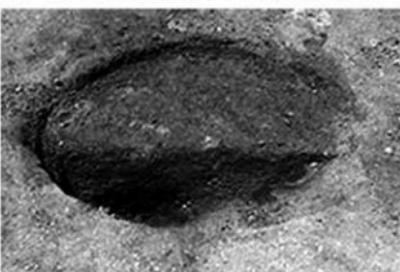
1区 5号ビット群（北から）



1区 6号土坑遺物出土状況（北から）



1区 1号ビット（北から）



1区 2号ビット（東から）



1区 6号土坑出土縄文土器



1区 遺構外出土縄文土器(1)



1区 遺構外出土縄文土器(2)



1区 遺構外出土縄文土器(3)



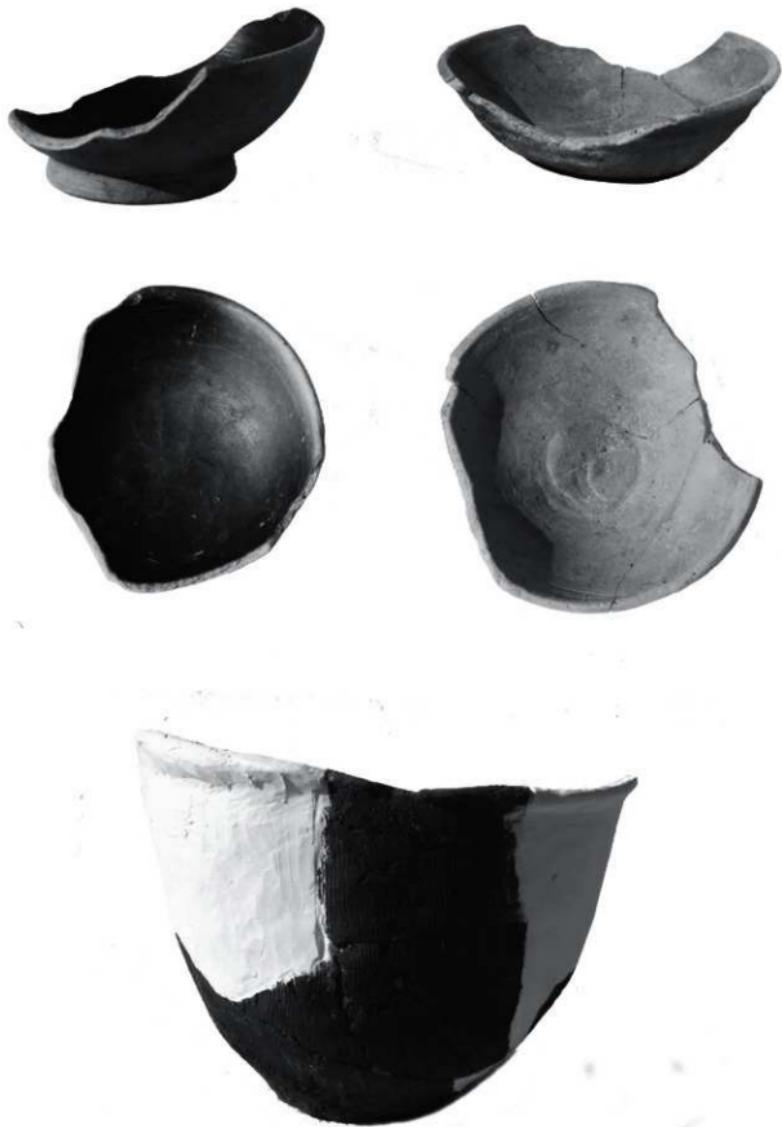
1区 遺構外出土縄文土器(4)



1区 遺構外出土縄文土器(5)



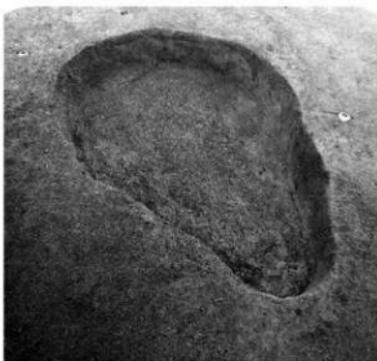
1区 遺構外出土石器



1区 3号竪穴住居跡出土遺物



第1・2号住居跡・第1号土坑



第1号住居跡貯藏穴状遺構



第1号住居跡セクション(南側より)



第1号住居跡セクション(西側より)



第2号住居跡



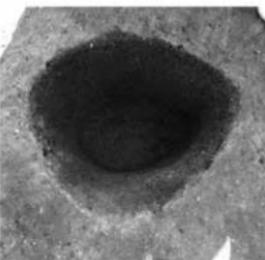
第3号住居跡



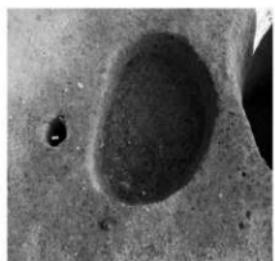
第1号土坑



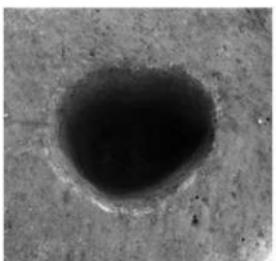
第2号土坑



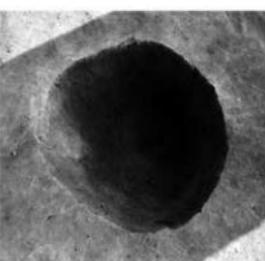
第3号土坑



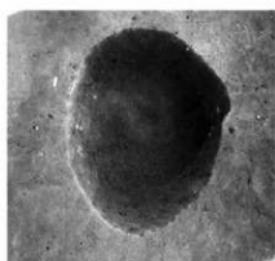
第4号土坑



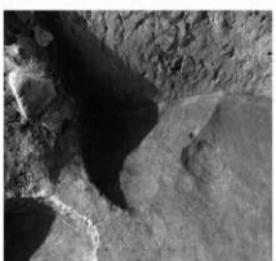
第5号土坑



第6号土坑



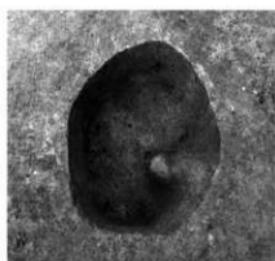
第7号土坑



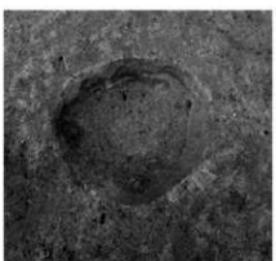
第8号土坑



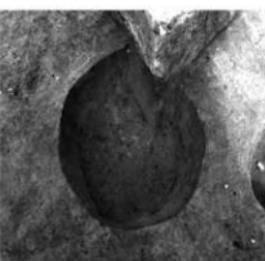
第9号土坑



第10号土坑

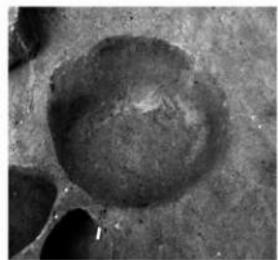


第11号土坑

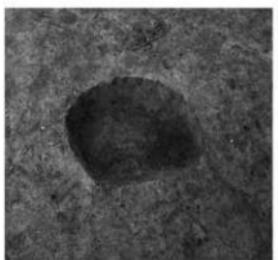


第12号土坑

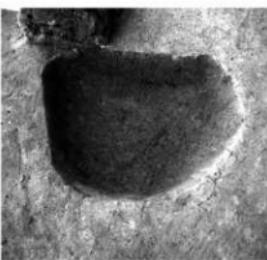
写真図版 26



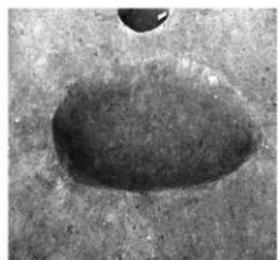
第13号土坑



第14号土坑



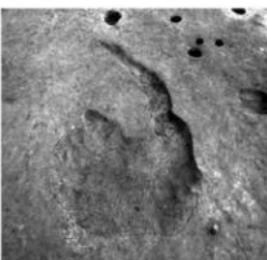
第15号土坑



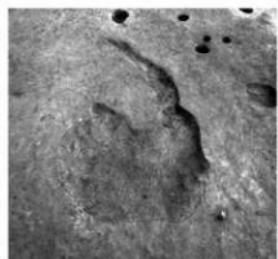
第16号土坑



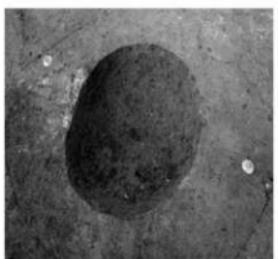
第17号土坑



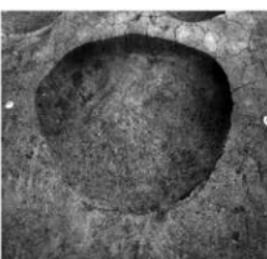
第18号土坑



第19号土坑



第20号土坑



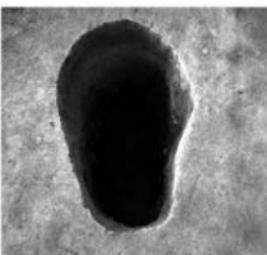
第21号土坑



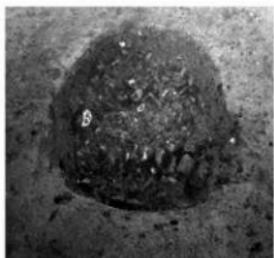
第22号土坑



第23号土坑



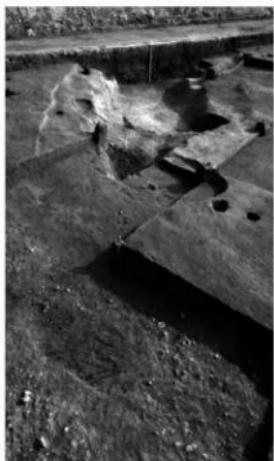
第24号土坑



第25号土坑



土坑の配置状況



第1号溝状遺構



第1号溝状遺構 セクション

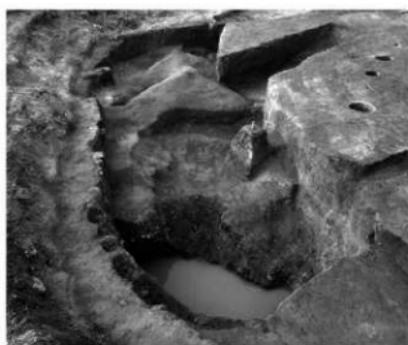
写真図版 28



第2号溝状遺構



第2号溝状遺構 遺物出土状況



第3号溝状遺構



第3号溝状遺構 木材出土状況



第4号溝状遺構



第5・6号溝状遺構



全景



表土剥ぎの様子



ラジコンヘリによる撮影



ポールによる撮影状況



発掘調査風景 その1



発掘調査風景 その2



埋戻しの様子



埋戻し後の状況

報告書抄録

ふりがな	ぜんだないせき・まわりだいせきびーちく							
書名	膳棚遺跡・廻り田遺跡B地区							
副題	西関東連絡道路建設事業に伴う発掘調査							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第301集							
著者名	浅川一郎・吉岡弘樹・田口明子・栗田亮一・新津茂・塙谷風季							
発行者	山梨県教育委員会							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016							
発行年月日	2015年3月20日							
印刷所	株式会社峠南堂印刷所							
ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	(新)	(新)			
ぜんだないせき・ まわりだいせき びーちく	山梨県 山梨市北地内	19205		35° 39' 57"	138° 34' 05"	2011年 9月1日 ～ 2013年 7月31日	21.683m ²	西関東連絡道路建設事業
膳棚遺跡・ 廻り田遺跡 B地区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
	集落	平安	住居跡 溝状遺構	土師器				

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第301集

膳棚遺跡・廻り田遺跡B地区

—西関東連絡道路建設事業に伴う発掘調査—

印刷日 2015(平成27)年3月13日

発行日 2015(平成27)年3月20日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016 FAX 055-266-3882

発行 山梨県教育委員会・山梨県県土整備部

印刷 株式会社峠南堂印刷所